

2023年度

シラバス

社会学部

立教大学

作成日:2023 年 03 月 18 日

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA281／専門演習1 (Seminar(2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	長崎原爆被災の記憶から福島へ／アート・ライフ・社会学		
担当者名 (Instructor)	高山 真(TAKAYAMA MAKOTO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

戦争や震災のように極限状況を生き延びた人たちの体験を聞くことは、日常を生きる「私」とどのように関わるのか。

そもそも、どうして「他者」の語りを聞く必要があるのか。

こうした視点から、東日本大震災からの復興途上にある福島の現状について考えること。

質的調査、感情社会学、物語論、記憶の社会学などの基本的な考え方を習得し、上記のテーマにアプローチする。

How does listening to the experiences of those who have survived extreme situations such as wars and earthquakes relate to "I" who live in everyday life?

Why is it necessary to listen to the stories of "others" in the first place?

From these perspectives, consider the current situation in Fukushima, which is in the process of recovery from the Great East Japan Earthquake.

To approach the above themes by acquiring basic ideas of qualitative research, sociology of emotions, narrative theory, sociology of memory, etc.

授業の内容 (Course Contents)

長崎で10年ほどフィールドワークに取り組んできました。

調査対象は被爆者と呼ばれる人たちですが、インタビューをとおして考えたことは人の生き方の問題です。

戦争を体験しなくても、大きな自然災害に遭わなくても、人は、ときに大きな衝撃を受ける出来事に直面します。

生きていくなかで避けることのできない、その人に固有の問題に出会います。

こうした問題に直面したときに、他者の語りを聞くこと、本を読むこと、文章を書くこと、つまり物語という行為は大きな役割を果たします。

こうした経験を部分的にでも共有する授業になればと考えています。

I have been engaged in fieldwork in Nagasaki for about 10 years.

The people who cooperated with my research were called hibakusha, and through interviews, I have come to think about the issue of how people live their lives.

Even if they have not experienced war or a major natural disaster, people are sometimes faced with events that have a great impact on them.

We encounter problems that are unavoidable and unique to us as we live our lives.

When faced with such problems, listening to the stories of others, reading books, and writing, in other words, the act of storytelling, can play a very important role.

We hope that this class will be a place to share these experiences, even if only partially.

授業計画 (Course Schedule)

1. イン트로ダクション
2. 他者
3. 自己
4. 感情
5. 記憶
6. 物語
7. 罪意識
8. 双葉町
9. 死者
10. 長崎
11. 文学
12. ト라우マ
13. 物語の条件
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの輪読形式で授業を進めますので、事前にテキストを読んでおくことは前提です。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席、報告、議論への参加(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 高山真、2016、『〈被爆者〉になる 変容する〈わたし〉のライフストーリー・インタビュー』、せりか書房 (ISBN:978-4796703536)

参考文献 (Readings)

1. 鈴木智之、2009、『村上春樹と物語の条件』、青弓社 (ISBN:978-4787291905)
 2. 保莉実、2018、『ラディカル・オーラルヒストリー』、岩波書店 (ISBN:978-4006003807)
 3. 山折哲雄・柳美里、2019、『沈黙の作法』、河出書房新社 (ISBN:978-4309028040)
- 適宜紹介する

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

初回の授業までに各自でテキストを入手しておくこと。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA282／専門演習1 (Seminar(2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	逸脱者・マイノリティの生きる世界と後期近代との関わりを理解するための社会学理論を学ぶ (Learning the sociological theories to understand the late modernity and the world of a deviant or minority)		
担当者名 (Instructor)	福重 清(FUKUSHIGE KIYOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

逸脱者、マイノリティが生きる世界を社会的に分析し、理解するための考え方を、基本的・古典的文献の講読、報告、討論を通じて身につける。

Students will conduct sociological analyses on worlds deviants and minorities live in. Students will acquire understanding and thought process by reading basic literatures, classical literatures, reporting, and discussing.

授業の内容 (Course Contents)

このゼミでは、社会に暮らす様々な人々、特にマイノリティ(少数派、弱者)の立場にある人々(障害者や高齢者、病者、犯罪者など)の生きる世界を理解するための社会学理論に関する文献を講読する。ゼミでは毎回担当者を決め、担当者は、課題の文献を読み、その内容をレジュメにまとめ、さらに疑問点等のコメントを加えて報告する。その他の受講者は、予め文献を読んできた上で、疑問点を挙げ、報告者に質問する。受講者同士のディスカッションを通じてより深い文献の理解を目指す。課題文献としては、まず石川良子『ひきこもりのくぐり』とE.ゴフマン『スティグマの社会学』の全部ないし一部を講読する。さらに本年度は、後期近代について論じたJ.ヤング『排除型社会』を取り上げ、通読する。

In this seminar, students will read literatures related to sociological frameworks to understand the world people (disabled, elderly, sick, and criminal) of our society live in, particularly minorities (those small in number or unprivileged groups). In each seminar, students will be selected to read assignment literatures, summarize their contents, add questions and comments, and report. Other students will read these literatures before attending class and will ask reporters questions.

Students will achieve greater understanding about these literatures through mutual discussions. Students will read Stigma: Notes on the Management of Spoiled Identity by E. Goffman. Then, students will read The Exclusive Society: Social Exclusion, Crime and Difference in Late Modernity by J. Young as an assignment.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 石川良子『ひきこもりのくぐり』を読む
3. E.ゴフマン『スティグマの社会学』を読む(1)
4. E.ゴフマン『スティグマの社会学』を読む(2)
5. E.ゴフマン『スティグマの社会学』を読む(3)
6. E.ゴフマン『スティグマの社会学』を読む(4)
7. E.ゴフマン『スティグマの社会学』を読む(5)
8. J.ヤング『排除型社会』を読む(1)
9. J.ヤング『排除型社会』を読む(2)
10. J.ヤング『排除型社会』を読む(3)
11. J.ヤング『排除型社会』を読む(4)
12. J.ヤング『排除型社会』を読む(5)
13. J.ヤング『排除型社会』を読む(6)
14. J.ヤング『排除型社会』を読む(7)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回、受講者全員が必ず文献の該当部分について事前に読み、その内容に関する疑問点などを考えてくること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

議論への参加と発言の積極性(40%) / 報告レジュメの出来(30%) / プレゼンテーションとコメントの巧拙(30%)
授業への出席、議論への参加度、報告の質などを総合的に判断して評価する。

テキスト(Textbooks)

1. 石川良子、2007、『ひきこもりのゴール』、青弓社 (ISBN:9784787232762)
2. E. ゴフマン、2001、『スティグマの社会学』、せりか書房 (ISBN:9784796700436)
3. J.ヤング、2007、『排除型社会』、洛北出版 (ISBN:9784903127040)

参考文献(Readings)

授業時に適宜指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA283／専門演習1 (Seminar(2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「思想」から考えるわれわれの「生」		
担当者名 (Instructor)	片上 平二郎(KATAKAMI HEIJIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

- ・入門書レベルの書籍をていねいに読んでいくことで、社会学・人文的思考法の基礎を身につける。
- ・発表を通じて、自己の考えを他者に伝えるための方法を学ぶ。
- ・討論を通じて、他者の問題関心を理解しながら、同時に自己の問題関心を深めていく方法を身につける。

The course objectives are to enable students to: (i) learn about basic ideas of sociology by reading texts, (ii) know how to analyze an issue from a sociological perspective, and (iii) see their research from different perspectives through discussion.

授業の内容 (Course Contents)

“本を読む”こと、“本を通じて考えること”は、簡単にそうに見えて、意外とむずかしい。本演習では、新書レベルの「思想」や「現代社会論」に関する本を読んでいくことを通じて、“読むこと”、“考えること”、“論じること”についての基礎的なスタンスを身につけていった欲しいと考えている(“内在的に理解すること”と“批判的に読むこと”の二つの態度をともに身につけて欲しいとも考え、論争的な本も選んでいる)。

今期は、「人が社会を生きること」を「哲学」的なレベルで考察した 2022 年刊行の本を比較的多目に読んでいくこととしたい。身近なトピックを扱うことで、「社会」と「自己」、そして「学問」の間にある関係について積極的に議論に参加しながら、“考えること”を身につけてほしい。

The course is composed of readings and discussions. Students learn about how to grasp social consciousness through the reading of sociological text and the interpretation of culture.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献講読
3. 文献講読
4. 文献講読
5. 文献講読
6. 文献講読
7. 文献講読
8. 文献講読
9. 文献講読
10. 文献講読
11. 文献講読
12. 文献講読
13. 文献講読
14. 総括討論

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回、課題図書はていねいに読んでおくこと。また、それぞれに報告に備え、十分な準備をしておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告および議論への参加度(60%)／最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 橋爪大三郎、2022、『言語ゲームの練習問題』、講談社現代新書 (ISBN:978-4065302491)
2. 平尾昌宏、2022、『人生はゲームなのだろうか <答えのなさそうな問題>に答える哲学』、ちくまプリマー新書 (ISBN:9784480684202)

3. 石田光規、2022、『「友達」から自由になる』、光文社新書 (ISBN:9784334046293)
4. 斎藤環、2022、『「自傷的自己愛」の精神分析』、角川新書 (ISBN:978-4040824307)
5. 千葉雅也、2022、『現代思想入門』、講談社現代新書 (ISBN:9784065274859)

これらのテキストはあくまでも演習の方向性を示すための候補であり、実際にはゼミ初回の話し合いを通じて進行を決めていく。

参考文献 (Readings)

1. 山口尚、2022、『難しい本を読むためには 』、ちくまプリマー新書 (ISBN:978-4480684332)
2. 見田宗介、2006、『社会学入門 人間と社会の未来』、岩波書店 (B00QT9XBHU)
3. 筒井淳也、前田泰樹、2017、『社会学入門 ― 社会とのかかわり方』、有斐閣 (ISBN:464115046X)
4. 稲葉振一郎、2009、『社会学入門 <多元化する時代>をどう捉えるか』、NHK出版 (B07DZMYLS5)
5. 筒井淳也、2020、『社会を知るためには』、ちくまプリマー新書 (ISBN:9784480683823)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA284／専門演習1 (Seminar(2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	働くことと能力主義について社会的に考える		
担当者名 (Instructor)	李 旼珍(LEE MINJIN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この演習では、働くことと能力主義に関する文献の講読を通じ、働くことに対する社会的見方・考え方を学び、働くことや働く人々と社会（組織）との関係についての視野と問題意識を広げる。

In this course, students will learn sociological perspectives and concepts about work through reading literatures on work and on meritocracy, and they will expand their perspective and issue-awareness of relationships between work and working people or between working people and society (organizations).

授業の内容 (Course Contents)

働くことを通じて人々は社会に参加し、また生きる手段を得、自己のアイデンティティを獲得する。働き方のありようにより、労働者として働く自分をどうとらえるのかという自己概念は多様であろう。またどのように働くかは、家庭での役割やパートナーとの関係性とも関係するし、社会との関係にもかかわる。働くことに関して多様な角度から論じる文献を読むことにより、働くことに対する多様な視点を、働くことに対する社会的理解を深める。以下に挙げている文献は講読文献の候補である。

濱口桂一郎『若者と労働「入社」の仕組みから解きほぐす』、本田由紀編『文系大学教育は仕事の役に立つのか』、マイケル・サンデル『実力も運のうち、能力主義は正義か』。

演習では、ゼミ参加者間のディスカッションを重視する。

People participate in society through their works. At the same time, they acquire means to live on and their identities. Through various work conditions, people have various self-concepts, i.e. how they perceive themselves when working as workers. In addition, how people work is connected with their roles in family, their relationships with their partners or society. By reading literatures discussing work from multiple angles, students will acquire multiple perspectives about work and deepen their sociological understanding about work.

The course place a high premium on discussion among class participants.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. 文献講読 1
3. 文献講読 2
4. 文献講読 3
5. 文献講読 4
6. 文献講読 5
7. 文献講読 6
8. 文献講読 7
9. 文献講読 8
10. 文献講読 9
11. 文献講読 10
12. 文献講読 11
13. 文献講読 12
14. 総括ディスカッション

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

ゼミ前に講読文献を読み、ゼミでディスカッションしたい論点を考えておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内発表及びディスカッション参加度(50%)/授業内フィードバックペーパー(5回)(50%)

テキスト (Textbooks)

初回に提示する。

参考文献 (Readings)

1. 濱口桂一郎、2013、『若者と労働』、中公新書ラクレ
適宜紹介する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA285／専門演習1 (Seminar(2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	質的研究法を用いた社会学研究を読む		
担当者名 (Instructor)	前田 泰樹(MAEDA HIROKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

文献講読を通じて、社会学、とくに質的研究法を用いる社会学の基礎的な考え方を学ぶ。同時に、文献の読解法と演習の作法を身につける。

The purpose of this course is to acquire basic ideas on sociology and qualitative research methods by reading the literature. Participants are also required to learn how to read literature.

授業の内容 (Course Contents)

まず、社会学の入門書の質的研究パートを読み、そこで紹介されている文献の中から、参加者との議論の上でいくつか選定して、精読を行う。入門書は、テキスト欄に、精読候補文献は、参考文献欄にあげておく。詳細は、最初の授業時に説明する。授業は、報告者、討論者、司会者の役割を分担して行う。文献の読み方、レジュメの作り方、コメントの仕方、議論の仕方などもあわせて学ぶ。

First, participants will read the qualitative research part of the introductory book on sociology. Next, we will select some from the literature introduced there, and read it carefully. The introductory book is listed in the "Textbook" section, and the candidate references for careful reading are listed in the "Readings" section. Details will be explained in the first lecture.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 自己紹介、運営方針説明
2. 『社会学入門』講読
3. 『社会学入門』講読
4. 選定文献の講読
5. 選定文献の講読
6. 選定文献の講読
7. 選定文献の講読
8. 選定文献の講読
9. 選定文献の講読
10. 選定文献の講読
11. 選定文献の講読
12. 選定文献の講読
13. 選定文献の講読
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

文献は、参加者全員が精読し、各自、疑問点、意見を整理しておくこと。レジュメ担当者、コメント担当者は、それぞれ準備しておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席、報告、議論への参加(70%)/レポート(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 筒井淳也・前田泰樹、2017、『社会学入門——社会とのかかわりかた』、有斐閣 (ISBN:464115046X)

参考文献 (Readings)

1. 柘植あづみ他、2009、『妊娠』、洛北出版
2. 前田泰樹・西村ユミ、2020、『急性期病院のエスノグラフィー』、新曜社
3. 松木洋人、2013、『子育て支援の社会学』、新泉社

4. 前田泰樹・西村ユミ、2018、『遺伝学の知識と病いの語り』、ナカニシヤ出版
5. 井口高志、2020、『認知症社会の希望はいかにひらかれるのか』、晃洋書房出版
6. 出口泰靖、2016、『あなたを「認知症」と呼ぶ前に』、生活書院
7. 木下 衆、2019、『家族はなぜ介護してしまうのか』、世界思想社

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA286／専門演習1 (Seminar(2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近現代日本の家族と共同体の変動を学ぶ。(Learn about changes to the family and community in modern and contemporary Japan.)		
担当者名 (Instructor)	本多 真隆 (HONDA MASATAKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

家族および親密な関係、共同体の変動に関する文献を講読し、これらの問題を論じるための社会学的な考え方を学ぶ。受講者が関心を抱いている社会問題が、日本の近現代史のなかでどのような位置にあるかを掴むことが目標となる。

Through a review of the literature on changes in the family, intimate relationships, and community, students will learn sociological concepts for the discussion of these issues.

The goal is for students to grasp where the social issues they are interested in are situated within the context of Japan's modern and contemporary history.

授業の内容 (Course Contents)

ある社会問題を論じる際は、その問題がどのような背景のもとに起こっているかを知ることが重要である。グローバル化が進んでいる現在では、国際的に普遍的な動向と日本の文脈をあわせてみるのが求められる。

以上の問題意識を踏まえ、本講義では新書レベルの文献を数冊講読してディスカッションを行う。文献は家族および親密な関係、共同体に関するものを中心とするが、受講者の関心に合わせて調整する。そのため関心がこれら以外であっても構わない。毎回、報告者と討論者、司会を設定する。講義を通して、文献の読み方、レジュメの作り方、コメントの仕方の基礎も学ぶ。

When discussing a social issue, it is important to know the context in which the issue arose. In today's globalized world, it is necessary to consider both universal trends in an international context and the domestic Japanese context together.

Based on the above, this lecture will consist of a review of the literature and discussion using relatively simple literature. The literature will focus on the family and intimate relationships, as well as communities. The literature will be tailored to the interests of the students, and it is acceptable if your interests fall outside these areas.

In each session, students will take the roles of speaker, discussant, and moderator. Through lectures, students will also learn the basics of how to read literature, build resumes, and provide comments.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. レジュメの作り方、各回担当者の割り当て
3. 文献講読とディスカッション 1
4. 文献講読とディスカッション 2
5. 文献講読とディスカッション 3
6. 文献講読とディスカッション 4
7. 文献講読とディスカッション 5
8. 文献講読とディスカッション 6
9. 文献講読とディスカッション 7
10. 文献講読とディスカッション 8
11. 文献講読とディスカッション 9
12. 文献講読とディスカッション 10
13. 文献講読とディスカッション 11
14. 文献講読とディスカッション 12

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

報告担当者はレジュメを作成し、事前に共有すること。報告担当でなくても、事前に文献を読むことが求められる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当回の報告(50%)/出席、議論の参加(50%)

テキスト (Textbooks)

なし。

参考文献 (Readings)

なし。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

初回に文献の候補を提示し、第 2 講までに割り当てを行う。履修希望者は、以上の講義には必ず出席すること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA287／専門演習1 (Seminar(2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	教育を社会的に考える		
担当者名 (Instructor)	香川 めい(KAGAWA MEI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

- ・文献の内容を的確にまとめ、内容についてコメントできるようになる。
- ・レジュメの作成や報告の仕方、議論を通じて互いの理解を深め合う演習の「お作法」を身につける。
- ・比較的身近なはずの教育や学校という事象を通して、社会的なものの見方の基礎を身につける。

- ・Students will be able to correctly summarize and comment on literatures.
- ・Students will learn the proper ways to participate in seminars, deepen each other's understanding through discussions, create summaries and reports.
- ・Students will observe phenomena around them such as education and school to acquire basic sociology perspective.

授業の内容(Course Contents)

教育は常に「善い」ものなのだろうか？「善さ」が追及されるなかで見えなくなってしまうものはないのだろうか？教育には何ができて、何ができないのか？社会の中で教育はどのような役割を果たしているのだろうか？この演習では、このような問いを扱った文献を読み、受講生同士で意見を交換することで理解を深め、広く教育のあり方と社会の関係を考えていきます。

Is education always good? Is there something we miss when pursuing goodness? Can we really solve educational problems by improving education? What can education do and what can't it do? What role does education play in society?

In this seminar, students will read literatures related to these questions and exchange their opinions with others to deepen their understanding. Students will also think about current state of education and its relationship with society in broad manner.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献講読の仕方
3. 文献 1 の講読とディスカッション
4. 文献 1 の講読とディスカッション
5. 文献 1 の講読とディスカッション
6. 文献 1 の講読とディスカッション
7. 文献 2 の講読とディスカッション
8. 文献 2 の講読とディスカッション
9. 文献 2 の講読とディスカッション
10. 文献 2 の講読とディスカッション
11. 文献 3 の講読とディスカッション
12. 文献 3 の講読とディスカッション
13. 文献 3 の講読とディスカッション
14. 文献 3 の講読とディスカッション

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回授業前に文献を丁寧に読み、論点等をまとめたミニレジュメを作成すること。
報告者は、報告レジュメの作成および報告の準備を行うこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

ミニレジュメ(講読票)の提出(50%)/議論への参加度、積極性(20%)/報告内容(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 内田良、2015、『教育という病』、光文社 (ISBN:978-4334038632)
2. 広田照幸、2022、『学校はなぜ退屈でなぜ大切なのか』、筑摩書房 (ISBN:978-4-480-68428-8)

3. 中澤 渉、2021、『学校の役割ってなんだろう』、筑摩書房 (ISBN:978-4-480-68408-0)

参考文献 (Readings)

適宜紹介する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA288／専門演習1 (Seminar(2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	計量データから社会を観察する ——現代日本の格差と不平等		
担当者名 (Instructor)	吉田 航(YOSHIDA WATARU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

- ・社会学における計量データを適切に読解し、解釈できるようになる
- ・現代日本社会の格差・不平等について、基礎的な知識を獲得する

- To appropriately read and interpret quantitative data in sociology
- To acquire basic knowledge of disparities and inequalities in contemporary Japanese society

授業の内容(Course Contents)

この授業では、計量データ、とくに社会調査を通じて得られる量的データを使って、社会を適切に、また上手に観察する方法を学習します。

皆さんは、日々の生活のなかで、何らかの調査に基づく数値データ——たとえば TV 番組の視聴率や、マンガの売り上げランキングなど——を、数え切れないほど目にしていると思います。しかし、そのような計量データを「正確に」読解するためには、実は学問的なトレーニングが必要です。この授業を通して、計量データの「読み方」、つまりデータの数値情報からどのように社会を観察するのか、その方法を習得していきます。

学期前半では、テキストを使って、計量データの読み方を学習します。現在の日本社会に関する格差や不平等に関する教科書を読解しながら、「所得格差」「貧困」「非正規雇用」などの基本的な概念を、調査データを使って捉える方法を理解します。

学期後半では、計量データを使って格差・不平等を分析した社会学の研究論文を輪読します。それぞれの論文を通して、設定した「問い」に答えるために、どのような基準でデータや分析方法を選択し、結果を解釈しているか、その手法を習得していくことを目指します。

学期の最後には、社会調査データを使ったレポートを作成してもらう予定です。積極的な授業への参加を期待しています。

In this class, you will learn how to properly and skillfully observe society by using quantitative data, especially quantitative data obtained through social surveys.

In your daily life, you have probably seen countless numerical data based on some sort of survey, such as TV program ratings or manga sales rankings. However, to accurately read such data, you need academic training. Through this class, you will learn how to read quantitative data, that is, how to observe society from such data.

In the first half of the semester, students will learn how to read quantitative data using a textbook. While reading the textbook on disparity and inequality in the present Japanese society, students will understand how to capture basic concepts such as "income inequality," "poverty," and "non-regular employment" by using survey data.

In the second half of the semester, students will read sociological research papers analyzing disparity and inequality by using quantitative data. By reading each paper, students will learn the criteria by which data and analytical methods are selected and the methods used to interpret the results in order to answer the question in the paper.

At the end of the semester, we will ask you to prepare a report using social survey data. We expect your active participation in class.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション——社会調査と統計の基礎
2. レポート構想発表
『格差の社会学入門』1 章(格差社会を考える視点)
3. 『格差の社会学入門』2 章(所得の格差)
4. 『格差の社会学入門』3 章(貧困と生活保護)
5. 『格差の社会学入門』4 章(非正規雇用)
6. 『格差の社会学入門』5 章(社会階層と階級)
7. 『格差の社会学入門』6 章(世代間移動)+レポート中間発表①
8. 『格差の社会学入門』7 章(学歴社会)+レポート中間発表②
9. 学術論文講読①
10. 学術論文講読②

11. 学術論文講読③
12. 学術論文講読④
13. レポート最終発表①
14. レポート最終発表②

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。発表担当者以外も、テキストは事前に読み、質問を考えてください。ゼミ中の討論に活発に参加することを期待します。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/授業内の課題および授業内の議論への参加(60%)

テキスト(Textbooks)

1. 平沢和司、2021、『格差の社会学入門 第2版 — 学歴と階層から考える』、北海道大学出版会 (ISBN:9784832968813)

参考文献 (Readings)

1. 竹ノ下弘久、2013、『仕事と不平等の社会学』、弘文堂 (ISBN:9784335501364)

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

3 学年合同でゼミ合宿を行う。必ず参加すること。内容について具体的には村瀬ゼミホームページを見ること。

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/murase/>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA289／専門演習1 (Seminar(2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	教育社会学入門		
担当者名 (Instructor)	胡中 孟徳(KONAKA TAKENORI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代社会における教育に関する文献を講読・報告・議論することを通じて、教育を社会的に考察する見方を獲得し、教育(特に、学校教育)が社会で果たす役割や意義について理解する。

Students will acquire sociological perspectives on education by reading, reporting, and discussing literature on education in contemporary society and then understanding the role of education, especially schooling, in our society.

授業の内容(Course Contents)

教育は多くの人が、生徒・学生として経験している領域であるため、自分自身の体験だけを参照しながら、教育について理解した気になったり、場合によっては教育改革の方針についての意見が示されるようなことがあります。しかしながら、自分自身の教育体験が教育にかんする全体的な傾向を反映しているとは限りません。どのような高校に通っているか、どのような地域に住んでいるか、ジェンダー、家庭的背景などによって、教育体験が異なることが多いからです。

この授業では、適切な現状認識にもとづく教育社会的な議論について理解を深めます。具体的には、3つの文献を講読することで、現代の教育に関するトピックについて適切に理解し、教育社会学で用いられる概念を援用して現代の教育動向について考察し、教育が社会の中で担う役割や意義について議論します。

履修者全員がCanvas LMSを通じてコメント(疑問点・批判・感想など)を毎週提出することが求められます。初回には文献の報告担当者を決めます。報告担当者は、担当回には担当箇所を要約した報告レジュメを作成し、報告を行うことが求められます。

Since education is an area that many people have experienced as students, they may feel that they understand education well by referring only to their own experiences, and in some cases, opinions may be expressed about educational reform policies. However, one's own educational experience does not necessarily reflect the general situation in education. This is because educational experiences often differ depending on the type of high school one attends, the area one lives in, gender, family background, and so on.

In this seminar, students will deepen their understanding of the sociology of education based on an adequate empirical understanding of the current situation. Specifically, we will read three pieces of literature to gain an appropriate understanding of contemporary educational issues, discuss the contemporary educational situation using concepts from the sociology of education, and discuss the role and importance of education in society.

All students are required to submit weekly comments (questions, criticisms, impressions, etc.) via Canvas LMS. In the first class, students will be assigned which parts of the literature to report on. Students assigned to report will be expected to prepare and submit a short summary report.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション: 自己紹介とレジュメ担当者決め
2. 『教育論の新常識—格差・学力・政策・未来』(1): 第1部(格差)
3. 『教育論の新常識—格差・学力・政策・未来』(2): 第2部(学力)
4. 『教育論の新常識—格差・学力・政策・未来』(3): 第3部(政策)
5. 『教育論の新常識—格差・学力・政策・未来』(4): 第4部(未来)
6. 『教育論の新常識—格差・学力・政策・未来』まとめ・中間議論 1
7. 『暴走する能力主義』(1章～2章)
8. 『暴走する能力主義』(3章～4章)
9. 『暴走する能力主義』(5章～6章)
10. 『暴走する能力主義』まとめ・中間議論 2
11. 『教育の職業的意義』(序章～1章)
12. 『教育の職業的意義』(2章～3章)

13. 『教育の職業的意義』(4章～5章)
14. 教育の職業的意義』まとめ・最終議論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎授業前に指定された文献を読み、Canvas LMS を通じてコメント(疑問点・批判・感想など)を簡単にまとめて提出して下さい。また報告担当者は、担当回には講読文献を要約した報告レジュメを作成・持参して下さい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

毎週の講読コメント(50%)/議論への参加度・積極性(20%)/報告内容(30%)

4分の3以上の出席を必須とします。そのかわりに最終レポートなどはありません。

テキスト(Textbooks)

1. 松岡亮二、2021、『教育論の新常識: 格差・学力・政策・未来』、中央公論新社 (ISBN:978-4121507402)
2. 中村高康、2018、『暴走する能力主義』、筑摩書房 (ISBN:978-4480071514)
3. 本田由紀、2009、『教育の職業的意義』、筑摩書房 (ISBN:978-4480065230)

参考文献(Readings)

適宜紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA290／専門演習1 (Seminar(2nd year))		
担当者名 (Instructor)	瀬戸 健太郎(SETO KENTAROU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

- ・文献を要約し、内容を批評することができるようになる。
- ・レジュメ作成や先行研究のレビュー、論点の提示、議論を通じて、研究の仕方についてマスターする。
- ・雇用関係に関する文献購読を通じて、日本における雇用システムの普遍性と異質性を理解できるようになる

To summarize and critique the literature.

To conduct a research through resume writing, review of previous studies, presentation of arguments, and discussion.

To understand characteristics of the employment system in Japan through readings books about industrial relations.

授業の内容(Course Contents)

日本的雇用システムについて、近年でもその崩壊がよく言われるが、他方で、日本的雇用システムがいかなるもので、どれほど普及していたか、またその起源はどこにあり、他国とどのように異なるのか、ということは必ずしも理解されていない。そこでこの演習では、文献を輪読することで日本的雇用についての理解を深め、世間で言われている雇用に関する議論について考えていく。

While it is a common saying that the Japanese employment system has collapsed recently, it is not always well understood what the Japanese employment system is, how widespread it was, where it originated, and how it differs from employment in other countries. In this exercise, we will deepen our understanding of the Japanese employment system by reading the literatures by turns and consider the employment-related debates that have been going on in the world.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. レジュメの切り方
3. 文献1のディスカッション
4. 文献1のディスカッション
5. 文献2のディスカッション
6. 文献2のディスカッション
7. 文献3のディスカッション
8. 文献3のディスカッション
9. 文献3のディスカッション
10. 文献4のディスカッション
11. 文献4のディスカッション
12. 文献4のディスカッション
13. 文献4のディスカッション
14. 文献4のディスカッション

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

輪読文献は毎週読んでくること。また、報告担当者は参加者数分のレジュメを用意し、その他の参加者はそれぞれ、文献に関するコメントシートを用意すること。方法や体裁などについては、初回の講義で説明・決定する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

議論への参加(40%) / リアクションペーパー(30%) / 報告(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 濱口桂一郎、2021、『ジョブ型雇用社会とは何か: 正社員体制の矛盾と転機』、岩波書店 (ISBN:978-4004318941)
2. 木下武男、2021、『労働組合とはなにか』、岩波書店 (ISBN:978-4004318729)
3. 仁田道夫・中村圭介・野川忍編、2021、『労働組合の基礎——働く人の未来をつくる』、日本評論社 (ISBN:978-4535525627)
4. 小熊英二、2019、『日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学』、講談社 (ISBN:978-4-06-515429-8)

参考文献 (Readings)

適宜紹介する

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA291／専門演習1 (Seminar(2nd year))		
担当者名 (Instructor)	佐藤 裕亮(SATO YUSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

- ・文章を正確に読み、誤解のないように伝える能力を養うこと。
- ・社会学の基本的な理論を理解すること。
- ・社会学の視点から、「社会」および「人間」に対して考える能力を養うこと。

To develop the ability to read texts accurately and to communicate without misunderstanding.

To understand basic sociological theories.

To develop the ability to think about "society" and "human beings" from a sociological perspective.

授業の内容(Course Contents)

私たちは、自己の意思とは無関係に生まれます。「社会」もまた、私たちの意思とは無関係に私たちの前に出現します。したがって、私たちがふだん何気なく送っている日常生活は、私たちの意思とは無関係な二つの「力」——「人間」と「社会」——のバランスによって成り立っています。

この授業では、歴史上のさまざまな社会学者それぞれの「社会学のはじまり」を扱う文献を読み進めながら、「社会」というとらえどころのないものの感触を確かめ、思考する方法について学びます。

We are born independently of our own will. Society, too, appears before us independently of our will. Therefore, our daily lives are made up of a balance between two forces that have nothing to do with our will: human beings and society.

In this class, we will learn how to confirm the feeling of the elusive "society" and how to think about it while reading the literature dealing with the "beginning of sociology" by various sociologists in history.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献報告とディスカッション
3. 文献報告とディスカッション
4. 文献報告とディスカッション
5. 文献報告とディスカッション
6. 文献報告とディスカッション
7. 文献報告とディスカッション
8. 文献報告とディスカッション
9. 文献報告とディスカッション
10. 文献報告とディスカッション
11. 文献報告とディスカッション
12. 文献報告とディスカッション
13. 文献報告とディスカッション
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・文献をしっかり読み、何らかの感想をもって授業に参加してください。
- ・報告の際は事前準備をきちんと行ってください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への参加度(60%)／最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 奥村隆、2014、『社会学の歴史 I ——社会という謎の系譜』、有斐閣
2. 奥村隆、2017、『社会はどこにあるか——根源性社会学』、ミネルヴァ書房

参考文献(Readings)

1. 若林幹夫・立岩真也・佐藤俊樹編、2018、『社会が現れるとき』、東京大学出版会
2. 厚東洋輔、1991、『社会認識と想像力』、ハーベスト社

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA292／専門演習1 (Seminar(2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会の多文化化と多文化主義を考える		
担当者名 (Instructor)	金 允恩(KIM TAE EUN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

グローバル化に伴う社会の多文化化の現状や課題に関する社会・政策的論議について学ぶ。多文化主義や多文化教育に関する学術書・論文の講読やレジュメの作成・報告、討議を通じて、社会的な分析視点と知識を身につける。

Students will learn about social and policy debates on the current state and challenges of multiculturalism associated with globalization. They will acquire sociological analytical perspectives and knowledge through reading academic books and articles on multiculturalism and multicultural education.

授業の内容 (Course Contents)

グローバル化が進んでいる現代社会において、いかに多文化化が進んでいるのか、実態について学ぶ。その上で、多文化主義、共生、社会統合、異文化理解といった重要概念について、関連文献を輪読しながら、討議を行う。また、多文化社会における子供と教育の問題に関する理論的・実践的議論に触れる。それを踏まえて、日本国内外における多文化化の現状や多文化共生、多文化教育とかかわる政策や実践について、社会的な視点から検討する。

This seminar introduces theoretical and practical discussions on the issues of children and education in multicultural societies. Students will learn how multiculturalism is progressing in today's increasingly globalized society. They will also learn important concepts such as multiculturalism, social integration, and cross-cultural understanding while reading related literature. Based on these, we will examine the current state of multiculturalization in Japan and overseas, multicultural coexistence, and policies and practices related to multicultural education from a sociological point of view.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 多文化主義とは何か1
3. 多文化主義とは何か2
4. 多文化主義とは何か3
5. 多文化主義の可能性と課題1
6. 多文化主義の可能性と課題2
7. 多文化主義の可能性と課題3
8. 多文化社会と教育1
9. 多文化社会と教育2
10. 多文化社会と教育3
11. テーマ討論1
12. テーマ討論2
13. レポートの発表
14. 総括

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

事前に講読文献を読み、授業で取り上げたい論点を考えておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 授業内報告(30%) / 討論やコメントペーパーなど授業への参加(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 関根政美、2000、『多文化主義社会の到来』、朝日新聞社 (ISBN:402259750X)
2. アンドレア・センブリーニ、2003、『多文化主義とは何か』、白水社 (ISBN:9784560058619)
3. ソニア・ニエト、2009、『アメリカ多文化教育の理論と実践：多様性の肯定へ』、明石書店 (ISBN:9784750329215)
4. 宮島喬、2021、『多文化共生の社会への条件：日本とヨーロッパ、移民政策を問う』、東京大学出版会 (ISBN:9784130502023)

初回の授業にて文献リストを提示する。

参考文献 (Readings)

1. アルジュン・アパドゥライ、2010、『グローバリゼーションと暴力：マイノリティーの恐怖』、世界思想社 (ISBN:9784790714552)
 2. 鈴木江理子ほか、2021、『アンダーコロナの移民たち：日本社会の脆弱性があらわれた場所』、明石書店 (ISBN:9784750352152)
 3. 竹沢泰子、2009、『人種の表象と社会的リアリティ』、岩波書店 (ISBN:9784000234641)
 4. 佐久間孝正、2011、『外国人の子どもの教育問題：政府内懇談会における提言』、勁草書房 (ISBN:9784326298976)
 5. Thomas Hylland Eriksen. 2010. *Ethnicity and Nationalism: Anthropological Perspectives*. Pluto Press (ISBN:9780745330426)
 6. 宮島喬・鈴木江理子、2019、『外国人労働者受け入れを問う（岩波ブックレット）』、岩波書店 (ISBN:9784002710105)
 7. 宮島喬ほか、2019、『開かれた移民社会へ（別冊環 24）』、藤原書店 (ISBN:9784865782219)
- その都度、紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA295／Reading Sociology in English		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Understanding sociological debates on social issues		
担当者名 (Instructor)	西山 志保(NISHIYAMA SHIHO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

The objective of the course is to enable students to understand sociological issues such like education, family, poverty and so on, and to grasp the meaning of changes in working and living with the development of globalization. The course also seeks to improve students' skills of reading academic English.

授業の内容 (Course Contents)

Students of the course will read and discuss on the base of articles and materials. Students are required to read the assigned sections of the book or articles in advance and alternately deliver discussion papers of Japanese summary or translation according to the assignment in class. Other requirements are to submit feedback papers on the topic discussed in class three times during the entire course.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. reading and discussing
3. reading and discussing
4. reading and discussing
5. reading and discussing
6. reading and discussing
7. reading and discussing
8. reading and discussing
9. reading and discussing
10. reading and discussing
11. reading and discussing
12. reading and discussing
13. reading and discussing
14. overall discussion

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students are required to read the assigned sections of the book and to write discussion papers of Japanese summary or translation alternately according to the assignment in advance.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

presentation(40%)/feedback papers(30%)/discussion(30%)

テキスト (Textbooks)

1. Browne Ken. 2020. *an introduction to Sociology*. Polity Press

授業内で適宜資料等、配布予定

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

立教時間を毎週、確認するようにしてください

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA301／少子・高齢社会論 (Low-fertility and Aged Society)		
担当者名 (Instructor)	仁科 薫(NISHINA KAORI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

少子・高齢社会が直面している社会問題についての基礎知識を習得する。少子・高齢社会における社会保障やケアについて、社会的な観点から考える。

The goal of this course is to obtain basic knowledge about social issues facing the low-fertility and aged society.
Students will think about the social security and care in the low-fertility and aged society from sociological perspective.

授業の内容(Course Contents)

この授業では、特に日本における少子化・高齢化の現状、少子・高齢社会における社会問題、少子化・高齢化に対処するための社会政策について学ぶ。

This course introduces the current condition of low-fertility and aging, particularly in Japan, social issues of low-fertility and aged society, and social policies to deal with low-fertility and aging to students taking this course.

授業計画(Course Schedule)

1. 日本社会における少子・高齢化の現状(1)
2. 日本社会における少子・高齢化の現状(2)
3. 日本社会における少子・高齢化の現状(3)
4. 戦後日本のリプロダクション政策(1)
5. 戦後日本のリプロダクション政策(2)
6. 少子・高齢社会における出産と子育て(1)
7. 少子・高齢社会における出産と子育て(2)
8. 現代日本における家族政策をめぐる課題(1)
9. 現代日本における家族政策をめぐる課題(2)
10. 少子・高齢社会における介護(1)
11. 少子・高齢社会における介護(2)
12. 現代日本における高齢者介護政策をめぐる課題(1)
13. 現代日本における高齢者介護政策をめぐる課題(2)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習は必要ないが、少子化・高齢化に関連する新聞記事や雑誌記事、書籍等に積極的に触れるようにする。
授業後に配付資料等を用いて復習を行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)／リアクションペーパーおよび授業内で提示する課題(40%)
2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 山崎史郎、2017、『人口減少と社会保障』、中央公論新社 (ISBN:9784121024541)
その他、授業内で適宜紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA303／共生社会論 (Study of Symbiotic society)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	マジョリティ特権への気づきから共生社会を考える		
担当者名 (Instructor)	清原 悠(KIYOHARA YU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

近年、「多様性の理解」「ダイバーシティの推進」ということが唱えられている。LGBT についての話題を始め、グローバル化を背景とした多文化共生などについての注目が増しているように感じられるだろう。しかし、マイノリティを名指す言葉は比較的良く知られているのに対し、その対照項であるマジョリティ自身については言葉や考えが及んでいないように思われる。他者について学び、考えることは、本来は自己について問い直すことを伴うはずである。本授業では、マジョリティとは何かを軸にして、共生社会について考察していく。

In recent years, there has been much talk about “understanding diversity” and “promoting diversity,” and it may seem that there is a growing focus on LGBT and other topics such as multicultural conviviality in the context of globalization. However, we don't know what is majority. Learning and thinking about other people should involve questioning the self. In this class, students will think about Symbiotic society, focusing on what the majority is.

授業の内容 (Course Contents)

- ・社会問題や差別の具体的事例を学ぶことを通して、これらの問題を構成している「マジョリティ」について分析的に考える。
- ・映像資料を活用して、扱うテーマについて具体的にイメージできるように授業を進める。
- ・講義中に意見交換、グループワーク、相互発表、ディスカッション等を一部行う。

We will think analytically about the “majority” through the study of concrete social problems and discrimination.

We will use video materials to help students visualize the topics.

Group work, mutual presentations, discussions sometimes will be conducted in the lecture.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンスとイントロダクション：マジョリティ特権とは何か
2. 社会的統合／社会的包摂
3. 差別とは何か(1)
4. 差別とは何か(2)
5. インターセクショナリティとは何か
6. ジェンダー／セクシュアリティから考える共生社会(1)
7. ジェンダー／セクシュアリティから考える共生社会(2)
8. ジェンダー／セクシュアリティから考える共生社会(3)
9. ジェンダー／セクシュアリティから考える共生社会(4)
10. 国籍・民族から考える共生社会(1)
11. 国籍・民族から考える共生社会(2)
12. 国籍・民族から考える共生社会(3)
13. 国籍・民族から考える共生社会(4)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・毎回の授業で、次週に向けての予習事項を指示します。コメントペーパーは予習事項を含めた回答をしてもらいます。
- ・授業資料はすべて GoogleClassroom にアップロードします。配付資料には、OPAC や出典となった記事のリンクを埋め込むので、各自で予習・復習に活用してください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)／コメントペーパー(40%)／最終テスト(Final Test)(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. ダイアン・J・グッドマン、2017、『真のダイバーシティをめざして: 特権に無自覚なマジョリティのための社会的公正教育』、上智大学出版 (ISBN:978-4324101162)
2. 池田喬・堀田義太郎、2021、『差別の哲学入門』、アルパカ (ISBN:9784910024028)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA305／公共政策とガバナンス (Public Policies and Governance)		
担当者名 (Instructor)	山田 健(YAMADA KEN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

公共政策とガバナンスという知っているようで知らない世界について、履修者が一定の知識や視野を獲得すること。そして、履修者が感情論でも先入観でもなく事実に基づいて公共政策やガバナンスに関して考えられるようになること。

The fundamental aim of this course is students understand public policy and governance on fact.

授業の内容(Course Contents)

政府は、中央・地方を問わず、社会の中に課題を見出し、その解決案や社会制御の方法として公共政策を繰り出します。その際、政治は政策の決定を、行政は政策の立案・実施・評価を、それぞれ担います。他方、公共政策は政治家や官僚のみでは完結しません。現代社会では、企業・NPO・地縁組織といった様々なアクターも政策の展開に一定の役割を果たしています。本授業では、このような公共政策とガバナンスの状況について、行政学の観点から講じます。授業の前半では政治と行政の関わり方に着目し、授業の後半では行政と社会の関わり方に着目します。また、授業では、現在進行形の行政現象・最新の行政学研究・実務経験談などを取り入れたいと考えています。下記の授業計画通りに展開することを予定しているものの、内容は時事的動向・研究動向・コロナウイルス感染症の流行状況などに応じて変更する可能性があります。

Main theme of this course is relations of politics-administration and public-private in policy process and governance.

授業計画(Course Schedule)

1. 講義案内
2. 自由民主主義体制下の行政
3. 公共政策をめぐる政治と行政
4. ウィルソンと政治行政二分論
5. 戦後日本の政官関係論
6. 戦後日本の政策類型論
7. 行政責任論
8. 新公共管理の時代
9. 行政評価制度とその展開
10. ガバメントからガバナンスへ
11. 撤退する民、担われる官
12. 実地的公共政策論
13. 実地的ガバナンス論
14. 講義内容の総まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内容の予習・復習のほか、新聞や地方自治体の広報誌などを活用して日常的に公共政策やガバナンスの動向にふれること。毎回の授業に際して、新聞や広報誌の記事を論評する課題を課し、提出された課題は授業内で教員のコメントも添えて紹介します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(50%)／新聞や広報誌の論評課題(毎回)(30%)／コメントペーパー(第12回・第13回)(20%)

テキスト(Textbooks)

なし(講義レジュメをデータ形式で配布します)。

参考文献(Readings)

1. 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉、2020、『公共政策学の基礎』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-18449-7)
 2. 伊藤修一郎、2022、『政策リサーチ入門』、東京大学出版会 (ISBN:978-4-13-032232-4)
 3. 宇野重規・五百旗頭薫、2015、『ローカルからの再出発』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-14911-3)
- 上記以外の参考文献については、授業内でご案内します。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

<https://researchmap.jp/kenyamada>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA311／相互行為論 (Theories of Social Interaction)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	相互行為の秩序を記述する方法		
担当者名 (Instructor)	上谷 香陽(UETANI KAYO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

相互行為論の視点を理解し、「あたりまえ」を問い直す姿勢を身につけて、相互行為秩序に着目して自分の日々の生活を社会的に考察できるようになる。

This course enables students to understand a sociological perspective on social interactions, and to acquire the attitude of reconsidering the taken-for-granted and to sociologically examine our everyday life in terms of interaction-order.

授業の内容(Course Contents)

この授業では、相互行為に着目して日々の生活を社会的に考察するための1つの視点を解説します。社会は、人々が互いに交わす様々なやりとりや会話、すなわち相互行為をとらえて成立していると考えられます。ここで相互行為とは、発話のみならず、また意識している、していないにかかわらず、身体をもって存在している二人以上の人の間に生起していることの全てを指します。自分以外に少なくとももう一人居合わせている場面で、たとえ互いに見知らぬ人同士であったとしても、私たちは常に一定のやり方で相互行為を行っています。しかしこのことは通常、あたりまえのこととして、問われることはありません。授業では、街、駅、バス、電車、飲食店、コンビニ、教室などで、他者と実際に行っている相互行為に着目します。「見られているが気づかれていない」相互行為の秩序を題材に、私たちが日々生きている「社会」のあり方について考察する方法を解説します。

This course explicates a sociological perspective to examine our everyday life in terms of social interactions. Society can be considered to consist of interactions such as various exchanges and conversations people have with each other. The interactions here refer to not only talks but also everything that occurs between two or more persons who are whether consciously or not present with their bodies. We always interact in a certain way when we are co-present with at least one other person than me even if he is a stranger to me. But this is usually not a question taken-for-grantedly. This course focuses on interactions with each other people actually have in a street, in a station, in a bus, in a train, in a restaurant, in a convenience store, in a classroom and so on. This course explicates a sociological way to examine the way we live daily in a "society" in terms of "seen but not noticed" interaction-order.

授業計画(Course Schedule)

1. 授業ガイダンス
2. 電車の中で起こっていること: 予習課題1(観察):「電車の中で起こっていることを観察し、それを見ている人にも分かるように報告しなさい」800～1000字
3. 「社会」とは何か: 予習課題2(文献):『翻訳語成立事情』(「まえがき」と「社会」)
4. 社会学とは何か: 予習課題3(文献):『クロニクル社会学』(序章「社会学への招待」)
5. 社会的な「自我」: 予習課題4(文献):『コミュニケーション・入門』(2章「自我とコミュニケーション」)
6. 相互行為秩序とは何か: 予習課題5(文献):『相互行為の社会心理学』(5章「相互行為における秩序と身体」)
7. 相互行為秩序を考察する方法(1)焦点の定まらない相互行為の事例分析: 予習課題6(観察):「予習課題5をふまえて相互行為の実例を見つける」800～1000字
8. 相互行為秩序を考察する方法(2)焦点の定まった相互行為の事例分析: 予習課題7(観察):「予習課題5をふまえて相互行為の実例を見つける」800～1000字
9. 相互行為としての「会話」(1)会話の順番交代: 予習課題8(文献):『エスノメソドロジー』(「会話における順番交代」「行為の連鎖」)
10. 相互行為としての「会話」(2)成員カテゴリー化装置: 予習課題9(文献):『エスノメソドロジー』(「成員カテゴリー化装置」「カテゴリーと結びついた活動」)
11. 相互行為としての「会話」(3): 会話の順番交代・成員カテゴリー化装置の事例分析: 予習課題10(観察):「予習課題8、9をふまえて相互行為の実例を見つける」800～1000字
12. 「教える／学ぶ」という相互行為(1)教育の相互行為とは何か: 予習課題11(文献):『コミュニケーションの社会学』(12章「教育というコミュニケーション」)
13. 「教える／学ぶ」という相互行為(2)教育の相互行為の事例分析: 予習課題12(観察):「予習課題11をふまえて相互行為の実例を見つける」800～1000字
14. 相互行為論を学んで: 予習課題13(授業のまとめ):「相互行為論を学んであなたが一番重要だと思ったことを400字程度に

まとめなさい」

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習課題: 文献講読や初歩的な参与観察などの小レポートを毎回の授業の前日 19:00 までに立教時間に提出する。文献課題(課題2、3、4、5、8、9、11)の形式: 指定された文献を読んで(1)要約(2)読んでわかったこと(理解したこと)(3)読んでわからなかったこと(疑問に思うこと)を 1000 字±100 字にまとめる。授業後課題: 授業を聞いて、授業資料全体を読んで、改めて理解したことを 400~500 字にまとめ、立教時間に提出する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(46%)/授業後課題(28%)/予習課題(26%)

単位修得のためには、予習課題全ての提出と、授業後課題 10 回以上の提出を必要とする。課題の遅れて提出は減点します。

テキスト(Textbooks)

特定のテキストは使用しない。

参考文献(Readings)

1. フランシス&ヘスター／中河他訳、2014、『エスノメソドロジーへの招待』、ナカニシヤ出版
2. 柳父章、1982、『翻訳語成立事情』、岩波新書
3. 那須壽(編著)、1997、『クロニクル社会学』、有斐閣アルマ
4. 船津衛、2010、『コミュニケーション・入門』、有斐閣アルマ
5. 伊藤・徳川(編著)、2002、『相互行為の社会心理学』、北樹出版
6. 前田・水川・岡田(編著)、2008、『エスノメソドロジー』、新曜社
7. 長谷・奥村(編著)、2009、『コミュニケーションの社会学』、有斐閣アルマ

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

この授業は、1~6回を対面授業、7~14 回をオンラインのライブ参加型(双方向)授業で行う計画です。zoom のミーティング ID・パスコードは立教時間で告知します。オンラインのライブ参加授業内に、受講者に質問したり意見を求めたりします。できる限り、音声での発言ができる環境で授業に参加して下さい。毎回の予習課題と授業後課題は、コメントをつけて授業の教材として使用します。提出された課題のポイントの解説を中心に、受講者同士の意見交換も取り入れ、対話形式、受講者参加型で進めます。毎回の授業は相互に関連していますので、欠席をしないで積極的に参加することを求めます。このような授業の進め方を理解した上で、履修を決定して下さい。課題のやり取りを通して、他の人の意見にもふれながら、日頃の自分のものの見方や考え方を、これまでと違う発想を使って考え直してみたい人の参加を希望します。受講希望者は特別な理由がない限り、第一回目の授業(ガイダンス)に必ず出席して下さい。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA327／家族社会学 (Family Sociology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	家族を社会的に理解する。(Understanding the family from a sociological perspective.)		
担当者名 (Instructor)	本多 真隆 (HONDA MASATAKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

現代日本の家族は、歴史的、国際的にみてどのような特徴があるのか。本講義では、グローバル化にともなう戦後日本の社会構造の変容を踏まえながら、近代社会における「家族」の成立とその変容を理解することを目標とする。

What are the characteristics of the contemporary Japanese family from historical and international perspectives? The goal of this lecture is to understand the process by which the "family" was established in modern society and its transformation, taking into account the transformation of social structures in postwar Japan due to globalization.

授業の内容 (Course Contents)

家族や親密な関係の問題は、身近で個人的な問題と考えられやすい。しかしそれらは時代や社会のあり方によって大きく変わる。現代の家族問題について理解するためには、それを取り巻く社会構造、社会変動について理解することが不可欠である。

講義の前半では、近現代における家族とライフコースの変化を学ぶ。後半ではパートナーシップ制度やセクシュアリティの多様性、経済的格差など現代の家族問題に関するトピックを通じて、その現状と将来を考える。

Family and intimate relationship issues are often considered personal problems. However, they change dramatically with time and social structure. To understand contemporary family issues, it is essential to understand the social structures and social changes surrounding them.

In the first half of the lecture, students will learn about the family and life course changes in modern society. The second half of the lecture will consider the current state as well as the future of the family through topics related to contemporary family issues such as the partnership system, diversity in sexuality, and economic disparity.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション：家族と社会
2. 「家族」とは何か：「近代家族」の成立
3. 「家」と「家庭」：日本における伝統的家族と近代家族
4. 戦後日本家族の形成と特徴：高度経済成長と家族
5. ポスト工業化社会の家族問題：平成期の社会構造の変化と家族
6. 現代日本の家族と結婚：未婚化、晩婚化の社会的背景
7. 現代日本の家族と子ども：少子化と子育てのコスト
8. 共働き社会の国際比較：女性の働き方の多様性
9. 現代日本の家族と高齢化：高齢者のケアは誰がするのか？
10. 家族と暴力：虐待と社会環境
11. パートナー関係、セクシュアリティの多様性を考える：「結婚」の将来とは？
12. 離婚、ひとり親家族の諸問題：女性の貧困と社会的包摂
13. 家族と福祉：多様な暮らし方ができる社会とは？
14. 国際的にみた日本の家族：「家族」の将来を考える

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

各回の復習では、紹介した文献を読んだり、学んだ内容をニュースや日々の暮らしなどに当てはめて考えたりすると理解が進む。リアクションペーパーは講義の当時中に入力すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験 (Report Exam) (70%) / リアクションペーパー (30%)

テキスト (Textbooks)

なし。

参考文献 (Readings)

講義中に適宜紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA332／労働社会学 (Sociology of Labor)		
担当者名 (Instructor)	李 旼珍(LEE MINJIN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

我々の生活やアイデンティティ形成の柱であり、我々に生きる意味や存在価値を与える基礎的なものである仕事について、また働くことをめぐって生じている諸問題について知り、理解する。

Work is a basis to earn our livelihood and to form our identities. Work is also a basic element that gives meanings to our lives and existences. Students will learn and understand various issues surrounding work.

授業の内容 (Course Contents)

働く人たちが自律的・主体的に働いているか、サービス部門で働く人たちは感情労働をしているか、ファストフード業で働く人たちはルーティン化された労働をするか、非正規雇用は自由・柔軟な働き方なのかそれとも不安定な働き方なのか、なぜ人々は長時間労働するのか、働く人に労働組合は必要なのか、などの論点別に職場の実態と産業・労働社会学で議論されていることを紹介する。

This course will introduce students to various issues discussed in industrial and labor sociology. Do employees have a control or a discretion over their work? Do employees in service sector confront requirements of emotional labor? Do employees in fast-food industry carry out the routinized interactive service work? Are atypical employments flexible and free ones, or otherwise unstable and poor employments? Why people work long hours? Do workers need labor unions?

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. 仕事の自律性
3. 仕事の自律性は仕事の満足度を上げるのか
4. 感情労働はどの職業に求められるのか
5. 感情労働は労働者のアイデンティティにどのような影響を与えるのか
6. ファストフード業のルーティン労働
7. 仕事とジェンダー
8. 雇用システムはどのように変化しているのか
9. 正社員の働き方
10. 就業形態の多様化・非正規雇用
11. なぜ長時間労働をするのか
12. ワークライフバランス
13. 労働組合は労働者に必要であるか
14. 新しい労働運動の台頭

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

準備学習の具体的な指示は、授業内で適宜行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/フィードバックペーパー(30%)

テキスト (Textbooks)

テキストは特に指定しない。

参考文献 (Readings)

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA335／福祉の社会学 (Sociology of Social Welfare)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本型生活保障システムの構造と課題		
担当者名 (Instructor)	仁平 典宏(NIHEI NORIHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

これまでの日本の社会保障システムが、どのような特徴を持ち、現在どういう問題に直面しているのかに関する基本的な知識を習得する。その上で、再構築の方向性や選択肢を考えるための知識を身につけることを目標にする。

Students will acquire basic knowledge about characteristics of existing Japanese social security system and its problems. After that, students will acquire knowledge require to think about trends and choices when reconstructing the system.

授業の内容(Course Contents)

日本の社会保障システムは、現在、貧困や社会的排除、雇用の不安定化、長時間労働、少子高齢化、孤立など、多くの問題に直面している。それらは、個人の安心や社会的連帯を毀損するだけでなく、経済にも大きなマイナスの影響を与えている。なぜそのような事態に陥ってしまったのか。また、現状のシステムをどのような方向で再構築するべきなのだろうか。本講義ではデータや事例、他の先進国の動向も踏まえながら、改革のための基本的な方向性や選択肢を多角的に検討し、この問題を考える上での基本的な知識を習得することを目指す。

Japanese social security system is facing various problems, including poverty, social exclusion, employment instability, long working hours, low birth rate, aging population, and social isolation. These not only destroy individual's peace of mind and social solidarity, but also bring great negative impact on economy. How did it fall into its current state? And how should the current system be rebuilt?

In this lecture, students will study data, cases, and trends in other developed countries. They will think about fundamental trends and choices towards reforms from multiple angles. Students will acquire basic knowledge necessary to think about these issues.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 日本型生活保障システムの成立と揺らぎ 1
3. 日本型生活保障システムの成立と揺らぎ 2
4. 日本型生活保障システムの成立と揺らぎ 3
5. 日本版ネオリベリズムの隘路—雇用問題を中心に
6. 縮小する社会—高齢化をめぐって
7. 少子化のメカニズムと子どもの貧困
8. 社会的排除
9. 社会的投資国家とアクティベーション
10. 技術革新・AIと雇用
11. 障害者とインクルージョン 1—障害者福祉と自立
12. 障害者とインクルージョン 2—インクルーシブな社会を考える
13. ベーシックインカムについて—生産力パラダイムをこえて
14. 市民社会とシニシズムの克服

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

レジュメをしっかり理解し、不明な点や関心を持った点は関連する文献や論文で学習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)/毎回コメントペーパー(40%)

テキスト(Textbooks)

講義はレジュメに基づいて行うため、特に指定しません。

参考文献 (Readings)

1. 武川正吾、2007、『連帯と承認』、東京大学出版会
2. 新川敏光、2014、『福祉国家変革の理路：労働・福祉・自由』、ミネルヴァ書房
3. 香取照幸、2017、『教養としての社会保障』、東洋経済新報社
4. 宮本太郎、2009、『生活保障：排除しない社会へ』、岩波書店
5. 小熊英二編、2019、『平成史【完全版】』、河出書房新社

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

<https://researchmap.jp/nihenori>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA338／逸脱の社会学 (Sociology of Deviance)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	逸脱と統制のスパイラル		
担当者名 (Instructor)	土井 隆義(DOI TAKAYOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

逸脱という社会現象を素材にして、社会学的なものの見方・考え方を解説します。「逸脱をなくす」という当為の問題としてではなく、「逸脱をとらえて社会を知る」という存在の問題として犯罪現象を扱います。

Professor will use the social phenomenon deviation as material to explain sociology perspectives and ideas. Students will not approach the problem as a task to be solved by seeking to eliminate deviation. Instead, they will approach the criminal phenomenon as existential problem by understanding their society through deviation.

授業の内容 (Course Contents)

逸脱現象のなかでも特に日本の犯罪動向を題材として取り上げ、その増減が示唆する社会的な含意について考察します。また、犯罪を統制する側の社会がどんなロジックを有しているかについても考察を行います。

Among deviation phenomena, students will select Japan's criminal trends as materials. They will analyze social significance suggested by criminal trend fluctuation. In addition, students will analyze logics behind society that governs crimes.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション～逸脱と統制はどんな関係にあるのか～
2. 逸脱行動と社会統制(1)～社会的逸脱とは何か～
3. 逸脱行動と社会統制(2)～人格崇拝のアポリア～
4. 社会統制という変数(1)～社会統制の潜在機能～
5. 社会統制という変数(2)～認知バイアスの陥穽～
6. 社会病理と個人病理(1)～社会的属性と選択的統制～
7. 社会病理と個人病理(2)～社会的リアリティの変容～
8. 逸脱行動の社会要因(1)～つながりという変数～
9. 逸脱行動の社会要因(2)～相対的剥奪という変数①～
10. 逸脱行動の社会要因(3)～相対的剥奪という変数②～
11. 後期近代の逸脱行動(1)～文化遅滞の構図～
12. 後期近代の逸脱行動(2)～逕減する相対的剥奪～
13. 後期近代の社会統制(1)～セキュリティ化の進行～
14. 後期近代の社会統制(2)～セキュリティ化の陥穽～

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

参考文献を読んでおくことと授業を理解しやすいでしょう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

テキストは使用しません。

参考文献 (Readings)

1. ハワード・ベッカー、2011、『アウトサイダーズ』、現代人文社
2. ロバート・マートン、1961、『社会理論と社会構造』、みすず書房
3. エミール・デュルケム、1985、『自殺論』、中公文庫
4. E.H.サザランド、1974、『犯罪学1・2』、有信堂
5. 大村英明・宝月誠、1979、『逸脱の社会学』、新曜社
6. 土井隆義、2012、『少年犯罪<減少>のパラドクス』、岩波書店

7. 土井隆義、2010、『人間失格？』、日本図書センター

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA339／社会階層論 (Study of Social Stratification)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代日本の階層構造と階層意識		
担当者名 (Instructor)	中村 牧子(NAKAMURA MAKIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

社会階層の研究史およびそのでの主要な論点を理解し、この知識に基づいて現代の日本社会における階層・格差に関する諸現象の考察ができるようにする。

Students will understand social stratification research histories and their major arguments. Based on this knowledge, students will be able to analyze various phenomena related to social stratification and gap in modern Japanese society.

授業の内容 (Course Contents)

社会階層・格差の諸局面を、客観的に測定される階層構造と、当事者の階層意識という両面から講義する。この階層構造と階層意識の時代的変遷や両者のずれを手掛かりとして、日本社会の特徴、とりわけ現在の社会状況の特徴を理解できるようにする。また経済状態や教育機会、生活様式等の格差の現状および問題点と、それに対する対策についても紹介する。

Professor will explain various aspects of social stratification and gap from both sides, i.e. objectively measured stratification structure and stratification consciousness of party involved. Students will study temporal transition of stratification structure and awareness, as well as their divergence. Students will use these as clues to understand characteristics of Japanese society, particularly those of current situation. In addition, professor will introduce current conditions, problems, and solutions for gaps on economic issues, education opportunities, and lifestyles.

授業計画 (Course Schedule)

1. 現代社会の切り口としての階層研究
2. 階層とは何か 階層の見え方と階層論の基本的諸概念
3. 階層構造の研究史1 開放性の測定から移動レジーム検出へ
4. 階層構造の研究史2 学歴をめぐるレジーム分析
5. 階層構造の研究史3 女性の階層的地位の発見
6. 階層構造の研究史4 学校教育とジェンダー間格差の関係
7. 階層構造の研究史5 労働の場における多様な格差
8. 階層構造の研究史6 社会の流動化と新しい階層・格差
9. 階層構造の研究史7 経済的格差と弱者のための対策
10. 階層意識論1 階層構造と階層意識の関係
11. 階層意識論2 現代日本の階層意識の源流を探る
12. 階層意識論3 「問題化」される階層・格差
13. 階層意識論4 母親たちの自衛戦略と学歴の格差
14. 階層意識論5 子どもの格差・若者の意識の格差

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業ごとに、いろいろな論点についての意見を書く時間を設けているので、そこで十分な考察ができるよう、文献等を読み予習・復習をせよ。そのための参考文献は授業時配布の資料中で紹介する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(70%)／授業内小レポート(30%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

授業は特定のテキストに沿って進めるものではないため、内容を理解するためには積極的に出席し、また参考文献を読んで、各自学習を深めることが望ましい。

授業は講義形式で進めるが、授業時に書いてもらうアクションペーパーは、結果を次回に紹介することで共有するとともに、重要な論点や疑問点についての掘り下げや補足説明を行うなどして、受講者の関心を授業に反映させるために活用する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA343／ライフコース論 (Studies on Life Course)		
担当者名 (Instructor)	杉浦 浩美(SUGIURA HIROMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「ライフコース」とは個々人がたどる「人生の軌道」である。私たちはいつどのような時代に生まれ、どのような社会的事象に遭遇するかで、人生形成に大きな影響を受ける。同時に、そこには能力や経験といった個人的要因が強く関係する。本授業では、そうした社会的環境と個人的要因との相互作用について考察するとともに、現代社会における多様なライフコースについての理解を深めることを目標とする。

Life course refers to the paths we take in our lives. The era we were born in and social phenomena we encountered have great influence our life trajectories. At the same time, individual factors such as abilities and experiences play great roles too. In this class, students will analyze mutual effects of these social environmental and individual factors. Students will deepen their understanding about various life courses in modern society.

授業の内容 (Course Contents)

人は生まれてから死ぬまでの間に就職、結婚、出産、転職など、様々なライフイベントを経験する。そのどれもが個々人の選択であると同時に、時代や社会状況に大きく規定されている。時代とともに変化するライフコースについて、ジェンダー、家族、キャリア、社会的資源といった、いくつかの視点から検討していきたい。ライフコースの各段階にどのような課題があるのか、そもそもライフステージを区切ることは可能なのかなど、現代の変容するライフコースを理解することで、自らのライフコース選択について考える機会にしていきたい。

People go through various life events from birth to death, including employment, marriage, giving birth, and changing employment. Although all of these are individual's choices, they are also largely defined by temporal and social conditions. Students will discuss this changing life courses in passage of time from multiple perspectives, including gender, family, career, and social resource. What issues can be found in each stage of life course? Can we categorize life stages? By understanding these changing life courses in modern times, students will have opportunities to select their life courses.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
ライフコースとは何か
2. ライフサイクル論からライフコース・アプローチへ
3. 少子高齢社会とライフコース
4. ライフコースから考える家族
5. 親世代のライフコース
6. 祖父祖母世代のライフコース
7. 中間のまとめと中間レポート提出
8. ポスト青年期の出現
9. 就職氷河期世代の現在
10. 直近のライフイベント「就職」について考える
11. ゆらぐライフコース～労働とケアの観点から
12. ライフコースとジェンダー
13. 「コロナ世代」のライフコースについて考える
14. 授業のまとめと期末レポート提出

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

2 回のレポート提出を求める。

レポート作成には、授業時間以外の学習や調査の時間が必要となることを、あらかじめ理解しておいてほしい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

中間のレポート(30%)／授業時に提出するコメントカード(20%)／授業への参加状況(10%)／最終レポート(Final Report)(40%)
欠席が 3 分の 1 を超えた場合は成績評価の対象外となる。

テキスト(Textbooks)

特に指定しない。授業時に必要に応じてプリントを配布する。

参考文献(Readings)

1. 岩上真珠、2013、『ライフコースとジェンダーで読む家族(第3版)』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-17396-5)
 2. 藤村正之編、2011、『いのちとライフコースの社会学』、弘文堂 (ISBN:978-4-335-55149-9)
 3. 岩上真珠、池岡義孝ほか編著、2017、『変容する社会と社会学—家族・ライフコース・地域社会』、学文社 (ISBN:978-4762027062)
- 他は、必要に応じて、随時紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA381／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	仕事の社会学		
担当者名 (Instructor)	李 旼珍(LEE MINJIN)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

働く人たちの仕事意識やアイデンティティ、多様な働き方、企業のダイバーシティ・マネジメント、企業・労働組合・政府の働き方改革の動きについて考察し、調査を行い、報告書を作成する。

Students will examine and report on work-consciousness of workers, their identities, various workstyles, corporate diversity managements, and reforms of workstyles by corporations, labor unions, and governments.

授業の内容 (Course Contents)

仕事は我々の生活やアイデンティティ形成の柱であり、我々に生きる意味や存在価値を与える。近年、働き方が多様化している。正規(典型)雇用以外の非典型雇用形態が増えているだけではなく、正規雇用の中でも地域限定正社員、職種限定正社員、短時間正社員などが増えている。いわゆる多様な正社員が増えている。こうした動きと並行して、企業は男性だけではなく女性・外国人・高齢者・LGBTも働きやすい職場作りを目指すダイバーシティ・マネジメントを取り入れるとともに、働き方を改革しようと試みている。長時間労働をなくすための働き方の見直し、ワーク・ライフ・バランス制度の導入、第3の場所や自宅で働けるテレワークの導入、メンバーシップ型雇用システムからジョブ型雇用システムへの移行など、従来の働き方を変えようとにより柔軟な働き方を可能にする諸制度が企業に導入されつつある。政府も働き方改革を掲げいろんな雇用政策を推進しており、労働組合も経営側に働きやすい職場づくりを提案する。そこで、本演習では、仕事世界の変化に伴い、働く人々の仕事に対する意識やアイデンティティについて考察するとともに、企業のダイバーシティ・マネジメントの実態や働き方改革の動きについて、考察・研究する。春学期には、仕事世界の変化・働き方改革や働く人々の仕事意識・アイデンティティを考察するのに必要な視点を得るために、文献を講読し、議論する。秋学期は、春学期の議論を踏まえ、ゼミ生は各自演習で研究するテーマを決め、調査を行い、調査内容を分析し、まとめ、ゼミ報告書を完成する。

Work forms our living and identities. It is one of essential elements that give meanings to our lives and existence. Workstyles have been diversified in recent years. Non-standard employments have increased. In addition, various forms of regular employment have appeared such as region-limited regular employees, job-limited regular employees, and short-work-hour regular employees. At the same time, reforms of workstyle have been underway thanks to the diversity management, which aims to create a workplace friendly not only to men, but also women, foreigners, seniors and sexual minorities. Corporations have been introducing various systems to allow more flexible working styles and to decrease overtime work. These include revising inefficient ways of working, introducing work-life balance programs, implementing teleworking programs to allow employees to work at homes or third places, and shifting from membership-based employment system to job-based one. In order to reform long-hours-working practices, governments have been promoting various employment policies, while labor unions also propose to create better workplaces to managements. In this seminar, students will examine workers' identities and consciousness about working and living in changing working surroundings, as well as corporate diversity management and reforms of long-hours-working practices. In spring semester, students will read literatures in order to acquire perspectives required to analyze the above-mentioned changes in working surroundings. In autumn semester, students will decide their research topics, examine their research topics, and complete their seminar reports.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. 労働者、労働組合、雇用・労働政策、企業の人事制度などに関する新聞記事検索
3. 文献講読
4. 文献講読
5. 文献講読
6. 文献講読
7. 文献講読
8. 文献講読
9. 文献講読
10. ゲスト講師講義
11. ゲスト講師講義

12. 企業に関する調査・プレゼン
13. 労働組合に関する調査・プレゼン
14. 政府の雇用・労働政策に関する調査・プレゼン
15. 研究テーマ発表
16. 研究テーマ発表
17. 研究テーマ発表
18. 研究テーマ発表
19. 調査結果発表
20. 調査結果発表
21. 調査結果発表
22. 調査結果発表
23. 調査結果発表
24. ゼミ論文発表
25. ゼミ論文発表
26. ゼミ論文発表
27. ゼミ論文発表
28. ゼミ報告書総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

春学期の文献講読に際し、講読する文献を事前に読み、内容を把握し、疑問点、ディスカッションする論点などについて考えること。また秋学期の個人研究に際し、先行研究を幅広く検討したうえ、研究テーマの設定や構想を行うこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への出席および発表・プレゼン(40%)/ディスカッションへの参加(20%)/報告書論文作成(40%)

テキスト(Textbooks)

テキストは初回で提示する。

参考文献(Readings)

参考文献は授業にて随時紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

社会学部科目「労働社会学」の履修が望ましい。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA382／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アイデンティティと文化の社会学		
担当者名 (Instructor)	片上 平二郎(KATAKAMI HEIJIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

理論社会学的視座を重視しつつ、社会事象や文化現象を素材として、「自我」や「コミュニケーション」についての社会的性格を理解する。そこから、各自の研究を進め、最終的に報告書を作成する。

その中で、「自分」や「他者」、「社会」もしくは「世界」といったものにまつわる“わからなさ”に向かい合う想像力を培っていきたい。

In this course, issues such as “self”, “others”, “relationship”, “social consciousness” are examined from the viewpoint of theoretical sociology. The objective is to enable students to: (i) know how to analyze an issue from a sociological perspective, (ii) conduct their own research projects, and (iii) write their thesis.

授業の内容 (Course Contents)

本演習では、理論社会学的な視点を軸として、「私」や「他者」、「関係性」、「社会意識」、「文化」などの問題について考察を行っていく。

春学期には、自己・他者・コミュニケーションといった問題に対する社会学的視点を理解し、各自の問題関心を深めるための文献講読を行う。

夏期休暇中の合宿でそれぞれの研究方針を決定し、秋学期に調査を実施する。最終的に、自身の調査について考察を行って、400字原稿用紙30枚程度の論文を執筆し、それらをまとめ、年度末にゼミ報告書を作成する。

The course is composed of readings, discussions, and students' presentation. In the second semester, students have the responsibility to present their research at different stages of their project. Discussions give the presenters an opportunity to see their research from different perspectives.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション 授業のねらいと進め方について
2. 各人の問題関心の紹介(1)
3. 各人の問題関心の紹介(2)
4. 演習1: 対話・他者
5. 理論的文献の講読(1)
6. 理論的文献の講読(2)
7. 理論的文献の講読(3)
8. 演習2: 映画・物語
9. 事例分析の講読(1)
10. 事例分析の講読(2)
11. 演習3: 芸術・世界
12. 事例分析の講読(3)
13. 事例分析の講読(4)
14. 前期の総括と今後の構想報告
15. 論文テーマと調査計画の報告
16. 先行研究と調査方法の報告(1)
17. 先行研究と調査方法の報告(2)
18. 先行研究と調査方法の報告(3)
19. 調査途中経過報告(1)
20. 調査途中経過報告(2)
21. 調査途中経過報告(3)
22. 調査結果報告(1)
23. 調査結果報告(2)
24. 調査結果報告(3)
25. 分析・考察・結論の報告(1)
26. 分析・考察・結論の報告(2)

27. 分析・考察・結論の報告(3)
28. 総括討論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

春学期は文献をきちんと読み、また、毎回、なんらかのコメントを事前に考えておくこと。秋学期については、自身の調査を進め、担当回にしっかりとした報告をできるようにしておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告など授業時の課題達成、討論への参加(50%)/年度末論文の達成水準(50%)

テキスト(Textbooks)

使用する文献・論文については、受講生の問題関心に合わせて、開講後に決定する。

参考文献(Readings)

1. 片上平二郎、2017、『「ポピュラーカルチャー論」講義』、晃洋書房
2. 佐々木敦、2016、『未知との遭遇(完全版)』、星海社
3. 奥村隆、2013、『反コミュニケーション』、弘文堂
4. 工藤保則、大山小夜、笠井賢紀編、2017、『基礎ゼミ社会学』、世界思想社

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

授業の展開に合わせて授業延長や授業計画の変更可能性がある。
また、夏休み中の合宿に参加すること。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA383／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	行動科学の研究法と計量社会学 (Research Method of Behavioral Science and Statistical Sociology)		
担当者名 (Instructor)	村瀬 洋一(MURASE YOICHI) 三輪 哲(MIWA SATOSHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

現実の社会で起きている様々な現象について幅広く、科学的に分析する能力を身につける。様々な「社会の仕組み」を理解し、とくに的確な測定法と分析法を理解すること、個人行動と社会構造の関連について分析すること、国際的な視点を持って分析することを重視する。

The purpose of this course is to develop students' ability to analyze various social phenomena in the real society broadly and scientifically. Understanding many kinds of social structure, especially understanding accurate measurement and analysis methods in sociology, and the relationship between personal behavior, and social structure is important. Conducting analysis based on an international perspective is also important.

授業の内容 (Course Contents)

ミクロな個人行動は、マクロな社会現象にどのように結びつくでしょうか。個々人が便利さを追求して行動すると、環境問題など、社会的には問題が起きることがあります。また豊かな社会において高級品が売れる一方、フリーター増加や格差、人々の将来不安感が議論になるなど、日本社会にも変化が起きているようです。巨大な現代社会を把握するには科学的な社会調査や分析法が必要です。しかし、不適切な調査や分析も現実には多いのです。

このゼミでは、各自が自由にテーマを設定し、社会変動や社会階層、価値観、各種の不平等を中心に、参加行動や余暇活動、人間関係、教育、政治、環境問題などに取り組みます。本格的な社会調査データや、国際比較データを用いてデータ分析の練習をします。とくに分析法やパソコンが得意でなくても、やる気があればそれで良く、広い視野を持ち現実社会に興味を持つ人ならば誰でも歓迎します。まずテキストや、各自の分析結果をもとに発表と討論をします。次に、最新の論文講読やディベートなどをします。最後に各自のテーマによりゼミ論文を作成します。これらを通じて、知的生産の総合的能力の訓練をしたいと思います。

How are micro personal behaviors related to macro social phenomena? When individuals pursue convenience, social problems such as environmental problems may occur. And in an affluent society, social changes may occur in Japanese society, such as increasing part time workers and social disparities, increasing people's anxiety about the future, while the sale of luxury goods is increasing. Scientific methodologies of social research and analysis are necessary to investigate this huge modern society.

However, there are many inappropriate social studies and analyses.

In this seminar, students decide their research theme and investigate various kinds of contemporary social phenomena.

Research themes include social change, social stratification, values, and various aspects of inequalities, participation behavior and leisure activities, human relations, education, politics, and environmental issues. We practice data analysis using national sample survey data and international comparative data. Even students who are not good at analysis will be fine. A student who has a motivation for empirical research, and who has a broad perspective and is interested in real society, is welcome. First, we will have presentation and discussion on academic research by using a textbook and results of students' analyses. Next, we will read and discuss the latest academic papers. Finally, students will write seminar papers on their own research subjects. In this course of one year, I would like to train student's comprehensive ability of intellectual production behavior.

授業計画 (Course Schedule)

1. 演習の概要、各自テーマについて検討
2. 学会誌掲載の論文について討論
3. テキスト2章 働き方と幸福感、及びデータベース解説
4. テキスト3章 現在志向と宗教性、及び文献検索法について解説
5. テキスト4章 人びとのつながりと自由、及びホームページ作成解説
6. テキスト5章 働き方と地位アイデンティティ、及び分析法の解説
7. 分析実習 分析ソフトの基本 1
8. 分析実習 分析ソフトの基本 2
9. 学術書を用いた発表と討論 1
10. 学術書を用いた発表と討論 2
11. 分析実習 多変量解析法の基礎 1
12. 分析実習 多変量解析法の基礎 2

13. 分析結果発表と討論 1
14. 分析結果発表と討論 2
15. 学術書を用いた発表と討論 3
16. 学術書を用いた発表と討論 4
17. 分析実習 多変量解析法 1
18. 分析実習 多変量解析法 2
19. 学術書を用いた発表と討論 5
20. 学術書を用いた発表と討論 6
21. 分析結果発表と討論 重回帰分析とパス解析 1
22. 分析実習 分散分析
23. 分析実習 因子分析 1
24. 分析実習 因子分析 2
25. 学術論文に関する発表と討論
26. 学術論文に関する発表と討論
27. 分析実習 各種の分析手法について
28. ゼミ論発表 仮説と分析結果

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

前回までの内容は各自で確認し、よく復習しておくこと。社会調査法やデータ分析法については、調査士資格科目を積極的に履修すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

ゼミ中の討論と発表内容・期間中の提出課題・最終レポートにより評価(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 数土直紀編、2018、『格差社会のなかの自己イメージ』、勁草書房 (ISBN:978-4326603046)

参考文献(Readings)

1. 原純輔・海野道郎、2004、『社会調査演習 第2版』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130520195)
2. 村瀬洋一他編、2007、『SPSSによる多変量解析』、オーム社 (ISBN:978-4274066269)
3. 盛山和夫他編、2011、『日本の社会階層とそのメカニズム ―不平等を問い直す』、白桃書房 (ISBN:978-4561961246)
4. 筒井淳也他編、2015、『計量社会学入門 ―社会をデータでよむ』、世界思想社 (ISBN:978-4790716716)
5. 中村高康・三輪哲・石田浩他、2021、『人生初期の階層構造 (シリーズ少子高齢社会の階層構造 1)』、東京大学出版会 (ISBN: 978-4130551410)
6. 田辺俊介編、2019、『日本人は右傾化したのか』、勁草書房 (ISBN:978-4326351794)
7. NHK 放送文化研究所、2020、『現代日本人の意識構造 第九版』、NHK 出版 (ISBN:978-4140912607)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

村瀬ゼミホームページに最新情報を掲載する。9/18 頃にゼミ合宿を行うので参加すること。
<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/murase/>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA384／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ライフストーリーの社会学		
担当者名 (Instructor)	石川 良子 (ISHIKAWA RYOKO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

- ・フィールドワークを通して様々な人々と出会い、かれらの生きられた経験とその社会的背景を理解するとともに、自分自身の生 (life) を見つめ直す。
- ・卒業論文執筆の基礎を固める。

- ・Students will meet various people through ethnographic fieldwork, understand their lived experiences and their social contexts. Furthermore, students will reexamine their lives.
- ・Students are expected to develop basic skills of writing graduate thesis.

授業の内容 (Course Contents)

- ・次年度の卒業論文を視野に入れつつ、フィールドワークの基本を体験的に学ぶ。テーマ・フィールドは履修者の問題関心に沿って探求し、グループに分かれて調査を実施、年度末に報告書を完成させる。
- ・とくにライフストーリー研究の手法・視点に重きを置く。調査相手を単なる情報提供者として扱うのではなく、その人のライフ (人生、暮らし、人柄、生き方...) に迫ることが大切である。それは自分自身のライフ、および自らが生きている社会のあり方への洞察を深めることにつながる。

- ・Students will conduct fieldwork and write a report. Students will be divided into small groups and select research themes and fields based on their own interest. Students are expected to develop basic skills for writing graduate thesis.
- ・In this seminar, we will especially focus on methodology of the life story research. It is important to build relationships with others, and listen to their own lives with sincerity. Through dialogues with others, we can also understand ourselves and the society we live.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. アイスブレイク①
3. アイスブレイク②
4. アイスブレイク③
5. ゼミ運営についての話し合い
6. ライフストーリーの社会学の問題意識と方法①
7. ライフストーリーの社会学の問題意識と方法②
8. ライフストーリーの社会学の問題意識と方法③
9. 問題意識の共有とグループ分け①
10. 問題意識の共有とグループ分け②
11. フィールドワーク・インタビューの基礎①
12. フィールドワーク・インタビューの基礎②
13. 問題意識の掘り下げ・テーマ設定と調査計画①
14. 問題意識の掘り下げ・テーマ設定と調査計画②
15. 調査の進捗状況の確認
16. グループ報告①
17. グループ報告②
18. グループ報告③
19. グループ報告④
20. グループ報告⑤
21. 論文執筆の基礎①
22. 論文執筆の基礎②
23. 調査報告書の検討①
24. 調査報告書の検討②
25. 調査報告書の検討③

- 26. 調査報告書の検討④
- 27. 調査報告書の検討⑤
- 28. 1年間の振り返り・総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

単位取得は重要・必要ですが、それだけに留まらずゼミに参加し、調査を行うことについて自分なりの意味・意義を掴んでほしいと思います。なお、授業後も議論・作業を行う場合がありますので、なるべく用事を入れないようにしてください。また、長期休暇中に合宿を行う予定です(素晴らしい景色や面白い人たちと出会いましょう)。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出欠状況、毎回の発言・議論、調査と報告書への取り組み、その他ゼミ活動への貢献を総合して評価します。(100%)
やむを得ない事情がない限り、ゼミへの出席は必須です。ゼミでの気まぐれな行動は、自分だけではなくメンバーの負担・不利益にもなることを学んでください。

テキスト(Textbooks)

適宜指示します。

参考文献(Readings)

適宜指示しますが、担当者の調査成果として以下を紹介しておきます。

『ひきこもりの〈ゴール〉:「就労」でもなく「対人関係」でもなく』(青弓社、2007 年)
『「ひきこもり」から考える:〈聴く〉から始める支援論』(ちくま新書、2021 年)
「コロナ禍のもとでのストリップ:ある踊り子の語りから」『日本オーラル・ヒストリー研究』17 号(2021 年)
「『地域×アート』の幸せな掛け算は可能か:アーティストへのインタビューから考える」『松山大学論集』31 巻 3 号(2019 年)

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

・【授業計画について】あくまで目安です。その時々状況に応じて話し合いながら納得いくように進めていきましょう。
・【授業形態について】全授業回のうち 14 回を上限に対面授業を実施します。対面回については授業内および授業支援システム等で指示します。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA385／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	地域の社会的包摂と福祉の社会学 (Sociology of Social Inclusion and Welfare in Local Community)		
担当者名 (Instructor)	野呂 芳明(NORO YOSHIKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

主に現代都市の地域社会に目を向け、少子高齢化、異質な他者との共生、地域の経済や政策等による社会の変容と市民生活の関連性について理論的、実践的に理解を深めることを目指す。

Students will focus on regional societies in modern cities. Students will deepen their theoretical and practical understanding about declining, aging society, co-existence with various different people, social changes affected by regional economy and policy, and their relationships with our civil lives.

授業の内容 (Course Contents)

このゼミでは、地域の中でさまざまに展開している社会生活の実情、人びとの日常の暮らしをサポートしている自治体の諸政策の現状と課題、町内会等の地域団体や各種ボランティア・NPOの活動などを、「一つの全体」として相互関連的に検討し、分析する視点を養っていく。「私たちの生活は何によって可能となり展開するか？」をシステムティックに知ることを目指したい。そのために、ゼミの前半は共通テキストの講読により視野を広げ、夏休みに実施するゼミ合宿での討議を経て各人の問題関心を深める。年度の後半はゼミ生個々人の研究構想も踏まえつつグループ単位で研究・調査をおこない、成果をレポートにまとめていく。比較長文の報告を執筆する経験を、4年次の卒業論文作成につなげることを目指す。

In this seminar, students will cultivate their perspective to discuss and analyze various conditions as a whole while considering relationships among these elements. Students will look at actualities of various social lives unrolling in regions, current policies and issues of local governments, how they support daily lives of people, community organizations, and various volunteer and NPO activities. Students will learn systematically about “What facilitates and makes our lives possible?” To do that, students will widen their perspective by reading some textbooks in the first half of this seminar. During summer vacation, students will participate in seminar camp to discuss and deepen their interests about their own research themes. In the second half of the year, students will consider their concepts through conducting group researches. Students will then complete their group reports. By writing relatively long reports, students will gain experiences required to write their graduation theses in the 4th year.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. ゼミの進め方、テキストの決定
3. テキストの講読：報告(1)
4. テキストの講読：報告(2)
5. テキストの講読：報告(3)
6. テキストの講読：報告(4)
7. テキストの講読：報告(5)
8. テキストの講読：報告(6)
9. テキストの講読：報告(7)
10. テキストの講読：報告(8)
11. テキストの講読：報告(9)
12. テキストの講読：報告(10)
13. 夏期休暇期間中の各自研究構想と講読文献の紹介(1)
14. 夏期休暇期間中の各自研究構想と講読文献の紹介(2)
15. 各ゼミ生の研究構想報告(1)
16. 各ゼミ生の研究構想報告(2)
17. 各ゼミ生の研究構想報告(3)
18. ゼミ共同の研究・調査(1)
19. ゼミ共同の研究・調査(2)
20. ゼミ共同の研究・調査(3)
21. ゼミ共同の研究・調査(4)

22. ゼミ共同の研究・調査(5)
23. ゼミ共同の研究・調査(6)
24. ゼミ共同の研究・調査(7)
25. ゼミ報告集のまとめ(1)
26. ゼミ報告集のまとめ(2)
27. ゼミ報告集のまとめ(3)
28. ゼミ報告集のまとめ(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの講読においては、報告者、討議者、司会などの役割をゼミ生が順次担当する。活発な討議を通じ理解を深めるために、事前の予習を十分にしておくこと。秋学期のグループ研究では、図書や文献資料を自ら調べたり、大学外のフィールドに積極的に出て調査したりすることを推奨する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加の積極性(40%)/授業期間内の複数レポート(30%)/最終レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

未定。授業の最初にゼミ生と相談して決める。

参考文献(Readings)

授業の中で適宜紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA386／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	教育社会学(sociology of education)		
担当者名 (Instructor)	中澤 渉(NAKAZAWA WATARU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

教育や階層に関する文献講読を通じて、教育の問題を、単なる体験談や感情論ではなく、論理的かつ科学的に取り上げ、分析する力を身につける。

The aim of this course is to develop an understanding of the issues related to education with a logical and sociological point of view by reading literature on sociology of education and social stratification.

授業の内容 (Course Contents)

どの国にも学校教育システムは存在し、ほとんどの子どもは学校に通う。高等教育への進学率は上昇し、今や中等教育学歴はほぼ必須要件となり、高等教育を終えることは、それによって利益をえるというよりは、むしろ就職のための必要条件となりつつある。つまり現代社会は、学校の影響力が社会の隅々にまで浸透した学校化社会である。

しかし一方で、個人の支払う教育費は高騰し、多くの家計を苦しめている。学校教育に対する不信感も強まっている。当たり前の存在と化している学校が、社会的な意義を根本から問われるという逆説的な時代にある。この演習では、困難な時代にある教育について、社会学的な考察を行いたい。

春学期では、教員の指定した文献を講読し、社会学的な基礎力を養う。ゼミ員をいくつかのグループで分けて、グループごとにその文献を発表し、議論してもらう。

秋学期では、学生の関心に基づき、特定の教育問題についてグループのメンバーと調べ学習をしたり、研究の進捗状況について報告してもらう。量的な分析を行って研究を行いたい場合は、あらかじめ関連する社会調査法の授業を履修しておくこと。秋学期の作業の総まとめとして、報告書を執筆してもらう。

Every nation has its own formal educational system, and most children attend school. The advancement rate to higher education is now increasing. This implies that completing secondary education is an essential requirement for social life. A college degree is no longer just a requirement for earning a higher salary or acquiring a higher occupational status or just a prerequisite for employment. The contemporary society can now be regarded as a "schooled society."

On the other hand, many households suffer because of the rising tuition fees for higher education. Many people have distrust in school.

Paradoxically, while it is considered natural to attend school, schools are fundamentally questioned for their value and role in our society.

In this course, we attempt to comprehend these difficult contemporary educational issues from a sociological point of view.

During the spring semester, members have to read literature that has been specified by the professor in advance. Groups are made and each group has to make a presentation regarding the literature.

During the autumn semester, members are assigned to groups depending on their interests. Students have to work with their group members to write a final paper. To complete the paper, they have to collect documents, interview informants, and analyze quantitative data. I recommend that students should take courses related to designing social survey and statistics in advance, if they plan to analyze quantitative data.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 教科書第2章
3. 教科書第3章
4. 教科書第4章
5. 教科書第5章
6. 教科書第6章
7. 教科書第7章
8. 教科書第8章
9. 教科書第9章
10. 教科書第10章
11. 教科書第11章

12. 教科書第 12 章
13. 教科書第 13 章
14. 教科書第 14 章
15. 後期のガイダンス、及び後期のテーマ決め
16. 研究テーマの文献講読 1
17. 研究テーマの文献講読 2
18. 研究テーマの文献講読 3
19. 研究テーマの文献講読 4
20. 研究テーマの文献講読 5
21. 研究テーマの文献講読 6
22. グループごとの研究発表 1
23. グループごとの研究発表 2
24. 個人研究発表 1
25. 個人研究発表 2
26. 個人研究発表 3
27. 個人研究発表 4
28. 個人研究発表 5

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

文献講読の発表, ならびに後期の作業の発表は, グループごとに責任をもって, やってもらいます。したがって, 授業時間以外の作業や準備が不可欠となります。

成績評価方法・基準(Evaluation)

プレゼン(40%)/報告書(40%)/ディスカッションへの参加などゼミ運営への貢献(20%)

報告書は、最終レポート(卒論に向けての個人テーマ)と、各グループで共同研究したものの両方を含みます。

テキスト(Textbooks)

1. 中村高康・松岡亮二、2021、『現場で使える教育社会学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623092604)

参考文献(Readings)

1. 中澤 渉、2018、『日本の公教育』、中央公論新社 (ISBN:9784121024770)
2. 中澤 渉、2021、『学校の役割ってなんだろう』、筑摩書房 (ISBN:9784480684080)
3. 片山悠樹ほか、2017、『半径 5 メートルからの教育社会学 (大学生の学びをつくる)』、大月書店 (ISBN:9784272412389)
4. 酒井朗ほか、2012、『よくわかる教育社会学 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623062935)
5. 近藤博之・岩井八郎、2015、『教育の社会学』、放送大学教育振興会 (ISBN:9784595315374)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

ゼミでは基本的に紙の資料(レジュメ)配布はしません。資料は、教員の作成した slack もしくは blackboard の掲示板(Canvas LMS のディスカッション)にアップロードし、各自それを閲覧するようにします。ですので、パソコンなど、資料を見られるようなメディア媒体を授業に必ず持参してください。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA387／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日常生活の社会学		
担当者名 (Instructor)	前田 泰樹(MAEDA HIROKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

私たちは、日常生活において、さまざまな方法を用いて、自らや互いの行為や経験を理解している。こうした日常のコミュニケーションやケアの実践において用いられる「人びとの方法(論)」について考察する。日常生活から社会問題にいたるまでの実践の論理を、私たちが参加している問題として分析する力の習得を目指す。

We understand our actions and experiences using various methods in our everyday lives. We will consider the "member's methods" used in the practices of daily communication and care. The aim of this class is to acquire the ability to analyze the methods in everyday life or within social problems.

授業の内容(Course Contents)

私たちは、日常生活から始まって病いの経験やケアの実践などにいたるまで、何らかの方法を用いて自らや互いの経験や行為を理解し、さまざまな社会生活を営んでいる。このゼミでは、私たちが社会生活を営むさいに実際に用いている方法(論)について、社会学的に考察する。コミュニケーション論や、アイデンティティ論、ケア論、健康と病いの社会学、感情や記憶の社会学など、関連する領域の先行研究を理解しつつ、自らの問いを設定する能力を身につける。同時に、自らの問いを具体的な現象の中に位置づけ、エスノメソドロジーなどの質的研究を中心とした考え方のもとで分析する能力を身につける。そのために、前半は、テキスト講読や課題・データセッションなどを通じて、各自の問題関心と分析力を練り上げる。後半は、各人の研究構想も踏まえながら経験的研究を行い、成果をまとめていく。こうした作業をもとに、4年次の卒業論文作成へ向けて、知的体力を習得する。

We understand our actions and experiences, using various methods in our daily lives. In this seminar, we will consider the methods and methodology we actually use in our everyday lives. Participants are required to acquire the ability to set up their own questions while understanding previous research in related fields, such as communication studies, identity studies, sociology of health and illness, and sociology of emotion etc. They are also required to acquire the ability to analyze the data of specific phenomena using the methods of qualitative research, such as ethnomethodology. In the first half, participants will set up their own interests by reading previous papers and analyzing data in tutorial. In the second half, according to the research interest of each participant, we will conduct empirical research. Based on these tasks, participants will acquire the ability to research for their graduation theses.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション, 各人問題関心について報告
2. 日常生活の社会学概説, ゼミ運営方法の確認
3. テキスト報告・討論・分析課題練習1
4. テキスト報告・討論・分析課題練習2
5. テキスト報告・討論・分析課題練習3
6. テキスト報告・討論・分析課題練習4
7. テキスト報告・討論・分析課題練習5
8. テキスト報告・討論・分析課題練習6
9. テキスト報告・討論・分析課題練習7
10. テキスト報告・討論・分析課題練習8
11. テキスト報告・討論・分析課題練習9
12. テキスト報告・討論・分析課題練習10
13. 研究テーマ構想報告1
14. 研究テーマ構想報告2
15. 研究テーマ修正報告
16. 研究計画発表1
17. 研究計画発表2
18. 研究計画発表3
19. 研究関連文献発表1
20. 研究関連文献発表2

21. 研究関連文献発表3
22. 研究中間報告1
23. 研究中間報告2
24. 研究中間報告3
25. 研究結果発表1
26. 研究結果発表2
27. 研究結果発表3
28. 総括討論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの講読においては、報告者、討論者などの役割を担当するために、十分な予習が必要である。また、分析課題練習については、十分な復習が必要である。ゼミ論文の執筆においては、フィールドワークや資料収集、グループワークなど、授業時間外の活動が求められる。また、ゼミの授業時間は、作業内容に応じて、延長することがあるので、そのつもりで予定していただきたい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

ゼミにおける発表及び活動状況の評価(50%)/最終レポート及び提出課題の評価(50%)

テキスト(Textbooks)

1. 前田泰樹他編、2007、『ワードマップ エスノメソドロジー——人びとの実践から学ぶ』、新曜社 (ISBN:4788510626)
- 適宜提示します。

参考文献(Readings)

1. 串田秀也他、2017、『会話分析入門』、勁草書房 (ISBN:4326602961)
 2. 筒井淳也・前田泰樹、2017、『社会学入門——社会とのかかわりかた』、有斐閣 (ISBN:464115046X)
 3. 前田泰樹・西村ユミ、2020、『急性期病院のエスノグラフィー——協働実践としての看護』、新曜社 (ISBN:9784788516816)
 4. 前田泰樹・西村ユミ、2018、『遺伝学の知識と病いの語り——遺伝性疾患をこえて生きる』、ナカニシヤ出版 (ISBN:4779512913)
 5. 水川喜文他編、2017、『ワークプレイス・スタディーズ——はたらくことのエスノメソドロジー』、ハーベスト社 (ISBN:4863390831)
 6. 酒井泰斗他編、2016、『概念分析の社会学 2——実践の社会的論理』、ナカニシヤ出版 (ISBN:4779510147)
- 適宜提示します。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA388／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アフターコロナのコミュニティ再考		
担当者名 (Instructor)	西山 志保(NISHIYAMA SHIHO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

急速なグローバル化に伴い、コミュニティという「場」において、社会問題が生み出されるメカニズム、コミュニティ形成の動きなどに注目し、国際比較の視点を取り入れながら、理論と実践によって分析することを目指す。特にアフターコロナにおけるコミュニティの変容について、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等への積極的参加が求められる。

Students will focus on mechanisms with which social issues on development of community, where daily lives are conducted. Students will make comparisons across countries' borders when analyzing these theoretically and practically. Students must participate actively in group works, discussions, and presentations about community change after COVID-19. .

授業の内容(Course Contents)

様々な社会問題が発生している「コミュニティ」に注目し、グローバルな動きとローカルな動きの中で、コミュニティが直面している問題状況を整理する。それに対してどのような解決方法があるのか、市民、自治体の役割は何か検討し、分析する手法を学ぶ。プロジェクトベースでのチーム作業も導入する。コミュニティをめぐる諸理論を学び、問題について深く考える視点を身につけることを目指す。前半では、ゼミのメンバーがテキストの講読、報告を行い、論点について議論する。後半では、各自の問題意識に基づき、報告書の作成やヒアリングの方法を学ぶ。卒業論文作成に向けて問題意識の形成、課題の設定を行う。

Students will focus on the topics of communities caused by various social issues following rapid globalization, organizing actualities of issues facing communities amidst global and local movements. Students will then learn how to discuss and analyze solutions for these issues, while understanding roles of citizens and local governments. Students will learn various theories about communities. They will gain perspective to think about these questions deeply. In the first half, students will read textbooks, reports, and discuss about these topics. In the second half, depending on their issue awareness, students will create reports and learn interview methods. Students will form their issue awareness and choose their subjects as preparation for their graduation theses.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス、目標設定
2. アフターコロナ時代におけるコミュニティの諸問題
3. コミュニティをめぐる諸理論
4. 文献講読①
5. 文献講読②
6. 文献講読③
7. 文献講読④
8. 文献講読⑤
9. グループディスカッション①
10. グループディスカッション②
11. グループディスカッション③
12. グループディスカッション④
13. 春学期全体討論
14. 春学期のまとめ
15. ガイダンス、目標設定
16. コミュニティの形成主体
17. 文献講読①
18. 文献講読②
19. 文献講読③
20. 文献講読④
21. 文献講読⑤
22. 各自報告①
23. 各自報告②

24. 各自報告③
25. 各自報告④
26. 各自報告⑤
27. 秋学期全体討論
28. 報告書に向けての報告会

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

コミュニティをめぐる諸問題について文献リストを提供するので、事前に予習をしてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/リアクションペーパー(20%)/演習での発言(20%)/演習内での報告(20%)

3分の2以上出席していない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト(Textbooks)

演習内で適宜指示する。

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA389／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	家族と親密な関係の社会学(The sociology of families and intimate relationships)		
担当者名 (Instructor)	本多 真隆(HONDA MASATAKA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

家族および親密な関係に関する文献講読を通じて、これらの問題を、政治、社会、歴史的視点を踏まえて客観的に考える力を身につける。

Through a review of the literature and research on families and intimate relationships, students will acquire the ability to think objectively about these issues from political, social, and historical perspectives.

授業の内容(Course Contents)

家族や親密な関係の問題は、身近で個人的な問題と考えられやすい。しかしそれらは時代や社会のあり方によって大きく変わる。近年注目を集めている少子化や未婚化などの家族をめぐる状況の変化は、諸個人の選択の結果でもあるが、その背景にはグローバル化に伴う戦後日本の社会構造の変容も大きく関わっている。

本ゼミではこうした家族および親密な関係に関する問題について、社会的、歴史的背景を踏まえながら、構造的に把握することを目指す。

春学期は、文献講読およびディスカッションを通して基礎力を養う。文献は、家族問題に関する文献だけでなく、身近な問題を考えるための社会学理論や、政治、経済、歴史、文化に関する著作など、幅広く選択する。

秋学期からは、各人それぞれの関心にもとづき、調査報告書を作成してもらう。研究報告とディスカッションは、各人のテーマがそれぞれどのように関わっているかということについても考える機会とする。

Family and intimate relationship issues are often considered personal problems. However, they change dramatically with time and social structure.

In recent years, family issues such as declining birthrates and unmarried couples have attracted much attention. These issues are not only the result of individual choices, but also have a great deal to do with the transformation of postwar Japan's social structure in the wake of globalization.

This seminar aims to provide a structural understanding of these family and intimate relationship issues, taking into account the social and historical background.

In the spring semester, students will develop basic skills through a review of the relevant literature and discussion. Literature will be selected from a wide range of sources, including not only literature on family issues, but also sociological theories, and political, economic, historical, and cultural works on intimate relationships.

From the fall semester, each student will prepare a research report based on his/her own interests. The research report and discussion will also provide an opportunity to reflect on how each student's theme relates to those of the other students.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期ガイダンス
2. 文献講読とディスカッション 1
3. 文献講読とディスカッション 2
4. 文献講読とディスカッション 3
5. 文献講読とディスカッション 4
6. 文献講読とディスカッション 5
7. 文献講読とディスカッション 6
8. 文献講読とディスカッション 7
9. 文献講読とディスカッション 8
10. 文献講読とディスカッション 9
11. 文献講読とディスカッション 10
12. 文献講読とディスカッション 11
13. 夏休み課題決定 1
14. 夏休み課題決定 2
15. 秋学期ガイダンス
16. 先行研究の検討 1

17. 先行研究の検討 2
18. 研究方法の検討 1
19. 研究方法の検討 2
20. 研究方法の検討 3
21. 個人研究中間報告 1
22. 個人研究中間報告 2
23. 構成の再検討 1
24. 構成の再検討 2
25. 個人研究最終報告 1
26. 個人研究最終報告 2
27. 個人研究最終報告 3
28. 総括討論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の報告および最終報告書の作成は、授業時間外も含めた入念な準備のもとに責任をもって作成してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

プレゼンおよびディスカッション(50%)/報告書の達成水準(50%)

テキスト(Textbooks)

使用する文献については、受講生の関心にあわせて開講後に決定する。

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA390／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ジェンダー・セクシュアリティの社会学		
担当者名 (Instructor)	鶴田 幸恵(TSURUTA SACHIE) 熱田 敬子(ATSUTA KEIKO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

私たちは、日常生活において、性別二元制のなかで生活している。それにかかわる、ジェンダー、セクシュアリティに関する問題について考察する。性別二元制やヘテロノーマティヴィティ、またインターセクショナルリティを分析的にとらえられるようにすることを目指す。

We live in a gender-binary world. We will consider issues like this and others regarding gender and sexuality. The aim of this class is to acquire the ability to think analytically about gender binary, heteronormativity, and intersectionality.

授業の内容 (Course Contents)

私たちは、女か男かそうではないものとして、女らしさや男らしさやどちらでもなさをも身に付け、社会生活を営んでいる。このゼミでは、そうした私たちが社会生活を営む際に用いている、ジェンダーやセクシュアリティに関する考え方について、社会的に考察する。ジェンダー論、セクシュアリティ論、トランスジェンダー論などの先行研究を理解しつつ、自らの問いを設定する能力を身に付け、自らが設定した問いで、質的調査を行い、それを分析する能力を身に付ける。そのために、前半は、テキスト講読に基づく議論や、自らの経験の記述を通じて、分析力を練り上げる。後半は、経験的研究を行い、成果をまとめていく。それらをもとに、卒業論文制作の基礎を習得する。

We may live as women, men, nonbinary, or others and live with femininity, masculinity, and otherness. We will gain insight into how we live in these ways through understanding previous research in fields such as gender studies, sexuality studies, transgender studies, and so on. Students are required to understand the studies and to analyze the data of specific phenomena using the methods of qualitative research. In the first half, students will read published papers and analyze their own experiences. In the second half, students will conduct empirical research according to the research interest of each student. Based on these tasks, students will acquire the ability to successfully accomplish the required research for their dissertation.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション, 各人問題関心について報告
2. 概説, ゼミ運営方法の確認
3. テキスト報告・討論1
4. テキスト報告・討論2
5. テキスト報告・討論3
6. テキスト報告・討論4
7. テキスト報告・討論5
8. テキスト報告・討論6
9. テキスト報告・討論7
10. テキスト報告・討論8
11. テキスト報告・討論9
12. 研究テーマ構想報告1
13. 研究テーマ構想報告2
14. 研究テーマ構想報告3
15. 研究テーマ修正報告
16. 研究計画発表1
17. 研究計画発表2
18. 研究計画発表3
19. 研究関連文献発表1
20. 研究関連文献発表2
21. 研究関連文献発表3
22. 研究中間報告1
23. 研究中間報告2
24. 研究中間報告3

25. 研究結果発表1
26. 研究結果発表2
27. 研究結果発表3
28. 総括討論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの講読においては、十分な予習が必要である。ゼミ論文の執筆においては、フィールドワークや資料収集、グループワークなど、授業時間外の活動が求められる。また、ゼミの授業時間は、作業内容に応じて、延長することがある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

ゼミにおける発表及び活動状況の評価(50%)/最終レポート及び提出課題の評価(50%)

テキスト(Textbooks)

適宜提示します。

参考文献(Readings)

1. 加藤秀一、2017、『はじめてのジェンダー論』、有斐閣 (ISBN:4641150397)
2. 江原由美子、2021、『ジェンダー秩序 新装版』、勁草書房 (ISBN:4326654317)
3. 木村涼子・熊安貴美江・伊田久美子、2013、『よくわかるジェンダー・スタディーズ: 人文社会科学から自然科学まで』、ミネルヴァ書房 (ISBN:4623065162)

適宜提示します。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA413／データ対話型分析法 (Grounded Theory Approach)		
担当者名 (Instructor)	竹下 浩(TAKESHITA HIROSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

インタビュー等で収集した質的データに基づいて社会的相互作用のプロセスを説明・予測する理論を生成するデータ対話型分析法(Grounded Theory Approach / GTA)について学ぶ。

Students learn about the data-interactive research method (Grounded Theory Approach / GTA) for generating a theory that explains and predicts the social interaction process, based on qualitative data collected through interviews, etc.

授業の内容(Course Contents)

自然科学的な手法では解明できない社会的現象とは何か？どうすれば科学的に分析できるか。GTA は、この問いに対する有力な回答である。しかし、やり方を知るだけでは効果的分析はできない。前半でアメリカ社会学の源流(哲学)と支流(社会心理学)を理解し、後半の実習(履修者数により変更する場合がある)に進む。

What kinds of social phenomena cannot be clarified by methods of natural science, and how we can analyze it scientifically? GTA is a powerful answer to this question. Yet, knowing how is not enough for effective analysis. In the first half, students will understand the origins (philosophy) and tributaries (social psychology) of American sociology, and proceed to practical training in the second half (subject to change depending on the number of students).

授業計画(Course Schedule)

1. アメリカ社会学の源流:プラグマティズム
2. 支流:「構造・システム」に対する「記号的相互作用」
3. 社会学系社会心理学:「横断的分析」に対する「プロセス分析」
4. 科学的な質的分析を可能にする:因子分析とコーディング
5. 領域密着理論(GT)とは:終末期ケア GT
6. 修正版 GTA(M-GTA):ケア職の問題解決を可能に:老夫老妻ケア GT
7. GTA の継承と拡張:実践が分析目的・分析手順の明示・理論要件の緩和
8. M-GTA の分析実習①(分析テーマと分析焦点者を設定する)
9. M-GTA の分析実習②(逐語記録から分析ワークシートを作成する)
10. M-GTA の分析実習③(結果図と概念リストを作成、修正していく)
11. M-GTA の分析実習④(論文にまとめる)
12. M-GTA の分析実習⑤(現場で応用する)
13. 研究者が用いる場合の基準を考えよう
14. アクションリサーチ(AR)との統合

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

指定された文献は必ず読んでくること。欠席すると以後の理解が困難になるので注意のこと。

Be sure to read the assigned literature before the class. If you miss any class, you will find difficulties for understanding later classes.

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)/授業内課題 In-class assignment(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 竹下 浩、2020、『精神・発達・視覚障害者の就労スキルをどう開発するか』、遠見書房 (ISBN:978-4-86616-110-5)

参考文献(Readings)

1. 木下康仁、2007、『ライブ講義 M-GTA:実践的質的研究法』、弘文堂 (ISBN:978-4-335-55110-9)
- 必要に応じて配布・紹介する。Distribute and introduce as necessary.

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA417／社会運動論 (Social Movements)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会や文化の変革と社会運動		
担当者名 (Instructor)	二階堂 晃祐(NIKAIDO KOSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

社会は何らかの形で変わっていく、という事自体に異論を挟む人は少ないだろう。しかし、具体的には誰がいつ、どのようにして変えようとし、結果的には社会全体がどのように影響を受けるのか、等と訊かれれば、明確に意識した事がない人も多いのではないだろうか。社会運動を調査、研究、分析の対象とする、という事は社会や文化の変化を意識する上で、一つ有効な手段である。当授業では社会運動を学習、考察するための考え方を紹介する事で、履修者に社会の変化の可能性やその限界について明確、具体的に思考する術を身につけてもらえるよう期待している。また、社会学ならではの社会運動への取り組み方を学ぶ事で、結果的には分野としての社会学の特徴を明確に把握する事も副次的な目標である。

Few people would likely challenge the notion that society in some way keeps changing, at least at the level of a rather vague sensibility. Yet most people could find it hard to answer if pressed on matters as who specifically instigates social change, when and how, and what is the nature of impact of such activity on the broader society. In fact, many people probably would not have even been aware that such question might be asked. The instructor regards that the study, investigation and analysis of social movements constitutes a useful component of a good liberal arts education because it enables students to develop one possible analytical tool through which one may be strongly aware of the changes in society and culture. In this course, by introducing the methods for researching on and analyzing social movements, it is hoped that students would develop a habit of thinking clearly and concretely about both the possibilities of, as well as limitations on, social change. Further, a secondary goal of this course is to enable students to develop a clear understanding of some of the major key characteristics of the field of sociology, by taking up the study of social movements as a matter of an exemplar.

授業の内容(Course Contents)

講義が中心。ただし履修人数にもよるが、討論／ディスカッション等の機会も設けたい。なお社会運動論は社会学の中では比較的まとまりが良く、範囲がしっかりと定義されている分野の一つである。当授業でも取り上げるテーマの多くはこの意味で、暗黙の了解がある範囲内から取られている。一方では、文化の社会学、構造と実践の関係等、より広い意味で社会学全般に関係する話題も含める予定。

Mainly lectures, with a couple of discussion sessions – although whether this is feasible or not would depend on the number of students. By the way, within sociology the study of social movements is a relatively well-defined field, compared to many other subject matters. In this sense, most of the topics covered in this class are taken from within the scope of this implicit understanding.

On the other hand, I will talk about topics related to sociology in general, such as sociology of culture, and relations between structure and practice.

授業計画(Course Schedule)

1. 社会運動の定義と概念、学習する理由：広い見方と狭い見方、国や時代により異なる認識を持たれてきた社会運動、社会運動の重要性。
2. 社会学における「主流な」社会運動論概要。
3. 世の中の「大きな」流れと社会運動論：19世紀以降のマクロ的な歴史的経過や社会の構造的特徴と社会運動の関係、学問の分野としての社会学の変遷と社会運動論の関係。
4. 社会運動の登場と発生：どうして社会運動が発生するのか、誰が参加するのか？社会運動への参加を規定する要因は何か？
5. 社会運動の実践考察(1)：事例としての日本と世界のフェミニズム運動とその幅広い社会的影響。また、現在におけるフェミニズム運動の「閉塞感」と新たな課題について。
6. 社会運動の共鳴力：フレーム理論、文化の発信体としての運動、集合アイデンティティ論。
7. 運動の組織とネットワーク：資源動員に於ける組織の重要性、社会運動論に於ける組織論の位置づけ、運動のネットワーク分析の発展について。
8. 社会運動におけるリーダーの役割：社会運動論におけるリーダーの役割の考え方、リーダーの影響力とその限界、リーダーのスタイルの違い、カリスマ論と社会運動論の関係。
9. 社会運動の影響力と結果：社会運動は文化や社会の変革に貢献したと言えるのだろうか？もしそうなら、その影響力は測

定出来るのだろうか？

10. 社会運動とメディア:近代メディアの仕組みや構造とその運動への影響、メディアを活用する運動とその方法や戦略。
11. 社会や文化の構造と変化について:社会科学で言う文化とは何か、社会とは何か?文化や社会は安定しているのか、いないのか?変化するとすれば、誰がどのようにして変えるのか?社会学は社会の変化は難しいと考えるのか、容易と考えるのか?社会や文化の変化における運動の位置づけはどう考えるべきなのか?
12. 社会運動の実証研究:研究対象としての社会運動(理論は別にした場合の調査対象としての社会運動)、理論と実証のつながり、社会学の共通要素と運動研究特有の事情。
13. 社会運動の実践考察(2):どうして世界では新たな形式の右翼的、民族主義的、あるいは反動的な動きが多く見られるのか?社会運動の視点から見るアメリカ大統領選挙と共和党政権の過激化、等
14. まとめと主要テーマ再考察

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

履修者の数やこれまでの授業の履修経験にもよるが、ある程度の読み物の指定を行う予定。平常点の一環として、原則出席票/コメントカードは毎回回収する予定。なお、数回の授業ではより充実した内容を期待する小論文形式のコメントカード、もしくはミニテストを含める計画なのに留意。より重要な留意点として、期末試験時には相当量の復習が求められる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)/コメントカード兼出席票(20%)/授業内に指示した提出物(20%)
欠席回数が5回以上でD評価となる。

テキスト(Textbooks)

後日プリントもしくは授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)上でのダウンロードとして用意。

参考文献(Readings)

1. ニック・クロスリー、2009、『社会運動とは何か～理論の源流から反グローバリズム運動まで』、新泉社 (ISBN:9784787709103)
2. 田中優子、2014、『そろそろ社会運動の話しよう 他人事から自分事へ。社会を変えるための実践論』、明石書店 (ISBN:9784750340838)
3. 大畑裕嗣、2004、『社会運動の社会学』、有斐閣選書 (ISBN:9784641280922)
4. 北原みのり、2017、『日本のフェミニズム』、河出書房新社 (ISBN:9784309248370)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

現在、21世紀半ばでの世の中の動き、特に政治や社会問題に関しての動きはとても早い。新たな社会運動とか抗議活動、政治運動などの台頭も例外ではない。スケジュールは基本的なひな形として用意しているのだが、実際には例えばだが、学期中に重要、あるいは注目を集める政治の動きなどの事例があれば、運動論の観点から柔軟に取り上げていきたいと考えている。これも念頭に置き、現在のところ2回を実例紹介のために確保している。ただ、場合によってはこの構成も多少変更する事はあるかもしれない。もちろん、これらは定義上、シラバス作成時(1月中旬)においてはまだどうなっているか分からないことではある。2023年度は、新型コロナウイルス問題は一段落しそうな空気感も世界ではあるが、一方ではロシアとウクライナの戦争、アメリカ大統領選挙の前哨戦など、注意したい時事問題自体は多い。これにまつわる社会的、政治的対立も激しくなっていくことはありうるだろう。近年はほぼ毎年がそうなのだが、「社会運動」をテーマとする授業にとっては刺激のある年になる予感がある。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA419／社会学理論 (Sociological Theory)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「自由」と「成熟」の社会学理論		
担当者名 (Instructor)	片上 平二郎(KATAKAMI HEIJIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「自由」と「成熟」という概念を中心に、現代社会をとらえる方法について考えていく。

This course explores the relationship between sociological thinking and cultural critique. Central to this year is inquiry into the concepts "mature" and "freedom."

授業の内容 (Course Contents)

社会学理論とは、抽象的な論理を用いることで、目に見えない社会の構造やその中での社会事象のあり方を描き出すものである。だが、批判的 sociology と呼ばれる思想系列はそれに留まらず、理論という道具によって、いまだありえない社会の可能性を積極的に描き出すことの必要性を主張し、その際に美的なものや文化的なものの潜在的な可能性を論じている。本講義では、このような批判理論的視座に基づいて、「文化」というものが持つ社会的可能性について考察していきたい。

本年度は、「自由」と「成熟」という概念を中心に置き、社会学理論を用いて現代社会をとらえる方法について考えていく。現代は「自由」という原理が社会全域に波及し、「成熟」に至った時代であると語られることもある。だが、他方で、サブカルチャーの浸透や消費社会の拡大に従い、個々の人生は「未成熟」なままに留まってしまっているとも語られる。このような時代状況の中で、「成熟」と「自由」の関係について考えてみたい。

その際に、シラバス執筆時の時点では、いまだ今後の予測が付かない状態にある「コロナ禍の社会」という「現実」を社会学理論の視点から考えていくことも意識しておきたい。学知はしばしば「何かが終わった後」にそれを分析するという方法をとるが、社会学という学問は、「社会をその内側から考えていかざるを得ない」という宿命を背負ったものでもある。状況に埋め込まれた「内部観察」を行いながら、「社会学理論」的な考察の「実践」的性格を感じて欲しい。

The concepts "mature" and "freedom" has many meanings. In this course, we focus on this polysemy and learn how to sociologically analyze everyday experiences.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション ——「自由」な社会の「未成熟」な生——
2. 成熟と喪失、平和とサブカルチャー
3. 文化産業の時代における自律
4. 単身者たちの都市空間
5. 早熟と未熟の間の教養
6. 成長という神話とその限界
7. 自己嫌悪と自己羞恥
8. 自己表現と暴力性
9. 可能性の空間としての社会
10. 「私」というテクノロジー
11. 「承認」という問題圏
12. 「自由な社会」と「平等な社会」
13. 「近代」の外側の視点
14. 「高原の社会」での「単なる生」

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業の内容を、自分の日常の中で考え直すことを意識してみてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%) / リアクションペーパー(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 見田宗介、2006、『社会学入門 人間と社会の未来』、岩波新書 (ISBN:4004310091)
2. T.W.アドルノ M.ホルクハイマー、2007、『啓蒙の弁証法 哲学的断想』、岩波文庫 (ISBN:4003369211)
3. 宮台真司、2000、『まぼろしの郊外 成熟社会を生きる若者たちの行方』、朝日文庫 (ISBN:4022612908)
4. 上野千鶴子、1992、『<私> 探しゲーム — 欲望私民社会論』、ちくま学芸文庫 (ISBN:4480080058)
5. 大澤真幸、2008、『不可能性の時代』、岩波新書 (ISBN:4004311225)
6. 斎藤環、2022、『「自傷的自己愛」の精神分析』、角川新書 (B0BN9MWLTJ)
7. G.アガンベン、2016、『身体の使用——脱構成的可能態の理論のために』、みすず書房 (ISBN:462207964X)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA432／計量社会学 (Metric Sociology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代日本における格差や不平等について考える		
担当者名 (Instructor)	歸山 亜紀(KAERIYAMA AKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代社会の大きな課題である格差や不平等についての基本的知識を獲得する。

＜学生の到達目標＞

- ・格差や不平等にまつわる専門的な用語を正しく説明できる
- ・計量社会学の方法について理解できる
- ・計量社会学の成果を読むことができる

Students will acquire basic knowledge about social gap and inequality, both of which are substantial topics in modern society.

＜Students' goals＞

- ・Explain correctly terminologies such as equality or inequality of opportunity and result, inter-generational mobility.
- ・Students can understand the relationship between society and business
- ・Able to read metric sociology findings.

授業の内容(Course Contents)

そもそも「格差」「格差社会」「不平等」って何だろうか？

日本社会の格差のあり方はどの程度なのか？

以前の日本社会と比べるとそれは大きくなっているのだろうか？

格差のあり方はどの程度ならよいのか？ 今後はどうなるのか？

このようなことを、労働、教育、家族、貧困、健康などに着目した計量社会学の成果に基づいて考える。

What are social gap, inequal society, and inequality?

How severe is social gap in Japanese society?

Does it aggravate compare to previous Japanese society?

How large should the gap be? What is the future trend?

Students will think about these based on metric sociology findings.

授業計画(Course Schedule)

1. 【ガイダンス】
 - ・授業目標、到達目標の確認
 - ・授業の進め方の説明
2. 【結果と機会の不平等】
 - ・「何に関する」格差か
 - ・「誰と誰の間の格差」か
 - ・結果の平等／不平等とはなにか
 - ・機会の平等／不平等とはなにか
 - ・近代社会と機会の平等
 - ・社会階層という概念
 - ・出身階層と到達階層
 - ・社会移動(世代間移動と世代内移動)
3. 【格差は拡大しているのか①】
 - ・基幹統計データと学術調査データ
 - ・所得格差は拡大しているのか
 - ・平均値、中央値、分位数、ジニ係数
4. 【格差は拡大しているのか②】
 - ・基幹統計データと学術調査データ
 - ・所得格差は拡大しているのか
 - ・平均値、中央値、分位数、ジニ係数
5. 【貧困と生活保護】

- ・ラウンダリー調査
- ・絶対的貧困と相対的貧困
- ・生活保護の保護基準
- 6. 【相対的貧困】
 - ・タウンゼント調査
 - ・等価可処分所得、貧困線
 - ・社会的排除と社会的包摂
- 7. 【非正規雇用】
 - ・正規雇用と非正規雇用
 - ・非正規雇用とはどのような働きかたか
 - ・非正規雇用の何が問題か
- 8. 【健康／病気の社会的格差】
 - ・社会階層と健康
 - ・健康格差
- 9. 【社会階層と階級】
 - ・マルクスの階級論(両極分解論、絶対窮乏化論、資本家階級と労働者階級)
 - ・社会階層という概念について
 - ・職業階層(職業分類)
- 10. 【世代間移動】
 - ・世代間移動はどれくらい起こっているのか
 - ・世代間移動をどのように測るのか
 - ・世代間移動表(全体移動、構造移動、純粋移動)
 - ・流出再生産率、流入再生産率、オッズ比、対数オッズ比
- 11. 【学歴社会】
 - ・学歴社会とは
 - ・いまの日本社会は学歴社会か
- 12. 【教育と機会の不平等①】
 - ・階層移動における学歴の役割
 - ・説明理論
- 13. 【教育と機会の不平等②】
 - ・階層移動における学歴の役割
 - ・説明理論
- 14. 【まとめ】

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・日頃から新聞やニュースをよく見ることを習慣としてください。
- ・各回の授業内で指示する参考文献や配布資料を事前に読んでから参加してください。
- ・そのほか、必要に応じて授業内で別途指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(85%)/リアクションペーパー(15%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 平沢和司、2021、『格差の社会学入門:学歴と階層から考える(第2版)』、北海道大学出版会
2. 中村高康ほか編、2018、『教育と社会階層:ESSM 全国調査からみた学歴・学校・格差』、東京大学出版会
3. 筒井淳也ほか編、2015、『計量社会学入門:社会をデータで読む』、世界思想社
4. 松岡亮二、2019、『教育格差:階層・地域・学歴』、ちくま新書

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA434／社会学史 (History of Sociology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会学の歴史とその特徴を理解する		
担当者名 (Instructor)	出口 剛司(DEGUCHI TAKESHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

社会学を学ぶ人に必要とされる社会学の「理論と歴史」を学修します。社会学の対象とする領域は広いので、社会学部で学んでも、社会学の特徴や全体像を理解するのは難しいかもしれません。本授業では**社会学の歴史的な歩みを分かりやすく解説し**、他の社会科学とは異なる**社会学の特徴**を明らかにします。

Students will learn sociology theories and histories required for sociology students. Since sociology targets wide area, students may not understand entire picture and characteristics of sociology even if they study in College of Sociology. In this class, professor will explain sociology historical timeline in easy-to-understand way, while clarifying differences among sociology characteristics and those of other social sciences.

授業の内容 (Course Contents)

「抽象的な理論が苦手」という人にも楽しく授業に参加できるように、それぞれの**社会学者が生きた時代やその背景を振り返り**ながら、彼らの学説のエッセンスを解説していきます。後半は、社会学の理論が**現代社会を理解する上でどのように役立つか**という観点を重視しながら、理論の応用をめざします。

Students will review sociology scholars' eras and contexts while professor explains essences of their theories. Even students who shun abstract theories will enjoy this class. In the second half, students will focus on applications of sociology theories in understanding of modern society and practicing these theories.

授業計画 (Course Schedule)

1. **＜社会学的思考の形成と発展＞**
〈社会的なるもの〉の生成と社会学の誕生
ー学祖・A. コントの社会学構想に学ぶ
2. 私を超えた〈きずな〉を社会学する
ー方法論的集合主義とデュルケム
3. 働く私のモチベーション
ー方法論的個人主義とヴェーバー
4. 不透明な搾取を可視化する
ーマルクスと社会批判の系譜
5. 知識の正しさはどのように保証されるのか
ーファシズムと相対主義を考える
6. 中間考察(1)
7. 社会というシステムを構築する(1)
ーパーソンズと機能主義の社会学(前編)
8. 社会というシステムを構築する(2)
ーパーソンズと機能主義の社会学(後編)
9. 揺らぐリアリティのその成り立ち(1)
ーミクロ社会学と〈意味〉へのまなざし(前編)
10. 揺らぐリアリティのその成り立ち(2)
ーミクロ社会学と〈意味〉へのまなざし(後編)
11. 中間考察(2)
12. **＜現代社会批判としての社会学＞**
グローバル化とリスク社会としての現代社会
ー変容する現代社会と社会学
13. 民主主義とはどういう制度か？
ー社会構想の社会学ー
14. 愛国心と国のカタチを構想する
ーグローバル化とナショナリズムの行方

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業の復習を重視し、社会学の基本的な考え方を身に付けてください。自分なりの疑問や問題意識をもって授業に臨むことで理解が深まります。参考文献(『社会学の歴史Ⅰ』『私をひらく社会学』)を予習、復習に積極的に活用してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/授業内レポート(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 新睦人編、『新しい社会学のあゆみ』、有斐閣
2. 同、『社会学のあゆみ』、有斐閣
3. 同、『社会学のあゆみパート・2』、有斐閣
4. 豊泉他、『〈私〉をひらく社会学』、大月書店
5. 奥村隆、『社会学の歴史Ⅰ』、有斐閣

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA441／差別と偏見の社会学 (Sociology of Discrimination and Prejudice)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	差別はつくられる		
担当者名 (Instructor)	ハン トンヒョン(HAN TONGHYON)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

差別を社会構造の問題として理解し、他者とともに生きる知と技法を身につける。

Understand discrimination as a problem of social structure and acquire knowledge and skills to live with others.

授業の内容 (Course Contents)

差別とは、「誰かが誰かに偏見を持っている」という個人の意識の問題ではなく、社会構造の問題だ。つまり社会的属性と強くかわっており、まさに社会学的な問題である。

人々は様々な線引きによってカテゴリー化されており、それによって成り立つ構造的な不平等のなかで生きている。多様な人間がともにいるこの社会における人と人の関係には、社会的ポジションによる力関係の不平等という問題が避けがたくまわりついてくるが、人はそのなかで「他者」とコミュニケーションすることなしには生きられない。

授業では、まず差別について考えるうえでの前提として構造的な不平等——マイノリティとマジョリティの関係——について学んだうえで、関連する概念や、近年、可視化されている関連トピックについて扱う。

Discrimination is not a matter of individual awareness that someone is prejudiced against someone else, but a matter of social structure. In other words, it is strongly related to social attributes and is truly a sociological issue.

People are categorized according to various lines of demarcation, and live in a structural inequality that is made up of these lines of demarcation. In this diverse society, people cannot live without communicating with "others," and the problem of unequal power relations based on social position is inevitable in human relationships.

In class, students first learn about structural inequality—the relationship between the minority and the majority—as a prerequisite for thinking about discrimination, and then deal with related concepts and related topics that have become visible in recent years.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 差別について考える前に①マイノリティとマジョリティ
3. 差別について考える前に②アイデンティティと文化
4. 改めて差別とは？「差別はつくられる」①
5. 改めて差別とは？「差別はつくられる」②
6. 障害の「社会モデル」
7. レイズム／ヘイトスピーチとヘイトクライム①
8. レイズム／ヘイトスピーチとヘイトクライム②
9. 歴史否定
10. インターセクショナリティ
11. ルッキズムとレイシャルプロファイリング
12. マイクロアグレッションとハラスメント
13. ポリティカル・コレクトネス
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

複数回課す予定の課題(80%)/リアクションペーパー(20%)

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 清水晶子, ハン・トンヒョン, 飯野由里子, 2022, 『ポリティカル・コレクトネスからどこへ』, 有斐閣 (ISBN:978-4-641-17477-1)
2. キム・ジヘ, 2021, 『差別はたいてい悪意のない人がする』, 大月書店 (ISBN:978-4-272-33103-1)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

「Yahoo! ニュース個人」担当教員執筆ページ

<https://news.yahoo.co.jp/byline/hantonghyon>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／差別と偏見の社会学 (Sociology of Discrimination and Prejudice)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	差別はつくられる		
担当者名 (Instructor)	ハン トンヒョン(HAN TONGHYON)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

差別を社会構造の問題として理解し、他者とともに生きる知と技法を身につける。

Understand discrimination as a problem of social structure and acquire knowledge and skills to live with others.

授業の内容 (Course Contents)

差別とは、「誰かが誰かに偏見を持っている」という個人の意識の問題ではなく、社会構造の問題だ。つまり社会的属性と強くかわっており、まさに社会学的な問題である。

人々は様々な線引きによってカテゴリー化されており、それによって成り立つ構造的な不平等のなかで生きている。多様な人間がともにいるこの社会における人と人の関係には、社会的ポジションによる力関係の不平等という問題が避けがたくまわりついてくるが、人はそのなかで「他者」とコミュニケーションすることなしには生きられない。

授業では、まず差別について考えるうえでの前提として構造的な不平等——マイノリティとマジョリティの関係——について学んだうえで、関連する概念や、近年、可視化されている関連トピックについて扱う。

Discrimination is not a matter of individual awareness that someone is prejudiced against someone else, but a matter of social structure. In other words, it is strongly related to social attributes and is truly a sociological issue.

People are categorized according to various lines of demarcation, and live in a structural inequality that is made up of these lines of demarcation. In this diverse society, people cannot live without communicating with "others," and the problem of unequal power relations based on social position is inevitable in human relationships.

In class, students first learn about structural inequality—the relationship between the minority and the majority—as a prerequisite for thinking about discrimination, and then deal with related concepts and related topics that have become visible in recent years.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 差別について考える前に①マイノリティとマジョリティ
3. 差別について考える前に②アイデンティティと文化
4. 改めて差別とは？「差別はつくられる」①
5. 改めて差別とは？「差別はつくられる」②
6. 障害の「社会モデル」
7. レイズム／ヘイトスピーチとヘイトクライム①
8. レイズム／ヘイトスピーチとヘイトクライム②
9. 歴史否定
10. インターセクショナリティ
11. ルッキズムとレイシャルプロファイリング
12. マイクロアグレッションとハラスメント
13. ポリティカル・コレクトネス
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

複数回課す予定の課題(80%)/リアクションペーパー(20%)

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 清水晶子, ハン・トンヒョン, 飯野由里子, 2022, 『ポリティカル・コレクトネスからどこへ』, 有斐閣 (ISBN:978-4-641-17477-1)
2. キム・ジヘ, 2021, 『差別はたいてい悪意のない人がする』, 大月書店 (ISBN:978-4-272-33103-1)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

「Yahoo! ニュース個人」担当教員執筆ページ

<https://news.yahoo.co.jp/byline/hantonghyon>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA443／セクシュアリティの社会学 (Sociology of Sexuality)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	セクシュアル・マイノリティから現代社会を考える		
担当者名 (Instructor)	志田 哲之(SHIDA TETSUYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本科目は、セクシュアリティに関する基本的な知識を獲得することを第一の目標とする。
 続いて「セクシュアリティの自由」を念頭に置きつつ、近年見られる「LGBT ブーム」を批判的に考察し、これを通じてセクシュアリティのあり方について、より深く考える力を身につけることを第二の目標とする。

As their first goal in this discipline, students will acquire basic knowledge about sexuality.

Next, students will consider freedom of sexuality while critiquing and analyzing LGBT boom observed in recent years. As their second goal, students will acquire ability to think deeper about current states of sexuality.

授業の内容 (Course Contents)

セクシュアリティは今日、わたしたちの生き方の問題と密接に結びついている。だが、わたしたちがこれについての知識を得たり、考える機会は、日常生活においても学問上においてもあまり多くない。よって本科目においては、まずセクシュアリティにまつわる基本的な用語や視点を学び、知識の土台を形成したい。

続いて近代以降のセクシュアリティに関する問題化や社会運動の歴史を確認する。この際、セクシュアルマイノリティに主に焦点をあてる。そして、社会学分野で行われてきた研究を学び、社会学的視点からセクシュアリティにまつわる諸問題のいくつかを考察する。

諸問題の一つとしてとりあげるのは、近年、ブームともいえる日本の「LGBT」現象である。「LGBT」は差別されており、これを解消しようとする動きがある。だがその一方で、「LGBT」の言葉の中にある差異や、言葉の外にある多様なセクシュアリティのあり方への排除が指摘されてもいる。さらに「LGBT 市場」や「同性婚」は、格差是正や人権問題として注目を浴びてはいるが、資本主義と密接に結びついており、これらはセクシュアル・マイノリティの一部にしか恩恵に与れないのではないかとする批判も行なわれている。「差別はいけない」といったワンフレーズで思考停止してしまうのではなく、その先を見ようとする、考えようとする力を身につけてほしい。

また、本科目では主に「LGBT」と表現されるセクシュアル・マイノリティを中心に扱うが、さまざまなセクシュアリティに配慮しつつ講義を進めたい。各自が広い視野から柔軟に考えていく力を身に付けることを到達目標とする。そのためにセクシュアリティが人々の思考の対象になった歴史的経緯を振り返り、続いて今日指摘される多様なセクシュアリティとそれらを対象とした研究のいくつかを紹介する。そして今日セクシュアリティを考える際に、性だけが問題となるのではなく、生き方の問題に関与する点を示唆したい。

Sexuality is closely connected to our lifestyle issues. However, we do not have frequent opportunities to learn and think intellectually about this knowledge in our daily lives. Therefore, in this class, students will learn basic terminologies and perspectives surrounding sexuality to form their intellectual foundations.

Next, students will go through modern sexuality issues and social movement history. Students will focus on sexual minority when doing these. Students will then learn about researches conducted in sociology area. They will then analyze various sexuality issues from sociology perspective.

One of the issues is LGBT phenomenon booming in Japan in recent years. People are acting to eliminate LGBT discrimination. On the other hand, some have pointed out distinctions among LGBT terminologies and exclusion of various non-verbal sexualities. In addition, human rights and gap elimination issues such as LGBT market and same-sex marriage have been under spotlight. However, these are closely connected to capitalism and only parts of the sexual minorities receive the blessing. Students will not stop their train of thought by declaring all discriminations are unjust. Instead, they will learn how to think and see beyond these.

Although this class will focus on sexual minorities represented by LGBT, students will consider various sexualities when advancing in lecture. Students will aim to acquire broad yet flexible perspective. To do that, students will review historical timeline during which sexuality entered people's minds. Next, professor will introduce various sexualities under spotlight now and several researches targeting these. When thinking about current sexuality, students will go beyond genders and connect these with lifestyle subjects.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス、セクシュアリティとはなにか ― 性にまつわる用語の整理
2. 性の問題化(1) ― フーコーの『性の歴史』を手がかりに
3. 性の問題化(2) ― 日本における問題化の歴史
4. セクシュアル・マイノリティと社会運動の歴史(1) ― 欧米の同性愛に関する運動を中心に
5. セクシュアル・マイノリティと社会運動の歴史(2) ― 日本における社会運動
6. 当事者とは誰か ― アイデンティティにまつわる諸問題
7. セクシュアリティをめぐる研究視点の転回(1) ― 「同性愛者は 10 人に 1 人」説をめぐる
8. セクシュアリティをめぐる研究視点の転回(2) ― レズビアン／ゲイ・スタディーズからクィア・スタディーズへ
9. 日本のセクシュアル・マイノリティ研究の概観 ― 同性愛研究を中心に
10. 「LGBT 市場」を考える(1) ― 「LGBT」はセンスがあって裕福か？
11. 「LGBT 市場」を考える(2) ― 「市場」から取り残される人々の存在
12. 「同性婚」「パートナーシップ制度」(1) ― 結婚とはなにか
13. 「同性婚」「パートナーシップ制度」(2) ― 同性婚にまつわる議論
14. まとめ ― セクシュアリティの自由を考える

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

初回授業時までに、受講生各自がどのような関心をもって本科目に臨むか、関心と動機を明確にしておくこと。また授業期間を通じて、セクシュアリティにまつわる情報や議論について積極的に触れるようにし、これらを批判的見地からの検討を心がけること。

各回の授業前にレジュメをポータルにて配付するので、それをもとに事前に予習しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%) / 中間レポート(40%)

テキスト(Textbooks)

授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)にて事前配布するレジュメをテキストの代替とする。

参考文献(Readings)

1. 石田仁、2019、『はじめて学ぶ LGBT 基礎からトレンドまで』、ナツメ社 (ISBN:978-4816365829)
 2. 風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子著、2018、『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』、法律文化社 (ISBN:978-4589039705)
 3. 森山至貴、2017、『LGBT を読みとく: クィア・スタディーズ入門』、筑摩書房 (ISBN:978-4480069436)
- 上に記したのは、入門編に位置づけられる文献である。より専門的に学んでいくことを希望する学生は、上記文献に示されている参考文献にアプローチすることが望ましい。また、それ以外の参考文献についても、適宜授業にて提示する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

示した授業計画は、2023 年 1 月時点でのものである。学生の関心や理解に応じて、講義内容の調整を行なう可能性がある。また社会情勢の変化により講義や評価の方法を変更せざるを得ない場合も考えられる。これらは大学や教員を通じて適宜伝えるとともに、形式・方法を変更した場合であっても、しっかりと学んでもらい、適切な評価を行なえるようにしたい。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA444／アイデンティティ論 (Sociological Theory of Identity)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	戦後日本社会と「自分らしさ」の変貌		
担当者名 (Instructor)	小倉 敏彦(OGURA TOSHIHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

様々な文化現象をアイデンティティという概念から読み解き、現代社会における「自己」と「他者」の関係性について理解を深める。

Students will interpret various cultural phenomena from identity concepts. They will deepen their understanding about connections among themselves and others in modern society.

授業の内容 (Course Contents)

この講義では、自己アイデンティティの形成を、社会的・歴史的なコンテキストのなかで考察することをめざす。特に1960年代以降の日本社会に生じた生活様式の変容が若者の自己形成に与えた影響を、当時の流行文化やメディア体験等に即して考えていきたい。そもそもアイデンティティという言葉が一般に流布したのは1960年代末であり、その背景には近代社会を支えてきた価値観が大きく揺らぎ始めたことがある。ゆえに当時の若者の関心や文化傾向を探ることは、近代的な自己形成モデルの変化を考える手がかりになるし、また現在の私たちの自己や人間関係のあり方を相対化する視点をも提供してくれるはずである。

In this lecture, students will analyze formation of self-identity in social and historical contexts. Particularly, students will follow 1960 Japanese trendy cultures and media experiences when thinking about impacts of changing lifestyles on youths' self-formations. Originally the word 'identity' gained widespread acceptance near end of 1960. It had shaken values that had been supporting modern society. By searching for youth interest and cultural trends at that time, students will obtain clues to think about changes in modern self-formation models. Furthermore, students will gain perspective to compare their relationships with themselves and others in modern time.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. アイデンティティの社会的構成 G.H. ミード
3. 近代社会と再帰的自己 A. ギデンズ
4. 立身出世主義の精神 日本社会の流動化
5. 立身出世主義の変容 煩悶する青年たち
6. アイデンティティの季節 戦後における教育の大衆化
7. アイデンティティの季節(続き) 戦後日本とエリクソン
8. コミットしない若者たち モラトリアム人間論
9. 理想の時代から消費の時代へ 高度成長期の帰結
10. 消費を通じた自己形成 消費社会論
11. 消費を通じた自己形成(続き) アイデンティティ問題の後退
12. 自分らしさの蒸発 状況志向型人間
13. 脱アイデンティティの時代 分散化する自己
14. アイデンティティのゆくえ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義内容は連続しているので、講義資料を読み返し、また授業のなかで掲示した参考文献に目を通しておくのが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(80%)／授業内小テスト(20%)

テキスト (Textbooks)

特になし。授業は事前に公開する講義資料(レジュメ)と、スライドに基づいて行なう。

参考文献 (Readings)

1. 三浦雅士、2012、『青春の終焉』、講談社 (ISBN:4062921049)
 2. 竹内洋、2016、『日本のメロクラシー 増補版』、東京大学出版会 (ISBN:4130511416)
 3. 上野千鶴子、1992、『増補 〈私〉探しゲーム』、筑摩書房 (ISBN:4480080058)
 4. 浅野智彦、2011、『趣味縁からはじまる社会参加』、岩波書店 (ISBN:400028455X)
- 授業時に指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

講義資料(レジュメ)は毎週火曜、立教時間もしくは CanvasLMS にアップロードする。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／アイデンティティ論 (Sociological Theory of Identity)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	戦後日本社会と「自分らしさ」の変貌		
担当者名 (Instructor)	小倉 敏彦(OGURA TOSHIHIKO)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

様々な文化現象をアイデンティティという概念から読み解き、現代社会における「自己」と「他者」の関係性について理解を深める。

Students will interpret various cultural phenomena from identity concepts. They will deepen their understanding about connections among themselves and others in modern society.

授業の内容 (Course Contents)

この講義では、自己アイデンティティの形成を、社会的・歴史的なコンテキストのなかで考察することをめざす。特に 1960 年代以降の日本社会に生じた生活様式の変容が若者の自己形成に与えた影響を、当時の流行文化やメディア体験等に即して考えていきたい。そもそもアイデンティティという言葉が一般に流布したのは 1960 年代末であり、その背景には近代社会を支えてきた価値観が大きく揺らぎ始めたことがある。ゆえに当時の若者の関心や文化傾向を探ることは、近代的な自己形成モデルの変化を考える手がかりになるし、また現在の私たちの自己や人間関係のあり方を相対化する視点をも提供してくれるはずである。

In this lecture, students will analyze formation of self-identity in social and historical contexts. Particularly, students will follow 1960 Japanese trendy cultures and media experiences when thinking about impacts of changing lifestyles on youths' self-formations. Originally the word 'identity' gained widespread acceptance near end of 1960. It had shaken values that had been supporting modern society. By searching for youth interest and cultural trends at that time, students will obtain clues to think about changes in modern self-formation models. Furthermore, students will gain perspective to compare their relationships with themselves and others in modern time.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. アイデンティティの社会的構成 G.H. ミード
3. 近代社会と再帰的自己 A. ギデンズ
4. 立身出世主義の精神 日本社会の流動化
5. 立身出世主義の変容 煩悶する青年たち
6. アイデンティティの季節 戦後における教育の大衆化
7. アイデンティティの季節(続き) 戦後日本とエリクソン
8. コミットしない若者たち モラトリアム人間論
9. 理想の時代から消費の時代へ 高度成長期の帰結
10. 消費を通じた自己形成 消費社会論
11. 消費を通じた自己形成(続き) アイデンティティ問題の後退
12. 自分らしさの蒸発 状況志向型人間
13. 脱アイデンティティの時代 分散化する自己
14. アイデンティティのゆくえ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義内容は連続しているので、講義資料を読み返し、また授業のなかで掲示した参考文献に目を通しておくのが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(80%)/授業内小テスト(20%)

テキスト (Textbooks)

特になし。授業は事前に公開する講義資料(レジュメ)と、スライドに基づいて行なう。

参考文献 (Readings)

1. 三浦雅士、2012、『青春の終焉』、講談社 (ISBN:4062921049)
 2. 竹内洋、2016、『日本のメロクラシー 増補版』、東京大学出版会 (ISBN:4130511416)
 3. 上野千鶴子、1992、『増補 〈私〉探しゲーム』、筑摩書房 (ISBN:4480080058)
 4. 浅野智彦、2011、『趣味縁からはじまる社会参加』、岩波書店 (ISBN:400028455X)
- 授業時に指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

講義資料(レジュメ)は毎週火曜、立教時間もしくは CanvasLMS にアップロードする。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA451／保健・医療の社会学 (Sociology of Health and Medicine)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	病気、健康、死にゆくこと、死、死別についての社会学的研究の展開		
担当者名 (Instructor)	鷹田 佳典(TAKATA YOSHINORI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標(Course Objectives)

病気、健康、死にゆくこと、死、死別というテーマについて蓄積されてきた社会学的研究の成果を学ぶことで、医療社会学の基礎知識を身につける。

The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge of medical sociology through learning the results of the sociological study that has been accumulated on the subjects of illness, health, dying, death, and bereavement.

授業の内容(Course Contents)

毎回、医療社会学や死と死別の社会学の主要な概念をひとつ取り上げ、その内容について講義を行う。

Each time, one of the key concepts of medical sociology and the sociology of death and bereavement will be taken up and explained.

授業計画(Course Schedule)

1. 二つの医療社会学: 医療社会学の展開
2. 病人役割: 統制機関としての医療
3. バイオグラフィカル・ワーク: なぜ病気が治ったのに不安なのか?
4. ステイグマ: なぜ感染したことを隠すのか?
5. 感情労働: なぜ医療者は疲れるのか?
6. リスク: リスクの医学の登場
7. 社会関係資本: なぜ健康格差が生じるのか?
8. ヘルシズム: 不健康は悪なのか?
9. アノミー的自殺: なぜ人は自殺をするのか?
10. 社会的死: 人はいつ死ぬのか?
11. 死のボルノグラフィ: なぜ死の話題は口にはしてはいけないのか?
12. 継続する絆: 死者が蘇る?
13. 公認されない悲嘆: ベットロスは何故辛いのか?
14. 脱近代の死: 死はタブーから解放されたのか?

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回、参考文献を紹介するので、授業の内容を振り返りながら、各テーマについて理解を深めてもらいたい。
また、毎回、授業の最後に配布するリアクションペーパーに質問やコメントを書いてもらい、次回の授業でフィードバックを行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/リアクションペーパー(40%)

テキスト(Textbooks)

特定の教科書は使用しません。

参考文献(Readings)

1. 中川輝彦・黒田浩一郎編、2010、『よくわかる医療社会学』、ミネルヴァ書房
参考文献は適宜紹介します。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

講義の進み具合によって内容を変更する場合があります。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／保健・医療の社会学 (Sociology of Health and Medicine)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	病気、健康、死にゆくこと、死、死別についての社会学的研究の展開		
担当者名 (Instructor)	鷹田 佳典(TAKATA YOSHINORI)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標(Course Objectives)

病気、健康、死にゆくこと、死、死別というテーマについて蓄積されてきた社会学的研究の成果を学ぶことで、医療社会学の基礎知識を身につける。

The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge of medical sociology through learning the results of the sociological study that has been accumulated on the subjects of illness, health, dying, death, and bereavement.

授業の内容(Course Contents)

毎回、医療社会学や死と死別の社会学の主要な概念をひとつ取り上げ、その内容について講義を行う。

Each time, one of the key concepts of medical sociology and the sociology of death and bereavement will be taken up and explained.

授業計画(Course Schedule)

1. 二つの医療社会学: 医療社会学の展開
2. 病人役割: 統制機関としての医療
3. バイオグラフィカル・ワーク: なぜ病気が治ったのに不安なのか?
4. ステイグマ: なぜ感染したことを隠すのか?
5. 感情労働: なぜ医療者は疲れるのか?
6. リスク: リスクの医学の登場
7. 社会関係資本: なぜ健康格差が生じるのか?
8. ヘルシズム: 不健康は悪なのか?
9. アノミー的自殺: なぜ人は自殺をするのか?
10. 社会的死: 人はいつ死ぬのか?
11. 死のボルノグラフィ: なぜ死の話題は口にはしてはいけないのか?
12. 継続する絆: 死者が蘇る?
13. 公認されない悲嘆: ベットロスは何故辛いのか?
14. 脱近代の死: 死はタブーから解放されたのか?

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回、参考文献を紹介するので、授業の内容を振り返りながら、各テーマについて理解を深めてもらいたい。
また、毎回、授業の最後に配布するリアクションペーパーに質問やコメントを書いてもらい、次回の授業でフィードバックを行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/リアクションペーパー(40%)

テキスト(Textbooks)

特定の教科書は使用しません。

参考文献(Readings)

1. 中川輝彦・黒田浩一郎編、2010、『よくわかる医療社会学』、ミネルヴァ書房
- 参考文献は適宜紹介します。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

講義の進み具合によって内容を変更する場合があります。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA462／平等と公正 (Equality and Justice)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際社会と人権		
担当者名 (Instructor)	島崎 裕子(SHIMAZAKI YUKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本科目では、国際社会における人権状況について「平等と公正」の視点から考えることを目的とし、国際的な視点から世界の人権と平和について考える。本科目の履修後には、平等と公正について、幅広い視野をもって世界を捉えられる視点を養うことを目標とする。

This course aims to focus on the human rights situation in international society and to consider what "equality and justice" means. Then, from this course, students will examine global human rights issues from an international perspective and think about peace. After enrolling in this course, our goal is for students to develop a perspective on these topics and to be able to see the world from both national and international perspectives.

授業の内容 (Course Contents)

本科目の内容は、「平等と公正」をテーマに、「人権とは何か」「デモクラシーとは何か」「和解とは」の概念を学ぶ。それらの概念を基礎に、世界各国にみられる歴史的な事例や現代における事例を用いて、平等と公正について考察を深める。具体的事例では、カンボジアにおける内戦や、アフリカのルワンダの虐殺、ロヒンギャ難民、ジェンダーの視点からとらえる平等と公正、移民問題などを事例を取り上げる予定である。

In this course, we would study the concepts of equality and justice: what are human rights, what is a democracy, and what is reconciliation. Based on these concepts, we would discuss equality and justice using historical and current cases from around the world. Specific cases would be taken from the civil war in Cambodia, the Rwandan genocide in Africa, Rohingya people, equality and justice from a gender perspective, and immigration issues as well.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 人権とは何か①
3. 人権とは何か②
4. デモクラシーとは何か
5. 人間の安全保障①
6. 人間の安全保障②
7. 国際社会と司法
8. 世界の事例から① 政治的平等
9. 世界の事例から② 国家と内戦
10. 世界の事例から③ 民族#1
11. 世界の事例から③ 民族#2
12. 世界の事例から④ ジェンダー
13. 世界の事例から⑤ 文化と多様性
14. まとめ

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

随時、資料等を配布。事前事後学習に努めること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/課題(2回×15%)(30%)/授業の参加度/フィードバックシート(20%)/授業の出欠席(20%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 山田満、2021、『平和構築のトリロジー』、明石書店
2. R.A.ダール、2009、『デモクラシーとは何か』、岩波書店

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA463／社会問題の社会学 (Sociology of Social Problems)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	長崎原爆被災の記憶と東日本大震災の継承		
担当者名 (Instructor)	高山 真(TAKAYAMA MAKOTO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

毎年、8月になると広島と長崎の原爆について多くのことが報道されます。その意味で、私たちはヒロシマ・ナガサキをよく知っています。しかし、その問題が、日常を生きる「わたし」に関わることは少ないかもしれません。いまを生きる私たちにとって、被爆者の語りを聞くことには、どのような意味があるのでしょうか。この答えを見つけることが授業の目標です。

Every year in August, much is reported about the atomic bombings of Hiroshima and Nagasaki. In that sense, we are familiar with Hiroshima and Nagasaki. However, the issues may not be as relevant to "me" as they are to our daily lives. What is the meaning of listening to the stories of Hibakusha for those of us living in the present? The theme of this class is to consider the issue of the Great East Japan Earthquake from this perspective.

授業の内容 (Course Contents)

長崎のフィールドワークに10年ほど取り組んできました。

長崎では、ある被爆者による「被爆者になる」という語りに出会いました。

彼は、長年の被爆体験の聞き取りをとおして、自分の人生が大きく変わったと語ります。

「彼の人生はどのように変わったのか」

こうしたテーマでインタビューをつづけました。

インタビューについては『被爆者になる』という本にまとめています。この授業では、この本を教科書とします。

この本を書くまでには、歴史の物語論、ライフストーリー論、広島・長崎の社会学的研究、感情社会学などを参考にしました。

この授業では、インタビュー調査を進める中で長崎の被爆問題について知ったこと、フィールドワークで得た情報を論文として解釈する際にこころみた工夫を含めて、一冊の本が仕上がるまでの試行錯誤のプロセスを紹介します。

その上で、現代的な課題として浮上している東日本大震災というテーマにアプローチします。

長崎の調査協力者であった彼は、震災が発生した時に、被爆当時の長崎の風景を想起したと語ります。

そして、第一原発の事故により被曝の不安にさらされる人々に寄り添いたいと語るようになります。

その後、彼は「福島と長崎をむすぶ会」を設立し、他界しました。

それからおよそ10年が経ちました。

私は、彼とのインタビューを振り返りながら、福島県の大葉町を訪れました。

大葉町には東日本大震災・原子力災害伝承館という施設があります。

そこでは、毎日、語り部の方々が震災の経験について語っています。

月に2回ほどのペースで大葉町に通い、多くの語り部の語りを聞くなかで、かつて取り組んだ長崎被爆者調査の意味を再考しています。

このテーマについては現在進行形の問題ですので、履修者の皆さんと情報を共有しつつ、これからの大葉町の復興について考

えていきたいと思います。

テーマは、社会学的思考とは何かという点にあります。

I have been engaged in fieldwork in Nagasaki for about 10 years.

In Nagasaki, I encountered a narrative of “becoming a hibakusha” by one hibakusha.

He told us that his life had changed dramatically over the years of hearing about his A-bomb experience.

How did his life change?

I continued the interview with this theme.

The interviews are summarized in the book “Becoming an A-Bomb Survivor. This book will be the textbook for this class.

In writing this book, I consulted historical narrative theory, life story theory, sociological studies of Hiroshima and Nagasaki, and the sociology of emotions.

In this class, I will introduce the trial-and-error process of completing the book, including what I learned about the A-bomb issues in Nagasaki in the course of my interview research, and how I tried to interpret the information I obtained in the fieldwork as a thesis.

We will then approach the theme of the Great East Japan Earthquake, which has emerged as a contemporary issue.

As a research collaborator in Nagasaki, he recounts that when the earthquake struck, he was reminded of the landscape of Nagasaki at the time of the atomic bombing.

He then began to talk about his desire to be close to people who were exposed to the anxiety of radiation exposure as a result of the accident at the Daiichi Nuclear Power Plant.

Later, he established the “Fukushima-Nagasaki Association” and passed away.

Almost 10 years have passed since then.

Looking back on my interview with him, I visited Futaba Town in Fukushima Prefecture.

Futaba Town has a facility called the Great East Japan Earthquake and Nuclear Disaster Legacy Hall.

Every day there, storytellers share their experiences of the disaster.

I visit Futaba Town about twice a month, and as I listen to the stories of the many storytellers, I reconsider the meaning of the Nagasaki Hibakusha survey that I once undertook.

Since this theme is an ongoing issue, we would like to think about the future reconstruction of Futaba-machi while sharing information with the students.

The theme of the course is about what sociological thinking is.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 自己
3. 記憶
4. 物語
5. 当事者
6. 経験
7. 死
8. 感情
9. 長崎
10. 双葉町
11. ト라우マ
12. 言語
13. 文学

14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業で紹介する本を読むこと。本を読んで考える楽しさを体得すること。可能であれば長崎や福島を訪れ、現地の状況を知ること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)/リアクションペーパー等(授業内課題)(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 高山真、2016、『〈被爆者〉になる 変容する〈わたし〉のライフストーリー・インタビュー』、せりか書房 (ISBN:978-4-7967-0353-6)
- 適宜、資料を配布する。

参考文献(Readings)

1. 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2007、『社会学』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-05370-0)
2. 石田忠、1973、『反原爆 長崎被爆者の生活史』、未来社
3. ロバート・J. リフトン、2009、『ヒロシマを生き抜く 精神的考察』、岩波書店 (ISBN:9784006002268)
4. 高橋哲哉、1995、『記憶のエチカ 戦争・哲学・アウシュヴィッツ』、岩波書店 (ISBN:4-00-002751-4)
5. 浜日出夫(編著)、2021、『サバイバーの社会学: 喪のある景色を読み解く』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623091898)
6. 福田須磨子、1968、『われなお生きてあり』、筑摩書房
7. 吉原直樹、2021、『震災復興の地域社会学 大熊町の10年』、白水社 (ISBN:978-4560098301)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA464／NPO／NGOの社会学 (Sociology of NPOs/NGOs)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会課題解決とイノベーション		
担当者名 (Instructor)	服部 篤子(HATTORI ATSUKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この授業では、市民社会及び関連する公共のサービスを担う活動の概念を学び、理論と実際について理解を深めること、その背景にある社会の課題と将来像を考察し自らのキャリアを考えることを目的とします。

In this class, students will learn about concepts of organizations such as NPOs to deepen their understanding about theory and reality. They will also analyze conditions and future trends of society in this context.

授業の内容(Course Contents)

家族、地域、社会に生じる多様な課題の解決にむけて、行政のみならず非営利組織(NPO)やNGOの役割が高まってきました。NPO等は、小規模な団体が多いものの、その柔軟性を持ち、市民の主体的な地域づくりを促進する点、市場や働き方に新たな価値観を提案する点が特徴としてあげられます。しかしながら、多くが発信力や持続性に課題を抱えています。

そこで、本講は、行政、NPO、企業との関係に着目し、「行政とNPOが協働するためには何が必要か」、「社会起業家にとって利益とは何か」、「NPONGOの成長や成果は何か」、「持続可能な社会に市民社会はどう寄与するのか」、「市場の成長と地域の持続可能性は両立するのか」といった問いにむきあいます。

具体的なテーマについて課題等を課すほか、NPONGOの代表などゲストとの対話を予定しています。

In addition to administration, NPOs and NGOs are playing greater roles at solving problems in family, state, and society.

Although many NPOs are small, they are flexible enough to facilitate citizens' regional revitalization, create new values in market and workstyle. However, many are plagued by communication and sustainability issues.

In this lecture, students will focus on connections among administrations, NPOs, and corporations. Students will also study these questions. What are required for administration and NPOs to work together? What are profits for NPO sector? What are growth and results for NPO sector? How will NPO compete with existing business markets?

In addition to participating in subject discussions in classroom and completing assignments, students will also talk to guests working in welfare sector and organizations active overseas.

授業計画(Course Schedule)

1. 序論:「NPO／NGO」研究の範囲と潮流
2. 非営利セクターの概念(1)改めて考えるNPOと市民社会
3. 非営利セクターの概念(2)NPOの台頭と変わりゆく行政
4. 非営利セクターの概念(3)NPOの法制度
5. 事例研究(1)NPOとソーシャルビジネス(ゲストスピーカー)
6. 協働を考える(1)社会起業家とイノベーション
7. 協働を考える(2)社会起業家とイノベーション
8. 協働を考える(3)企業が解決する社会課題
9. 事例研究(2)NGOと国際事情(ゲストスピーカー)
10. 新しい公共経営(1)持続可能性とグリーン社会
11. 新しい公共経営(2)地域の復興
12. 新しい公共経営(3)休眠預金等活用
13. NPO/NGOの社会インパクトを考える
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前に提示する関連資料、該当書籍を読んだうえで出席すること。積極的にNPO/NGOのサイトにアクセスする、イベントに参加する、ボランティアに参加することを推奨する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(45%)／授業内小レポート(15%)／リアクションペーパー、授業への貢献(30%)／授業内小テスト(10%)

テキスト(Textbooks)

1. 樽見・服部編著、2020、『新・公共経営論―事例から学ぶ市民社会のカタチ』、ミネルヴァ書房

参考文献(Readings)

1. 松永佳甫、2015、『公共経営学入門』、大阪大学出版会
2. 服部・武藤・洪澤、2012、『ソーシャルイノベーション』、日本経済評論社
3. 大守隆、2018、『ソーシャルキャピタルと経済』、ミネルヴァ書房
4. 服部篤子、2012、『未来を創る企業内イノベーターたち』、近代セールス社

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

ゲストスピーカーの都合により実施回に変更がありうる。授業時に情報を共有するとともに、授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

内閣府 NPO サイト

日本経済団体連合会1%クラブサイト

休眠預金等活用サイトほか、海外のプラットフォームを授業時に紹介する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA465／シミュレーションの社会学 (Sociology of Simulation)		
担当者名 (Instructor)	山本 仁志(YAMAMOTO HITOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

受講生は多様な社会現象のメカニズムを理解するための社会シミュレーションの概要をりかいすることができる。受講生は代表的な社会シミュレーションモデルのメカニズムと含意を理解することができる。受講生は社会科学におけるシミュレーション技術の位置づけを理解することができる。また社会に存在する大量のデータを分析する計算社会科学の概要も理解する。

Students will understand the outline of a "social simulation" that explores mechanisms of social phenomena using simulation technology. Students will understand the mechanisms and implications of typical models of social simulation. Students will understand the positioning of social simulation in social sciences.

授業の内容 (Course Contents)

社会シミュレーションは、広範な社会現象の動的な原理を理解することを目的として開発された研究手法の一つである。社会シミュレーションは、システム全体の挙動を表す方程式を見出すことを目的とはしていない。むしろ、人間社会のように個人どうしが局所的に相互作用することの集積が個々の構成要素の性質から直接導き出せない大域的な社会の現象(たとえば、文化・規範・言語のようなもの)を創発するモデルを構築することを目的としている。本講義では社会シミュレーションの概要と実例をもとに紹介する。更に計算社会科学の概要にも触れる。

Social simulation is a research method developed to understand the dynamic principles of a wide range of social phenomena. Social simulation is not aimed at finding equations that describe the behavior of the entire system. Rather, it aims to construct a model that emerges global social phenomena (such as culture, norms, and languages) from the accumulation of local interactions among individuals. This lecture introduces the outline and examples of social simulation.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 講義の概要と目的の理解
2. 社会シミュレーションとは何か
3. 社会シミュレーションの特徴
4. シミュレーションの歴史
5. ゲーム理論と社会シミュレーション1
6. ゲーム理論と社会シミュレーション2
7. 協力の進化の起源
8. 直接互恵による協力の進化
9. 間接互恵による協力の進化
10. ソーシャルメディアの発展と計算社会科学
11. ソーシャルメディア分析の事例
12. 社会科学の中の社会シミュレーション
13. 社会シミュレーションの実装
14. 講義の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

関連文献を各回に紹介するので必ず読んで内容を理解すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/中間レポート(35%)/小レポート(複数回実施)(15%)/授業への参加(15%)

テキスト(Textbooks)

講義資料ならびに関連文献は Web を通じて配布する。アクセス方法は初回授業でアナウンスする。

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA472／歴史社会学 (Historical Sociology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	トクヴィルを読む		
担当者名 (Instructor)	葛山 泰央(KATSURAYAMA YASUO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

〈社会学以前の社会的思考〉の展開を、古典的文献や関連する史資料の読解を通して検討するなかで、比較社会的・歴史社会的な想像力の現在を探究する。

Students will read classical literatures and related historical documents to discuss about pre-sociology sociological thinking. Students will explore current comparative and historical sociology imaginations.

授業の内容 (Course Contents)

アレクシス・ド・トクヴィルによるいくつかの著作を、啓蒙への問い、アメリカの観察、デモクラシーと社会変動、社会的・政治的状态と習俗の理論、政教分離と市民社会、デモクラシー的専制と個人主義、歴史と記憶、革命と反復などの主題に即して読解するなかで、〈社会学以前の社会的思考〉の展開とその現代的意義について考察する。

Students will read several iconic works by Alexis de Tocqueville to understand these subjects: questions about enlightenment; observations of US; democracy and social transformations; social and political states and customary theories; laïcité and citizen society; democratic despotism and individualism; history and memory; revolution and recurrence. Students will analyze development of pre-sociology sociological thinking and its modern significance.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. トクヴィルと〈社会学以前の社会的思考〉
3. 東西冷戦構造の崩壊と「トクヴィルの再発見」
4. フランス革命と啓蒙の運命
5. モンテスキュー『法の精神』(1748 年)を読む
6. ルソー『社会契約論』(1762 年)を読む
7. トクヴィル『アメリカのデモクラシー』第一巻(1835 年)を読む
8. トクヴィル「1789 年前後におけるフランスの社会的・政治的状态」(1836 年)を読む
9. トクヴィル『アメリカのデモクラシー』第二巻(1840 年)を読む
10. トクヴィル「回想録」(1851 年)を読む
11. トクヴィル『旧体制と大革命』(1856 年)を読む(1)
12. トクヴィル『旧体制と大革命』(1856 年)を読む(2)
13. 〈民主主義的人間〉への問い(1)
14. 〈民主主義的人間〉への問い(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

必要に応じて授業内に別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

毎回のリアクションペーパーによる授業参加度(60%)/期末レポート(40%)

なお単位修得のためには 70%以上の出席(リアクションペーパーの提出)を必要とする。また期末レポートの課題内容については授業内に別途指示する。

テキスト (Textbooks)

1. 富永茂樹、2010 年、『トクヴィル——現代へのまなざし』、岩波新書(岩波書店) (ISBN:978-4-00-431268-0)

参考文献 (Readings)

必要に応じて授業内に別途指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA474／社会人口学 (Social Demography)		
担当者名 (Instructor)	草野 邦明(KUSANO KUNIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

人口現象に関する基礎的な知識と分析手法を身につけ、日本で生じている人口問題を理解する。

Acquire the basic knowledge and analytical methods on population phenomenon, and understand the population problems in Japan.

授業の内容 (Course Contents)

人口現象に関する用語と定義、分析手法を学び、実際に受講者自身が人口統計データを用いて分析を行うことで、理解を深める。

Learn the basic terms, the definitions and analytical methods on population phenomenon, and analyze demographic data to deepen their understanding.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 人口現象と人口統計
3. 出生・死亡
4. 人口学的方程式
5. 人口転換
6. 人口減少と社会問題
7. 少子化と社会問題
8. 高齢化と社会問題
9. 地域人口の構造
10. 地域人口の分布
11. 地域人口の移動
12. 将来推計人口
13. 人口政策
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回授業後に復習内容と次回授業の予習内容を提示するので、理解を深めるためにも必ず学習すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(75%)/リアクションペーパー(25%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 人口学会研究会編、2010、『現代人口辞典』、原書房 (ISBN:978-4562091409)
2. 大淵寛・兼清弘之編、2005、『少子化の社会経済学』、原書房 (ISBN:978-4562091027)
3. 阿藤誠・津谷典子編、2007、『人口減少時代の日本社会』、原書房 (ISBN:978-4562091201)
4. 兼清弘之・安蔵伸治編、2008、『人口減少時代の社会保障』、原書房 (ISBN:978-4562091300)
5. 高橋重郷・大淵寛編、2015、『人口減少と少子化対策』、原書房 (ISBN:978-4562092031)
6. 石川義孝・田原裕子・井上孝編、2011、『地域と人口からみる日本の姿』、古今書院 (ISBN:978-4772252)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

基本的にはシラバスの計画通りに授業を進めるが、進行状況等によっては授業内容が前後する場合がある。また、本授業内容に関連するゲストスピーカーを招聘する場合がある。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA561／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	李 旼珍(LEE MINJIN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文作成の前半作業として、卒業論文の題目を決めるまでの作業を行う。

Students will work on deciding subjects of their graduation theses, which is the former half of the task to write the graduation theses.

授業の内容 (Course Contents)

卒業論文のテーマとして、若年労働、高齢者労働、女性労働、男性労働、雇用形態(働き方)の多様化、ワーク・ライフ・バランス問題など働くことに関連するテーマを考えている学生を対象に卒業論文作成の指導を行う。卒業論文の題目の決定に至るまでの作業、すなわち、関心のあるテーマに関連する文献調べ、テーマと関連する先行研究のレビュー、テーマと関連するデータ調べ、テーマの確定などの一連の作業を行う。ゼミ生は、数回にわたる報告やディスカッションを通じて、卒業論文のテーマのオリジナリティを高めることを目指してほしい。

テーマを決め仮説を設定するに至るまでは、先行研究のレビューが非常に重要な作業なので、授業では卒論題目届の時期(6月末)までゼミ生に先行研究の検討作業を中心的に行ってもらい、順次報告してもらおうつもりである。

Students examining the following topics will receive instructions to help them write their graduation theses: young peoples' labor, elderly people's labor, female labor, male labor, various forms of employment, work-life balance, and other topics about working. To decide topics of their graduation theses, students will be required to search literatures related to their topics, to review previous studies on topics, to investigate data related to topics, and to finalize their themes. Students are able to develop an originality of their graduation thesis themes through several presentations and discussions in class. Reviewing previous studies is extremely important when deciding a theme of graduation thesis and establishing research hypotheses.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. 全受講生の卒論テーマ発表
3. テーマと関連する先行研究一覧発表
4. テーマと関連する先行研究のレビュー報告 1
5. テーマと関連する先行研究のレビュー報告 2
6. テーマと関連する先行研究のレビュー報告 3
7. テーマと関連する先行研究のレビュー報告 4
8. テーマと関連する先行研究のレビュー報告 5
9. テーマと関連する先行研究のレビュー報告 6
10. 卒論構想発表 1
11. 卒論構想発表 2
12. 卒論構想発表 3
13. 卒論構想発表 4
14. 全受講生の夏休み中の卒論作成計画発表

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

必要に応じて授業内で指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

ディスカッションへの参加(40%)/授業時発表(60%)

テキスト(Textbooks)

特に指定しない。

参考文献(Readings)

授業時に随時紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA562／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	片上 平二郎(KATAKAMI HEIJIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文に執筆に向け、テーマを選定し、その土台をつくりあげていく。前提となる文献を探し、調査作業をはじめめるための基礎的な方法を身につける。

The course objective is to enable students to: (i) know how to analyze an issue from a sociological perspective, (ii) conduct their own research projects, and (iii) write their graduation thesis.

授業の内容 (Course Contents)

卒論の進行状況を報告し合いながら、その完成を目指していく。

The role of this seminar is to support the students' individual research projects. Students have the responsibility to present their research at different stages of their project. Discussions give the presenters an opportunity to see their research from different perspectives.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. テーマ報告
3. 個人発表
4. 個人発表
5. 個人発表
6. 個人発表
7. 個人発表
8. 個人発表
9. 個人発表
10. 個人発表
11. 個人発表
12. 個人発表
13. 個人発表
14. 卒業論文演習2に向けたまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

卒論完成に向けて、着実に蓄積を行っていくこと

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告、発表、ディスカッション(100%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA563／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	林 雄亮(HAYASHI YUSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

明確に研究目的を設定し、目的と分析予定と結論が一貫した論文の構成をまず作る。適切な仮説構築を行うことが大切。目的や仮説なしの卒論とならないよう注意。論文完成までの時間の計画をまず自分で作ること。

At first students decide their research purpose, and students will make a main structures of dissertations that are consistent in purpose and conclusion. It is also important to make appropriate hypotheses. Students should take care not to make theses without purposes or hypotheses. Students should make their time schedule plans to complete dissertations.

授業の内容 (Course Contents)

まず文献検索を行い、学術書や、学術雑誌掲載の論文を読むこと。研究の最前線を把握した上で、卒業論文のテーマを設定する。1年間で生産的な結果が期待できるテーマを設定する。学問のための時間を確保し自主的に努力すること。「時間の使い方」の訓練は、とても重要。次に、目的と仮説、データの取り方、分析法、予想される結果を明確にして、研究計画を立てる。研究目的(研究の結果、新しい知見として何が在れば良いのか)を具体的に決めて、目的に適したデータ収集法、分析法を設定する。卒業論文の作成過程を通じて、調査法、分析法や、資料作成法、発表法など、卒業後も役立つような「仕事の進め方」を身につける。以下の手順で進め、提出までの仕事の計画を自分で作成する。これらをふまえて本格的な調査や分析作業に入る。ゼミでの議論も重視する。各自が積極的に途中経過を発表し議論に参加すること。なお社会調査法とデータ分析法に関する実習も行う。

First, students should search and read academic books and articles published in academic journals. After understanding the forefront of research, decide the theme of your graduation thesis. It is important to think on a theme that you can expect productive results in one year. Training on how to use your time is very important. Then, clarify the purpose and hypothesis, how to obtain your data from society, analysis method, expected result, and make your research plan. You will decide the purpose of your research (specifically, what should be the new findings as a result of research), and will decide the data collection method and analysis method suitable for your research purpose.

Through the process of preparing your graduation thesis, you will learn how to proceed with work, such as survey methods, analysis methods, material preparation methods, presentation methods, etc., that are useful even after graduation. Create your own work plan up to final paper submission. Discussion in the seminar is also important. Students should actively present their research progress and participate in discussions. In addition, practice on data analysis will be also conducted.

授業計画 (Course Schedule)

1. テーマ設定のために文献検索を行い集めた先行研究を発表
2. 学術書について発表1
3. 学術書について発表2
4. 学術論文について発表1
5. 学術論文について発表2
6. 社会調査法について実習
7. テーマに関する先行研究を発表
8. 研究計画の作成(目的、方法、仮説を明確に計画を完成させる)
9. 卒論経過の中間報告1
10. 卒論経過の中間報告2
11. 卒論構想発表会
12. データ分析実習
13. 学生対象などの予備的調査
14. 今後の調査と分析の計画を確定

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回の発表準備を計画的に行うこと

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内の課題(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 原純輔・海野道郎、2004、『社会調査演習 第2版』、東京大学出版会 (ISBN:4130520199)

参考文献(Readings)

1. 川喜田 二郎、2017、『発想法 改版 ―創造性開発のために』、中央公論新社 (ISBN:978-4121801364)
2. 板坂 元、1973、『考える技術・書く技術』、講談社 (ISBN:978-4061157279)
3. 木下 是雄、1981、『理科系の作文技術』、中央公論新社 (ISBN:978-4121006240)
4. 野口 悠紀雄、2002、『「超」文章法』、中央公論新社 (ISBN:978-4121016621)
5. 三輪 哲・林 雄亮、2014、『SPSSによる応用多変量解析』、オーム社 (ISBN:978-4274050114)
6. 本多 勝一、2015、『新版 日本語の作文技術』、朝日新聞出版 (ISBN:978-4022618450)
7. 筒井 淳也他編、2015、『計量社会学入門 ―社会データをよむ』、世界思想社 (ISBN:978-4790716716)

まず先行研究の内容を十分に把握し整理すること。また、自分自身の批判意見を書くこと。文章の書き方に関しては、第三者が読んで分かりやすい文章となるよう、各自で各種参考文献の内容を把握し、工夫すること。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

卒論の構成や書式についてはゼミホームページ参照。書式見本ファイルを保存すること。6月下旬に卒論構想発表会のためにゼミ合宿を行う。必ず参加すること。

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/murase/>

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard等)で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA564／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	田北 康成(TAKITA YASUNARI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

卒業論文作成の前半作業として、構想を明確にするとともにテーマの決定をおこなう。

For the first half of Thesis Writing Seminar to write graduation theses, students will clarify their concepts and decide their subjects.

授業の内容(Course Contents)

「論文」を作成するためには、自身の問題関心がどこにあるかを自ら明らかにしていかなければならない。「問い」を導き出す作業は決して易しいことではなく、繰り返し自らに問い質していく必要がある。この作業を共同の場で進めることができるのが演習形式授業のメリットだといえる。

春学期の「卒業論文演習1」では、卒業論文テーマの決定を目標とし、そのための問題関心の明確化、先行研究の収集と検討、論点の提出と整理などの基礎的なプロセスをおこなう。それをふまえ、夏期休暇中に、合宿形式による中間報告会を催す予定である。

To write their theses, students must clarify which issues they are interested in. Discovering their questions is not easy as students must repeatedly ask themselves questions. Class in seminar format is advantageous as it allows students to carry out this process in a communal place.

In Thesis Writing Seminar 1 of spring semester, students will aim to determine their graduation thesis subjects. To do that, students will carry out basic processes, i.e. clarify issues they are interested in, collect prior researches, discuss about them, submit their arguments, and organize them. Then students will participate in interim report meeting in summer seminar lodging trip.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 各自の卒業論文構想報告(1)
3. 各自の卒業論文構想報告(2)
4. 各自の卒業論文構想報告(3)
5. 各自の卒業論文構想報告(4)
6. 論文作成中間報告(1)
7. 論文作成中間報告(2)
8. 論文作成中間報告(3)
9. 論文作成中間報告(4)
10. 論文作成中間報告(5)
11. 論文作成中間報告(6)
12. 論文作成中間報告(7)
13. 論文作成中間報告(8)
14. 論文作成中間報告(9)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

このゼミでは、全員が順次、卒業論文の構想発表および中間報告をおこなうので、事前の準備を必ずしておくこと。また、自分の報告の番でない時には、他のメンバーの報告について積極的にコメントをすること。受けたコメントは自身の論考に反映させるよう努める。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加の積極性(40%)/授業期間内における複数回の報告(60%)

テキスト(Textbooks)

特に指定しない。

参考文献(Readings)

1. 白井利明・高橋一郎、2013、『よくわかる卒論の書き方(第2版)』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623065721)
2. 井上真琴、2004、『図書館に訊け!』、筑摩書房 (ISBN:9784480061867)

そのほかの参考文献や資料は、授業の中で適宜紹介する。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

対面での授業を原則とする。ただし、新型コロナウイルスの広がり等の諸事情を勘案し、5回を上限にオンライン授業を実施することがある。実施回については、授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard等)で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA565／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	卒業論文作成の準備		
担当者名 (Instructor)	中澤 渉(NAKAZAWA WATARU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

卒業論文にあたって、テーマを設定し、執筆できるような準備を整えること。

Students decide on the topic of their graduation thesis and prepare for writing it.

授業の内容(Course Contents)

受講生はまず、社会科学論文の書き方の作法について確認する。そのうえで、3年時の最後に出したレポートを再度見直してもらう。もし調査やデータ分析を予定している者は、その計画を立てて、授業時に発表してもらう。また学期末までに、受講生は必要な文献や資料を収集し、整理する。こうした作業の報告を、ゼミの時間で発表する。

Students should check the manner of writing social science papers and review the final report submitted at the end of the third year. Those who want to conduct surveys and interviews, or analyze quantitative data, should present their research plan in this class. By the end of this semester, students have to collect materials and literature related to their topic, so they can start writing their graduation thesis. They have to report on the progress of these tasks.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション(授業方針の説明や割り当てなど)
2. 『よくわかる卒論の書き方』 I II
3. 『よくわかる卒論の書き方』 III IV
4. 『よくわかる卒論の書き方』 V VI
5. 『よくわかる卒論の書き方』 VII VIII IX
6. 卒論の進捗状況について発表(1)
7. 卒論の進捗状況について発表(2)
8. 卒論の進捗状況について発表(3)
9. 卒論の進捗状況について発表(4)
10. 卒論の進捗状況について発表(5)
11. 卒論の進捗状況について発表(6)
12. 卒論の進捗状況について発表(7)
13. 卒論の進捗状況について発表(8)
14. 卒論の進捗状況について発表(9)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各自、計画的に資料を収集するなどして、報告に備えること。困ったことがあれば、遠慮なく教員に相談すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告(60%)／授業への参加(発言)(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 白井利明・高橋一郎、2013、『よくわかる卒論の書き方(第2版)』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623065721)

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

原則として対面で実施する。ただし、感染状況などにより大学の方針に従ってオンライン授業に切り替えるケースもありうるので、立教時間などの通知に注意すること。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA566／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	前田 泰樹(MAEDA HIROKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文の作成に向けて、研究テーマを設定する。テーマに沿った先行研究の検討にあわせて、分析方法に習熟し、資料・データの収集に着手する。

The purpose of this class is to write a graduation thesis. Participants are required to set a research theme, review previous research, learn qualitative methods, and begin collecting data for their graduation thesis.

授業の内容 (Course Contents)

卒業論文演習1では、卒業論文を作成するための研究テーマを設定することが重要である。テーマに沿った先行研究の検討を行うことにより、自らの問い自体を深めていくとともに、分析方法にも習熟していく。また、テーマに沿った資料・データの収集をおこない、必要に応じて、先行研究や分析方法の検討に立ち返る。これらの往復運動を重ねることにより、自らの研究テーマを確定する。

A research theme for the graduation thesis will be set. By examining previous research in line with the theme, participants will clarify their questions themselves and become familiar with qualitative methods. In addition, they will collect materials and data in line with the theme.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 研究テーマを設定する(1)
3. 研究テーマを設定する(2)
4. 先行研究と方法の検討(1)
5. 先行研究と方法の検討(2)
6. 先行研究と方法の検討(3)
7. 先行研究と方法の検討(4)
8. 先行研究と方法の検討(5)
9. 調査の企画・計画・着手(1)
10. 調査の企画・計画・着手(2)
11. 調査の企画・計画・着手(3)
12. 調査の企画・計画・着手(4)
13. 調査の企画・計画・着手(5)
14. 調査の企画・計画・着手(6)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

オンライン上でのやりとりが重要であるため、大学アドレスのメールを常にチェックし、指定課題関連書類を管理しておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

定期的な指定課題の提出(50%)/ミーティング・面談への参加(50%)

テキスト (Textbooks)

適宜指示する。

参考文献 (Readings)

適宜紹介する。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については別途指示する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA567／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	卒業論文の土台を整える。(Preparing the groundwork for a graduation thesis.)		
担当者名 (Instructor)	本多 真隆 (HONDA MASATAKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

社会科学の論文の作法を学び、テーマ設定、調査設計といった卒業論文を執筆するための土台を整える。

Students will learn how to write a social science thesis and lay the groundwork for writing a graduation thesis, such as setting a theme and designing a research project.

授業の内容 (Course Contents)

本講義ではまず、論文とは何か、社会科学の論文の作法とは何か、といった論文執筆の基礎を確認する。そして受講者各自のテーマ設定、方法論、先行研究の批判的検討など卒業論文の調査設計に関わることを、ディスカッションを通して練り上げていく。

In this course, students will first learn the basics of thesis writing, such as what a thesis is and how to write a social science thesis.

Then, through discussion, students will develop their own theme, methodology, critical review of previous research, and other aspects of research design for their graduation theses.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 論文の書き方 1
3. 論文の書き方 2
4. 論文の書き方 3
5. 卒論進捗状況の報告 1
6. 卒論進捗状況の報告 2
7. 卒論進捗状況の報告 3
8. 卒論進捗状況の報告 4
9. 卒論進捗状況の報告 5
10. 卒論進捗状況の報告 6
11. 卒論進捗状況の報告 7
12. 卒論進捗状況の報告 8
13. 卒論進捗状況の報告 9
14. 卒論進捗状況の報告 10

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

卒論の完成に向けて、着実に進めていくことが重要である。報告の際は、データや資料の収集など、可能な限りの準備を進めておくこと。研究対象と積極的かつ継続的に関係を作る努力が完成度を高める。

また、講義の時間以外にも質問等があれば受け付ける。進捗状況については遠慮なく質問、報告すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告(70%) / 議論の参加(30%)

テキスト (Textbooks)

なし。

参考文献 (Readings)

講義中に適宜紹介する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA568／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	小倉 康嗣(OGURA YASUTSUGU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文の作成に向けて、探究の労苦に値するだけのやりがいがある研究テーマを見出し、みずからの問いを練りあげていく。と同時に、先行研究の検討、視点と方法の探索、資料・データの収集をおこなう。

As students work toward their graduation theses, they will expend great efforts on digging up researches. Greater efforts in these processes will help students to find research subjects they are truly interested in and develop their questions. At the same time, students will discuss about prior researches, explore their perspectives and methods, collect documents and data.

授業の内容 (Course Contents)

自分はいったいなにを問い、なにを明らかにしたいのか。「原問題」(調査研究のために戦略的に設定する問いやテーマの根っこにあって、おのれを突き動かし、生きるための課題として自覚されてくるもの)はなんなのか。自身の問題意識を掘り下げ、価値ある問いを発見し、それを練りあげていく作業、そして先行研究を検討し、自身の視点と方法を見定めていく作業を、各自の発表をめぐるゼミ生全員での対話と議論によっておこなっていく。

ゼミは、みずからの純粋な問題意識を共同の議論の場に置き放ち、お互いに皆の胸(他者の身体＝経験や感情)を借りながら対話できるという貴重な機会である(自分の発表の経験だけではなく、他のゼミ生の発表を聴いてなにかを感じとり、自分と照らしあわせて考えコメントする経験も、当然そこに含まれる)。それは、卒論作成のためにみずからのテーマを掘り下げ、他者に伝達可能な知にしていくことに資するという意味でも、もっと広く生涯においてこういう機会はないかなという意味でも、である。

そんな贅沢な時間をどうか無駄にしないように、積極的に参加し、自由闊達に発言してほしい。

Students will ask themselves what they are truly asking and what they truly want to clarify. What is the “root question”? (Questions that students recognize as essential for them to take the initiative and live. These form the foundation of subjects and strategically established questions used to investigate and research.) Students will dig deep into their question awareness and discover questions they find valuable, develop these questions, discuss prior researches, and determine their perspectives and methods. Students will accomplish these through their presentations and dialogues with everyone in the class.

In this seminar, students will present their unfiltered awareness about questions in a communal place for discussion. This is a precious opportunity for students to have dialogues with others (other physical beings = experiences and emotions). The reason is that opportunities such as contribute to digging deep for their graduation thesis subjects and making them into knowledge comprehensible for others. Moreover, opportunities such as are extremely rare even in their vast lives.

Students should not waste such precious time. They should actively participate and freely present their views.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. みずからの問題意識を掘り下げる①
3. みずからの問題意識を掘り下げる②
4. みずからの問題意識を掘り下げる③
5. みずからの問題意識を掘り下げる④
6. みずからの問題意識を掘り下げる⑤
7. 先行研究および視点と方法の検討①
8. 先行研究および視点と方法の検討②
9. 先行研究および視点と方法の検討③
10. 先行研究および視点と方法の検討④
11. 調査の企画・計画・着手①
12. 調査の企画・計画・着手②
13. 調査の企画・計画・着手③
14. 調査の企画・計画・着手④

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

卒業論文は、まずもって自分自身のために書くものである。自分を問いなおす作業は、自分が生きているこの社会を問いな

すことにつながる。自分を豊かにしていくために、自分がよりよく生きていくために切実に考察され、意味と価値を生みだしていくような卒業論文は、おのずと「みんな」＝他者や社会に響きうるものになるはずである。

学ぶことは生きること。「これをやらなければ生きていけない」というような、自分にとって切実で価値あるテーマを掘り下げていてほしい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

発表内容(50%)/対話・議論への参加の積極性(50%)

テキスト(Textbooks)

適宜指示する。

参考文献 (Readings)

適宜紹介する。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard等)で指示する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA569／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	吉澤 夏子(YOSHIZAWA NATSUKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文の完成に向けて、テーマを確定し、論文の構成を考える。受講者一人ひとりが、各自のテーマに沿って、主要な文献についての検討を行ないながら、そのテーマがどのような意味で切実な「問題」なのかを明らかにする。

To prepare for their graduation thesis completion, students will select their subjects and thesis structures. Students will follow their own subjects and discuss main literatures. At the same time, students will clarify why these subjects are considered important questions.

授業の内容 (Course Contents)

3年次に各自が執筆したゼミ論について、卒業論文の構想を踏まえたうえで、その研究内容を報告し、問題関心を共有する。

Regarding to their thesis progress, students will report their researches based on the seminar report they created during third-year assignment. All students will then participate in discussion.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. ゼミ論＋卒業論文構想報告①
3. ゼミ論＋卒業論文構想報告①
4. ゼミ論＋卒業論文構想報告①
5. 文献紹介＋卒業論文構想報告②
6. 文献紹介＋卒業論文構想報告②
7. 文献紹介＋卒業論文構想報告②
8. 文献紹介＋卒業論文構想報告②
9. 文献紹介＋卒業論文構想報告②
10. 文献紹介＋卒業論文構想報告②
11. 卒業論文構想報告③
12. 卒業論文構想報告③
13. 卒業論文構想報告③
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

受講者は、ゼミ論集を必ず精読し、一人ひとりが、自分の研究テーマとの関連のなかで、内容を精査したうえで、コメントを準備し、積極的に議論に参加する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

研究報告(70%)／授業への参加度(30%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA571／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	コミュニティにおける社会問題		
担当者名 (Instructor)	西山 志保(NISHIYAMA SHIHO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文のテーマを決定するために、問題意識の形成、先行研究のレビュー、仮説の構築、研究方法の決定などの指導を通して作業を進める。

To determine their graduation thesis subjects, students will form awareness about their questions, review prior researches, construct hypotheses, and determine research methods. Students will receive instructions when proceeding in these tasks.

授業の内容 (Course Contents)

各自の卒業論文のテーマについて、構想発表を行い、先行研究のレビュー、資料やデータの収集方法、研究方法の決定などを行う。演習での報告・討論と個別指導などを通して、自らの問題意識の形成を目指す。

Students will present their concepts on their graduation thesis subjects, review prior researches, determine methods to collect document, data, and to research. Students will form awareness about their questions through reports, discussions, and private instructions during the seminar.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 卒論の書き方・テーマの組み立て方
3. 参加者による報告(1)
4. 参加者による報告(2)
5. 参加者による報告(3)
6. 参加者による報告(4)
7. 参加者による報告(5)
8. 中間総括
9. 参加者による報告(6)
10. 参加者による報告(7)
11. 参加者による報告(8)
12. 参加者による報告(9)
13. 参加者による報告(10)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)／報告レポート、発言、積極的関与(60%)

テキスト (Textbooks)

演習内で適宜指示する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA581／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	李 旼珍(LEE MINJIN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文作成の後半作業として、卒業論文の執筆のための作業を行い、卒業論文を完成する。

Students will work on writing and completing their graduation theses.

授業の内容 (Course Contents)

卒業論文を執筆、完成するに至るまでの諸作業、すなわち、テーマから設定された仮説を裏付けるデータの収集、データが仮説を支持するものかどうかについての検証、関連する社会学理論や先行研究の知見との関連づけ、目次の確定、執筆などの一連の作業を行う。ゼミ生は、数回のプレゼンテーションとディスカッションを通じて、卒業論文の完成度を高めることを目指してほしい。

卒業論文の独創性はテーマのオリジナリティにあるのはもちろん、データのオリジナリティにもある。オリジナル・データを集める努力を惜まず、必要なデータの収集に適した調査に積極的に取り組むことを卒論作成者に勧めたい。

Students will carry out various tasks required to write and complete their graduation theses, including establishing research hypotheses based on their themes, collecting data to test research hypotheses, analyzing survey data, connecting results of survey with relevant sociological theories and previous studies, finalizing structures of graduation theses, and writing. Students are able to improve the quality of graduation thesis through several presentations and discussions in class. The originality of graduation theses depends on uniqueness of its theme, but also on uniqueness of its data. Students are advised not to hold back from collecting original data. Students should actively conduct a survey to collect original data.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. 調査結果分析報告 1
3. 調査結果分析報告 2
4. 調査結果分析報告 3
5. 調査結果分析報告 4
6. 調査結果分析報告 5
7. 卒論執筆に関する技術的注意に関する説明
8. 全受講生の卒論構成(目次)発表
9. 卒論最終報告 1
10. 卒論最終報告 2
11. 卒論最終報告 3
12. 卒論最終報告 4
13. 卒論提出後の報告会 1
14. 卒論提出後の報告会 2

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

必要に応じて授業内で指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

ディスカッションへの参加(40%)/授業内報告(60%)

テキスト (Textbooks)

特に指定しない。

参考文献 (Readings)

授業時に随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA582／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	片上 平二郎(KATAKAMI HEIJIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文に執筆に向け、テーマを選定し、その土台をつくりあげていく。前提となる文献を探し、調査作業をはじめめるための基礎的な方法を身につける。

The course objective is to enable students to: (i) know how to analyze an issue from a sociological perspective, (ii) conduct their own research projects, and (iii) write their graduation thesis.

授業の内容 (Course Contents)

卒論の進行状況を報告し合いながら、その完成を目指していく。

The role of this seminar is to support the students' individual research projects. Students have the responsibility to present their research at different stages of their project. Discussions give the presenters an opportunity to see their research from different perspectives.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. テーマ報告
3. 個人発表
4. 個人発表
5. 個人発表
6. 個人発表
7. 個人発表
8. 個人発表
9. 個人発表
10. 個人発表
11. 個人発表
12. 個人発表
13. 卒論報告会
14. 卒論報告会

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

卒論完成に向けて、着実に蓄積を行っていくこと

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告、発表、ディスカッション(100%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard等)で指示する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA583／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	村瀬 洋一(MURASE YOICHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

論文を完成させるために計画を立て、仕事を進める総合的能力を身につける。目的、方法、分析結果、結論の4構成が明確な卒業論文を作成する。何を解明したのか明確な論文を作ること。自分独自の考えや発見を主張できるようになること。

Students should make their research plan to complete the dissertation. It is important to acquire an integrated ability to carry out your work. Create a graduation thesis with four components: purpose, method, analysis result, and conclusion. It is important to make a paper that clearly shows what you have elucidated. The ability to assert your own ideas and findings is important.

授業の内容(Course Contents)

卒業論文という1つの仕事を、自分の力で完成させるという経験は、仕事を進める総合的能力を鍛える上で、とても有益である。やりとげれば自信もつき、卒業後も、経験はとても役に立つ。自分自身で楽しく計画を立て、卒業論文に取り組むこと。研究とはあたらしい知見の発見が重要である。先行研究にこだわるだけでなく、自分自身の結論として何を言えるかをよく考える。春学期の作業をふまえ、以下の手順で卒論作成を進めること。既存の研究をもとに、自分なりの仮説を考えて、予想される結果をあらかじめ考えておくことも重要。論文を書くときは、まず、結論部分から書いてみるのが、1つのコツである。学生同士で討論し、他者の意見を吸収することも重要。秋学期に入ると、卒論提出までに時間的余裕は少ない。提出までは、学問以外の予定は極力入れずに卒論作成に集中すること。社会調査を行う場合、9月末までには準備を終了させる。11月中旬までに分析終了し、仮提出して、教員のコメントをもらうこと。

The experience of completing a series of tasks for a graduation thesis is very useful in training the overall ability to carry out work. The experience is still useful after graduation. Make your own schedule and carry out the work for your graduation thesis.

Finding a new knowledge is important for research. Not only to understand previous researches, it is important to think carefully what you can elucidate as your conclusion. Based on your work in the spring semester, make your graduation thesis according to the following procedure. Based on previous researches, it is also important to consider your own hypotheses and think about the expected results in advance. For writing a dissertation, it is a good trick to write from the conclusion part first. It is also important for students to discuss each other and to understand other's opinions. In the fall semester, there is not enough time to submit a graduation thesis. Until submission, do not make plans other than studying, and concentrate on making your thesis. If you would conduct a new social survey by yourself, you must finish preparation by the end of September. The analysis should be completed by the middle of November, be submitted provisionally, and get a professor's comment.

授業計画(Course Schedule)

1. 完成までの仕事の計画を作成し調査準備
2. 調査準備を終了
3. 完成までの仕事の計画を作成
4. 目次案を作成
5. 調査、観察、実験、データ分析等の実施
6. 分析と文章作成1
7. 分析と文章作成2
8. 分析と文章作成3
9. 分析結果を整理し論文本文を作成1
10. 分析結果を整理し論文本文を作成2
11. 卒論提出
12. 内容を再検討し再度の分析1
13. 内容を再検討し再度の分析2
14. 卒論発表会に向けて準備

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

秋学期中に何回か経過報告をできるよう、各自で準備すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内の課題(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 岩井紀子・保田時男、2007、『調査データ分析の基礎 ―JGSS データとオンライン集計の活用』、有斐閣 (ISBN:978-4641173286)
2. 狩野裕・三浦麻子、2020、『新装版 AMOS, EQS, CALIS による グラフィカル多変量解析 一目で見る共分散構造分析』、現代数学社 (ISBN:978-4768705407)
3. 佐藤嘉倫・尾嶋史章 編、2011、『現代の階層社会 1 格差と多様性』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130551311)
4. 豊田秀樹、2007、『共分散構造分析[Amos 編]―構造方程式モデリング』、東京図書 (ISBN:978-4489020087)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

卒論の日程や分析上の注意点などはゼミホームページをよく読むこと。卒論全体の構成をよく理解すること。また、卒論本文の書式例ファイルをよく見ること。

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/murase/>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA584／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	野呂 芳明(NORO YOSHIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

大学で学んだことの集大成として、卒業論文を執筆し完成させる。

As the final stage of studying in this university, students will write and finish their graduation theses.

授業の内容 (Course Contents)

卒業論文演習1での成果を踏まえた上で、卒業論文を仕上げていく。「なんとなく思っている」「ぼんやりといい考えがある」とことと、それを実際に文章化することの間には大きな落差がある。また卒業論文では、自分の考えをまとめて文章化するのはもとより、それを他者に正確に伝える記述力と、自らの調査研究を先行研究の学問的系譜にきちんと位置づけることが不可欠である。そのためには、独自性のある内容とともに、論文執筆の形式やルールに則ってまとめることも大変重要である。以上を踏まえて、演習での発表とディスカッション、教員による指導等を通じて、卒業論文を完成させていく。

Students will consider their findings in Thesis Writing Seminar 1 and complete their graduation theses. There exists a wide gap between thinking abstractly and writing them down in paragraphs. When writing graduation theses, students must write down their thoughts, convey them correctly to others, and understand their research's position in relation to prior researches in their academic contexts. As a result, students must create unique contents, while following rules and formats when writing their theses.

Students will consider the above, make presentations during seminar, participate in discussion, and receive instruction from professor when completing their graduation theses.

授業計画 (Course Schedule)

1. 論文作成中間報告(1)
2. 論文作成中間報告(2)
3. 論文作成中間報告(3)
4. 論文作成中間報告(4)
5. 論文作成中間報告(5)
6. 論文作成中間報告(6)
7. 論文作成中間報告(7)
8. 論文作成中間報告(8)
9. 論文作成中間報告(9)
10. 論文作成中間報告(10)
11. 論文作成中間報告(11)
12. 論文作成中間報告(12)
13. 口頭発表(1)
14. 口頭発表(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

このゼミでは、全員が順次、卒業論文の進捗状況について中間報告をおこなうので、事前の準備を必ずしておくこと。また、自分の報告の番でない時には、他のメンバーの報告について積極的にコメントをすること。受けたコメントは自身の論考に反映させるよう努める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内報告および下書き提出(70%)/口頭発表(30%)

テキスト (Textbooks)

特に指定しない。

参考文献 (Readings)

参考文献や資料は授業の中で適宜紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

対面での授業を原則とする。ただし、新型コロナウイルス感染の広がり等の諸事情を勘案し、5 回を上限にオンライン授業を実施することがある。実施回については、授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA585／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	卒業論文の完成		
担当者名 (Instructor)	中澤 渉(NAKAZAWA WATARU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

4年間の集大成として、卒業論文を完成させる。

Complete the graduation thesis as a compilation of four-year college life.

授業の内容 (Course Contents)

受講生は、このゼミで執筆の進捗状況について詳細に報告し、ゼミの中で受けたコメントをもとに修正を続けることで論文を完成させる。12月に卒論を提出した後は、各自卒業論文の内容について報告してもらう。

Students will present the progress of their graduation thesis in detail, and revise it by incorporating peer suggestions. After submitting their graduation thesis in December, they have to present the content of their graduation thesis.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション (割り当て、卒論提出にあたっての注意など)
2. 進捗状況報告 (1)
3. 進捗状況報告 (2)
4. 進捗状況報告 (3)
5. 進捗状況報告 (4)
6. 進捗状況報告 (5)
7. 進捗状況報告 (6)
8. 進捗状況報告 (7)
9. 進捗状況報告 (8)
10. 進捗状況報告 (9)
11. 進捗状況報告 (10)
12. 卒論発表 (1)
13. 卒論発表 (2)
14. 卒論発表 (3)

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

受講者は必ず進捗状況報告、完成した卒論の報告をそれぞれ1回行う。卒論の発表は、口述試験を兼ねる。必ず教員の個別指導を受けること。本提出の前に一度ゼミ内で提出し、教員のコメントを受けて修正したものを本提出する。具体的な面談の時期や方法については、初回の授業時に相談する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告(20%) / 授業への参加度 (発言・事前指導の取り組み) (20%) / 卒業論文 (本提出前のバージョンおよび卒論発表) (60%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 白井利明・高橋一郎、2013、『よくわかる卒論の書き方』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623065721)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

対面実施を基本とするが、状況に応じて大学の方針に従ってオンラインで実施することもありうるので、授業支援システム (Canvas LMS、Blackboard 等) の通知に注意すること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA586／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	前田 泰樹(MAEDA HIROKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

卒業論文演習1で設定された研究テーマにもとづいて、質的データの分析を行い、卒業論文を完成させる。

The purpose of this class is to complete a graduation thesis. Along with the research theme, participants are required to analyze qualitative data and complete their graduation thesis.

授業の内容(Course Contents)

卒業論文演習1をふまえて、卒業論文を完成するまでの作業をおこなう。卒業論文演習2においては、とくに質的データに関して十分な分析を行うことが重要である。そのために、データの分析を深めるための機会を可能な限り繰り返し設ける。分析の作業を通じて、必要に応じて、先行研究の検討等も行う。その上で、得られた分析結果にもとづいて、論理的な考察を加え、卒業論文を完成させる。

Appropriate analyses of qualitative data will be conducted. This class offers various opportunities to improve data analysis. Participants will complete their graduation theses through logical consideration of the obtained results.

授業計画(Course Schedule)

1. 質的データ分析(1)
2. 質的データ分析(2)
3. 質的データ分析(3)
4. 質的データ分析(4)
5. 質的データ分析(5)
6. 質的データ分析(6)
7. 論理的考察(1)
8. 論理的考察(2)
9. 論理的考察(3)
10. 論文完成作業(1)
11. 論文完成作業(2)
12. 論文完成作業(3)
13. 最終提出
14. 全体発表会

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

オンライン上でのやりとりが重要であるため、大学アドレスのメールを常にチェックし、指定課題関連書類を管理しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

定期的な指定課題の提出(50%)/ミーティング・面談への参加(50%)

テキスト(Textbooks)

適宜指示する。

参考文献(Readings)

適宜紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については別途指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA587／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	学びの集大成としての卒論を完成させる。(Complete a thesis as the culmination of your university studies.)		
担当者名 (Instructor)	本多 真隆 (HONDA MASATAKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

自らが設定したテーマと調査に主体的に取り組む、卒業論文を完成させる。自分の研究成果を公表し、ディスカッションすることで、完成度を高める。

The students will complete a graduation thesis by independently working on a research theme set by themselves and undertaking the necessary research program. The aim is to enhance the completeness of their learning by publishing the results of their research and discussing them with others.

授業の内容 (Course Contents)

春学期および夏休み中の調査の成果を踏まえて、受講者の主体的な取組みのもとに、卒業論文を完成させる。講義では執筆の進捗状況についての報告とディスカッションを行う。

提出後は、卒業論文の内容を報告してもらう。何を達成し、何が課題として残っているかを知るまでが重要である。

Based on the results of research conducted during the spring semester and summer vacation, students will complete their graduation theses under their own initiative. In the lecture, students will be asked to report on and discuss the progress of their writing.

After submission, students will be asked to report on the contents of their graduation theses. It is important to know what has been accomplished and what remains to be done.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 秋学期のスケジュールの確認
2. 報告とディスカッション 1
3. 報告とディスカッション 2
4. 報告とディスカッション 3
5. 報告とディスカッション 4
6. 報告とディスカッション 5
7. 報告とディスカッション 6
8. 報告とディスカッション 7
9. 報告とディスカッション 8
10. 報告とディスカッション 9
11. 報告とディスカッション 10
12. 卒論発表 1
13. 卒論発表 2
14. 卒論発表 3

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

講義では進捗状況の報告と、完成後の報告を行う。報告担当回以外も適宜進捗状況を聞く場合がある。進捗状況についての報告、質問は講義の時間外でも受け付けるので、遠慮なく行うこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告(70%) / 議論の参加(30%)

テキスト (Textbooks)

なし。

参考文献 (Readings)

講義中に適宜紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA588／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	小倉 康嗣(OGURA YASUTSUGU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「卒業論文演習1」の成果と調査をふまえて解釈・分析・考察をおこない、作品化し、卒業論文を完成させる。

Students will interpret, analyze, and consider their findings and results from Thesis Writing Seminar 1. Students will convert these into their works and complete their graduation theses.

授業の内容 (Course Contents)

「卒業論文演習1」を引き継いで、卒業論文を完成するまでの作業をおこなう。

卒業論文およびその演習に対する考え方や構え方は「卒業論文演習1」と同様だが、「卒業論文演習2」で特に重要になってくる作業が、調査をふまえて解釈・分析・考察をおこない、自分自身が納得できかつ他者に説得力をもって伝わる表現＝作品にしていけることである。

それを、各自の発表をめぐるゼミ生全員での対話と議論、場合によっては個別指導によっておこなっていく。

Following Thesis Writing Seminar 1, students will work on completing their graduation theses.

This seminar's basic stance is the same as Thesis Writing Seminar 1. Of particular importance for Thesis Writing Seminar 2 is interpreting, analyzing, and considering their findings and results from researches and making them into expressions (works) that they and other will find convincing.

Students will accomplish these through discussions and dialogues about their presentations with everyone in the class. If necessary, students will receive private instructions from their teacher.

授業計画 (Course Schedule)

1. 調査の解釈・分析①
2. 調査の解釈・分析②
3. 調査の解釈・分析③
4. 調査の解釈・分析④
5. 結論に向けての考察①
6. 結論に向けての考察②
7. 結論に向けての考察③
8. 結論に向けての考察④
9. 作品化(表現)をめぐる検討①
10. 作品化(表現)をめぐる検討②
11. 作品化(表現)をめぐる検討③
12. 全体発表会①
13. 全体発表会②
14. 全体発表会③

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

卒業論文は、まずもって自分自身のために書くものである。自分を問いなおす作業は、自分が生きているこの社会を問いなおすことにつながる。自分を豊かにしていくために、自分がよりよく生きていくために切実に考察され、意味と価値を生みだしていくような卒業論文は、おのずと「みんな」＝他者や社会に響きうるものになるはずである。

学ぶことは生きること。「これをやらなければ生きていけない」というような、自分にとって切実で価値あるテーマを掘り下げていってほしい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

発表内容(50%)/対話・議論への参加の積極性(50%)

テキスト (Textbooks)

適宜指示する。

参考文献(Readings)

適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA589／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	吉澤 夏子(YOSHIZAWA NATSUKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

受講者一人ひとりが、演習での文献の検討および個人面談を通じて、自ら設定した「問題」をどのように呈示し展開していけば他者を説得できるのかを考え、卒業論文を完成させる。

In this seminar, every student will participate in literature discussions and individual interviews. To complete their graduation theses, they will think about how they can present their questions and convince others.

授業の内容(Course Contents)

受講者は、卒論の進捗具合について、夏休みの課題として作成した目次や内容の概要等にもとづいて、研究報告を行ない、ゼミ員全員でディスカッションをする。

Regarding to their thesis progress, students will report their researches based on table of contents and content summary they created during summer-holiday assignment. All students will then participate in discussion.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 卒論進捗状況の報告①
3. 卒論進捗状況の報告①
4. 卒論進捗状況の報告①
5. 卒論進捗状況の報告②
6. 卒論進捗状況の報告②
7. 卒論進捗状況の報告②
8. 卒論進捗状況の報告③
9. 卒論進捗状況の報告③
10. 卒論進捗状況の報告③
11. 卒論の内容の検討(個人・グループ面談)
12. 卒論の内容の検討(個人・グループ面談)
13. 卒論報告会
14. 卒論報告会

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

受講者は、各自が立てた卒論作成スケジュールにもとづき、一つひとつの作業を進めながら、授業においては、他のゼミ員の研究報告について、自分の研究テーマと関連づけながら、レジュメ・レポート等をよく精査し、コメントを準備する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

研究報告(70%)／授業への参加度(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA591／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	西山 志保(NISHIYAMA SHIHO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文作成の後半作業として、自らのテーマに基づき調査を行い分析・考察を行い、論文を作成することが目標です。

In the second half of their graduation theses, students will investigate, analyze, and reflect on their chosen subjects to create their theses.

授業の内容 (Course Contents)

夏休み中に行ったフィールド調査に基づき、分析・考察を行い、論文構成を決定する。演習での中間報告と討論、個別指導などを組み合わせながら進める。詳細については開講時にアナウンスする。

Students will use field surveys completed during summer holiday to analyze, reflect, and determine their thesis structures. This seminar will proceed by mixing in interim report, discussion, and private instruction. Details will be announced at the beginning of seminar.

授業計画 (Course Schedule)

1. 調査研究について
2. 参加者の報告(1)
3. 参加者の報告(2)
4. 参加者の報告(3)
5. 参加者の報告(4)
6. 参加者の報告(5)
7. 参加者の報告(6)
8. 参加者の報告(7)
9. 参加者の報告(8)
10. 参加者の報告(9)
11. 参加者の報告(10)
12. 参加者の報告(11)
13. 参加者の報告(12)
14. 参加者の報告(13)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

演習内で指示します

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)／報告レポート、発言、積極的関与(30%)／最終報告(30%)

テキスト (Textbooks)

各自のテーマに応じて指示する。

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA755／卒業研究1 (Senior Research 1)		
担当者名 (Instructor)	西山 志保(NISHIYAMA SHIHO) 前田 泰樹 MAEDA HIROKI) 中澤 渉(NAKAZAWA WATARU) 李 旻珍(LEE MINJIN) 本多 真隆(HONDA MASATAKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

演習に所属しない者が、社会学の諸領域を幅広く習得することにより、社会学士として実社会に出るにふさわしい見識を獲得することを目指す。

For students who do not belongs to seminars, this course is intended to give a broad understanding of the various areas of sociology. This course allows for the development of insight about society appropriate for a sociology major.

授業の内容 (Course Contents)

冒頭で提示された 5 課題のうち 2 つを選択して、それぞれ指定された課題レポートを作成し、口頭試問に合格することで、単位が認定される。学科の課題担当教員に相談しながら、課題レポートの作成を進める。スケジュール等については R Guide で適宜確認し、締切日は厳守すること。

Students select two of the five subjects presented at the beginning of the course, and are awarded credits based on completion of papers for each subject and by passing the oral exams. While preparing papers, students should consult with the professor on the each subject. Students should check the schedule in the R Guide and should keep the deadlines strictly.

授業計画 (Course Schedule)

1. テーマの設定、今後の進め方について説明
2. テーマ設定のために文献検索を行い文献リスト作成
3. テーマ設定のために学術書を読む 1
4. テーマ設定のために学術書を読む 2
5. 学術雑誌掲載の論文を読む 1
6. 学術雑誌掲載の論文を読む 2
7. 仮説の設定、基礎的な調査や分析実施 1
8. 仮説の設定、基礎的な調査や分析実施 2
9. 中間提出後に今後の方針を教員と相談
10. 研究計画の作成(目的、方法、仮説を明確に計画を完成させる)
11. 分析や調査実施 1
12. 分析や調査実施 2
13. 分析結果をもとに考察し、結論を文章化する
14. 結論として自分が主張したいことを中心に文章をまとめ研究を完成

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

別途提示される課題表を見た上で、2 つの課題について自由にテーマを設定し、最終的にレポートとして提出すること。課題担当教員と相談して計画を立て、計画的に時間を使い、必要な準備を行うことが重要である。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

1 つめの課題の成績(50%)/2 つめの課題の成績(50%)

選択した 2 課題について、それぞれ 4000 字以上の課題レポートを作成し、口頭試問を受けること(1 課題 50 点満点、2 課題で 100 点満点)。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

文章の書き方や文献の引用・挙示の仕方については、立教大学の大学教育開発・支援センター発行による Master of Writing をよく読むこと。

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe.html>

必要に応じて課題担当教員にメールで連絡をとり、中間提出等をめぐって主体的に助言・指導を受けましょう。メール連絡は立教大学メールで行われるので、確認を怠らないようにしてください。

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA855／卒業研究2 (Senior Research 2)		
担当者名 (Instructor)	片上 平二郎(KATAKAMI HEIJIRO) 村瀬 洋一(MURASE YOICHI) 野呂 芳明(NORO YOSHIKI) 鶴田 幸恵(TSURUTA SACHIE) 石川 良子(ISHIKAWA RYOKKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC4900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

演習に所属しない者が、社会学の諸領域を幅広く習得することにより、社会学士として実社会に出るにふさわしい見識を獲得することを目指す。

For students who do not belongs to seminars, this course is intended to give a broad understanding of the various areas of sociology. This course allows for the development of insight about society appropriate for a sociology major.

授業の内容 (Course Contents)

冒頭で提示された 5 課題のうち 2 つを選択して、それぞれ指定された課題レポートを作成し、口頭試問に合格することで、単位が認定される。学科の課題担当教員に相談しながら、課題レポートの作成を進める。スケジュール等については R Guide で適宜確認し、締切日は厳守すること。

Students select two of the five subjects presented at the beginning of the course, and are awarded credits based on completion of papers for each subject and by passing the oral exams. While preparing papers, students should consult with the professor on the each subject. Students should check the schedule in the R Guide and should keep the deadlines strictly.

授業計画 (Course Schedule)

1. テーマの設定、今後の進め方について説明
2. テーマ設定のために文献検索を行い文献リスト作成
3. テーマ設定のために学術書を読む 1
4. テーマ設定のために学術書を読む 2
5. 学術雑誌掲載の論文を読む 1
6. 学術雑誌掲載の論文を読む 2
7. 仮説の設定、基礎的な調査や分析実施 1
8. 仮説の設定、基礎的な調査や分析実施 2
9. 中間提出後に今後の方針を教員と相談
10. 研究計画の作成(目的、方法、仮説を明確に計画を完成させる)
11. 分析や調査実施 1
12. 分析や調査実施 2
13. 分析結果をもとに考察し、結論を文章化する
14. 結論として自分が主張したいことを中心に文章をまとめ研究を完成

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

別途提示される課題表を見た上で、2 つの課題について自由にテーマを設定し、最終的にレポートとして提出すること。課題担当教員と相談して計画を立て、計画的に時間を使い、必要な準備を行うことが重要である。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

1 つめの課題の成績(50%)/2 つめの課題の成績(50%)

選択した 2 課題について、それぞれ 4000 字以上の課題レポートを作成し、口頭試問を受けること(1 課題 50 点満点、2 課題で 100 点満点)。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

文章の書き方や文献の引用・挙示の仕方については、立教大学の大学教育開発・支援センター発行による Master of Writing をよく読むこと。

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe.html>

必要に応じて課題担当教員にメールで連絡をとり、中間提出等をめぐって主体的に助言・指導を受けましょう。メール連絡は立教大学メールで行われるので、確認を怠らないようにしてください。

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／文化の社会理論 (Social Theory and Culture)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	人類学と社会学の交差点から考える		
担当者名 (Instructor)	木村 自(KIMURA MIZUKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	現代文化学科2年次生以上および社会学科・メディア社会学科学生用コード(人数制限科目)		

授業の目標(Course Objectives)

文化を分析するための理論や概念を習得することで、日常生活に潜む身近で多様な文化現象を新たな視点から理解する力を獲得する。

This course explores new perspectives for understanding various cultural phenomena in our daily lives through learning analytical theories and concepts of cultures.

授業の内容(Course Contents)

私たちはしばしば、「文化の違い」という言葉を用いて、どこかに「日本文化」や「中国文化」や「ドイツ文化」があるかのように考えてしまいがちです。でも、「文化の違い」は本当にそれほど明確な境界線で切り分けられているものなのでしょうか。「文化」はどのように世代を越えて受け継がれ、どのように私たちの血肉となっていくのでしょうか。近代科学が世界を覆いつくしてしまったら、「文化の違い」はなくなるのでしょうか。この講義では、(文化)人類学と社会学が相互に影響を与え、共通して探求してきた文化理論を取り上げて解説します。もちろん理論の話だけではつまらないので、異文化の事例や身近な経験に関して議論し、写真や映像資料と一緒に見ながら考えます。

We tend to consider that there are tangible entities such as “Japanese culture”, “Chinese culture” or “German culture” and so forth by using the phrase “cultural difference”. But do these “cultural differences” really have clear boundaries? How does this “culture” transfer through generations? How does it become a part of ourselves? Will these “cultural differences” disappear if the modern sciences cover our entire globe? This course explains cultural theories of anthropology and sociology which have been trying to answer these questions. In order to make this course engaging, we will discuss various personal experiences of different cultures and use image slides and videos.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス—社会学と人類学
2. 文化を内側から理解すること—言葉と文化
3. 文化を内側から理解すること—文化と身体技法
4. 文化を内側から理解すること—文化と実践知
5. 家族と親族(1)
6. 家族と親族(2)
7. 経済と贈与(1)
8. 経済と贈与(2)
9. 儀礼と境界(1)
10. 儀礼と境界(2)
11. 病と文化
12. 自然と文化(1)
13. 自然と文化(2)
14. まとめと復習

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の授業で提示する参考文献を探して、できるだけ読むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(70%)/出席およびリアクションペーパーの内容(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 松村圭一郎・中川理・石井美保編、2019、『文化人類学の思考法』、文化人類学の思考法 (ISBN:978-4790717331)
 2. 田辺繁治、2003、『生き方の人類学:実践とは何か』、講談社 (ISBN:4061496557)
 3. 前川啓治ほか、2018、『21 世紀の文化人類学』、新曜社 (ISBN:4788515826)
 4. 松村圭一郎、2017、『うしろめたさの人類学』、ミシマ社 (ISBN:978-4903908984)
- その他参考文献は授業中に指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

【授業の形式】授業は写真や映像などの視覚資料を多用する。また、授業中に学生に発言を求めることがある。
【フィードバック】毎回提出されるリアクションペーパーの一部を翌週に配布し、コメントする。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD234／都市社会構造論 (Social Structure of Urban Society)		
担当者名 (Instructor)	下村 恭広(SHIMOMURA HIROSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

東京の社会-空間構造の特徴について、社会学的概念を用いて説明できるようになる。
現代都市の社会-空間構造の変容過程について、社会学的概念を用いて説明できるようになる。

Students will be able to explain characteristics of society and space in Tokyo with sociological concepts.
Students will be able to explain transformations of society and space in Tokyo with sociological concepts.

授業の内容(Course Contents)

都市空間は建物や人々が単に雑然と集まっているだけに見えるが、そうした建造物群やそれらを生み出す人々の分布を丁寧に観察すると、実はある種のパターンが存在することがわかる。このパターンを都市の空間構造と呼ぼう。このような空間構造の成り立ちには、どのような要因が働いているのだろうか？様々な都市を比較したり、ひとつの都市の過去と現在とを比較すると、社会変動に伴って空間構造も変化していくことが分かる。この授業では、現代の東京を中心的な考察の対象に据え、以上のような都市の空間構造の社会的側面を理解するための手だてについて、都市社会学および隣接する諸分野(地理学や都市史など)の知見を紹介しながら解説する。

As 'environmental problems' enter our daily vocabularies, their abundance around us become apparent. Everyone will agree that it is desirable to solve these problems. But at the same time, we know that solving environmental problems is not easy. What perspectives are required to solve these environmental problems?
In this lecture, students will think about environmental problems and their solutions by referring to environmentally exploitative actions which are or were performed in regional society daily lives. In other words, students will apply cultural theory when approaching these environmental problems.

授業計画(Course Schedule)

1. コースガイダンス
2. シカゴ学派都市社会学の社会-空間構造論(1)
3. シカゴ学派都市社会学の社会-空間構造論(2)
4. 近代東京の社会-空間構造(1)
5. 近代東京の社会-空間構造(2)
6. 近代東京の社会-空間構造(3)
7. グローバル化する都市の社会-空間構造(1)
8. グローバル化する都市の社会-空間構造(2)
9. グローバル化する都市の社会-空間構造(3)
10. ジェントリフィケーションと都市の社会-空間構造(1)
11. ジェントリフィケーションと都市の社会-空間構造(2)
12. 「リノベーション」と東京の社会-空間構造(1)
13. 「リノベーション」と東京の社会-空間構造(2)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業で扱う事柄の予習になるような内容の課題を複数回課す予定です。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/学期中の課題(30%)

テキスト(Textbooks)

テキストは使用しない。

参考文献(Readings)

1. 城所哲夫・瀬田史彦、2021、『ネオリベリズム都市と社会格差』、東信堂

2. 陣内秀信、1992、『東京の空間人類学』（ちくま学芸文庫）、筑摩書房
 3. 中筋直哉・五十嵐泰正、2013、『よくわかる都市社会学』、ミネルヴァ書房
 4. 橋本健二・浅川達人、2020、『格差社会と都市空間：東京圏の社会地図 1990-2010』、鹿島出版会
 5. 藤塚吉浩、2017、『ジェントリフィケーション』、古今書院
 6. 松本康、2021、『「シカゴ学派」の社会学』、有斐閣
 7. 水内俊雄・加藤政洋・大城直樹、2008、『モダン都市の系譜：地図から読み解く社会と空間』、ナカニシヤ出版
- その他は適宜授業時に紹介します。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD236／国際社会学 (Global Sociology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国境を超えて広がる社会現象の分析視座を知る		
担当者名 (Instructor)	石井 香世子(ISHII KAYOKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業では、国境を超えて広がる社会現象を捉える社会的な視座について、どのようなものがあるか基本的な分析視座を学ぶことを目指します。学期の終わりには、「移民問題」「難民問題」「環境問題」「紛争問題」といったものが、国家の単位を越えてどのように絡み合っているかという構造を分析する力を養っていることを目指します。

In this course, we will aim to get to know the basic view of what types of sociological perspectives – that capture social phenomena that spread across borders – are available. When the classes for the first semester are over, the aim is that students understand that social issues such as “immigrants and refugee,” “environment,” and “conflict” are difficult to solve if they are considered separately from their respective societies and cultures.

授業の内容 (Course Contents)

授業全体を通して、国家を超える社会現象をとらえる社会的な視座を、一通り学んでいきます。具体的には、毎回ひとつずつ、「難民」「家族」「教育」「医療」「観光」「宗教」「環境」「犯罪」「紛争」といった事例を取り上げ、教科書に沿って分析していきます。

毎回の授業は、教科書の内容に沿って1章ずつ進みます。

Throughout the course, students will learn sociological perspectives that capture culture and society. Specifically, in each class, one example will be taken up and analyzed according to the textbook, such as “refugees,” “family,” “education,” “medical care,” “tourism,” “religion,” “environment,” “crime,” and “conflict.” In each class, we will advance one chapter at a time according to the contents of the textbook.

授業計画 (Course Schedule)

- 教科書第2章「移民と国民の境界」をもとに、移民を捉える基本的な視座を学びます。
- 教科書第3章「グローバル化時代の難民・国内避難民」をもとに、難民・国内避難民を捉える視座を学びます。
- 教科書第4章「無国籍の人はナニジンですか」をもとに、今日の社会で無国籍者が直面する問題について学びます。
- 教科書第5章「越境する家族」をもとに、多文化家族を多面的に捉える視座を学びます。
- 教科書第6章「グローバル化とトランスナショナル教育」をもとに、多文化時代の教育の現状について学びます。
- 教科書第7章「医療におけるグローバル化の進展」をもとに、医療が国境を超える時代をどう分析するかを学びます。
- 教科書第8章「グローバル化時代の観光」をもとに、文化を売り買いする商品としての観光を分析する視座を学びます。
- 教科書第9章「グローバル化とメディア」をもとに、国境を超える民族とメディアについて学びます。
- 教科書第10章「グローバル化時代の宗教とアイデンティティ」をもとに、多文化・多宗教社会を新たな視点から学びます。
- 教科書第11章「犯罪のグローバル化」をもとに、国境を超える犯罪とその対策について学びます。
- 教科書第12章「環境・資源・グローバル化」をもとに、文化と資源管理が絡み合った状況を学びます。
- 教科書第13章「紛争のグローバル化」をもとに、を捉える視座を学びます。
- 教科書第14章「豊かな国のなかに広がる貧困」をもとに、文化・社会と国境の関係を再考する視点を学びます。
- 教科書第15章「ボーダーレス化する市場」をもとに、消費文化が国境を超えて広がるメカニズムを捉える視座を学びます。

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業の前にざっと教科書に目を通してだけで、授業内容がずっとわかりやすくなります。授業の後にじっくり教科書を読み返すと、授業中に理解しきれなかった内容が理解できるが増えます。教科書と授業内容とは両輪の関係にあると考えて、授業の前か後かに教科書に目を通す習慣をつけてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%) / レスポンスペーパーその他提出物(20%)

テキスト (Textbooks)

- 石井香世子(編著)、2017、『国際社会学・入門』、ナカニシヤ出版 (ISBN:978-4-7795-1134-9)

参考文献 (Readings)

適宜、授業のなかで示します。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD238／環境と文化 (Environment and Culture)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	なぜ文化の視点から「環境問題」を捉えなければならないのか		
担当者名 (Instructor)	二宮 咲子(NINOMIYA SAKIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

「環境問題」に対する専門家の見解やニュース・新聞等の報道を鵜呑みにせず、自分自身の頭と心と体で「何が問題なのか」を考えることができる。

「なぜ文化の視点から『環境問題』を捉えなければならないのか」という問いに対して、環境社会学及びその関連領域の重要な用語や鍵となる概念及び研究成果を理解したうえで、自分自身の言葉で応答することができる。

Consider what the problems are with your own mind, heart and action.

Criticize the opinions of experts or news reports on environmental issues.

Understand the basic concepts and important research findings in environmental sociology and related fields.

Be able to answer in your own words the question, "Why do we need to consider 'environmental issues' from a cultural perspective?"

授業の内容(Course Contents)

「環境問題」に対する専門家の見解やニュース・新聞等の報道を鵜呑みにせず、自分自身の頭と心と体で「何が問題なのか」を考えるためには、文化の視点から「環境問題」を捉える視座を身につけることが肝要である。

本授業では、「なぜ文化の視点から『環境問題』を捉えなければならないのか」という問いに対して、「環境問題」の現場から応答してきた環境社会学及びその関連領域における重要な用語や鍵となる概念及び研究成果を解説する。

講師自身が「環境問題」の現場でおこなったフィールドワークに基づくオリジナル教材をプロジェクターで映写(又は Zoom で画面共有)しながら、受講学生にも意見を求める対話型の授業である。

In order to be able to think about "environmental problems" with one's own mind, heart, and body, instead of relying on the opinions of experts and news reports on "environmental problems," it is essential to acquire a perspective on "environmental problems" from a cultural perspective.

In this class, important research results in environmental sociology and related fields will be introduced and explained to answer the question, "Why should we view 'environmental problems' from a cultural perspective?"

This is an interactive class where the lecturer prepares original teaching materials based on fieldwork in "environmental issues" and asks the students for their opinions while projecting the materials on a projector (or sharing the screen via Zoom).

授業計画(Course Schedule)

- オリエンテーション
担当講師の紹介、授業の目標、授業の内容、授業計画、予習・復習、成績評価について説明する。
- 「環境問題」の現場から考える: 釧路湿原流域の特別天然記念物タンチョウの保護
- 「環境問題」の「問題化の過程」: 環境の科学的評価と規制基準型の環境政策
- 「問題化の過程」に潜む人間と自然の二項対立図式とその来歴
- 何が問題なのか: 中間レポートにむけて (Zoom を用いたオンライン授業・ゲストスピーカー予定)
- 中間レポートの講評と前半の授業のまとめ (Zoom を用いたオンライン授業予定)
- 再び「環境問題」の現場から考える: 釧路湿原流域の特定外来生物ウチダザリガニの防除
- 「環境問題」の現場から応答する: 人間と自然とのかかわりという視座
- 「生物多様性の確保」という環境政策の理念の現状・課題・可能性
- 生態的多様性と文化的多様性が支える「生態系サービス」
- 身近な農園から自然と共に生きる暮らしをデザインする: Chigasaki Organic Farm
- 身近な農園から自然と共に生きる社会をデザインする: 小田原みかん農園再生プロジェクト
- なぜ文化の視点から「環境問題」を捉えなければならないのか: 最終レポートにむけて (Zoom を用いたオンライン授業・ゲストスピーカー予定)
- 最終レポートの講評と後半の授業のまとめ (Zoom を用いたオンライン授業予定)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習:各授業回のテーマについてインターネット情報調査をおこない、基本的な用語や概念の意味・定義について調べ、ノートにまとめておく。

復習:レポート課題についてインターネット情報調査、文献資料調査、聞き取り調査等をおこない、指定された期日までに提出できるように計画的に取り組む。

成績評価方法・基準(Evaluation)

ミニレポート(40%)/中間レポート(20%)/最終レポート(Final Report)(40%)

ミニレポート課題は毎回の授業時間内に口頭で出題します。次回の授業前日の日曜正午までに提出してください。次回の授業時間内に優秀なミニレポートの内容をスクリーンに映写してフィードバックします。中間レポートは第5回の授業週の金曜日 24 時を提出締切とします。優秀レポートの講評を第6回授業時間内に Zoom 画面共有にて実施します。最終レポートは第13回の授業週の金曜日 24 時を提出締切とします。優秀レポートの講評を第14回授業時間内に Zoom 画面共有にて実施します。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 鬼頭秀一、1996、『自然保護を問いなおすー環境倫理とネットワーク』、筑摩書房 (ISBN:4480056688)
2. 鬼頭秀一・福永真弓(編)、2009、『環境倫理学』、東京大学出版会 (ISBN:4130623117)
3. 宮内泰介(編)、2013、『なぜ環境保全はうまくいかないのかー現場から考える「順応的ガバナンス」の可能性』、新泉社 (ISBN:4787713018)
4. ヴィクター・パバネック(著)、阿部公正(翻訳)、2020(復刊)、『生きのびるためのデザイン』、晶文社 (ISBN:4794971850)
5. 上平崇仁、2020、『コ・デザイナーーデザインすることをみんなの手に』、NTT 出版 (ISBN:4757123847)
6. 二宮咲子、『共生社会のデザイナーー自然と共に生きる人びとに学ぶー』

授業時間内に担当講師が執筆・出版予定の文献(No.6)の詳細情報を示します。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

環境省ホームページ「自然環境・生物多様性」<http://www.env.go.jp/nature/>

映像:戦後史証言プロジェクト 日本人は何をめざしてきたのか 2013年度「地方から見た戦後」

第3回 釧路湿原・鶴居村 開拓の村から国立公園へ

https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/postwar/bangumi/movie.cgi?das_id=D0001820006_00000

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD239／セラピー文化論 (Therapeutic Culture)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	心理主義の社会学		
担当者名 (Instructor)	小池 靖(KOIKE YASUSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

「心理学的・カウンセリング的な発想・実践の広がり」を社会的に考察する。

A sociological examination of "the spread of psychological and counseling ideas and practices."

授業の内容 (Course Contents)

心理学、心理療法、セラピー、ヒーリング、癒し、自己啓発などの拡大を、具体的な事例をもってとらえ直し、現代の精神状況を理解する一助とする。トピックは、個人の成長に関するものだけでなく、現代の政治、司法、グローバル化などにも及ぶ。授業スライドの配付は、原則としておこなわないものとする。

The expansion of psychology, psychotherapy, healing, healing, and self-help will be recaptured with specific examples to help understand the contemporary way of life. Topics include not only those related to personal growth, but also contemporary culture, welfare, justice, and globalization. As a rule, powerpoint slides will not be handed out.

授業計画 (Course Schedule)

1. 全体案内
2. 心理主義の社会学
3. 心理療法におけるグループ体験
4. アイスブレイクとワークショップ
5. 自助グループとトラウマ説
6. 「うつ」ブーム
7. 発達障害の時代
8. 司法と心理主義
9. 震災とトラウマ
10. ポジティブ・シンキングと自己啓発書
11. 催眠
12. 自己啓発セミナー
13. スピリチュアル・カウンセリング
14. まとめ

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時に指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出欠・リアクションペーパー・授業への貢献度など(30%)

テキスト (Textbooks)

特になし。

参考文献 (Readings)

1. 小池靖、2007、『セラピー文化の社会学』、勁草書房

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

新型コロナウイルス感染拡大状況などによっては、授業の形式を変更することもある。その場合は、大学ないし教員の指示に従うこと。

諸注意

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD240／消費文化論 (Consumer Culture)		
担当者名 (Instructor)	寺島 拓幸(TERASHIMA TAKUYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

- ・既存の消費文化論の主張と問題点を説明できる。
- ・消費文化の歴史的変遷と現状について説明できる。
- ・消費文化がもたらす社会問題を説明できる。
- ・今後あるべき望ましい消費のヴィジョンについて論じられる。

- ・Students will be able to explain allegations and problems found in existing consumer culture theory.
- ・Students will be able to explain historical transitions and current states of consumer cultures.
- ・Students will be able to explain social problems caused by consumer cultures.
- ・Students will be able to discuss desirable consumer vision for the future.

授業の内容 (Course Contents)

現代社会の文化を「消費文化」という観点からとらえ、その諸側面、社会背景と社会的影響、歴史的変遷と今後の方向性について体系的に検討する。前半は、消費社会のしくみや消費文化によって引き起こされているさまざまな社会問題について解説する。中間ワークとして映像資料の視聴とディスカッションを挟み、後半ではリスク対処、デジタル化、持続可能性など消費文化の現代的な側面について検討する。

Students will study modern society culture from consumer culture perspective. Students will discuss systematically its various aspects, social contexts, social impacts, historical transitions, and future trends. In the first half, professor will explain the mechanisms of consumer society and how its culture causes various social issues. For their interim works, students will watch video materials and participate in discussions. In the second half, students will discuss contemporary aspects of consumer culture such as risk reduction, digitalization, and sustainability.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 消費社会とは何か
3. 消費社会の成立と展開
4. 現代資本主義と消費社会
5. 消費と広告・マーケティング
6. 消費社会の諸問題
7. 中間ワーク——映像資料の視聴と議論
8. 消費社会の人間像
9. 消費文化のゆくえ
10. リスク社会の到来と消費
11. 情報社会化の進行と消費
12. 環境問題の深刻化と消費社会
13. 持続可能な消費社会を目指して
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

予復習については各回の最後に指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

参加状況・毎回の課題(40%)・中間ワーク(20%)・最終テスト(Final Test)(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 間々田孝夫・藤岡真之・水原俊博・寺島拓幸、2021、『新・消費社会論』、有斐閣 (ISBN:4641174610)

参考文献 (Readings)

1. 間々田孝夫、2016、『21 世紀の消費——無謀、絶望、そして希望』、ミネルヴァ書房 (ISBN:4623075397)

授業中に適宜紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

- PowerPoint を使用した講義形式で、映像資料を適宜活用する。
- 各回の課題は個人またはグループで取り組み、Web フォームに提出してもらう。課題の共有および講評は授業内におこなう。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／セラピー文化論 (Therapeutic Culture)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	心理主義の社会学		
担当者名 (Instructor)	小池 靖(KOIKE YASUSHI)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

「心理学的・カウンセリング的な発想・実践の広がり」を社会的に考察する。

A sociological examination of "the spread of psychological and counseling ideas and practices."

授業の内容 (Course Contents)

心理学、心理療法、セラピー、ヒーリング、癒し、自己啓発などの拡大を、具体的な事例をもってとらえ直し、現代の精神状況を理解する一助とする。トピックは、個人の成長に関するものだけでなく、現代の政治、司法、グローバル化などにも及ぶ。授業スライドの配付は、原則としておこなわないものとする。

The expansion of psychology, psychotherapy, healing, healing, and self-help will be recaptured with specific examples to help understand the contemporary way of life. Topics include not only those related to personal growth, but also contemporary culture, welfare, justice, and globalization. As a rule, powerpoint slides will not be handed out.

授業計画 (Course Schedule)

1. 全体案内
2. 心理主義の社会学
3. 心理療法におけるグループ体験
4. アイスブレイクとワークショップ
5. 自助グループとトラウマ説
6. 「うつ」ブーム
7. 発達障害の時代
8. 司法と心理主義
9. 震災とトラウマ
10. ポジティブ・シンキングと自己啓発書
11. 催眠
12. 自己啓発セミナー
13. スピリチュアル・カウンセリング
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時に指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出欠・リアクションペーパー・授業への貢献度など(30%)

テキスト (Textbooks)

特になし。

参考文献 (Readings)

1. 小池靖、2007、『セラピー文化の社会学』、勁草書房

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

新型コロナウイルス感染拡大状況などによっては、授業の形式を変更することもある。その場合は、大学ないし教員の指示に従うこと。

諸注意

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD244／都市文化論 (Urban Culture)		
担当者名 (Instructor)	杉山 和明(SUGIYAMA KAZUAKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

現代の日常生活が営まれる舞台となる都市空間の成り立ちと都市の文化の特徴について知っておくことは、自らの生活環境の諸問題を把握し考察していく際に不可欠である。この講義では、近現代のさまざまな地域の事例を取り上げながら、都市文化について理論的かつ経験的に理解することを目的とする。

It is essential to know the origins of urban space and the characteristics of urban culture in order to understand and consider the various problems of our living environment. This lecture aims to provide a theoretical and empirical understanding of urban culture by examining examples from various modern and contemporary regions.

授業の内容 (Course Contents)

人文地理学、都市社会学ならびにその近接分野で蓄積されてきた知見をもとに、とりわけ余暇活動に関わる具体的なテーマを通じて、都市文化の変容について考えていく。さまざまな社会的立場によって見方が変化する、都市文化の正と負の側面について取り上げる。

Based on the knowledge accumulated in human geography, urban sociology and its neighboring fields, we will consider the transformation of urban culture, especially through specific themes related to leisure activities. We will discuss the positive and negative aspects of urban culture, which are viewed differently depending on various social positions.

授業計画 (Course Schedule)

1. はじめに: 受講ガイダンス
2. 都市の文化とは何か: 諸科学のアプローチとキーワード
3. 産業革命・都市化・余暇活動: 近代化とレジャーの社会史
4. 都市の文化としての身近な余暇活動: 『レジャー白書』の定義(スポーツ、趣味・創作、娯楽、観光・行楽)
5. 余暇活動の多様化と事故・病理・逸脱・非行・犯罪
6. 産業としてのギャンブル①: 公営競技、富くじ、パチンコ・パチスロ
7. 産業としてのギャンブル②: 国際観光と統合型リゾート、カジノ論争
8. 産業としてのギャンブル③: ゲーム、ギャンブル、依存症
9. 余暇活動とナイトタイムエコノミー①: 都市計画法・建築基準法、風営法・青少年条例
10. 余暇活動とナイトタイムエコノミー②: 「サード・プレイス」としての酒場
11. 余暇活動とナイトタイムエコノミー③: 世界の飲食文化と飲酒可能年齢
12. 余暇活動とナイトタイムエコノミー④: アルコール関連問題とソバーキュリアス
13. 都市とメガイベント: 東京オリンピックにみる都市改編とレガシー
14. まとめ: 重要事項の確認、期末レポートの注意など

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義で扱った内容について、次回の講義までに小レポートを書くことを通じて理解を深めておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

毎回の小レポート(100%)

毎回書いてもらう小レポートおよびそれらをつつにまとめて全体の感想を書いた期末レポートを中心に、授業の初めに指示する自己紹介の提出状況も踏まえて総合的に判断する。

テキスト (Textbooks)

テキストは指定しない。担当者が用意する資料を用いて講義を行なう。講義資料の配布やレポート課題の提出等は「Google Classroom」「Canvas LMS」などを用いて行う。

参考文献 (Readings)

1. 神田孝治編、2009、『レジャーの空間―諸相とアプローチ』、ナカニシヤ出版 (ISBN:4779503639)
2. 中筋直哉・五十嵐泰正編、2013、『よくわかる都市社会学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:4623065057)

3. P.ノックス・S.ピンチ著, 川口太郎・神谷浩夫・中澤高志訳、2013、『都市社会地理学 改訂新版』、古今書院 (ISBN:4772252665)
4. P.ハバードほか著, 山本正三・菅野峰明訳、2018、『現代人文地理学の理論と実践―世界を読み解く地理学的思考』、明石書店 (ISBN:4750347418)
5. 森 正人・中川 正、2022、『文化地理学ガイダンス[改訂版]―あたりまえを読み解く三段活用』、ナカニシヤ出版 (ISBN:4779516145)
- この他の文献については授業中に適宜紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

授業は PowerPoint などを使用した講義形式で、映像資料や現物資料なども適宜活用する。また、毎回提出してもらうレポートのなかで優秀なものについては講義中に匿名で紹介していく。

▼杉山 和明 | 流通経済大学

<https://www.rku.ac.jp/faculty/professors/27749/>

▼杉山 和明 (Kazuaki Sugiyama) - マイポータル - researchmap

<https://researchmap.jp/read0141402/>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD246／民族文化誌 (Cultural Ethnography)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「マイノリティ」のアメリカ誌		
担当者名 (Instructor)	四條 真也(SHIJO MASAYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

多民族社会アメリカの今を考える土台を養う。

Students will build foundations to think about modern multi-racial US.

授業の内容(Course Contents)

本授業では、文化人類学の理論を用いながら、主にアメリカ合衆国におけるエスニック・マイノリティを取り巻く社会的状況や、現在までの変遷について、マイノリティ当事者の視点も踏まえ理解を深めます。また、授業では、担当講師が調査を行ってきた先住ハワイ社会を例に、多民族社会アメリカの現在について考えます。

By referring to the anthropological ideas, students will study social situations surrounding ethnic minorities in US. Students will consider historical transitions and current conditions from perspective of minorities involved. In the second half of this class, professor will use aboriginal Hawaiian society as example, which professor had conducted surveys over the years. Students will use this to think about modern multi-racial US.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文化理論の基礎① 「文化」とは？
3. 文化理論の基礎② 「進化」とは？
4. 文化理論の基礎③ 文化相対主義
5. 世界の先住民・マイノリティ① 世界の先住民のこれまでと今
6. 世界の先住民・マイノリティ② アイヌ社会のこれまでと今
7. 世界の先住民・マイノリティ③ 琉球社会における先住性とは？
8. 世界の先住民・マイノリティ④ アボリジニ社会と同化政策
9. エスニック・プライド運動① アフリカ中心主義とアメリカ主義
10. エスニック・プライド運動② アジア系とラテン系コミュニティへの波及
11. エスニック・プライド運動③ アメリカ先住民社会とプライド運動
12. 先住ハワイ社会① ハワイにおける伝統社会
13. 先住ハワイ社会② ハワイと近代化
14. 先住ハワイ社会③ 先住ハワイ社会とプライド運動

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

オンラインで配布するスライド資料および課題資料(予習用／復習用)は、期末レポートにも係わる内容です。必ず読むようにしてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)／毎回の小レポート(40%)

履修者数に応じて、期末レポートを筆記試験に変更する可能性があります。

テキスト(Textbooks)

授業内で適宜紹介します。

参考文献(Readings)

1. 鎌田 遵、2009、『ネイティブ・アメリカン先住民社会の現在』、岩波書店
2. Jocelyn Linnekin. 1985. *Children of the Land: Exchange and Status in a Hawaiian Community*. Rutgers University Press
3. Kehaulani J. Kāuanui. 2008. *Hawaiian Blood: Colonialism and the Politics of Sovereignty and Indigeneity*. Duke University Press

4. Davianna Pōmaika'i McGregor. 2007. *Nā Ku'āina: Living Hawaiian Culture*. University of Hawai'i Press

5. 四條真也、2019、『ハワイアン・ブライドー今を生きるハワイ人の民族誌』、教友社

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

基本的には対面での講義を予定しています。が、社会状況によっては大学の方針に従ってオンライン(オンデマンド)に切り替える可能性があります。オンデマンド授業の場合は授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)に毎週アップするスライド教材(PDF)を各自で参照するセルラーニング方式で行い、リクエストがあれば Zoom で「質問サロン」を開催します。受講生は以上の講義内容を充分ご理解いただいたうえで、履修をしてください。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD281／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル化した日本社会の多様性を捉える		
担当者名 (Instructor)	小林 真生(KOBAYASHI MASAO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

日本社会は多文化化している。その状況を理解し、多様な視点を自ら提示することで、今後の大学生活や人生において必要な視角を見つけることを目指す。

Japanese society is becoming multicultural. In this class, we aim to find the necessary perspectives in future university life and life by understanding the current situation in Japan and presenting various perspectives by ourselves.

授業の内容 (Course Contents)

それぞれの事例を調べ、発表することで、次年度以降の学びの基礎を身につける。また、発表後の積極的な質疑応答を通じて、対話型の(インタラクティブな)知識習得を体感することができる。

By investigating and presenting each case, you will acquire the basics of learning from the next year onward. In addition, you can experience interactive knowledge acquisition through active questions and answers after the presentation.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション。発表担当の決定。
2. 次回以降の進行見本としての教員発表。テキスト 1・2 章：国際社会学、トランスナショナリズムについて。
3. 日本の事例
4. 中国の事例
5. コリアン・ディアスポラの事例
6. フィリピンの事例
7. ASEAN の事例
8. 南アジアの事例
9. イスラム世界の事例
10. ヨーロッパの事例
11. 南欧と大西洋の島々の事例
12. 北米地域の事例
13. ブラジルの事例
14. オセアニアの事例

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

教科書の該当する内容を事前に読んだ上で授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

発表ならびに質疑応答(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 西原和久・樽本英樹編、2016、『現代人の国際社会学・入門』、有斐閣 (ISBN:9784641174214)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD282／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「正しさ」のマニュアルから脱線して考える環境社会学		
担当者名 (Instructor)	関 礼子(SEKI REIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

専門演習は、社会学に関連した文献を読み理解すること、議論することを重視する科目である。この演習では、環境を軸に政策と現場のズレを考える環境社会学をテーマとする。

This seminar deals with the sociological thinking and theory through literature.

授業の内容 (Course Contents)

何をどう語ろうとも、自然と環境の問題は敷居が高かったり、窮屈であったりする。なぜか。政策課題になればなるほど環境も自然もしらじらしく感じられる。なぜか。共通テキストを精読しながら、暮らしと身体から環境について考える。受講者はレジュメの作成・議論の司会・進行を経験するとともに、質疑応答に積極的に関わってもらいたい。

The aim of this class is to help students acquire the critical thinking for environmental problems.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献講読1 (テキストを読む)
3. 文献講読2
4. 文献講読3
5. 文献講読4
6. 文献講読5
7. 文献講読6
8. 文献講読7
9. 文献講読8
10. 文献講読9
11. 文献講読10
12. 文献講読11
13. 文献講読12
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

文献講読メモの作成、資料収集など

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内報告・レジュメ(80%) / 最終レポート(Final Report)(20%)

テキスト (Textbooks)

1. 宮内泰介編、2013、『なぜ環境保全はうまくいかないのか』、新泉社
新刊の本を1冊ずつ選書する。

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD283／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	①社会学とはどんな学問なのかを理解する。 ②宗教社会学の基礎を学ぶ。		
担当者名 (Instructor)	江島 尚俊(EJIMA NAOTOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本授業の目標は、

- ①社会学および宗教社会学がどのような背景をもって誕生したのかを学ぶ。
- ②社会的かつ宗教社会的な「見方」(＝発想)を身につける。
- ③宗教社会的立場から、現代社会を理解する。

の3つ。

これらを通して、社会学の基礎をトレーニングしていきます。

Class Objectives

- (1) Students will learn contexts in which classical sociology and sociology of religion were born.
- (2) Students will acquire sociological perspectives (of religion).
- (3) Students will understand modern society through a sociological viewpoint of religion.

Through these, students will practice basics of sociology.

授業の内容(Course Contents)

私は、専門演習1の初回授業に「社会学って、どんな学問？」と質問させてもらっています。

社会学部生にとって、当たり前の「社会学」という学問。それをゼミ形式で、しっかりと改めて学んでいくのがこの授業の内容となりますが、その際、教員の専門でもある「宗教社会学」も一緒に学んでもらうことを計画しています。

本授業は、4つのパートで構成されています。

- 1) 社会学の特徴(何を、どのように研究する学問なのか)を、他の学問の特徴と比較しながら学ぶ。
- 2) 社会学および宗教社会学がもつ独自の「見方」(＝何を見て、何を見ないのか)を理解する。
- 3) 要約文の書き方、レジュメ作成および発表の手順・方法を身につける。
- 4) 自身が関心を抱くテーマについて発表する。

特に、3)については大学卒業後にも役に立つスキルですので、しっかりとトレーニングしてもらう予定です。

I will ask students “What is sociology?” in the first class.

Sociology seems obvious for College of Sociology students. In this seminar, students will relearn thoroughly it and sociology of religion, which is the professor's specialization.

This class is divided into 4 parts.

- 1) Students will learn and compare characteristics of sociology with other studies. (What does sociology research and how?)
- 2) Students will understand sociology and sociology-of-religion's unique perspectives (=What are and are not observed?)
- 3) Students will learn to write a summary, as well as process and method to create presentation.
- 4) Students will make presentations on subjects they are interested in.

In particular, students will use skill 3) even after university graduation, so they should practice it thoroughly.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション―「見方」を身につける意義とは？
2. 教員による講義①―社会学の発生背景
3. 教員による講義②―社会学の基礎＝デュルケーム
4. 教員による講義③―社会学の基礎＝マックス・ウェーバー
5. 教員による講義④―社会学の基礎＝ジンメル
6. 教員による講義⑤―要約の書き方、レジュメ作成および発表の手順・方法
7. 学生による発表(1)―発表テーマは学生自身が設定
8. 学生による発表(2)―発表テーマは学生自身が設定
9. 学生による発表(3)―発表テーマは学生自身が設定
10. 学生による発表(4)―発表テーマは学生自身が設定
11. 学生による発表(5)―発表テーマは学生自身が設定
12. 学生による発表(6)―発表テーマは学生自身が設定
13. 学生による発表(7)―発表テーマは学生自身が設定
14. 総括―現代社会を宗教から再考する

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

自分が関心をもつ対象や出来事について事前に考えておいてください(漠然としていてもOK)。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/学生による発表(30%)/出席点・参加姿勢(30%)

テキスト(Textbooks)

特に指定なし、授業中にすべてプリントを配布します。

参考文献 (Readings)

1. 櫻井義秀・三木英編、2007、『よくわかる宗教社会学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:4623049965)
2. 堀江宗正編、2018、『現代日本の宗教事情〈国内編I〉(いま宗教に向きあう 第1巻)』、岩波書店 (ISBN:4000265075)
3. 藤原聖子編、2018、『世俗化後のグローバル宗教事情〈世界編I〉(いま宗教に向きあう 第3巻)』、岩波書店 (ISBN:4000265091)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD284／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	メディアの見方を学び、現代社会を読む		
担当者名 (Instructor)	秋元 健太郎(AKIMOTO KENTARO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

- ① 古典と呼ばれる学術書を、感受性と想像力を駆使して内側から読む姿勢を身に付ける。
- ② メディア論の古典の理解を通して、メディアとはどんなものを根本から学ぶ。
- ③ 読書で身に付けた見方で、現代の情報メディアの時代を読み解く姿勢を身に付ける。

- ① Learn how to read classic works in academics using sensitivity and imagination.
- ② Try to understand the possibility and danger of the media through reading classics intensively.
- ③ Recognize today's information technology era in analogy with classics.

授業の内容 (Course Contents)

視聴覚メディアが日常化し、文学より音楽や映像のほうが刺激的になってから半世紀以上経ちました。今日、私たちは集団的な器官として活用できる情報端末を手にながら、スマホの通知機能に振り回され、SNSで孤独感や劣等感を深めています。この専門演習では、メディアの本質をつかみ、情報メディアを人間性の進歩のために活用するヒントを得るために、メディア論の古典的論文「複製技術時代の芸術作品」に遡ります。

ヴァルター・ベンヤミンによって書かれた「複製技術時代の芸術作品」は、圧縮度の高い、異様な緊張感の漂う文体で、読むものにメディアを根本から考えることを迫り、メディアを根本から理解する希望を与えてくれます。その一方「美学政治」、「アウラ」や「気散じ」といった特殊な用語(訳語)のために、その真意はつかみづらくなっています。本演習では、この豊かさと難解さで知られる古典的メディア論文を読み解くために、独自のアプローチをとります。それは文を、前の章を思い出しながら外側から論理的に読むアプローチに加え、文で触れられている作品やその類例から感受性を活かして内側から読むアプローチを併用します。これまでの大学での演習経験から、こうした内的アプローチは、柔らかい感受性と多様なコンテンツを視聴してきた若い皆さんには合っているようです。

学術の古典に興味はあっても何となく敬遠してきた方はもちろん、真剣に本を読んだ経験さえない方も、未知のものに触れる好奇心、真理に打たれる勇気があれば、半年で古典の読解法を身に付けられることを約束します。この機会に、メディア論の古典に触れ、今この時代に起こっていることを読み解く目をもとに養ってみませんか。

It's been more than half a century since we've got used to using audiovisual media and taking much more interests in music and movies rather than literature. However, that does not necessarily mean that we recognize the power of audiovisual media and understand the adequate use of digital device. Students in this class will go back to one of the greatest classic works in media studies written in the early 20th century, "The Work of Art in the Age of Its Technological Reproducibility" by Walter Benjamin to get a clue.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
受講者にかんたんな自己紹介をしていただいたあと、この演習の狙いをお話します。
2. 古典の読みかた【前】一段落の活用
冒頭部(Ⅰ)を段落ごとにまとめてみることで、古典を読む時の読み方の基本を学びます。
3. 古典の読みかた【後】一関心の共有
先週学んだ読解法を活かして予習したⅡとⅢを、それぞれが段落ごとにまとめ、ベンヤミンのこの論文の全体の意図をつかみ、今日では当たり前になった写真や動画といった技術的複製を改めて見直してみます。
4. 感受性で読む
本論文の最初の難所Ⅳを、知覚の変容を論じた前半部と「アウラ(オーラ)」を定義する後半部に分け、具体的な作品に引きつけて感性的に読む方法を練習します。
5. 発表・討論① 既成概念から離れる
Ⅴで既成概念から離れた芸術の捉え方を学び、Ⅵで提示される新しい概念「礼拝価値・展示価値」から具体的な作品を想像する練習をします。

6. 発表・討論② 今に近づける
Ⅵの後半と注4から、今日では古くさいものに思いがちな革命概念を、文を丹念に追うことでアップデートしてゆくことで、古典を今に近づけて読む練習をします。
7. 発表・討論③ 細部に注意する
私たちにっては当たり前のものである写真がもっている力を、「写真小史」の助けとⅦの細部に注意しながら読みとり、古典というものが思考に及ぼすインパクトを体感していただきます。
8. 発表・討論④ 視野を広げる
映画を芸術とみなし、その世界史的意義を論じたⅧとⅩを読むことで、身近な問題を人類史という広い視野のなかで考える姿勢を学びます。
9. 発表・討論⑤ 想像力の活用
映画の展示機能について論じたⅩから、一見専門的な話に見えるものが、すこし話を広げると、どれだけ広い射程を持ちうるかを学びます。
10. 発表・討論⑥ 文脈を思い起こす
これまでの文脈を思い起こす必要のあるⅩⅠと注9と10を読みながら、全体の中で部分を読む練習をします。
11. 発表・討論⑦ 現代化する【前】
映画資本のスター崇拜の危うさを論じたⅩⅡとそれと関わる政治危機と大衆の可能性を論じた注11と12から一見古い問題と現代の問題をつなげる練習をします。
12. 発表・討論⑧ 現代化する【後】
映画への能動的な関わり方を論じたⅩⅢ、映画が未知の自由を見出す手段であることを説いたⅩⅣ、映画があらたな芸術の受容形式であることを説いたⅩⅤから、情報メディアへの関わり方について考えます。
13. 発表・討論⑨ 批判的に読む
映画という新しい芸術の社会的意味を精神分析との対比から明らかにしようとしたⅩⅥ、映画を始めとする現代芸術の特徴をショック作用として論じたⅩⅦを読み、現代の視点から、その有効性について吟味する批判的な読み方を学びます。
14. 発表・討論⑩ 現代性の検討
最後の難関である、建築からあるべき集団的受容態度「気散じ(発散)」を説いたⅩⅧを読み、この論文の現代性、情報メディアの位置について、全員で話しあいます。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習: 次週読む予定の箇所を、これまで学んだことを活かし、これまで呼んだ部分と関連付けながら、読み、自分なりの疑問点を明らかにしてくる。—所要時間約1時間

復習: 今週全員で読んだ箇所を、もう一度、ひとりで読み直し、理解を深め、自分なりのあらたな発想を試みる。—所要時間30分

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 議論への貢献度(30%) / 発表での読解的的確さ(30%)

最終レポートは、全体を踏まえた最終章の要約と、情報技術時代の芸術作品についての考察とで評価します。

テキスト(Textbooks)

1. ヴァルター・ベンヤミン、2019、『ベンヤミンコレクション1 近代の意味』、ちくま学芸文庫 (ISBN:4-480-08216-6)

参考文献(Readings)

1. 多木浩二、2000、『ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」精読』、岩波現代文庫

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

古典を内側から読む準備として、以下に挙げた現代の芸術作品を鑑賞し、感受性を磨いておいて下さい。

<https://www.youtube.com/watch?v=wYMSf.QOSBY>

<https://www.youtube.com/watch?v=tn6gioMUEY4>

<https://www.youtube.com/watch?v=8CvpzZupRK8>

<https://www.youtube.com/watch?v=rP7YArQsDFY>

https://www.youtube.com/watch?v=7E26_sjxbYY

<https://www.youtube.com/watch?v=zI383uEwA6Q>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD285／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	大都市に居住すること ～集うところ：生活するところ～		
担当者名 (Instructor)	柳 信寛(YANAGI NOBUHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

大都市での生活・居住をテーマとして、都市生活を支える施設・文化や現代的な都市構造を考察することによって、都市で生活することについて、様々な視点を養う。

Students will study lives and residence in metropolis while analyzing facilities, cultures, and modern urban structures that support urban lives. Students will cultivate various perspectives to observe urban lives.

授業の内容 (Course Contents)

都市とは現代社会がもつ特徴・変化・問題点が集中的に、そして鮮明に現れる空間である。それはまた行政・資本・労働者・住民等のそれぞれの思惑が交錯し、まさに「意図した結果」「意図せざる結果」として表出される空間でもある。しかし、多くの人々の生活が都市化した現在、そのような歴史的なダイナミズムに気づくことは難しく、疑問なく「当然の」生活だと思われる。

そのような都市生活のダイナミズムや問題点を検証するには、実際に観察するだけでなく、様々なデータを検討することや、これまでの都市研究がどのような視点で都市生活を研究してきたかを学ぶ必要がある。

まず、近年の都市生活を多角的に捉えるために、我々が何気なく触れている様々な「都市的スポット」「都市社会学の基礎文献」を検討する。テキストをベースとしながら、自分達が感じている都市的装置や文化に対して、各自の意見の討論の練習も兼ねて展開することとする。

続いて、生活のIT化や未婚化・少子高齢化といった社会変動や、蓄積されてきた都市構造の諸問題や限界について、都市計画・都市構造を概観することにより検討する。また、都市生活にとって異質的であるのか必然的であるのかという観点から、都市のレジャーやカルチャーの文献も検討してみたい。きわめて現代的な課題であるので、社会学だけでなく、経済学・行政学や生活空間学における都市空間設計の考え方も習得する必要がある。できるだけ幅広い分野からの都市へのアプローチに触れることによって、都市生活への理解を深めていきたい。

In urban spaces, characteristics, changes, and problems of modern society become concentrated and apparent. In addition, ideas of administrations, capitals, laborers, and residents cross path, causing both intended and unintended results in these spaces. However, as many people's lives are urbanized, these historical dynamisms become obscured, were accepted and considered normal parts of lives.

To learn about these urban life dynamisms and problems, students will not only observe them directly, but also discuss various data and learn perspectives of existing urban researches.

First, to grasp modern urban lives from multiple angles, students will discuss urban spots and basic literatures they had come across unintentionally. Students will discuss their opinions on urban facilities and cultures, as well as practice discussing while referring to texts.

Next, students will discuss and study overall urban plans and structures, including IT integration in daily lives, low marriage rate, low birth rate, aging society, other social changes, accumulated problems and limits in urban structures. In addition, students will study literatures on urban leisure and culture by classifying them as alien or natural in urban lives. As this is a modern subject, in addition to sociology, students will learn economy, public administration, living space study, and urban space design thinking. Whenever possible, students will approach this subject from broad areas to deepen their understanding about urban living.

授業計画 (Course Schedule)

1. 演習の説明 自己紹介・分担決め
2. 都市地理学の文献
3. 都市地理学の文献
4. 都市地理学の文献
5. 都市社会学の文献
6. 都市社会学の文献
7. 都市社会学の文献
8. 都市社会学の文献
9. レジャー・カルチャーの文献
10. レジャー・カルチャーの文献

11. 都市計画・構造の文献
12. 都市計画・構造の文献
13. 都市計画・構造の文献
14. 都市計画・構造の文献

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

実りある議論・討論のためには、発表者が丁寧なレジュメを作成すること・熱意ある発表をすることだけでなく、受講生の能動的な議論への参画が必要である。そのために徹底した文献の精読や下調べを求める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

演習への積極性(60%)/最終レポート(Final Report)(40%)

熱心に議論に参加することを出席とみなす。

テキスト(Textbooks)

1. 玉野和志 編、2020、『都市社会学を学ぶ人のために』、世界思想社 (ISBN:978-4-7907-1738-6)
 2. 吉原直樹・近森高明 編、2013、『都市のリアル』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-17392-7)
 3. 近森高明・工藤保則 編、2013、『無印都市の社会学』、法律文化社 (ISBN:978-4-589-03531-8)
 4. 大多和直樹、2014、『放課後の社会学』、北樹出版 (ISBN:978-4-7793-0427-9)
 5. 富田啓介、2020、『あれもこれも地理学』、ベレ出版 (ISBN:978-4-86064-608-0)
- 使用するテキストは初回授業にて検討するので、指示があるまで購入する必要はない。

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

担当箇所の発表だけでなく、司会や討論者もあらかじめ指定するために、半期で相当の担当量を担うことになる。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD286／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	消費社会研究入門		
担当者名 (Instructor)	田中 理恵子(TANAKA RIEKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「ファスト」消費と「スロームーブメント」の比較検証、エシカル消費・ソーシャル消費の意義、メディアの進展がもたらした消費の場の変容等についての社会学的検討を通じて、人々の価値観や経済・社会・文化の諸相を読み解く。

Students will read and investigate human values and various economic, social, and cultural aspects through sociological discussions, including comparisons between fast consumption and slow movement; significance of ethical and social consumptions; transformation of consuming fields caused by media development.

授業の内容 (Course Contents)

消費社会のあり方は、人々の関心や文化的背景、さらには産業構造等を映し出す鏡である。本演習では、消費社会の先端事例を切り口として、現代社会の諸相を検証して行く。具体的には、今日世界を席卷している「ファスト」な消費のあり方に対置される「スロー」、グローバル化が進展する中での地産地消など「ローカル」の見直し、エシカル消費、ソーシャル消費など消費の社会的意識の高まり、メディアの進展により変容する「身体」消費へのまなざし、家族観の保守化と同時進行する LGBT 市場への期待など、ときに一見矛盾する事態までもが並置される現状を検証、その負の側面も含め、高速で変化して行く現代の経済社会の様態を読み解いていく。これらを通じ、各自が多様な学問的興味・関心を見出し、今日の文化と社会の特性を学び、そこから新たな文化的価値を構想する力を身に付けるよう指導する。

Consumer society condition is mirror that reflects people's interests, cultural backgrounds, and industrial structures. In this seminar, students will analyze various aspects of modern society by approaching them through pioneering cases. Specifically, students will investigate apparently paradoxical yet simultaneously existing phenomena: fast consumption taking modern world by storm and its antagonist slow consumption; local movement of local production and consumption amidst globalization; heightening social awareness about consumptions including ethical and social consumption; perspective on physical consumption following media progress; family value conservatism and LGBT market expectations. Students will investigate these conditions and their antagonists to understand rapidly changing modern economic society. Through these, students will explore various intellectual interests and concerns. By learning current cultures and society characteristics, students will acquire ability to compose new cultural values.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 消費社会の考え方
3. 消費社会の行方
4. グローバル化とローカル文化
5. ファスト消費とオルタナティブ消費
6. テキスト読解①ジュリエット・B.ショア『浪費するアメリカ人——なぜ要らないものまで欲しがるか』
7. テキスト読解②ジュリエット・B.ショア『浪費するアメリカ人——なぜ要らないものまで欲しがるか』
8. テキスト読解③ジュリエット・B.ショア『浪費するアメリカ人——なぜ要らないものまで欲しがるか』
9. テキスト読解④ジュリエット・B.ショア『浪費するアメリカ人——なぜ要らないものまで欲しがるか』
10. ゼミ報告①
11. ゼミ報告②
12. ゼミ報告③
13. ゼミ報告④
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回指定したテキストやレジュメを読み、各テーマに沿って順番に発表すること。テキスト読解報告回は、報告者・タイムキーパー、ゼミ報告回は報告者・討論者・司会の役割を決め、報告者はテキスト指定範囲や自身の報告内容のレジュメを作成し事前に

教員に提出すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/ゼミ報告(30%)/授業への参加(30%)/討論への参加意欲や積極性など(10%)

テキスト(Textbooks)

1. ジュリエット・B.ショア、2011、『浪費するアメリカ人——なぜ要らないものまで欲しがるか』、岩波現代文庫 (ISBN:978-4006032142)

参考文献 (Readings)

1. 間々田孝夫、2007、『第三の消費文化—モダンでもポストモダンでもなく』、ミネルヴァ書房 (978-4-623-0499-9)
2. 水無田気流、2021、『多様な社会はなぜ難しいか 日本の「ダイバーシティ進化論」』、日本経済新聞出版 (ISBN:978-4532177003)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

第 1 回ガイダンスには必ず出席すること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD287／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	多角的な視野で世界を捉える		
担当者名 (Instructor)	島崎 裕子(SHIMAZAKI YUKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本科目では以下の3つを授業の到達目標とします。

- 1: 社会科学の基礎的知識の学びを深める
- 2: 国内外における社会問題のテーマや 이슈を把握する
- 3: 学問的視野を育み、多角的に社会を捉えられる力を養う

1. To develop students knowledge of social sciences
2. To obtain a better grasp of major themes and issues in social issues
3. To learn how to research methods and fieldwork

授業の内容 (Course Contents)

本演習では、社会科学の視点から私たちの社会におけるトピックに着眼して、幅広い視野から学びを深めることを目的とします。ゼミのなかでは、講義を通じや、学生同士の議論などを通して、学びを深化させていきます。授業内では、グローバル 이슈(貧困、食糧、環境、移民/難民、平和構築、女性、子ども)や、身近に存在する問題を考え、考察します。これらの学びを通して、3年生、4年生の専門ゼミでの自身の興味あるテーマを見つけていきましょう。

This Seminar focuses on specific issues in our society. Students may require a combination of multiple dimensions of thoughts and tasks on a variety of issues in a global society. It is important for students to broaden their views as much as possible and eventually find out their own areas of interest in the junior and senior years.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 世界を説明する方法: 地域研究と社会科学
3. 文化の捉え方#1: 文化とは何か
4. 文化の捉え方#2: 比較することから見える文化
5. グローバリゼーションとは何か#1
6. グローバリゼーションとは何か#2 先進国と途上国の関係
7. 世界の現状: なぜ貧困が創出されるのか
8. 世界の人権状況: 人権とは何か
9. 教育
10. ジェンダー
11. 人の移動
12. 子どもの人権と平和
13. 環境: 資源と分配
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

本科目では必読資料が配布されます。これらの資料を読み、課題をこなすことが求められます。これらの予習をもとに、授業ならびに議論が展開されます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への参加態度と出欠席(20%) / プレゼンテーション(中間課題)(20%) / 最終レポート(Final Report)(30%) / 課題への取り組み評価(30%)

テキスト(Textbooks)

随時、必読資料が配布されます。特にテキスト等は指定しません。

参考文献(Readings)

1. 友枝 敏雄（編集）, 山田 真茂留（編集）, 平野 孝典（編集）, 2019、『社会学で描く現代社会のスケッチ』、みらい
(ISBN:4860154851)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

COVID-19 の影響等により、授業の進行やその方法などが変更される場合もあります。状況に応じて柔軟な対応が余儀なくされることをご承知下さい。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD288／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	共創社会の実現に向けたフィールドワークの演習		
担当者名 (Instructor)	三浦 尚子(MIURA NAOKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

フィールドワークを実践して傾聴する姿勢・対話法を学ぶ

Practicing fieldwork and learning how to listen and interact

授業の内容 (Course Contents)

本授業では、難民(庇護申請者)、子ども、障がい者など、ソーシャルマイノリティに位置づけられやすい人々を対象に、各々がテーマを選定して実際にフィールドワークを行います。加えて、授業にゲストスピーカーの先生を招聘して、インタビューを行います。共創社会の実現に向けて、喫緊の社会問題にどのような対応を講じる必要があるのか、考察していきます。授業では、ほかの履修生の発表を傾聴し、積極的に質問する姿勢が求められます。授業を欠席する場合は事前に講師に連絡してください。

In this class, each student will select a theme and actually conduct fieldwork with people who are vulnerable to social minority situations, such as people with disabilities, refugees (applicants), LGBTQ+, and children. In addition, guest speakers will be invited to the class to conduct interviews. In addition, guest speakers will be invited to the class for interviews, and students will examine how urgent social issues need to be addressed in order to realize a society of co-creation. In the class, students are expected to listen to the presentations of other students and be willing to ask questions. If you are going to be absent from class, please contact the instructor in advance.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション・他己紹介
2. 外国にルーツを持つ人たちの共創社会～「ワラビスタ」を事例に【文献購読・映画視聴】
3. 外国にルーツを持つ人たちの共創社会～「ワラビスタ」を事例に【映画視聴・グループディスカッション】
4. 外国にルーツを持つ人たちの共創社会～牛久入収容所を事例に【文献購読】
5. 外国にルーツを持つ人たちの共創社会 【ゲスト講師による講義・傾聴・質疑応答】
6. プレゼンテーション テーマの選定・先行研究の整理
7. プレゼンテーション テーマの選定・先行研究の整理
8. 障がい者との共創社会～社会的包摂／排除を事例に【文献購読・映画視聴】
9. 障がい者との共創社会～社会的包摂／排除を事例に【映画視聴・グループディスカッション】
10. 障がい者との共創社会～精神医療・保健・福祉を事例に【文献購読】
11. 障がい者との共創社会～精神医療・保健・福祉を事例に【映画視聴・グループディスカッション】
12. 障がい者との共創社会～スポーツ行政を事例に【ゲスト講師による講義・傾聴・質疑応答】
13. 全体報告
14. 全体報告

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行うものとする。
資料は授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard等)にアップロードする。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

プレゼンテーション(20%)／討論の参加(20%)／リアクションペーパー(20%)／最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

テキストは使用しません。
学期内に適宜資料を配布します。

参考文献 (Readings)

1. 町村敬志ほか、2015、『現代の差別と排除をみる視点(差別と排除の「いま」1)』、明石書店 (ISBN:9784705341590)

2. 宮島 喬、2014、『多文化であることとは—新しい市民社会の条件』、岩波書店 (ISBN:9784000291217)
3. 鈴木江里子編著、2021、『アンダーコロナの移民たち—日本社会の脆弱性があらわれた場所』、明石書店 (ISBN:9785750352152)
4. 平野雄吾、2020、『ルポ入管—絶望の外国人収容施設』、ちくま新書 (ISBN:9784480073464)
5. 内藤正典、2020、『イスラームからヨーロッパをみる—社会の深層で何が起きているのか』、岩波書店 (ISBN:9784004318392)
6. 立岩真也、2018、『不如意の身体—病障害とある社会』、青土社 (ISBN:9784791771196)
7. 熊谷晋一郎、2009、『リハビリの夜』、医学書院 (ISBN:9784260010047)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD289／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際的な人の移動とエスニック・コミュニティ (Global Migration and Ethnic Communities)		
担当者名 (Instructor)	水上 徹男(MIZUKAMI TETSUO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

社会学の基礎理論や実証研究の事例を基に、地域研究の方法論を学習、実証研究のあり方や問題点に関して理解を深めていくことを目的とする。

The objective of this course is to understand the methodology of community research and to train empirical research and its topics in reference to Sociological studies and relevant fieldworks.

授業の内容 (Course Contents)

主に社会学の領域における社会調査の方法論やエスニシティと関係した文献を読み、社会学の基礎理論や実証研究のあり方や問題点に関して理解を深めていく。

Students will read literature related to social survey methodologies and ethnicity studies, mainly from the field of sociology; and deepen their understanding of the basic theories of sociology and empirical research and its difficulties.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 社会調査に関する文献講読
3. 社会調査に関する文献講読
4. 社会調査に関する文献講読
5. 社会調査に関する文献講読
6. 関連文献やデータの収集および整理
7. 関連文献やデータの収集および整理
8. 関連文献やデータの収集および整理
9. 関連文献やデータの収集および整理
10. フィールドワーク計画の策定
11. テーマ別報告会
12. テーマ別報告会
13. テーマ別報告会
14. テーマ別報告会

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回、前回までのテーマで扱った内容を確認し復習しておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

プレゼンテーションおよびディスカッション(50%) / 授業期間内のレジュメおよびレポート(50%)

テキスト (Textbooks)

教科書は特に指定しないが、授業のなかで参考となる資料を紹介する。

参考文献 (Readings)

1. 吉成勝男 他(編)、2018、『移民政策と多文化コミュニティへの道のりーAPFS の外国人住民支援活動の軌跡ー』、現代人文社
 2. 友枝敏雄 他(編)、2019、『社会学で描く現代社会のスケッチ』、みらい
 3. 伊藤泰郎 他(編)、2021、『日本で働く 外国人労働者の視点から』、松籟社
 4. 松本康(編)、2023、『都市社会学・入門(第2版)』、有斐閣
- 適宜授業中に指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD290／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ライフスタイルの社会学		
担当者名 (Instructor)	李 雯雯 (LI WENWEN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この演習では、ライフスタイルに着目することを通して、私たちが生きている現代社会の多様性について考えるための視点と方法を養うとともに、多様化の帰結としてのライフスタイル格差についての視野と問題意識を広げる。

In this course, by focusing on the topic of lifestyles, students will develop the perspective and mindset for thinking about diversity in contemporary society, as well as broaden their visions and critical sense regarding lifestyle disparities as a consequence of diversification.

授業の内容 (Course Contents)

ライフは、日々の暮らしから、長い人生という意味まで含まれる、膨らみのある言葉である。ライフスタイルもまた、趣味、食事、家族関係、仕事などといった様々なドメインを含んでいる。我々は日々、どのようなライフスタイルを実践するかを選択し、同時に「なにをしないか」を選択している。この一見して個人的な好みのような問題は、その背後に社会構造が潜んでいて、自分でも気づかないうちに特定のものを選択し、そして特定のものを避けているかもしれない。こうした問題に対して、実証エビデンスに基づく文献を読むことにより、ライフスタイルに対する多様な視点を、ライフスタイルに対する社会学的理解を深める。併せて、文献の探し方、読み方、レジュメの作成方法など、研究をすすめるための基礎的なスキルも学ぶ。

Life is an expansive term that includes everything from day-to-day living to a long lifetime. Lifestyle also encompasses many domains, including hobbies, diet, family relationships, and work. Each day we choose what lifestyle to practice and what not to. Behind this seemingly personal preference lies a social structure in which we may choose certain things and avoid certain things without even realizing it. By reading literature based on empirical evidence on these issues, students will gain diverse perspectives on lifestyles and deepen their sociological understanding of lifestyles. In addition, students will learn basic skills for conducting research, such as how to find and read literature and how to prepare resumes.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクションと自己紹介
2. ライフスタイルの多様性
3. 多様性についてどう考えるか(1)
4. 多様性についてどう考えるか(2)
5. 文献購読とディスカッション
6. 文献購読とディスカッション
7. 文献購読とディスカッション
8. 文献購読とディスカッション
9. 文献購読とディスカッション
10. 文献購読とディスカッション
11. 文献購読とディスカッション
12. 文献購読とディスカッション
13. 文献購読とディスカッション
14. 総括ディスカッション

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎授業前に、参加者全員がその回の文献を読み、ブラックボードの掲示板にコメント(疑問点・批判・感想など)を簡単にまとめて(200字～300字)投稿すること。報告担当者は、担当回には講読文献を要約した報告レジュメを作成・持参すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内レポート(40%) / 授業への取り組み・参加度(60%)

テキスト (Textbooks)

1. 小林盾、2017、『ライフスタイルの社会学：データから見る日本社会の多様な格差』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130561129)

適宜配布する

参考文献 (Readings)

授業内で紹介する

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD291／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	音楽社会学の方法		
担当者名 (Instructor)	吉川 侑輝(YOSHIKAWA YUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講の目標は、音楽に係わる社会調査を適切に理解し、その現代社会における位置づけを正確に把握することである。

The goal of this course is to help students develop an appropriate understanding of social research related to music and to accurately grasp its position in contemporary society.

授業の内容 (Course Contents)

社会学がその初期から関心を向けてきた対象のひとつに音楽がある。しかしながら音楽は、見ることも触れることもできないような、いわば「儚い」対象である。対象のこうした特徴を引き受けるなかで社会学が選んだのは、多種多様な調査技法や社会理論を活用することによって、この捉えがたい対象を形式的に探求するという方途である。本講では、様々な社会調査技法の中のひとつである定量的な社会調査研究を紐解くことによって、社会学が音楽という現象を対象化する方法の一端を分析的に検討する。

Sociology has been intrigued by music since its inception. Music is, however, an “ephemeral” object that cannot be seen or touched. Sociology, in addressing this aspect of music, has chosen to explore this difficult object formally by utilizing a wide variety of research methods and social theories. In this course, we will investigate some of the ways in which sociology objectifies the phenomenon of music by unpacking one of the various techniques of social research: quantitative social research.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献講読
3. 文献講読
4. 文献講読
5. 文献講読
6. 文献講読
7. 文献講読
8. 文献講読
9. 文献講読
10. 文献講読
11. 文献講読
12. 文献講読
13. 文献講読
14. 振り返りとまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回の担当者は事前にレジュメを作成すること。

担当でない参加者も、各回で対象となる文献を読み、コメントや疑問点などを整理しておくこと。

その他教員が案内する参考文献などにも目を通すこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)／レジュメの報告(30%)／出席率と授業への参加態度(30%)／議論への参加意欲や積極性など(10%)
2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

テキスト (Textbooks)

1. 南田勝也／木島由晶／永井純一／小川博司編、2019、『音楽化社会の現在：統計データで読むポピュラー音楽』、新曜社 (ISBN:9784788516212)

適宜教員が案内する。

参考文献(Readings)

1. 北田暁大／解体研編、2017、『社会にとって趣味とは何か：文化社会学の方法規準』、河出書房新社（ISBN:9784309625034）
2. 片岡栄美、2019、『趣味の社会学：文化・階層・ジェンダー』、青弓社（ISBN:9784787234568）
3. 南田勝也／木島由晶／永井純一／平石貴士編、2021、『コロナ禍のライブをめぐる調査レポート：JASPM COVID-19 research projects 2020-2021』、日本ポピュラー音楽学会（ISBN:9784802081412）

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD295／Reading Sociology in English		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Understanding "culture" through reading anthropological literature		
担当者名 (Instructor)	木村 自(KIMURA MIZUKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

文化人類学の論文を読むことを通して、社会学・人類学的な「文化」概念の使われ方について学びます。また、論文や本の講読の方法、レジュメの作り方、議論の仕方などを学びます。

Students will study how "culture" will be understood in sociological and anthropological studies through reading cultural anthropological articles. Students will also learn how to read books and papers, how to make a handout, and how to hold discussions.

授業の内容 (Course Contents)

この授業は、Kenneth J. Guest の『Cultural Anthropology: A Reader for a Global Age』をテキストとする。同書のうち「Culture」「Ethnicity and Nationalism」「Gender」「Kinship, Family and Marriage」「Religion」「Art and Media」の各章で紹介されている論文を購読する。各章とも2回の授業を使う。1回目は担当者がレジュメを作成して、論文の内容について報告する。2回目は、クラス全体で議論をする。

We will read Kenneth J. Guest's Cultural Anthropology: A Reader for a Global Age in this class. We will pick up six chapters of this book: "Culture," "Ethnicity and Nationalism," "Gender," "Kinship, Family and Marriage," "Religion," and "Art and Media." Each chapter uses two classes. At the first class, students will be assigned to make a handout and introduce the content of the chapter. At the second class, we will have a discussion over the topics which introduced in each chapter.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. Culture:
Lila Abu-Lughod "Do Muslim Women Really Need Saving?" 1
3. Culture:
Lila Abu-Lughod "Do Muslim Women Really Need Saving?" 2
4. Ethnicity and Nationalism:
Paul Farmer "'Landmine Boy' and Stupid Deaths." 1
5. Ethnicity and Nationalism:
Paul Farmer "'Landmine Boy' and Stupid Deaths." 2
6. Gender:
Emily Martin "The Egg and the Sperm." 1
7. Gender:
Emily Martin "The Egg and the Sperm." 2
8. Kinship, Family and Marriage:
Donna Haraway "Staying with the Trouble: Making Kin in the Chthulucene." 1
9. Kinship, Family and Marriage:
Donna Haraway "Staying with the Trouble: Making Kin in the Chthulucene." 2
10. Religion:
Daromir Rudnyckij "From Wall Street to Halal Streer" 1
11. Religion:
Daromir Rudnyckij "From Wall Street to Halal Streer" 2
12. Art and Media:
Brent Luvaas "Designer Vandalism: Indonesian Indie Fashion and the Cultural Practice of Cut 'n' Paste." 1
13. Art and Media:
Brent Luvaas "Designer Vandalism: Indonesian Indie Fashion and the Cultural Practice of Cut 'n' Paste." 2
14. General Discussion

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回の講読論文については、担当者だけではなく、全員きちんと読んでから授業に臨んでください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

各回の報告担当(40%)/各回でのディスカッションでのパフォーマンス(60%)

テキスト (Textbooks)

1. Guest, Kenneth. 2017. *Cultural Anthropology: A Reader for a Global Age*. W W Norton & Co Inc (ISBN:978-1324000778)

テキストは担当講師が準備し、初回の授業で配布します。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD303／文化変容論 (Theory of Culture Change)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	中国社会・文化の変容		
担当者名 (Instructor)	横田 浩一(YOKOTA KOICHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

① 中国の社会と文化の多様性、複雑さを理解できるようになること。

② 社会主義革命やグローバル化による変化を経験した現代中国の社会・文化について基礎的な知識を習得し、他人に説明できるようにすること。

1) To be able to understand the diversity and complexity of Chinese society and culture.

2) Acquire basic knowledge of modern Chinese society and culture that has experienced changes due to the socialist revolution and globalization, and be able to explain it to others.

授業の内容 (Course Contents)

文化変容とは、異なった文化伝統をもつ複数の社会(人間集団)が会合することで相互に影響しあう際にみられる変化の過程を指している。本講義では、中国社会・文化について毎回異なるトピックを取り上げ、変化の過程を理解していく。

Cultural accumulation refers to the process of transformation that occurs when societies (human groups) with different cultural traditions meet and influence each other. In this course, we will take up a different topic on Chinese society and culture each time to understand the process of change.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 講義の内容と授業の方針
2. 中国社会の基礎知識: 地理、共産党という組織、戸籍制度
3. 1949 年以降の中国の歴史
4. 中国人の人間関係: 行動原理としての「関係」、「面子」、「人情」
5. 家族の原理と宗族
6. 家族とジェンダーの歴史と現在
7. 中国の民族問題
8. 中国の年中行事
9. 環境認識の方法としての風水
10. グローバル化／ローカル化する中国料理
11. 中華圏のポップミュージックとその変遷
12. IT と監視社会: スマホ以降の中国社会の変化
13. 香港・台湾と中国社会
14. 移動をとりまく変化: 華僑華人の歴史と現状

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回の授業前後に配布する資料を熟読し、講義内容に対する理解を深めてほしい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(70%) / リアクションペーパー(30%)

10 回以上の出席がない場合、単位修得不可。

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 曾士才・瀬川昌久・西澤治彦(編)、1995、『中国(暮らしがわかるアジア読本)』、河出書房新社 (ISBN:9784309724454)
2. 瀬川昌久、2004、『中国社会の人類学: 家族親族からの展望』、世界思想社 (ISBN:9784790710547)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD304／エスニシティ論 (Ethnicity Theory)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	さまざまな次元で構築されるエスニシティ		
担当者名 (Instructor)	橋本 みゆき(HASHIMOTO MIYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

エスニシティの諸現象が、何らかの民族的属性をもつ人(びと)が身を置く歴史的・社会的・構造的な条件から、また彼／彼女の社会関係と行為において捉えられることを理解する。またそうした社会現象について、事例や統計等のデータに基づいて傾向を分析したり、ゲストスピーカーの話を聞いて理解を深め、議論することができる。

Students will study structural conditions and historical contexts in which people with specific ethnic attributes lived. Based on these, students will understand various ethnicity phenomena found in social relations and social actions. In addition, we will try to analyze these social phenomena based on data, including case studies and relevant statistics. And let us listen to guest speaker's life story to deepen our understanding and organize findings.

授業の内容 (Course Contents)

さまざまな在日外国人におけるエスニシティについて考える。授業では便宜上在日外国人をオールドカマーおよびニューカマーに分け、それぞれへの固定的見方に挑戦していく。あるエスニックな属性を持つ個人において、自動的・一義的に「国籍」、「民族文化」、「人種」等からエスニシティ現象が生じるとは言えない。彼／彼女そして「私」という個人あるいは集団が出会う場として、またさまざまな社会的条件のせめぎあいの中で関係形成する場としての日本社会を、エスニシティの視点から捉え直す機会にしたい。

We will study ethnicity about various foreigners living in Japan. In this class, I will explain comprehensively major ethnic groups; they are consisted of 'old comer' and 'newcomer', then I will show students perspective on ethnicity construction and challenge preconceptions about them. Ethnicity phenomena are not derived automatically or directly from nationalities, ethnic cultures, or races. Students will reexamine Japanese society from perspective of rencontres of individual, as a field where various ethnic relations have been built.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション：エスニシティという視点
2. 人の国際移動の世界史
3. オールドカマー外国人(1)：在日コリアンの形成史と法制度
4. オールドカマー外国人(2)：在日1世と植民地関係
5. オールドカマー外国人(3)：在日2世以降と社会関係の再編
6. オールドカマー外国人(4)：ゲスト講演
7. オールドカマー外国人(5)：表現活動する人々
8. 映像から考えるオールドカマーとニューカマー
9. ニューカマー外国人(1)：量的・質的変遷と法制度
10. ニューカマー外国人(2)：労働者・留学生
11. ニューカマー外国人(3)：難民と出入国在留管理
12. ニューカマー外国人(4)：ゲスト講演
13. ニューカマー外国人(5)：子どもと教育
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

参考文献を読む。また、在日外国人や国内外の移民問題などの関連本やニュースに日頃から目を通す。統計データや事例、報道の内容を吟味したり、社会構造的要因と関連づけたりして、その都度自分なりに考察してみよう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)／授業時に課す提出物(40%)

テキスト (Textbooks)

特に使用しない。テーマごとにレジュメ、資料を配布する。

参考文献 (Readings)

1. 田中宏、2013、『在日外国人 第三版——法の壁、心の溝』、岩波書店 (ISBN:9784004314295)
2. M.マルティニエツロ、2002、『エスニシティの社会学』、白水社 (ISBN:9784560058473)
3. 橋本みゆき編著、2021、『二世に聴く在日コリアンの生活文化』、社会評論社 (ISBN:9784784511518)

他は授業時に紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

時事の話題やゲストスピーカーの都合などにより、スケジュールを変更する可能性あり。

授業支援システムは基本的に立教時間を使用する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD312／パフォーマンス文化論 (Cultural Theory on Performing Arts)		
担当者名 (Instructor)	飯岡 詩朗(IIOKA SHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

私たちの認識を更新するだけでなく現実を(再)構成する力を持つ、芸術表現におけるパフォーマンスおよび文化的・社会的実践としての演技／パフォーマンスの可能性を理解することを目標とする。

Students will understand potentials of performing arts and acting/performance in cultural and social practices, which will not only renew their understanding of daily life but also (re)construct their realities.

授業の内容(Course Contents)

社会学をはじめ、多様な学問領域における演技／パフォーマンスをめぐる議論から発展した英語圏における「パフォーマンス研究」の視座から、様々な〈テキスト〉を分析し、日常生活とパフォーマンスの関係性、現実世界の演劇性等を明らかにしていく。

Students will analyze various texts from the standpoint of "Performance Studies," an interdisciplinary field of research that draws from the social sciences, the humanities, and the arts. They will also clarify the relationship between everyday life and performance, and theatricality of the real world.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 「パフォーマンス」とは何か
3. 「パフォーマンス／パフォーマンスティヴィティ」とはなにか
4. 国民国家とパフォーマンス
5. 抗議運動(デモ)とパフォーマンス
6. 公民権運動とパフォーマンス(1):バスボイコット運動
7. 公民権運動とパフォーマンス(2):シットイン運動ほか
8. ジェンダーとパフォーマンス(1):「母性」
9. ジェンダーとパフォーマンス(2):ファッショ
10. 人種(パッシング)とパフォーマンス
11. ファシズムとパフォーマンス
12. 「演じる」を体験する
13. ドキュメンタリー映画制作とパフォーマンス
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/中間レポート(2回)(30%)/レスポンス・シート(30%)

3回を超える欠席がある場合、すべてのレポート(小レポート含む)の提出がない場合は、成績評価を行わない(単位を認めない)。レスポンス・シートでの代返やレポートでの剽窃(いわゆるコピー)を行った場合、回数にかかわらず成績評価を行わない(単位を認めない)。

テキスト(Textbooks)

なし。必要に応じて授業内で資料を配布ないし共有する。

参考文献(Readings)

1. 高橋 雄一郎、鈴木健編、2011、『パフォーマンス研究のキーワード』、世界思想社 (ISBN:9784790715085)
2. リチャード・シェクナー、1998、『パフォーマンス研究 演劇と文化人類学の出会いと場所』、人文書院 (ISBN:9784409100097)
3. 高橋雄一郎、2005、『身体化される知 パフォーマンス研究』、せりか書房 (ISBN:9784796702621)
4. E・ゴッフマン、1974、『行為と演技 日常生活における自己呈示』、誠信書房 (ISBN:9784414518016)
5. エリカ・フィッシャー＝リヒテ、2009、『パフォーマンスの美学』、論創社 (ISBN:9784846003289)
6. Richard Schechner. 2020. *Performance Studies: An Introduction* [4th ed.]. Routledge (ISBN:9781138284562)

その他、授業内で随時紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

- ・授業計画は変更することがある。
- ・感染症の拡大状況によっては、大学の方針に従って主にオンラインで実施とすることがある。
- ・英語文献を使用することがある。
- ・感染症の罹患による出校停止および裁判員制度に基づく裁判所への出頭をのぞく事由による欠席(例:内定式出席のための欠席)は、通常の欠席と同様にあつかう。ただし、病気・怪我による入院や忌引、教育実習等、追試験対象となるやむをえない事由による欠席については、追試験受験申請の際に添付を求められる証明書類の提出をもって適宜考慮する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD314／写真文化論 (Cultural Study of Photography)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現在の写真におけるスマートフォンと SNS と顔の問題		
担当者名 (Instructor)	大山 顕(OHYAMA KEN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

- 1) 写真とその周辺の文化史・技術史を概観することで、現在の視覚文化の一端を理論的に理解する。
- 2) 現在の写真を取り巻く状況を解説し、それがもたらす社会的影響について理解する。
- 3) 身近な写真の撮影／閲覧を通して、現在の視覚文化および都市を理解する方法を身につける。

The goals of this class are as follows.

- (1) Understand theoretically current visual culture through an overview of the cultural and technical history of photography and its surroundings.
- (2) Decipher the current situation surrounding photography and understand the social impact it has had.
- (3) Learn how to understand present society through the taking/viewing of familiar photographs.

授業の内容 (Course Contents)

いまや写真はスマートフォンで撮影／閲覧するのが当たり前になっている。スマートフォンと SNS は、間違いなく写真の歴史において画期的なものだ。しかし同時に、そこで行われていることは昔から(写真の発明以前から)全く変わっていないことでもある。現在、写真はかつてなくわたしたちの生活に影響を及ぼすようになっている。写真の文化史を概観することで、SNS の社会に生きるわたしたちとこれらかのことが分かるだろう。

また、写真家である講師がこれまで被写体としてきたものを通して、都市についても論じる。写真を使った物事をよく見るということの実践である。

重要なのはこの講義は作品論ではないということ。講義では有名写真家の作品を取り上げることはしない。現在の写真とはみなさんが日々撮り、見ているものだからだ。ごく身近な写真を手がかりに、現在の社会を見ていこう。

Nowadays, it is commonplace to take/view photos with a smartphone. Smartphones and SNS are undoubtedly a milestone in the history of photography. But at the same time, what is happening there has not changed at all since long ago (even before the invention of photography). Today, photography affects our lives more than ever. An overview of the cultural history of photography will help us to understand our social networking society and what it means to us.

The lecturer, a photographer himself, will also discuss the city through the objects he has taken as his subjects. This is a practice of LOOKING through photography.

This lecture is not a discussion of works of art. The lecture will not focus on the works of famous photographers. This is because the photographs of today are the ones you take and see every day. Let's look at current society using familiar photographs as clues.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 写真における顔(1): 自撮りという革命
3. 写真における顔(2): 心霊写真と遺影
4. 写真における顔(3): 「盛り」の問題
5. 写真における顔(4): オンライン会議は目が合わない問題
6. 写真における顔(5): 炎上と観相術
7. 写真における顔(6): 911 テロとスマホ以前の写真
8. 写真と都市(1): 3.11 東日本大震災帰宅ログ
9. 写真と都市(2): どこまで東京?
10. 写真と都市(3): 祈りの向き
11. 写真と都市(4): 地形と埋立地
12. 写真と都市(5): ディスプレイ化する都市
13. 写真ワークショップ
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回講義を受け、実際にスマートフォンで写真を撮ることで理解を深める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/授業内で指示した提出物(40%)/授業参加度(20%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

授業形態:

スライドショー形式による講義。受講者に実際にスマホで写真を提出・発表を行ってもらう回もあり。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／写真文化論 (Cultural Study of Photography)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現在の写真におけるスマートフォンと SNS と顔の問題		
担当者名 (Instructor)	大山 顕(OHYAMA KEN)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

- 1) 写真とその周辺の文化史・技術史を概観することで、現在の視覚文化の一端を理論的に理解する。
- 2) 現在の写真を取り巻く状況を解説し、それがもたらす社会的影響について理解する。
- 3) 身近な写真の撮影／閲覧を通して、現在の視覚文化および都市を理解する方法を身につける。

The goals of this class are as follows.

- (1) Understand theoretically current visual culture through an overview of the cultural and technical history of photography and its surroundings.
- (2) Decipher the current situation surrounding photography and understand the social impact it has had.
- (3) Learn how to understand present society through the taking/viewing of familiar photographs.

授業の内容 (Course Contents)

いまや写真はスマートフォンで撮影／閲覧するのが当たり前になっている。スマートフォンと SNS は、間違いなく写真の歴史において画期的なものだ。しかし同時に、そこで行われていることは昔から(写真の発明以前から)全く変わっていないことでもある。現在、写真はかつてなくわたしたちの生活に影響を及ぼすようになっている。写真の文化史を概観することで、SNS の社会に生きるわたしたちとこれらかのことが分かるだろう。

また、写真家である講師がこれまで被写体としてきたものを通して、都市についても論じる。写真を使った物事をよく見るということの実践である。

重要なのはこの講義は作品論ではないということ。講義では有名写真家の作品を取り上げることはしない。現在の写真とはみなさんが日々撮り、見ているものだからだ。ごく身近な写真を手がかりに、現在の社会を見ていこう。

Nowadays, it is commonplace to take/view photos with a smartphone. Smartphones and SNS are undoubtedly a milestone in the history of photography. But at the same time, what is happening there has not changed at all since long ago (even before the invention of photography). Today, photography affects our lives more than ever. An overview of the cultural history of photography will help us to understand our social networking society and what it means to us.

The lecturer, a photographer himself, will also discuss the city through the objects he has taken as his subjects. This is a practice of LOOKING through photography.

This lecture is not a discussion of works of art. The lecture will not focus on the works of famous photographers. This is because the photographs of today are the ones you take and see every day. Let's look at current society using familiar photographs as clues.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 写真における顔(1): 自撮りという革命
3. 写真における顔(2): 心霊写真と遺影
4. 写真における顔(3): 「盛り」の問題
5. 写真における顔(4): オンライン会議は目が合わない問題
6. 写真における顔(5): 炎上と観相術
7. 写真における顔(6): 911 テロとスマホ以前の写真
8. 写真と都市(1): 3.11 東日本大震災帰宅ログ
9. 写真と都市(2): どこまで東京?
10. 写真と都市(3): 祈りの向き
11. 写真と都市(4): 地形と埋立地
12. 写真と都市(5): ディスプレイ化する都市
13. 写真ワークショップ
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回講義を受け、実際にスマートフォンで写真を撮ることで理解を深める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/授業内で指示した提出物(40%)/授業参加度(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

授業形態:

スライドショー形式による講義。受講者に実際にスマホで写真を提出・発表を行ってもらう回もあり。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD322／都市生活誌 (Ethnography of Urban Life)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Understanding the state of foreign nationals in Japanese cities		
担当者名 (Instructor)	丹野 清人(TANNO KIYOTO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

本講義は、都市に住む人々の生活の細かなディテールの部分に、社会的な制度がどれほど深く関わっているのかを理解する事にある。都市に住む外国人を例にして、具体的にこの問題を理解できるようにする。

The purpose of this lecture is to understand how deeply social institutions are involved in the small details of the lives of people living in cities. We will use the example of foreigners living in cities to help students understand this issue in concrete terms.

授業の内容 (Course Contents)

外国籍住民と自治体の関係を通して、都市問題の生活誌としての外国人を社会学的に考える。現在政令指定都市は日本に 20 市ある。北は札幌から南は熊本まで、それぞれの土地柄の違いは著しい。とりわけ、平成の大合併と呼ばれた行政区分の見直しの時期に新たに政令市となったところと昭和の時代から政令指定都市であったところとでは大きな違いがある。一口に都市といっても、現代日本の都市は多様であり、その都市の多様性を外国人の生活から把握していく。

This lecture will consider foreigners as a sociological life history of urban problems through the relationship between foreign residents and local governments. There are currently 20 ordinance-designated cities in Japan. From Sapporo in the north to Kumamoto in the south, each has markedly different local characteristics. In particular, there is a big difference between those cities that became ordinance-designated cities during the Heisei Era, when the administrative divisions were reorganized, and those cities that have been ordinance-designated cities since the Showa Era. The word "city" in Japan today refers to a wide variety of cities, and we will try to understand the diversity of these cities from the perspective of the lives of foreign residents.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション 本講義の目的:外国人から見る都市について 成績評価の方法
2. 近代日本の外国人の受け入れ 文明開花から明治期まで
3. 日本人の把握の仕方の展開 戸籍制度と住民登録制度の展開
4. オールドカマー問題の発生のメカニズム
5. 日系人とアウズジロー
6. 在日韓国・朝鮮人と都市政策(人権政策からのアプローチ)
7. 90 年入管法改正と都市
8. 地方産業都市と外国人
9. 行政改革の時代の新しい社会問題＝地域の国際化
10. 外国人の受け入れの都市間比較
11. 行政と地域の連携の多様性
12. 空間的な凝集性とエスニシティ
13. 人権からのアプローチか、差異への権利からのアプローチか(神奈川県が多文化教育と浜松市の多文化教育から)
14. 日本でインターカルチャリティは可能か

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

最初の講義以降は、毎回、次の授業に際して読んでおくべきテキスト・参考図書の部分を伝えるので、講義を受けるものは事前に読んでおくこと。毎回の講義は、この指定した部分を読んできたことを前提として授業を進めていく。読んできていないものでも、全く理解できないということはないと思われるが、理解度は全く異なるレベルになっていると思われる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 丹野清人、2023、『外国人の人権の社会学』増補版、吉田書店

参考文献(Readings)

1. 梶田孝道・丹野清人・樋口直人、2005、『顔の見えない定住化』、名古屋大学出版会
2. 丹野清人、2007、『越境する雇用システムと外国人労働者』、東京大学出版会
3. Horie Takashi, Tanaka Hikaru and Kiyoto Tanno. 2020. *Amorphous Dissent: Post-Fukushima Social Movements in Japan*. Trans Pasific Press

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD323／生活文化論 (Life and Culture)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	衣食住をはじめとした現代社会の文化社会学的検討		
担当者名 (Instructor)	田中 理恵子(TANAKA RIEKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

私たちが日常的に接している生活文化について、その意味や価値をとらえなおすための思考力を養う。

Students will cultivate thinking skills to re-examine significances and values in their everyday life cultures.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、私たちの日常生活をかたちづくる多様な題材を取り上げ、現代社会の文化的諸相を明らかにする。「衣食住」をはじめとする消費文化、家族やジェンダー、メディアや言語文化、娯楽やポップカルチャーなど身近な話題と、グローバル化やポストモダン文化との関連性を検討する。

In this lecture, students will select various materials that form our daily lives to clarify various cultural phenomena in modern society.

Students will discuss relationships between globalization, post-modern culture, and daily topics such as consumer culture (clothing, food, housing), family, gender, media, linguistic culture, and entertainment.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 都市文化・テクノロジーの進展と服飾革命
3. 20世紀の生活文化と服飾
4. 戦後の消費文化とモード
5. 「多様な社会」のメディアとモード
6. グローバル化とファストファッション
7. 日本の食生活文化の変遷
8. 「豊かな社会」の食に潜む問題—食のファスト化を問う—
9. 食文化の現在—フードシステムの課題・スローフードの可能性—
10. 住宅と暮らしの文化を考える
11. 「時間貧困」と「関係貧困」①—日本型ジェンダーセグリゲーションを考える—
12. 「時間貧困」と「関係貧困」②—ワークライフアンバランスな日本社会を考える—
13. ポップカルチャーと大衆消費社会
14. まとめ

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は、第1回目のガイダンスや講義で適宜指示するほか、特に必要がある場合は履修登録後に授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard等)で履修者に対し行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%) / リアクションペーパー・受講態度(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 水無田気流、2020、『「居場所」のない男、「時間」がない女』、ちくま文庫 (ISBN:978-4-480-43656-6)

参考文献 (Readings)

1. 水無田気流、2020、『背表紙の社会学』、青土社 (ISBN:978-4791773244)
2. 水無田気流、2021、『多様な社会はなぜ難しいか 日本の「ダイバーシティ進化論」』、日本経済新聞出版 (ISBN:978-4532177003)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

第1回ガイダンスには必ず出席すること。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／生活文化論 (Life and Culture)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	衣食住をはじめとした現代社会の文化社会学的検討		
担当者名 (Instructor)	田中 理恵子(TANAKA RIEKO)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

私たちが日常的に接している生活文化について、その意味や価値をとらえなおすための思考力を養う。

Students will cultivate thinking skills to re-examine significances and values in their everyday life cultures.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、私たちの日常生活をかたちづくる多様な題材を取り上げ、現代社会の文化的諸相を明らかにする。「衣食住」をはじめとする消費文化、家族やジェンダー、メディアや言語文化、娯楽やポップカルチャーなど身近な話題と、グローバル化やポストモダン文化との関連性を検討する。

In this lecture, students will select various materials that form our daily lives to clarify various cultural phenomena in modern society.

Students will discuss relationships between globalization, post-modern culture, and daily topics such as consumer culture (clothing, food, housing), family, gender, media, linguistic culture, and entertainment.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 都市文化・テクノロジーの進展と服飾革命
3. 20 世紀の生活文化と服飾
4. 戦後の消費文化とモード
5. 「多様な社会」のメディアとモード
6. グローバル化とファストファッション
7. 日本の食生活文化の変遷
8. 「豊かな社会」の食に潜む問題—食のファスト化を問う—
9. 食文化の現在—フードシステムの課題・スローフードの可能性—
10. 住宅と暮らしの文化を考える
11. 「時間貧困」と「関係貧困」①—日本型ジェンダーセグリゲーションを考える—
12. 「時間貧困」と「関係貧困」②—ワークライフアンバランスな日本社会を考える—
13. ポップカルチャーと大衆消費社会
14. まとめ

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は、第 1 回目のガイダンスや講義で適宜指示するほか、特に必要がある場合は履修登録後に授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で履修者に対し行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)/リアクションペーパー・受講態度(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 水無田気流、2020、『「居場所」のない男、「時間」がない女』、ちくま文庫 (ISBN:978-4-480-43656-6)

参考文献 (Readings)

1. 水無田気流、2020、『背表紙の社会学』、青土社 (ISBN:978-4791773244)
2. 水無田気流、2021、『多様な社会はなぜ難しいか 日本の「ダイバーシティ進化論」』、日本経済新聞出版 (ISBN:978-4532177003)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

第 1 回ガイダンスには必ず出席すること。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／都市生活誌 (Ethnography of Urban Life)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Understanding the state of foreign nationals in Japanese cities		
担当者名 (Instructor)	丹野 清人(TANNO KIYOTO)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標(Course Objectives)

本講義は、都市に住む人々の生活の細かなディテールの部分に、社会的な制度がどれほど深く関わっているのかを理解する事にある。都市に住む外国人を例にして、具体的にこの問題を理解できるようにする。

The purpose of this lecture is to understand how deeply social institutions are involved in the small details of the lives of people living in cities. We will use the example of foreigners living in cities to help students understand this issue in concrete terms.

授業の内容(Course Contents)

外国籍住民と自治体の関係を通して、都市問題の生活誌としての外国人を社会学的に考える。現在政令指定都市は日本に 20 市ある。北は札幌から南は熊本まで、それぞれの土地柄の違いは著しい。とりわけ、平成の大合併と呼ばれた行政区分の見直しの時期に新たに政令市となったところと昭和の時代から政令指定都市であったところとでは大きな違いがある。一口に都市といっても、現代日本の都市は多様であり、その都市の多様性を外国人の生活から把握していく。

This lecture will consider foreigners as a sociological life history of urban problems through the relationship between foreign residents and local governments. There are currently 20 ordinance-designated cities in Japan. From Sapporo in the north to Kumamoto in the south, each has markedly different local characteristics. In particular, there is a big difference between those cities that became ordinance-designated cities during the Heisei Era, when the administrative divisions were reorganized, and those cities that have been ordinance-designated cities since the Showa Era. The word "city" in Japan today refers to a wide variety of cities, and we will try to understand the diversity of these cities from the perspective of the lives of foreign residents.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション 本講義の目的:外国人から見る都市について 成績評価の方法
2. 近代日本の外国人の受け入れ 文明開花から明治期まで
3. 日本人の把握の仕方の展開 戸籍制度と住民登録制度の展開
4. オールドカマー問題の発生のメカニズム
5. 日系人とアウスジードラー
6. 在日韓国・朝鮮人と都市政策(人権政策からのアプローチ)
7. 90 年入管法改正と都市
8. 地方産業都市と外国人
9. 行政改革の時代の新しい社会問題＝地域の国際化
10. 外国人の受け入れの都市間比較
11. 行政と地域の連携の多様性
12. 空間的な凝集性とエスニシティ
13. 人権からのアプローチか、差異への権利からのアプローチか(神奈川県が多文化教育と浜松市の多文化教育から)
14. 日本でインターカルチャリティは可能か

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

最初の講義以降は、毎回、次の授業に際して読んでおくべきテキスト・参考図書の部分を伝えるので、講義を受けるものは事前に読んでおくこと。毎回の講義は、この指定した部分を読んできたことを前提として授業を進めていく。読んできていないものでも、全く理解できないということはないと思われるが、理解度は全く異なるレベルになっていると思われる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 丹野清人、2023、『外国人の人権の社会学』増補版、吉田書店

参考文献(Readings)

1. 梶田孝道・丹野清人・樋口直人、2005、『顔の见えない定住化』、名古屋大学出版会
2. 丹野清人、2007、『越境する雇用システムと外国人労働者』、東京大学出版会
3. Horie Takashi, Tanaka Hikaru and Kiyoto Tanno. 2020. *Amorphous Dissent: Post-Fukushima Social Movements in Japan*. Trans Pasific Press

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD341／くらしの環境史 (Daily-Life Environment Record)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	環境・消費・ジェンダー		
担当者名 (Instructor)	松葉口 玲子(MATSUBAGUCHI REIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

ライフスタイルと環境の関連について、ヒト(ジェンダー)・モノ・コトの観点から歴史的に振り返ることを通して、日常生活を地球規模の視点で捉えて多面的に考察するとともに、自らのキャリアを含めたライフスタイルのあり方について考究する能力を身に付ける。

Through a historical review of the relationship between lifestyle and the environment from the perspective of people (gender), things, and things, we will consider daily life from a global perspective and consider it from multiple perspectives. At the same time, acquire the ability to study lifestyles, including your own career.

授業の内容 (Course Contents)

持続可能な社会にむけたライフスタイルが求められている今日、今後のあり方を展望するためには、まずは歴史的に振り返ることが不可欠である。本講義では、特に日本の戦前・戦後、高度経済成長期から今日に至るまでをジェンダー視点を導入しながら解明し、SDGs時代に各自が持続可能な社会の構築に寄与した生き方をするための方策について考究する。なお、各回の内容は、状況に応じて前後することがある。

In today's world, where a lifestyle for a sustainable society is required, it is indispensable to look back on history in order to see the future. In this lecture, we will elucidate the lifestyles of Japan, especially before and after the war, from the period of high economic growth to today, by introducing a gender perspective, and study how to live in order to build a sustainable society in the SDGs era.

授業計画 (Course Schedule)

1. くらしと環境を歴史的に振り返ることの意義①—気候危機の現状
2. くらしと環境を歴史的に振り返ることの意義②—消費形態の変更
3. 消費者物価指数の変遷から見るモノの歴史
4. 戦前のくらし
5. 戦後から高度経済成長へ
6. 公害から地球環境問題の時代へ
7. 持続可能な社会にむけた人づくり(ESD)
8. MDGs から SDGs へ
9. 「持続可能な消費」に関する国際的動向と SDGs の登場
10. 「持続可能な消費」とジェンダー
11. SDGs時代の生産・消費
12. 環境・開発・ジェンダー
13. 家族・衣食住・エネルギー
14. 消費者市民・経済的投票という考え方

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義後は、講義を振り返り、当該視点で身の回りの現象を読み解き(復習)、気づいたことを次回講義で共有する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)／授業参加状況(30%)／授業内に提示した課題提出(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 伊藤純・斎藤悦子編著、2023、『ジェンダーで学ぶ生活経済論(第3版)』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623089529)

参考文献 (Readings)

授業内で提示予定

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

授業計画内容は受講生の状況に合わせて変更になる可能性あり

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD343／環境教育論 (Environmental Education)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	持続可能な社会の担い手を育てる		
担当者名 (Instructor)	野田 恵(NODA MEGUMI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「環境教育」とは何かを説明できる。そのために、環境教育の背景と歴史的な経緯、国内外における多様な取組、および基本的な概念について理解し、今後の持続可能な社会形成に果たす環境教育の役割について考える。

Students will be able to explain what environmental education is. Students will understand background of environmental education, its historical timeline, various implementations in Japan and overseas, and its basic concept. Students will learn about roles of environmental education in shaping sustainable society in the future.

授業の内容 (Course Contents)

持続可能な社会の担い手に不可欠な環境教育(さらにはその発展形であるESD=持続可能な開発のための教育)について、その生まれた背景と発展について学ぶとともに、環境教育の実践事例を通じてその理解を深める。また、環境教育が持続可能な開発目標の達成や国内の持続可能な地域づくりに大きな役割を果たしていることなどを事例を交えて検討する。

Environmental education(including its developed form, Environmentally Sustainable Development ESD) is essential in leading sustainable society. Students will deepen their understanding about environmental education (and ESD) by reading about its origin and development in contexts of environmental issues in Japan and overseas. Students will study and discuss about various cases, notably contribution of environmental education in Sustainable Development Goals (SDGs = implementation adopted by UN, governments, and industries in 2016) and its critical roles in revitalizing Japanese regions.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス(講義の進め方、成績評価の付け方、約束事など) ※オンライン
2. 環境教育の基礎
3. 環境教育の歴史と概要・1
4. 環境教育の歴史と概要・2 ―持続可能な開発と教育(ESD)―
5. (ワークショップ)環境教育の歴史と自分の経験を重ねて考える
6. (ワークショップ)環境教育プログラムを考えてみよう
7. SDGsと環境教育・ESD (SDGsについて調べ発表) ※オンライン
8. (ワークショップ)環境教育教材(自然体験)
9. 環境教育の実践事例 (ゲスト講師・予定) ※オンライン
10. (ワークショップ)環境教育教材(公害)
11. 公害と教育(解説) ※オンライン
12. 環境教育の実践事例 (ゲスト講師・予定) ※オンライン
13. (ワークショップ)環境教育とソーシャルアクション
14. まとめ・発表

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・講義中に指示した資料を事前に読み、理解するなど事前学習を行うこと。
- ・授業内発表のほか、授業で指示する課題があるので、学習内容を踏まえて適宜取り組みむこと
- ・授業内で文献などを紹介するので、それらを参考に各自の関心に合わせて授業時間外の学習をおこなうこと

成績評価方法・基準 (Evaluation)

毎回のリアクションペーパー・授業内で指示された課題(25%)／課題1((SDGsをテーマに調べ学習と発表)(30%)／課題・2(環境教育プログラムを作り、発表する)(30%)／最終レポート(Final Report)(15%)
課題の詳細は、第1回ガイダンスで説明するので、ガイダンスに必ず出席すること

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 日本環境教育学会、2012、『環境教育』、教育出版 (ISBN:978-6-80315-9)
2. 日本環境教育フォーラム、2008、『日本型環境教育の知恵』、小学館 (ISBN:978-4-7726-1236-4)
3. 阿部治・二ノ宮リムさち、2022、『知る・学ぶ・伝える SDGs II』、学文社 (ISBN:978-4-7620-3109-0)
4. 阿部治・野田恵、2019、『知る・学ぶ・伝える SDGs I』、学文社 (ISBN:978-4-7620-2923-3)
5. 阿部治、2017、『ESD の地域創生力』、合同出版 (ISBN:978-4-7726-1315-6)

講義中に指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

オンラインと対面の併用。パワーポイント・板書を使った講義、映像資料を見ながらの解説、参加型の講義、ワークショップによる教材体験やディスカッション、授業内発表を行います。授業に積極的に参加する態度を歓迎します。

毎回のコメントペーパーで受け付けた意見や質問、課題へのコメントは次回の授業でフィードバックします。

受講者の関心に合わせて授業内容を変更することがあります。

受講希望者は、必ず初回のガイダンスに参加すること。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD347／環境と人類 (Environment and Human Race)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国境を越えた手仕事と里山 Handicrafts and satoyama beyond Japan		
担当者名 (Instructor)	モライス, L. (MORAIS LILIANA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3313	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

- 現代社会における手仕事の価値について考える。To discuss the value of handicrafts in contemporary society.
- 制作過程に関わる国境を越えた人間と人間以外の繋がりを探る。To investigate the transnational networks of human and non-human actors involved in the process of making.
- 国境を越えた文化の共通性と多様性を探る。To explore the commonalities and diversity of culture beyond national borders.

授業の内容 (Course Contents)

手仕事は、人間と人間以外が関わるローカルかつグローバルな社会的関係のネットワークに存在している。ヨーロッパ、南米、日本の事例を通して手仕事・工芸の歴史と現在の苦境を学びながら、環境・文化・社会の関係を多面的に考えていく。講義、読書、ビデオ、ディスカッション、ゲストレクチャーなどを通じて、過疎化や環境破壊などの問題を解決するために、各地で工芸が、グローバルな繋がりを利用しながら、どのように活用されているのかを見ていく。このように、ポスト工業化社会における手仕事の重要性を考えていく。

Craft-making is embedded in a web of local and global social relationships involving human and non-human actors. While learning about the history of crafts and its current predicament through case studies from Europe, South America, and Japan, we will consider the relationship between nature, culture, and society in multiple ways. Through lectures, readings, videos, and discussions, we will learn how craft is being used in various regions to face issues of depopulation and environmental degradation, while also taking advantage of global interconnectedness. In this process, we will consider the relevance of craft in post-industrial society.

授業計画 (Course Schedule)

- シラバス一覧と自己紹介 (Syllabus Overview and Introductions)
- 自然と文化の間にある手仕事 (Craft between nature and culture)
- 近代化以前の手仕事と里山 (Craft and satoyama before modernity)
- 手仕事と近代化 (Handicrafts and modernization)
- クラフト、移住、カウンターカルチャー I (Craft, mobility, and counterculture I)
- クラフト、移住、カウンターカルチャー II (Craft, mobility, and counterculture II)
- 手仕事と女性の労働 (Craft and women's labor)
- ゲスト レクチャー (Guest lecture)
- ポスト工業化社会の工芸の取り組み 1: 有田町、日本 と Covilhã, ポルトガル (Craft for a post-industrial society 1: Arita, Japan and Covilhã, Portugal)
- ポスト工業化社会の工芸の取り組み 2: Gerdeira, ポルトガル と 笹間、日本 (Craft for a post-industrial society 2: Gerdeira, Portugal and Sasama, Japan)
- 発表とディスカッション I (Presentations and Discussion I)
- 発表とディスカッション II (Presentations and Discussion II)
- 発表とディスカッション III (Presentations and Discussion III)
- まとめと最終レポートの提出 (Wrap-Up and Submission of Final Report)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎週の宿題をこなすことで、授業中のディスカッションに積極的に参加し、準備をすることが求められる。授業の最後には、文献調査とフィールドワーク(インタビュー等)に基づいてプレゼンテーションを準備し、研究レポートを作成すること。Students are required to actively engage in and prepare for in-class discussions by completing weekly homework assignments. At the end of the course, students will prepare a presentation and write a research report based on literature review and fieldwork (interviews, etc.).

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/Final presentation(20%)/Homework and in-class assignments(30%)/Attendance and Participation(15%)

授業の 1/4 以上を欠席した場合は、成績評価を行わない。Students who miss more than 1/4 of the classes will not be graded.

テキスト(Textbooks)

必読文献は授業で紹介し、オンラインで公開する。Required readings will be introduced in class and made available online.

参考文献(Readings)

1. 柳 宗悦、1985、『手仕事の日本』、岩波文庫 (ISBN:4003316924)
2. 柳 宗悦、2006、『民藝とは何か』、講談社 (ISBN:978-4061597792)
3. アズビー・ブラウン、2011、『江戸に学ぶエコ生活術』、CCC メディアハウス (ISBN:4484111012)
4. リチャード セネット、2016、『クラフツマン: 作ることは考えることである』、筑摩書房 (ISBN:4480864458)
5. Langlands, Alexander. 2017. *Craft: An Inquiry into the Origins and True Meaning of Traditional Crafts*. W. W. Norton & Company (ISBN:0393635902)
6. ティム・インゴルド、2017、『メイキング』、左右社 (ISBN:4865281797)
7. イヴァン イリイチ、2015、『コンヴィヴィアリティのための道具』、ちくま学芸文庫 (ISBN:4480096884)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD381／専門演習2 (Seminar (3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	文化人類学的思考を学ぶ／フィールドワークを学ぶ		
担当者名 (Instructor)	木村 自(KIMURA MIZUKA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

文化人類学の基本的な考え方を習得するとともに、フィールドワークを実施して報告書を作成する。

Learning the basic concepts of cultural anthropology as well as conduct fieldwork and write a report.

授業の内容(Course Contents)

- (1) 文化人類学の基本概念を学習します。
- (2) 民族誌を輪読し、文化人類学の研究成果の提示方法を学習します。
- (3) 調査計画を策定して、各自で調査を実施します。
- (4) 調査データをもとに研究報告書を作成します。

- (1) Learn the basic concepts of cultural anthropology.
- (2) Read ethnography and learn how to present cultural anthropological research results.
- (3) Develop a survey plan and conduct the survey on your own.
- (4) Create a research report based on survey data.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクションおよびアイスブレイク
2. 文化人類学の概念を学ぶ(1) 輪読編—民族とエスニシティ
3. 文化人類学の概念を学ぶ(1) ディスカッション編—民族とエスニシティ
4. 文化人類学の概念を学ぶ(2) 輪読編—人の移動とグローバリゼーション
5. 文化人類学の概念を学ぶ(2) ディスカッション編—人の移動とグローバリゼーション
6. 文化人類学の概念を学ぶ(3) 輪読編—経済と贈与
7. 文化人類学の概念を学ぶ(3) ディスカッション編—経済と贈与
8. フィールドワークを学ぶ(1)—人類学的フィールドワークの基本
9. フィールドワークを学ぶ(2)—観察をしてみる
10. フィールドワークを学ぶ(3)—インタビュー調査をしてみる
11. フィールドワークを学ぶ(4)—エスノグラフィーを読んでもみる
12. フィールドワークを学ぶ(5)—調査計画を立ててみる
13. フィールドワークを学ぶ(6)—調査計画を立ててみる
14. 夏季調査計画の発表
15. 秋学期へのイントロダクション
16. 調査報告(1)—夏季調査の報告
17. 調査報告(2)—夏季調査の報告
18. 調査報告(3)—夏季調査の報告
19. 調査報告(4)—夏季調査の報告
20. ゼミ論文執筆計画報告(1)
21. ゼミ論文執筆計画報告(2)
22. ゼミ論文執筆計画報告(3)
23. 文化人類学の概念を学ぶ(4) 輪読編—ジェンダー
24. 文化人類学の概念を学ぶ(4) ディスカッション編—ジェンダー
25. 文化人類学の概念を学ぶ(5) 輪読編—宗教と異世界
26. 文化人類学の概念を学ぶ(5) ディスカッション編—宗教と異世界
27. ゼミ論文の提出(1)
28. ゼミ論文の提出(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業計画は予定であり、変更になる可能性があります。

各自で調査計画を策定して、フィールドワークを実施してもらいます。
教員の実施する調査にオブザーバーで参加し、調査を実施することも可能です(その際の費用は自費になります)。
ゼミ合宿を行います。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への参加(30%)/フィールド調査の実施(30%)/調査レポートの作成(40%)

テキスト(Textbooks)

講読文献は初回の授業で提示します。

参考文献(Readings)

1. 松村圭一郎、中川理、石井美保、2019、『文化人類学の思考法』、世界思想社 (ISBN:978-4790717331)
2. 松村圭一郎、2017、『うしろめたさの人類学』、ミシマ (ISBN:978-4903908984)
3. 佐藤郁哉、2006、『フィールドワーク—書を持って街へ出よう』、新曜社 (ISBN:978-4788510302)
4. 菅原和孝、2006、『フィールドワークへの挑戦—“実践”人類学入門』、世界思想社 (ISBN:978-4790711889)
5. Guest, Kenneth. 2017. *Cultural Anthropology: A Reader for a Global Age*. W W Norton & Co Inc (ISBN:978-1324000778)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

教員のデータおよび過去のゼミ活動については、以下のホームページを参照のこと。

<https://www2.rikkyo.ac.jp/web/5060671/index.html>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD382／専門演習2 (Seminar (3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	サステナビリティ・スタディーズ		
担当者名 (Instructor)	大倉 季久(OHKURA SUEHISA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

サステナビリティをめぐる現代的な課題に関する研究を通して、問題を生み出している構造やメカニズムにアプローチしていく力を身に着けること。

To acquire the ability to approach the structures and mechanisms that are creating problems through research on contemporary issues related to sustainability.

授業の内容 (Course Contents)

「サステナビリティ」が環境政策のキーワードになって長い年月が経ちますが、この考え方が理想とする環境と経済の両立は容易ではなく、かといって地球環境の危機が年を追うごとに切迫する中で、そこに生じるさまざまな課題の解決が急務となっています。このゼミでは、現代においてサステナブルな社会を築くプロジェクトを担う人びとによる課題解決を探るアクションに関心を寄せて研究を進めます。「アクション」とは、社会の中に人や商品、市場の新たな動きを作り出すこと、具体的には、移住や起業、経営の継承などをきっかけに、地域の文化や暮らしを受け継ぎながら、農産物やエネルギー、歴史的な建築物をはじめ、これまでにない地域資源の活用やサプライチェーンを作り出す動きを指します。ゼミは、夏に実施する広島県尾道市と周囲の島々でのフィールドワークを軸に展開します。瀬戸内の温暖な気候と長閑な景色のなかで、この地のさまざまな人たちとの出会いを通して、学びを深めていきます。

In this seminar, we will consider the contemporary relationship between the environment and the economy based on sociological fieldwork. Specifically, renewable energy, climate change countermeasures, the Green New Deal, marine plastic pollution, the future of agriculture, etc. come to mind as closely related themes, but first of all, themes related to “food and agriculture” We will proceed with research centered on.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 環境危機の現代的な構図(1) 環境と経済の現代的な関係
3. 環境危機の現代的な構図(2) サステナビリティと環境政策
4. 文献講読とディスカッション(1)
5. 文献講読とディスカッション(2)
6. 文献講読とディスカッション(3)
7. 文献講読とディスカッション(4)
8. 文献講読とディスカッション(5)
9. 中間ディスカッション
10. フィールドワークの検討—方法と目標についての共有
11. 調査テーマに関するデータの検討(1)
12. 調査テーマに関するデータの検討(2)
13. 調査の内容と方法に関する検討(1)
14. 調査の内容と方法に関する検討(2)
15. 調査の準備(1)
16. 調査の準備(2)
17. 調査のふりかえりとまとめ(1)
18. 調査のふりかえりとまとめ(2)
19. 調査のふりかえりとまとめ(3)
20. 調査のふりかえりとまとめ(4)
21. 調査のふりかえりとまとめ(5)
22. 調査のふりかえりとまとめ(6)
23. 調査のふりかえりとまとめ(7)
24. 調査のふりかえりとまとめ(8)
25. 調査報告の準備とディスカッション(1)

26. 調査報告の準備とディスカッション(2)
27. 調査報告の準備とディスカッション(3)
28. 全体のふりかえり

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

報告レポートの作成、データの準備、フィールドワーク等の活動を行う。フィールドワークは、夏休み期間中を計画しているが、その時々を受講環境と調査環境の制約状況に応じて変更する場合がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終成果物(50%)/授業でのディスカッション、調査準備、フィールドワークへの積極的な参加(50%)

テキスト(Textbooks)

第3回目までの受講生の報告をふまえて決定する。

参考文献(Readings)

1. ナオミ・クライン、2017、『これがすべてを変える(上)』、岩波書店 (ISBN:4000229567)
 2. ナオミ・クライン、2017、『これがすべてを変える(下)』、岩波書店 (ISBN:4000229575)
 3. 八木信一・関耕平、2019、『地域から考える環境と経済』、有斐閣 (ISBN:4641150676)
- ほか、適宜指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD383／専門演習2 (Seminar (3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	宗教社会学／セラピー文化		
担当者名 (Instructor)	小池 靖(KOIKE YASUSHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

宗教, スピリチュアル, カウンセリング, 心理主義, ライフスタイルなどをテーマとした実地調査をおこないます。

Students will conduct field research on topics such as religion, spirituality, counseling, "psychology boom", and lifestyle.

授業の内容(Course Contents)

テーマ例: ■信じさせるメカニズム ■新宗教と日本社会 ■日本人の宗教観 ■パワースポット ■Instagram ■占い ■現代のカウンセラー ■自己啓発 ■アニメ聖地巡礼 ■ロックフェス ■アイドル現象など。

春学期は宗教社会学の基本的な論考を輪読したのち, 調査対象を選定, 調査計画を立案します。秋学期は2~4名の班に分かれ, 主に学外の個人・団体にインタビュー調査をおこない, 最終レポートを各自作成します。

Examples of themes: ■ Mechanisms that make people believe ■ New religions and Japanese society ■ Japanese views on religion ■ Power spots ■ Instagram ■ Fortune-telling ■ Modern counselors ■ Self-help ■ Pilgrimage to sacred sites of anime ■ Rock festivals ■ Idol phenomenon, etc.

In the spring semester, we will read basic articles on the sociology of religion, select a research target, and develop a research plan. In the fall semester, students are divided into groups of two to four, and conduct interviews with individuals or groups, mainly outside the university, and each student will write his or her own final paper.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 輪読: 宗教社会学入門
3. 輪読: 日本人の宗教観
4. 輪読: 新宗教
5. 輪読: スピリチュアリティ
6. 輪読: カルト論争
7. 授業内インタビュー実習
8. 輪読: セラピー文化論
9. 輪読: 新自由主義の時代精神
10. 輪読: その他文献(1)
11. 輪読: その他文献(2)
12. 班割り
13. 班ごとの調査計画発表(1)
14. 班ごとの調査計画発表(2)
15. 全体打ち合わせ
16. 調査と報告(1)
17. 調査と報告(2)
18. 調査と報告(3)
19. 調査と報告(4)
20. 調査と報告(5)
21. 調査と報告(6)
22. 最終報告(1)
23. 最終報告(2)
24. レポート添削(1)
25. レポート添削(2)
26. お礼状の発送
27. 報告書の作成(1)
28. 報告書の作成(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発表(30%) / レポート(35%) / それ以外[出欠, 演習への貢献度など](35%)

テキスト(Textbooks)

特にありません。

参考文献(Readings)

授業時に指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

受講時の注意 <https://ykoike.hatenablog.com/entry/2018/09/12/232738>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD384／専門演習2 (Seminar (3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル化と多文化共生		
担当者名 (Instructor)	石井 香世子 (ISHII KAYOKO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業では、以下の2つを目標としています。① グローバリゼーションと多文化共生に関連した代表的な理論(移民と多文化共生、観光とローカル文化、家族の多文化化、難民問題の背景など)にはどのようなものがあるかを知ること、② 身近な日常生活の中から、グローバリゼーションとは何か・文化とは何かを問い直す経験を積んでもらうこと。それら2つを通じて、グローバリゼーションの時代を生きる人として、将来に生きる力のひとつを身に付けてもらうことを上位目標としています。

Specifically, the course aims to achieve the following three points: (1) Students will understand typical theories on globalization and multicultural coexistence (immigration, multicultural coexistence, tourism, local culture, transition to multicultural family, context of refugee issue, etc.), (2) Students will refer to their daily lives around them and keep asking themselves about what globalization and culture are. As part of the globalization population, students will focus on acquiring ability to live in the future through these 2 points.

授業の内容 (Course Contents)

グローバリゼーションは時間と空間の圧縮を通じて、もともと多様だった地球上各地に暮らす人々を一挙に「隣人」に位置づけたかに見えます。しかしそれは同時に、新たな問題を我々に突きつけることになりました。そのグローバリゼーションの構造について、この授業では、境界域とエスニシティの側面から学んでいきます。

具体的には、春学期のあいだは授業の前半を文献講読、後半をその文献の内容をもとにしたディスカッションという形で進めます。これを通じて春学期のあいだに、自分が興味を持てる主題を1人1人に見つけてもらいます。夏休み明けまでに、自分が興味を持ってとり組める自分自身の研究主題を見つけます。そのうえで秋学期の授業では、その主題のもとで調査を企画・実施・分析・報告してもらい、身近なところからグローバル化を問い直してもらいます。

Globalization compresses time and space, connecting diverse people living across the globe and making them neighbors. However, we are facing new problem at the same time. In this class, students will learn about globalization structure from perspective of border and ethnicity.

Specifically, students will read literatures during first half of the class in spring semester. In the second half, students will participate in discussion based on contents of these literatures. During spring semester, students will use the opportunity to discover subjects they are interested in. Before summer holiday, students will discover research subjects they are interested in and work on. In addition, during autumn semester, students will plan and conduct surveys, before analyzing and reporting on them. Students will re-question globalization by looking at their surroundings.

授業計画 (Course Schedule)

1. 春学期ガイダンス
2. フィールド授業 1
3. 文献講読＋グループ・ディスカッション 1
4. 文献講読＋グループ・ディスカッション 2
5. 文献講読＋グループ・ディスカッション 3
6. フィールド授業 2
7. 文献講読＋グループ・ディスカッション 4
8. 文献講読＋グループ・ディスカッション 5
9. 文献講読＋グループ・ディスカッション 6
10. フィールド授業 3
11. 文献講読＋グループ・ディスカッション 7
12. 文献講読＋グループ・ディスカッション 8
13. 文献講読＋グループ・ディスカッション 9
14. フィールド授業 4
15. 秋学期ガイダンス
16. 社会調査の準備(1)＋グループ・ワーク

17. 社会調査の準備(2)+グループ・ワーク
18. 社会調査の準備(3)+グループ・ワーク
19. 社会調査の実施(1)+グループ・ワーク
20. 社会調査の実施(2)+グループ・ワーク
21. 社会調査の実施(3)+グループ・ワーク
22. 調査結果の分析(1)+グループ・ワーク
23. 調査結果の分析(2)+グループ・ワーク
24. 調査結果の分析(3)+グループ・ワーク
25. 調査報告・報告書の作成(1)
26. 調査報告・報告書の作成(2)
27. 調査報告書発表会(1)
28. 調査報告書発表会(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業の一環として実施するフィールド実習および夏合宿(8月第1週目を予定)には積極的に参加して欲しいと考えています。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/プレゼンテーション(40%)/議論への参加、ミニレポート提出、グループ学習への参加(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 河野 哲也、2018、『レポート・論文の書き方入門 第4版』、慶應義塾大学出版会 (ISBN:978-4766425277)

参考文献 (Readings)

1. 石井香世子、2017、『国際社会学入門』、ナカニシヤ書店 (ISBN:978-4779511349)
- その他、適宜、授業のなかで提示する。

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/kayokoishii/>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD385／専門演習2 (Seminar (3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	新型コロナ禍のなかで「都市に集まること」を考える		
担当者名 (Instructor)	兼任講師		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

都市には、様々な人びとが集い、多くのモノが集積し、多種多様な出来事が生じている。このゼミでは、都市に生きる人々の「集まり」に着目し、文献講読とフィールドワークを通して都市の現在を理解する。

In this seminar, we will focus on specific cases of the "gathering" of people and things in cities, and understand the present state of cities through literature reading and fieldwork.

授業の内容 (Course Contents)

都市における「集まり」について、受講生それぞれの関心に沿ってテーマや対象を設定し、調査を実施する。このなかでは「都市」や「都市に集まること」に大きな困難と変容をもたらした新型コロナウイルス禍が都市に与えた影響も視野に入れる。ゼミの前半では文献講読とディスカッションを通してテーマ設定に取り組み、後半では調査計画の策定・実施・報告書執筆を行う。

なお具体的な調査テーマとして想定しているものは下記のような事例である。これらはあくまで参考事例であり、最終的なテーマの設定は受講生の問題関心に即して主体的に決定してもらう。

- イベント: 音楽フェス、映画祭 など
- 日常生活の諸側面: 働く場、出会いの場 など
- コミュニティ活動: 子ども食堂、コミュニティカフェ、地域盆踊り大会、コミュニティカフェ など
- 集まる場: 盛り場、公園、広場 など

In this seminar, students will conduct research on "gathering" in cities, setting themes and subjects in line with their individual interests. The seminar will also take into consideration the impact of the new coronavirus disaster on cities, which has caused great difficulties and transformations in "cities" and "urban gatherings".

In the first half of the seminar, students will work on theme setting through reading and discussion of papers, and in the second half, they will formulate a research plan, conduct the research, and write a report.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 基礎文献講読と討論(1)
3. 基礎文献講読と討論(2)
4. 基礎文献講読と討論(3)
5. 基礎文献講読と討論(4)
6. 基礎文献講読と討論(5)
7. 基礎文献講読と討論(6)
8. 基礎文献講読と討論(7)
9. 基礎文献講読と討論(8)
10. テーマ設定について
11. テーマ設定(1)
12. テーマ設定(2)
13. テーマ設定(3)
14. 春学期のまとめと全体討論
15. 調査企画の検討(1)
16. 調査企画の検討(2)
17. 調査企画の検討(3)
18. 実査(1)
19. 実査(2)
20. 実査(3)
21. 実査(4)

22. 調査結果の報告(1)
23. 調査結果の報告(2)
24. 調査結果の報告(3)
25. 報告書原稿の報告(1)
26. 報告書原稿の報告(2)
27. 報告書原稿の報告(3)
28. 総括と全体討論

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

基礎文献講読では指定された文献を精読し、意見を持ってゼミに臨むこと。ゼミでは積極的な発言を求める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レジュメ及びプレゼンテーション(40%)/ゼミにおける議論への参加状況(20%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 岸政彦、2015、『断片的なものの社会学』、朝日出版社 (ISBN:9784255008516)
 2. 前田拓也他、2016、『最強の社会調査入門』、ナカニシヤ出版 (ISBN:9784779510793)
- 上記2冊は第1回授業前に読んでおくこと。追加テキストは随時指示する。

参考文献 (Readings)

1. 大谷信介ほか、2013、『新・社会調査へのアプローチ』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623066544)
 2. 上野千鶴子、2018、『情報生産者になる』、筑摩書房 (ISBN:978-4480071675)
- 随時指示する。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

- 1)参加者のしっかりとした問題意識と着実かつ精力的な文献講読、データ収集・分析、調査を強く求める。
- 2)社会調査法1・2の内容を復習しておくこと。調査手法のみならず問いの立てかたについても理解を深めておくこと。
- 3)自発的で積極的な参加と双方向的なコミュニケーションを重視する。
- 4)上記授業計画は受講生の関心やなどにより変更することがある。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD386／専門演習2 (Seminar (3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	消費社会を考える		
担当者名 (Instructor)	貞包 英之(SADAKANE HIDEYUKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

消費社会のあり方について、理論的に把握するとともに、近現代社会をフィールドとしてみずから具体的に調べ、分析する力を身につける。

The goals of this course are to enable students to gain a theoretical understanding of the nature of consumer society, as well as to acquire the ability to conduct concrete research and analysis of modern and contemporary consumer society.

授業の内容 (Course Contents)

私たちの社会は消費社会をベースとして成り立っています。それを理解するために授業前半では消費社会論の基礎的な文献を読んでいきます。それによって問題関心を深めるとともに、授業後半には、モール、住居、自動車、ファッション、観光、サブ・カルチャーなどをテーマに、おもに東京を対象とした調査を各自におこなっていただき、その結果の発表・討論、報告書の取りまとめを行います。

Our society is based on a consumer society. In order to understand the nature of this consumer society, in the first half of the class, we will read the basic literature on consumer society. By doing so, students will be able to deepen their interest in the issues, and in the latter half of the class, they will be asked to conduct a survey focusing mainly on Tokyo, with themes such as malls, housing, automobiles, fashion, tourism, and sub-culture. Students are required to present the results, discuss them, and compile a report.

授業計画 (Course Schedule)

1. 消費社会を考えることの展望と授業の詳細について説明する。
2. 消費社会に関連する文献の講読
3. 消費社会に関連する文献の講読
4. 消費社会に関連する文献の講読
5. 消費社会に関連する文献の講読
6. 消費社会に関連する文献の講読
7. 消費社会に関連する文献の講読
8. 消費社会に関連する文献の講読
9. 消費社会に関連する文献の講読
10. 消費社会に関連する文献の講読
11. 消費社会に関連する文献の講読
12. フィールドワークの計画、予備調査
13. フィールドワークの計画、予備調査
14. フィールドワーク予定についての説明
15. フィールドワークの計画、予備調査
16. 消費社会に関連する文献の講読
17. 消費社会に関連する文献の講読
18. 消費社会に関連する文献の講読
19. 消費社会に関連する文献の講読
20. 消費社会に関連する文献の講読
21. フィールドワーク調査の結果発表・討論
22. フィールドワーク調査の結果発表・討論
23. フィールドワーク調査の結果発表・討論
24. フィールドワーク調査の結果発表・討論
25. フィールドワーク調査の結果発表・討論
26. フィールドワーク調査の結果発表・討論
27. フィールドワーク調査の結果発表
28. 報告書のとりまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

指定されたテキストを読むとともに、調査・分析を実施する。またフィールドワーク調査に参加する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発表 1(30%) / 発表 2(30%) / 報告書作成(40%)

詳細は追って提示する。

テキスト(Textbooks)

1. 見田宗介、1996、『現代社会の理論』、岩波書店
 2. ジャン・ボードリヤール、2015、『消費社会の神話と構造』、紀伊國屋書店
 3. ダニエル・ミラー、2022、『消費は何を変えるのか』、法政大学出版局
 4. 貞包英之、2015、『地方都市を考える』、花伝社
- 他は追って指示する。

参考文献(Readings)

詳細は追って提示する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

社会調査士 G 科目に申請予定。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD387／専門演習2 (Seminar (3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	環境(問題)と地域づくり		
担当者名 (Instructor)	関 礼子(SEKI REIKO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

文献調査やフィールド調査を通して多面的な環境への視点を育み、卒業論文を作成する力を養う。

The aim of this seminar is explores the issues of environment from literature and field surveys .

授業の内容(Course Contents)

このゼミでは、地域の歴史や文化、社会との関係で環境を広く捉えます。また、フィールドとの対話を通して地域社会にアプローチするための読む、見る、聞く、書くを重視します。

This seminar will examine the environment from local history, culture and society. The field survey focuses on observation, interviews, and records.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献講読1
3. 文献講読2
4. 文献講読3
5. 文献講読4
6. 調査目的・問い・質問項目検討1
7. 調査ガイダンス
8. ヒアリング調査1
9. ヒアリング調査2
10. ヒアリング調査3
11. ヒアリング調査4
12. 調査結果検討・課題抽出1
13. 調査結果検討・課題抽出2
14. 調査結果検討・課題抽出3
15. 調査結果検討・課題抽出4
16. 補充調査1
17. 補充調査2
18. 補充調査3
19. 補充調査4
20. 報告書作成1
21. 報告書作成2
22. 報告書作成3
23. 報告書作成4
24. 報告書検討1
25. 報告書検討2
26. 報告書検討3
27. 報告書検討4
28. 編集・校正

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

文献報告やフィールド報告の準備、またフィールドでの調査実習への参加等。フィールドでの調査実習の参加は必須。ただし、フィールド調査が実施できない世情の場合は、オンラインでの調査に切り替える。調査への参加は必須である。調査は檜枝岐村(尾瀬のある村)フィールド調査、災害ヒアリング調査などを候補とする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/調査準備状況や議論への参加(40%)/編集作業(25%)

テキスト(Textbooks)

状況により調査テーマ・地域選定は流動的にならざるを得ないので、それに応じて参考文献を指示する。また、調査時期によって授業計画は前後する。

参考文献(Readings)

別途、指示する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

2年次に「フィールド実習」を受講していることが望ましい。

<https://www2.rikkyo.ac.jp/web/reiko/laboratory/undergraduate/2018.html>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD388／専門演習2 (Seminar (3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバルな人の移動と大都市のエスニック・コミュニティ (Global Migration and Ethnic Communities in Metropolitan Areas)		
担当者名 (Instructor)	水上 徹男(MIZUKAMI TETSUO) 兼任講師		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

主に社会学の基礎理論を基に、実証研究のあり方について理解を深めていくことを目的とする。大都市圏で形成されているエスニック・コミュニティやトランスナショナルな移住者などに関する調査を実施する予定である。

The purpose of this class is to understand the way to conduct empirical research, in relation to theories of Sociology. It is intended to undertake some fieldwork in ethnic communities in the metropolitan Tokyo, where transnational migrants' networks have developed.

授業の内容 (Course Contents)

春学期は主にグローバルな人の移動やエスニック・コミュニティの形成と関係した文献を読んで、それぞれのテーマの先行研究をまとめる。また、国内の外国人人口と関係した統計資料の解析など、基礎理論だけでなくデータの整理を行う。秋学期は外国人住民にかかわるNPOの取り組みや海外からの移住者に対する政策や自治体の取り組みなどを調べる。エスニック・ビジネスやエスニック・コミュニティの変化については、フィールドワークを実施する。それぞれのテーマに基づく課題を遂行し、調査の報告書を作成する。

In Spring semester, we will read the relevant literature on global migration and the formation of ethnic communities. In addition, we will systematize some statistical data on ethnic populations in Japan, migration trends, and so on. In Autumn semester, we will examine government policies related to international migration, and the NPO's activities involving foreign residents. We also conduct some fieldwork on the contemporary ethnic business in the metropolitan areas. Each student must set up an original theme and carry out the task of composing a research report from the analyses of empirical data.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション(本調査の目的、関連する調査などの紹介)
2. 調査の企画(テーマの明確化)
3. 関連文献の収集および整理
4. 関連文献の収集および整理
5. 関連文献の収集および整理
6. 関連文献の収集および整理
7. 先行研究に関する報告会
8. 先行研究に関する報告会
9. 先行研究に関する報告会
10. フィールドワーク計画の策定
11. フィールドワーク計画の策定
12. 調査項目の整理
13. 調査票の作成
14. 調査票の作成
15. 調査計画に関する報告会
16. 調査計画に関する報告会
17. 質問票およびインタビュー調査
18. 質問票およびインタビュー調査
19. 質問票およびインタビュー調査
20. 質問票およびインタビュー調査
21. 中間報告会
22. 中間報告会
23. 中間報告会
24. 報告書作成に関する検討会
25. 報告書の作成
26. 報告書の作成

27. 報告書の作成
28. 報告書の作成

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

前回までのテーマで扱った内容を確認し、次回までに復習しておくこと。発表にあたっては、事前に参考資料を整理しておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

プレゼンテーションおよびディスカッション(30%) / 授業期間内のレジュメおよびレポート(30%) / 最終報告書(40%)

テキスト (Textbooks)

教科書は特に指定しないが、授業のなかで参考となる資料を紹介する。

参考文献 (Readings)

1. 伊藤泰郎他(編)、2021、『日本で働く 外国人労働者の視点から』、松籟社
 2. 友枝敏雄他(編)、2019、『社会学で描く現代社会のスケッチ』、みらい
 3. 吉成勝男他(編)、2018、『移民政策と多文化コミュニティへの道のり—APFS の外国人住民支援活動の軌跡—』、現代人文社
 4. R. コーエン & P. ケネディ、2003、『グローバル・ソシオロジー I, II』、平凡社
- その他、適宜授業中に指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

過去の卒業論文のタイトルは下記のホームページに記載。

<https://www2.rikkyo.ac.jp/web/tetsuo/jpn/education.html>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD389／専門演習2 (Seminar (3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル都市とこれから		
担当者名 (Instructor)	太田 麻希子(OTA MAKIKO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本演習は都市とグローバリゼーションについて考えるゼミである。年間のゼミ活動を通じ、履修者は都市社会学・地理学周辺の都市研究に関わる学術的知識を身に付け、自ら適切なテーマを選択し、フィールドワークや調査研究を進めるとともに、これに基づいた報告書(ゼミ論文)を完成させる。以上を通し、4年次の主体的な卒業論文執筆に備えた力を養うことを学習目標とする。

This class takes up topics on cities and globalization. Those who take the class absorb academic knowledge on urban sociology and geography through reading books and materials related to these realms. Furthermore, students have to choose a theme, carry out field research, and make a report based on first-hand data they collect in the field. Each student is expected to develop comprehensive skills necessary to write a graduation thesis in the 4th year of university.

授業の内容 (Course Contents)

①都市社会学・地理学に関わる理論的文献の講読、②グローバリゼーションと日本を含む各国における都市、地域、人間の活動に関する文献の講読、③現場の観察やインタビューに基づくフィールドワークの方法の復習と学習、④調査テーマの検討・決定と調査項目の精緻化、⑤フィールド調査の実施、⑥調査結果の整理・分析と報告書の執筆。

履修者は自らの関心と実現可能性に基づいてテーマを考えること。また、ゲストスピーカーを呼ぶ可能性もある。

1. Reading literature on theories of urban sociology and geography
2. Reading literature on globalization and its impact on various regions
3. Methods of field research based on observation and interview
4. Selection of research theme, field, and topic
5. Field research
6. Analysis of the data
7. Writing and editing of report

Students have to decide themes based on own interests and feasibility.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 先輩たちの経験—研究テーマをどう考えるか
3. 文献講読と討論①
4. 文献講読と討論②
5. 文献講読と討論③
6. 文献講読と討論④
7. 文献講読と討論⑤
8. テーマ選択に関わる文献資料の収集・講読・整理①
9. テーマ選択に関わる文献資料の収集・講読・整理②
10. テーマ選択に関わる文献資料の収集・講読・整理③
11. 現地訪問
12. 調査テーマの検討と決定①
13. 調査テーマの検討と決定②
14. 調査テーマの検討と決定③
15. テーマの明確化と調査項目の検討①
16. テーマの明確化と調査項目の検討②
17. 実査①
18. 実査②
19. 調査及び執筆状況の報告①
20. 調査及び執筆状況の報告②

21. 調査及び執筆状況の報告③
22. 調査及び執筆状況の報告④
23. 調査及び執筆状況の報告⑤
24. 調査及び執筆状況の報告⑥
25. 報告書の構成の検討
26. 報告書案の検討①
27. 報告書案の検討②
28. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の報告担当者はレジュメを作成しておくこと。履修者は前もって指定された文献を必ず読んでおくこと。日頃から各自テーマに関する情報収集につとめ、研究を進めておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/プレゼンテーション(30%)/議論への貢献度(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 平井太郎・松尾浩一郎・山口恵子、2022、『地域・都市の社会学—実感から問いを深める理論と方法』、有斐閣

参考文献(Readings)

1. 町村敬志、2020、『都市に聴け—アーバン・スタディーズから読み解く東京』、有斐閣
 2. マーク・ジェイン、ジル・バレンタイン、サラ・L・ホロウェイ、2019、『アルコールと酔っぱらいの地理学——秩序ある/なき空間を読み解く』、明石書店
 3. 玉野和志編、2020、『都市社会学を学ぶ人のために』、世界思想社
- そのほか、適宜指定する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

- ・授業計画は前後することがある。
- ・授業時間は延長することを前提に参加のこと。
- ・グループワークを行なうことがある。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD390／専門演習2 (Seminar (3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アート(美術、音楽、映像、演劇、ダンスなど)や現代文化と、社会のかかわり		
担当者名 (Instructor)	小泉 元宏(KOIZUMI MOTOHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

アート(arts／美術、音楽、映像、演劇、ダンスなど)や現代文化と、社会のかかわりに関する視野を広げ、考察を深めること。また、自身の研究テーマについて調査研究を進めるとともに、卒業論文執筆に向けた基礎を固めること。

This course will study the meaning and role of arts in society, through theories and actual case studies from Japan and overseas. Also, students will select a research theme related to the arts/contemporary cultures/lifestyles etc. and write a research paper, under the guidance of an advisor.

授業の内容(Course Contents)

本授業(ゼミ)では、近年のアートや創造性(クリエイティビティ)、現代文化には、どのような新たな動きが見られるのか。また、それらをめぐる社会背景には、いかなる社会構造や思想性が含まれているのか。さらには、それらにまつわる問題点はどこにあるのか。そして、それらの社会構造や課題を変えていくにはどうしたらよいのか、といったテーマを、次のようなアプローチを通じて検討していきます。

・文献研究 | 文化研究(カルチュラルスタディーズ)、芸術社会学、現代芸術論などに関する文献を読み、内容に関する発表や、他のゼミ生とのディスカッションを通じて、現代文化と社会のかかわりに関する視野を広げます。併せて、調査方法や研究方法論に関する理解を深めます。

・フィールド調査・合宿 | 都市・地域における文化実践の現場や、芸術祭・アートプロジェクト・アーツスペースなどに関するフィールド調査を行います。フィールド・合宿先は、首都圏各所の芸術や文化実践の現場のほか、北海道(札幌周辺地域など)、鳥取(鳥取市・湯梨浜町など)、瀬戸内地域(岡山・香川の島々など)、台湾(台北・台南など)、韓国(ソウル・光州など)、オーストラリア(シドニー・メルボルンなど)などのなかから選定します。

・インターゼミや合同ゼミへの参加 | 東京藝術大学、静岡文化芸術大学、北海道教育大学、慶應義塾大学、九州大学、青山学院大学、東京大学、鳥取大学、日本大学芸術学部、国際基督教大学(ICU)、聖公会大学校(ソウル)、シンポール国立大学(NUS)などの教員・学生と合同研究発表会やプロジェクトを行います(年度によって参加校は異なります)。

・ゲストトーク | アーティスト、キュレーター、マネージャーなどの実践者、ジャーナリスト、エディターなどのメディア関係者、国内外の研究者などによるトークを通じて、アートや現代文化に関する研究や実践についての理解を深めます(年度によって内容は異なります)。

・個人研究 | ゼミに所属する学生(履修生)は、「アートとまちづくり」、「表現活動を通じた新たなライフスタイル」、「クリエイティビティと政治やエコノミー、メディアの関係性」、「音楽をめぐる場」、「障がい者とアート」、「地域アートプロジェクト」、「クリエイティブ産業」、「DIY カルチャー／パーマカルチャー」、「シェリング・エコノミーと文化」など、各自の興味関心に基づいた個人研究を、教員とのチュートリアルや、ゼミ生とのディスカッションを交えながら進めていきます。現代文化と社会の関係性にかんする幅広いテーマを選ぶことが可能です。

その他、アートに関わる実践活動(例としてアートプロジェクトや芸術祭、オルタナティブスペースなど)の現場への関わりを持つことも可能です。

Students spend two semesters researching their topics. This course consists of:

- field research and summer camp (e.g. Hokkaido, Setouchi, Tottori, Taiwan, Seoul, Singapore, Sydney, London etc.)
- reading bibliographical materials
- selecting appropriate research methodology
- reading texts and carrying out data collection
- analysing texts and data
- writing a research thesis

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 文献講読・ディスカッション
3. 文献講読・ディスカッション
4. 文献講読・ディスカッション
5. フィールド調査(首都圏各所の芸術や文化実践の現場)
6. 文献講読・ディスカッション
7. 文献講読・ディスカッション
8. 文献講読・ディスカッション
9. フィールド調査(首都圏各所の芸術や文化実践の現場)／ゲストトーク
10. グループプロジェクト
11. グループプロジェクト
12. グループプロジェクト
13. 夏季合宿への参加 | 他大学との「合同ゼミ」や研究構想発表、フィールドワーク、ディスカッション、ゲストトークなど
14. 夏季合宿への参加 | 他大学との「合同ゼミ」や研究構想発表、フィールドワーク、ディスカッション、ゲストトークなど
15. 中間オリエンテーション
16. 文献講読・ディスカッション
17. 文献講読・ディスカッション
18. 文献講読・ディスカッション
19. フィールド調査(首都圏各所の芸術や文化実践の現場)
20. 文献講読・ディスカッション
21. 文献講読・ディスカッション
22. フィールド調査(首都圏各所の芸術や文化実践の現場)／ゲストトーク
23. 文献講読・ディスカッション
24. 文献講読・ディスカッション
25. 研究発表(プレゼンテーション)・ディスカッション、報告書作成
26. 研究発表(プレゼンテーション)・ディスカッション、報告書作成
27. 他大学との「インターゼミ」への参加
28. 他大学との「インターゼミ」への参加

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

文献講読・グループプロジェクトでは、事前にテキストの読解やグループディスカッション等を実施したうえで、発表を行う形式で進めていきます。個人研究発表については、各自の関心に基づき、あらかじめ調査研究を進めたうえで発表、ディスカッションを実施します。その他、合宿やインターゼミへの参加を行います。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加、研究発表、ディスカッション参加等(100%)

少人数ゼミ形式による授業のため、他の履修生とのディスカッションへの参加など、授業への積極的な関与を高く評価します。

テキスト (Textbooks)

履修者の関心や習熟度を踏まえたうえで、授業内でテキストを指定します。

参考文献 (Readings)

1. レス・バック、2014、『耳を傾ける技術』、せりか書房 (ISBN:978-4796703345)
 2. ヘンリー・ジェンキンス、2021、『コンヴァージェンス・カルチャー』、晶文社 (ISBN:978-4794972484)
 3. 松井みどり、2002、『アート：“芸術”が終わった後の“アート”』、朝日出版社 (ISBN:978-4255001326)
 4. 毛利嘉孝、2008、『はじめての DiY』、スペースシャワーネットワーク (ISBN:978-4860202705)
 5. 野田邦弘・小泉元宏・竹内潔・家中茂編、2020、『アートがひらく地域のこれから』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623088003)
 6. パブロ・エルゲラ、2002、『ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門 アートが社会と深く関わるための 10 のポイント』、新曜社 (ISBN:978-4788507883)
 7. 佐藤郁哉、2015、『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』、フィルムアート社 (ISBN:978-4845914500)
- その他、授業内で都度、紹介します。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

社会学部・現代文化学科生のほか、社会学科、メディア社会学科の学生の履修も若干名ずつ可能です。

上記スケジュールはモデルプランになります。ゲストやフィールド先の都合、プロジェクトの進捗などにより一部変更する場合があります。

その他、適宜、下記大学ホームページより、小泉ゼミの紹介欄を参照してください。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD403／エスノグラフィー論 (Ethnography)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	質的データ分析		
担当者名 (Instructor)	鈴木 久美子(SUZUKI KUMIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

質的調査(エスノグラフィー的方法)とはどのようなものであるかを多面的に知り、その方法論を理解する。そのために実際に調査のプロセスの一端を経験し、自らのテーマに対する質的調査実践のスキルと探究心を身につけることを目標とする。

Students will understand qualitative surveys (ethnographical methods) and their methodologies from multiple perspectives. To do that, students will experience part of these actual survey processes. Students will acquire practical skill and curiosity to conduct qualitative analyses on their subjects.

授業の内容 (Course Contents)

エスノグラフィーの展開とアプローチを紹介したうえで、質的データの収集や分析方法について具体的に講義する。また、演習的な授業展開のなかで、グループワーク、インタビュー演習等を実践する。

Professor will introduce ethnography development and approach before explaining specific methods to collect and analyze qualitative data. Furthermore, in this seminar class students will also practice group works and interview seminars.

授業計画 (Course Schedule)

1. 社会調査のすすめ
2. アイスブレイク: エスノグラファーの第一歩
3. エスノグラフィーとはなにか①: 最初のイメージをつくろう
4. エスノグラフィーとはなにか②: データ収集の方法
5. エスノグラフィー実践に向けて①: 調査の流れ
6. エスノグラフィー実践に向けて②: エスノグラフィー的散歩
7. インタビュー演習に向けて①: エスノグラフィー的散歩からインタビュー演習に向けて
8. インタビュー演習に向けて②: インタビューの技法
9. インタビュー演習に向けて③: 自己覚知ワーク
10. インタビュー演習①: インタビューをやってみよう
11. インタビュー演習②: インタビューの記録
12. インタビューとその記録①: インタビュー演習のふりかえり
13. インタビューとその記録②: インタビュー映像とエスノグラフィー
14. エスノグラファーとしてのありかたとは

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

調査レポート(40%)/演習課題①(20%)/演習課題②(10%)/演習課題③(20%)/授業時のお題に対する小レポート(10%)

テキスト (Textbooks)

必要な資料は配信する。

参考文献 (Readings)

1. 小田博志、2010、『エスノグラフィー入門 <現場>を質的研究する』、春秋社 (ISBN:9784393499115)
 2. 藤田結子・北村文、2013、『現代エスノグラフィー 新しいフィールドワークの理論と実践』、新曜社 (ISBN:9784788513280)
 3. 波平恵美子・小田博志、2010、『質的研究の方法 いのちの〈現場〉を読みとく』、春秋社 (ISBN:9784393332924)
- その他、テーマごとに随時紹介する。

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

全授業回のうち4回はオンライン実施(実施回については「Canvas LMS」で指示する)。対面授業ではパワーポイントを使用した講義形式及びグループワークやインタビュー演習等、対面授業が効果的な内容を実施する。オンライン回は演習課題の説明及び実施に向けて、受講者が課題作成に十分集中できる環境を提供するための内容となる。いずれの場合も、資料の配布、課題の提出は「Canvas LMS」を使用する。課題に対するフィードバックは、提出後の授業内の講評を中心とするが、希望者には個別のフィードバックを行う用意があるので、遠慮なく申し出てほしい。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD421／グローバル都市論 (Global City)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	北の都市、南の都市		
担当者名 (Instructor)	太田 麻希子(OTA MAKIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本授業では、世界的な資本主義の拡大とその下で生ずる都市空間の形成と変容について、地球の北と南、それぞれにおける具体的地域の文脈や歴史的諸局面に即して学ぶ。国内外の都市や地域に関わる現象をグローバルな文脈で理解する視座を獲得し、「他者への想像力」を培うことを目標とする。本授業は社会学部現代文化学科の教育課程編成方針「形成期」「完成期」にあたる専門教育選択科目である。

This class examines development processes of urban space and its transformation under the expansion of capitalism world-wide. Each lecture picks up examples of those processes both in the North and the South, paying special attention to historical and geographical contexts. Students are expected to obtain a perspective to understand various phenomena on cities and region within a global context and cultivate "imagination for others".

授業の内容 (Course Contents)

授業内容は、①北における産業化と都市化、②グローバル都市の形成と地球規模での南北関係の再編、③南の様々な地域における農村社会と都市化、④南の大都市と人々の生活・文化、⑤南におけるグローバル化と都市空間・社会の変容、⑥①～⑤を踏まえた上での都市論の再考といったテーマから構成される。本授業は、社会学部現代文化学科「都市とコミュニティ領域」の「発展科目」にあたる(科目ナンバリング参照)。

1. Industrialization and urbanization in the North
2. Emergence of global cities and restructuring of world economy
3. Rural societies and urbanization in regions of the South
4. Mega-cities, and lives and cultures of people in the South
5. Transformation of urban space and society under the globalization in the South
6. Re-examination of urban studies

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. グローバリゼーションと都市
3. 産業化と都市下層社会
4. 資本主義世界経済とその他の労働
5. シカゴ学派とその成立背景
6. フォーディズムとポスト・フォーディズム
7. 新国際分業とグローバル都市①
8. 新国際分業とグローバル都市②
9. 新国際分業とグローバル都市③
10. グローバル・サウスの都市①
11. グローバル・サウスの都市②
12. グローバル・サウスの都市③
13. グローバル・サウスの都市④
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

前もって資料を配布し、読むよう指示することがある。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(74%)/授業への参加(26%)

テキスト (Textbooks)

授業内で適宜提示する。

参考文献 (Readings)

授業内で適宜提示する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

- ・パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用する。
- ・テストに対する講評は、Canvas LMS で行なう。
- ・授業の進捗状況などによっては取り扱うテーマが前後することがある。
- ・出欠に代えてリアクションペーパーや小課題の提出を求めることがある。フィードバックは基本的に次の授業内で行う。
- ・ゲストスピーカーを呼ぶ可能性がある。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD422／都市マイノリティ論 (Urban Minorities)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	寄せ場とホームレス問題の社会学		
担当者名 (Instructor)	北川 由紀彦(KITAGAWA YUKIHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

日本社会におけるマイノリティ、特にその中でもいわゆるホームレス状態にある人々に関する基本的な知識を修得するとともに、彼ら・彼女らと「われわれ」との関係について理解を深めることを目標とする。

Students will acquire basic knowledge about minorities in Japanese society, particularly homeless people. Students will aim to deepen their understanding about relationships between themselves and these populations.

授業の内容 (Course Contents)

いわゆるホームレス状態にある人々に関して、彼ら・彼女らがどのような世界を生き、そうした世界が「われわれ」の社会とのどのような関係のもとで生成されてきた／いるのかについて論じていく。問題の所在や背景について考えることに重きを置いているので、「これが答えだ」「これが解決策だ」というような「元気の出る」「スッキリする」話は(おそらく)しない。なお、受講者の理解度や関心などに応じて各回の内容を変更する可能性がある。また、受講生からの質問や感想へのリプライ(毎回の授業の前半30分ほどを 使う予定)を通じて、講義形式ではあるができるだけインタラクティブな授業にしたいと考えている。

I will discuss the worlds in which these so-called homeless people live, and how these worlds are created in relation to "our" society. As the focus is on positions and backgrounds of these problems, students should be aware that these discussions will (probably) not end with simple solution, light note, or well-rounded conclusion. Class contents may be changed based on students' proficiency and interest. Although this class is in lecture format, students are encouraged to be interactive by replying to their reaction papers (about 30 minutes in the first half of each class).

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション／寄せ場とは何か(1)
2. 寄せ場とは何か(2): 寄せ場労働者の労働・生活の形態と労働市場の中での位置
3. 寄せ場とは何か(3): 寄せ場の形成とその要因／寄せ場労働者の社会的世界
4. 寄せ場とは何か(4): 寄せ場の変容とその背景(1)
5. 寄せ場とは何か(5): 寄せ場の変容とその背景(2)
6. 「ホームレス問題」(1): 「ホームレス」とは／誰が野宿者になっているのか
7. 「ホームレス問題」(2): なぜ女性野宿者は少ないのか／ホームレス問題の社会的構築
8. 「ホームレス問題」(3): 生活保護制度と野宿者／路上生活(野宿生活)の形成
9. 「ホームレス対策」(1): 「ホームレス対策」とは何か／特別措置法の成立と背景
10. 「ホームレス対策」(2): 「自立支援事業」の実態と問題点／国内各地における各種「ホームレス対策」等の概況
11. 「ホームレス対策」(3): 「地域生活移行支援事業」について考える
12. 日本の住宅政策
13. 「派遣切り」問題と「年越し派遣村」について考える
14. ホームレス支援策の直近の動向／そしてコロナ禍／まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回の授業で参考文献を紹介するので、各自の関心に応じて手に取って、読んでみてほしい。また、授業の中で宿題を課すことも予定している。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(80%)／出席回数および授業の中で適宜課す宿題の提出状況(20%)

平常点は、出席回数および授業の中で適宜課す宿題の提出状況により判断する。単位修得のためには、10回以上の出席を必要とする。出席回数が10回に満たない場合はレポートが提出されても評価対象にはならない。

テキスト(Textbooks)

特定の教科書は用いない。

参考文献 (Readings)

1. 青木秀男編、2010、『ホームレス・スタディーズ 排除と包摂のリアリティ』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623058136)
2. 西澤晃彦、2019、『人間にとって貧困とは何か』、放送大学教育振興会 (ISBN:978-4-595-31939-6)
3. 原口剛ほか編、2011、『釜ヶ崎のススメ』、洛北出版 (ISBN:978-4903127149)

その他、毎回配布するプリント中でも参考文献を紹介する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

授業中の私語等の迷惑行為については厳しく対処する。授業は定刻に開始し、授業開始から 15 分経過後は原則として出席票 (リアクションペーパー) を配布しない (= 欠席扱いとする) ので、遅刻しないように特に注意されたい。なお、授業への感想や質問については、リアクションペーパーあるいは Web 上の授業支援システム「Canvas LMS」を通じて記入・提出してもらうことを予定している。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD423／都市コミュニティ論 (Urban Local Community)		
担当者名 (Instructor)	柳 信寛(YANAGI NOBUHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

都市コミュニティの概念と理論を習得し、現実社会での実践、特に日本での都市コミュニティの現実と可能性を検討する。都市社会の状況や都市政策の歴史的経緯を把握する過程で、「都市で生活すること」への分析視角を深めることを目指す。

Students will learn urban community concepts and theories. They will then discuss implementation in actual society, particularly reality and potential of urban community in Japan. Students will understand urban society conditions and urban policy historical timeline to deepen their perspective to analyze urban living.

授業の内容 (Course Contents)

現在「コミュニティ」という語は多方面で使用されているが、実は非常に曖昧な表現である。したがって、まず歴史的に研究を概観することによって、その定義や理論が発生した経緯、期待された機能などを論じる。続いて、日本のコミュニティ研究を振り返りながら、コミュニティ政策の歴史的成果や課題を検討する。そのうえで、社会科学の諸テーマとコミュニティがどのような関係や状況にあるのかについて展開していく。

Now the word community is used in many ways, making its meaning ambiguous. Therefore, students will study timeline and expected function, in which these definitions and theories were born, by reviewing historical researches. Next, students will review community researches in Japan while discussing historical community policy findings and topics. In addition, students will study connections and conditions among various social science subjects and community.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 理論の系譜 都市化社会への危機
3. 理論の系譜 コミュニティへの着目
4. 理論の系譜 概念を絞り込む
5. 理論の系譜 概念を解放する
6. 住宅地・ニュータウンの形成
7. 町内会の成立と変遷
8. 日本でのコミュニティ理論
9. コミュニティ政策
10. コミュニティ施設
11. 商店会・自営業
12. 家族・学校・ライフコース
13. 標準世帯・標準就労モデルの限界
14. 都市コミュニティ理論の課題と展望

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

個人が育成した生活環境によって、コミュニティに対する視点は大きく異なってくる。都心、郊外、ニュータウン、地方都市など様々であろうが、なによりもまず自分自身が生活している地域や住宅、家族関係や近隣などを注視してほしい。一般的にみられることなのか、それとも特殊であるのかなど、自身をとりまく社会環境・生活環境を冷静に客観的に捉えようとする態度を求めます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%) / リアクションペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

適宜指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD424／まちづくり論 (Community Design)		
担当者名 (Instructor)	竹内 光博(TAKEUCHI MITSUHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「まちづくり」とは何か、「まちづくり」を相対化しその現在を考察する中で、将来のあり方を展望する思想・論理を考える。

What is city building? Students will compare and analyze current condition of city building. They will also think about ideas and theories about future trends.

授業の内容 (Course Contents)

諸論文の読解を通じて「まちづくり」をめぐるさまざまな課題を認識し、また「都市計画」や「社会資本整備」の史的展開を確認し、いくつかの事例研究を交え「まちづくり」の将来のあり方を展望するための基礎的なテーマを整理し学ぶ。なお、下記内容を予定しているが授業の展開により変更することもある。

Students will read multiple papers to become aware of various city building issues, while verifying historical progress of city planning and social infrastructure development. In addition, students will study several case researches to organize and learn basics of future city building. The following contents are estimates and may be changed depending on class progress.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス(「まちづくり論」の概要)
2. 「まちづくり定義」の論理構造(1)
3. 「まちづくり定義」の論理構造(2)
4. 「まちづくり定義」の論理構造(3)
5. 経験の必要性(1)アフォーダンス
6. 経験の必要性(2)環境の構造化
7. 経験の必要性(3)経験の民主化
8. 社会資本とは何か(1)社会資本の概念
9. 社会資本とは何か(2)社会的共通資本の思想
10. 都市計画の概念と機能(1)制度の枠組と史的展開
11. 都市計画の概念と機能(2)まちづくりと都市計画
12. まちづくりの現在一事例研究(1)
13. まちづくりの現在一事例研究(2)
14. まちづくりの現在一事例研究(3)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回、予習及び復習の内容を提示します。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(80%)/リアクションペーパー(20%)

テキスト (Textbooks)

各回、参照テキストを提示します。

参考文献 (Readings)

各回、参照文献を提示します。

その他(HP等) (Others(e.g HP))

教員への連絡方法は、授業内で案内します。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／都市マイノリティ論 (Urban Minorities)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	寄せ場とホームレス問題の社会学		
担当者名 (Instructor)	北川 由紀彦(KITAGAWA YUKIHIKO)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

日本社会におけるマイノリティ、特にその中でもいわゆるホームレス状態にある人々に関する基本的な知識を修得するとともに、彼ら・彼女らと「われわれ」との関係について理解を深めることを目標とする。

Students will acquire basic knowledge about minorities in Japanese society, particularly homeless people. Students will aim to deepen their understanding about relationships between themselves and these populations.

授業の内容 (Course Contents)

いわゆるホームレス状態にある人々に関して、彼ら・彼女らがどのような世界を生き、そうした世界が「われわれ」の社会とどのような関係のもとで生成されてきた／いるのかについて論じていく。問題の所在や背景について考えることに重きを置いているので、「これが答えだ」「これが解決策だ」というような「元気の出る」「スッキリする」話は(おそらく)しない。なお、受講者の理解度や関心などに応じて各回の内容を変更する可能性がある。また、受講生からの質問や感想へのリプライ(毎回の授業の前半 30 分ほどを 使う予定)を通じて、講義形式ではあるができるだけインタラクティブな授業にしたいと考えている。

I will discuss the worlds in which these so-called homeless people live, and how these worlds are created in relation to "our" society. As the focus is on positions and backgrounds of these problems, students should be aware that these discussions will (probably) not end with simple solution, light note, or well-rounded conclusion. Class contents may be changed based on students' proficiency and interest. Although this class is in lecture format, students are encouraged to be interactive by replying to their reaction papers (about 30 minutes in the first half of each class).

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション／寄せ場とは何か(1)
2. 寄せ場とは何か(2): 寄せ場労働者の労働・生活の形態と労働市場の中での位置
3. 寄せ場とは何か(3): 寄せ場の形成とその要因／寄せ場労働者の社会的世界
4. 寄せ場とは何か(4): 寄せ場の変容とその背景(1)
5. 寄せ場とは何か(5): 寄せ場の変容とその背景(2)
6. 「ホームレス問題」(1): 「ホームレス」とは／誰が野宿者になっているのか
7. 「ホームレス問題」(2): なぜ女性野宿者は少ないのか／ホームレス問題の社会的構築
8. 「ホームレス問題」(3): 生活保護制度と野宿者／路上生活(野宿生活)の形成
9. 「ホームレス対策」(1): 「ホームレス対策」とは何か／特別措置法の成立と背景
10. 「ホームレス対策」(2): 「自立支援事業」の実態と問題点／国内各地における各種「ホームレス対策」等の概況
11. 「ホームレス対策」(3): 「地域生活移行支援事業」について考える
12. 日本の住宅政策
13. 「派遣切り」問題と「年越し派遣村」について考える
14. ホームレス支援策の直近の動向／そしてコロナ禍／まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回の授業で参考文献を紹介するので、各自の関心に応じて手に取って、読んでみてほしい。また、授業の中で宿題を課すことも予定している。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(80%)／出席回数および授業の中で適宜課す宿題の提出状況(20%)

平常点は、出席回数および授業の中で適宜課す宿題の提出状況により判断する。単位修得のためには、10 回以上の出席を必要とする。出席回数が 10 回に満たない場合はレポートが提出されても評価対象にはならない。

テキスト (Textbooks)

特定の教科書は用いない。

参考文献 (Readings)

1. 青木秀男編、2010、『ホームレス・スタディーズ 排除と包摂のリアリティ』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623058136)
2. 西澤晃彦、2019、『人間にとって貧困とは何か』、放送大学教育振興会 (ISBN:978-4-595-31939-6)
3. 原口剛ほか編、2011、『釜ヶ崎のススめ』、洛北出版 (ISBN:978-4903127149)

その他、毎回配布するプリント中でも参考文献を紹介する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

授業中の私語等の迷惑行為については厳しく対処する。授業は定刻に開始し、授業開始から 15 分経過後は原則として出席票 (リアクションペーパー) を配布しない (= 欠席扱いとする) ので、遅刻しないように特に注意されたい。なお、授業への感想や質問については、リアクションペーパーあるいは Web 上の授業支援システム「Canvas LMS」を通じて記入・提出してもらうことを予定している。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD442／マイグレーション論 (Study of Migration)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	人の国際移動と変容する日本社会を考える		
担当者名 (Instructor)	新田 目 夏実 (ARATAME NATSUMI)		
学期 (Semester)	春学期 (Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位 (2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

グローバル化の社会的象徴が国境を超える人のダイナミックな移動である。このような国際移動は、出身国と同時に目的地の政治、経済、文化に大きな影響を与える要因となっている。本クラスは、特に学位授与の方針における「発見」を学ぶための科目であり、人の移動に関する国際的なものの見方と政策的対応について理解し、考え方の基本を身につけることを目的としている。

Sociology in a globalizing world is symbolized by dynamic population flow across borders. Such international flows of people have great impacts on both sending and receiving countries in terms of politics, economy, and culture. The purpose of this class is to acquire exploring skills as defined in the lauration guidelines. Students will learn basic theories and acquire analytical perspectives to study international migration and policy options.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、まず人の移動を分析する理論的枠組みおよび人の移動がもたらす社会的影響のいくつかについて具体的に学ぶ。次に各国の移民政策について学ぶ。最後に、グローバル化する日本社会における移民問題について具体的に学ぶとともに、今後の日本の「多文化共生政策」と「移民政策」について考察する。

In this lecture, students will first learn history of international migration and theoretical frameworks by which to analyze international migration. Next, students will learn social impact of international migration, followed by immigration policies in various countries. Finally, students will learn specific immigration issues in Japan and analyze what policy to adopt in the face of increasing multicultural diversity in Japan at present and in the future.

授業計画 (Course Schedule)

1. はじめに—なぜ人の移動が重要か。
Why is migration important?
2. 国際人口移動の加速化と多様化 1
Acceleration and diversification of international migration 1
3. 国際人口移動の加速化と多様化 2
Acceleration and diversification of international migration 2
4. 世界の難民問題
Refugees in the world
5. 世界の難民、日本の難民
Refugees in Japan
6. 移民と犯罪
Migration and crimes
7. 移民と開発
Migration and development
8. 人の移動と日常生活
Migration in everyday life
9. 移民政策—アメリカ
Migration policy: US
10. 移民政策—ヨーロッパ
Migration policy: Europe
11. 日本社会と移民—戦前～1980年代
Migration in Japan: from prewar period to the 1980s
12. 日本社会と移民—1990～今日
Migration in Japan: 1990～today
13. 多文化主義の可能性と問題点 1
Towards multicultural society: problems and prospect
14. 多文化主義の可能性と問題点 2: 残された課題

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキスト等の指定された箇所について、あらかじめ予習してください。授業内容・配付資料を基に要点を整理し「立教時間」にコメントを書くことで、毎回の授業内容の復習をしてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加(20%) / 小テスト・課題(40%) / 最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 樽本英樹、2016、『よくわかる国際社会学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623075911)
2. 石井香代子、2017、『国際社会学入門』、ナカニシヤ出版 (ISBN:978-4-7795-1134-9)

参考文献 (Readings)

1. 移民政策学会、2018、『移民政策のフロンティア』、明石書店 (ISBN:978-4-7503-4652-6)
 2. 水上徹男、野呂芳明、吉成勝男編著、2015、『市民が提案するこれからの移民政策』、現代人文社 (ISBN:978-4877986087)
 3. バート・バートベック、2014、『トランスナショナリズム』、日本評論社 (ISBN:978-4535586574)
 4. 樽本英樹、2018、『排外主義の国際比較』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4-623-08363-3)
- 以上に加え、授業の中で関連する文献、HP、データなどを適宜紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

立教時間上に毎回レジュメおよび関連資料をアップロードします。授業の進行に合わせて小テストもしくはレポート課題を課します。授業の感想は「立教時間」に投稿してください。「立教時間」を通じて、また授業の中でフィードバックを行います。それ以外の質問は直接メールで連絡してください。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD443／多文化の社会理論 (Social Theory of Multicultural Society)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	文化人類学的視点からみる他者との共存		
担当者名 (Instructor)	吉元 菜々子(YOSHIMOTO NANAKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本授業の目的は、文化人類学的な発想による異文化理解の仕方を学ぶことを通じて、多文化社会を理解するための視座を身に着けることである。国家政策としての多文化主義についてだけでなく、文化人類学が対象としてきた世界のさまざまな社会における他者との共存のあり方について学ぶことで、多様性を包摂する社会の可能性について主体的に考える姿勢を養うことを目指す。

The purpose of this class is to acquire viewpoint for understanding multicultural societies by learning how to understand different cultures from the perspective of cultural anthropology. By learning about multiculturalism as a state policy, as well as learning about how to coexist with others in various societies around the world that have been the subject of cultural anthropology, we aim to develop an attitude of active thinking about the possibility of a society that is inclusive of diversity.

授業の内容 (Course Contents)

グローバル化する現代社会において、文化的に異なる他者との共存はさまざまな社会において大きな問題となってきた。コロナ禍は人やモノの世界規模での移動を一時的に止めたが、異なる他者と共に生きるという点をめぐって、むしろ問題は顕在化した。本講義では、文化人類学的なフィールドワークに基づく他者理解を基本とし、多文化社会を理解するための基礎的な知識を習得するとともに、以下の授業計画に挙げたさまざまなトピックから社会の多様性と異なる他者への向き合い方について考えていく。

In today's globalized world, coexistence with others who are culturally different has become a major issue in various societies. The Corona disaster temporarily halted the global movement of people and goods, but the problem has become more apparent in terms of living with different others. In this lecture, based on the understanding of others based on cultural anthropological fieldwork, we will acquire the basic knowledge to understand multicultural societies and think about the diversity of societies and how to be open to different others from the various topics listed in the following lesson plan.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション——なぜ今、多文化社会なのか
2. フィールドワークと異文化理解
3. 文化をめぐる諸概念の整理
4. 世界システムとポストコロニアル
5. 表象と言説
6. 文化とアイデンティティ
7. グローバリゼーションと他者との出会い
8. 人・モノ・文化の移動
9. 「共存」と相互行為
10. 非境界的世界と相互行為
11. もめごととコミュニティ
12. 宗教と紛争
13. ジェンダーと身体
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

必要に応じて参考資料や文献を配布するので、指示があった場合は事前に読んでくること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%) / リアクションペーパーなど(40%)
2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。授業計画は、受講生の理解度や要望に応じて若干の変更を加える場合がある。

テキスト (Textbooks)

テキストは指定しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。

参考文献 (Readings)

1. 韓敬九・桑山敬己(編)、2008、『日韓共同編集 グローバル化時代をいかに生きるか:国際理解のためのレッスン』、平凡社 (ISBN:978-4-582-83375-1)
 2. 吉野晃(監修)、2020、『ダメになる人類学』、北樹出版 (ISBN:978-4-7793-0629-7)
 3. 松村圭一郎、2020、『はみだしの人類学:ともに生きる方法』、NHK 出版 (ISBN:978-4-14-407254-3)
- その他の参考文献に関しては、授業内容に応じてその都度紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

受講者人数によっては文献の輪読を行い、受講者にレジメなどの資料を作成した上で輪読文献の概要を紹介する授業内発表をお願いすることを予定している。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／マイグレーション論 (Study of Migration)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	人の国際移動と変容する日本社会を考える		
担当者名 (Instructor)	新田 目 夏実 (ARATAME NATSUMI)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

グローバル化の社会的象徴が国境を超える人のダイナミックな移動である。このような国際移動は、出身国と同時に目的地の政治、経済、文化に大きな影響を与える要因となっている。本クラスは、特に学位授与の方針における「発見」を学ぶための科目であり、人の移動に関する国際的なものの見方と政策的対応について理解し、考え方の基本を身につけることを目的としている。

Sociology in a globalizing world is symbolized by dynamic population flow across borders. Such international flows of people have great impacts on both sending and receiving countries in terms of politics, economy, and culture. The purpose of this class is to acquire exploring skills as defined in the lauration guidelines. Students will learn basic theories and acquire analytical perspectives to study international migration and policy options.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、まず人の移動を分析する理論的枠組みおよび人の移動がもたらす社会的影響のいくつかについて具体的に学ぶ。次に各国の移民政策について学ぶ。最後に、グローバル化する日本社会における移民問題について具体的に学ぶとともに、今後の日本の「多文化共生政策」と「移民政策」について考察する。

In this lecture, students will first learn history of international migration and theoretical frameworks by which to analyze international migration. Next, students will learn social impact of international migration, followed by immigration policies in various countries. Finally, students will learn specific immigration issues in Japan and analyze what policy to adopt in the face of increasing multicultural diversity in Japan at present and in the future.

授業計画 (Course Schedule)

1. はじめに—なぜ人の移動が重要か。
Why is migration important?
2. 国際人口移動の加速化と多様化 1
Acceleration and diversification of international migration 1
3. 国際人口移動の加速化と多様化 2
Acceleration and diversification of international migration 2
4. 世界の難民問題
Refugees in the world
5. 世界の難民、日本の難民
Refugees in Japan
6. 移民と犯罪
Migration and crimes
7. 移民と開発
Migration and development
8. 人の移動と日常生活
Migration in everyday life
9. 移民政策—アメリカ
Migration policy: US
10. 移民政策—ヨーロッパ
Migration policy: Europe
11. 日本社会と移民—戦前～1980 年代
Migration in Japan: from prewar period to the 1980s
12. 日本社会と移民—1990～今日
Migration in Japan: 1990～today
13. 多文化主義の可能性と問題点 1
Towards multicultural society: problems and prospect
14. 多文化主義の可能性と問題点 2: 残された課題

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキスト等の指定された箇所について、あらかじめ予習してください。授業内容・配付資料を基に要点を整理し「立教時間」にコメントを書くことで、毎回の授業内容の復習をしてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加(20%) / 小テスト・課題(40%) / 最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 樽本英樹、2016、『よくわかる国際社会学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623075911)
2. 石井香代子、2017、『国際社会学入門』、ナカニシヤ出版 (ISBN:978-4-7795-1134-9)

参考文献 (Readings)

1. 移民政策学会、2018、『移民政策のフロンティア』、明石書店 (ISBN:978-4-7503-4652-6)
 2. 水上徹男、野呂芳明、吉成勝男編著、2015、『市民が提案するこれからの移民政策』、現代人文社 (ISBN:978-4877986087)
 3. バート・バートベック、2014、『トランスナショナリズム』、日本評論社 (ISBN:978-4535586574)
 4. 樽本英樹、2018、『排外主義の国際比較』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4-623-08363-3)
- 以上に加え、授業の中で関連する文献、HP、データなどを適宜紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

立教時間上に毎回レジュメおよび関連資料をアップロードします。授業の進行に合わせて小テストもしくはレポート課題を課します。授業の感想は「立教時間」に投稿してください。「立教時間」を通じて、また授業の中でフィードバックを行います。それ以外の質問は直接メールで連絡してください。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD462／環境政策論 (Environmental Policy)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「脱炭素の時代」を読み解く		
担当者名 (Instructor)	大倉 季久(OHKURA SUEHISA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

現代の環境政策をめぐる生じている問題について、「持続可能性」の概念の理解に基づいて、具体的な事例を用いて説明できるようにすること。環境政策の内容や、政策の立案・決定・実施過程の考察を通して、環境問題の現代的な課題や将来的な争点について理解を深めること。

This course has three key learning objectives.

1. Demonstrating familiarity with major environmental issues.
2. Applying the concept of sustainability to better understand an environmental issue and policy.
3. To evaluate the advantages and limitations of environmental policy today.

授業の内容 (Course Contents)

この講義では、「持続可能性」をキーワードに、「脱炭素」を目指す現代の環境政策の新たな動向とそれがもたらす問題や争点について考える。とくにこの講義では、気候変動対策、エネルギー転換、第一次産業、政策統合など、環境政策のなかでも、今日、合意や議論の着地点を探り当てるのが難しくなっている政策領域に焦点をあてて、今後の環境問題のゆくえと環境政策の争点について新たな展望を得ることを課題とする。

This course considers new trends in environmental policy aimed at “Decarbonization” and the problems and issues they bring. In particular, this course will focus on policy domains such as climate change, renewable energy, forestry, and policy integration, where consensus building is difficult today. The challenge is to obtain new perspectives on the future of environmental problems and solutions.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション—何を学び、何を考えるのか：講義の概略と解説
2. 持続可能性(サステナビリティ)とは何だろうか
3. 脱炭素の時代の到来(1)地球環境政策の登場と京都メカニズムの矛盾
4. 脱炭素の時代の到来(2)京都議定書からパリ協定へ
5. 脱炭素の時代の到来(3)トヨタの場合、アップルの場合
6. グリーン・イノベーションの現在地(1)再生可能エネルギーの実力
7. グリーン・イノベーションの現在地(2)エネルギー転換の政策構想
8. グリーン・イノベーションの現在地(3)エネルギー転換と地域資源のゆくえ
9. 「自然資本」とは何だろうか—環境と経済をめぐる新しいファイナンスの世界
10. 森林政策の教訓(1)荒れる森林は何を問うのか
11. 森林政策の教訓(2)森林政策の「意図せざる結果」をめぐる
12. 持続可能な社会のデザイン(1)都市変革に挑む
13. 持続可能な社会のデザイン(2)収縮の時代に気候政策を担う
14. まとめとふりかえり

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業内で紹介する事例、キーワードを中心に、参考文献、新聞記事、インターネット等を駆使してより具体的で幅広い理解を得られるように努めること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

毎回のリアクションペーパー、及び小テスト(20%)／中間レポート(40%)／最終レポート(Final Report)(40%)

なお、レポート課題と締切については、中間レポートは第2回以降、最終レポートは第9回以降の授業の中で最初に提示する。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 大倉季久、2017、『森のサステイナブル・エコノミー』、晃洋書房 (ISBN:4771029385)
2. 高橋洋、2017、『エネルギー政策論』、岩波書店 (ISBN:4000289187)
3. 森川潤、2021、『グリーン・ジャイアント』、文藝春秋 (ISBN:4166613278)

ほか、適宜指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD463／自然環境保全論 (Conservation Ecology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	森, 川, 海をつなぐ「自然の大循環」		
担当者名 (Instructor)	小島 望(KOJIMA NOZOMU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

「環境問題は社会問題である」という認識のもと、現代社会の抱える構造的欠陥を明らかにしつつ、科学的・技術的な解決方法や生態学的な知識の習得に偏らない、問題解決の道を模索していけるような授業を目指します。

Students will recognize environmental issues as social issues to clarify structural deficits plaguing modern society. Students will strive for equilibrium when learning ecological knowledge, scientific and technological solutions. They will then explore paths towards problem resolutions.

授業の内容(Course Contents)

人類は生物多様性(ヒトを含めた様々な生物のつながりとそれらを支える環境からなる全体)のもたらす様々な恩恵を享受することによって生存しています。本講義では、自然科学・社会科学的な視点から「生物多様性」を捉え、問題解決には何が必要なのかを考えていきます。扱うテーマは全て、①物事を様々な角度から考えること、②物事を批判的に見る目を持つこと、③常に弱者へ配慮を忘れないようにすること、④科学の限界を知ること、の4つの視座から成り、特に「人と自然とのつながり」に焦点をあてながら、生物多様性保全について理解できるような工夫をしています。

Human survive thanks to blessings of biodiversity (connections among various organisms including human and overall environment that support these life forms). In this lecture, students will study biodiversity from natural science and social science perspective. They will think about requirements for problem resolutions. These subjects include: (1) think about things and events from multiple angles, (2) have critical perspective when viewing things and events, (3) do not forget unprivileged group, (4) know limits of science. Based on these 4 perspectives, students will work on understanding biodiversity preservation while focusing on connections between human and nature.

授業計画(Course Schedule)

- ガイダンス・・・講義の進め方や成績の評価方法などについて
野生動物への餌づけ・・・野生動物へ餌を与えることによる影響
- 世界遺産「白神山地」の光と影・・・白神山地を縦断する「春秋林道」建設反対運動と世界遺産登録
- 森林機能と緑のダム・・・森林の成り立ちと川の仕組み
- ダム反対運動・・・徳島県「細内川ダム」反対運動の顛末
- ダムの功罪・・・ダムが破壊する地域の自然と文化
- 肥大化するダム関連事業・・・ダム建設が止まらないのは何故か
- 諫早干拓事業の行方(1)・・・干潟の浄化作用のしくみと干潟面積減少による経済的損失
- 諫早干拓事業の行方(2)・・・干潟の利用を通して考える現代農林水産業の矛盾
- 諫早干拓事業の行方(3)・・・諫早干拓事業裁判からみる三権分立の崩壊
- 沖縄の自然と観光・・・荒廃する沖縄の自然と観光との関係
- 海の熱帯雨林「サンゴ礁」の成り立ちとしくみ・・・サンゴの不思議な生態とサンゴ礁の重要性
- 最大の自然破壊「戦争」・・・沖縄米軍基地固定によって失われゆく沖縄の自然と自治
- 森と海をつなぐ川・・・サケ・マス類における研究が明らかにした自然の大循環
- 文明の崩壊と自然破壊・・・古代文明の衰退から学ぶ自然保護の重要性

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(50%)／講義時間内に提出する通常レポート(50%)

テキスト(Textbooks)

- 小島望、2010、『図説』生物多様性と現代社会』、農山漁村文化協会 (ISBN:4540092995)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

本講義では、講義毎にレポート等の提出が必ずあります(講義時間内に行ないます)が、それは講義を受け身で聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、得られた知識を自分のものとするためです。なお、講義中のスマホ操作は固く禁じます。守れない者は受講しないようにしてください。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD464／環境の思想 (Environmental Philosophy)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	持続可能な社会にむけた知の構築と多様なステークホルダーの対話と協働 Knowledge creation for a sustainable society and multistakeholder dialogue and collaboration		
担当者名 (Instructor)	野口 扶美子(NOGUCHI FUMIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

人びとの思い(思想)が社会を作り、その中で起こる出来事から新たな思想が生まれ社会が再構築されていく。「持続可能な開発」の概念が生まれて 35 年。現在、持続可能な開発目標 (SDGs) という政策を通して広く社会に浸透するようになりました。この講義では、開発と環境課題をめぐる思想や議論が発展し、政治的文脈の中で生まれた持続可能な開発という概念とそれをめぐる政策の流れに着目します。「出来事→思い・行為→思想→概念→政策」という一連の流れの中で、地域社会の中で、多様なステークホルダー(関係者)が、持続可能性課題を巡って、緊張関係ももたながら関連し合っているのか、そして、それを超えてどうしたらともに学び合い、協働しながら、課題を解決し、地域をより持続可能にしていけるのかを、講義だけでなく、授業の中でのワークショップやグループ課題などを通して、深めていきたいと思います。特に、多様なステークホルダーとの協働において、避けては通れない、中立性とは一体何なのか、ということをおみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

People's thoughts construct a society, where events regenerate further new thoughts for re-constructing the society. 35 years have passed since the spawn of the sustainable development concept. Now, it has been widely disseminated through a global policy framework, "Sustainable Development Goals (SDGs)". In this course, the students will learn about how the concept of sustainable development has evolved based on the thoughts, debates and problems over development and environment in a highly political context and the relevant policies that were produced. The course will look at the flow of 'incident → thinking/responses → thoughts → concepts → policies' to deepen the understanding of how multi-stakeholders can co-learn and collaborate to overcome tensions and solve complex sustainability challenges. The course will examine the meaning of 'neutrality' which is unavoidable in the discursive and collaboration process by the multistakeholder in a local community.

授業の内容 (Course Contents)

この授業では、以下の 4 つをねらいとして進めていきます。履修者もおおいに発言し、他の履修生と一緒に考える参加型・協働学習のアプローチを取り入れて進めていきます。ワークショップスタイルのディスカッションの時間も授業中に取るほか、グループで課題を行っていただきます。

- 持続可能な開発の概念やそれを進めていく上での国際的な政策枠組みとなっている持続可能な開発目標 (SDGs) についての背景、関連する国際・国内の政策、実践などの動向についての基本的な知識を得る
 - 持続可能な開発や SDGs と、自分の暮らし、生活とのかかわりについての理解を深める
 - 日々の生活の中で、持続可能な開発に関わる課題を見出し、その問題の根本的な原因についての分析を行い、多様な立場のステークホルダーを尊重しながら対話を行い、問題解決のため協働を進めていける力をつける。
 - 「持続可能な開発」とは何か? という問いに対して、履修者各自が地域での課題に引きつけて考え、自分なりの見解と他者との協働をおとして答えていけるような力をつける
- 授業に、ゲストの講師もお招きする予定です。

The course will take the participatory and co-learning approach that will provide a student with the opportunity to speak out and think together with others. Workshop-style discussion time will be allocated as in-class activities. This course has the following four objectives to gain:

- Basic knowledge about the background of sustainable development concepts and SDGs and the trends and issues of relevant international and domestic policies and practices.
 - The understanding of the linkage between sustainable development/SDGs and our everyday life.
 - Capacity and skills to identify the sustainability challenges in everyday life, analyse the root causes and impacts and work together for solutions with diverse stakeholders with the respect.
 - Capacity to have his/her own answer to the question of what sustainable development is, by drawing on the issues in a local community and through collaboration with others.
- This course will also invite one or two guest speakers.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 講義概要、評価と課題説明、教員紹介、自分と持続可能性課題、社会のつながり

Introduction: Course overview, evaluation and assignments, the introduction of the lecturer, making a linkage between sustainability challenges, society and yourself

2. 【概念と政策】環境思想・運動と持続可能な開発の概念
[Concept and Policy] Environmental thoughts and movement and sustainable development concept
3. 【概念と政策】持続可能な開発目標(SDGs)と地域に根ざすということ
[Concept and Policy] Sustainable Development Goals (SDGs) and community-based approach
4. 【持続可能な開発へのアプローチ】専門家と地域の多様なステークホルダー、科学・近代知と多様な地域の知と学び: 認識論の違いを超えて
[Approach to Sustainable Development] Expert and various stakeholders of a local community; scientific/modern knowledge and various types of local knowledge: Overcoming the epistemological differences
5. 【持続可能性課題の事例から学ぶ】
Learning from the local community practice for sustainable development
6. 【持続可能な開発課題をめぐるステークホルダー】地域課題とステークホルダー
[Diverse stakeholders on sustainability issues] Sustainability challenges and various stakeholders
7. 【持続可能な開発をめぐるステークホルダー】身体性からまちを再考する
[Making a local community practice] Feeling to rethink a community from a 'body' perspective
8. 【地域での実践をつくる】都市と農村、近代知と地域知をつなぐ
[Making a local community practice] Connecting urban and rural; modern knowledge and local knowledge
9. 【地域での実践を作る】池袋のまちフィールドワーク
[Making a local community practice] Ikebukuro fieldwork
10. 【地域での実践を作る】多様な人の参加をつくる手法とリーダーシップ
[Making a local community practice] Techniques for participatory and inclusive approach and leadership
11. 【実践から政策へ】中立とは何か？
中立とは何か？
Making a local community practice] What is neutrality?
12. 【実践から政策へ】地域の実践が思想をつくり社会を再構築することができるのか？
[From practice to policies] Can local practice create thoughts to reconstruct a society?
13. グループ課題プレゼンテーション
Group assignment presentations
14. グループ課題プレゼンテーション(予備日)、総括議論
Group assignment presentations (Part 2) and conclusive discussion

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の講義内容をふりかえり、関心や疑問を持ったことについては自分なりに書籍や論文などを用いて学びを深めてください。2つの課題に向けた準備の時間が必要になります。また、授業で使用するパワーポイントや関連文献は、授業の前までにアップロードします。目を通してから授業に出ると理解が深まると思います。本科目では、レポート課題(中間)とグループ課題を行います。いずれの課題においても、授業時間外での学習時間やグループでの話し合い、課題準備の時間などが必要になります。

Spend time reflecting on your learning from each lecture and deepen it by looking at the literature. Need a certain time to prepare two assignments for this course. The lecture ppt and relevant literature will be uploaded before each lecture. Going through them before your attendance will be suggested to facilitate your learning.

成績評価方法・基準(Evaluation)

エッセイの提出(中間課題)(35%)/グループ課題(グループプレゼンテーションと関連資料の提出)(35%)/講義への出席、積極的な参加、ふりかえりシートの記入(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 辻信一、2020、『常世の舟を漕ぎて』、ゆっくり小文庫 (ISBN:9784991081620)
- なし

参考文献(Readings)

その他必要な参考文献(英語文献含む)のPDFを必要に応じて共有します。
The lecturer will share the references and PDF copies when necessary.

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

全授業回のうち7回を上限にオンライン授業を実施する。
オンライン回については授業内および授業支援システム等で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD482／アートの社会学 (Sociology of Art)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	キーワード: 美術／音楽／映像／演劇／ポピュラーカルチャー／サブカルチャー／メディア／ライフスタイル／DIY／まちづくり／コミュニティ／芸術・文化政策／クリエイティブ産業		
担当者名 (Instructor)	小泉 元宏(KOIZUMI MOTOHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

授業の達成目標は以下の通りである。

- (1) アート(arts, 美術、音楽、映像など諸芸術や、ポピュラーカルチャーなど)と、社会構造や社会制度の関係性について、文化理論研究等の基本的な用語や概念を用いながら説明できること。
- (2) ディスカッションやアートプロジェクト、コメントシート、レポート課題等を通じて、自己の考えを示すこと。
- (3) (1)、(2)を通じて、今日の表現領域と社会との関係性を考察、分析するために必要とされる基本的視座を獲得すること。

By the end of the course you should:

1. Be able to contextualize your own ideas regarding the relationship between arts/culture and social structures/institutions in a theoretical sense.
2. Explain your own thoughts through discussions, art projects, comment forms, and reports.
3. Develop basic perspectives in understanding the relationship between arts and society in everyday life.

授業の内容 (Course Contents)

本授業は、第1に、ポピュラーカルチャー、サブカルチャーなどを含む広義の諸芸術(アート, arts)が、いかなる社会構造や社会制度のなかで生み出されてきたのかを知るとともに、第2に、今日におけるアートの社会的役割を考察することを目的とする。前半の講義は、「あなたはなぜ、○○というアート(音楽・美術・演劇・映画・ポピュラーカルチャー...)が好き(嫌い)なのか」を問うことから始める。その問いへの答えを検討しながら、いかにしてアートが、近現代の社会構造の変容や社会的諸制度のなかで構成されてきたのかを論じていく。

たとえば、(1)国民国家を形成するための近代化におけるアートの制度化や、(2)大衆社会の誕生や、新たな複製技術の広がりや背景とした大衆文化の誕生と文化の産業化、(3)趣味の多様化の時代の到来、(4)国・都市・地域における文化的魅力への着目の強化、等のなかで、いかにアートやポピュラーカルチャーなどの概念が生み出され、拡大し、また、それらが我々の表現文化に対する見方・嗜好を規定してきたのかを考察していく。

その上で、講義の後半では、社会的・経済的・政治的装置としてのアート実践が、今日、いかなる社会的役割を果たしているかを、ストリートアートやグラフィティ、スクワットイング、ソーシャリーエンゲージド・アート、DIY 思想に基づく表現活動などの具体事例を通じて考察していく。

フランクフルト学派やカルチュラル・スタディーズ、文化の社会学、メディア研究、クリエイティブ産業研究などの各視座からの諸文化に対する批評理論や考察は、検討のためのヒントを我々に与えてくれるだろう。

なお授業では、講義に加え、アートプロジェクトやグループ・ディスカッション、ビジュアル資料視聴などを導入し、授業内容の理解を深めることを促す。

This course provides an opportunity to study how arts (including music, films, popular culture etc.) are produced within social structures and institutions; and to analyse the social roles of these arts nowadays. This course will contain the following topics:

- Arts and culture in the wake of social modernization since the 19th century
- Popular Culture and Cultural Industries since the 20th century
- Arts/Creativity/Lifestyle in Post-Fordism
- Soft-power, Creative Industries, and Creative Cities
- DIY Culture (Street Art, Squatting etc.)

This course enables students to expand their insights towards a broader engagement with arts/creativity and society, and the challenges arts/creativity face today.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション(自己紹介、授業の進め方、成績評価についてなど)
2. 社会によって構成される芸術・文化①
「文化」「芸術」概念の誕生と、国民国家的近代における制度化、他

3. 社会によって構成される芸術・文化②
フォーディズムにおける文化の産業化、ポピュラーカルチャーの誕生、他
4. 社会によって構成される芸術・文化③
フランクフルト学派による文化批評理論、他
5. 社会によって構成される芸術・文化④
ポストフォーディズムにおける趣味の多様化／文化記号論、消費社会論、他
6. 社会によって構成される芸術・文化⑤
社会的諸主体によるクリエイティビティへの着目、ソフトパワーとしての文化、他
7. プロジェクト／ディスカッション
8. 芸術・文化を通じた社会変革への試み①
パンクロック、グラフィティ／文化帝国主義批判、サブカルチャー理論、他
9. 芸術・文化を通じた社会変革への試み②
ソーシャリー・エンゲージド・アートの隆盛とその課題、他
10. 芸術・文化を通じた社会変革への試み③
都市・地域社会におけるアートプロジェクトの隆盛／創造産業・創造都市論、他
11. 芸術・文化を通じた社会変革への試み④
アートと公共圏／著作権とクリエイティブ・コモンズ、他
12. 芸術・文化を通じた社会変革への試み⑤
参加型文化／DIY 的思想に基づく表現活動、他
13. プロジェクト／ディスカッション
14. 全体まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内容の予習復習に加え、関連する文化実践に関する自主的な調査や、プロジェクト準備などを行っていくことが求められる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加(コメントシート・ディスカッション参加・クラス運営への積極的関与等)(50%)/クラス内課題(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. パブロ・エルゲラ、2015、『ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門』、フィルムアート社 (ISBN:9784845914500)
 2. 野田邦弘・小泉元宏・竹内潔・家中茂編著、2020、『アートがひらく地域のこれから:クリエイティビティを生かす社会へ』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623088003)
 3. 毛利嘉孝、2008、『はじめての DIY 何でもお金で買えると思うなよ!』、スペースシャワーネットワーク (ISBN:9784860202705)
 4. John Hartley ed., 2005. *Creative Industries*. Wiley-Blackwell (ISBN:1405101482)
- その他、都度、授業内で紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

受講生には、積極的な授業参加態度を求める。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD483／ポピュラーカルチャー論 (Popular Culture)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ビデオとレンタルビデオ店のメディア社会学		
担当者名 (Instructor)	近藤 和都(KONODO KAZUTO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

私たちの日常生活から切っても切り離せない映像文化を主たる対象として、文化を学問的に思考する様々な概念や方法について学んでいきます。

This course focuses on the history of screen culture, which has been strongly embedded in our everyday life. Through this course, various concepts and methods to analyze media culture are acquired

授業の内容 (Course Contents)

映像文化の歴史を振り返ると、1980年代に大きな転換を見いだせます。それは、ビデオとレンタルビデオ店の登場によって特徴付けられます。本講義では、ビデオとレンタルビデオ店に焦点を当て、現在の映像文化にいたる技術・実践・経験の付置がどのように形成されたのかを考察していきます。

Looking back at the history of screen culture, we find a major shift in the 1980s. It is characterized by the emergence of video and video rental stores. In this course, we will focus on video and video rental stores, and examine how the apposition of technology, practice, and experience formed the current visual culture.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. ビデオのメディア技術史
3. ビデオの社会的構築
4. 初期レンタルビデオ店のメディア考古学
5. レンタル生活様式の形成
6. レンタルビデオの大規模化
7. 「メディアミックス・ハブ」としてのレンタルビデオ店
8. ソフト供給体制の成立
9. レンタルビデオ店の地理学
10. TSUTAYA の誕生と展開
11. ビデオ雑誌とデータベース
12. ビデオとファン文化(1)
13. ビデオとファン文化(2)
14. レンタルビデオ店から Netflix へ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

予習: 講義中に指定する課題文献を読解してくることが求められます。

復習: 配付資料を読み返すとともに、講義中に紹介した文献やコンテンツに触れることが求められます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / コメントシート(40%) / 中間レポート(20%)

講義ごとにコメントシートをオンライン経由で提出してもらい、それぞれ得点化して平常点に加算します。出席していたけれども、コメントシートを提出し忘れたという場合、平常点に加算されませんので注意してください。提出期間には一定の幅を持たせます。

テキスト (Textbooks)

1. 永田大輔・近藤和都・溝尻真也・飯田豊、2022、『ビデオのメディア論』、青弓社 (ISBN:978-4787235138)

・講義は教科書の論考を参照しながら、それと関連するさまざまな事例、概念、研究を紹介する形で行われます。教科書の関連章を読み込んでから講義に参加するようにしてください。

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／ポピュラーカルチャー論 (Popular Culture)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ビデオとレンタルビデオ店のメディア社会学		
担当者名 (Instructor)	近藤 和都(KONODO KAZUTO)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

私たちの日常生活から切っても切り離せない映像文化を主たる対象として、文化を学問的に思考する様々な概念や方法について学んでいきます。

This course focuses on the history of screen culture, which has been strongly embedded in our everyday life. Through this course, various concepts and methods to analyze media culture are acquired

授業の内容 (Course Contents)

映像文化の歴史を振り返ると、1980 年代に大きな転換を見いだせます。それは、ビデオとレンタルビデオ店の登場によって特徴付けられます。本講義では、ビデオとレンタルビデオ店に焦点を当てて、現在の映像文化にいたる技術・実践・経験の付置がどのように形成されたのかを考察していきます。

Looking back at the history of screen culture, we find a major shift in the 1980s. It is characterized by the emergence of video and video rental stores. In this course, we will focus on video and video rental stores, and examine how the apposition of technology, practice, and experience formed the current visual culture.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. ビデオのメディア技術史
3. ビデオの社会的構築
4. 初期レンタルビデオ店のメディア考古学
5. レンタル生活様式の形成
6. レンタルビデオの大規模化
7. 「メディアミックス・ハブ」としてのレンタルビデオ店
8. ソフト供給体制の成立
9. レンタルビデオ店の地理学
10. TSUTAYA の誕生と展開
11. ビデオ雑誌とデータベース
12. ビデオとファン文化(1)
13. ビデオとファン文化(2)
14. レンタルビデオ店から Netflix へ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

予習: 講義中に指定する課題文献を読解してくることが求められます。

復習: 配付資料を読み返すとともに、講義中に紹介した文献やコンテンツに触れることが求められます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/コメントシート(40%)/中間レポート(20%)

講義ごとにコメントシートをオンライン経由で提出してもらい、それぞれ得点化して平常点に加算します。出席していたけれども、コメントシートを提出し忘れたという場合、平常点に加算されませんので注意してください。提出期間には一定の幅を持たせます。

テキスト (Textbooks)

1. 永田大輔・近藤和都・溝尻真也・飯田豊、2022、『ビデオのメディア論』、青弓社 (ISBN:978-4787235138)

・講義は教科書の論考を参照しながら、それと関連するさまざまな事例、概念、研究を紹介する形で行われます。教科書の関連章を読み込んでから講義に参加するようにしてください。

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／アート社会学 (Sociology of Art)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	キーワード: 美術／音楽／映像／演劇／ポピュラーカルチャー／サブカルチャー／メディア／ライフスタイル／DIY／まちづくり／コミュニティ／芸術・文化政策／クリエイティブ産業		
担当者名 (Instructor)	小泉 元宏(KOIZUMI MOTOHIRO)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

授業の達成目標は以下の通りである。

- (1) アート(arts, 美術、音楽、映像など諸芸術や、ポピュラーカルチャーなど)と、社会構造や社会制度の関係性について、文化理論研究等の基本的な用語や概念を用いながら説明できること。
- (2) ディスカッションやアートプロジェクト、コメントシート、レポート課題等を通じて、自己の考えを示すこと。
- (3) (1)、(2)を通じて、今日の表現領域と社会との関係性を考察、分析するために必要とされる基本的視座を獲得すること。

By the end of the course you should:

1. Be able to contextualize your own ideas regarding the relationship between arts/culture and social structures/institutions in a theoretical sense.
2. Explain your own thoughts through discussions, art projects, comment forms, and reports.
3. Develop basic perspectives in understanding the relationship between arts and society in everyday life.

授業の内容 (Course Contents)

本授業は、第1に、ポピュラーカルチャー、サブカルチャーなどを含む広義の諸芸術(アート, arts)が、いかなる社会構造や社会制度のなかで生み出されてきたのかを知るとともに、第2に、今日におけるアートの社会的役割を考察することを目的とする。前半の講義は、「あなたはなぜ、○○というアート(音楽・美術・演劇・映画・ポピュラーカルチャー...)が好き(嫌い)なのか」を問うことから始める。その問いへの答えを検討しながら、いかにしてアートが、近現代の社会構造の変容や社会的諸制度のなかで構成されてきたのかを論じていく。

たとえば、(1)国民国家を形成するための近代化におけるアートの制度化や、(2)大衆社会の誕生や、新たな複製技術の広がりや背景とした大衆文化の誕生と文化の産業化、(3)趣味の多様化の時代の到来、(4)国・都市・地域における文化的魅力への着目の強化、等のなかで、いかにアートやポピュラーカルチャーなどの概念が生み出され、拡大し、また、それらが我々の表現文化に対する見方・嗜好を規定してきたのかを考察していく。

その上で、講義の後半では、社会的・経済的・政治的装置としてのアート実践が、今日、いかなる社会的役割を果たしているかを、ストリートアートやグラフィティ、スクワット、ソーシャリーエンゲージド・アート、DIY 思想に基づく表現活動などの具体事例を通じて考察していく。

フランクフルト学派やカルチュラル・スタディーズ、文化の社会学、メディア研究、クリエイティブ産業研究などの各視座からの諸文化に対する批評理論や考察は、検討のためのヒントを我々に与えてくれるだろう。

なお授業では、講義に加え、アートプロジェクトやグループ・ディスカッション、ビジュアル資料視聴などを導入し、授業内容の理解を深めることを促す。

This course provides an opportunity to study how arts (including music, films, popular culture etc.) are produced within social structures and institutions; and to analyse the social roles of these arts nowadays. This course will contain the following topics:

- Arts and culture in the wake of social modernization since the 19th century
- Popular Culture and Cultural Industries since the 20th century
- Arts/Creativity/Lifestyle in Post-Fordism
- Soft-power, Creative Industries, and Creative Cities
- DIY Culture (Street Art, Squatting etc.)

This course enables students to expand their insights towards a broader engagement with arts/creativity and society, and the challenges arts/creativity face today.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション(自己紹介、授業の進め方、成績評価についてなど)
2. 社会によって構成される芸術・文化①
「文化」「芸術」概念の誕生と、国民国家的近代における制度化、他

3. 社会によって構成される芸術・文化②
フォーディズムにおける文化の産業化、ポピュラーカルチャーの誕生、他
4. 社会によって構成される芸術・文化③
フランクフルト学派による文化批評理論、他
5. 社会によって構成される芸術・文化④
ポストフォーディズムにおける趣味の多様化／文化記号論、消費社会論、他
6. 社会によって構成される芸術・文化⑤
社会的諸主体によるクリエイティビティへの着目、ソフトパワーとしての文化、他
7. プロジェクト／ディスカッション
8. 芸術・文化を通じた社会変革への試み①
パンクロック、グラフィティ／文化帝国主義批判、サブカルチャー理論、他
9. 芸術・文化を通じた社会変革への試み②
ソーシャリー・エンゲージド・アートの隆盛とその課題、他
10. 芸術・文化を通じた社会変革への試み③
都市・地域社会におけるアートプロジェクトの隆盛／創造産業・創造都市論、他
11. 芸術・文化を通じた社会変革への試み④
アートと公共圏／著作権とクリエイティブ・コモンズ、他
12. 芸術・文化を通じた社会変革への試み⑤
参加型文化／DIY 的思想に基づく表現活動、他
13. プロジェクト／ディスカッション
14. 全体まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内容の予習復習に加え、関連する文化実践に関する自主的な調査や、プロジェクト準備などを行っていくことが求められる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加(コメントシート・ディスカッション参加・クラス運営への積極的関与等)(50%)/クラス内課題(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. パブロ・エルゲラ、2015、『ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門』、フィルムアート社 (ISBN:9784845914500)
 2. 野田邦弘・小泉元宏・竹内潔・家中茂編著、2020、『アートがひらく地域のこれから:クリエイティビティを生かす社会へ』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623088003)
 3. 毛利嘉孝、2008、『はじめての DIY 何でもお金で買えると思うなよ!』、スペースシャワーネットワーク (ISBN:9784860202705)
 4. John Hartley ed., 2005. *Creative Industries*. Wiley-Blackwell (ISBN:1405101482)
- その他、都度、授業内で紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

受講生には、積極的な授業参加態度を求める。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD561／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	木村 自(KIMURA MIZUKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文の執筆に向けて準備する。専門演習2で執筆したゼミ論文をもとに、課題設定、調査方法を再度検討し、卒業論文の執筆に向けた研究計画を精緻化する。

Students will prepare for their graduation theses. Students will refer to seminar theses they had written in Seminar 2 when choosing their subjects and reconsidering their survey methods. They will refine their research planning as preparation for their graduation theses.

授業の内容 (Course Contents)

各自の問題関心に基づき、先行研究を整理して、文献レビューを行って発表する。先行研究のレビューに基づき、調査研究計画を策定する。調査研究計画に基づき、夏休み期間を中心に各自で調査を実施する。

Based on their issue awareness, students will organize prior researches, review these literatures, and present them. Students will plan their surveys and researches based on reviews of prior researches. Students will conduct surveys based on survey and research plans.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 先行研究レビュー(1)
3. 先行研究レビュー(2)
4. 先行研究レビュー(3)
5. 調査研究計画の策定(1)
6. 調査研究計画の策定(2)
7. 調査研究計画の策定(3)
8. 論文執筆法(1)
9. 論文執筆法(2)
10. 調査研究進捗状況の報告(1)
11. 調査研究進捗状況の報告(2)
12. 調査研究進捗状況の報告(3)
13. 調査研究進捗状況の報告(4)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各自の問題関心に基づき、図書館等で先行研究文献を見つけること。
また、調査は各自で実施すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

研究報告(50%)／討論への参加(50%)

テキスト (Textbooks)

1. 戸田山和久、2012、『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』、NHK 出版 (ISBN:978-4140911945)
 2. 菅原和孝、2006、『フィールドワークへの挑戦—“実践”人類学入門』、世界思想社 (ISBN:978-4790711889)
- その他の教科書については授業中に適宜指示する。

参考文献 (Readings)

1. 佐藤郁哉、2006、『フィールドワーク—書を持って街へ出よう (ワードマップ)』、新曜社 (ISBN:978-4788510302)
2. 小田博志、2010、『エスノグラフィー入門 <現場>を質的研究する』、春秋社 (ISBN:978-4393499115)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD563／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	小池 靖(KOIKE YASUSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文を作成するのに必要な文献の読み込みと、構想の発表をおこなう。

Students will read the literature necessary to write their graduation thesis and present their ideas.

授業の内容 (Course Contents)

各自の関心に基づき、卒業論文のトピックを決定する。広く現代の精神状況をめぐる諸現象の中から興味のあるテーマを見つけてもらいたい。

前半は研究計画書を作成し、その計画書に基づきブックレポートを各自がおこなう。必要に応じてフィールド調査の計画も立てる。

Based on their own interests, students will decide on a topic for their senior thesis. Students are expected to find a topic of interest from a wide range of phenomena related to the contemporary way of life.

In the first half of the course, students will prepare a research plan, and each student will write a book report based on the plan. Field research will be planned if necessary.

授業計画 (Course Schedule)

1. 全体案内
2. テーマ決定
3. 論文計画書発表1
4. 論文計画書発表2
5. 先行研究ブックレポート1
6. 先行研究ブックレポート2
7. 先行研究ブックレポート3
8. 論文執筆と添削
9. 論文執筆と添削
10. 論文執筆と添削
11. 論文執筆と添削
12. 論文執筆と添削
13. 論文執筆と添削
14. 論文執筆と添削

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

課題文献の読み込みなど。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

発表(35%) / 提出物(35%) / その他の要素 (出欠、演習への貢献度など) (30%)

テキスト (Textbooks)

随時指示する。

参考文献 (Readings)

随時指示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

新型コロナウイルス感染拡大状況などによっては、授業の形式を変更することもある。その場合は、大学ないし教員の指示に従うこと。

諸注意

<https://ykoike.hatenablog.com/entry/2018/09/12/232738>

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD564／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル化と多文化共生		
担当者名 (Instructor)	石井 香世子 (ISHII KAYOKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本授業では、卒業論文の執筆を通して、各人の大学における学びの集大成としての成果を形にすることを目標とします。

This class is the final episode in university. Students will aim to complete their graduation theses.

授業の内容 (Course Contents)

3年生のあいだに専門演習2の授業を通じて各人が決めた卒業論文のテーマに沿って、具体的な調査と分析を進めてもらいます。毎回の授業では、3-4人の発表者に、卒業論文の進捗状況を報告してもらいます。お互いの卒業論文をより良いものとしていくため、履修者間で、発表者の卒論内容に対してコメントや提言を交換し、担当教員のコメントも交えて、発表とフィードバックを繰り返していきます。

Students will follow graduation thesis subjects they have decided in Seminar 2 of year 3 and conduct specific surveys and analyses. In each class, 3 to 4 students will present their graduation thesis progress. To improve everyone's graduation thesis, students will give their opinions and comment on contents of these theses. Professor will also comment on them. This process of presentations and feedbacks will be repeated.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション：授業全体の方針・流れと発表分担の確認
2. 卒業論文の進捗状況報告・先行研究のまとめとテーマの再確認(1)
3. 卒業論文の進捗状況報告・先行研究のまとめとテーマの再確認(2)
4. 卒業論文の進捗状況報告・先行研究のまとめとテーマの再確認(3)
5. 卒業論文の進捗状況報告・先行研究のまとめとテーマの再確認(4)
6. 卒業論文の進捗状況報告・先行研究のまとめとテーマの再確認(5)
7. 卒業論文の進捗状況報告・先行研究のまとめとテーマの再確認(6)
8. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(1)
9. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(2)
10. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(3)
11. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(4)
12. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(5)
13. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(6)
14. まとめ：夏季休業・後期における卒業論文執筆のスケジュール確認

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間に得たコメントをもとに、授業時間外でも着実に卒業論文の執筆を進めてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%) / 授業態度・参加貢献度(70%)

テキスト (Textbooks)

授業のなかで適宜、各人の卒業論文にあった文献を紹介していきます。

参考文献 (Readings)

授業のなかで適宜、各人の卒業論文にあった文献を紹介していきます。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD565／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	柳 信寛(YANAGI NOBUHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

卒業論文作成のための基礎的な事項について理解する。なによりも個々人のテーマとアプローチの確定を目指し、夏季休暇中の調査実施の準備を具体化していく。

The course will provide instruction on the basics for writing a graduation thesis. We will aim to determine the themes and approaches of each individual, and concrete preparations for conducting surveys during the summer vacation.

授業の内容(Course Contents)

この演習は、すぐれた卒業論文を書き上げるための支援を目的としている。そのために課題の設定や資料の探し方、論文の構成や論述のしかたなどを解説する。受講生はこれらの技法を理解したうえで、実際に卒業論文の作成をすすめていくことになるが、その経過について授業内で随時報告してもらう。授業展開は以下を予定しているが、状況により変更することもある。また、適宜オンラインでの指導もありうる。

The purpose of this seminar is to support students in writing an excellent graduation thesis. For this purpose, we will explain how to set assignments, find materials, structure papers, and how to write essays. After understanding these techniques, students will actually proceed with the preparation of their graduation thesis, and will be asked to report on the progress of the thesis as needed in class.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. テーマ・関心の報告(1)
3. テーマ・関心の報告(2)
4. テーマ・関心の報告(3)
5. テーマ・関心の報告(4)
6. 文献・資料の報告(1)
7. 文献・資料の報告(2)
8. 文献・資料の報告(3)
9. 文献・資料の報告(4)
10. 個別報告(1)
11. 個別報告(2)
12. 個別報告(3)
13. 個別報告(4)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

第1回授業にて卒業論文のテーマ・進捗状況を発表する。その後については授業内で指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席状況、報告内容 等を総合的に判断する(100%)

テキスト(Textbooks)

授業内で指示する。

参考文献(Readings)

授業内で指示する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD566／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	貞包 英之(SADAKANE HIDEYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文執筆のために、先行研究・参考文献を集め、批判的に検討するなかで、自分の問いを見つけ出すことを目指す。そのためにまず具体的な調査等を計画し、実行する。

The purpose of this class is to write a graduation thesis. Thus, students aim to find their own questions by collecting prior studies and references and critically examining them. Based on this, students are then required to plan and carry out specific surveys.

授業の内容 (Course Contents)

卒業論文を書くためには、まず自分の問いを見つけることが必要であり、そのためには先行研究の批判的検討が必要になります。春学期はまずそれを行いつつ、自分の問題関心を深めるとともに、仮説を検証するための具体的な検証の手段を探ってください。それをとくにピアグループで研鑽していくなかで、自分の問いを精緻化していくことを求めます。

Our society is based on a consumer society. In order to understand the nature of this consumer society, in the first half of the class, we will read the basic literature on consumer society. By doing so, students will be able to deepen their interest in the issues, and in the latter half of the class, they will be asked to conduct a survey focusing mainly on Tokyo, with themes such as malls, housing, automobiles, fashion, tourism, and sub-culture. Students are required to present the results, discuss them, and compile a report.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 問題設定の検討(1)
3. 問題設定の検討(2)
4. 問題設定の検討(3)
5. 問題設定の検討(4)
6. 文献の批判的検討(1)
7. 文献の批判的検討(2)
8. 文献の批判的検討(3)
9. 文献の批判的検討(4)
10. 文献の批判的検討(5)
11. 調査計画の具体化(1)
12. 調査計画の具体化(2)
13. 調査計画の具体化(3)
14. 調査計画の具体化(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

自ら文献を探し、読み、批判的に検討する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

演習の参加(30%)／発表(70%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム (Canvas LMS、Blackboard 等) で指示する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD567／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	卒業論文執筆のためのホップ・ステップ		
担当者名 (Instructor)	関 礼子(SEKI REIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

大学4年間の集大成となる卒業論文に、どんなテーマを選ぶのか。そのテーマに注目する「問い」は何か。その「問い」を明らかにするために、どのような先行研究に注目するのか。どのような方法論を用いるのか。以上を明確にししながら卒業論文に取り組む。

What subjects will students choose for their graduation theses, the final episode of their 4-year university. What are THE questions in these subjects? What prior researches will students focus on to clarify these questions? What methodologies will students use? Students will work on their graduation theses by clarifying the points above.

授業の内容 (Course Contents)

卒業論文の執筆は個人プレーだが、その基盤になる考え方は社会学的な知として共有されるべきものである。テキストを通して卒業論文のイメージを具体化するとともに、個々のテーマを自分の卒業論文にひきつけながら議論を交わしていく。卒業論文演習2とセットになる卒業論文演習1では、特に社会学的な「問い」を重視したい。

Although writing graduation theses is solitary task, students should share its foundational thinking, i.e. their sociological knowledge. Students will use textbooks to crystalize frameworks of their graduation theses. At the same time, students will connect their graduation theses to various subjects through discussions. Students will focus on sociological questions in Thesis Writing Seminar 1 and 2.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. テーマ報告1
3. テーマ報告2
4. テーマ報告3
5. 調査計画1
6. 調査計画2
7. 調査計画3
8. 中間報告1
9. 中間報告2
10. 中間報告3
11. 文献・資料・方法の検討1
12. 文献・資料・方法の検討2
13. 文献・資料・方法の確認3
14. 中間提出

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

卒論のための資料収集・先行研究の研究・調査・執筆。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

毎回の報告・議論(50%)/中間報告(50%)

テキスト (Textbooks)

1. 佐藤健二、2014、『論文の書きかた』、弘文堂

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD568／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	島崎 裕子(SHIMAZAKI YUKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

実証研究に基づき、卒業論文のテーマを設定、参考資料の整理および調査計画の作成を行う。また、論文作成の具体的なスケジュールを作成する。

Each student sets up his/her own theme for the graduation thesis on the basis of empirical studies, gathering basic materials and establishing a research plan. In this Semester, each student must create a concrete schedule for preparing the dissertation.

授業の内容 (Course Contents)

個々の選んだテーマに関連する先行研究を整理する。社会学の基礎理論、関連する先行研究のまとめをもとに調査のフレームを構築する。対象となる地域や組織に関する情報を収集する。授業内では、先行研究のまとめ、調査計画や研究の進捗についての報告を行う。春学期中に調査計画書を作成し、秋学期前半に調査対象地でのフィールドワークの実施を目指す。

Each student must construct one's own theme and framework for the dissertation on the basis of theories of Sociology and other relevant literature, including information regarding the research area. In semester I, students report on the progress of their research each time and prepare for the fieldwork which is expected to be completed in semester II.

授業計画 (Course Schedule)

1. 卒業論文作成に向けてのテーマやスケジュール確認
2. 先行研究のまとめ
3. 先行研究のまとめ
4. 先行研究のまとめ
5. 先行研究のまとめ
6. 先行研究のまとめ
7. 発表と討論
8. 発表と討論
9. 発表と討論
10. 発表と討論
11. 発表と討論
12. 発表と討論
13. 発表と討論
14. 発表と討論

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

個々のテーマに関連した参考文献の整理

成績評価方法・基準 (Evaluation)

中間報告書・口答発表・出席・授業内の取り組み(100%)

テキスト (Textbooks)

随時指示する。

参考文献 (Readings)

随時指示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD569／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	太田 麻希子(OTA MAKIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本授業は、卒業論文作成の指導を行う。卒業論文の執筆にあたっては、各自が計画にのっとり主体的に研究を行なうことが求められる。春学期中には卒業論文の章立てを決定し、先行研究検討と調査地域や団体などに関わる章を書き上げ、夏季休業中に全ての調査を完了する。本演習は、現代文化学科の教育課程編成方針の「完成期」にあたる授業であり、学問分野ならびに実践に対し「提言」をする力を養うことを目的とする。

In this class, students are expected to progress their own studies for the graduation thesis actively, being directed by an academic advisor. Those who take this class should define arrangement of chapters, finish writing parts of examination of previous studies and field by the end of spring semester, and complete all research during the summer vacation.

授業の内容 (Course Contents)

履修者による報告から成る。履修者は責任をもって卒論テーマの決定と章立て、先行研究の検討と批判、仮説の構築、調査計画、これまで得たデータの提示などから成る報告を行なうと同時に、他のメンバーの発表に対しても積極的な姿勢で聞き、理解し、意見する。互いにより良い卒業論文を書けるように努めること。

The class consists of presentation and discussion. Students have to make a presentation on studies for own graduation thesis, and offer advice and opinions to each other.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 個人報告
3. 個人報告
4. 個人報告
5. 個人報告
6. 個人報告
7. 個人報告
8. 個人報告
9. 個人報告
10. 個人報告
11. 個人報告
12. 個人報告
13. 個人報告
14. 個人報告

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

自分の研究テーマについて常に意識し、それらに関わる新聞記事や文献を日頃から読み進めておくこと。報告が予定されている場合には、前もって十分な発表準備を行なうこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

個人報告(50%)/議論への貢献(50%)

テキスト (Textbooks)

なし。

参考文献 (Readings)

適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

- ・授業時間は延長したり、変更する可能性がある。
- ・授業は演習・ゼミ形式となり、個人研究の報告とディスカッションから成る。

・執筆中の原稿や個人報告など、各自の研究に対するフィードバックは、授業時のコメント、ならびに面談等を通じて行なう。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD570／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	卒業論文制作のための調査・研究、ならびに論文執筆		
担当者名 (Instructor)	小泉 元宏(KOIZUMI MOTOHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

専門演習2で行ってきた調査研究・報告書執筆をベースとしながら、卒業論文制作のための研究を進め、適切な調査や考察を伴った卒業論文を作成していくこと。

Based on the previous year's seminar study, students will write a senior thesis, under the guidance of an advisor.

授業の内容(Course Contents)

授業の柱は、①文献の検討、②研究方法論の検討、③調査データ収集、④文献ならびにデータ分析、⑤論文執筆、⑥研究発表とディスカッション、および⑦フィールド調査・合宿の実施が中心となる。それらを通じて、卒業研究を進め、最終的には新たな知見を含んだ卒業論文を制作していく。

This course consists of:

- reading bibliographical materials
- selecting appropriate research methodology
- carrying out data collection
- analysing texts and data
- writing a research thesis
- presenting and discussing the research at seminars
- field research and summer camp (e.g. Setouchi area, Tottori, Niigata, Taipei etc.)

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. チュートリアル
3. チュートリアル
4. フィールドワーク／グループワーク
5. 研究発表、ディスカッション
6. 研究発表、ディスカッション
7. 研究発表、ディスカッション
8. チュートリアル
9. チュートリアル
10. フィールドワーク／グループワーク
11. 研究発表、批評会
12. 研究発表、批評会
13. 研究発表、批評会
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

論文執筆に向けた調査研究を率先しておこなっていくことが前提となる。時間外において、各自が必要な文献を読み、調査データを収集し、考察・分析することが求められる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

研究発表(50%)／授業参加(グループワーク、ディスカッション参加等)(50%)

テキスト(Textbooks)

受講生の研究内容を踏まえ、オリエンテーションにて指示する。

参考文献(Readings)

都度、紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する場合がある。オンライン実施回についてはメール、または授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD571／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	大倉 季久(OHKURA SUEHISA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文の執筆・完成に向けて、研究テーマと研究対象の明確化を図る。先行研究のサーベイ、調査内容の検討、調査結果のふりかえりを通して、卒業論文の本格的な執筆の準備を完成させる。

We aim to clarify the research theme and research target toward the writing and completion of the graduation thesis in this class. We will complete the preparation for the writing of the graduation thesis through a survey of previous research, a study of the survey content, and a review of the survey results.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆の知識や調査スキルの理解を前提として、問いの明確化、先行研究の蓄積、調査の準備を中心的なテーマに据えて、ディスカッションを行う。研究の推進にとってこれらは欠くことのできない作業だが、別々の作業ではない。それぞれの作業を行き来し、うまく連動させながら、研究全体の質と水準の向上を進めることが重要である。

Based on the knowledge of writing a dissertation and understanding of research skills, We will hold discussions on themes such as clarifying questions, accumulating previous research, and preparing for research. These are essential tasks for promoting research, but they are not separate tasks. It is important to improve the quality and standard of the research as a whole by going back and forth between each work and linking them well.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 研究することについての「前提」
2. 研究に値するテーマとは何だろうか
3. テーマ設定の演習(1)
4. テーマ設定の演習(2)
5. 先行研究の蓄積はなぜ重要なのか
6. 先行研究のサーベイに関する演習(1)
7. 先行研究のサーベイに関する演習(2)
8. 調査を進める上での留意点: アボとり・聞きとり・調査倫理
9. 調査対象と調査内容に関する演習(1)
10. 調査対象と調査内容に関する演習(2)
11. 研究の全体像の明確化(1)
12. 研究の全体像の明確化(2)
13. 研究の全体像の明確化(3)
14. 卒業論文執筆の準備

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各種オンラインツール、アプリを用いて随時、指導、相談を行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

指定された報告とプレゼンテーションの実施(50%)/授業、ディスカッション、面談への参加(50%)

テキスト (Textbooks)

特に指定しない。

参考文献 (Readings)

適宜指定する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD581／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	心残りのない卒論を書こう！		
担当者名 (Instructor)	木村 自(KIMURA MIZUKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文を完成させる。

Students will complete their graduation theses.

授業の内容 (Course Contents)

夏季休暇中に実施した調査結果を元に、社会学・人類学的分析概念を用いてデータを整理・分析する。また、整理・分析したデータを元に、論文として完成させる。

卒業論文については、3年生の専門演習2と合同で卒業論文発表会を開催する。開催時期と場所については、授業内で相談する。

Based on results of surveys done during summer holiday, students will organize and analyze their data based on analysis concepts found in sociology and anthropology. In addition, students will use these organized and analyzed data to complete their theses.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 調査内容の報告(1)
3. 調査内容の報告(2)
4. 調査内容の報告(3)
5. 調査内容の報告(4)
6. 論文執筆概論(1)
7. 論文執筆概論(2)
8. 進捗状況報告(1)
9. 進捗状況報告(2)
10. 進捗状況報告(3)
11. 論文修正(1)
12. 論文修正(2)
13. 卒業論文の発表(1)
14. 卒業論文の発表(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各自卒業論文の完成に向けて、図書館等で先行研究文献を調査し、論文に反映させる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

調査報告(50%)／討論参加(50%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

参考文献については、授業内で適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD583／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	小池 靖(KOIKE YASUSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

相互に支援し合いながら、卒業論文の完成を目指す。

The students will mutually support each other in the completion of their senior theses.

授業の内容 (Course Contents)

卒業論文演習1に引き続き卒業論文の作成を支援してゆく。

秋学期は、具体的な章構成、論文作成法の指導に及ぶ。新しい情報・調査を踏まえた構想の発表もおこなう。

また、合宿形式の卒論発表会を実施する場合がある。

Following Thesis Writing Seminar 1, the instructor will continue to assist students in writing their senior theses.

In the fall semester, students will be guided in specific chapter organization and thesis writing methods. Students will also present their ideas based on new information and research.

In addition, a camp-style thesis presentation (Gasshuku) may be held.

授業計画 (Course Schedule)

1. 進捗状況の報告
2. 添削指導・相談
3. 添削指導・相談
4. 添削指導・相談
5. 添削指導・相談
6. 添削指導・相談
7. 添削指導・相談
8. 添削指導・相談
9. 添削指導・相談
10. 添削指導・相談
11. 添削指導・相談
12. 添削指導・相談
13. 添削指導・相談
14. 添削指導・相談

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

諸注意

<https://ykoike.hatenablog.com/entry/2018/09/12/232738>

成績評価方法・基準 (Evaluation)

提出物(35%) / 発表(35%) / その他の要素(出席、演習への貢献度など)(30%)

テキスト (Textbooks)

随時指示する。

参考文献 (Readings)

随時指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

新型コロナウイルス感染拡大状況などによっては、授業の形式を変更することもある。その場合は、大学ないし教員の指示に従うこと。

諸注意

<https://ykoike.hatenablog.com/entry/2018/09/12/232738>

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD584／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル化と多文化共生		
担当者名 (Instructor)	石井 香世子 (ISHII KAYOKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本授業では、卒業論文の完成を通して、各人の大学における学びの集大成としての成果を形にすることを目標とします。

This class is the final episode in university. Students will aim to complete their graduation theses.

授業の内容 (Course Contents)

毎回の授業では、3-4人の発表者に、卒業論文の進捗状況を報告してもらいます。お互いの卒業論文をより良いものとしていくため、履修者間で、発表者の卒論内容に対してコメントや提言を交換し、担当教員のコメントも交えて、発表とフィードバックを繰り返していきます。

Students will follow graduation thesis subjects they have decided in Seminar 2 of year 3 and conduct specific surveys and analyses. In each class, 3 to 4 students will present their graduation thesis progress. To improve everyone's graduation thesis, students will give their opinions and comment on contents of these theses. Professor will also comment on them. This process of presentations and feedbacks will be repeated.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション：授業全体の方針・流れと発表分担の確認
2. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(1)
3. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(2)
4. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(3)
5. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(4)
6. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(5)
7. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(6)
8. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(7)
9. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(8)
10. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(9)
11. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(10)
12. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(11)
13. 卒業論文の進捗状況報告・調査分析の進捗状況(12)
14. 卒論発表会

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間に得たコメントをもとに、授業時間外でも着実に卒業論文の執筆を進めてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%) / 授業態度・参加貢献度(70%)

テキスト (Textbooks)

授業のなかで適宜、各人の卒業論文にあった文献を紹介していきます。

参考文献 (Readings)

授業のなかで適宜、各人の卒業論文にあった文献を紹介していきます。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD585／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	柳 信寛(YANAGI NOBUHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

受講者のテーマ, アプローチ(方法論), 先行研究, 調査の工程, 調査による知見等々を総合し, 一貫性のある卒論を仕上げる。

In this exercise, the students' themes, approaches (methodologies), previous research, survey process, and findings from the survey will be summarized. Students will strive to complete their graduation thesis consistently.

授業の内容 (Course Contents)

受講生は演習の時間内に随時進捗状況を報告し, 相互に検討することによって, 精度の高い論文に仕上げていくことを目指す。また受講生の状況によっては別途個別に対応することも想定している。

Students report their progress as needed during the seminar and review each other to achieve a highly accurate paper. In addition, depending on the situation of the student, it is assumed that it will be dealt with separately individually.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 個別報告(1)
3. 個別報告(2)
4. 個別報告(3)
5. 個別報告(4)
6. 個別報告(5)
7. 個別報告(6)
8. 個別報告(7)
9. 個別報告(8)
10. 個別報告(9)
11. 個別報告(10)
12. 個別報告(11)
13. 個別報告(12)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

夏季休業中に十分なりサーチができるようにする。そのためには自身のテーマや関心を早めに確定することが必須です。定期的な連絡や報告を徹底するようにしてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席, 卒論の進捗状況を総合的に評価(100%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

授業内で指示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD586／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	貞包 英之(SADAKANE HIDEYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

春学期に設定した問題を前提に、具体的に卒業論文執筆に着手する。そのためにまず章立てをおこない、他のゼミ生から批判的に検討を受ける。それを前提に、論理的かつ経験的な調査を前提とした論文執筆をおこなう。

The purpose of this class is to complete a graduation thesis on the premise of the questions set for the spring term. In order to do so, students first set up chapters, which are critically examined by other seminar students. Based on this, the students will write a thesis on the premise of logical and empirical research.

授業の内容 (Course Contents)

卒業論文を仕上げる。対象は任意だが、社会を消費社会という観点から明らかにすることを求める。各自の書いたものを集団的に検討するとともに、必要な場合は個人面談を重ねる。論文執筆には何より推敲が重要になるため、できるだけ早い取り掛かりを求める。

Students complete their graduation theses through classes. It is up to the students to select their research focus, but it is necessary to examine society from the perspective of consumer society. Students review their writing with other students in class and have individual interviews if necessary. Since elaboration is more important than anything else in writing a paper, it is essential to start as soon as possible.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 章立て、参考文献、データ解読の確認(1)
3. 章立て、参考文献、データ解読の確認(2)
4. 章立て、参考文献、データ解読の確認(3)
5. 章立て、参考文献、データ解読の確認(4)
6. 章立て、参考文献、データ解読の確認(5)
7. 章立て、参考文献、データ解読の確認(6)
8. 論文草稿の検討(1)
9. 論文草稿の検討(2)
10. 論文草稿の検討(3)
11. 論文草稿の検討(4)
12. 論文草稿の検討(5)
13. 論文草稿の検討(6)
14. 論文草稿の検討(7)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

自ら文献を探し、読み、批判的に検討する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

演習の参加(30%)/発表(70%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD587／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	卒業論文へのジャンプ		
担当者名 (Instructor)	関 礼子(SEKI REIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文の執筆にあたって、各自が進める調査研究を深化させ、論文を書き上げることが最終目標となる。完成度の高い論文執筆を目指す。

Students will dig deeper in their surveys and researches when writing their graduation theses. Their goal is to complete their theses. Students will aim to create theses with high degree of completeness.

授業の内容 (Course Contents)

調査研究を深めるために、自分自身が選び取った調査方法によって得たデータを分析し、かつまたその分析を補完するような文献資料研究の手法を用いて論文を書き進める。また、論文執筆に重要なリテラシーについて学ぶ。表現することは自身の存在を見せるということであることを留意しながら、卒業論文を完成させる。状況が許せば卒論ゼミ合宿を実施する予定である。

To enhance their surveys and researches, students will analyze data they obtained based on research methods they have chosen. To supplement that, students will learn methods to research literatures and documents. In addition, students will acquire critical knowledge at writing theses. Students will bear in mind that presenting means showing their existences while completing their graduation theses.

授業計画 (Course Schedule)

1. テーマを深める、文献資料を参照する
2. 読むことぬきに書くことはできない
3. やってはいけないこととやるべきこと
4. 論文執筆のリテラシー
5. 構想報告1
6. 構想報告2
7. 構想報告3
8. 構想報告4
9. 個別指導1
10. 個別指導2
11. 個別指導3
12. 個別指導4
13. 個別指導5
14. 確認事項伝達

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

個々人のテーマに従った論文の執筆

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告(40%)／議論(10%)／卒業論文の完成(50%)

テキスト (Textbooks)

1. 佐藤健二、2014、『論文の書きかた』、弘文堂

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD588／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	水上 徹男(MIZUKAMI TETSUO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文の作成を通して論理的思考や分析能力および論文としての表現力の向上を目指す。

The aim of this class is to improve logical thinking, analytical ability and expressive ability in the course of completing dissertation.

授業の内容 (Course Contents)

卒業論文演習 1 に引き続き論文の完成を目指し、各自の問題関心による問いの探求に必要な文献や資料の検討、調査を進め、論文構成を作成する。フィールドワークやインタビュー調査、場合によっては、質問票調査を実施する。授業では、先行研究のレビューや分析方法など、卒業論文完成に必要な技法の指導を行う。また授業内で、個々の卒業論文の内容および進捗状況の報告と、他の学生との議論を通して方法論や記述形式を検討・確認する。これらの課題を遂行して論文を完成させる。

Each student must establish one's own research question relating to contemporary social issues. Students will collect relevant materials and construct a dissertation structure. Empirical data will be gathered from students' own fieldwork, and some students need to conduct questionnaires. In the class, we exchange ideas with other students to brush up theories and research frames for the graduation dissertation.

授業計画 (Course Schedule)

1. 秋学期ガイダンス：卒業論文の進め方やスケジュールについて
2. 実地調査
3. 実地調査
4. 実地調査
5. 進捗状況の発表およびディスカッション
6. 進捗状況の発表およびディスカッション
7. 進捗状況の発表およびディスカッション
8. 進捗状況の発表およびディスカッション
9. 進捗状況の発表およびディスカッション
10. 論文執筆と添削
11. 論文執筆と添削
12. 論文執筆と添削
13. 論文執筆と添削
14. 論文執筆と添削

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

調査計画と論文構成を進めておく。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席、卒業論文の進捗状況を総合的に評価(100%)

テキスト (Textbooks)

随時指示する。

参考文献 (Readings)

随時指示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

卒業論文提出後に、卒業論文発表会を予定している。

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については Canvas LMS または、Blackboard、立教時間のいずれかで指示する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD589／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	太田 麻希子(OTA MAKIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文執筆の指導を行う。卒業論文の完成に向け、履修者には自主的に論文執筆を進めていくことが求められる。秋学期開始前には全ての調査を完了し、データの分析結果を提示できるようにすること。授業内においては、論文の執筆の経過報告と添削を行っていく。現代文化学科の教育課程編成方針の「完成期」にあたる演習として、学問分野ならびに実践に対して「提言」する力を養うことを目的とする。

Students are expected to actively write a graduation thesis autonomously toward its deadline. Those who take this class have to present the results of data analysis by the beginning of fall semester. Students report the progress of their studies and revise the thesis under the direction of an academic advisor.

授業の内容 (Course Contents)

履修者による報告から成る。履修者は責任をもって各章の執筆にあたり、途中経過ならびに執筆した箇所を提示・報告し、教員と他の履修者による批判・助言を受けながら、修正にあたること。

Students have to present on-going progress of their studies. Those who registered should make themselves liable for writing each chapter of their thesis and revising drafts, being advised by an academic advisor and other students.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 調査結果の報告
3. 調査結果の報告
4. 調査結果の報告
5. 執筆の進捗状況の報告
6. 執筆の進捗状況の報告
7. 執筆の進捗状況の報告
8. 執筆の進捗状況の報告
9. 修正稿の検討
10. 修正稿の検討
11. 修正稿の検討
12. 修正稿の検討
13. 最終稿の確認
14. 最終稿の確認

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外においても、常に書き進めておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

卒業論文執筆の経過報告(100%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

授業内や面談で適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

- ・授業時間は延長や変更の可能性がある。
- ・各自の研究に対するフィードバックは、授業内でのコメントやメール、面談等を通じて行う。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD590／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	卒業論文完成に向けた調査・研究、ならびに論文執筆		
担当者名 (Instructor)	小泉 元宏(KOIZUMI MOTOHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

専門演習2と卒業論文演習1を通じて進めてきた調査研究をベースとしながら、調査研究やデータ収集を遂行するとともに、適切な考察・分析と、新たな知見を伴った卒業論文を完成させることを目標とする。

Based on the previous term's seminar study, students will write a senior thesis, under the guidance of an advisor.

授業の内容 (Course Contents)

授業の柱は、①各自による調査研究、データ収集の遂行、②文献資料の検討やデータ分析、③論文執筆、④グループ単位でのピアレビュー、⑤研究発表と批評会が中心となる。

This course consists of:

- reading texts and carrying out data collection
- analysing texts and data
- writing a research thesis
- peer reviewing
- presenting and discussing the research at seminars

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 研究進捗状況報告、ディスカッション
3. 研究進捗状況報告、ディスカッション
4. 研究進捗状況報告、ディスカッション
5. ピア・レビュー
6. ピア・レビュー
7. 研究中間発表、批評会
8. 研究中間発表、批評会
9. ピア・レビュー／チュートリアル
10. ピア・レビュー／チュートリアル
11. ピア・レビュー／チュートリアル
12. ピア・レビュー／チュートリアル
13. 卒業論文発表
14. 卒業論文発表

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

論文完成に向けた調査研究を自ら率先しておこなっていくことが前提となる。時間外においては、各自が必要な文献を読み、調査データを収集し、考察・分析を進め、論文執筆に向けた十分な努力を積み重ねていくことが求められる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

研究発表(50%)/授業参加(ディスカッション、ピアレビューへの参加等)(50%)

テキスト(Textbooks)

受講生の研究内容を踏まえ、オリエンテーションにて指示する。

参考文献(Readings)

都度、紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する場合がある。オンライン実施回についてはメール、または授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD591／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	大倉 季久(OHKURA SUEHISA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業の最終的な目標は卒業論文の完成である。それに向けて、とくに論文の構成、執筆の技法、表現、倫理について、研究に関するディスカッションを通して理解を深めながら論文の完成度を高めていく。

The goal of this class is the completion of the bachelor thesis. To that end, we will improve the completeness of the dissertation through discussions on research, especially regarding the dissertation structure, writing techniques, expressions, layouts, ethics, and so on.

授業の内容 (Course Contents)

執筆の進捗状況の報告とディスカッションを繰り返し行う。メンバー間で各自の問題関心、論文の構成、調査結果、研究のオリジナリティなど、互いの研究の全体像についても理解を深めながら、論文を完成させていく。

We will repeatedly report and discuss about drafts of the dissertation. The members will complete the dissertation while deepening their mutual understanding of each research, such as dissertation structure, survey results, and research originality.

授業計画 (Course Schedule)

1. 9月までの研究の進捗状況の報告とディスカッション(1)
2. 9月までの研究の進捗状況の報告とディスカッション(2)
3. 論理と実証に関する検討(1)
4. 論文の構成に関する検討(1)
5. 論理と実証に関する検討(2)
6. 論文の構成に関する検討(2)
7. 論理と実証に関する検討(3)
8. 論文の構成に関する検討(3)
9. 提出前、最後の報告とディスカッション(1)
10. 提出前、最後の報告とディスカッション(2)
11. 提出前、最後の報告とディスカッション(3)
12. 論文提出前の確認事項について
13. 卒論発表会(1)
14. 卒論発表会(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各種オンラインツール、アプリを用いて随時、指導、相談を行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

指定された報告とプレゼンテーションの実施(50%) / 授業、ディスカッション、面談への参加(50%)

テキスト (Textbooks)

特に指定しない。

参考文献 (Readings)

適宜指定する。

その他 (HP 等) (Others(e.g HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD755／卒業研究1 (Graduation Research 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代文化に関する社会学的研究		
担当者名 (Instructor)	貞包 英之(SADAKANE HIDEYUKI) 太田 麻希子(OTA MAKIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文コースを選択しない者が、現代文化学科で学ぶ4領域について幅広く修得することにより、社会に出るにふさわしい見識を獲得することを目指す。

Students that hadn't chosen graduation thesis course will acquire various knowledge in 4 areas of Department of Contemporary Culture and Society. These students will aim to acquire insights compatible with their working lives.

授業の内容 (Course Contents)

指定された2領域について、それぞれ課題レポートを執筆する(2領域のレポートを提出し、口頭試問を受ける)。詳細は履修要項および卒業論文・卒業研究ガイダンス資料を参照すること。また、必要な指示は初回の授業およびBlackboard上の掲示にて行う。

Students will write subject reports on 2 specific areas. Students should refer to their course guidebook, graduation thesis, or graduation research guidance document. In addition, essential instructions will be presented on Blackboard and in the first class.

授業計画 (Course Schedule)

1. レポート作成のための作業・相談
2. レポート作成のための作業・相談
3. レポート作成のための作業・相談
4. レポート作成のための作業・相談
5. レポート作成のための作業・相談
6. レポート作成のための作業・相談
7. レポート作成のための作業・相談
8. レポート作成のための作業・相談
9. レポート作成のための作業・相談
10. レポート作成のための作業・相談
11. レポート作成のための作業・相談
12. レポート作成のための作業・相談
13. レポート作成のための作業・相談
14. レポート作成のための作業・相談

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

関連文献の読み込み、データ収集など。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

2つのレポート・口頭試問(100%)

それぞれの領域について、中間レポート、期末レポート、口頭試問をもとに、総合的に評価する。

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DD855／卒業研究2 (Graduation Research 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代文化に関する社会学的研究		
担当者名 (Instructor)	貞包 英之(SADAKANE HIDEYUKI) 太田 麻希子(OTA MAKIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS4900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文コースを選択しない者が、現代文化学科で学ぶ4領域について幅広く修得することにより、社会に出るにふさわしい見識を獲得することを目指す。

Students that hadn't chosen graduation thesis course will acquire various knowledge in 4 areas of Department of Contemporary Culture and Society. These students will aim to acquire insights compatible with their working lives.

授業の内容 (Course Contents)

指定された2領域について、それぞれ課題レポートを執筆する(2領域のレポートを提出し、口頭試問を受ける)。詳細は履修要項および卒業論文・卒業研究ガイダンス資料を参照すること。また、必要な指示は初回の授業および Blackboard 上の掲示にて行う。

Students will write subject reports on 2 specific areas. Students should refer to their course guidebook, graduation thesis, or graduation research guidance document. In addition, essential instructions will be presented on Blackboard and in the first class.

授業計画 (Course Schedule)

1. レポート作成のための作業・相談
2. レポート作成のための作業・相談
3. レポート作成のための作業・相談
4. レポート作成のための作業・相談
5. レポート作成のための作業・相談
6. レポート作成のための作業・相談
7. レポート作成のための作業・相談
8. レポート作成のための作業・相談
9. レポート作成のための作業・相談
10. レポート作成のための作業・相談
11. レポート作成のための作業・相談
12. レポート作成のための作業・相談
13. レポート作成のための作業・相談
14. レポート作成のための作業・相談

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

関連文献の読み込み、データ収集など。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

2つのレポート・口頭試問(100%)

それぞれの領域について、中間レポート、期末レポート、口頭試問をもとに、総合的に評価する。

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア社会学 (Sociology of Media)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	メディアと社会についての多角的な考察		
担当者名 (Instructor)	井川 充雄(IKAWA MITSUO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	メディア社会学2年次生以上および社会学・現代文化学科生用コード(人数制限科目)		

授業の目標(Course Objectives)

本科目は、メディア社会学を学ぶための学問的基盤を築くことを目的とする。社会の中でのメディアとコミュニケーションに関わるさまざまな現象に関する社会的な諸理論を理解し、「メディアと社会」に関して多角的に考察する力を養う。

In this course, students will aim to acquire intellectual foundation required to learn media sociology. Students will understand various sociological theories on wide range of media and communication phenomena in society. Students will be able to review media and society from multiple angles.

授業の内容(Course Contents)

講義では、主にメディアとマスメディケーションに関する諸理論を取り上げ、その内容、背景、意義と限界などについて概説する。また、研究者たちがどのような視角や手法を用いたかについても説明する。履修者は、ただ単にそれらを理解するだけでなく、それを現代社会に応用して考えてほしい。

In this class, various theories mainly about media and mass communication are provided to explain their content, context, significance, and limit. In addition, students will learn about perspectives and methods that previous researchers used. Students will not only understand them, but also consider how they can be applied to the modern society.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 声の文化と文字のコミュニケーション
3. マス・コミュニケーションの成立「言論の自由」論と「印刷革命」論
4. 近代とマスメディア「公共圏」論
5. ナショナリズムとメディア「想像の共同体」論
6. 大衆社会論とメディア「強力効果論」
7. 戦争とプロパガンダの理論
8. 第2次世界大戦後の様々なマス・コミュニケーション論「限定効果論」
9. さまざまな効果論(1)「議題設定」モデルと多数派認知
10. さまざまな効果論(2)「利用と満足」研究
11. さまざまな効果論(3)「培養理論」
12. グローバル文化とメディア・コンテンツ「カルチュラル・スタディーズ」
13. メディア・イベント論の展開
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業で紹介するのは、各理論のエッセンスに過ぎない。ぜひ、授業中に紹介する文献を実際に読んで、理解を深めて欲しい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%) / 授業内課題(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 井川充雄・木村忠正編、2022、『入門メディア社会学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623094271)

参考文献(Readings)

1. スタンリー・バラン、デニス・デイビス、2007、『マス・コミュニケーション理論 上』、新曜社 (ISBN:978-4788510500)
2. スタンリー・バラン、デニス・デイビス、2007、『マス・コミュニケーション理論 下』、新曜社 (ISBN:978-4788510517)
3. 伊藤守編、2015、『よくわかるメディア・スタディーズ[第2版]』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623072644)
4. 辻泉ほか、2018、『メディア社会論』、有斐閣ストゥディア (ISBN:978-4641150553)
5. 李光鎬ほか、2021、『メディア・オーディエンスの社会心理学・改訂版』、新曜社 (ISBN:978-4788517213)

6. デニス・マクウェール、2010、『マス・コミュニケーション研究』、慶應義塾大学出版会（ISBN:978-4766416664）
各回で参考文献を紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

本授業は、パワーポイント、板書を用いた講義形式で、映像資料なども適宜用いる。ただし、学生に発言を求めることもある。
授業内課題については、次回授業時に講評を述べることでフィードバックを行う。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・調査実習入門1 (Introduction to Media Research Practice 1)		
担当者名 (Instructor)	軽部 謙介(KARUBE KENSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(30名)		

授業の目標(Course Objectives)

報道という営為がどのようなものかを理解するとともに、その機能が現代民主主義社会の中で有する重要性を認識してもらいます。同時に報道の限界や問題点などについても理解します。その上で、記事執筆の基本についても会得してもらい、実際に文章を執筆してもらいます。

Students will understand the behavior of reporting while recognizing the importance of its functions in modern democratic society. At the same time, they will understand the limits and issues surrounding reporting. In addition, students will understand the basics of article writing.

授業の内容(Course Contents)

報道は社会にとってなぜ必要なのか、どういう意味を持つのかなどの論点を軸に、日本型ジャーナリズムの特質とその国際比較という視点も織り込みながら、現役記者として「現場感覚」を加味しながらの授業とします。また、記事執筆を実際に体験してもらいながら、その基本について考えていきます。

Why society needs reporting? What meaning does it have? Students will refer to these in their arguments while adding in perspectives of Japanese journalism characteristics and international comparisons. In this class, students will also consider field experience of reporters on site. Students will experience writing articles themselves while thinking about these basics.

授業計画(Course Schedule)

1. 報道とは何か、その1＝歴史や実態などについて概括的に。
2. 報道とは何か、その2＝報道の主体(新聞、通信、放送、出版など)を中心に、その特徴や特性の違いについて考えます。
3. 日本型報道の特質＝記者クラブ制度や「エンバーゴ」などについて、その歴史や存在意義、報道の自由との関連などを具体的に考えてみます。
4. 分野別報道の現状と課題＝政治、経済、国際など報道を分野別に考え、その問題点などを、事例に即して検討していきます。
5. 調査報道とは何か＝調査報道について、具体例を通じて、その意義などについて吟味します。
6. 記事の基本その1＝「5W1H」や「三角形の原則」など、記事執筆の基本原則を考えます。
7. 記事の基本その2＝同
8. 記事の基本その3＝「起承転結」という作文やコラムに必須の原則を考えていきます。
9. 記事の基本その4＝同
10. 記事執筆その1＝どのようにしたら、より相手に伝わりやすい文章が書けるのか検討します。
11. 記事執筆その2＝同
12. 記事執筆の実践その3＝表現上の留意点など記事を書く際の「ルール」について考えます
13. 記事執筆の実践その4＝同
14. まとめ＝これまでの授業をまとめます。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行います。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)／授業態度(20%)／授業内での記事執筆(20%)／授業内でのレポートなど(30%)

テキスト(Textbooks)

特に使用しません。

参考文献(Readings)

参考文献はその都度授業中に示します。

ただ、紙の新聞については、一紙で結構ですので毎日読むようにしてください。朝日でも毎日でも何でも結構です。自宅とっていない場合は、大学や地域の図書館で読むように努めてください。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

「メディア・ジャーナリズム実習応用」も履修することが望ましいです。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・調査実習入門2 (Introduction to Media Research Practice 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	初学者に向けた Python プログラミングおよび環境構築の演習 プログラミング的思考の習熟		
担当者名 (Instructor)	榊 剛史(SAKAKI TAKESHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

社会学研究やジャーナリズム、実ビジネスにおいてプログラミングを活用するために、Python によるプログラミング/プログラミング的思考/プログラミングの環境構築を実践できる力を身につける

This lecture aims to instruct students on the basics of programming, programming thinking and building environments for programming with Python for utilizing programming in sociological research and journalism and actual business.

授業の内容(Course Contents)

Python を用いたプログラミングおよびプログラミング的思考と共に、自分自身でプログラミングを学習する上で必要なスキルを学ぶ。また自分の PC にプログラミング環境を構築するノウハウについても身につける。
特に「プログラミングを理解すること」よりも「プログラミングを動かせるようになること」を重視して授業を行う

Students will learn Python programming and programming thinking, as well as the skills necessary to learn to program on their own. Students will also acquire the know-how to build a programming environment on their own PCs.

In this class, the instructor specifically teaches with the goal of "being able to move programming around" rather than "understanding programming."

授業計画(Course Schedule)

1. 本講義の目的: プログラミングとはなにか?
2. プログラミング導入: プログラムを動かす
3. プログラミング導入: 今あるプログラムを修正する その1
4. プログラミング導入: 今あるプログラムを修正する その2
5. プログラミング導入: 今あるプログラムを修正する その3・コンピュータリテラシー
6. Python の基礎 その1(中間レポート出題)
7. Python の基礎 その2
8. プログラミングの自習スキルを身につける
9. プログラミングの実行環境を構築する
10. 様々な関数を探して試す
11. アプリケーションを作る その1
12. アプリケーションを作る その2(最終レポート出題)
13. Python を用いたデータ分析
14. 講義のまとめとレポート課題を振り返る

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の講義内容を自分で復習することが望ましいです。
また2回に1回程度の割合で、復習用の自習課題を出題します。
※自習課題は成績評価には入りません

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/毎回の講義で出題する、アンケートへの回答(40%)/中間レポート(Midterm Report)s(20%)

テキスト(Textbooks)

こちらで指定するテキストはありません

参考文献(Readings)

参考文献・参考資料は講義内で随時紹介します

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

事前準備

- ・自分の PC を用意してください
※図書館からのレンタルも可
- ・PC に Excel をインストールしておいてください
※持っていない場合、メディアセンターに問い合わせてインストーラーファイルをもらうこと

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・調査実習入門3 (Introduction to Media Research Practice 3)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	伝わる実用文の書き方、情報リテラシーの磨き方		
担当者名 (Instructor)	吉田 清久(YOSHIDA KIYOHISA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(30名)		

授業の目標(Course Objectives)

実用文を書く上で必要な取材方法や読み方の基本を押さえる。ビジネスの世界で通用する平易で簡潔、わかりやすい文章の書き方を身に着けます。全部で約10本の原稿を書いてもらいます。

Students will learn basic methods to collect materials and read documents. After that, they will learn how to write simple, clean, and easy to understand essays. This skill will be useful in the business world too. In total students will write about 10 essays.

授業の内容(Course Contents)

新聞記事に代表されるマスメディアの文章は、読み手に分かりやすいのが特長です。情報を伝達する実用文(説明文)の一種です。みなさんが小中学校、高校で学んできた作文や小論文とはまったく異なり、書き手の感想や心情、考えを字面には出さないことを基本にしています。

物事の発生経緯や人物紹介、時事ワードの解説などは、どのように構成すれば情報を的確に読者に説明できるのか。テーマごとに実際に書いてみることによって実践的な筆力を向上させます。

Mass media essays, represented by news articles, are practical essays (explanatory essays) that convey information to readers in an easy to understand manner. These differ completely from essays and short theses students had written from elementary through high schools. In general, students will refrain from showing opinions, emotions, and thoughts in their words. How can students construct their explanations of event timelines, people introductions, and current events, to convey them accurately to readers? Students will improve their practical writing skill by writing about each subject.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション、新聞記事に代表されるマスメディアの文章(説明文)の特徴とは。実用文作成にいかせる新聞の正しい読み方、情報リテラシーの磨き方。作文課題の提示(1回目は自己紹介)
2. 提出作文の講評と添削。書くことで身につく、「考える」こと。ESにも応用できる自己紹介の方法。次回作文課題の提示(何がテーマになるかは講義時点の社会情勢などを踏まえて)
3. 提出作文の講評と添削。作文課題の提示。新聞の読み方、情報リテラシーの鍛え方。見る力、聴く力について
4. 提出作文の講評と添削。次回作文課題の提示。「文章力」とは何か。書き方、伝え方の鉄則①
5. 提出作文の講評と添削。次回作文課題の提示。書き方、伝え方の鉄則②
6. 提出作文の講評と添削。次回作文課題の提示。書き方、伝え方の鉄則③
7. 提出作文の講評と添削。次回作文課題の提示。書き方、伝え方の鉄則④
8. 提出作文の講評と添削。次回作文課題の提示。書く前にやっておきたい「取材術」①
9. 提出作文の講評と添削。次回作文課題の提示。書く前にやっておきたい「取材術」②
10. 提出作文の講評と添削。次回作文課題の提示。文章は構成、設計図でできる。
11. 提出作文の講評と添削。次回作文課題の提示。速く書くためには何が必要か。
12. 提出作文の講評と添削。次回作文課題の提示。わかりやすく論理的に書くために必要なこと。
13. 提出作文の講評と添削。就活と「伝える技術」とは
14. 全体講評。マスメディアに関心を持つ人に日頃からの心構え、情報収集術、問題意識の持ち方などを説明して総括といたします。メディア以外のビジネス分野に進みたい人も大いに参考になると思います

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義の冒頭に最近の新聞記事を紹介、そのニュース性や背景を説明します。受講者も新聞やテレビでニュースを読んだり見たりしながら、なぜそれがニュースになっているのか、その1週間で何が一番印象に残ったのか、を考えておいてください。世の中の出来事をウォッチもしないでメディアを語ることはできません。自分なりの視点、感想をまとめることで、説明文作成のトレーニングにもなります。政治・経済から社会問題、スポーツ、芸能まで分野を問いません。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への参加度(50%)/授業に指示した提出物(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・調査実習入門4 (Introduction to Media Research Practice 4)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	調べ・書き・話す技術を磨く		
担当者名 (Instructor)	佐々木 央(SASAKI HISASHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(30名)		

授業の目標(Course Objectives)

私たちは日常生活のさまざまな場面で、相手に情報を伝え、相手から情報を受け取っている。情報の発信と受信を適切に行うことによって、合理的な選択や行動が可能になり、社会的な生活も豊かになる。そのためには情報の発信と受信の本質を理解することが重要だ。このことを実践的に学び、情報の受発信のスキルを磨くことを通じて、カリキュラム・マップにおける本科目の位置づけ「人間・社会のメディアとコミュニケーション」への理解を深める。また、物事の本質を考える力も養いたい。

In various situations in our daily lives, we convey information to others and receive information from others. Appropriate transmission and reception of information enables us to make rational choices and actions, enriching our social lives. To do so, it is important to understand the essence of information transmission and reception. By learning this in a practical manner and polishing their skills for receiving and transmitting information, students will deepen their understanding of the position of this course in the curriculum map, "media and communication of people and society."

授業の内容(Course Contents)

方法的には文章を書くことと、それを基にした全員のディスカッションが中心になる。といっても、作文は3～4本程度で、負担はそれほど重くない。討論といっても、クラスで積極的に発言することはむずかしいと思うので、リアクションペーパーを大いに活用したい。一方的に講義するという非対称な構造にはせず、わたしも共に考えるようにしたい。

作文のテーマは、自己紹介や時事的な話題などとする。共同通信社の記者として記事を書き続けているので、マスメディアがどのようにして情報を発信しているのか、それをどう読み解くかという点も、みなさんといっしょに考えたい。

The method is centered on writing sentences and discussions with everyone based on them. However, the composition is about 3 to 4 and the burden is not so heavy. Even though it is a discussion, I think it is difficult to speak positively in the class, so I would like to make great use of the reaction paper. I would like to think together, rather than having an asymmetrical structure of giving lectures unilaterally.

The theme of the composition is self-introduction and current topics. As I continue to write articles as a reporter for Kyodo News, I would like to think with you about how the mass media disseminates information and how to read it.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンスと各自の自己紹介、それを基にして情報とは何かを考える
2. 提出作文Ⅰ「各自の自己紹介」を素材に、情報の機能やコミュニケーションを考える
3. 提出作文Ⅰを素材に、情報の限界や制約について考える
4. 時事的ないしは社会的なテーマについて考える(提出作文Ⅱのテーマ設定)
5. 提出作文Ⅱを素材に、考えを深めたり多面化したりする方法を考える
6. 提出作文Ⅱを素材にマスメディアについて理解を深める
7. 提出作文Ⅱを素材にマスメディアについて考える
8. 時事的なテーマについて考える(提出作文Ⅲのテーマ設定)
9. 提出作文Ⅲを素材に情報発信の方法について考える
10. 提出作文Ⅲを素材に情報発信の技術について学ぶ
11. 提出作文Ⅰ～Ⅲを通じて感じたこと、考えたことを交換・共有する(提出作文Ⅳのテーマ設定)
12. 提出作文Ⅳをもとに他者を理解することの難しさや楽しさを知る
13. 提出作文Ⅳをもとに自分を見つめる
14. まとめ: 情報・表現・自己決定・民主主義について考える

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

制約の少ない作文をメールで最大4回、提出してもらいます(最大800字程度)。作文提出の前の授業では、作文を書き始めるための準備の時間(情報交換など)を設けます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

複数回による作文の提出(50%) / 問題提起・質問・討論への参加(50%)

テキスト(Textbooks)

1. 佐々木央、2022、『ルポ動物園』、筑摩書房 (ISBN:978-4480075185)
使用しません

参考文献(Readings)

どれか1紙でいいので、紙の新聞を読んでください。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

WEB 上で読める教員の記事一覧は下記URL。興味のあるものがあれば読んでみてください。

<https://this.kiji.is/-/authors/368964164493788257>

編著書「自死と向き合い、遺族とともに歩む」(全国自死遺族連絡会刊) 下記URLからダウンロードできます。特に第12章「自死とメディア」を参照してください。

<https://www.zenziren.com/reiwa3izokutebiki/>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・調査実習入門5 (Introduction to Media Research Practice 5)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Python を用いた ID-POS 分析/人工知能科学研究科とのコラボ科目		
担当者名 (Instructor)	石井 浩雅(ISHII HIROMASA) 内山 泰伸(UCHIYAMA YASUNOBU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(社会学部生 15 名) 社会学部生以外は他学部生用の抽選科目で申し込むこと		

授業の目標(Course Objectives)

DX という言葉を聞かない日はないほど DX ブームである。しかし、実際に成功している DX 事例はまだ少ないのも実情である。この授業では小売業という私たちの身近な業態におけるリテール DX の最新事例を学ぶ。また小売業の購買履歴データというビッグデータをもとに、Python を用いた分析ノウハウを学ぶ。さらには分析結果から課題を発見し改善につなげる提言を行うことを目標とする。

No day without hearing about DX news. However, there are still few successful DX cases. In this class, we will learn the latest cases of retail DX. Also, based on big data such as purchase data of ID-POS, learn analytical know-how using Python. Furthermore, the goal is to discover issues from the analysis results and make recommendations for improvement.

授業の内容(Course Contents)

この授業では、Amazon や Walmart など海外の事例に加えて、国内のリテール DX の最先端の事例を学ぶ。また、実際のドラッグストアのご協力のもと最新の ID-POS データ(匿名化された数百万行の購買履歴データ)を Python というプログラミング言語を使って分析する。分析する上での基本的な定石を踏まえてグループごとに分かれ、それぞれ分析テーマを決めて、互いに協力しながらビッグデータ分析を行い最終発表する。なお、Python 初学者には、教員、TA によるサポートを行う。また、分析内容は、データを提供頂いたドラッグストアの社長へ報告会も行う。尚、本授業は人工知能科学研究科教授と大手日用品メーカーで長年 ID-POS 分析を行なっている現役の社会人兼任講師が担当する。

In this class, in addition to overseas DX cases such as Amazon and Walmart, we will learn the latest cases of domestic retail DX. In addition, with the cooperation of a certain drug store, we will analyze the latest ID-POS data using Python. After learning the basics of analysis, students are divided into groups, each decides an analysis theme, cooperates in analyzing big data, and makes a final presentation. Python beginners are supported by instructors and TA. We will also hold a presentation to the president of the drugstore that provided the data. This class is taught by a professor from the Graduate School of Artificial Intelligence Science and a lecturer who has been analysing ID-POS for many years at a major consumer goods manufacturer.

授業計画(Course Schedule)

1. 授業ガイダンス
講義①リテール DX
2. 講義②データ分析の方法・Python プログラミング
3. 講義③Python プログラミング
4. グループごとのデータ分析①
5. グループごとのデータ分析②
6. グループごとのデータ分析③
7. グループごとのデータ分析④
8. グループごとのデータ分析⑤
9. 中間発表
10. グループごとのデータ分析⑥
11. グループごとのデータ分析⑦
12. グループごとのデータ分析⑧
13. グループごとのデータ分析結果最終発表会①
14. グループごとのデータ分析結果最終発表会②

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内・外で Slack を使い、Slack 上で、各グループでディスカッション、進捗状況報告などを適宜、進めてもらう。また、Python プログラミングのサポート、エラー対応なども、ここで行う。

授業内の最終発表会とは別に、データをご提供頂いたドラッグストア企業の社長への報告会も開催する。

企業のトップへのプレゼンテーションの機会を学生時代から持てることは、非常に貴重な体験になるはずである。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/研究発表(30%)/グループワークにおける取り組み(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・調査実習入門6 (Introduction to Media Research Practice 6)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	報道・調査・インタビュー取材実践		
担当者名 (Instructor)	小田 桐 誠(ODAGIRI MAKOTO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(30名)		

授業の目標(Course Objectives)

- * Students will strive for an accurate and multifaceted understanding of current affairs through student presentations and presentations
- * Through debate and group study students have the opportunity to organize their thoughts and get to know other perspectives
- * Students will gain objective ideas by evaluating their presentations with each other

授業の内容(Course Contents)

- ① Students narrow down the topics they are interested in and prepare manuscripts based on their conduct surveys and interviews.
- ② Because it is scheduled to invite people who work in media industry such newspapers news agencies and television stations, as guest lecturers. students need to prepare questions for then in advance, exchange opinions the course, and prepare reports based on the exchange of opinions.
- ③ Students will learn the merits and demerits of online information and contents of video distribution sites from various viewpoints.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクションー本講義の概要・注意点などを解説した後、全員 3 分ほどの自己紹介をする。相互の質疑応答の時間も設ける。
2. 媒体の歴史ー記憶から記録へ、アナログ・一方通行からデジタル・双方向へ
各自、日常のメディア接触状況を発表する
3. 新聞・雑誌などの紙媒体、ラジオに象徴される音声メディア、テレビや映画などの映像メディア、インターネットなど、各メディアの特性を把握する。5W1H テストを実施
4. 情報と報道では、何がどう違うのか。メディアの役割を考える
5. 取材の基礎・基本的な姿勢ーアポイントの取り方から報道後の注意点まで。
キーワードを当てはめるテスト風のレジュメを活用する
6. 取材のルールとコンプライアンスー取材現場での実例から
レポートの課題を提示
7. 「最近気になったニュース」をめぐってー討論を通じて多角的な思考を鍛える
8. ゲストスピーカーによる実践的かつ双方向の講義ー活字メディア編
9. 少年事件報道を考えるーディスカッション及びディベートを通じて
10. 災害報道ーその取材行為と伝え方を考える
読者・視聴者の視点と記録者としての行為
11. 映像メディアの影響カークあるドキュメンタリー作品から
12. レポート課題に関するプレゼンテーションと相互批評
13. 取材記事のまとめ方ー短文から長文まで
14. 論点整理・フリーディスカッション

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ① 日常的に多様な媒体のニュースに接するように使用ー同じテーマのニュースでもその中身や伝え方はどう違うか
- ② ネットに時間を費やすだけではなく、硬軟両様、古今東西さまざまな本をよむこと

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%) / 小テスト(2回)(20%) / 授業内での各種発表(30%) / 口頭試問・ニュース分析(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 小田桐誠、2020 年、『テレビは原発事故をどう報道したか』、秀和システム (ISBN:978-4-7980-6308-9)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・調査実習入門5 (Introduction to Media Research Practice 5)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Python を用いた ID-POS 分析/人工知能科学研究科とのコラボ科目		
担当者名 (Instructor)	石井 浩雅(ISHII HIROMASA) 内山 泰伸(UCHIYAMA YASUNOBU)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 5 名) 社会学部生は自学部用の抽選科目で申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

DX という言葉を聞かない日はないほど DX ブームである。しかし、実際に成功している DX 事例はまだ少ないのも実情である。この授業では小売業という私たちの身近な業態におけるリテール DX の最新事例を学ぶ。また小売業の購買履歴データというビッグデータをもとに、Python を用いた分析ノウハウを学ぶ。さらには分析結果から課題を発見し改善につなげる提言を行うことを目標とする。

No day without hearing about DX news. However, there are still few successful DX cases. In this class, we will learn the latest cases of retail DX. Also, based on big data such as purchase data of ID-POS, learn analytical know-how using Python. Furthermore, the goal is to discover issues from the analysis results and make recommendations for improvement.

授業の内容 (Course Contents)

この授業では、Amazon や Walmart など海外の事例に加えて、国内のリテール DX の最先端の事例を学ぶ。また、実際のドラッグストアのご協力のもと最新の ID-POS データ(匿名化された数百万行の購買履歴データ)を Python というプログラミング言語を使って分析する。分析する上での基本的な定石を踏まえてグループごとに分かれ、それぞれ分析テーマを決めて、互いに協力しながらビッグデータ分析を行い最終発表する。なお、Python 初学者には、教員、TA によるサポートを行う。また、分析内容は、データを提供頂いたドラッグストアの社長へ報告会も行う。尚、本授業は人工知能科学研究科教授と大手日用品メーカーで長年 ID-POS 分析を行なっている現役の社会人兼任講師が担当する。

In this class, in addition to overseas DX cases such as Amazon and Walmart, we will learn the latest cases of domestic retail DX. In addition, with the cooperation of a certain drug store, we will analyze the latest ID-POS data using Python. After learning the basics of analysis, students are divided into groups, each decides an analysis theme, cooperates in analyzing big data, and makes a final presentation. Python beginners are supported by instructors and TA. We will also hold a presentation to the president of the drugstore that provided the data. This class is taught by a professor from the Graduate School of Artificial Intelligence Science and a lecturer who has been analysing ID-POS for many years at a major consumer goods manufacturer.

授業計画 (Course Schedule)

1. 授業ガイダンス
講義①リテール DX
2. 講義②データ分析の方法・Python プログラミング
3. 講義③Python プログラミング
4. グループごとのデータ分析①
5. グループごとのデータ分析②
6. グループごとのデータ分析③
7. グループごとのデータ分析④
8. グループごとのデータ分析⑤
9. 中間発表
10. グループごとのデータ分析⑥
11. グループごとのデータ分析⑦
12. グループごとのデータ分析⑧
13. グループごとのデータ分析結果最終発表会①
14. グループごとのデータ分析結果最終発表会②

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業内・外で Slack を使い、Slack 上で、各グループでディスカッション、進捗状況報告などを適宜、進めてもらう。また、Python プログラミングのサポート、エラー対応なども、ここで行う。

授業内の最終発表会とは別に、データをご提供頂いたドラッグストア企業の社長への報告会も開催する。

企業のトップへのプレゼンテーションの機会を学生時代から持てることは、非常に貴重な体験になるはずである。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/研究発表(30%)/グループワークにおける取り組み(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・調査実習応用1 (Advanced Media Research Practice 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Python を用いた ID-POS 分析(応用)		
担当者名 (Instructor)	石井 浩雅(ISHII HIROMASA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(社会学部生 15 名) 社会学部生以外は他学部生用の抽選科目で申し込むこと		

授業の目標(Course Objectives)

この授業では、春学期に引き続き小売業の購買履歴データというビッグデータをもとに、Python を用いて高度な分析手法を学ぶ。分析結果から課題を発見し改善につなげる提言を行う。これらを通じて社会に出てからも使える分析力の習得を目標とする。

In this class, we will learn advanced and practical analysis methods using Python based on ID-POS data. Identify issues from the analysis results and propose improvement plans.

The objective is to acquire analytical skills that can be used even after going out into the world.

授業の内容(Course Contents)

この授業は、主に春学期の「メディア調査実習入門 5」の受講者を対象とする。

春学期は、Python を使った ID-POS 分析の基礎を学んだ。この授業では、Amazon などの小売業者やメーカーが使用する高度な分析を学ぶ。これらの分析手法を用いてグループごとに分かれ、それぞれ分析テーマを決めて、互いに協力しながらビッグデータ分析を行い最終発表する。

This class is mainly intended those who have taken "Introduction to Media Research Practice 5" in the spring semester. Basic ID-POS analytics using Python was learned in the spring semester. In this class, we will learn advanced analytics used by retailers and manufacturers such as Amazon. We are divided into groups, each decides an analysis theme, and collaborates with each other to analyze big data and make a final presentation.

授業計画(Course Schedule)

1. 授業ガイダンス
講義①ID-POS 分析の基礎
2. 講義②Python による ID-POS 分析(基礎)
3. 講義③Python による ID-POS 分析(N1 分析)
4. 講義④Python による ID-POS 分析(併買分析)
5. 講義⑤Python による ID-POS 分析(アソシエーション分析)
6. 講義⑥Python による ID-POS 分析(協調フィルタリング)
7. グループごとのデータ分析
8. グループごとのデータ分析
9. グループごとのデータ分析
10. グループごとのデータ分析
11. グループごとのデータ分析
12. グループごとのデータ分析
13. グループごとのデータ分析結果最終発表会①
14. グループごとのデータ分析結果最終発表会②

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内・外で Slack を使い、Slack 上で、各グループでディスカッション、進捗状況報告などを適宜、進めてもらう。また、Python プログラミングのサポート、エラー対応なども、ここで行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%) / 研究発表(30%) / グループワークにおける取り組み(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

本科目は、社会学部と人工知能科学研究科とのコラボ科目である。抽選登録科目になっており、定員は 20 名である。春学期の履修者あるいは同等レベルの Python スキルを持っていることが望ましい。

本授業は、大手日用品メーカーで長年 ID-POS 分析を行っている現役の社会人兼任講師が担当する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・調査実習応用2 (Advanced Media Research Practice 2)		
担当者名 (Instructor)	軽部 謙介(KARUBE KENSUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(30名)		

授業の目標(Course Objectives)

報道の基本となる記事の取材・執筆を実際に体験することを通じて、第三者に何かを伝えるというのはどういうことなのか、どのような表現が有効なのか、ジャーナリズムに必須となる正確性はどのようなプロセスで確保されるのかなどを理解します。新型コロナウイルスの感染状況によりますが、自らテーマを設定して取材・執筆を行う可能性があります。

Students will practice the basics of reporting, i.e., collect materials and write articles. Through these, students will learn contents and useful expressions to convey information to the third party. Students will understand the processes required to ensure journalism accuracy. Students will select their subjects, collect materials, and write articles.

授業の内容(Course Contents)

新聞記事作成のプロセスを紹介し、長年にわたり形成されてきた簡潔にして要点を伝える文章の本質を探ります。また取材とはどのように行うのか、記事を書く上では何が大事なのかといった点を学んだうえで、実際に自分でテーマを設定し記事を執筆してもらいます。「メディア・ジャーナリズム実習基礎」の応用編です。

Professor will introduce processes of writing news articles. Conveying important information has gone through a long formation process. Students will explore the essence of these articles. Students will learn how to collect materials and what is important when writing articles. They will select their subjects, collect materials, and write articles.

授業計画(Course Schedule)

1. 記事を書くとはどういうことなのか＝ジャーナリストとして現象を伝達していくことの意味を概括的に。
2. 記事の基本＝「5W1H」の重要性について、具体例を検討しながら深めて考えます。
3. 記事の類型＝本記、サイド、解説、論説など記事の分類を紹介し、それらが果たす意義について考えます。
4. 記事はどのように書かれるのか＝実際の記事執筆のプロセスを紹介し、留意点などを検討します。
5. 記者はどのように取材していくのか＝取材の現場とはどういうものなのか、どのようなことに注意しながら取材するのかなどを紹介しながら、取材という行為を考えます。
6. 資料はどのように集めるのか＝調査報道には不可欠となる資料収集について、入手の具体的な方法を提示します。
7. テーマ設定その1＝取材・執筆する対象をどのように選ぶのか、その際にはどのような視点が必要なのかを考えます。
8. テーマ設定その2＝各自の設定したテーマを発表し、具体的な留意点などについて考えます。
9. 記事執筆の留意点＝見出しはどのようにとるのか、リードにはどのような要素を盛り込むのかなどを検討します。
10. 記事執筆実習その1＝模擬記者会見を実施し、実際に記事を書いてもらいます。
11. 記事執筆演習その2＝その1の時に書いてもらった記事の講評を行います。指摘された点を通じて何が執筆に必要なのか改めて考えてもらいます。
12. 解説・サイド記事の書き方＝本記記事以外の書き方について具体的に紹介します。
13. 実習記事の提出と発表＝テーマ設定その2で各自が決めた記事をこの時まで提出し、その取材経験などを発表してもらいます。
14. 実習記事の講評とまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

実習記事の取材・執筆は授業時間外に行ってもらう可能性もあります。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加度(30%)／実習記事(40%)／レポート提出(30%)

なお単位修得のためには75%以上の出席を必要とします。

テキスト(Textbooks)

テキストは特に使用しません。

参考文献(Readings)

参考文献はその都度授業中に示します。ただ、紙の新聞については、一紙で結構ですので毎日読むようにしてください。「朝日」でも「毎日」でも何でも結構です。自宅とっていない場合は、大学や地域の図書館で読むように努めてください。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

「メディア・ジャーナリズム実習基礎」を履修することが強く望まれます。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・調査実習応用3 (Advanced Media Research Practice 3)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「不安社会」を生き抜く人間力を鍛える		
担当者名 (Instructor)	内野 雅一(UCHINO MASAKAZU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(30名)		

授業の目標(Course Objectives)

SNSが広がっている。現代社会は誰もがいつでもつながる「常時接続環境」になったかのようだが、実は常時「部分」接続環境でしかない。「部分」はそれぞれの「価値」で呼吸し、他の「部分」をヘイトする。つまり、脳がネットにハッキングされている。21世紀の実相はSNSなどのネットが人間社会を高度化させているのではなく、ギスギスした人間関係の蔓延なのである。人々は幸福ではなく、破滅に突き進んでいるといえる。授業では、「平成」が幕を閉じた現代社会の変容ぶりと、その背景を明らかにする。

Social media is spreading. In modern society, it seems that everyone is always connected but in fact people are only partially connected. Each part breathes in their values and hates other parts. In other words, the brain is hacked on the net. In 21st century, social media and other online mediums not make human society more sophisticated but rather foster stiff human relationships. We are marching not towards happiness, but towards destruction. In this class, students will understand transformations and contexts of modern society now that the curtain of Heisei era was down.

授業の内容(Course Contents)

講師は1981年、毎日新聞に入社し、主に経済報道に携わってきた。しかも、新聞記者だけでなく、経済週刊誌の編集、テレビのコメンテーターを経験した。同時に、伝書鳩は知らないが、電話からポケベル、スマホといった通信手段の多様な変遷を目の当たりにし、記事づくりの手書き、電話送稿、そしてパソコン入力への大変な変化に翻弄された。今、ネット社会化により「1億総メディア時代」とされる。だが、それは大きな間違いである。あふれるフェイクが人々を惑わしているにすぎない。メディアとは何かを常に念頭に置きながら、社会の変容ぶりを記事化し、さらに毎回異なるテーマを議論することで人間にとっての普遍的な「絶対価値」を探り、フェイクを見抜く人間力を装備する。

Professor has entered Mainichi Shimbun in 1981, mainly reporting on economics. In addition to being a news reporter, professor also edited economics weekly magazines and worked as a TV commentator. Although professor didn't know carrier pigeon, professor did witness various transformations in communication methods, from telephone to pager to smartphone. Professor was carried around in the great wave of change, including handwriting articles, sending drafts by telephone, and typing with PCs. As internet permeates our society, we are entering era in which everyone is media broadcaster. But this is not correct. Overabundant fakes are merely confusing people. Students will always bear in mind 'what is media' while writing articles on social transformations. By discussing different subjects each time, students will search for absolute values common to all human and learn to see through fakes.

授業計画(Course Schedule)

1. 導入編 新聞と週刊誌と書籍とテレビとネット =メディアとしての違いと問題意識
2. 「失われた40年」 =あれから日本、沈没中
3. 「バブルと1989年」 =豊かで平和は幻想です
4. 「ぼんやりした不安」 =羅針盤喪失の日本無残
5. 「ヨーロッパは歴史によってつくられ、アメリカは哲学によってつくられた」
=日本は何によって??
6. 「長寿悲国」 =生きるべきか死ぬべきか
7. 「70万人」 =子どもが社会から消える
8. 「生命選択」 =ついに人間は神になった
9. 「スマホ15年」 =情報デブになっただけよ
10. 「ここにお茶碗がある、これはお茶碗である」
=善と真で読み解く21世紀
11. 「戦争と平和」 =国防、国防と皆言うけれど
12. 「アメリカ」 =前に進むだけの混ぜこぜ国家
13. 「中国」 =そのけ、自己中のお通りだ
14. 「マッチ売りの少女」 =物語はいつまで生き続けるか

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回、その週の新聞を必ず読んで授業に臨む。授業中に与えられた課題の作文(字数約400字)を次の授業に提出する。作文は添削したうえで返却する。また、参考文献を数冊、読むよう努力すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

テーマごとの課題レポート(60%)/出席・議論への参加(40%)

テキスト(Textbooks)

なし(あえて言えば、新聞)

参考文献(Readings)

1. 佐伯啓思、『西欧近代を問い直す』、PHP 文庫
2. 佐伯啓思、『20 世紀とは何だったのか』、PHP 文庫
3. 斎藤幸平、『人新生の「資本論」』、集英社新書
4. アンデシュ・ハンセン、『スマホ脳』、新潮新書
5. 小林武彦、『生物はなぜ死ぬのか』、講談社現代新書
6. セルジュ・ラトゥーシュ、『脱成長』、文庫クセジュ
7. 山本義隆、『近代日本150年』、岩波新書
8. ブランコ・ミラノヴィッチ 『資本主義だけ残った』 みすず書房
9. 水野和夫 『資本主義の終焉と歴史の危機』 集英社新書
10. ビル・エモット 『「西洋」の終わり』 日本経済新聞出版社
11. 田中理恵子 『平成幸福論ノート』 光文社新書
12. 鈴木伸元 『新聞消滅大国アメリカ』 幻冬舎新書
13. サミュエル・ハンチントン 『文明の衝突』 集英社文庫
14. デイヴィッド・パトリカラコス 『140字の戦争』 早川書房
15. 永野健二 『日本迷走の原点 バブル』 新潮社

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

毎回、テーマについてディスカッションを行い、学生との質疑応答を活発に行う予定。時事問題に関心を持ち、積極的な受講態度が期待される。課題の作文については毎回、コメントをする。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・調査実習応用4 (Advanced Media Research Practice 4)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「広告と社会とメディアの現代的な関係」の議論を深める ～いわば実践的な「広告・PR 論2」		
担当者名 (Instructor)	植村 祐嗣(UEMURA YUUJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目 (30 名)		

授業の目標 (Course Objectives)

メディア、広告、学問、キャリア、社会などの関連を深く考察します。

New and old medias are integrating with ads, resulting in various issues.

Students will think about their essence and ideal form, while anchoring to reality and analyzing deeply.

授業の内容 (Course Contents)

正解のない様々な重要テーマについて、多角的な考察と議論のプロセスそのものを大切に授業を行います。

Students will analyze and discuss various important subjects that have no correct answer.

Students will emphasize these processes. The class will advance by having all students participate in it.

授業計画 (Course Schedule)

1. 「広告・PR 論」の総復習
2. 学問体系、会社組織
3. デジタル媒体・広告の現代的な課題
4. " (続き)
5. メディアとは何か
6. ジャーナリズムとエンタテインメント
7. 広告の光と影
8. キャリア、仕事観
9. プラットフォーム、レイヤー、水平・垂直
10. 法律・条令 ↔ 業界自主規制 ↔ 企業倫理
11. 数的センス、学問体系、個人情報の保護と利活用
12. Q&A
13. 続 Q&A
14. 総まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

「広告・PR 論」の応用編と覚悟 & 期待ください。

多様な社会人ゲスト講師も招聘します。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/授業への参加度(70%)

テキスト (Textbooks)

テキストの存在しないテーマを扱います。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

この授業で何を体得できるかは、みなさんの能動性次第です。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・調査実習応用5 (Advanced Media Research Practice 5)		
担当者名 (Instructor)	相澤 洋美(AIZAWA HIROMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(30名)		

授業の目標(Course Objectives)

一般に「マスコミ」と言われている情報業界の仕組みと役割を知り、自分の適性を見極めながら、取材力・企画力・文章力を磨く訓練を行います。

This course aims to provide practical training on planning, interviewing and journalistic writing, while assessing student's own eligibility. For this purpose, it also provides a basis for understanding the structure and function of the media industry.

授業の内容(Course Contents)

広告コピーや雑誌・書籍 WEB メディア、インタビューなど、媒体別のライティング訓練や企画立案の練習を行う。

Training which this course offers varies from copywriting, interviewing to writing stories for magazines, books and websites, etc.

授業計画(Course Schedule)

1. ブランディングとは(自分の広告を作る)
2. 【広告 1】企画立案・イメージ展開
3. 【広告 2】広告コピーを書く
4. 【広告 3】合評
5. 【雑誌 1】企画、コンテ制作
6. 【雑誌 2】記事を書く
7. 【雑誌 3】合評
8. 【書籍 1】出版形態の違い・文章を書くとは
9. 【書籍 2】コラムを書く
10. 【書籍 3】合評
11. 【インタビュー1】インタビューの基礎
12. 【インタビュー2】インタビューの実践、演習
13. 【インタビュー3】情報編集・自分広告のふり返し
14. 自分広告のリライト、合評

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

なし

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内に行う課題(複数回実施)(50%)/授業内に指示した提出物(複数回実施)(50%)

※レポート試験は行いません。平常時の課題と提出物のみで評価します。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・調査実習応用6 (Advanced Media Research Practice 6)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	刺さる！バズらせる！超える！「実戦」ウェブライティング		
担当者名 (Instructor)	河崎 環(KAWASAKI TAMAKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(30名)		

授業の目標(Course Objectives)

現代ジャーナリズムにおいて、最もスピードと熱量と社会的影響力を持つメディアは紙でも電波でもなく、ウェブになり代わった(良かれ悪しかれ)。メディア史を概観し踏まえた上で、テキストが文脈から分離し一瞬で伝播する SNS 時代の「正義」やユーザ行動原理について考察し、ポストトゥルース社会で真にジャーナリスティックでありたいと望む皆さんと、これからのウェブで生き延びる技術を磨く。

In modern journalism, the fastest, heated, and socially impactful media is not paper or radio wave – It is internet (be it good or bad). Students will first study overall media history before analyzing justice and users' behavioral theories in social media age in which texts can be divorced from their contexts and broadcasted immediately. Students who aims for true journalism in this post-truth society will hone their skills to thrive in future online society.

授業の内容(Course Contents)

25 年前には存在せず、想像もされなかった職業、ウェブライター・コラムニストである講師が、ウェブメディア黎明期以来約 20 年のキャリアから培った実践的(実戦的)なウェブライティング知識と技術を教える。生活系ネットメディアからファッション誌、文芸、政治経済誌、政府系出版物まで幅広く書くライターが目にしてきた、ウェブライティングの世界とは。

マスコミの大人の事情、「数字(PV)か、それとも目に見えぬ価値の創出か」と悩む編集者、ネットの賞賛や誹謗中傷、テレビに出演した瞬間に突如増える SNS 匿名フォロワーとの付き合い方。実際の取材・原稿執筆の裏話、各社による校閲・校正の実際なども紹介する。ウェブ誕生後に生まれた Z 世代として自分達のネット的強みとは何か、そしてもしプロを志望するなら、きちんと商品になる原稿とはどのようなものかを考察しよう。

25 years ago, occupations such as online writers and columnists were not even imagined. Lecturer will teach empirical (practical) online writing knowledge and techniques which accumulated in 20 years of career, from dawn of online media till now. What does online-writing world mean? Lifestyle online medias, fashion magazines, literature magazines, political economic magazines, government publications – Lecturer who had written about various topics now tries to verbalize the aesthetics of online-writing.

The complicated truth of mass media; editors who hesitated between creating page views (PV) or intangible values; online praises and defamation; interactions with anonymous spiking social media followers after TV presences. Lecturer will introduce backstage stories of material collection and draft writing, as well as proofreading and editing by various publishers. Students as Gen Zers born after internet birth will think about their strength on Internet and discuss their essays' professional quality suitable to put on market.

授業計画(Course Schedule)

1. 講座ガイダンス
2. ウェブ概論(1)
3. ウェブ概論(2)
4. ウェブライティング: 混沌
5. ウェブライティング: 葛藤
6. ウェブライティング: 高揚
7. ウェブライティング: 陶酔
8. ウェブライティング: 失望
9. ウェブライティング: 呪詛
10. ウェブライティング: 光明
11. ウェブライティング: 祈り
12. ウェブライティング: 正義(終論)
13. 課題講評(ライブ)
14. 課題講評(ライブ)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業趣旨は「ライティングスキルを磨き、実際の商品となる文章をアウトプットする能力を鍛えること」にある。予習復習として、日ごろからウェブニュースメディアで様々な分野領域の記事を幅広く読み、それらに対して自分なりの意見を持っておくこと。授業は少人数クラス、ゼミ形式で講義とディスカッションの混じったスタイルで行う。ゲストスピーチには例年、ウェブや出版、テレビ、広告業界など第一線で活躍するスピーカーを招くため、彼らとのディスカッションにも臆せず積極的な姿勢が望ましい。最終課題は、任意のウェブメディアに掲載することを想定し、2000～3000字程度のウェブ記事を執筆して提出(例年の締め切りは年内)。学期末の最終講義2回を使い、優れたもの数点を履修者全員の前でライブ講評(赤入れ)する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 授業貢献度(出席数、発言回数や内容、提出物のクオリティなど)(60%)
ゲストスピーカー登壇の回(2回予定、ガイダンスで案内)は、原則的に全員出席のこと。

テキスト(Textbooks)

1. 河崎環、2016、『女子の生き様は顔に出る』、プレジデント社 (ISBN:978-4833422093)
2. 河崎環、2019、『オタク中年女子のすすめ』、プレジデント社 (ISBN:978-4833423274)

参考文献(Readings)

1. M. マクルーハン、1987、『メディア論—人間の拡張の諸相』、みすず書房 (ISBN:978-4622018971)
2. 鈴木健、2013、『なめらかな社会とその敵』、勁草書房 (ISBN:978-4326602476)
3. 水村美苗、2015、『増補 日本語が亡びるとき: 英語の世紀の中で』(ちくま文庫)、筑摩書房 (ISBN:978-4480432667)
4. 小田嶋隆、2020、『小田嶋隆のコラムの切り口』、ミシマ社 (ISBN:978-4909394323)
5. 五明拓弥、2018、『全米は、泣かない。』、あさ出版 (ISBN:978-4866670218)
6. 武田砂鉄、2020、『わかりやすさの罪』、朝日新聞出版 (ISBN:978-4023318762)
7. 石戸諭、2021、『ニュースの未来』(光文社新書)、光文社 (ISBN:978-4334045593)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・調査実習応用1 (Advanced Media Research Practice 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Python を用いた ID-POS 分析(応用)		
担当者名 (Instructor)	石井 浩雅(ISHII HIROMASA)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限:5名) 社会学部生は自学部用の抽選科目で申し込むこと		

授業の目標(Course Objectives)

この授業では、春学期に引き続き小売業の購買履歴データというビッグデータをもとに、Python を用いて高度な分析手法を学ぶ。分析結果から課題を発見し改善につなげる提言を行う。これらを通じて社会に出てからも使える分析力の習得を目標とする。

In this class, we will learn advanced and practical analysis methods using Python based on ID-POS data. Identify issues from the analysis results and propose improvement plans.

The objective is to acquire analytical skills that can be used even after going out into the world.

授業の内容(Course Contents)

この授業は、主に春学期の「メディア調査実習入門 5」の受講者を対象とする。

春学期は、Python を使った ID-POS 分析の基礎を学んだ。この授業では、Amazon などの小売業者やメーカーが使用する高度な分析を学ぶ。これらの分析手法を用いてグループごとに分かれ、それぞれ分析テーマを決めて、互いに協力しながらビッグデータ分析を行い最終発表する。

This class is mainly intended those who have taken "Introduction to Media Research Practice 5" in the spring semester. Basic ID-POS analytics using Python was learned in the spring semester. In this class, we will learn advanced analytics used by retailers and manufacturers such as Amazon. We are divided into groups, each decides an analysis theme, and collaborates with each other to analyze big data and make a final presentation.

授業計画(Course Schedule)

1. 授業ガイダンス
講義①ID-POS 分析の基礎
2. 講義②Python による ID-POS 分析(基礎)
3. 講義③Python による ID-POS 分析(N1 分析)
4. 講義④Python による ID-POS 分析(併買分析)
5. 講義⑤Python による ID-POS 分析(アソシエーション分析)
6. 講義⑥Python による ID-POS 分析(協調フィルタリング)
7. グループごとのデータ分析
8. グループごとのデータ分析
9. グループごとのデータ分析
10. グループごとのデータ分析
11. グループごとのデータ分析
12. グループごとのデータ分析
13. グループごとのデータ分析結果最終発表会①
14. グループごとのデータ分析結果最終発表会②

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内・外で Slack を使い、Slack 上で、各グループでディスカッション、進捗状況報告などを適宜、進めてもらう。また、Python プログラミングのサポート、エラー対応なども、ここで行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%) / 研究発表(30%) / グループワークにおける取り組み(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

本科目は、社会学部と人工知能科学研究科とのコラボ科目である。抽選登録科目になっており、定員は 20 名である。春学期の履修者あるいは同等レベルの Python スキルを持っていることが望ましい。

本授業は、大手日用品メーカーで長年 ID-POS 分析を行っている現役の社会人兼任講師が担当する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE251／ニュースの社会学1 (Sociology of News 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	デジタル時代のジャーナリズム		
担当者名 (Instructor)	コルベユ(CORBEIL STEVE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3313	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

The first objective of this class is to reassess the role of popular culture in society, especially how it evolved in response to the ever-changing media landscape. The second objective is to look at how news media outlets can influence our consumption of cultural products.

授業の内容 (Course Contents)

This class puts a lot of emphasis on discussions. The students will be asked to give their opinion on a series of topics concerning popular culture and the news. Through these discussions, the students will better understand a wide range of issues related to culture and media. First, we will look at the different definitions of popular culture. Then, we will compare various marketing strategies encouraging the mass consumption of culture. Finally, we will analyze how some intellectuals question the current state of culture and media.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: counterculture, subculture, popular culture
2. How to promote popular culture: America
3. How to promote popular culture: Japan (The end of cool Japan)
4. How to promote popular culture: Korea
5. How to address issues surrounding popular culture and media
case study 1: Jarett Kobek
6. How to address issues surrounding popular culture and media
case study 2: Alan Moore
7. How to address issues surrounding popular culture and media
case study 3: Hiroki Azuma
8. Issues surrounding popular culture and media
Streaming services 1
9. Issues surrounding popular culture and media
Streaming services 2
10. Issues surrounding popular culture and media
Podcasts and the news
11. Issues surrounding popular culture and media
Podcasts and the news
12. Issues surrounding popular culture and media
Media scandals and the news 1
13. Issues surrounding popular culture and media
Media scandals and the news 2
14. The future of popular culture and media

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students are expected to complete the readings before each class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終テスト(Final Test)(35%) / 最終レポート(Final Report)(35%) / 授業への参加(Class participation)(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. Marc Steinberg. 2012. *Anime's Media Mix: Franchising Toys and Characters in Japan*. Univ of Minnesota Pr (ISBN:978-

0816675500)

2. Naren Chitty. 2020. *The Routledge Handbook of Soft Power*. Routledge (ISBN:978-0367462055)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE252／ニュースの社会学2 (Sociology of News 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	オルタナティブ・ジャーナリズム		
担当者名 (Instructor)	林 怡夔(LIN I-HSUAN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

市民社会の視点からオルタナティブ・メディアの果たすべき機能、そしてあるべき姿を考えられるようになること。オルタナティブ・ジャーナリズムへ関心をもつようになり、考察に必要な基本概念を身につけること。

Students will think about roles of alternative media and the forms it should take from perspective of citizen society. Students will be interested in alternative journalism.

授業の内容(Course Contents)

授業ではまずオルタナティブ・メディアの意味を把握し、マスメディアの課題を共有する。次に草の根社会運動、公共圏、多文化主義などの関連理論や概念の紹介を行う。後半では社会的実験として行われた国内外の事例(ケース)を紹介し、それぞれが成し遂げた目標と成果を具体的に検討し、ディスカッションしていく。最後に理論概念と実態との往還の関係を示し、残された課題を確認する。

In this class, students will first grasp meaning of alternative media before being introduced to theoretical concepts of grassroots social movement and multi-culturalism. In the second half, students will be introduced to Japanese and overseas cases with different social thinking or purpose. Students will discuss specific results or goals each of them has achieved. Finally, students will show circular relationship between theoretical concept and actual condition, while checking off remaining subjects.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. オルタナティブ・ジャーナリズムとはなにか
3. パブリック・アクセスと市民参加
4. 草の根社会運動とメディア
5. 多文化主義とメディア
6. 人権とメディア
7. 調査報道
8. オルタナティブ公共圏
9. 事例紹介①
10. 事例紹介②
11. 事例紹介③
12. 事例紹介④
13. オルタナティブ・メディアの光と影
14. 最終総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で随時知らせる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE253／ニュースの社会学3 (Sociology of News 3)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	デモクラシーとジャーナリズム		
担当者名 (Instructor)	綿井 健陽(WATAI TAKEHARU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「そのドキュメンタリーから社会を視る」を趣旨として、主にテレビのドキュメンタリー番組を視聴して、私たちはどんな社会に生きているのかを視る、考える、議論する。そして、自らの言葉で言語化・表現する。

With the purpose of "seeing society from that documentary," we mainly watch documentary programs on TV to see, think, and discuss what kind of society we live in. And express them in their own words.

授業の内容 (Course Contents)

事件・事故・司法・スポーツ・メディアなど、それぞれの回のテーマに適したドキュメンタリーを視聴。視聴後は解説や補足説明の他に、質疑応答やディスカッションタイムを設ける。毎回の授業終了後にリアクションペーパーを提出、もしくは翌週の授業開始前に提出する形式を予定。14回の講義で扱うドキュメンタリーのテーマや内容は、講義時の社会情勢に応じて前後・変更する可能性があります。

Watch documentaries suitable for each theme, such as incidents, accidents, justice, sports, and media. After viewing, there will be a question and answer session and discussion time in addition to commentary and supplementary explanations. We have time to fill out the reaction paper in the class, and we plan to submit it the next week class. The themes and contents of the documentaries covered in the 14 lectures may change before or after depending on the social situation at the time of the lecture.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクションー授業の進め方の説明と「メディアの加害性・報道被害」
2. その戦争はどう伝えられたかーイラク戦争
3. 「知る権利」をめぐるー沖縄返還密約事件
4. 表現の自由をめぐるー1 あいちトリエンナーレ「表現の不自由展」
5. 表現の自由をめぐるー2 犯罪報道と顔写真・実名
6. スポーツ選手を描くーサッカーW杯予選・三浦知良の闘い
7. その事件はどう伝えられたかーある家庭内虐待殺人事件
8. その裁判で何が争われたかー「乳幼児揺さぶられ症候群」をめぐる
9. 若者たちの居場所をめぐる
10. 東海テレビがドキュメンタリーで描く日本社会 ※ゲスト講師予定
11. あるミュージシャンの音楽活動をめぐって
12. 日本で暮らす外国人の姿
13. 中国人が撮った中国社会 ※ゲスト講師予定
14. 大島渚監督が描いた戦争「忘れられた皇軍」

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業で視聴したドキュメンタリーの感想・意見・質問・疑問を、リアクションペーパーに記入して提出すること。基本的には毎回の授業終了時に提出、もしくは翌週の授業開始前に提出する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

毎回の授業後のレポート(50%)／授業への参加(30%)／最終レポート(Final Report)(20%)

テキスト (Textbooks)

1. 綿井健陽、2005、『リトルバース 戦火のバグダッドから』、晶文社
 2. 危険地報道を考えるジャーナリストの会、2015、『ジャーナリストはなぜ戦場に行くのか』、集英社新書
- 無し

参考文献 (Readings)

1. 桜井均、2005、『テレビは戦争をどう描いてきたか』、岩波書店
2. 阿武野勝彦、2021、『さよならテレビ』、平凡社新書
3. 丹羽美之、2020、『日本のテレビドキュメンタリー』、東京大学出版会
4. 森達也、2008、『それでもドキュメンタリーは嘘をつく』、角川文庫

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

<http://www1.odn.ne.jp/watai/> <<綿井健陽ウェブジャーナル>>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE254／ニュースの社会学4 (Sociology of News 4)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済・金融とジャーナリズム		
担当者名 (Instructor)	松井 正憲(MATSUI MASANORI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

①私たちはグーテンベルク以来、あるいはそれを上回るコミュニケーション革命の真ただ中に生きていることを認識する。

②究極の個人メディアである SNS は、社会のあらゆるものを「みんな(集団)」から「わたし(個人)」へ変えようとしていることを理解する。

③経済(暮らし)の分野では資本主義の大前提である価格や市場に大きな影響を与えようとしている。「みんな」から「わたし」への変化が、私たちの暮らしをどのように変えようとしているのかを知り、より良い未来のために何をすべきかを考える。

①We will understand that we are living in the middle of the communication revolution since Johannes Gutenberg's one.

② We will recognize that SNS which is ultimate personal media device is going to change everything from "everybody's something" to "one person's something".

③In the area of economy the communication revolution is affecting the price and market which is called the premises of capitalism. We will understand how the change from "everybody's something" to "one person's something" affect our life and think through what to do for better future of human being.

授業の内容(Course Contents)

・タイトル…コミュニケーション革命が変えるメディア、社会、そして暮らし すべてが「みんな(集団)」から「わたし(個人)」へと変わる その時、私たちはより良い未来のためにどう向き合い、何をすべきか？

・内 容…今、私たちはグーテンベルク以来、あるいはそれを上回るコミュニケーション革命の真ただ中に生きている。SNS を筆頭とするデジタル・メディアの変化は政治、経済、文化、人間関係、生きがいなど社会のあらゆるものを「みんな(集団)」から「わたし(個人)」へと変えようとしている。経済(暮らし)の分野では、資本主義の大前提である全ての人に共通した「一物一価」の原則が、一人ひとり異なる価格が存在する「一物多価」へと変貌する。市場は「みんなのマーケット」から「わたしのマーケット」へと姿を変える。約 30 年におよぶ日本経済低迷の原因となった「みんなの時代」のバブルの発生と破裂を検証しつつ、「わたしの時代」の日本経済の将来を考える。コミュニケーション革命は現代社会をどこへ導こうとしているのか、私たちは変化にどう向き合い、何を準備すべきなのか。

・Title…The communication revolution is making everything such as media, society and economy, etc., from "everybody's something" to "one person's something". And then we think through how to face it and what to do for better future of human being.

・Contents…Now we are living in the middle of the communication revolution which is since Johannes Gutenberg's one or has a bigger impact than it. The digital media's change, SNS in the lead, is making everything such as politics, economy, culture, human relationship, meaning of life, etc., from "everybody's something" to "one person's something". In the area of economy(or life), "one price for identical products", which is common to everybody and is called the premises of capitalism, will change to "multiple prices" which are different from each person. And also, Market will change from "market for everybody" to "market for one person". Verifying the bubble economy and it's burst in the era of "everybody's", which caused continuous sluggish Japanese economy for almost 30 years, we think what will be Japanese economy in the era of "one person's". We are

wondering where this communication revolution will bring us, how to face it and what to do for better future.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション…授業の狙いと全体の流れなどについて説明する。
2. SNS が引き起こすグーテンベルク以来のコミュニケーション革命～SNS が社会のすべてを「みんな(集団)」から「わたし(個人)」へと変える(i)。
3. SNS が引き起こすグーテンベルク以来のコミュニケーション革命～SNS が社会のすべてを「みんな」から「わたし」へと変える(ii)。
4. SNS が変える社会の最前線～政治、経済、文化、人間関係、生きがいなど社会のあらゆるものが「みんな(集団)」から「わたし(個人)」へと変わる。
5. SNS が変える経済(暮らし)の最前線～資本主義の前提条件の「一物一価」の原則が「一物多価」へ、「みんなのマーケット」は「わたしのマーケット」へと変わる。
6. 「奇跡と完敗」の戦後日本経済～「みんなの時代」の奇跡が、その後の「わたしの時代」の完敗を準備した。
7. 「みんなの時代」の経済が招いた未曾有のバブル～「検証バブル 犯意なき過ち」(日本経済新聞社編)を参考にしながら、約 30 年に及ぶ日本経済低迷の引き金になったバブル発生の真因に迫る(i)。
8. 「みんなの時代」の経済が招いた未曾有のバブル～約 30 年に及ぶ日本経済低迷の引き金になったバブル発生の真因に迫る(ii)。
9. だれがバブルを潰したのか。破裂した風船に針を刺し続けた人たち～「みんなの時代」の政策の失敗がバブルを大爆発させた(i)。
10. 新型コロナの「みんなの対策」が世界経済の新バブルを生む～「コロナ・バブル」は破裂するのか、その時世界経済はどうなる？
11. すべてが「みんな」から「わたし」へと変わる時、メディアとジャーナリズムの未来はどうなるか～メディア(仲介者)なき民主主義は存在し得るのか。
12. 「みんなの時代」から「わたしの時代」へ変わる時、私たちは変化にどう向き合い、何を準備し、どう生きるべきなのか？(i)
13. 「みんなの時代」から「わたしの時代」へ変わる時、私たちは変化にどう向き合い、何を準備し、どう生きるべきなのか？(ii)
14. 本講義の全体のまとめと学生との意見交換など。外部講師による講義も予定する。
(上記の授業計画は進捗状況等によって変更もあり得る)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ①戦後日本経済史、特に高度経済成長期、バブルの生成と破裂、その後の 30 年に及ぶ長期低成長に関する一般的な知識を習得しておくこと。
- ②新聞、テレビ、ネットニュースなどを日々関心を持って接するようにすること。
- ③メディア・リテラシーに関心を持ち、リテラシー力を高める継続的な努力をすること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 課題レポート(30%) / 授業への取り組み(30%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 日本経済新聞社編、2000 年、『検証バブル 犯意なき過ち』、日本経済新聞社 (ISBN:ISBN4-532-16361-7)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

- ①主に Power Point を使用した講義とする。
- ②授業中は学生の意見を積極的に聞きたい。
- ③リアクションペーパーについては、次回授業開始時に何らかのフィードバックを実施する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE255／ニュースの社会学5 (Sociology of News 5)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ことばとジャーナリズム		
担当者名 (Instructor)	田辺 龍(TANABE RYU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

言語(記号)と人間、それを媒介するメディア／テクノロジーについて、インターネットにおけるニュースを主要な題材として理解し、日々接するメディアについて理論的に考察することができるようになる。

Considering mainly about internet news, students will deepen their understanding of human languages or signs and media technology. They will acquire theoretical skill of media sociology to analyze various medias they encounter daily.

授業の内容 (Course Contents)

講義の前半では、デジタル・メディア時代に至るまでの言葉の存在様態、そしてわれわれの「現実」認識に重要な役割を果たしているメディア／テクノロジーを対象とした理論・概念を紹介する。これを踏まえて、中盤以降では、インターネットにおける情報の送受信に不可避免的に伴う現実／非現実、真実／虚構の融合状況についてニュース情報を中心に理論的に考察、この状況への対応策を考えていく。

In the first half of this class, I will introduce the studies of media technology that influence the perception of reality and mode of human languages. Based on the above, the second half, students will consider the situation where inevitably merge a recognition of real/unreal and true/false by using the internet. We must take measures to solve this problem by theoretical thinking of the internet news.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス＋イントロダクション:「現実」を創る—ことばの効用
2. 言語起源論の二つの系譜—人類史における表象の段階的発展とメディア・テクノロジー
3. 「テクノロジー的生活形式」—電気メディアと「自己」「時間」「空間」
4. フィルムの登場と編集された「現実」の創造—ベンヤミン&キットラーの映画論
5. 「シミュラクル」としてのフェイクニュース—アイデア／アイコン／シミュラクルとデジタル・メディア
6. インターネットにおける「ニュース」の構造変容—「当事者」情報の発信と公共空間の変容
7. 話し言葉／書き言葉／インターネット—諸メディアのコンヴァージエンスとことば
8. タイプライター (typewriter) と「書き手 (writer)」の問題—そのテキストは誰／何者が書いたのか？
9. メディア空間における「汎人称発話」—既存の言説世界の再言語化(引用)としての発話
10. インターネットにおけるエクリチュールと「反復可能性」—無限に複製・編集・拡散される発話＝パフォーマンス
11. データ化する「私」—「超パノプティコン」としてのデータベース
12. 電子メディア／デジタル・メディア時代における情報の複製性／階層性—脱中心化・断片化する「主体」
13. ディープフェイクとゆれる「現実」—AI 加工動画と広告／プロパガンダ
14. まとめ:ポスト・トゥルース時代におけるマスメディアの存在意義

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習(予習・復習等)に関する指示は、資料のアップ等も含めて、履修登録完了後に履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)／授業への参加度(20%)／小テスト(10%)／小レポート(10%)

テキスト (Textbooks)

テキストは使用しない

参考文献 (Readings)

1. マーク・ポスター、2001、『情報様式論』、岩波書店
2. ハロルド・A・イニス、2021、『メディアの文明史』、筑摩書房
3. アンドレ・ルロワ＝グーラン、2012、『身ぶりと言葉』、筑摩書房

4. ジャック・デリダ、2002、『有限責任会社』、法政大学出版局
 5. サミュエル・ウーリー、2020、『操作される現実』、白揚社
 6. グレッチェン・マカロック、2021、『インターネットは言葉をどう変えたか』、フィルムアート社
 7. リー・マッキンタイア、2020、『ポスト・トゥルース』、人文書院
- その他の参考文献は毎回配布する資料に明記する

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE256／ニュースの社会学6 (Sociology of News 6)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ドキュメンタリーとジャーナリズム		
担当者名 (Instructor)	想田 和弘(SODA KAZUHIRO) 生井 英考(IKUI EIKO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	集中講義(夏季) 8月28日(月)～8月31日(木) 2～4限 9月1日(金) 2～3限 教室:1203 教室		

授業の目標 (Course Objectives)

「ドキュメンタリー」というと、すぐさま NHK スペシャルなどの「客観・中立」を掲げたジャーナリスティックな作品を思い浮かべる人が多いかもしれない。しかしドキュメンタリー界には実に多様なアプローチや哲学があり、作家それぞれの「世界との向き合い方」がある。本講義では、ドキュメンタリー映画作家たちの様々な方法論に着目し、その多様性と豊かさの可能性を概観する。

Whenever “documentaries” are mentioned, many people may think about “objective” and “neutral” journalistic works such as “NHK Special”. However, there are many approaches and philosophies in “documentaries”. Each director has different way to face the world. In this lecture, students will focus on various methodologies of documentary film directors and observe their diversity, richness, and potential.

授業の内容 (Course Contents)

講師を務める想田和弘は、事前に台本を作らずナレーションや音楽を使わず「観察映画」の方法論とスタイルで、ドキュメンタリー映画を作り続けてきた作家である。方法論を「原因」とするならば、作品は「結果」である。本講義では、世界で作られてきた多様なドキュメンタリー映画をできるだけ数多く鑑賞し、その方法論と作品との関係を作家の視点で分析する。講義は可能な限りインタラクティブに行い、議論への参加を重視する。上映作品の長さに合わせて、臨機応変に講義の区切り(休憩)を設けることに留意されたい。上映作品は予告なしに変更されることがある。

The professor Kazuhiro Soda do not use script before making a film, and also do not use narration and music. With these “Observational Film” methodologies and styles, he continues making documentary films. If methodology is “cause”, then work is its “result”. In this lecture, students will watch as many global documentaries as possible. They will analyze connections among their methodologies and works from directors’ perspectives. This lecture emphasizes interactivity and participation in discussions. Students should be aware of spontaneous pauses (rests) during lectures depending on film lengths. Professor may change these films without first notifying students.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション。想田が実践する観察映画の方法論(観察映画の十戒)についてのレクチャーを行う。その上で、映画「Peace」(日本・アメリカ、75分、2010年、想田和弘監督)を鑑賞する。
2. 映画「Peace」についての質疑やディスカッション。ドキュメンタリーにおける「客観性」とは。「観察」と「参与観察」とは。
3. 想田が影響を受けたフレデリック・ワイズマンの処女作「チチカット・フォーリーズ」(1967年、84分、フレデリック・ワイズマン監督)を鑑賞する。
4. 「チチカット・フォーリーズ」について議論する。
5. 映画の始まりは「ドキュメンタリー」だった。世界で初めて撮られた映画として知られる、リュミエール兄弟による短編数本を鑑賞し、議論する。
6. ドキュメンタリー映画の父と呼ばれるロバート・フラハティ監督「極北のナヌーク」(アメリカ、78分、1922年)を鑑賞し、ドキュメンタリーとは何か、フィクションとの境目とは何か、について考える。
7. 大きく捉えれば「極北のナヌーク」の系譜に連なる文化人類学的ドキュメンタリー映画「リヴァイアサン」(アメリカ・フランス・イギリス、87分、2012年、ルーシアン・キャストエヌ＝ティラー、ヴェレナ・パラヴェル監督)を鑑賞し、カメラ機材の発達とドキュメンタリー・スタイルの関係等について議論。
8. アーカイブ・ドキュメンタリー映画「国葬」(オランダ・リトアニア、135分、2019年、セルゲイ・ロズニツァ監督)を鑑賞。
9. 「国葬」を題材に、ドキュメンタリーにおける編集の力について考え、議論する。
10. アニメーション・ドキュメンタリー映画「戦場でワルツを」(イスラエル、90分、2008年、アリ・フォルマン監督)を鑑賞。映像作品における虚と実の合間について考察し、議論する。
11. 「ディア・ピョンヤン」(2005年、日本・韓国、107分、ヤン・ヨンヒ監督)を鑑賞。私生活にカメラを向けることで開けるドキュメンタリーの可能性について考える。
12. 映画「ゆきゆきて、神軍」(1987年、122分、原一男監督)を鑑賞。
13. 映画「ゆきゆきて、神軍」について議論。「アクション・ドキュメンタリー」を標榜する原一男は、対象に積極的に働きかけて「共

犯関係」を作り出し、これまで口を閉ざしてきた元兵士の証言をほじくり出した。武器としてのカメラが提示する諸問題について考察する。

14. 映画「アクト・オブ・キリング」(2012 年、イギリス・デンマーク・ノルウェー、121 分、ジョシュア・オッペンハイマー監督)を鑑賞。被写体との「共犯関係」と倫理性について考える。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

集中講義の期間中、映画館でドキュメンタリー映画を鑑賞し、その方法論について批評する最終レポート課題を出す。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/授業での積極的な態度(60%)

テキスト(Textbooks)

1. 想田和弘、2016、『観察する男』、ミシマ社 (978-4-903908-73-1 C0095)
2. 想田和弘、2015、『カメラを持て、町へ出よう』、集英社インターナショナル (ISBN:978-4-7976-7301-2)

参考文献(Readings)

1. 佐藤真、2009、『(愛蔵版)ドキュメンタリー映画の地平』、凱風社 (ISBN:978-4773633139)
2. 小川紳介、2012、『増補改訂版 映画を獲る』、太田出版 (ISBN:978-4778313159)
3. シーラ・カーラン・バーナード、2014、『ドキュメンタリー・ストーリーテリング』、フィルムアート社 (ISBN:978-4845914401)
4. 鉄人社、2013、『観ずに死ねるか！傑作ドキュメンタリー88』、鉄人社 (ISBN:978-4904676721)
5. 想田和弘、2018、『THE BIG HOUSE アメリカを撮る』、岩波書店 (ISBN:978-4000612708)
6. 想田和弘、2011、『なぜ僕はドキュメンタリーを撮るのか』、講談社現代新書 (ISBN:978-4062881135)

想田和弘公式サイト <https://www.kazuhirosoda.com/>

ツイッター <https://twitter.com/KazuhiroSoda>

フェイスブック <https://www.facebook.com/kazuhiro.soda.9>

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE257／世論調査論 (Public Opinion Poll)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	世論調査の方法と分析手法を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	岡田 陽介(OKADA YOSUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

世論調査データを題材として、各種調査の分析結果を事例に扱いながら、統計的データをまとめたり分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識を習得する。

Students will use public poll data as materials to convert various survey analysis results into case studies. Students will acquire essential and basic statistical knowledge to summarize these data statistically.

授業の内容 (Course Contents)

世論調査の実施、集計、分析のプロセスを各種調査の事例を紹介しながら説明を行う。また、分析に必要な統計的な基礎知識について、分析結果を交えながら講義を行う。

Students will be introduced to various survey case studies, as well as implementation, aggregation, and analysis processes. In addition, in this class students will look at the analysis results and learn basic statistical knowledge required to conduct analysis.

授業計画 (Course Schedule)

1. 世論調査の意義・活用
2. 世論調査実施の概況(実施主体別の特徴)
3. 世論調査の調査企画
4. 世論調査の標本抽出
5. 世論調査の調査実施と調査データの作成
6. 集計・分析の基礎知識 1——確率論の基礎
7. 集計・分析の基礎知識 2——基本統計量
8. 集計・分析の基礎知識 3——平均や比率の差の検定
9. 集計・分析の基礎知識 4——独立性の検定
10. 集計・分析の基礎知識 5——統計的推定
11. 集計・分析の基礎知識 6——抽出法の理論
12. 集計・分析の基礎知識 7——相関係数
13. 集計・分析の基礎知識 8——回帰分析
14. 結果の解釈——統計学知識の応用

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

講義期間中の課題(30%)／最終レポート(Final Report)(40%)／授業への貢献度(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 河村和徳、2015、『政治の統計分析』、共立出版 (ISBN:978-4320111196)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

講義には数学の基礎的な知識が求められる。講義は図解等を併せて進めるが、不得意な履修者は講義前に参考書等にて当該

内容についての十分な予習が求められる。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE281／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ジェンダーについての基礎学習とジェンダーセンシティブな視点の習得		
担当者名 (Instructor)	横山 麻衣(YOKOYAMA MAI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

ジェンダーやメディア研究の文献を講読し、ジェンダーやメディアについての社会理論や昨今の議論について学ぶ。
文献を読解し、他者に伝わる論理的な意見の述べ方を身につける。

They read books on gender and media studies to learn about social theory and current discussions on gender and media.
They read scholarly books and acquire logical and communicative skills to convey their ideas.

授業の内容 (Course Contents)

講義前半では、文献を輪読し議論する。要約発表の担当者は、レジュメを作成し、報告する。
後半では、ジェンダーに関連するテーマを設定し、各自で文献調査・レポートの執筆を進める。

In the first half of this seminar, they will read and discuss about books. every student will report the abstract of books.
In the last half of this seminar, they will set themes and questions related to gender and complete their own thesis.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション、報告箇所の決定、読解ワーク
2. 文献講読・要約発表
3. 文献講読・要約発表
4. 文献講読・要約発表
5. 文献講読・要約発表
6. 文献講読・要約発表
7. 文献講読・要約発表
8. レポート構成シートの作成
9. 先行研究の探し方、レポート執筆
10. 適切な引用・要約について、レポート執筆
11. 中間報告・提出
12. 文献リストについて、レポート執筆
13. レポートの書式について、レポート執筆
14. レポート執筆、提出

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義で取り上げる文献の該当箇所を、期日までに読んでおくこと。発表担当の回は事前にレジュメを作成し、当日配布すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 発表(20%) / 輪読・議論への参加度(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 加藤秀一、2017、『はじめてのジェンダー論』、有斐閣 (ISBN:9784641150393)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE282／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	メディアの諸理論と実務、ネット時代の現在地		
担当者名 (Instructor)	橋本 晃(HASHIMOTO AKIRA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

100年近くの歴史を刻むメディア研究の基礎的な諸理論をテキストの輪読を通じて理解・習得し、ネット時代の変容を議論する。将来、メディアで働くことを希望する人たち向けに実践的な知も蓄積してもらう。

This course provides various reading and discussing opportunities for students to deepen their understanding of basic theories of media studies.

授業の内容 (Course Contents)

まず、効果研究、メディア・イベント論、フィルターバブルなどの諸理論を概観する。ついで、現在の日本のメディアの構造とニュース/コンテンツ生産を、新聞・出版・放送・オンラインメディアなど媒体別に考察、議論する。最後にインターネット社会についてのさまざまな文献を読む。適宜、メディアの仕事の実践についてもレクチャーする。

This course examines effect analysis, media event, cultural studies, determinants of news, dependency on media system, filter bubble, etc. It also provides an overview of the present media, newspapers, televisions, magazines and online media.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 効果研究：火星からの侵入（共通教材）
3. メディア・イベント論（共通教材）
4. フィルターバブル（共通教材）
5. メディアの構造と生産：新聞（独自教材）
6. メディアの構造と生産：出版（独自教材）
7. メディアの構造と生産：放送（独自教材）
8. メディアの構造と生産：オンラインメディア（独自教材）
9. インターネットと社会1（独自教材）
10. インターネットと社会2（独自教材）
11. インターネットと社会3（独自教材）
12. インターネットと社会4（独自教材）
13. インターネットと社会5（独自教材）
14. まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの指定された箇所を熟読してくる。発表者に当たっているときはレジュメを作成する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)／発表・議論への参加(70%)

テキスト (Textbooks)

専門演習1 共通教材を配布する。それ以外のものはできるだけコピーを配布する。

参考文献 (Readings)

教室で適宜、指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

講師はアメリカのジャーナリズム・メディア大学院で学び、日本だけでなくフランスでもメディア（出版・新聞）の実践に従事した経験を持つので、説明や議論は日本にとどまらず欧米など世界を視野に入れた内容で行う。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE283／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
担当者名 (Instructor)	川畑 泰子(KAWAHATA YASUKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

個人の関心を持つ社会課題・現象などに対してデータを用いた分析の土台となる素養を輪読を通し身につけたい。

Through reading in a circular format, students will acquire the knowledge necessary for analyzing social issues and phenomena of personal interest using data.

授業の内容 (Course Contents)

Web 上の情報は時空間制約を超え、数値・文字情報を介し“見える化”しつつあります。私たちの社会生活を構成するメディアの変遷とそれらを取り巻く情報媒体の変化を多様な分析アプローチを学びつつ、考察・分析することを目標とします。教員の指導のもと、問題意識を共有する学友と共に意見交換しながら進める時間である。本ゼミを通して多様な Web に纏わる研究取り組みに対する理解を膨らませたいと思います。

注意: 分析対象などは、社会情勢などにより変更されることがあるので注意されたい。

Information on the Web is transcending the limitations of time and space, and is becoming “visible” through numerical and textual information. The goal of this course is to examine and analyze the changes in the media that make up our social lives and the changes in the information media that surround them, while learning various analytical approaches. Under the guidance of the faculty, there are a time to proceed while exchanging opinions with schoolmates who share the same awareness of the issues. Through this seminar, we hope to expand our understanding of various Web-related research approaches.

Note: The subject of analysis may be subject to change due to social conditions.

授業計画 (Course Schedule)

- ガイダンス・専門演習1における共通教材の紹介・イントロダクション
「大衆の時代」火星からの侵略—パニックの心理学的研究における文献紹介
- 専門演習1における共通教材の輪読
「大衆の時代」火星からの侵略と事例紹介(Twitter、SNS 上での炎上、フェイクニュース、災害におけるパニックに関する論考)
- 専門演習1における共通教材の輪読
「大衆の時代」火星からの侵略と事例紹介(Twitter、SNS 上での炎上、フェイクニュース、災害におけるパニックに関する論考2)
- 専門演習1における共通教材の輪読
「大衆の時代」火星からの侵略と事例紹介(Twitter、SNS 上での炎上、フェイクニュース、災害におけるパニックに関する論考3)
- 専門演習1における共通教材の輪読
イーライ・パリサー
フィルターバブル インターネットが隠していること
(Twitter、SNS 上での炎上、フェイクニュース、災害におけるパニックに関する論考4)
- 専門演習1における共通教材の輪読
イーライ・パリサー
フィルターバブル インターネットが隠していること
(Twitter、SNS 上での炎上、フェイクニュース、災害におけるパニックに関する論考5)
- 専門演習1における共通教材の輪読
イーライ・パリサー
フィルターバブル インターネットが隠していること
(Twitter、SNS 上での炎上、フェイクニュース、災害におけるパニックに関する論考6)
- 専門演習1における共通教材の輪読
遠藤薫
『ソーシャルメディアと「世論」形成 —間メディアが世界を揺るがす—』、2016 年
デジタルネイティブ・ジャーナリズムの新しい動きとビッグデータ
(Twitter、SNS 上での炎上、フェイクニュース、災害におけるパニックに関する論考7)

9. 情報がつなぐ世界史 (MINERVA 世界史叢書) 単行本 - 2018/11/22 南塚信吾 (編集)
(Twitter、SNS 上での炎上、フェイクニュース、災害におけるパニックに関する論考8)
10. 情報がつなぐ世界史 (MINERVA 世界史叢書) 単行本 - 2018/11/22 南塚信吾 (編集)
(Twitter、SNS 上での炎上、フェイクニュース、災害におけるパニックに関する論考9)
11. 大震災に学ぶ社会科学<第8巻>震災から見える情報メディアとネットワーク 池田 謙一【編】
第1章 震災時・震災後の情報メディア環境が受け手に与える心理的・社会的インパクト
(Twitter、SNS 上での炎上、フェイクニュース、災害におけるパニックに関する論考10)
12. 大震災に学ぶ社会科学<第8巻>震災から見える情報メディアとネットワーク 池田 謙一【編】
第1章 震災時・震災後の情報メディア環境が受け手に与える心理的・社会的インパクト
(Twitter、SNS 上での炎上、フェイクニュース、災害におけるパニックに関する論考11)
13. 大震災に学ぶ社会科学<第8巻>震災から見える情報メディアとネットワーク 池田 謙一【編】
第1章 震災時・震災後の情報メディア環境が受け手に与える心理的・社会的インパクト
(Twitter、SNS 上での炎上、フェイクニュース、災害におけるパニックに関する論考12)
14. 大震災に学ぶ社会科学<第8巻>震災から見える情報メディアとネットワーク 池田 謙一【編】
第1章 震災時・震災後の情報メディア環境が受け手に与える心理的・社会的インパクト
(Twitter、SNS 上での炎上、フェイクニュース、災害におけるパニックに関する論考13)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎週、翌週における参考文献の精読課題を出す。翌週のゼミ時間に意見交換を行うため。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度および普段の取り組みの姿勢(出席の割合、提出物(小レポート)など)(70%)/最終レポート(Final Report)(30%)
最終レポートの提出を単位取得の要件とする。

テキスト (Textbooks)

参加者の興味・関心に偏るため、追って指導する。

参考文献 (Readings)

1. 南塚信吾、2018、『情報がつなぐ世界史』、ミネルヴァ書房
 2. 池田 謙一、2015、『大震災に学ぶ社会科学』、東洋経済新報社
- 参加者の興味・関心に偏るため、追って指導する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

全授業回のうち7回を上限に対面授業を実施することがある。
対面回については授業内あるいは授業支援システム等で指示する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE284／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
担当者名 (Instructor)	井手口 彰典(IDEGUCHI AKINORI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

メディア社会学に関する専門文献の読解を通じて基礎的な素養を習得するとともに、文献の内容を整理・要約・発表する力を身につける。また文献の内容を自分の目の前にある実際的な問題系へと展開的に結び付けていく力を養う。

Students will read specialized literatures to acquire basic knowledge and thoughts about media sociology, while acquiring seminar methodology. Furthermore, they will be asked for connecting the purport of literature to actual problems in our daily lives.

授業の内容 (Course Contents)

授業の前半では共通教材を、後半では担当者が専門とする音楽社会学の文献を取り上げる(音楽的な技能・知識は特に必要としない)。

In the first half, students will read the department-shared textbook, and in the second half use some papers about sociology of music.

Attention: student does NOT need to have the special skill or knowledge about music.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
3. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
4. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
5. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
6. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
7. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
8. 独自文献の担当割り振りと発表のためのガイダンス
9. 独自文献講読および討論
10. 独自文献講読および討論
11. 独自文献講読および討論
12. 独自文献講読および討論
13. 独自文献講読および討論
14. 独自文献講読および討論

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

共通教材に関しては、1文献を読み終わるごとにレポートを課す。独自文献については担当者を決めて発表してもらう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内での発言(40%)／授業内レポート(30%)／授業内発表(30%)
出席は評価の対象ではなくその前提とする。

テキスト (Textbooks)

独自文献については授業内で指示または配布する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE285／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
担当者名 (Instructor)	川橋 郁子(KAWAHASHI IKUKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業の目標は、次の3つである。

- (1) 専門的な文献の講読を通じて、メディア社会学の基礎的な知識や考え方を学ぶ。
- (2) 文献講読のグループワークを通じて、学術論文や研究書を批判的に読み解き、その内容を吟味・評価するスキルを習得する。
- (3) 専門的知識に立脚し、現在のメディア環境の変化と、その社会的影響について理解を深め、独自の問いを探究する。

By the end of the course, students should be able to do the following:

- (1) Explain basic knowledge and thoughts about media sociology,
- (2) Read and evaluate major studies (academic papers) in terms of their methods, results, conclusions and implications.
- (3) Use their specialized knowledge as foundation to analyze changes in current media environment and its social impact,

授業の内容 (Course Contents)

インターネットは、個人が情報発信者となり、不特定多数の人々とつながることを可能にした。それにより、災害時のボランティア活動など、社会的問題に対する市民主導の取り組みが活性化している。他方、フェイクニュースやヘイトスピーチの拡散など、市民の協働を困難にする動きも顕在化している。インターネットは、「私」と「他者」をどのように結び付け、社会を動かしていくだろうか。

この授業では、社会的リアリティの共有、社会的協働を一つの切り口として、文献を講読し、インターネットの社会的影響を検討する。

さらに、基本的な文献をきちんと読む能力を高めるとともに、ゼミ形式の演習の中で、レジュメの書き方、ディスカッションの方法など、今後の研究や学習のために必要な基礎的能力を身につけていく。

Through internet, individual can distribute information, thus connecting unknown, large number of people. Through this, citizens have become more active at solving social issues such as volunteer activity during catastrophe. On the other hand, roadblocks preventing cooperation among citizens such as fake news and hate speeches are becoming clearer. How do "I" and "other people" connect on internet and run society?

Students will approach their literature reading by focusing on social reality and social collaboration, then discuss social impact of internet.

Furthermore, students will improve their ability to read basic literatures. Through seminar learning, students will acquire skills required in future researches and learning such as writing summary, making presentation, and discussing.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 【事例紹介】社会的リアリティをめぐる対立(ドキュメンタリーの視聴)
3. グループワーク: 社会的リアリティとメディアの関係について(参考: H・キャントリル「火星からの侵入」)
4. 講義とグループワーク: クリティカル・リーディングの概説
5. 講義とグループワーク: 学術論文の読み方の概説
6. 文献講読とグループワーク:
インターネットと、社会的協働に関するテキスト
7. 文献講読とグループワーク:
インターネットと、社会的協働に関するテキスト
8. 文献講読とグループワーク:
インターネットと、社会的協働に関するテキスト
9. 文献講読とグループワーク:
インターネットと、社会的協働に関するテキスト
10. グループワーク:
インターネットが社会的協働に及ぼす影響に関する討論(参考: イーライ・パリサー『フィルターバブル』)
11. 講義とグループワーク: 『自由論』の読み方について
12. 文献講読とグループワーク: J.S.ミル『自由論』2章

13. 文献講読とグループワーク: J.S.ミル『自由論』2章
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業前に、輪読対象のテキストを、各自読み込んでおくこと。

授業後に、グループワークでの学習内容を、各自、整理しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

宿題(輪読用事前シート)(35%)/授業内課題(輪読用事後シート)(35%)/グループワークへの貢献(20%)/授業への参加(10%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 池田謙一、2013、『社会のイメージの心理学—ぼくらのリアリティはどう形成されるか』、サイエンス社 (ISBN:4781913202)
- 文献講読のテキストには、共通教材に加え、教員が準備したものを用います。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

授業時に、輪読用事後シートの作成を行います。

ノート PC、あるいは、タブレットの持参を推奨します。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE286／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	メディア社会学文献講読能力の涵養		
担当者名 (Instructor)	酒井 信一郎(SAKAI SHINICHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

専門的な文献の講読を通じてメディア社会学の基礎的な知識や考え方を学び、演習の方法を身につける。

Students will learn the fundamentals of sociological thinking and writing in media studies, as well as participate in seminar-style discussions.

授業の内容 (Course Contents)

前半では共通テキストを用いて、新聞、ラジオ、テレビといった従来のマスメディアに関する文献を講読する。後半では独自テキストを用いて、LINE、Twitter、Instagram、YouTube、TikTokといった比較的新しいソーシャルメディアに関する文献を講読する。文献を読む能力を高めるとともに、レジュメの書き方、発表の仕方、討論の方法等、今後の研究及び学びのために必要な基礎的能力をゼミ形式の演習を通じて身につける。演習の形式はグループワークを中心とする。英語文献を積極的に採用する。

In the first half of the course, students will read literature on traditional mass media such as newspapers, radio, and television. In the second half of the course, students will read literature, mostly in English, on relatively recent social media, including LINE, Twitter, Instagram, YouTube, and TikTok. Through seminar-style exercises, students will learn the fundamental skills needed for successful study and research, such as how to create resumes, give presentations, and facilitate conversations. The format of the exercises will be centered on group work.

授業計画 (Course Schedule)

1. 演習の概要
2. キャントリル「火星からの侵入」
3. キャントリル「火星からの侵入」
4. ダヤーン&カツ「メディア・イベント」
5. 北村智他「ソーシャルメディア時代のオンライン世界」
パリス「関連性を追求する競争」
6. 福井一喜. (2019). 東京大都市圏に居住する若者の観光・レジャーにおける SNS 利用: 「SNS 映え」を超越する若者たち. E-journal GEO, 14(1), 1-13.
7. Ohashi, K., Kato, F. & Hjorth, L. (2017). Digital Genealogies: Understanding Social Mobile Media LINE in the Role of Japanese Families. Social Media + Society, 3(2).
8. Ohashi, K., Kato, F. & Hjorth, L. (2017). Digital Genealogies: Understanding Social Mobile Media LINE in the Role of Japanese Families. Social Media + Society, 3(2).
9. Soto-Vázquez, D. (2022). YouTube and TikTok as Platforms for Learning about Others: The Case of Non-Chinese Travel Videos in Shanghai Disneyland. Online Media and Global Communication, 1(2).
10. Soto-Vázquez, D. (2022). YouTube and TikTok as Platforms for Learning about Others: The Case of Non-Chinese Travel Videos in Shanghai Disneyland. Online Media and Global Communication, 1(2).
11. Tiidenberg, K. & Baym, N. K. (2017). Learn It, Buy It, Work It: Intensive Pregnancy on Instagram. Social Media + Society, 3(1).
12. Tiidenberg, K. & Baym, N. K. (2017). Learn It, Buy It, Work It: Intensive Pregnancy on Instagram. Social Media + Society, 3(1).
13. McDougall, J. (2019). Media Literacy versus Fake News: Critical Thinking, Resilience, and Civic Engagement. Media Studies. 10(19), 29-45.
14. McDougall, J. (2019). Media Literacy versus Fake News: Critical Thinking, Resilience, and Civic Engagement. Media Studies. 10(19), 29-45.

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

文献を通読することに加え、自身の意見や主張を準備し、翌週の演習に臨む。毎週授業後には振り返りを書く。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/演習への参加度・貢献度(50%)/小レポート(10%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

独自文献はコピーを配布する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE287／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「医療」をめぐる情報・コミュニケーション		
担当者名 (Instructor)	菅森 朝子(SUGAMORI ASAKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

- ・文献を読解する力、プレゼンテーションの方法、ディスカッションの仕方の基本を習得する
- ・学習した内容と社会で起きている事象を関連づけて考察を深める
- ・Learn the basics of reading comprehension, presentation, and discussion.
- ・Deepen consideration by relating what you have learned to phenomena occurring in society.

授業の内容 (Course Contents)

前半はメディア社会学科の共通教材を扱い、後半は「医療」をめぐる情報・コミュニケーションに関する文献を取り上げ、輪読とディスカッションをする。スティグマ、医師・患者のコミュニケーションなどについて考える。

In this course, students will read and discuss about the common textbooks and books on "medical" information and communication. We will consider stigma and doctor-patient communication.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション: 自己紹介・文献輪読の発表者決め
2. メディア社会学科共通教材 文献輪読・ディスカッション1
3. メディア社会学科共通教材 文献輪読・ディスカッション2
4. メディア社会学科共通教材 文献輪読・ディスカッション3
5. メディア社会学科共通教材 文献輪読・ディスカッション4
6. メディア社会学科共通教材 文献輪読・ディスカッション5
7. 「医療」をめぐる情報・コミュニケーション 文献輪読・ディスカッション1
8. 「医療」をめぐる情報・コミュニケーション 文献輪読・ディスカッション2
9. 「医療」をめぐる情報・コミュニケーション 文献輪読・ディスカッション3
10. 「医療」をめぐる情報・コミュニケーション 文献輪読・ディスカッション4
11. 「医療」をめぐる情報・コミュニケーション 文献輪読・ディスカッション5
12. 「医療」をめぐる情報・コミュニケーション 文献輪読・ディスカッション6
13. 「医療」をめぐる情報・コミュニケーション 文献輪読・ディスカッション7
14. 総括

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・文献輪読の発表者はレジメの作成、発表をしてください
- ・各回で取り上げる文献については、授業前に必ず読んでから参加をし、授業後には復習をしてください

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 授業への取り組み状況(プレゼンテーション、課題への取り組み、議論への参加・貢献、出席)(60%)

テキスト (Textbooks)

1. アーヴィング・ゴッフマン、2001 年、『スティグマの社会学—烙印を押されたアイデンティティ』、せりか書房 (ISBN:4796700439)
 2. 西倉 実季、2009 年、『顔にあざのある女性たち—「問題経験の語り」の社会学』、生活書院 (ISBN:4903690415)
 3. 佐藤純一、土屋貴志、黒田浩一郎 編、2010 年、『先端医療の社会学』、世界思想社 (ISBN:9784790714873)
- テキストの購入については授業時に指示します。それまでは購入しないでください。

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE288／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	メディアを支えるテクノロジーの理解とこれからのメディア像をイメージする		
担当者名 (Instructor)	高柳 寛樹(TAKAYANAGI HIROKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

学科が指定する社会学におけるメディア研究の基礎文献(メディア社会学科「専門演習1」共通素材)を輪読しながら、特にそれらが現代のメディア環境においてどの様に私たちのビヘビアに資するかを議論と実践により整理し理解する。

Students will read basic literatures specified by the department for sociology (universal materials for Seminar (2nd year) of Department of Communication and Media Studies). Students will discuss and understand through practice how these literatures contribute to our behaviors in modern media environment.

授業の内容 (Course Contents)

メディア社会学科「専門演習1」共通素材の主たる基礎文献を輪読するが、それに留まらず「IT 前提経営®」の提唱者であり Techベンチャーや投資会社の経営経験者でもある担当者の経験から表出した「現代のメディア環境」の争点を共有し整理し理解する。特に、1995 年生まれ以降のデジタルネイティブがメディアの実践者に存在する現代において「メディアテクノロジー」としての情報技術やその「社会化 (socialized)」やイノベーションがどの様に起こっているのか、また、その因子としての「AI(人口知能)」「IoT(モノのインターネット)」「ビックデータ」をどの様に理解したら良いかを「IT 前提経営®」の文脈で習得し議論する。また「現代のメディア環境」で日々、七転八倒を繰り返す実務者(メディア産業従事者や経営者等)をゲストスピーカーとして招聘し、ゲストスピーチとあわせて議論を行う。また3年生以降の本格的なゼミ活動を前にした準備ゼミとしての位置付けも大切にする。

Students will read most of the universal materials for Seminar (2nd year) of Department of Communication and Media Studies. Students will go further – They will share, organize, and understand Modern Media Environment based on experience of entrepreneur, manager, and advocate of Tech Driven Management®. In particular, digital natives born after 1995 are among media practitioners. What media technology, information technology, socialization, and innovation will result? Furthermore, how should students approach factors of AI, IoT, and big data? Students will understand these through passages found in Tech Driven Management®. Guest speakers working in Modern Media Environment (workers and managers of media industry) have been through trials and errors. This class will proceed with their speeches and discussions. Furthermore, these are important preparations for students before they attend full-fledged seminars after year 3.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクションと自己紹介(履修者同士の紹介)
2. メディア社会学科「専門演習1」共通素材の輪読および発表と議論(1)
3. メディア社会学科「専門演習1」共通素材の輪読および発表と議論(2)
4. メディア社会学科「専門演習1」共通素材の輪読および発表と議論(3)
5. メディア社会学科「専門演習1」共通素材の輪読および発表と議論(4)
6. メディア社会学科「専門演習1」共通素材の輪読および発表と議論(5)
7. メディア社会学科「専門演習1」共通素材の輪読および発表と議論(6)
8. メディア社会学科「専門演習1」共通素材の輪読および発表と議論(7)
9. ゲストスピーカーのゲストスピーチおよび議論
10. ゲストスピーチ及び輪読(1)から(7)の関連性構築と議論
11. 担当者指定テキストの輪読と発表
12. 「IT 前提経営®」時代の旧マス4媒体と新しいメディアプラットフォームについての整理と理解
13. 産業論としての「メディア産業(またはメディアビジネス)」理解
14. メディア実践と総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

発表準備など時間を超えた作業が生じる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終テスト(Final Test)(20%)/最終レポート(Final Report)(40%)/その他の発表とレポート(20%)/授業への参加度(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 高柳寛樹、2022、『続・まったく新しい働き方の実践～なぜ働き方は自由にならないのか。DX(Digital Transformation) 未完了社会の病理～』、ハーベスト社 (ISBN:978-4-86339-114-7)
2. 高柳寛樹、2020、『「IT 前提経営」が組織を変える～ デジタルネイティブと共に働く』、近代科学社 digital (ISBN:978-4-7649-6008-4)
3. 高柳寛樹、2017、『まったく新しい働き方の実践～「IT 前提経営」による「地方創生」～』、ハーベスト社 (ISBN:978-4-86339-086-7)

参考文献(Readings)

講義内で適時指定する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

担当者オフィシャルページ:

<https://hiroki.st/>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE289／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	文献講読およびプレゼンテーション・議論の技法を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	田辺 龍(TANABE RYOU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

専門的な文献の講読を通じて、メディア社会学の基礎的な知識や考え方を学ぶとともに、少人数の演習で資料作成・プレゼンテーション・議論の方法を身につける。

Students will read specialized literatures to acquire basic knowledge and thoughts about media sociology, while acquiring seminar methodology.

授業の内容 (Course Contents)

専門演習1では、メディア社会学に関する様々な文献を講読し、メディアを学ぶとはどういうことか、メディア研究にはどのような広がりがあるのか、メディア研究の方法は何か、といった基礎的な事柄を体系的に学び、自らの問題関心を広げ、深めていく。基本的な文献をきちんと読む能力を高めるとともに、ゼミ形式の演習の中で、レジュメの書き方、発表の仕方、ディスカッションの方法など、今後の研究(学び)のために必要な基礎的能力を身につける。なお、前半はメディア社会学科「専門演習1」共通素材を用いる。

In Seminar (2nd year), students will read various literatures on media sociology to learn basic subjects systematically, broaden and deepen their issue awareness. What does it mean to learn about media? What is the breadth of media research? What is the method to research media? Students will improve their ability to read basic literatures. Through seminar learning, students will acquire skills required in future researches (learning) such as writing summary, making presentation, and discussing. Students will use universal materials for Seminar (2nd year) of Department of Communication and Media Studies.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション—講読文献について
2. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
3. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
4. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
5. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
6. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
7. 中間総括 課題1の説明 講読したいテキストに関する「書評」の作成
8. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
9. 独自テキスト講読および討論
10. 独自テキスト講読および討論 課題1の提出
11. 独自テキスト講読および討論 課題2「期末レポート」の説明
12. 独自テキスト講読および討論
13. 独自テキスト講読および討論
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

メディア社会学科「専門演習1」共通素材および独自テキストの毎回の文献を予め読んでおくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

プレゼンテーション(40%)／授業内課題(40%)／出席、討論への参加(20%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. アン・フリードバーグ、2012、『ヴァーチャル・ウィンドウ』、産業図書
2. 長谷正人・中村秀之編訳、2003、『アンチ・スペクタクル』、東京大学出版会

3. 長谷正人編著、2016、『映像文化の社会学』、有斐閣
4. アンソニー・エリオット&ジョン・アーリ、2016、『モバイル・ライブズ』、ミネルヴァ書房
5. サミュエル・ウーリー、2020、『操作される現実』、白揚社

上記は担当者クラスにて近年講読した独自テキストの例です。メディア社会学科「専門演習1」共通素材のうちどの文献を読むか、独自テキストは何を採用するかについては、全員の議論で決定します。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE290／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
担当者名 (Instructor)	兼古 勝史(KANEKO KATSUSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

専門的な文献の講読を通じて、メディア社会学の基礎的な知識や考え方を学ぶとともに、演習の方法を身につける。

Students will read specialized literatures to acquire basic knowledge and thoughts about media sociology, while acquiring seminar methodology

授業の内容 (Course Contents)

専門演習1では、メディア社会学に関する様々な文献を講読し、メディアを学ぶとはどういうことか、メディア研究にはどのような広がりがあるのか、メディア研究の方法は何か、といった基礎的な事柄を体系的に学び、自らの問題関心を広げ、深めていく。基本的な文献を精読する能力を高めるとともに、ゼミ形式の演習の中で、レジュメの書き方、発表の仕方、ディベート、ディスカッションの方法など、今後の研究(学び)のために必要な基礎的能力を身につける。

In Seminar (2nd year), students will read various literatures on media sociology to learn basic subjects systematically, broaden and deepen their issue awareness. What does it mean to learn about media? What is the breadth of media research? What is the method to research media? Furthermore, students will improve their ability to read basic literatures. Through seminar learning, students will acquire skills required in future researches (learning) such as writing summary, making presentation, debating, and discussing.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション 課題1 「中間課題」「期末課題」等について
2. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
3. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
4. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
5. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
6. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
7. 中間課題(メディアに関する個人研究案)発表と討論
8. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
9. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
10. メディア社会学科「専門演習1」共通素材講読および討論
11. 独自文献講読および討論
12. 独自文献講読および討論
13. 期末課題(メディアに関する個人研究)発表と討論
14. 期末課題提出 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回の文献を予め読んでおくこと。

前半はメディア社会学科「専門演習1」共通素材、後半は本クラス独自の文献を指定する、文献については初回授業時に配布・指示する。また個人でテーマを決めて発表する機会を中間と後半に設ける。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

プレゼンテーション(40%) / 授業内課題(40%) / 出席、討論への参加(20%)

テキスト (Textbooks)

1. 松本恭幸(編)、2022、『地域でつくる・地域をつくる メディアとアーカイブ』、大月書店 (ISBN:978-4272331055)
- メディア社会学科「専門演習1」共通教材を配布予定

参考文献 (Readings)

1. H.キヤントリル、1985、『火星からの侵入ーパニックの社会心理学』、川島書店 (ISBN:978-4761002084)
2. D.ダヤーン、E.カツツ、1996、『メディア・イベントー歴史をつくるメディア・セレモニー』、青弓社 (ISBN:978-4787231154)

3. E.パリサー、2016、『フィルターバブル——インターネットが隠していること』、早川書房 (ISBN:978-4150504595)
4. M.シェーファー、2022、『新装版 世界の調律:サウンドスケープとは何か』、平凡社 (ISBN:978-4582769265)
- 初回授業時に教員が指示する。上記参考文献の1～3はメディア社会学科「専門演習1」共通教材に収録。
指定テキストについては、授業後半で用いる。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

授業形態は演習形式を基本とする。

テキストの配布、課題提出等に授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard等)を用いる場合があるので、使えるようにしておくこと。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE291／専門演習1 (Seminar (2nd year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	自分の持ち味を活かして文献講読・ディスカッションに対応できるようになる		
担当者名 (Instructor)	濱野 隆満(HAMANO TAKAMITSU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

その 1:対象となる文書を読み、分からない部分や不明な部分を交えつつも自分なりに整理を図り、理解を顕在化させる術を得よう。

その 2:「その 1」で整理した内容を基に自分としての疑問や意見を発信する事でディスカッションする力、オリジナルのプレゼンテーションを展開する力をつけよう。

その 3:「その 2」のディスカッションやプレゼンテーションを利用して対象への理解を深めそれを独自に簡潔にまとめる実践的なスキルをつけよう。

なお、専門的な文献の講読を通じて、メディア社会学の基礎的な知識や考え方を学ぶとともに、演習の方法を身につけます。

1: Students will read specified documents to acquire skills to organize and clarify unclear or incomprehensible parts in self-directed manner.

2: Students will acquire ability to discuss and make original presentation based on contents organized in 1. Students will achieve this by communicating their questions and opinions.

3: Students will deepen their understanding about discussions and presentations of 2. They will acquire practical skill to summarize them concisely.

Students will read specialized literatures to acquire basic knowledge and thoughts about media sociology, while acquiring seminar methodology.

授業の内容 (Course Contents)

「授業の目標」を念頭に置きつつ、担当教員が産学連携プロジェクトの客員研究員や大学常勤教員、広告代理店での音楽配信等のコンテンツビジネスのプロデューサーといった「産」と「学」両面を経験していることを踏まえて、受講生の皆さんの今後の進路で役立つであろうアドバイス等も都度織り交ぜつつ授業を進めたいと思います。

スキルアップを図りつつ進めていく必要がありますので、授業進度等は適宜調整をします。昨年度までの授業の様子を振り返ってもさほど履修に際し不安がることはまずないと思われます。但し履修状況に応じた展開として担当教員からの方法論等の提示・解説がありますので欠席してしまった場合は「損をした」と思うことはあったようです。

原則としての共通テキストの 6 つの題材を扱いますが、受講生の希望に応じて別途担当教員が用意した文書から 1 つ程度を追加しないし交換も考えてます。これは初回授業にてサンプルを提示して意見を募って決定します。この他に初回授業では課題等に対するガイダンスに加えて「各題材のディスカッションのたたき台となる簡単な発表」を行う「各題材の担当の班分け」を行い、いずれかの題材の担当班に必ず参加してもらいます。但し共通テキスト第一章(=『火星からの侵入』)(予定)だけは第 13 回と第 14 回に渡って班ではなく全員を対象とした「第一章(=『火星からの侵入』)(予定)を踏まえた上での個人プレゼンテーション」をしてもらいます。

共通テキスト等を題材とした授業の他に、担当教員の知人からメディア関連の現場を知るゲストをお呼びしてディスカッションができる授業を 1 回計画しておりますが、ゲストの方のご都合等により順番が前後したり別課題に変更となる可能性がありますのでご了承ください。

全クラス共通授業内容として、基本的な文献をきちんと読む能力を高めるとともに、ゼミ形式の演習の中で、レジュメの書き方、発表の仕方、ディスカッションの方法など、今後の研究(学び)のために必要な基礎的能力を身につけます。なお、全クラスにおいて共通テキストを用います。

Students will always bear in mind the goal of this class. Professors of this class have experiences in both industry and academia. They include visiting researchers in industry-university projects, university permanent professors, music distributors at advertising agencies, and other content business producers. In this class, they will provide students with advices that will help them in their future paths.

Class progress will be adjusted appropriately as improvement of students' skills is a necessity. Reviewing class until last year, students have not experienced unease in class so far. However, professor may introduce or explain methodology based on class status. Absentees may miss out on these.

In general, students will study 6 chapters of the universal textbooks. If students desire, professor may add or switch 1 of them with documents prepared separately. Students will comment on and decide these materials after seeing samples in the first class. During the first class, professor will give students guidance on subjects. In addition, students will create basic

presentations to jumpstart discussion of each chapter. Students will be divided into groups, each handling specific chapter. Participation in these chapter groups is obligatory. However, all students will make their presentations on chapter 1 of universal textbooks during 13th and 14th classes.

In addition to classes based on universal textbooks, professors will invite their associates and guests working in media scenes to participate in class discussion for 1 time. Depending on their schedules, class sequences or subjects may be modified.

All classes will share the following universal contents. Students will improve their ability to read basic literatures. Through seminar learning, students will acquire skills required in future researches (learning) such as writing summary, making presentation, and discussing. Universal textbooks will be used in all classes.

授業計画 (Course Schedule)

1. 「ガイドンスほか」履修に向けての説明として出席確認方法や課題、毎週の事前準備の手順説明等を行います。
2. 「4. 『フィルターバブル インターネットが隠していること』第1章 関連性を追求する競争(予定)」担当班が発表しディスカッション(随時対応手法・関連事項等も含めた解説を実施)
3. 「4. 『フィルターバブル インターネットが隠していること』第1章 関連性を追求する競争(予定)」担当班が発表しディスカッション等(随時対応手法・関連事項等も含めた解説を実施)、まとめの授業
4. 「5. 『ツイッターの心理学 情報環境と利用者行動』第2章 ツイッター上のネットワーク(予定)」担当班が発表しディスカッション(随時対応手法・関連事項等も含めた解説を実施)
5. 「5. 『ツイッターの心理学 情報環境と利用者行動』第2章 ツイッター上のネットワーク(予定)」担当班が発表しディスカッション等(随時対応手法・関連事項等も含めた解説を実施)、まとめの授業
6. 「2. 『メディア・イベント 歴史をつくるメディア・セレモニー』第1章 メディア・イベントの定義—マス・コミュニケーションの特別な祭日(予定)」担当班が発表しディスカッション(随時対応手法・関連事項等も含めた解説を実施)
7. 「2. 『メディア・イベント 歴史をつくるメディア・セレモニー』第1章 メディア・イベントの定義—マス・コミュニケーションの特別な祭日(予定)」担当班が発表しディスカッション等(随時対応手法・関連事項等も含めた解説を実施)、まとめの授業
8. 「<参考文献>b. “Key Readings in Journalism”, 31. On Television and Journalism(予定)」を含めた事前提示した英語資料のなかから受講生が選んだ文章 担当班が発表しディスカッション(随時対応手法・関連事項等も含めた解説を実施)
9. 「<参考文献>b. “Key Readings in Journalism”, 31. On Television and Journalism(予定)」を含めた事前提示した英語資料のなかから受講生が選んだ文章 担当班が発表しディスカッション等(随時対応手法・関連事項等も含めた解説を実施)、まとめの授業
10. 「3. 『自由論』第2章 思想と言論の自由(予定)」担当班が発表しディスカッション等 担当班が発表しディスカッション(随時対応手法・関連事項等も含めた解説を実施)
11. 「3. 『自由論』第2章 思想と言論の自由(予定)」担当班が発表しディスカッション等、まとめの授業 担当班が発表しディスカッション等(随時対応手法・関連事項等も含めた解説を実施)、まとめの授業
12. 「ゲストをお招きしての講義とディスカッション」事前にアナウンスはしますがゲストの方のご都合により順番が前後するかもしれません。状況によっては他の題材を提示しディスカッション等に変更する場合があります。
13. 「1. 『大衆の時代』(新装)より『火星からの侵入』(予定)」を踏まえた上での個人プレゼンテーション等
14. 「1. 『大衆の時代』(新装)より『火星からの侵入』(予定)」を踏まえた上での個人プレゼンテーション等、まとめの授業

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

詳細な学習方法等の解説は初回授業時に行いますが、テキストを読んで「分かって」臨むことよりも予習として各回「わからない点」を洗い出してくることが重要です。復習としては各回自己点検と出席動向確認のためにアンケート形式の「受講ミニレポート」の提出がありますのでノルマとして取り組むだけでなく各自上手に利用してみましょう。各題材が終わった時点で「各題材 A4 一枚のまとめレポート」の提出もありますが、こちらもノルマとして単に文章をまとめるのではなく復習も兼ねて自分で気が付いたことなどを組み合わせて個人の成果物として作成し活かしていただければと思います。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

各回「受講ミニレポート」全 14 題の合計(14%)/各題材「A4 一枚のまとめレポート」全 6 題の合計(78%)/「第一章(=『火星からの侵入』)(予定)」を踏まえた上での個人プレゼンテーション(8%)

詳しくは初回ガイドンスにて説明しますが、「受講ミニレポート」は Blackboard のテスト機能、「各題材 A4 一枚のまとめレポート」は Blackboard の課題機能を使って提出してください。「受講ミニレポート」は出席票も兼ねており一般的に言うところの「出席点」の機能も含んでいます。原則として 2/3 以上の出席を必須としますが、やむを得ない事情により出席日数が足りなくなってしまう場合は別途検討します。また必須発表として「各題材のディスカッション等のたたき台となる担当班による簡単な発表」と「第一章(=『火星からの侵入』)(予定)」を踏まえた上での個人プレゼンテーションがあります。「受講ミニレポート」は出席回のみ提出となりますが、「各題材 A4 一枚のまとめレポート」、「各題材のディスカッション等のたたき台となる担当班による簡単な発表の資料」、「第一章(=『火星からの侵入』)(予定)」を踏まえた上での個人プレゼンテーションの資料」は期限外提出期間も設けま

テキスト (Textbooks)

原則としてメディア社会学科「専門演習 1」共通教材を使いますが、今期の濱野クラスでは取り上げる題材の内最低 1 つを英文のものとします。取り上げる英文題材は共通教材のもの若しくは別途濱野が用意した英文資料から担当班が初回授業時に選択決定する予定です。その他履修状況に応じて各種資料を別途配布を行う場合があります。

参考文献(Readings)

履修状況に応じて別途ご案内する場合があります。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

授業形態は演習形式を基本とします。上記の授業計画は標準プランを示したものですので、実際のスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。授業に関連する連絡や資料の配布等に本学の電子メールや授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)を用いる場合があるので使えるようにしてください。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE295／Reading Sociology in English		
担当者名 (Instructor)	黄 盛彬(SEONGBIN HWANG)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

英語文献の輪読を通して、メディア・コミュニケーション研究における基礎的な知識や考え方を学ぶ。英語と日本語のバイリンガルで論理的に考え、意見を述べられる能力を身につける。また、本授業は少人数の演習形式で行われる。グループディスカッションやレジュメの作成と発表のスキルも学んでいく。

Students will learn the basic knowledge and ways of thinking in media and communication studies through reading English literature. While improving their English reading skills, students will acquire the basic skills necessary for research (learning), such as how to write resumes, how to make presentations, and how to discuss in seminar-style classes. In addition, students will acquire the ability to think and discuss bilingually in English and Japanese.

授業の内容 (Course Contents)

メディア・コミュニケーション研究の英語文献を講読し、メディアとコミュニケーションを学ぶとはどういうことか、メディア・コミュニケーション研究にはどのような広がりがあるのか、研究の方法は何か、といった基礎的な事柄を学び、自らの問題関心を広げ、深めていく。文献の輪読とともに、扱われているテーマやトピックに合わせて、英文記事など時事的な資料等を使い、多様な見方や考え方に触れつつ、多角的かつ総合的な思考力を高められるような内容として構成する。

Through reading English literature on media and communication studies, students will systematically learn the basics of media and communication studies. The course will be structured in such a way that students will be able to enhance their ability to think logically, critically, and independently while encouraging the students to be exposed to a variety of views and ways of thinking through the use of current materials such as news articles following the themes and topics covered.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献講読と討論
3. 文献講読と討論
4. 文献講読と討論
5. 文献講読と討論
6. 文献講読と討論
7. グループワーク中間報告
8. 文献講読と討論
9. 文献講読と討論
10. 文献講読と討論
11. 文献講読と討論
12. 文献講読と討論
13. グループワーク報告
14. 全体総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回かならず文献を事前に読み、レジュメを作成しておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)／授業内課題とディスカッション(70%)

テキスト(Textbooks)

1. Hollows, Joanne. 2016. *Media Studies: A Complete Introduction*. Teach Yourself (ISBN:1473618983)

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE381／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	SNS ビッグデータ分析		
担当者名 (Instructor)	和田 伸一郎(WADA SHIN'ICHIRO) 兼任講師		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

デジタル・データは、もはやメディア産業、IT 産業といった一部の産業で扱われるだけにとどまらず、国家間の外交・諜報活動から、資本主義市場経済、生産・労働・消費、社会におけるコミュニケーションといった領域すべてで活用され、ますます価値あるものになってきている。同時に、これらのいわゆる「ビッグデータ」を分析できるスキルをもった人材のニーズが近年ますます高まっている。この授業では、PC で諸々のツールを使ってビッグデータを収集し、実際に手で触ってもらいつつ、ビッグデータの構造や性質を知り、分析できるスキルを実践的に身につけ、今後の Society5.0 時代において必要とされる IT スキル、データリテラシーとはどういうものかを理解することを目標とする。

Digital data is no longer limited to a few industries such as the media and IT industries, but is becoming increasingly valuable in all areas, from diplomatic and intelligence activities between nations to the capitalist market economy, production, labor and consumption, and communication in society. At the same time, the need for people with the skills to analyze these so-called "Big Data" has been increasing in recent years.

In this class, we will learn the structure and nature of Big Data, acquire practical skills to analyze Big Data, and understand the IT skills and data literacy needed in the future Society 5.0 era, while collecting Big Data using various tools on a PC and actually touching it with their hands. The goal is to do so.

授業の内容 (Course Contents)

この授業では、主にデジタル・データ分析 (SNS データ、オープンデータ、Web 上のデータなどの分析) を様々な分析ツール (Python など) を使ってグループ単位で行う。

春学期は、SNS データ (Twitter, Instagram) を使って何を明らかにするか、そのテーマ設定をグループ単位で行い、報告、発表を何度か繰り返しながら、研究テーマの絞り込みを行っていく。秋学期は、フォーカスされたテーマを、より高度なスキルを用いながら、さらに掘り下げた上で、最終成果へとつなげる。

なお、毎回の授業で、上記のような作業を行うため、各自、授業に自分のパソコンを持参すること。また、PC スキルがある程度高い、あるいは PC スキル、プログラミングスキル (Python) を磨くことに興味をもっていることが望ましい。その際、パソコンについては、大きなデータを処理するため、一定以上のスペックをもったパソコンであることが望ましい。

In this lesson, we mainly perform digital data analysis (analysis of SNS data, open data, data on the Web etc.) on a group basis by using various analysis tools (such as Python). In the spring semester, we will narrow down the research theme by repeating reporting and presentation several times by doing the theme setting in a group unit, considering what kind of data to use and what to clarify. In the fall semester, after digging into the focused theme, we will aim for the final result.

In order to do the above work, basically, it is desirable to bring a personal computer to each lesson. Also, it is desirable that PC skills are high to some extent or students have interest in polishing PC skills and Programming skills (Python). And it is desirable for the computer to have a certain level of specifications in order to process large amounts of data.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション～このゼミでは何をするのか、データ分析についての説明～
2. プロジェクト・グループを決定し、各自の PC で、データ分析をするための環境構築を行う。
3. ①PC 環境構築を行いながら、グループごとに研究テーマについてディスカッションを行う。
4. ②PC 環境構築を行いながら、グループごとに研究テーマについてディスカッションを行う。
5. グループごとに決定した研究テーマに必要なデータの収集を行い、分析を始める。グループ内での分担を決める。
6. ①グループごとに作業進捗状況報告
7. ②グループごとに作業進捗状況報告
8. ブレインストーミング
9. テーマの再検討 (アイデアの結合・整理: 問題提起／仮説設定) の確認
10. テーマの再検討 (アイデアの結合・整理: 問題提起／仮説設定) の確認
11. ①グループごとに作業進捗状況報告
12. ②グループごとに作業進捗状況報告
13. ①最終研究発表

14. ②最終研究発表
15. 総括
16. 研究テーマの確認／フリーディスカッション
17. ①データ・論文・文献の収集
18. ②データ・論文・文献の収集
19. ①春学期とはメンバーが異なるプロジェクト・グループをつくり、それぞれの役割分担を決め、PC の環境構築がまだ不完全な人がいれば、互いに教えあう。
20. ①グループごとにリサーチ・分析作業の進捗状況の報告
21. ②グループごとにリサーチ・分析作業の進捗状況の報告
22. ③グループごとにリサーチ・分析作業の進捗状況の報告
23. ④グループごとにリサーチ・分析作業の進捗状況の報告
24. ①研究・調査の発表・プレゼンテーション・ディスカッション
25. ②研究・調査の発表・プレゼンテーション・ディスカッション
26. ③研究・調査の発表・プレゼンテーション・ディスカッション
27. 発表・プレゼンテーション・ディスカッションの総評
28. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

主に Slack、また時には Zoom を用いて、各自、各班で共同作業を行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

進捗状況の報告・プレゼンテーション・発表など作業への貢献(40%)/成果物への貢献(40%)/授業内での発言の積極性(20%)

テキスト(Textbooks)

適宜、授業内で指示する。

参考文献(Readings)

1. 佐藤卓己編、2016 年、『デジタル情報社会の未来(岩波講座 現代 第 9 巻)』、岩波書店 (ISBN:4000113895)
 2. 和田伸一郎、2013 年、『国家とインターネット』、講談社選書メチエ (ISBN:4062585502)
 3. クジラ飛行機、杉山陽一、遠藤俊輔、2018 年、『すぐに使える! 業務で実践できる! Python による AI・機械学習・深層学習アプリのつくり方』、ソシム (ISBN:4802611641)
 4. 和田伸一郎、2019 年、『「Python, Embedding Projector を用いた Twitter データ分析 : 2016 年東京都知事選挙を事例に」『応用社会学研究』』、立教大学社会学部
- その他、適宜、指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE383／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ネット時代のメディア文化と表現 または 世界を読む／私・他者・世界を書く		
担当者名 (Instructor)	橋本 晃(HASHIMOTO AKIRA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

インターネット全盛の時代だが、ネットの世界ではテクノロジーとビジネスが優越し、良質のコンテンツを専門的に創るには依然として伝統メディアで継承されてきた技術を習得して展開していくことが中心となる。本演習ではコンテンツづくり＝表現活動に必要な知的栄養分摂取の習慣を身につけつつ、表現活動のトレーニングを重ね、本格的なコンテンツ生産活動の準備を行う。

So far, unfortunately, technology and business dominate the world of the Internet. In order to professionally create high-quality content, it is still necessary to learn and develop the skills that have been passed down through traditional media. In this course, students will acquire the habit of absorbing intellectual nutrients necessary for content creation = expression activity, and will prepare for full-fledged content production activity by repeating expression training.

授業の内容 (Course Contents)

社会変動・文化現象などを時事的な観点からだけでなく歴史的、文化的視点から読み解き、一生ものの蓄積をつくる。同時に、情報の出所に留意して、伝統メディア／デジタルメディアの情報を生み出す力を検討する。小冊子づくりやインタビュー作法、文章作法のレッスンを通して表現する力を身につける。メディア企業志望者にはさらに文章講座を開設し、全面的に支援する。

Interpreting social changes and cultural phenomena not only from a current affairs perspective but also from a historical and cultural perspective, will create a lifelong intellectual foundation. At the same time, the information-producing power of traditional and digital media, keeping in mind the sources of information, will be examined. Students will acquire the ability to express yourself through booklet making, interviewing and writing practices. An additional writing course for students aspiring to be a media professional will be opened.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. テキスト輪読
3. テキスト輪読
4. 文章作法
5. 文章作法
6. ゲスト
7. インタビュー作法
8. インタビュー作法
9. 小冊子企画づくり
10. ドキュメンタリー視聴
11. ゲスト
12. テキスト輪読
13. テキスト輪読
14. 春学期まとめ
15. 個人研究
16. 個人研究
17. 小冊子づくり
18. 小冊子づくり
19. ゲスト
20. テキスト輪読
21. テキスト輪読
22. 個人研究
23. 個人研究
24. 小冊子づくり
25. ゲスト
26. 個人研究

- 27. 個人研究
- 28. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

本、ウェブサイト等の指定されたものを読んで授業に臨む。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

発表・議論への参加(50%)/作品・レポート(50%)

テキスト (Textbooks)

読むものは相談の上、決める。できるだけコピーを配布するが、難しい場合は用意してもらう。

参考文献 (Readings)

適宜、コピー配布ないし指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

ネット時代の社会・文化を外側から分析するだけでなく、その内部でコンテンツづくりに携わる、すなわち、出版社、新聞社、放送局、映画会社、ネットメディアなどメディアの仕事、書き手を目指している人たちに向いています。フェイスブック上にグループをつくり資料の共有や議論を行います。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE384／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	趣味的な文化活動とコミュニケーション		
担当者名 (Instructor)	是永 論(KORENAGA RON)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

趣味的な文化活動をメディアとコミュニケーションの観点から分析する。

Studying hobbyist activities from the viewpoint of media and communication

授業の内容 (Course Contents)

この専門演習は、シリアス・レジャーなどと呼ばれる形で一定の知識や技術を要する、スポーツや工芸・芸能などの趣味的な文化活動について、メディアとコミュニケーションの観点から考えることを目的としている。

春学期は文化活動およびメディア・コミュニケーションに関して社会的な考察を展開しているテキストを講読することで、各自が調査するテーマを固めていく。春学期の後半から秋学期にかけて、調査グループを構成して調査テーマを設定し、独自の仮説を立てた上で、それを検証するためのデータをオリジナルに収集しながら、実証的な研究を行なう。秋学期の後半にはグループごとに調査の結果報告を行い、その内容について議論を行う。分析用のデータを整理するために、エクセルによるデータ入力と操作に慣れておくことがのぞましい。グループごとの作業時間を確保するため、こちらが指定したゼミ後の時間は空けておくこと。

This course provides an opportunity to consider hobbyist activities so called serious leisure from the viewpoint of media and communication.

In the first semester, students will consider their own purpose by researching about sociological studies of hobbyist activities and mediated communication. Hence students organize groups to identify research questions and hypotheses and collect data by themselves. In the second semester, students discuss the result of each group research. Students are required to use Microsoft Excel to input and analysis data.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. グループ構成・分担
3. 文化活動研究概説
4. メディア・コミュニケーション論概説
5. データ分析概説
6. 文化活動研究1
7. 文化活動研究2
8. メディア・コミュニケーション論1
9. メディア・コミュニケーション論2
10. データ分析1
11. データ分析2
12. 調査テーマ発表1
13. 調査テーマ発表2
14. 調査テーマ発表3
15. 調査計画発表1
16. 調査計画発表2
17. 調査計画発表3
18. 調査文献発表1
19. 調査文献発表2
20. 調査文献発表3
21. 調査文献発表4
22. 調査中間報告1
23. 調査中間報告2
24. 調査中間報告3
25. 調査結果発表1
26. 調査結果発表2

27. 調査結果発表3
28. 総括討論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

サブゼミの時間に各グループでの発表準備や調査活動を行う。また履修者には、ビデオ分析・内容分析(テキストマイニング)の手法について、ソフトウェアを用いた実習への参加を義務付ける。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート及び提出物の評価(50%)／ゼミにおける発表及び活動状況の評価(50%)
評価にあたっては、全回出席もしくはそれに代わる手続きを前提とする。

テキスト(Textbooks)

1. 宮入恭平・杉山昂平編、2021、『「趣味に生きる」の文化論：シリアスレジャーから考える』、ナカニシヤ出版 (ISBN:9784779514616)
 2. 岡本健・松井広志編、2018、『ポスト情報メディア論』、ナカニシヤ出版 (ISBN:9784779512858)
- テキストとしての使用については授業にて適宜指示する(ほかにも論文・書籍の一部をオンラインで共有の予定)。

参考文献(Readings)

1. 戸田山 和久、2012、『新版・論文の教室』、NHK 出版 (ISBN:4140911948)
 2. 藤田真文編、2016、『メディアの卒論 第2版』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623077199)
 3. 片岡 栄美、2019、『趣味の社会学』、青弓社 (ISBN:9784787234568)
 4. 北田暁大・解体研編、2017、『社会にとって趣味とは何か』、河出書房新社 (ISBN:4309625037)
 5. 神野由紀ほか編、2019、『趣味とジェンダー』、青弓社 (ISBN:978-4787234520)
 6. 秋谷直矩ほか編、2021、『楽しみの技法：趣味実践の社会学』、ナカニシヤ出版 (ISBN:9784779515828)
- 適宜授業にて指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

研究室 HP <http://www.rikkyo.ne.jp/web/ronkore/>

3 年次での履修の際に前提となる条件があるので、選考の際に確認すること。
オンラインでの資料共有などのため、パソコンやタブレットが使用しやすい状態であることがのぞましい。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE385／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	メディア文化史		
担当者名 (Instructor)	井川 充雄(IKAWA MITSUO) 兼任講師		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

メディアの歴史を知ることで、現代のメディア文化がどのようにできあがってきたのかを理解し、これからのメディアと社会の関係を考える能力を高める。

By learning media history, students will understand current position of modern media culture and improve their ability to think about relationship between media and society in the future.

授業の内容 (Course Contents)

この専門演習は「メディア史」のゼミである。2022年度は「メディア文化史」を演習のテーマとする。戦後日本においてテレビは最大の娯楽メディアに成長する一方で、人々の社会認識や世論形成に大きな影響力を持ってきた。また、戦後は、テレビ・マンガ・音楽・広告などがそれぞれに関連し合いながら、全体としてポピュラー・カルチャーを開花させてきた。他方、近年は、インターネット・SNSが急速に普及し、メディア文化は大きく変貌を遂げている。

この演習では、春学期は下記のテキストの講読を通し、メディア社会学の基礎を学び、今後の方向性について討論する。

春学期の後半からは6人程度のグループにわかれ、テーマを選んでそれについての文献講読やデータ収集を行う。そして、夏合宿や秋学期の演習の場でその内容を発表し、他の参加者と質疑応答を行う。

専門演習は、共同作業を通じて、1つのテーマについての理解を深めていく場である。手抜きをすることは、自分のためにならないばかりではなく、他人の勉強を妨げることになることを理解して欲しい。

The theme of this advanced seminar is Media History. Media Cultural History is 2022 seminar subject. TV has become the largest entertainment media in post-war Japan, wielding great influence on people's social consciousness and formation of public opinion. In addition, TV, comic book, music, and advertisement became intertwined after the war, allowing the overall popular culture to blossom. On the other hand, internet and social media have spread rapidly in recent years, changing media culture drastically.

In this seminar, students will read the following textbooks in spring semester to learn the basics of media sociology and discuss its future direction.

In the second half of spring semester, students will be divided into groups of about six. Each group will select a subject for literature reading and data collection. Then students will present their findings at summer boarding seminar and autumn-semester seminar. Students will make discussion with other participants.

In advanced seminar, students will deepen their understanding about one subject through communal tasks. Students should understand that slacking off will not only harm themselves, but also prevent others from studying.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 昨年度のゼミ報告書の講評
3. テキストの講読(1)
4. テキストの講読(2)
5. テキストの講読(3)
6. テキストの講読(4)
7. テキストの講読(5)
8. 研究テーマの提案
9. 研究テーマの決定とグループ分け
10. グループ作業(先行研究の講読)
11. グループ作業(先行研究の講読)
12. グループ作業(研究プランの決定)
13. 中間発表会
14. 夏休み中の作業分担の決定
15. 秋学期の作業分担の確認
16. グループ作業(調査の企画)

17. グループ作業(調査の企画)
18. グループ作業(調査の実施)
19. グループ作業(調査の実施)
20. グループ作業(調査結果の分析)
21. グループ作業(調査結果の分析)
22. グループ作業(全体の考察)
23. グループ作業(最終発表会の準備)
24. 最終発表会
25. 報告書の内容の決定
26. 報告書の執筆内容の確認(1)
27. 報告書の執筆内容の確認(2)
28. 報告書の完成

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

ゼミに向けて、個人やグループで、文献を読んでまとめたり、調査を行う必要がある。
9月には合宿を行うので、必ず参加のこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポートおよび提出物の評価(50%)/ゼミにおける発表および活動状況の評価(50%)

テキスト(Textbooks)

1. 井川充雄・木村忠正(編)、2022、『入門メディア社会学』、ミネルヴァ書房

参考文献(Readings)

参考文献は、その探し方を含め演習の中で指示する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

知的好奇心が旺盛で、学問をすることにやる気のある学生の履修を希望する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE386／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	多文化主義とジャーナリズム (Multiculturalism and Journalism)		
担当者名 (Instructor)	林 怡夔(LIN I-HSUAN)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

マイノリティ、エスニシティ、ジェンダーなど、多文化主義の視点を含めた文献資料の講読を通して、現代社会とメディアのあり方を考察し、分析できるようになること。

Students will read literature containing multicultural perspectives such as minority, ethnicity, gender, and so on. Students will be able to think and analyze current state of modern society and media.

授業の内容(Course Contents)

ゼミでは多文化主義とマスメディアに関連する主要な文献の講読およびドキュメンタリー作品の視聴を中心に、発表と議論を通して認識を深めていく。

多文化共生、当事者、コミュニティ、地域、ジェンダー、エスニシティ、ディアスポラなどのキーワードから現代日本社会におけるメディアとジャーナリズムのあり方を捉え直すと、どのような課題や可能性が見えてくるのか。ゼミではこれらの問題を中心に議論し、問題の核心を把握していく。

秋学期においては受講生がグループを構成して調査活動を行う。各グループでテーマを決め、独自の視点からデータを収集し、分析と解釈の作業を進める。合宿や演習の場での研究発表会を予定し、議論と質疑応答を行う。学生による研究成果は調査報告書にまとめることを求める。

In this seminar, students will read major literature on multiculturalism and mass media, watch documentaries, make presentations, and discuss to deepen their awareness.

Students will explore current state of media and journalism in modern Japanese society through keywords such as multicultural coexistence, person involved, community, region, gender, ethnicity, and diaspora. Students will discuss about these issues during the seminar and grasp core of the issue.

In autumn semester, students will form groups and conduct surveys. Each group will decide a subject. Students are supposed to collect and analyze data based on their research interests and finish survey reports before the end of the semester.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
Guidance
2. マスメディアとジャーナリズム1
Mass Media and Journalism 1
3. マスメディアとジャーナリズム2
Mass Media and Journalism 2
4. ナショナリズムとエスニシティ1
Nationalism and Ethnicity 1
5. ナショナリズムとエスニシティ2
Nationalism and Ethnicity 2
6. 多文化共生1
Multiculturalism 1
7. 多文化共生2
Multiculturalism 2
8. ディアスポラとメディア1
Diaspora and Media 1
9. ディアスポラとメディア2
diaspora and Media 2
10. ジェンダーとメディア1
Gender and Media 1
11. ジェンダーとメディア2
Gender and Media 2

12. 承認の政治とアイデンティティ1
The Politics of Recognition 1
13. 承認の政治とアイデンティティ2
The Politics of Recognition 2
14. 講読文献の総括
Conclusion
15. 調査テーマのリサーチ
Research theme
16. 研究計画書の作成と発表1
Research Proposal 1
17. 研究計画書の作成と発表2
Research Proposal 2
18. 研究調査手法1
Research Method 1
19. 研究調査手法2
Research Method 2
20. 調査活動1
Fieldwork 1
21. 調査活動2
Fieldwork 2
22. 調査活動3
Fieldwork 3
23. 研究調査の中間報告会1
Mid-term Research Presentation1
24. 研究調査の中間報告会2
Mid-term Research Presentation 2
25. 調査活動4
Fieldwork 4
26. 調査結果のまとめと分析1
Research Analysis 1
27. 調査結果のまとめと分析2
Research Analysis 2
28. 研究成果発表会
Final Research Presentation

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の指定文献を熟読し、質問や感想をまとめた上でゼミに臨むこと。

Students must read every appointed papers before class and prepare for the discussion in advance.

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポートを含めた提出物(50%)/授業内発表および授業での発言(50%)

全回出席が必要条件。

テキスト(Textbooks)

教科書は使用しない。指定文献は授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で事前に配布する。

参考文献(Readings)

1. Young, Iris Marion. 2000. *Inclusion and Democracy*. NY: Oxford University Press

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE387／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	メディア・コミュニケーション論、インターネット社会論		
担当者名 (Instructor)	木村 忠正(KIMURA TADAMASA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本演習(ゼミ)は、「メディア・コミュニケーション」を主題としている。ただ、従来のマスメディアではなく、ソーシャルメディアなどの「インターネットを介したコミュニケーション」(オンラインコミュニケーション)の調査研究が中心である。21世紀前半の社会は、インターネット、AI、ロボティクスなどの情報通信技術の革新が拡大し、社会は大きく変動することになる。マスメディアは引き続き大きな役割を果たすが、ソーシャルメディアなどのインターネット・コミュニケーションの果たす役割は一層大きく拡大していく。そこで、インターネットを中心とした情報通信技術と社会との関係(インターネット社会論)とオンラインコミュニケーションに関する基本的知識を身につけるとともに、オンラインコミュニケーションを中心としたメディア・コミュニケーションについて、専門的・先進的な調査研究のリサーチデザインを設計、調査研究を遂行し、成果を生み出すための、基本的な概念、方法、理論を学び、卒論への準備と実践を介して必要とされる能力を養成することを目標とする。

The main theme of this seminar is "Media Communication." By "Media Communication," this seminar mainly focuses on Communication via the Internet, e.g., social media, or Online Communication rather than on traditional Mass Communication. In the first half of the 21st century, with the explosion of innovations in information and communications technologies such as the Internet, AI, and robotics, society has been and will be greatly changed. Mass media will continue to play a major role, but the role played by Internet communication, such as social media, will further expand. Therefore, this seminar stimulates students to acquire foundational knowledge about Internet studies and online communication studies. In addition, you are required to learn basic concepts, methodologies and theories to design your research strategies, to carry out research, to collect evidence and to write up your findings and analysis. During the course of learning, you are expected to learn to formulate and conduct research for graduation thesis.

授業の内容(Course Contents)

授業の目標にしたがい、以下のような要素を組合せ、年度を通じて、演習を展開していく。

- ①リサーチデザイン設計方法、メディア・コミュニケーション研究、インターネット社会論に関する基本的な理論、方法を学びながら、履修者各自が、調査するテーマ(卒論まで発展させることを念頭におく)を固めていく。
- ②社会調査、ソーシャルビッグデータに関する先進的で高度な方法を修得する機会を設ける。
- ③グループ学習の経験と能力を養成するために、複数人で取り組む課題を設定するとともに、メディア・コミュニケーションに関する社会調査を計画する。
- ④各自のテーマとグループテーマを踏まえ、先行研究の把握、資料収集、データ収集、社会調査、分析など調査研究活動を行う。
- ⑤それぞれの調査の進捗報告を行い、分析、結果をレポートへとまとめて、プレゼンテーションを行う。

In accordance with the goals of the class, students will be engaged in these seminar activities during the course of the academic year.

1. students will study the basic theories and methodologies related to media and communication studies, the Internet studies, and research strategies. Each student is also required to articulate research topics and questions, which will lead to graduation thesis.
2. you will learn advanced analytical methodologies of Internet social research.
3. In order to familiarize yourself with and cultivate the ability of group learning, tasks of group activities and discussions will be assigned.
4. students are engaged in planning of social survey research on media communication among college students. During the course of individual work and group work, you are required to survey literature, to search for relevant research and to collect data.
5. while making progress reports on individual research and group research, you must summarize the results to make a presentation and write an essay which will be the basis of graduation thesis in the next senior year.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス

2. メディア・コミュニケーション研究概説(1)
3. メディア・コミュニケーション研究概説(2)
4. リサーチデザイン概説(1)社会調査の基礎
5. リサーチデザイン概説(2)社会調査データ分析の基礎
6. リサーチデザイン概説(3)ソーシャルデータの収集
7. リサーチデザイン概説(4)テキスト分析の基礎
8. インターネット社会論概説(1)
9. インターネット社会論概説(2)
10. リサーチデザイン中間報告(1)
11. リサーチデザイン中間報告(2)
12. グループリサーチテーマ、グループ分け
13. リサーチデザイン発表・社会調査検討(1)
14. リサーチデザイン発表・社会調査検討(2)
15. グループリサーチ報告(1)
16. グループリサーチ報告(2)
17. 調査研究進捗報告(1)
18. 調査研究進捗報告(2)
19. 調査研究進捗報告(3)
20. 調査研究進捗報告(4)
21. 社会調査進捗報告(1)
22. 社会調査進捗報告(2)
23. 調査研究成果発表(1)
24. 調査研究成果発表(2)
25. 調査研究成果発表(3)
26. 調査研究成果発表(4)
27. 社会調査成果発表(1)
28. 社会調査成果発表(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

個別リサーチ、グループリサーチ、社会調査とも、中間報告、進捗報告、成果発表に向けての準備を行うとともに、授業におけるフィードバックを受けて、検討しなおし、ブラッシュアップすること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%) / グループリサーチへの貢献(20%) / 個別リサーチでの活動状況・ゼミへの貢献(20%) / 中間報告、進捗報告、成果発表時の提出物(30%)

テキスト(Textbooks)

開講時に指示する。

参考文献(Readings)

1. 木村忠正、2012、『デジタルネイティブの時代』、平凡社 (ISBN:4582856608)
2. 木村忠正、2018、『ハイブリッド・エスノグラフィー』、新曜社 (ISBN:4788515833)
3. 北村智、2016、『ツイッターの心理学』、誠信書房 (ISBN:4414300088)

その他、授業時に指示する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

科目担当者のHPも参照すること。

URL: <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/tdms/hpj.html>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE388／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	メディアを実践する		
担当者名 (Instructor)	砂川 浩慶(SUNAKAWA HIROYOSHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

メディアの果たすべき社会的役割を学んだうえで、「自ら考え行動できる人」を作る。

After learning the social role that the media should play, we will create “persons who can think and act on their own”.

授業の内容(Course Contents)

社会で働くことから逆算して、必要とされるスキル、考え方を具体的に養成する。「本物に触れよう」「ゼミは練習の場」を合い言葉に、メディアで活躍しているゲストスピーカーとの議論、ディベート、映像鑑賞、芝居鑑賞(本を読み、演者に話を聞いたうえで)、世界報道写真展鑑賞など様々な実践を行う。実践したものは感想、ルポルタージュなどで他者に伝え、ゼミ生全員で評価する。春学期・秋学期それぞれで自分の関心に基づく個人発表を行う。このような実践で、主観を客観視できる技量を磨いていく。ゼミ合宿を基に年間テーマを策定し、発表会の開催を予定する。

今、メディアは“正解のない世界”を迎えている。そこに積極的に乗り出す勇氣と意欲をもった学生を求める。

Calculating backwards from working in society, we will specifically develop the skills and ways of thinking that are required. With the slogans “Let’s touch the real thing” and “The seminar is a place to practice,” discussions with guest speakers who are active in the media, debates, watching videos, watching plays (after reading books and listening to the performers), Appreciation of the World Press Photo Exhibition, etc. What you put into practice will be communicated to others through impressions and reportage, etc., and evaluated by all seminar students. Students will give individual presentations based on their own interests in the spring and fall semesters. Through this kind of practice, we will improve our ability to see subjectivity objectively. Based on the seminar camp, we will formulate an annual theme and plan to hold a presentation. Now, the media is facing a “world without correct answers”. We are looking for students who have the courage and motivation to actively pursue it.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 自己紹介発表
3. ディベート(練習)
4. 春学期個人発表①
5. 春学期個人発表②
6. ディベート①
7. ディベート②
8. 4年生卒論構想発表会と質疑応答
9. 映像鑑賞①
10. 映像鑑賞②
11. 年間研究テーマ設定①
12. 年間研究テーマ設定②
13. 春学期まとめ
14. ゼミ合宿準備
15. 夏季課題発表
16. 秋学期個人発表①
17. 秋学期個人発表②
18. 合同ゼミ発表会中間発表
19. ディベート③
20. ディベート④
21. 4年生卒論発表会への参加
22. 映像鑑賞③
23. 映像鑑賞④

24. 年間研究テーマ設定③
25. 年間研究テーマ設定④
26. 年間テーマ発表(合同ゼミ発表会)
27. 年間報告書作成
28. 卒論構想発表合宿(年間まとめ)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の課題とともに、日々のニュースおよびその背景に常に関心をもって接すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート及び提出物の評価(50%)/ゼミにおける発表及び活動状況の評価(50%)

ただし、全回出席が条件。

テキスト(Textbooks)

適宜指定する。

参考文献(Readings)

1. 砂川浩慶、2016、『安倍官邸とテレビ』、集英社 (ISBN:4087208303)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE389／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	音楽社会学入門		
担当者名 (Instructor)	井手口 彰典(IDEGUCHI AKINORI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

様々な文化・社会における音楽現象に注目し、その意味や機能について考察することを通じて、社会学的な視点から対象を論じるための基礎的な力を養う。また次年度の卒論執筆に向けアカデミックライティングの基本を身につける。

Observing and discussing musical phenomena in various societies in order to cultivate the basic skills of sociological research.

授業の内容(Course Contents)

この授業は「音楽社会学」のゼミである。受講生は自らの興味・関心に沿って独自テーマを定め、問題提起、仮説設定、資料収集、先行文献読解、検証、そして報告書執筆に至る一連の課題に取り組む。また作業の進捗に応じて互いに成果を報告し合い、意見を交わすことで内容のブラッシュアップを図る。

授業では、前半の数回を使って既存の学術論文を幾つか読み解き、主要な理論の活用方法を学ぶ。また学術論文を書くことの意味を理解する。以降は毎回数名の担当者を立て、各自が設定したテーマ、収集した文献、報告書の構成案、調査の結果などについて順次発表を行う。年度末には1年間の成果をまとめた報告書(12,000字)を提出する。この年度末報告書は次年度の卒業論文へと発展的に広がっていく核となることが強く期待される。

The course will provide basic concepts of sociology of music. Students will be expected to tackle a series of subjects such as theme setting, problem identification, establishing a hypothesis, reference collection, verification, and report writing. Furthermore, they will be urged to report the results of effort mutually in order to brush up the details. Finally, we will compile the report collection at the end of the school year. It is strongly expected that these reports will act as a core of the graduation thesis of the following academic year.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 論文の基本構成と文献収集のテクニック
3. テーマ構想発表1
4. テーマ構想発表2
5. 論文読解
6. 理論の援用1
7. 理論の援用2
8. 理論の援用3
9. 理論の援用4
10. 文献報告1
11. 文献報告2
12. 文献報告3
13. 文献報告4
14. 文献報告5
15. 秋学期オリエンテーション
16. ビブリオバトル1
17. ビブリオバトル2
18. 構成案報告1
19. 構成案報告2
20. 構成案報告3
21. 構成案報告4
22. 構成案報告5
23. 先行研究報告1
24. 先行研究報告2
25. 先行研究報告3
26. 先行研究報告4

- 27. 4年生卒論報告会1
- 28. 4年生卒論報告会2

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

取り組みたい独自テーマについて、具体的に考えておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内での発表および他の発表者へのレスポンス(60%)/年度末報告書(40%)

出席は評価の対象でなく、その前提とする。

テキスト(Textbooks)

立教大学教育開発・支援センター『Master of Writing』(リーフレット, 非売品)

参考文献(Readings)

授業中に適宜指示する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

授業計画は受講人数等によって多少変動することがある。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE390／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	メディア及びポピュラーカルチャーのグローバル化、トランスナショナル化を考える		
担当者名 (Instructor)	黄 盛彬(SEONGBIN HWANG)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

グローバル化とデジタル化(インターネットや SNS の急速な普及)は、今の時代の大きな趨勢である。本ゼミでは、変わりつつあるメディア環境の社会・文化への影響を考察する。先行研究のレビューを通して、「メディアと社会・文化」の関係性について理論的・方法論的知識を学ぶ。その上で、多様なメディアが相互参照する現代のデジタル・メディア環境における「メディアと社会・文化」の関係について、小集団による研究に取り組み、研究問題の発見、調査計画の設計および遂行、プレゼンテーションおよび討論、研究論文の執筆に至る研究の流れを体験しながら、卒論執筆に求められる研究力を磨く。

Globalization and digitalization (rapid popularization of the internet and social media) are the trends in this era. In this seminar, students will analyze the impacts of transnational media and popular culture on society. Based on reviews of prior researches, students will acquire theoretical and methodological knowledge about the relationship between media, society, and culture. In addition, students will improve their research ability required to write their graduation theses through the subject of media, society, and culture, notably in the digital media environment of the modern era where various media cross-reference each other. Students will do this by researching in small groups, discovering research questions, designing survey planning, conducting them, making presentation, discussing, and writing research theses.

授業の内容 (Course Contents)

春学期では、グローバル化とメディア及びポピュラーカルチャーに関わる研究テーマと問題意識、そして先行研究の動向を学ぶ。毎回、報告者と討論者を決め、ワークショップ形式で進める。秋学期では、各自の問題関心に沿って小集団の研究グループに別れ、研究計画の発表、先行研究のレビュー、調査の中間報告、研究結果のプレゼンテーション、論文執筆に至る研究の総過程を学習していく。

In the spring semester, students will review prior research based on various approaches, including sociological studies on globalization, media and cultural studies, and journalism studies. Each time, students responsible for the report and discussion will be selected. This class will proceed in a workshop format. In the autumn semester, students will be divided into small research groups based on their interests and questions. Students will experience the entire process of presenting research planning, reviewing prior research, making interim survey reports, presenting research results, and writing theses.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. ゼミメンバーの問題関心を知る: 自由討論
3. 問題関心の共有のためのワークショップ: 個人発表
4. 文献輪読
5. 文献輪読
6. 文献輪読
7. 調査計画の発表
8. 調査報告
9. 調査報告
10. 調査報告
11. 文献輪読
12. 文献輪読
13. 文献輪読
14. まとめ: 総括と秋学期のゼミに向けての討論
※以上のスケジュールは、輪読していく論文のテーマの流れを示したものであり、実際に読んでいく論文の順番は状況に応じて調整されます。
15. イントロダクション
16. 各研究グループの研究計画の発表1
17. 各研究グループの研究計画の発表2
18. 各研究グループの研究計画の発表3

19. 先行研究のレビュー発表1
20. 先行研究のレビュー発表2
21. 先行研究のレビュー発表3
22. 調査の中間報告1
23. 調査の中間報告2
24. 調査の中間報告3
25. 研究結果の発表1
26. 研究結果の発表2
27. 研究結果の発表3
28. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回、前回までの演習内容を確認し復習しておくこと。輪読論文は必ず授業前に読んでおき、簡単な要約文を作成することを勧める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

プレゼンテーション(30%) / 授業内レポート(30%) / 最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト (Textbooks)

1. ジェンキンス、2021、『コンヴァージエンス・カルチャー：ファンとメディアがつくる参加型文化』、昌文社 (ISBN:4794972482)
 2. キム・ヨンデ、2020、『BTSを読む なぜ世界を夢中にさせるのか』、柏書房 (ISBN:4760152199)
 3. アバデュライ、2004、『彷徨える近代：グローバル化の文化研究』、平凡社 (ISBN:4582452272)
 4. ユイリカ、2018、『特集=K-POP スタディーズ —BTS、TWICE、BLACKPINK から『PRODUCE101』まで…いま〈韓国音楽〉になにが起きているのか』、青土社 (479170357)
 5. 岩淵功一、2001、『トランスナショナル・ジャパン』、岩波書店 2 (ISBN:4006003544)
- 開講時にコースリーディング（輪読論文集）を配布する。

参考文献 (Readings)

コースリーディングを参照

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE391／専門演習2 (Seminar(3rd Year))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Web スタディース分析実践、図書館情報学など		
担当者名 (Instructor)	川畑 泰子(KAWAHATA YASUKO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

個人の関心を持つ社会課題・現象などに対して図書情報含む多様なデータを用いた分析を可能とすることを目指す。文献調査や、それらに付随したフィールドワークなども検討している。多様な調査力を身につけてもらい、卒業論文作成のためのスキルを身につけていただく。

The goal is to enable analysis using a variety of data, including library information, on social issues and phenomena of personal interest.

Literature surveys and accompanying fieldwork are also considered. Students will acquire diverse research skills and acquire skills for writing their graduation theses.

授業の内容 (Course Contents)

Web 上の情報は時空間制約を超え、数値・文字情報を介し“見える化”しつつあります。私たちの社会生活を構成するメディアの変遷とそれらを取り巻く情報媒体の変化を多様な分析アプローチを学びつつ、考察・分析することを目標とします。教員の指導のもと、問題意識を共有する学友と共に意見交換しながら進める時間である。本ゼミを通して多様な Web に纏わる研究取り組みに対する理解を膨らませたいと思います。

注意: 分析対象、取組などは、社会情勢などにより変更されることがあるので注意されたい。

Information on the Web is becoming “visible” through numerical and textual information, transcending space-time constraints. The goal of this course is to examine and analyze the transition of the media that can constitute our social life and the changes in the information media that surround them, while learning various analytical approaches. Under the guidance of the faculty members, students will exchange views and opinions with fellow students who share the same awareness of the issues. Through this seminar, we hope to expand our understanding of various web-related research efforts.

Note: Please note that the subjects of analysis and approaches are subject to change depending on social conditions and other factors.

Translated with www.DeepL.com/Translator (free version)

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス(自己紹介、関心のある社会テーマの議論)
2. ゼミ概論1・輪読文献紹介
3. 文献報告・紹介・議論1
4. 文献報告・紹介・議論2
5. 文献報告・紹介・議論3
6. SNS 分析概論1
7. SNS 分析概論2
8. SNS 分析概論3
9. 分析対象におけるデータ取得・意見交換1
10. 分析対象におけるデータ取得・意見交換2
11. 分析対象におけるデータ取得・意見交換3
12. 文献の輪読1(順番にプレゼンテーション)
13. 文献の輪読2(順番にプレゼンテーション)
14. 分析報告書の進行具合に関する議論1
15. 分析報告書の進行具合に関する議論2
16. 指導教官の行った分析報告1
17. 指導教官の行った分析報告2
18. 分析報告書の作成・議論1
19. 分析報告書の作成・議論2
20. 分析報告書の作成・議論3

21. 分析報告書の作成・議論4
22. 分析報告会のためのプレゼンテーション作成1
23. 分析報告会のためのプレゼンテーション作成2
24. 分析対象の精査1
25. 分析対象の精査2
26. 分析報告会1
27. 分析報告会2
28. まとめ(今後の目標・議論)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

文献報告やフィールド報告の準備、また野外での調査実習への参加、データ作成協力など
オンライン上での調査など含み、多様なインシデントに関して精査していく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

議論への参加(10%)/口頭報告(20%)/報告書原稿(70%)

テキスト(Textbooks)

参加者の興味・関心によって異なる文献を紹介することになるため、追って指導する。

参考文献(Readings)

参加者の興味・関心によって異なる文献を紹介することになるため、追って指導する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

4年生との合同ゼミや他大学との共同調査なども発生が想定される。

情報交換などは Chatwork などで、逐次共有していく。

多様な連携・作業を体験することで今後の個人個人の活動のプラスにして欲しい。

また、変動が非常に激しい内容を調査対象とするためシラバスのスケジュールが前倒し、遅れるケースなども想定される。その都度、課題の負担などはバランスをとっていく。

※全授業回のうち7回を上限に対面授業を実施することがある。対面回については授業内あるいは授業支援システム等で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディアインターンシップ入門 (Introduction to media internship)		
担当者名 (Instructor)	砂川 浩慶(SUNAKAWA HIROYOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3460	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(社会学部生 15 名) 社会学部生以外は他学部生用の抽選科目で申し込むこと		

授業の目標(Course Objectives)

メディア企業へのインターンシップに参加する前に、その前提となる知識・研修を行い、将来の進路選択に資する経験・見識を持つことを目標とする。

Before going to an internship with a media company, the goal is to provide the knowledge and training that are the prerequisites for it, and to gain experience and insight that will contribute to future career choices.

授業の内容(Course Contents)

3年次夏休みに本格化するメディア企業のインターンの前に、マナー講座、メディアで働く方々の講演・意見交換などを実施し、理解を深める。また、ES・グループディスカッションなど実際の就職試験に向けた指導も実施する。履修の証として、メディア企業担当者と履修者によるシンポジウムを行い、その記録も作成し、イベント実施の体験も行う。

Before the internship of a media company that is in full swing during the summer vacation of the third year, we will hold a manners course, lectures and exchange of opinions of people working in the media, and deepen their understanding. In addition, guidance for actual employment examinations such as ES and group discussions will be provided. "As a proof of the course, we will hold a symposium by the person in charge of the media company and the students, make a record of it, and experience the event implementation.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. マナー講座
3. メディア企業担当者レクチャー①
4. メディア企業担当者レクチャー②
5. メディア企業担当者レクチャー③
6. 先輩からのレクチャー①
7. 先輩からのレクチャー②
8. グループディスカッション①
9. グループディスカッション②
10. ES の書き方①
11. ES の書き方②
12. シンポジウム準備①
13. シンポジウム準備②
14. シンポジウム実施・記録作成

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

御礼状・感想文などの課題を課す。

成績評価方法・基準(Evaluation)

各回での課題等の提出(70%)/シンポジウム準備・開催・記録作成(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディアインターンシップ入門 (Introduction to media internship)		
担当者名 (Instructor)	砂川 浩慶(SUNAKAWA HIROYOSHI)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3460	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限:5名) 社会学部生は自学部用の抽選科目で申し込むこと		

授業の目標(Course Objectives)

メディア企業へのインターンシップに参加する前に、その前提となる知識・研修を行い、将来の進路選択に資する経験・見識を持つことを目標とする。

Before going to an internship with a media company, the goal is to provide the knowledge and training that are the prerequisites for it, and to gain experience and insight that will contribute to future career choices.

授業の内容(Course Contents)

3年次夏休みに本格化するメディア企業のインターンの前に、マナー講座、メディアで働く方々の講演・意見交換などを実施し、理解を深める。また、ES・グループディスカッションなど実際の就職試験に向けた指導も実施する。履修の証として、メディア企業担当者と履修者によるシンポジウムを行い、その記録も作成し、イベント実施の体験も行う。

Before the internship of a media company that is in full swing during the summer vacation of the third year, we will hold a manners course, lectures and exchange of opinions of people working in the media, and deepen their understanding. In addition, guidance for actual employment examinations such as ES and group discussions will be provided. As a proof of the course, we will hold a symposium by the person in charge of the media company and the students, make a record of it, and experience the event implementation.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. マナー講座
3. メディア企業担当者レクチャー①
4. メディア企業担当者レクチャー②
5. メディア企業担当者レクチャー③
6. 先輩からのレクチャー①
7. 先輩からのレクチャー②
8. グループディスカッション①
9. グループディスカッション②
10. ESの書き方①
11. ESの書き方②
12. シンポジウム準備①
13. シンポジウム準備②
14. シンポジウム実施・記録作成

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

御礼状・感想文などの課題を課す。

成績評価方法・基準(Evaluation)

各回での課題等の提出(70%)/シンポジウム準備・開催・記録作成(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE436／webスタディーズ (Web Studies)		
担当者名 (Instructor)	川畑 泰子(KAWAHATA YASUKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この授業を通し身につけたい目標

- ①web 上またはさまざまな社会調査のデータ(大規模データ)を用いたデジタル・ジャーナリズムに取り組めるようになる
- ②国内外でのニュース、デジタルメディアからの情報に対するメディアリテラシーの素養・判断を身につけるスキルを得る
- ③自分の興味・関心のあるトピックでの web 調査などに取り組むベースを組み立てる
- ④デジタル・ディバイド、情報リテラシーの差などが生み出すデジタルスキルの有無における社会の言論分断に対する課題意識を持ち備えること
- ⑤SNS 上におけるセキュリティ意識を高めること、問題意識を高めること
- ⑥デジタルトランスフォーメーション・デジタル田園都市構想などに関する知見、認識を得ること

公衆ネットワーク・デバイスが世界中に普及された以降、時空間的制約を超えた意思決定・合意形成がなされる機会が膨大に膨れ上がっている。

これまで可視化・定量化されにくかった社会現象におけるメカニズムを理解する Web Science の分野の研究も急激に成長を遂げている。そして、それらの学問を応用し、社会実装に繋げる研究開発もデータサイエンスの分野の一つと提唱され、徐々に進んでいる。

そこで、私たちの社会生活-世論を構成しうる情報の交流の速度もますます加速する中で、歴史的背景から Web 上の情報の変遷とそれらを取り巻く情報媒体の変化をデータサイエンス的なアプローチを介してともに学びたい。

Objectives to be attained through this class

- (1) To be able to engage in digital journalism using data from the web or various social surveys (large-scale data).
- (2) Acquire media literacy and judgment of information from domestic and international news and digital media Acquire skills.
- (3) Build a base to engage in web research on topics of personal interest and concern.
- (4) To have an awareness of issues regarding the digital divide and the division of discourse in society between those with and without digital skills, which is created by differences in information literacy and other factors.
- (4) To have an awareness of issues related to the digital divide and the division of social discourse between people with and without digital skills created by differences in information literacy.
- (5) Raise security awareness and problem consciousness on social networking sites.
- (6) To gain knowledge and awareness of digital transformation and the Digital Rural City concept.

Since the spread of public network devices around the world, the opportunities for decision-making and consensus building that transcend spatio-temporal constraints have enormously increased.

Research in the field of Web Science, which understands the mechanisms of social phenomena that have been difficult to visualize and quantify, has been growing rapidly. Research and development that applies those disciplines and leads to social implementation has been proposed as one of the fields of data science, and has been progressing gradually.

Therefore, we would like to learn about the changes in information on the Web and the changes in the information media surrounding them from a historical background through a data science approach.

授業の内容(Course Contents)

主として、Web の歴史、調査対象のリサーチ方法、身近な情報リテラシー学などを対象に接近していく。授業資料及びテキスト・

画像・映像などを組み合わせた内容となる。また、授業参加者で作成したアンケート結果(リアルタイム)を共有しながら進行する。(時間の都合により授業後に、アンケート結果を共有することもある。)

・特に、今学期はオンラインをメインに変更し直しました。インタラクティブな授業展開ができればと存じます。

We mainly approach the history of the Web, research methods for research, and familiar information literacy. The content is a combination of class materials, texts, images, and videos. In addition, it progresses while sharing the questionnaire results (real time) created by the class participants.

授業計画 (Course Schedule)

1. 授業ガイダンス
2. 「Web が身近になるまで」概論1
3. 「Web が身近になるまで」概論2
4. 情報とメディアの関わり-デジタルアーカイブを用いて-1
5. 情報とメディアの関わり-デジタルアーカイブを用いて-2
6. 1995 年前後の Web と雑誌-新聞の関係を捉える1
7. 2000 年以降の Web 文化を振り返る1
8. ソーシャルメディアの登場 1
9. ソーシャルメディアの登場2
10. 生かすソーシャルメディア
11. 理解するソーシャルメディア
12. Web 上のリスクマネジメント概論1
13. Web 上のリスクマネジメント概論2
14. Web 上のリスクマネジメント概論3

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業 1 回目以降より、予習・復習用の文献とアンケート課題を提示する。
結果は、翌週または授業終了時に授業にて紹介しつつ議論を深める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(50%)/授業への参加(20%)/中間レポート(30%)

今学期は、昨年度の意見を反映し、中間レポート、最終レポートでの二段階のレポート課題での評価がメインとなります。

テキスト(Textbooks)

1. 鳥海不二夫(編著), 石井昇, 岡田勇, 上東貴志, 小林哲郎, 榊剛史, 笹原和俊, 高野雅典, 瀧川裕貴, 常松淳, 三浦麻子, 水野貴之, 山本仁志, 吉田光男, 2021, 『計算社会科学入門』, 丸善出版 (ISBN:4621305964)

授業に関連した時事情報も交え進行するため、追って紹介する。

参考文献 (Readings)

1. 遠藤 薫, 2016, 『ソーシャルメディアと「世論」形成 : 間メディアが世界を揺るがす』, 東京電機大学出版局 (ISBN:4501630000)

2. 田中辰雄, 山口真一著, 2016, 『ネット炎上の研究 : 誰がおり、どう対処するのか』, 勁草書房 (ISBN:4326504226)

3. クリストファー・G.ブリントン, ムン・チャン共著 ; 臼井翔平, 2016, 『パワー・オブ・ネットワーク : 人々をつなぎ社会を動かす 6 つの原則』, 森北出版 (ISBN:9784627818118)

4. マシュー・J.サルガニック (著), 瀧川 裕貴 (翻訳), 常松 淳 (翻訳), 阪本 拓人 (翻訳), 大林 真也 (翻訳), 2019, 『ビット・バイ・ビット : デジタル社会調査入門』, 有斐閣 (ISBN:4641174482)

授業に関連した時事情報も交え進行するため、追って紹介する。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

立教時間経由から配信される授業関連情報もチェックすることを推奨。

全授業回のうち7回を上限に対面授業を実施することがある。対面回については授業内あるいは授業支援システム等で指示する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE437／コミュニケーション政策論 (Information and Communications)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	変容を続ける情報通信 (ICT) 産業の現在、過去、未来の俯瞰 Past, current and future outlook of transforming ICT industry		
担当者名 (Instructor)	神野 新(KAMINO ARATA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講義の目標は、情報通信 (ICT) 産業が垂直統合から水平統合の構造へと変化し、その結果として、ネットワーク、プラットフォーム、コンテンツ・アプリケーションを縦断する多彩な融合サービス (例: ビデオストリーミング、シェアリング・サービス) が発生しているメカニズムを理解することにある。そして、そのような環境における、事業者、消費者行動と関連する政策・規制について学ぶ。分析の視点は経済学、経営学、法学、政治学など学際的なアプローチに基づく。

Objective of this course is to understand transition from the vertical integration to horizontal integration structure inside ICT industry and the mechanism of various converged services (e.g. video streaming, sharing services) which bridge network, platform and content/application having been emerging as a result of such transition. Also, we learn behavior of providers and consumers and related regulations in such circumstances. Perspective of the analysis is based on interdisciplinary approach such as economics, business administration, law and politics.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、5G、IoT、ビッグデータ、AI などの技術進化为背景に急速に変容する情報通信 (ICT) 産業について、グローバルな視点からその特性やビジネスモデルの現状について解説する。そして、伝統的なネットワーク事業者 (電気通信) やメディア (新聞、雑誌、放送など) が、プラットフォーム事業者 (GAFA [Google, Amazon, Facebook (Meta), Apple] など) との間で同時進行的に展開している「競争と連携」の関係を整理し、それらの融合サービスの実態と規制論争を説明する。さらに、地域情報発信 (「メディア・ローカリズム」) の重要性を情報の経済学に基づき分析し、ICT が地方創生や社会的課題解決に果たす役割を考察する。

This course explains the feature and current business model of ICT industry which is transforming its shape very rapidly reflecting technological progress such as 5G, IoT, big data and AI from the global perspective. This course also summarizes competitive and cooperative relationship simultaneously occurring between traditional network providers (telecommunications)/media (e.g. newspaper, magazine and television) and platformers (e.g. GAFA). Also, the course explains present status and regulatory discussion concerning their converged services. Furthermore, we analyze the importance of “media localism” based on the economics of information and consider the role of ICT to assist local revitalization and solve social issues.

授業計画 (Course Schedule)

1. 講義の概要と進め方
2. 情報通信 (ICT) 産業の定義と分類
3. ICT 産業の構造の分析アプローチ (創造の方法学)
4. ネットワーク事業者 (固定・モバイル通信、ケーブルテレビ、放送) のビジネスモデル
5. プラットフォーマー (GAFA) のビジネスモデル
6. ICT 産業の競争と連携
7. ICT 融合サービスの現状—ネットワークとプラットフォームが生み出すもの
8. ICT 融合サービスの規制論争
9. プラットフォーマー (GAFA) の規制論争
10. プラットフォーマー (GAFA) とメディア (新聞、雑誌、放送) の関係分析
11. 情報の経済学とメディア・ローカリズム—衰退する地域メディアの救済策
12. ユニバーサルサービス概念とメディア・ローカリズム
13. ICT が社会的課題解決に果たす役割—スマートシティの現状と課題
14. レポート作成のポイントと質疑

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

経済紙のみならず、一般の新聞においても、情報通信に関連する記事が日に日に増えている。それらの中で特に読むべきものを講義で紹介する。講義後に読み込んで十分に理解し、次回以降の講義に臨むことを期待している。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/授業への参加度(65%)

テキスト(Textbooks)

毎回、最新動向を盛り込んだオリジナルの講義スライドを事前配布(アップロード)する。また、その回の講義テーマに関連する新聞・雑誌記事の紹介と解説を行う。さらに、講義中は情報を深堀するために必要なサイトに随時オンラインでアクセスするなど、講義内容の補強をマルチメディアに展開する。

参考文献(Readings)

1. 総務省、2022、『情報通信白書(無料ダウンロード可)』、総務省
2. 脇浜紀子・菅谷実編、2019、『メディア・ローカリズム:地域ニュース・地域情報をどう支えるのか』、中央経済社 (ISBN:4502319317)
3. 湯浅正敏編著、2020、『メディア産業論:デジタル変革期のイノベーションとどう向き合うのか』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4-623-08868-3)
4. 菅谷実・山田徳彦編著、2022、『情報通信産業の構造変容』、白桃書房 (ISBN:978-4-561-75230-1)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

本科目は土曜日の3限~4限に実施する2限連続開講科目である。授業は下記の日程で実施する。

- ① 9月30日(土) ② 10月7日(土) ③ 10月14日(土) ④ 10月28日(土) ⑤ 11月11日(土) ⑥ 12月2日(土) ⑦ 12月9日(土)

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE438／リスク・コミュニケーション論 (Risk Communication)		
担当者名 (Instructor)	長坂 俊成(NAGASAKA TOSHINARI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

リスクコミュニケーションは、許容できるリスクレベルを社会的・民主的に決定するための利害関係者間の相互作用のプロセスである。専門家や行政がリスクを評価し規制等の対策を検討・実施する全ての過程に市民や消費者等が参画しリスクコミュニケーションが展開される。リスクコミュニケーションを通じて不確実性を孕むリスクの社会的協治(リスクガバナンス)が高度化され、持続可能かつレジリエントな社会が実現される。授業ではリスク学およびリスクコミュニケーションに関する基礎理論や諸制度を理解した上で、事例分析を通じてリスクコミュニケーションの実際を批判的に考察し、それらを踏まえて実践的なリスクコミュニケーションをデザインする技法を習得する。さらに、リスクコミュニケーションと連続的に展開される合意形成や意思決定、政策決定、紛争解決、テクノロジーアセスメントなどと関係づけ、リスクコミュニケーションをリスクガバナンスの枠組みの中で再考する。

The aim of this course is to help students acquire the basic concepts of risk communication. The goals of this course are to be able to explain major theories, evaluate practices, and apply theories or findings to real world situations.

授業の内容 (Course Contents)

授業では、リスクコミュニケーションを理解する上で不可欠となるリスク学の基礎理論や関連諸制度について解説する。様々な分野で実施されたリスクコミュニケーションの事例分析を通じて、その成功や失敗の要因を分析し、あるべきリスクコミュニケーションについて考究する。さらに、リスクを巡る規制や管理のための政策決定過程や政策実施過程を分析し、スクガバナンスの視点からリスクコミュニケーションの制度化について検討する。

This course deals with the following case studies. Natural disasters, BSE, GMO technology, GMO food, Geological disposal of high-level radioactive waste, Nuclear power plant accident,

Infectious disease control, Dementia patients, Decision support for people with disabilities.

All students will discuss the presentations on actual cases. Students must submit two small paper on this course.

授業計画 (Course Schedule)

- 概説: リスクと社会～リスクコミュニケーションが指すもの
【キーワード】不確実性、科学的判断と社会的価値判断、安全と安心、脆弱性、レジリエンス、規制・管理、政策的介入、私的自治、自己決定、パターンリズム、市民知と専門知、リスク認知、ガバナンス、ステークホルダー、信頼、倫理、ナラティブ、リスクコミュニケーションの定義
- リスク学の理論と基礎的概念(1)
【キーワード】リスクの概念と定義、リスク評価、リスク管理、危機管理、リスク比較、コストベネフィット、リスクベネフィット、リスク・リスクトレードオフ、合意形成や意思決定、政策決定、紛争解決
- リスク学の理論と基礎的概念(2)
【キーワード】規制と自主管理、規制と監督、基準値、リスクリテラシー、欠陥モデル、パターンリズム、自己責任、自己決定権、愚行権、科学的判断と社会的・政策的決定、生命倫理、予防原則、被害の賠償と救済、企業の社会的責任、残余リスクと説明責任、世代間倫理
- リスク学の理論と基礎的概念(3)
【キーワード】リスク認知、客観的リスクと主観的リスク、リスク認知のモデル化、認知バイアス、フレーミング、メディアと風評被害、社会的増幅、ゼロリスク神話、社会的受容、公平性、NINBY、自発的リスクと非自発的リスク、人工的リスクと自然的リスク(残留農薬、食品添加物等)、モラルハザード、リスク管理者と信頼
- リスク学の理論と基礎的概念(4)
【キーワード】テクノロジーアセスメント、コンセンサス会議、円卓会議、市民陪審、パブリックインボルブメント、サイエンスコミュニケーション、サイエンスカフェ、消費者教育、防災教育
- 事例研究1: 災害リスクの不確実性と対策・対応
・リスク評価とハザードマップ(被害想定、重要事項説明、情報公開、自己責任、土地利用・建築規制・誘導)
・東日本大震災・石巻市大川小学校の避難対策をめぐる事例(予見可能性、回避可能性、事前対策・計画・マニュアル、事後対応)
・リスク対策の検証手法: 原因解明と責任追及、救済
- 事例研究2: 自然災害と間接リスク
・避難所生活 QOL 改善、災害関連死の予防
・公民協働による応急仮設住宅の社会的備蓄

8. 事例研究3:食の安全(1)
 - ・BSE:全頭検査神話、検出限界、トレーサビリティ、予防原則
9. 事例研究4:食の安全(2)
 - ・遺伝子組み換え農作物・食品:リスク対策、表示と自己決定権、知的財産権と食料自給
10. 事例研究5:高レベル放射性廃棄物の地層処分
 - ・超長期のリスク、処分候補地の民主的決定(手上げ方式、申し入れ方式)、科学的有望地と社会的考慮事項、自国処分の原則、世代間倫理、リスクとベネフィットの帰属先の違い、規制庁の役割と信頼
11. 事例研究6:福島原発事故
 - ・強制避難と自主避難、長期広域避難と対策、災害関連死、低線量晩成リスク
 - ・帰還と移住、原状回復と除染、ふるさと喪失と慰謝料、差別と偏見
12. 事例研究7:感染症対策
 - ・新型コロナウイルス:未知性・エビデンスと規制、差別と偏見・人権侵害
 - ・子宮頸がんワクチンの集団予防接種と副作用問題:個人と集団、救済
13. 事例研究8:高齢化社会における認知症高齢者の加害リスクと行動の自由、社会的包摂
 - ・家族・親族の責任、成年後見制度、責任無能力者と準法定監督義務者、救済制度
14. 総括:現代社会におけるリスクコミュニケーションの課題と解決策

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回授業の前に Canvas LMS にアップするレジュメ・参考文献を予習し、参考文献に基づき発展的に学習に取り組むことを期待する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

なし。授業内にレジュメ、参考文献を Canvas LMS にアップし、必要な Web サイトを指示する。

参考文献(Readings)

授業時に紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

上記の項目を相互に関連づけて理解を深めるため授業計画の順序を変更する場合がある。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE440／グローバル・コミュニケーション論 (Global Communications)		
担当者名 (Instructor)	黄 盛彬(SEONGBIN HWANG)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

グローバル化とデジタル・テクノロジーの発展で変わっていく社会を、メディアとコミュニケーション、そして文化の次元から考察し、社会のリアリティを批判的に考察する分析力を養う。

Students will analyze globalizing modern society from the dimensions of media, communication, and culture. They will develop the analytical skills to critically consider the reality of society and form a global mind.

授業の内容 (Course Contents)

グローバル・コミュニケーションの起源および展開状況を歴史的に考察し、主要な議論について解説する。そして東アジア地域における展開動向を、地域固有の状況やグローバルトレンドとの関連で、分析・考察を行なう。その上で、グローバル・コミュニケーション動向をめぐる理論パラダイムや諸言説を紹介し、今日の視点で再評価する。

The course introduces the origins and developments of global communication historically and examines the significant discussions in the field. Then, the development trends in East Asia are analyzed and considered while focusing on the local situation in each country and region. Finally, we discuss theoretical paradigms and discourses on global communication trends and reevaluate them from today's perspective.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. グローバル・コミュニケーション、起源と展開
3. 文化帝国主義論
4. 概念の再検討と新たなアプローチ: 文化的近さ
5. 概念の再検討と新たなアプローチ: ハイブリディティ
6. 「ジャパナイゼーション」
7. 台湾における日本発テレビドラマの流行
8. 「クールジャパン」とソフトパワー論
9. 韓流の始まりとその展開
10. 配信サービスとドラマの流行: 文化的近さとユニバーサルアピール
11. K-POP の流行と文化的ハイブリディティ
12. ポップカルチャーとファンダム: BTS を事例として
13. 文化のトランスナショナル化の行方
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回の課題文献を予め読んでおくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)/授業内課題(20%)/出席等授業への参加度(20%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 岩淵功一、2001、『トランスナショナル・ジャパン』、岩波書店 (ISBN:4006003544)
2. トムリンソン、1993、『文化帝国主義』、青土社 (ISBN:4791755499)
3. アバデュラ、2004、『さまよえる近代—グローバル化の文化研究』、平凡社 (ISBN:4582452272)
4. 徐勝・黄盛彬・庵途由香、2007、『韓流のうちと外』、御茶の水書房 (27500552X)
5. ユリイカ、2018、『特集=K-POP スタディーズ —BTS、TWICE、BLACKPINK から『PRODUCE101』まで…いま(韓国音楽)になにが起きているのか』、青土社 (ISBN:479170357X)

6. 大原通郎、2021、『Netflix vs. ディズニー ストリーミングで変わるメディア勢力図』、日本経済新聞社 (ISBN:4532323835)
7. キム ヨンデ、2021、『BTSを読む なぜ世界を夢中にさせるのか 』、柏書房 (ISBN:4760152199)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE442／出版産業論 (Publishing Industry)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	書物の成り立ちと旅立ち——出版の現場から、本作りのプロセス、および出版産業の歴史と現在、未来を考える		
担当者名 (Instructor)	米田 綱路(YONEDA KOJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

出版産業の実態、その歴史的歩みと展開、書籍編集の現場などを知ることにより、出版メディアについて理解を深める。本をとりまく環境と読書経験の意味を掘り下げ、出版をとおして各自の文化認識をよりゆたかなものにするを授業の目標とします。

Students will deepen their understanding about publishing media by studying publishing industry's condition, history, development, and book editing bureau. In this class, students will seek to enrich their cultural knowledge by learning more about publishing, meaning of reading experience, and environment surrounding books.

授業の内容 (Course Contents)

出版の実務や編集作業、書籍のつくりかた、流通と販売の実際、書店や古書店、図書館など、出版をめぐる世界を紹介し、考察していきます。著者、編集者、出版人、出版業界、読者などが創り上げる書物のコミュニティを多面的に例示します。また、近代以降の日本およびヨーロッパの出版メディアについて、歴史的に解説します。出版と社会との関わりを軸に講義を進めます。

Students will learn about publishing industry, including publishing process, editing task, book making method, logistics, sales, new and antiquarian bookstore, and library. Professor will show multi-faceted aspects of the communities consisted of authors, editors, publishers, publishing industries, and readers. In addition, professor will explain about modern history of Japanese and European publishing media. In this class, students will focus on connections between publishing and society.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 出版社の業態——1人出版社からマスメディアまで
3. 著者と編集者
4. 本作りの現場1
5. 本作りの現場2
6. 活字・印刷・製本・装幀の世界1
7. 活字・印刷・製本・装幀の世界2
8. 出版営業と流通の世界
9. 書店・古書店・図書館
10. 書評と読書
11. 出版の自由と不自由の歴史1
12. 出版の自由と不自由の歴史2
13. 電子書籍の時代と紙の書籍
14. 総論とまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

当然ながら日頃読書に親しみ、出版をめぐる全世界、書物や雑誌、活字や印刷、ブックデザインなどに強い関心と興味をもち、書店や図書館に足繁く通っていることが授業の前提となります。出版産業の世界に対する理解を深めていただくことが講義の目標ですので、とにかく本に対する関心を強め、問題意識をもって取り組んでください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験 (Report Exam) (100%)

テキスト (Textbooks)

レジュメや資料などのコピーを適宜配布します。それによって講義を進めます。

参考文献 (Readings)

1. 岩貞るみこ、2012、『青い鳥文庫ができるまで』、講談社

2. 米田綱路、2010、『ジャーナリズム考』、凱風社

『青い鳥文庫ができるまで』は、原稿執筆から出版編集、本づくり、販売までの流れをわかりやすくえがいていますので、できれば事前に目をおしてください。講義中も随時参照します(コピーを配布します)。そのほかに適宜、講義内容に関連する参考文献を紹介していきます。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE443／視覚文化論 (Visual Culture Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	マイノリティとアメリカ視覚文化		
担当者名 (Instructor)	江崎 聡子(EZAKI SATOKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

受講生がアメリカの視覚文化に見られるマイノリティのイメージについて客観的に分析し、そういったイメージがなぜ、どのように形成されてきたのかを考察し、またマイノリティによる自己イメージがメディアにあふれる「一般的」なイメージとどのように異なるのか、その相違が認識できるようになることが目標である。

Through readings, discussions, and writings in class, students should be able to analyze images of minority groups, examine how these images are produced, and recognize differences between their stereotyped visual representation and more realistic images created by minorities themselves.

授業の内容(Course Contents)

この講義では、アメリカの主流の視覚文化において、マイノリティとされる人々や集団がどのようにイメージ化されてきたかを分析する。さらに、1960年代以降、マイノリティとされる人々が、主流の文化によって与えられた記号的なイメージに対抗して、どのような自己イメージを形成し、どのようにして社会や文化に発信してきたかについて考察する。広告、ニュース映像、映画、視覚芸術、ミュージックビデオといった視覚文化の多様な領域における事例を具体的に検討する。

This course examines visual representation of minority groups in modern and postmodern American visual culture. Moreover, we will look into self-representation of minorities since the 1960s, when ethnic minorities and gender minority initiated fight against white, male-oriented values and the dominant culture, to express their reality in various media. By focusing on their images in advertisements, news media, films, visual arts, or music videos, we will consider issues of representation of the other.

授業計画(Course Schedule)

1. シラバスの内容の確認と授業のイントロダクション
2. 女性とそのイメージ(1)(概論)
3. 女性とそのイメージ(2)(作品分析)
4. 女性とそのイメージ(3)(ディスカッションおよびライティング)
5. 黒人とそのイメージ(1)(概論)
6. 黒人とそのイメージ(2)(作品分析)
7. 黒人とそのイメージ(3)(ディスカッションおよびライティング)
8. 先住民族とそのイメージ(1)(概論)
9. 先住民族とそのイメージ(2)(作品分析)
10. 先住民族とそのイメージ(3)(ディスカッションおよびライティング)
11. 日本人とそのイメージ(1)(概論)
12. 日本人とそのイメージ(2)(作品分析)
13. 日本人とそのイメージ(3)(ディスカッションおよびライティング)
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習として各回で取り上げられるトピックの関連文献を読み、あるいは作品を鑑賞することを要求する。復習としては講義時に取り上げられたトピックや専門用語の内容を整理し、ディスカッションの内容をふまえて、自分なりの見解や議論を300字程度で書くことを勧める。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)/ライティング(30%)/ディスカッションへの貢献(10%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. Shawn Michelle Smith. 1999. *American Archives: Gender, Race, and Class in Visual Culture*. Princeton University Press
2. Amelia Johnes. 2010. *The Feminism and Visual Culture Reader*. Routledge
3. Patricia A. Turner. 2002. *Ceramic Uncles and Celluloid Mammies: Black Images and Their Influence on Culture*. University of Virginia Press
4. Philip J. Deloria. 2004. *Indians in Unexpected Places*. University Press of Kansas
5. William M. O'Barr. 1994. *Culture and the Ad: Exploring Otherness in the World of Advertising*. Westview Press

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

基本的には講義形式であるが、適宜ディスカッションを取り入れる。また各トピックの終わりに、ディスカッションや講義内容などに基づいて、とりあげた作品に関して短い 300 字程度のエッセイを書き、提出してもらう。詳細は初回授業時に説明する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／出版産業論 (Publishing Industry)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	書物の成り立ちと旅立ち——出版の現場から、本作りのプロセス、および出版産業の歴史と現在、未来を考える		
担当者名 (Instructor)	米田 綱路(YONEDA KOJI)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

出版産業の実態、その歴史的歩みと展開、書籍編集の現場などを知ることにより、出版メディアについて理解を深める。本をとりまく環境と読書経験の意味を掘り下げ、出版をとおして各自の文化認識をよりゆたかなものにするを授業の目標とします。

Students will deepen their understanding about publishing media by studying publishing industry's condition, history, development, and book editing bureau. In this class, students will seek to enrich their cultural knowledge by learning more about publishing, meaning of reading experience, and environment surrounding books.

授業の内容 (Course Contents)

出版の実務や編集作業、書籍のつくりかた、流通と販売の実際、書店や古書店、図書館など、出版をめぐる世界を紹介し、考察していきます。著者、編集者、出版人、出版業界、読者などが創り上げる書物のコミュニティを多面的に例示します。また、近代以降の日本およびヨーロッパの出版メディアについて、歴史的に解説します。出版と社会との関わりを軸に講義を進めます。

Students will learn about publishing industry, including publishing process, editing task, book making method, logistics, sales, new and antiquarian bookstore, and library. Professor will show multi-faceted aspects of the communities consisted of authors, editors, publishers, publishing industries, and readers. In addition, professor will explain about modern history of Japanese and European publishing media. In this class, students will focus on connections between publishing and society.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 出版社の業態——1人出版社からマスメディアまで
3. 著者と編集者
4. 本作りの現場1
5. 本作りの現場2
6. 活字・印刷・製本・装幀の世界1
7. 活字・印刷・製本・装幀の世界2
8. 出版営業と流通の世界
9. 書店・古書店・図書館
10. 書評と読書
11. 出版の自由と不自由の歴史1
12. 出版の自由と不自由の歴史2
13. 電子書籍の時代と紙の書籍
14. 総論とまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

当然ながら日頃読書に親しみ、出版をめぐる全世界、書物や雑誌、活字や印刷、ブックデザインなどに強い関心と興味をもち、書店や図書館に足繁く通っていることが授業の前提となります。出版産業の世界に対する理解を深めていただくことが講義の目標ですので、とにかく本に対する関心を強め、問題意識をもって取り組んでください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験 (Report Exam) (100%)

テキスト (Textbooks)

レジュメや資料などのコピーを適宜配布します。それによって講義を進めます。

参考文献 (Readings)

1. 岩貞るみこ、2012、『青い鳥文庫ができるまで』、講談社

2. 米田綱路、2010、『ジャーナリズム考』、凱風社

『青い鳥文庫ができるまで』は、原稿執筆から出版編集、本づくり、販売までの流れをわかりやすくえがいていますので、できれば事前に目をおしてください。講義中も随時参照します(コピーを配布します)。そのほかに適宜、講義内容に関連する参考文献を紹介していきます。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE451／メディア史 (Media History)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近代日本メディア史		
担当者名 (Instructor)	吉田 則昭(YOSHIDA NORIAKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ジャーナリズム活動、メディアの動向を、その送り手と受け手の状況に留意しながら、その歴史過程を見ていくことで、歴史理解、ひいては、受講生のリテラシー獲得に資したい。

Students will pay attention to journalism activity, media trend, conditions of sender and recipient. At the same time, students will observe their historical processes. Through this historical understanding, students will improve their literacy.

授業の内容(Course Contents)

近現代の通史のスタイルを保ちながら、焦点を絞って個別史でも講義を行う。「歴史とは現代との対話」ともされる。本授業では、通説を問うこと、私たちの生きている同時代史的意味を問い続けることで、メディア史の最前線を探求したい。

Professor will preserve and lecture in modern historical timeline styles while narrowing down subjects and lecturing on individual history. It is said that history is a dialogue between the present and the past. In this class, students will continue seeking historical significances of our era by questioning common knowledge. Through these, students will be able to explore the frontier of media history.

授業計画(Course Schedule)

1. 講義概要
2. 明治前期:メディアの誕生
3. 明治中期:さまざまなジャーナリズム活動、日本主義の系譜
4. 明治後期:日本型中新聞の形成
5. 大正期:大衆文化の普及とマス化現象
6. 昭和戦前期:言論弾圧と言論統制
7. 総力戦体制:メディアの統制・メディア界の再編成
8. 昭和戦時期:日本メディアのアジア諸国での展開・プロパガンダ
9. 占領期前期:メディアの民主化・検閲の動向
10. 占領期後期:逆コースの中でのメディア政策
11. 1950～60年代:テレビ放送の開始とメディアの制度化
12. 70～80年代:高度成長の時代におけるメディアとジャーナリズム
13. ゲストスピーチ、グループディスカッション、反転授業
14. ゲストスピーチ、グループディスカッション、反転授業

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

課題図書を示す。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/授業への参加度(20%)/授業コメント(30%)

テキスト(Textbooks)

別途プリントを配布する。

参考文献(Readings)

1. 吉田則昭、2010、『戦時統制とジャーナリズム』、昭和堂 (ISBN:978-4812210321)
2. 土屋礼子・井川充雄編、2018、『近代日本メディア人物誌:ジャーナリスト編』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623074822)
3. 下山進、2019、『2050年のメディア』、文藝春秋 (ISBN:978-4163911175)
4. 根津朝彦、2019、『戦後日本のジャーナリズムの思想』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130262491)
5. 山本昭宏、2021、『戦後民主主義』、中央公論新社 (ISBN:978-4121026279)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE452／メディア素養論 (Media Literacy)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	文化や価値観の多様性を知る		
担当者名 (Instructor)	田北 康成(TAKITA YASUNARI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講義では、いろいろな事例から現代の文化や価値観について知り、多様な文化理解、交流を図り、形成に資することを目的に知識欲を喚起し、受講者が積極的な意見形成ができるようになることを目標にします。

In this lecture, we will learn about modern culture and values from various cases, promote diverse cultural understanding and exchange, arouse the desire for knowledge with the aim of contributing to the formation, and so that the students can actively form opinions.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、毎回のテーマに沿って、概念を整理して、論点を提示した上で、教材となるドキュメンタリーを視聴します。そして、Google Forms の機能等を通して履修者の意見や感想、質問等を収集して、それを匿名で紹介しながら、議論を進めていきます。

In this conference, we will organize the concepts according to the topic of each session, introduce the talking points, and then watch the documentary as a teaching material. Then, through the Google forms function, we will collect the opinions, impressions, questions, etc. of the students and introduce them anonymously while proceeding with the discussion.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
講義概要、評価方法の説明
2. 社会の文化や価値観を理解する(1)
3. 社会の文化や価値観を理解する(2)
4. 健康増進を考える(1)
5. 健康増進を考える(2)
6. 中毒や依存について考える(1)
7. 中毒や依存について考える(2)
8. 食の多様性と画一化を考える(1)
9. 食の多様性と画一化を考える(2)
10. 差別と向き合う対抗的文化の可能性を考える
11. 暴力・憎悪・差別からの脱出を考える
12. ペナルティーを考える(1)
13. ペナルティーを考える(2)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

インターネット・スマホだけに頼らず、社会状況を広く把握してください。事前の準備はほとんど必要ありませんが、講義内容をさらに深く理解するために、授業内で提示された書籍や雑誌、番組、映画、施設等で興味を持ったものについて、積極的にアクセスするようにしてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

受講内容を反映した毎回の小レポート(100%)
Google Classroom に毎回 300 字～400 字程度のリアクションをしていただきます。

テキスト (Textbooks)

テキストは指定しません。

参考文献 (Readings)

参考文献は、毎回配布の資料の中で提示します。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

講義で使用するドキュメンタリー等の映像資料は、過去に公にされているものです。

困難で複雑な状況が描かれていたり、一見「残酷」ととらえられたりするようなシーンもありますが、テーマに照らして提示するものであり、背景を丁寧に説明します。そうした教材がいくつか登場することを理解してください。

また、学習効果の上で必要な範囲で、受講生自身が接してこなかったような立場の意見や資料などを提示することがあります。ご自身の価値観とは合わないものもあると思いますが、単に好き嫌いではなく、学問的な真理に到達するために必要なものと考えてください。履修登録・受講にあたっては、そうした点を了承しておいてください。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE481／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	曹 慶鎬(CHO KYONGHO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文にあたって、テーマ設定、先行研究のサーベイ、研究対象の焦点化、ディスカッション、対話を繰り返しながら、卒業論文を構築できるようにする。

We aim to work towards completion of the graduation thesis through repeated discussions about the theme setting, the survey of the previous research, the focus of the research, the discussion, and the dialogue.

授業の内容 (Course Contents)

卒業論文にあたって、テーマ設定、先行研究のサーベイ、研究対象の焦点化、ディスカッション、対話を繰り返しながら、卒業論文執筆ができるよう指導を行なう。

In this course, guidance is given through repeated discussions about the theme setting, the survey of the previous research, the focus of the research, the discussion, and the dialogue, so that graduation thesis writing can be done.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. テーマ設定 (1)
3. テーマ設定 (2)
4. 先行研究のサーベイ、報告 (1)
5. 先行研究のサーベイ、報告 (2)
6. 先行研究のサーベイ、報告 (3)
7. 研究対象の明確化 (1)
8. 研究対象の明確化 (2)
9. 研究対象の明確化 (3)
10. 調査・分析の報告 (1)
11. 調査・分析の報告 (2)
12. 調査・分析の報告 (3)
13. 中間報告プレゼンテーション (1)
14. 中間報告プレゼンテーション (2)

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

Slack を中心に、GoogleDrive、Zoom などを使って随時、指導、相談を行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

定期的な報告、プレゼンテーション(50%)/ディスカッション、面談への参加度(50%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

必要に応じて指示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム (Canvas LMS、Blackboard 等) で指示する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE482／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	橋本 晃(HASHIMOTO AKIRA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

まず、論文の型を十分に理解し、その上でリサーチクエストの絞り込み、先行研究の探索、研究方法の検討、章立てづくりなど、段階的に習得していく。

First, Students will understand thesis templates thoroughly before narrowing down their research questions. Students will learn the following skills in multiple stages, i.e., explore prior researches, discuss their methods, and arrange their chapters.

授業の内容 (Course Contents)

学術論文には明確な型がある。まずは、その型を詳しく説明した上で、リサーチクエストの絞り込み、先行研究の探索、研究方法・一次資料の検討などを指導する。各段階で研究計画書をアップデートしたものを提出してもらい、相互批評しつつ進めていく。

An academic paper has a precise template. First, the professor will explain about this template, before students narrow down their research questions. Professor will then instruct students on how to explore prior researches and discuss their methods and primary data. At each stage, students will submit updated research plans and give feedback to each other.

授業計画 (Course Schedule)

1. 卒業論文の書き方(型, 構成)1
2. 卒業論文の書き方(型, 構成)2
3. 卒業論文の書き方(型, 構成)3
4. トピック, リサーチクエストの絞り込み1
5. トピック, リサーチクエストの絞り込み2
6. トピック, リサーチクエストの絞り込み3
7. 先行研究の探索, 研究方法の検討1
8. 先行研究の探索, 研究方法の検討2
9. 先行研究の探索, 研究方法の検討3
10. 大まかな章立てづくり1
11. 大まかな章立てづくり2
12. 資料収集1
13. 資料収集2
14. 資料収集3

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

ハンドアウトや提出された研究計画書を読んで授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席・授業への参加(50%) / 研究計画書などの提出(50%)

テキスト (Textbooks)

特になし。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE483／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	木村 忠正(KIMURA TADAMASA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

卒業論文作成に関して、問題意識・設定⇒文献調査⇒研究計画立案⇒調査研究実施のプロセスを循環させるとともに、卒業論文の目次・構成を具体的に考え、実際に卒業論文執筆にとりかかり、1.8 万字程度まで執筆を進めることを目的とする。

In order to facilitate research for the graduation thesis forward, students are required to get engaged in the cycle of articulating research questions, surveying literature, designing research strategies and conducting research. You must also develop the outline of your graduation thesis and start to write it based on your findings and analysis to reach 18,000 characters in its length by the end of the spring semester.

授業の内容(Course Contents)

卒業論文作成に関して、問題意識・設定⇒文献調査⇒研究計画立案⇒調査研究実施のプロセスを循環させるため、文献ノート作成報告、計画報告を順次行う。さらに、卒業論文の目次・構成を具体的に考え、実際に卒業論文執筆にとりかかり、順次進捗報告を作成、報告を行ってもらう。その結果として、1.8 万字程度まで執筆を進めることができるよう取り組む。

In order to facilitate research for the graduation thesis forward, students are required to get engaged with integrity and consistency in articulating research questions, surveying literature, designing research strategies and conducting research. In practice, students are expected to make more than ten reviews of books and articles relevant to your research based on extensive literature survey and also to make a presentation of progress while discussing challenges and problems faced. By the end of the spring semester, students are required to write a thesis up to about 18,000 characters.

授業計画(Course Schedule)

1. 計画書報告
2. 研究計画・進捗報告(1)
3. 研究計画・進捗報告(2)
4. 先行文献・関連文献調査報告(1)
5. 先行文献・関連文献調査報告(2)
6. 先行文献・関連文献調査報告(3)
7. 目次・内容検討(1)
8. 目次・内容検討(2)
9. 目次・内容検討(3)
10. 調査研究進捗報告(1)
11. 調査研究進捗報告(2)
12. 調査研究進捗報告(3)
13. 春学期成果プレゼンテーション(1)
14. 春学期成果プレゼンテーション(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で課題を逐次提示し、遂行を求める。こうした課題遂行をはじめ、オンラインでのやりとりも指導上重要であるため、大学アドレスのメールは定期的にチェックし、必要な情報を管理しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

定期的な指定課題の提出(50%)/ミーティング・面談への参加(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 藤田真文編著、2016、『メディアの卒論(第2版)』、ミネルヴァ書房 (ISBN:4623059537)
必要に応じて指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE484／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	趣味的な文化活動とコミュニケーション		
担当者名 (Instructor)	是永 論(KORENAGA RON)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

論文作成の計画検討およびデータ収集に関する指導。

Considerations of research design and data gathering.

授業の内容 (Course Contents)

専門演習に引き続き、シリアス・レジャーなどと呼ばれる形で一定の知識や技術を要する、スポーツや工芸・芸能などの趣味的な文化活動について、メディアとコミュニケーションの観点から考えることを目的としている。受講者自身が卒業論文に関するプランを「目次」という形式で作成・検討し、課題にしたがって論文に必要な作業手順を明確化していく方向で指導を行なう。担当教員との定期的なミーティングのほかに、個人的な打ち合わせを中心に進めていくため、授業時間以外にも作業時間を必要とする。

This course provides an opportunity to consider hobbyist activities so called serious leisure from the viewpoint of media and communication.

Students will consider researching plans by editing contents of thesis. Assignments to proceed plans will be provided. Students will have to arrange private meetings with the supervisor in addition to regular classes.

授業計画 (Course Schedule)

1. 計画書報告
2. アウトライン(1)
3. アウトライン(2)
4. 先行研究検討(1)
5. 先行研究検討(2)
6. 先行研究検討(3)
7. 目次内容検討(1)
8. 目次内容検討(2)
9. 目次内容検討(3)
10. 調査計画検討(1)
11. 調査計画検討(2)
12. 調査計画検討(3)
13. 全体計画発表(1)
14. 全体計画発表(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

指定された課題の遂行と提出が指導上重要であるため、大学アドレスのメールやチャットを定期的にチェックし、必要な情報を管理しておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

定期的な指定課題の提出(50%)/ミーティング・面談への参加(50%)

テキスト (Textbooks)

適宜資料をオンライン上で配布する。

参考文献 (Readings)

1. 戸田山和久、2012、『新版 論文の教室』、NHKブックス (ISBN:9784140911945)
 2. 藤田 真文編、2016、『メディアの卒論 第2版』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623077199)
- 必要に応じてオンライン上で指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

全授業回のうち、一部をオンラインで実施する(ライブ参加型)。実施回については別途指示する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE485／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	井川 充雄(IKAWA MITSUO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文作成のための前半作業として、テーマの決定と先行研究の検討を行う。

Students will determine their subjects and discuss prior researches in the first half of their thesis writing.

授業の内容 (Course Contents)

この演習では、社会学部で学んだことの集大成として、マス・メディアやコミュニケーションに関する卒業論文を書こうとする学生を指導する。

論文を書くためには、自分なりの問いをはっきりさせる必要がある。そしてそれを解明するのに最もふさわしい題材を選択することが要求される。この作業は決して楽なものではないが、演習に参加するメンバーとの討論を通して、明確にしていく。

また、自分の選択したテーマに関する先行研究を読み込んで、内容や研究方法についての理解を深める。

This seminar will be the final episode of College of Sociology. Students will receive instructions at writing graduation theses on mass media and communication.

To write their theses, students must clarify their questions. In addition, students must select the most appropriate materials to solve their questions. Although not easy, students will complete these tasks by discussing with classmates in this seminar.

Furthermore, students will read prior researches related to their chosen subjects to deepen their understanding about research methods and contents.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 個別テーマの発表
3. 個別テーマの発表
4. 個別テーマの発表
5. 個別テーマの発表
6. 先行研究の検討
7. 先行研究の検討
8. 先行研究の検討
9. 先行研究の検討
10. 先行研究の検討
11. 今後の進め方の指導
12. 今後の進め方の指導
13. 今後の進め方の指導
14. 今後の進め方の指導

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

卒業論文を執筆するためには、かなりの量の先行研究や調査を読み込む必要がある。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)／演習時の発表(40%)／演習時の討議(20%)

テキスト (Textbooks)

自分の卒業論文に必要な文献や資料を探すが、論文作成の第一歩となる。文献の探し方は演習内で説明する。

参考文献 (Readings)

1. 藤田真文、2011、『メディアの卒論』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623059539)
2. 白井利明・高橋一郎、2013、『よくわかる卒論の書き方』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623065721)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

本授業は少人数の演習形式である。自分自身の卒論作成のために、文献を読み、問題意識を明確にすることはもちろんのこと、

他の履修者の発表に際しても、積極的に発言することが期待される。

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE486／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	林 怡夔(LIN I-HSUAN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

論文テーマの設定をはじめ、調査の仕方および執筆の作法を身につけ、卒業論文の作成を目標とする。

Students will work on their graduation theses by determining their thesis subjects, learning survey methods, and writing methods.

授業の内容 (Course Contents)

前半は論文の基礎的な書き方、引用の仕方、先行研究と参考文献をサーベイする方法についての指導を行う。受講生の問題関心と研究テーマに関連する文献を講読し、発表とディスカッションを通して考えを深めていく。

後半では受講生による研究計画の作成と発表に入る。研究動機、研究目的、研究方法、仮説の検討と修正作業は授業と個別指導で行う。受講生は夏休みにフィールドワーク調査の完成および卒論草稿の仕上げが求められる。

In the first half, students will receive instructions on basics of writing theses, as well as how to quote and survey prior researches and reference literature. Students will read literatures related to their research subjects and interests. They will deepen their thinking through presentation and discussion.

In the second half, students will create their research plans and presentations. Through classes and private instructions, students will work on their research motives, purposes, methods, hypotheses, and corrections. Students should complete their field work surveys and thesis drafts by summer holiday.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献講読＋ディスカッション①
3. 文献講読＋ディスカッション②
4. 文献講読＋ディスカッション③
5. 文献講読＋ディスカッション④
6. 論文作法
7. 卒業論文の構想発表①
8. 卒業論文の構想発表②
9. エスノグラフィー①
10. エスノグラフィー②
11. 先行文献①
12. 先行文献②
13. 卒論作成計画の発表＋ディスカッション①
14. 卒論作成計画の発表＋ディスカッション②

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で随時知らせる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席状況、授業への参加度、卒論作成計画書(100%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE488／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	砂川 浩慶(SUNAKAWA HIROYOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文作成の前半の作業として、各自が設定したテーマに沿って先行研究のレビュー、調査方法などを指導する。就職活動との並行作業となるが、春学期中に下調べを実施していくことが重要である。

In the first half of writing their graduation theses, students will receive instructions on survey methods and review of prior researches based on their chosen subjects. It is important for students to work on their preparations during spring semester, even if they are job hunting at the same time.

授業の内容 (Course Contents)

卒業論文は学生生活の総決算であり、自己の問題認識を深め、独力で追究する好機である。専門演習2までに学んだ調査方法をもとに、テーマを設定し、先行研究や方法を学ぶことが主眼となる。なお、フィールド調査を実施する場合は、夏季休暇前に事前準備を行い、夏季休暇時に実施することが望ましい。

Graduation theses are conclusions of their student lives. It will be a great opportunity for students will deepen their issue awareness and pursue their researches in self-directed manner. Based on survey methods they have learnt until Seminar 2, students will focus on determining their subjects and learning about prior researches and methods. In addition, before summer holiday students should prepare for their field surveys during summer holiday.

授業計画 (Course Schedule)

1. 卒論構想合宿での発表
2. 全体会合①
3. 個別指導①
4. 全体会合②
5. 個別指導②
6. 全体会合③
7. 個別指導③
8. 全体会合④
9. 個別指導④
10. 専門演習2での発表
11. 卒業生等によるアドバイス
12. 春学期中のまとめ提出
13. 夏季休暇時の計画提出
14. 秋学期に向けての計画提出

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

基礎文献にあたりながら、自分のオリジナリティを探すこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への出席、討議内容、個別指導による達成度などで評価する(100%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE489／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	井手口 彰典(IDEGUCHI AKINORI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

卒業論文執筆の前半段階として、各自が取り組むテーマに沿って調査を進める。また関連文献を収集・精読し、発表を通じて議論の深化を図る。それらの作業を介し、学士に求められる「発見」「分析」「提言」にかかわる全ての能力の向上を図る。

In the first half of graduation thesis writing, students will work on their surveys based on their chosen subjects. Students will improve their discussions by collecting related literatures, reading, and presenting them. Through these processes, students will improve all skills required of a bachelor degree, i.e. exploring, analyzing, and commenting.

授業の内容(Course Contents)

毎回、担当者が自身の論文について発表し、ゼミ全体でのディスカッションを通じて内容を練り上げていく。文章表現や学術文章のスタイルについても実践的に学んでいく。また中間発表に向けて効率的なプレゼンテーションの方法についても学ぶ。受講生同士の積極的な切磋琢磨を期待する。

Each time, selected students will present their theses. All seminar students will participate in discussions and delve deeper in details. Students will also practice and learn essay writing and academic styles. Furthermore, students will learn efficient presentation methods to prepare for their interim presentations. Students should help each other to improve.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 「専門演習 2」報告書の検討 1
3. 「専門演習 2」報告書の検討 2
4. 「専門演習 2」報告書の検討 3
5. 「専門演習 2」報告書の検討 4
6. 「専門演習 2」報告書の検討 5
7. 「専門演習 2」報告書の検討 6
8. 「専門演習 2」報告書の検討 7
9. 関連文献読解 1
10. 関連文献読解 2
11. 関連文献読解 3
12. 関連文献読解 4
13. 関連文献読解 5
14. 関連文献読解 6

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

取り組むべきテーマと具体的な調査方法について予め考えておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発表、および個別の課題がある場合は、その内容に基づいて評価する。(100%)

テキスト(Textbooks)

使用しない。

参考文献(Readings)

適宜指示する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

演習形式をとり、毎回担当者が発表を行う。
出席は評価の対象ではなく、その前提とする。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE490／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	黄 盛彬(SEONGBIN HWANG)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文テーマに関わる先行研究のレビューを行い、関連する理論的・方法的知識を学ぶ。研究問題の発見、調査計画の設計および遂行、プレゼンテーションおよび討論、研究論文の執筆に至る研究のプロセスを実践する。

Students will review prior researches related to their graduation thesis subjects to acquire relevant theoretical and methodological knowledge. Students will participate in research processes, including exploring research questions, plan and conduct surveys, make presentations, discuss, and write research theses.

授業の内容 (Course Contents)

4年間の勉学の総合的な成果として、受講者各自がそれぞれのテーマを決め、分析を行い、その内容を発表する。テーマについては、「専門演習2」で学んだ研究分野のなかから、受講生各自にとって最も興味があり、卒業論文として発展させることができそうなものを選ぶ。具体的な日程については、受講生が分析結果を発表し、その内容について全員で深く討議する。また、個別指導も行われる。春学期の段階で卒業論文の草稿をまとめることを目標としている。

This course will be the fruit of their 4-year study. Students will determine their subjects, conduct analysis, and present their contents during the class meetings. In the spring semester, students will aim to finish their graduation thesis draft.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 研究計画の報告
3. 研究計画の報告
4. 研究計画の報告
5. 研究計画の報告
6. 調査計画 1
7. 調査計画 2
8. 調査実施 1
9. 調査実施 2
10. 調査実施 3
11. 中間報告 1
12. 中間報告 2
13. 中間報告 3
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

第一回の授業で提示するスケジュールに従い、計画的に取り組むこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内課題(40%) / プレゼンテーション(40%) / 授業参加度(20%)

テキスト (Textbooks)

1. 白井利明・高橋一郎、2013、『よくわかる卒論の書き方(第2版)』、ミネルヴァ書房 (ISBN:4623065723)
 2. 井上真琴、2004、『図書館に訊け!』、筑摩書房 (ISBN:448006186X)
- 授業内で提示する。

参考文献 (Readings)

授業内で提示する。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業内で指示する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE491／卒業論文演習1 (Thesis Writing Seminar 1)		
担当者名 (Instructor)	川畑 泰子(KAWAHATA YASUKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

- ・専門演習1～2でのゼミ研究活動を元に、自身の掲げる研究テーマにおける先行研究、調査活動、議論展開ができるようになり、卒業論文執筆に繋げる。
- ・卒業論文における研究テーマに基づく、先行研究、分析に着手、執筆を始めること

Students will be able to conduct prior research on their own research themes, conduct surveys, and develop discussions based on the seminar research activities in the first and second specialized exercises, which will lead to the writing of their graduation theses.

Students will be able to conduct prior research, conduct surveys, and develop arguments based on their own research themes, which will lead to the writing of their graduation theses.

授業の内容(Course Contents)

専門演習1～2でのゼミ研究活動を元に、自身の掲げる研究テーマにおける先行研究、調査活動、議論展開ができるようになり、卒業論文執筆に繋げる。また、学術論文執筆なども視野にいれて、先行研究、それらに付随するデータ分析なども進めていく。また、卒業論文の土台の作成も同時並行させていく。

Based on the seminar research activities in Technical Exercises 1 and 2, students will be able to conduct prior research, conduct surveys, and develop discussions on their own research themes, which will lead to writing their graduation theses. Students will also be able to conduct prior research and analyze the data associated with that research, with a view to writing academic papers. Students will also prepare the foundation for their graduation theses at the same time.

授業計画(Course Schedule)

1. 卒業論文執筆にむけて ガイダンス・スケジュールの確認
2. 研究計画書の精査(1)、執筆の段取り説明1
3. テーマ設定の精査(2)、執筆の段取り説明2
4. 進捗確認(1)、先行研究サーベイのまとめ方1
5. 進捗確認(2)、先行研究サーベイのまとめ方2
6. 進捗確認・ライトニングプレゼンテーション1(5分プレゼンテーション、5分質疑応答)
7. 進捗確認・ライトニングプレゼンテーション2(5分プレゼンテーション、5分質疑応答)
8. 進捗確認・ライトニングプレゼンテーション3(5分プレゼンテーション、5分質疑応答)
9. 先行研究のまとめ1
10. 先行研究のまとめ2
11. 先行研究のまとめ3
12. 各自先行研究を踏まえた現状報告1
13. 各自先行研究を踏まえた現状報告2
14. 各自先行研究を踏まえた現状報告3

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

研究室限定 SNS(Slack)及びに、Zoom などを活用して指導、研究関連情報の共有を行う。
授業時間外での打ち合わせも事前アポイントメントがあれば応じる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

定期的な報告、プレゼンテーション(50%)/ディスカッション、面談への参加度(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

必要に応じて指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

全授業回のうち7回を上限に対面授業を実施することがある。対面回については授業内あるいは授業支援システム等で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE501／情報法 (Mass Communication and Media Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	民主主義社会にとっての表現の自由の大切さを学ぶ		
担当者名 (Instructor)	鈴木 秀美(SUZUKI HIDEMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

なぜ民主主義社会において表現の自由が大切なのかについて、具体的な問題をてがかりに学ぶことが本授業の目標です。

Students will use specific questions as clues to learn about importance of freedom of speech in democratic society.

授業の内容 (Course Contents)

なぜ民主主義社会において表現の自由が大切なのかという視点から、表現の自由の意味や保障の限界、名誉やプライバシーと表現の自由の調整の仕方、国家秘密や裁判の公正のための取材・報道に対する制限や、ジャーナリストの憲法上の特別扱いなどのようなものについて学びます。授業は、講義形式で、新聞、テレビ、インターネットなどにかかわる具体的な問題を手がかりとして、それがどのように解決されているか、その解決の仕方での検討します。

Students will consider importance of freedom of speech in democratic society while learning about various subjects: meaning of freedom of speech; limit of this guarantee; balance among reputation, privacy, and freedom of speech; limit on reporting and material collection to ensure national secret and fair justice system; special constitutional attention on journalist. This class will be in lecture format. Students will use various issues as clues, including news, TV, and internet. They will discuss solutions and their appropriateness for these issues.

授業計画 (Course Schedule)

1. 情報法とは何かー名誉保護と表現の自由を手がかりに
2. プライバシー保護と表現の自由
3. 犯罪報道とその限界
4. 名誉・プライバシー保護のための事前差止めと表現の自由
5. インターネット上の表現の自由(名誉毀損、検索結果削除など)
6. プロバイダの責任
7. 取材源の証言強制と取材の自由
8. 法廷カメラ取材とテレビによる裁判報道
9. 国家秘密と取材の自由、知る権利
10. 特定秘密と取材の自由、知る権利
11. 放送の自由と番組規律
12. 公共放送の仕組みと役割
13. 放送の法的規制と自主規制
14. 情報公開制度と個人情報保護制度

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習については、必要に応じて授業の際に別途指示します。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては大学の方針に従い変更される可能性があります。

テキスト (Textbooks)

2023 年秋に刊行されるメディア法の教科書を指定する予定です。

参考文献 (Readings)

1. 松井茂記、2013、『マス・メディア法入門〔第5版〕』、日本評論社
2. 長谷部恭男ほか編、2019、『憲法判例百選1〔第7版〕』、有斐閣
3. 長谷部恭男ほか編、2018、『メディア判例百選〔第2版〕』、有斐閣
4. 鈴木秀美ほか編、2017、『放送制度概論』、商事法務

5. 松井茂記ほか編、2015、『インターネット法』、有斐閣
6. 鈴木秀美ほか編著、2019、『よくわかるメディア法〔第2版〕』、ミネルヴァ書房

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

授業ではレジュメを配布します。

授業は法学の基礎知識がないことを前提に行います。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE502／比較ジャーナリズム史 (Comparative History of Journalism)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	比較メディア、比較ジャーナリズム、歴史		
担当者名 (Instructor)	吉田 則昭(YOSHIDA NORIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

日本におけるジャーナリズム活動とその関連事項を、諸外国との歴史、制度、理論、現状などの比較を通じて考察し、受講生のメディアリテラシーの獲得に資したい。

Theoretical observations on the journalism in Japan: Its history, institutions, current situations comparing with foreign countries.

授業の内容 (Course Contents)

欧米、アジアなど諸外国のメディア事情との比較対照を通じて、日本のジャーナリズムのありかたを検討する。本授業は日本のジャーナリズム史、マスメディア史の分析を主目的とするため、海外メディア事情について詳しくは授業ではないこと、テキスト内容分析は行わないことに留意されたい。また、歴史理解のために「現在」のことを話題にすることもあがあるが、あくまで歴史理解の一助であることに注意されたい。

Comparative studies and discussions on the journalism in Japan and other countries: US, EU, and the Asian districts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 講義概要 -立教大学におけるメディア研究-
2. マスコミ四理論の批判的検討 -言論の自由の観点から-
3. 比較ジャーナリズム史(1)イギリス新聞史
4. 比較ジャーナリズム史(2)アメリカ新聞史
5. 比較ジャーナリズム史(3)放送: 公共放送と商業放送
6. 総力戦と現代化(新聞とラジオ)1920~40年代
7. 世界の中の日本(1): 占領政策と戦後のメディア改革 1945~1952
8. 世界の中の日本(2): 放送制度とテレビの発達 1950年代~60年代
9. 比較ジャーナリズム史(4)東アジア諸国
10. 戦争とメディア/検閲とプロパガンダ
11. 東西冷戦と新自由主義/メディアは何を伝え、メディアはどのように変わっていったのか
12. 21世紀における海外メディアの動向/ジャーナリズムのアップデートは可能か
13. ゲストスピーチ、反転授業、グループワーク
14. ゲストスピーチ、反転授業、グループワーク

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

課題図書を示します。国内外の新聞・雑誌(ネット記事含む)のメディア欄も広く目配りすること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/リアクションペーパー(30%)/授業内レポート(20%)

テキスト (Textbooks)

授業資料を Classroom にて配布。

参考文献 (Readings)

1. 吉田則昭、2012、『緒方竹虎とCIA』、平凡社 (ISBN:978-4582856392)
2. 林香里、2017、『メディア不信』、岩波書店 (ISBN:978-4004316855)
3. 志垣浩一郎、2020、『アメリカ公共放送の歴史』、明石書店 (ISBN:978-4750350905)
4. 稲増一憲、2022、『マスメディアとは何か』、中央公論新社 (ISBN:978-4121027061)
5. 川西仁、2016、『アイビー・リー 世界初の広報 PR 業務』、同友館 (ISBN:978-4496052422)
6. 渡辺将人、2020、『メディアが動かすアメリカ ― 民主政治とジャーナリズム』、筑摩書房 (ISBN:978-4480073396)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

Classroom にリンク先を提示。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE503／オーディエンス論 (Media and Audiences)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代社会のメディア経験を考えるために		
担当者名 (Instructor)	池上 賢(IKEGAMI SATORU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本授業では、我々の日常生活におけるメディア経験を考察するため、オーディエンス研究の歴史や方法を学ぶ。それにより、多様化・複雑化しつつある現代社会におけるメディア環境での経験や、それが人々にとって持つ意味を分析する能力を身につける。

In this class, students will learn about history and method of audience research to analyze media experience in our daily lives. Through these, students will be able to analyze meanings of experience for different people in a more diversified and complicated media environment of modern society.

授業の内容 (Course Contents)

上記の目的を達成するため、第1回から第4回では、メディアの定義、歴史、技術の発達による日常生活の変化、関連する理論的視座などについて講義する。第5回から第10回では、メディア・オーディエンス研究の歴史を、具体的な研究事例を紹介しながら講義する。第11回からは最新の研究成果を学習する。

授業は講義形式で行う。各回の授業では最低限の事項が書かれたレジュメを配布して、適宜解説を行う。受講者はレジュメに適宜加筆するとともに、毎回の講義後はコメントを提出する。コメントに対して次の回の冒頭でフィードバックを行う。

In order to achieve the above objectives, lectures on the definition of media, its history, changes in daily life due to technological development, and related theoretical perspectives will be given in the first through fourth sessions. In the fifth to tenth sessions, the history of media audience research will be lectured while introducing specific research cases. From the 11th lecture, we will study the latest research results.

The class will be conducted in lecture format. In each class, a resume with minimum information will be distributed, and explanations will be given as necessary. Students are expected to add to their resumes and submit comments after each lecture. Feedback on the comments will be given at the beginning of the next class.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. なぜ、メディア研究か？—メディアの定義と発達の歴史
3. メディアの発達がもたらしたもの—日常生活と感覚の変容
4. メディア・オーディエンスとは何か？
5. 効果研究史(1)—弾丸理論・皮下注射論
6. 効果研究史(2)—限定効果説・利用と満足の研究
7. 効果研究史(3)—強力効果論
8. オーディエンス研究史(1)—エンコーディング/デコーディング
9. オーディエンス研究史(2)—オーディエンス・エスノグラフィー
10. オーディエンス研究史(3)—構成主義的視座の登場
11. オーディエンス研究史(4)—構成主義的研究の実例／体系化への試み
12. 現在のオーディエンス研究(1)—ファンというオーディエンス
13. 現在のオーディエンス研究(2)—インターネット時代の論点
14. 現在のオーディエンス研究(3)—メディア経験とアイデンティティ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

受講前に、メディア研究に関する入門的な文献を通読しておくことが望ましい。また、授業で配布するレジュメには各回の参考文献を記載するので、学びを深めるために必要に応じて講読してほしい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(70%)/WEBテスト(3回分)(30%)

テキスト(Textbooks)

特になし

参考文献(Readings)

1. Karen Ross and Virginia Nightingal/児島和人・高橋利枝・阿部潔訳、2007、『メディアオーディエンスとは何か』、新曜社
その他、授業中に適宜紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE504／若者とメディア (Children, Youths and Media)		
担当者名 (Instructor)	宇野 常寛(UNO TSUNEHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

若者論/メディア論/文化論を横断し、現代社会と文化の全体像を掴む。

To understand what is happening in the world and how our culture is changing through thinking about the activity of young generation and media.

授業の内容 (Course Contents)

情報化以降、あるいは戦後中流文化の解体以降の文化状況の批評を行う

Reviewing how the middle class culture has been changing after WWW.

授業計画 (Course Schedule)

- ・評価方法とこの授業のルール
・宇野の自己紹介
・この授業で扱うこと
・テキストの紹介
- 「境界のない世界」をめぐる
・2016年の「敗北」——トランプとブレグジット
・政治と経済のパワーバランス
・開く国家と閉ざされる都市
・グローバリゼーションの功罪——「ファクトフルネス」に考える
・「境界のない世界」は「境界のある世界」飲み込めるか
・チームラボの挑戦と三つの境界線
- 戦争と平和の現在形——メディア論から考える
・「映像の世紀」と世界大戦／冷戦
・テロとインターネット
・テロリズムは日常性を切断し得るか——アニメから戦争を考える
・平和マーケティングの可能性
- 「昼の世界」から「夜の世界」へ
・日本のインターネットの歴史——imode、2ちゃんねる、ニコ動、そして衰退
・ゲーミフィケーションと「中間のもの」
・日本的想像力と新しい人間性
・消極性研究から考える
- 戦後中流からマイルドヤンキー／新しいホワイトカラーへ
・東京が「西」へ伸びたところ——戦後中流の時代
・郊外化とマイルドヤンキー／都心回帰とあたらしいホワイトカラー
・ランナーの視点から都市を考える
- 「動員の革命」はなぜ失敗したか
・平成というテレビポピュリズムの時代
・「アラブの春」と「動員の革命」
・テレビの従属物と化したインターネット
・いま必要なのは「もっと遅いインターネット」だ
- 映像の世紀とその終わり
・ハリウッドと「映像の世代」——スターウォーズと妖怪ウォッチ
・「笑っていいとも」はなぜ飽きられたのか
・「映像の世紀」から「ネットワークの世紀」へ
- ディズニーとグーグルのあいだで
・「情報から体験へ」「他人の物語から自分の物語」へ
・音楽市場は三世紀の中国大陆——いま、音楽に何が求められているか
・20世紀型ディズニーVS21世紀型 Google

- ・ もはや「検索」の時代ではない
- ・ ジョン・ハンケと「大きなゲーム」
- 9. ネット社会の衣食住
 - ・ インターネットは「食」をどう変えたかー「食ベログ」と「クックパッド」
 - ・ ノームコアと五体満足主義
 - ・ なぜ若いサラリーマンはアウトドアウェアで出勤するのか
 - ・ 西海岸のギークカルチャーと東京のオタクカルチャー
 - ・ 不動産情報サイトと「空き家大国ニッポン」
- 10. メイカーズムーブメントとその日本的展開
 - ・ ソニーはなぜ負けたか
 - ・ 日本のものづくりの敗北とメイカーズムーブメント
 - ・ DMM.make AKIBA の挑戦 ―Open Share Join
 - ・ ドラえもんはジョブズを超えた？
 - ・ モーティゼーションの 20 世紀から MASS の 21 世紀へ
- 11. 地理と文化のシーソーゲーム
 - ・ ストリートが何も生まない時代ー情報社会の地理と文化
 - ・ 国家から都市へーグローバリゼーションの主役は誰か
 - ・ 福岡とグローバル戦略
 - ・ 「地方創世」は可能かーほんとうに「地方が生き残る」とは
- 12. 消費社会から情報社会へ
 - ・ 國分功一郎「暇と退屈の倫理学」
 - ・ 「モノ」から「コト」へー消費社会から情報社会へ
 - ・ 「ほぼ日」の達成とその弱点
 - ・ キッチュであることの意味
 - ・ 戦後ロボットアニメと男性的身体
- 13. 出版の未来
 - ・ 紙の本が終わるとき ―おぢいさんのランプ 2016
 - ・ 幻冬舎と箕輪編集室ー「本」の変質
 - ・ 本と Wikipedia の間のもの
 - ・ 日本語の散文はインターネットで変質する？
- 14. TOKYO2020 ―オリンピックから考える近未来日本
 - ・ ビジョンなき五輪のその後ー2020 年を総括する
 - ・ 多様性のためのオリンピックー近代五輪/スポーツを解体せよ
 - ・ レガシーとしての「東京5分割計画」

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキスト、参考文献を熟読しておくことが望ましい

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 宇野常寛、2020、『遅いインターネット』、幻冬舎 (ISBN:4344035763)
2. 宇野常寛、2022、『砂漠と異人たち』、朝日新聞出版 (ISBN:4022518405)
3. 宇野常寛、2018、PLANETS vo.10、PLANETS (ISBN:4905325110)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE505／音楽社会学 (Sociology of Music)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	童謡はいつから日本人の心のふるさとに“なった”のか		
担当者名 (Instructor)	井手口 彰典(IDEGUCHI AKINORI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

音楽社会学は、その名の通り「音楽を通じて社会を考える」学問である。個々の社会における常識(ものの見方や思考の枠組み)は決して不変・普遍ではなく、時代や地域が変われば大きく様変わりする。この授業では、音楽(特に童謡)に注目することを通じて、そうした社会常識の変化を確認し、もって現代を「相対化」することを試みる。受講生には、現在進行形で変容する文化を分析するための視座を獲得してもらいたい。また併せて、提示されたテキストを能動的・批判的に読む姿勢も身につけてもらいたい。

Sociology of music is the study which thinks the society through musics. The common sense in each societies changes a lot by the era or the region. In this class, we confirm such changes of common sense through observing music, especially Japanese nursery rhymes. Students will be expected to get the skill of analyzing the culture which continues changing.

授業の内容 (Course Contents)

授業担当者が2018年に発表した書籍『童謡の百年』を教科書に用い、社会と音楽との関係を具体的事例に沿って考えて行く。なお同書は、「童謡」に対する我々の一般的・今日的イメージ(「日本人の心のふるさと」)が、どのような経緯のなかで成立・浸透してきたのかを追跡するものである。

Text book is "Doyo no Hyakunen" (Chikuma Syobo, 2018), written by the instructor. This book treats the circumstance which our general and contemporary image about Doyo was materialized and have permeated.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション(音楽社会学の働きと意義)
2. 童謡前史
3. 童謡の誕生
4. サウンドとしての童謡
5. 児童童謡歌手の隆盛
6. 童謡の同時代性
7. 転身・潜在化する童謡歌手
8. 明示百年と「古い歌」の成立
9. 童謡ブーム
10. 「ちびっこのどじまん」は何を変えたか
11. 60年代と「大人の歌／子どもの歌」
12. 具象化される「心のふるさと」
13. 「ふるさと」のインデックス
14. 結論: 童謡と社会

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

あらかじめ教科書を手し、目を通しておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(100%)

出席は評価の対象ではなくその前提とする。

テキスト (Textbooks)

1. 井手口彰典、2018、『童謡の百年: なぜ「心のふるさと」になったのか』、筑摩書房 (ISBN:9784480016645)

参考文献 (Readings)

授業中に適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

パワーポイントを用いた講義形式で、音声・映像資料も多数使用する。
リアクションペーパーを用いたフィードバックを行う。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE506／災害情報論 (Disaster Communications)		
担当者名 (Instructor)	長坂 俊成(NAGASAKA TOSHINARI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

災害情報(防災情報を含む)に関する理論と制度、運用、情報技術、リスクコミュニケーション手法を理解し、自治体や住民、災害ボランティア等による、平常時の防災対策や警戒期の避難行動、発災後の応急救護、復旧対策に関する意思決定を高度化する情報戦略ならびにリスクコミュニケーション戦略について考究する。

In order to protect human lives from natural disasters, it is necessary to use disaster information. The aims of this course are to understand the theory and practice of disaster information.

授業の内容(Course Contents)

自治体による防災情報を活用した事前の減災対策並びに警戒期における避難情報の運用事例を分析し、災害情報の提供と利活用にかかる課題と改善方策について検討する。また、大規模広域災害における災害情報の相互運用、地区防災計画など参加型計画提案制度や防災まちづくり、災害対応シナリオ(ラジオドラマ)づくり、災害デジタルアーカイブ、災害と復興にかかるオーラルヒストリーなどの事例分析を行う。

This course deals with the following case studies: warning of Tsunami, flood, landslide, volcanic disaster. Students will discuss on smartphone applications for disaster information media, radio drama made by residents as a risk communication, Digital archive of disaster records. Students must submit two small paper on this course.

授業計画(Course Schedule)

- 総説: 災害情報を巡る論点(制度的、社会的、技術的課題)
 - ・災害情報と防災情報の統合化
- 災害情報に関する理論・制度:
 - ・災害情報と防災情報の体系と法制度、不確実性と信頼性、災害広報、報道の自由と災害情報の提供、メディアの役割、パニック論等
- 災害情報と情報技術:
 - ・オープンデータ、ビッグデータ、リアルタイム、ナウキャスト、災害監視とセンサー、シミュレーション、現況と予測、伝達メディアの多様化・多重化、地理空間情報の相互運用とマッシュアップ
 - ・スマホの音声アプリと避難情報(infoSakai、Web ラジオちよだの事例)
- 災害情報とリスク情報:
 - ・リスク認知とバイアス、リスクとハザード、リスクコミュニケーション
- 避難情報ガイドライン
 - ・行政依存と自己責任
- 気象情報とシングルボイス
 - ・国と自治体、研究機関、民間気象会社の役割分担
- 事例分析: 水害(外水氾濫と内水氾濫)
 - ・警戒型災害、気象情報、水防警報、避難勧告・指示、河川情報、警戒レベル、避難行動要支援者、避難確保計画、ハザードマップ、浸水実績図、タイムライン
 - ・滋賀県の流域水害対策
 - ・防災まちづくり、土地利用規制、建築制限、立地誘導、重要事項説明義務
 - ・滋賀県治水対策の事例分析
- 事例分析: 土砂災害
 - ・土砂災害警戒情報と避難行動、土砂災害警戒区域、避難体制の整備、土地利用規制、建築規制、開発許可移転誘導、警戒区域内の福祉施設、水害と土砂災害の同時発生リスク
- 事例分析: 地震・津波(その1)
 - ・津波警報、避難行動、被害想定(L1.L2)、ハザードマップ
 - ・警戒区域、防災まちづくり
 - ・地震予知、南海トラフ地震臨時情報
- 事例分析: 地震・津波(その2)
 - ・石巻市大川小学校の事例分析: 予防と対応、予見可能性と回避可能性、個人の責任と組織の責任、検証の在り方、司法判断と危機管理

11. 事例分析: 火山
 - ・噴火警戒レベル、ハザードマップ、登山者・観光客、住民の避難行動
 - ・2014 年御嶽山噴火の事例
12. 災害デジタルアーカイブスの戦略と方法
 - ・東日本大震災の事例: 311 まるとアーカイブ、自治体・図書館による災害デジタルアーカイブ、ポーンデジタル時代の災害の記録・収集・保存、映像と文書、現物とデジタル、収集基準とコレクションとアーカイブ、セルフアーカイブ、作品か記録か、オーラルヒストリー(陸前高田市の事例)、防災関連機関による災害の記録と利用(自治体、自衛隊、海上保安庁、警察、消防、関係府省)
 - ・主体とガバナンス、権利処理(著作権、肖像権、忘れられる権利、パブリシティ権、ダークアーカイブ、公開ガイドライン、秘匿処理の是非、目的外利用、守秘義務)、報道記録の社会的共有、報道機関・大学などによるデータの囲い込み、メタデータ(利用者によって付与され成長する参加型タグ、文脈を与えるリンクデータ)、2 次利用(編集と同一性保持)、対価
 - ・災害デジタルアーカイブを利用した防災教育・防災対策(岩手県大船渡市の事例)
13. 防災ラジオドラマづくり
 - ・リスクコミュニケーションと災害シナリオ: 状況の付与、タイムライン、ステークホルダー関係分析、社会資源の開発とコミュニティの関係構築
 - ・避難行動・災害対策のシナリオライティングとシミュレーション、市民と専門知
14. 総括:

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各授業前に Canvas LMS にアップするレジュメと参考文献に基づき予習して授業に臨むことが望ましい。参考文献に利用し発展的に学習することを期待する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

なし。Canvas LMS にレジュメと参考文献をアップする。また、授業内に必要な Web サイトを指示する。

参考文献(Readings)

1. 長坂俊成、2012、『記憶と記録ー311まるとアーカイブス 叢書震災と社会』、岩波書店
- その他授業時に紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

上記の項目を相互に関連づけて理解を深めるため授業計画の順序を変更する場合がある。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE507／映像メディア論 (Broadcasting & Film)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	テレビドキュメンタリーから見える社会		
担当者名 (Instructor)	石井 彰(ISHII AKIRA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

社会の実像を描き出している、優れたテレビドキュメンタリーを視聴して、現在の社会がどのようになっているのか、どのようにしていけばいいのか、これから社会でどのように働いていくのかを考察して、表現していく。

Students will watch outstanding TV documentaries that depict society's reality. Students will analyze and express their views on optimal modern society and appropriate future direction.

授業の内容 (Course Contents)

東京ではなかなか見ることが出来ない地方テレビ局が制作したドキュメンタリー番組をを毎週視聴して、その感想を書くことで、より考察を深め、自らの観察力と表現力を高めていく。

Each week, students will watch documentaries produced by regional TV stations, which are not easily accessible in Tokyo. Students will deepen their analyses by writing their views, while acquiring observation and expression skills.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション 授業内容、成績評価などについて説明
2. 働くことの現実 1 大企業での過労死
3. 働くことの現実 2 中小企業の営み
4. 働くことの現実 3 零細企業の廃業
5. 働くことの現実 4 山奥で暮らすニート
6. 働くことの現実 5 外国人技能実習生
7. 働くことの現実 6 街の電器屋
8. 働くことの現実 7 ボランティア
9. 働くことの現実 8 新聞記者
10. 働くことの現実 9 テレビ報道
11. 原9個との現実 10 障害者雇用
12. 働くことの現実 11 貧困とボランティア
13. 戦争を考える
14. 最終レポート 授業のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

ふだんから一般の新聞を読み、テレビのニュース番組を見ること

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/毎週のリアクションペーパー(40%)/毎週の課題(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 石井彰ほか、2010、『日本のドキュメンタリー第4巻』、岩波書店
2. 石井彰ほか、2013、『ラジオは真実を報道できるか』、岩波書店

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE508／広告・PR論 (Advertising and PR)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	コミュニケーションの本質とは何か。		
担当者名 (Instructor)	植村 祐嗣(UEMURA YUUJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

現代社会ともメディアとも市場経済とも不可分な関係にある「広告・PR」の理論と実践の考察を通して、大学と実社会との橋渡しを目指します。

Advertisement and PR are essential for modern society, media, and market economy.

Students will analyze these theories and practices to bridge the chasm between university and society.

授業の内容 (Course Contents)

広告とは企業戦略と大衆心理をつなぐコミュニケーションです。

「他者とお互いの価値を伝え合うとはどういうことか」という「広告的な発想」の体得は、社会学の研究にも、日々の消費行動や人間関係にも、あるいは就職活動にも、実践的に有効です。

Advertisement is communication that bridges corporate strategy and crowd psychology. What does it mean to convey our values to others bilaterally? This marketing thinking is useful in sociology researches, daily consumer behaviors, human relationships, and job hunting.

授業計画 (Course Schedule)

1. まずは前提：大学とは何か、実社会とは何か
2. そして概論：広告とは何か、コミュニケーションとは何か
3. 「I love you」は伝わるのか～「価値提供」
4. 選ばれるために足りないこと～「差別化」
5. 相手を知り、己を知る～「相性」
6. 躍らせるか踊られるか～「企業の戦略」
7. 自分を広告してみる～言うは易し行うは難し
8. 広告業界、広告ビジネスの実際
9. 百花繚乱&千差万別～「広告媒体」
10. まだまだ広告ビジネスの王様～「テレビ広告」
11. 「デジタルマーケティング」
12. 「ネット広告」の深淵
13. Q&A～「大学と社会の架け橋」
14. この授業を通して体得したこととは

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

「コミュニケーションの本質」をともに考えるうえで、「授業スタイル」も教材なので授業のみに集中してください。そうすると、生きている環境すべてが「復習＆予習」にみえてくるでしょう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)／中間レポート(40%)
欠席が5回以上の学生は評価の対象としません。

テキスト (Textbooks)

広告もコミュニケーションも「いきもの」です。

真に役立つ「テキスト＝文字の羅列」など永遠に存在しません。

生活している状況全てが「テキスト＝学ぶべき原典」です。

参考文献 (Readings)

1. 日本インタラクティブ広告協会、2019、『必携 インターネット広告』、インプレス (ISBN:978-4-295-00740-1)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

みなさんの人生観(場合によっては人生そのもの)に影響します。
ご覚悟を。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE509／メディア・環境・コミュニティ (Media, Environment and Community)		
担当者名 (Instructor)	後藤 千恵(GOTO CHIE)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	集中講義(夏季) 8月21日(月)～8月24日(木) 2～4限 8月25日(金) 2～3限 教室:D302 教室		

授業の目標(Course Objectives)

気候危機、貧困・不平等の拡大、つながりの喪失…。産業革命以降の経済成長と引き換えにもたらされた深刻な危機の連鎖に私たちはどう立ち向かい、未来への責任をどう果たすのか。メディアには何ができるのか。5日間の集中講義で社会の危機を自分ごと化し、新たな時代の価値を共創することを目指す。

A serious chain of crises such as climate crisis, growing poverty and inequality, loss of relationships has been brought about instead of economic growth since the Industrial Revolution. How do we resolve those crises and fulfill our responsibilities for the future? What can the media do? In this five-day intensive lecture, students will consider such a crisis as their own problem and aim to co-create new value for the next era through creative dialogue.

授業の内容(Course Contents)

講師は、30年にわたってテレビ報道に携わり、2021年、放送局を早期退職して熊本県天草市へ移住、地域づくりの実践に取り組みつ、ジャーナリストとして活動している。授業の前半は、講師が時代の転換点にある社会の変化を読み解き、後半は各テーマに関する本質的な問いをもとに少人数のグループに分かれて意見を交わす。参加者相互の経験や思いを共有し、創造的対話による学びを重ねていく。

Professor Chie Goto had been a news reporter and commentator for 30 years. She retired from TV station and moved to Amakusa last summer where she is writing articles while working on community development. In the first half of this lecture, she will give a lecture on social changes at the turning point of the times. In the second half of the class, students will be divided into small groups and have dialogues about the essential question she gave. Participants share their experiences and ideas and aim for creative dialogue.

授業計画(Course Schedule)

- 1日目－①イントロダクション
- 1日目－②リスク1:気候変動の危機
- 1日目－③リスク2:資本主義の危機
- 2日目－①未来への対話「食」
- 2日目－②未来への対話「農」
- 2日目－③未来への対話「時」
- 3日目－①未来への対話「地域×デザイン」
- 3日目－②ゲストスピーカーの講演「成功の反対は失敗ではなく、挑戦しないこと」
- 3日目－③未来への対話「村を拓く」
- 4日目－①未来への対話「豊かさとは何か」
- 4日目－②ゲスト・スピーカーの講演「地域を編集し、新しい未来を作るメディア」
- 4日目－③未来への対話「メディア～"伝える"の先へ～」
- 5日目－①バックキャスト思考で今を楽しみながら未来への責任を果たす
- 5日目－②総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業の後半、3～4人ずつのグループに分かれて20分間ディスカッションし、結果を発表する。異なる学部、学年の学生が創造的対話を通じて相互に学び合う楽しさ・醍醐味を味わってほしい。そのためにも、メディア・環境・コミュニティというテーマに関して日頃から関心を持ち、思考を巡らせておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)／創造的対話への貢献(40%)／各日、授業終了後に提出するミニレポート(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／広告・PR論 (Advertising and PR)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	コミュニケーションの本質とは何か。		
担当者名 (Instructor)	植村 祐嗣(UEMURA YUUJI)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

現代社会ともメディアとも市場経済とも不可分な関係にある「広告・PR」の理論と実践の考察を通して、大学と実社会との橋渡しを目指します。

Advertisement and PR are essential for modern society, media, and market economy.

Students will analyze these theories and practices to bridge the chasm between university and society.

授業の内容 (Course Contents)

広告とは企業戦略と大衆心理をつなぐコミュニケーションです。

「他者とお互いの価値を伝え合うとはどういうことか」という「広告的な発想」の体得は、社会学の研究にも、日々の消費行動や人間関係にも、あるいは就職活動にも、実践的に有効です。

Advertisement is communication that bridges corporate strategy and crowd psychology. What does it mean to convey our values to others bilaterally? This marketing thinking is useful in sociology researches, daily consumer behaviors, human relationships, and job hunting.

授業計画 (Course Schedule)

1. まずは前提：大学とは何か、実社会とは何か
2. そして概論：広告とは何か、コミュニケーションとは何か
3. 「I love you」は伝わるのか～「価値提供」
4. 選ばれるために足りないこと～「差別化」
5. 相手を知り、己を知る～「相性」
6. 躍らせるか踊られるか～「企業の戦略」
7. 自分を広告してみる～言うは易し行うは難し
8. 広告業界、広告ビジネスの実際
9. 百花繚乱&千差万別～「広告媒体」
10. まだまだ広告ビジネスの王様～「テレビ広告」
11. 「デジタルマーケティング」
12. 「ネット広告」の深淵
13. Q&A～「大学と社会の架け橋」
14. この授業を通して体得したこととは

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

「コミュニケーションの本質」をともに考えるうえで、「授業スタイル」も教材なので授業のみに集中してください。そうすると、生きている環境すべてが「復習＆予習」にみえてくるでしょう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)/中間レポート(40%)
欠席が5回以上の学生は評価の対象としません。

テキスト (Textbooks)

広告もコミュニケーションも「いきもの」です。

真に役立つ「テキスト＝文字の羅列」など永遠に存在しません。

生活している状況全てが「テキスト＝学ぶべき原典」です。

参考文献 (Readings)

1. 日本インタラクティブ広告協会、2019、『必携 インターネット広告』、インプレス (ISBN:978-4-295-00740-1)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

みなさんの人生観(場合によっては人生そのもの)に影響します。
ご覚悟を。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／若者とメディア (Children, Youths and Media)		
担当者名 (Instructor)	宇野 常寛(UNO TSUNEHIRO)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標(Course Objectives)

若者論/メディア論/文化論を横断し、現代社会と文化の全体像を掴む。

To understand what is happening in the world and how our culture is changing through thinking about the activity of young generation and media.

授業の内容(Course Contents)

情報化以降、あるいは戦後中流文化の解体以降の文化状況の批評を行う

Reviewing how the middle class culture has been changing after WWW.

授業計画(Course Schedule)

- ・評価方法とこの授業のルール
・宇野の自己紹介
・この授業で扱うこと
・テキストの紹介
- 「境界のない世界」をめぐる
・2016 年の「敗北」——トランプとブレグジット
・政治と経済のパワーバランス
・開く国家と閉ざされる都市
・グローバリゼーションの功罪——「ファクトフルネス」に考える
・「境界のない世界」は「境界のある世界」飲み込めるか
・チームラボの挑戦と三つの境界線
- 戦争と平和の現在形——メディア論から考える
・「映像の世紀」と世界大戦／冷戦
・テロとインターネット
・テロリズムは日常性を切断し得るか——アニメから戦争を考える
・平和マーケティングの可能性
- 「昼の世界」から「夜の世界」へ
・日本のインターネットの歴史——imode、2ちゃんねる、ニコ動、そして衰退
・ゲーミフィケーションと「中間のもの」
・日本的想像力と新しい人間性
・消極性研究から考える
- 戦後中流からマイルドヤンキー／新しいホワイトカラーへ
・東京が「西」へ伸びたところ——戦後中流の時代
・郊外化とマイルドヤンキー／都心回帰とあたらしいホワイトカラー
・ランナーの視点から都市を考える
- 「動員の革命」はなぜ失敗したか
・平成というテレビポピュリズムの時代
・「アラブの春」と「動員の革命」
・テレビの従属物と化したインターネット
・いま必要なのは「もっと遅いインターネット」だ
- 映像の世紀とその終わり
・ハリウッドと「映像の世代」——スターウォーズと妖怪ウォッチ
・「笑っていいとも」はなぜ飽きられたのか
・「映像の世紀」から「ネットワークの世紀」へ
- ディズニーとグーグルのあいだで
・「情報から体験へ」「他人の物語から自分の物語」へ
・音楽市場は三世紀の中国大陆 ——いま、音楽に何が求められているか
・20 世紀型ディズニーVS21 世紀型 Google

- ・ もはや「検索」の時代ではない
- ・ ジョン・ハンケと「大きなゲーム」
- 9. ネット社会の衣食住
 - ・ インターネットは「食」をどう変えたかー「食べログ」と「クックパッド」
 - ・ ノームコアと五体満足主義
 - ・ なぜ若いサラリーマンはアウトドアウェアで出勤するのか
 - ・ 西海岸のギークカルチャーと東京のオタクカルチャー
 - ・ 不動産情報サイトと「空き家大国ニッポン」
- 10. メイカーズムーブメントとその日本的展開
 - ・ ソニーはなぜ負けたか
 - ・ 日本のものづくりの敗北とメイカーズムーブメント
 - ・ DMM.make AKIBA の挑戦 ―Open Share Join
 - ・ ドラえもんはジョブズを超えた？
 - ・ モーティゼーションの 20 世紀から MASS の 21 世紀へ
- 11. 地理と文化のシーソーゲーム
 - ・ ストリートが何も生まない時代ー情報社会の地理と文化
 - ・ 国家から都市へーグローバリゼーションの主役は誰か
 - ・ 福岡とグローバル戦略
 - ・ 「地方創世」は可能かーほんとうに「地方が生き残る」とは
- 12. 消費社会から情報社会へ
 - ・ 國分功一郎「暇と退屈の倫理学」
 - ・ 「モノ」から「コト」へー消費社会から情報社会へ
 - ・ 「ほぼ日」の達成とその弱点
 - ・ キッチンであることの意味
 - ・ 戦後ロボットアニメと男性的身体
- 13. 出版の未来
 - ・ 紙の本が終わるとき ―おぢいさんのランプ 2016
 - ・ 幻冬舎と箕輪編集室ー「本」の変質
 - ・ 本と Wikipedia の間のもの
 - ・ 日本語の散文はインターネットで変質する？
- 14. TOKYO2020 ―オリンピックから考える近未来日本
 - ・ ビジョンなき五輪のその後ー2020 年を総括する
 - ・ 多様性のためのオリンピックー近代五輪/スポーツを解体せよ
 - ・ レガシーとしての「東京5分割計画」

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキスト、参考文献を熟読しておくことが望ましい

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 宇野常寛、2020、『遅いインターネット』、幻冬舎 (ISBN:4344035763)
2. 宇野常寛、2022、『砂漠と異人たち』、朝日新聞出版 (ISBN:4022518405)
3. 宇野常寛、2018、PLANETS vo.10、PLANETS (ISBN:4905325110)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／音楽社会学 (Sociology of Music)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	童謡はいつから日本人の心のふるさとに“なった”のか		
担当者名 (Instructor)	井手口 彰典(IDEGUCHI AKINORI)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 80 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

音楽社会学は、その名の通り「音楽を通じて社会を考える」学問である。個々の社会における常識(ものの見方や思考の枠組み)は決して不変・普遍ではなく、時代や地域が変われば大きく様変わりする。この授業では、音楽(特に童謡)に注目することを通じて、そうした社会常識の変化を確認し、もって現代を「相対化」することを試みる。受講生には、現在進行形で変容する文化を分析するための視座を獲得してもらいたい。また併せて、提示されたテキストを能動的・批判的に読む姿勢も身につけてもらいたい。

Sociology of music is the study which thinks the society through musics. The common sense in each societies changes a lot by the era or the region. In this class, we confirm such changes of common sense through observing music, especially Japanese nursery rhymes. Students will be expected to get the skill of analyzing the culture which continues changing.

授業の内容 (Course Contents)

授業担当者が2018年に発表した書籍『童謡の百年』を教科書に用い、社会と音楽との関係を具体的事例に沿って考えて行く。なお同書は、「童謡」に対する我々の一般的・今日的イメージ(「日本人の心のふるさと」)が、どのような経緯のなかで成立・浸透してきたのかを追跡するものである。

Text book is "Doyo no Hyakunen" (Chikuma Syobo, 2018), written by the instructor. This book treats the circumstance which our general and contemporary image about Doyo was materialized and have permeated.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション(音楽社会学の働きと意義)
2. 童謡前史
3. 童謡の誕生
4. サウンドとしての童謡
5. 児童童謡歌手の隆盛
6. 童謡の同時代性
7. 転身・潜在化する童謡歌手
8. 明示百年と「古い歌」の成立
9. 童謡ブーム
10. 「ちびっこのどじまん」は何を変えたか
11. 60年代と「大人の歌／子どもの歌」
12. 具象化される「心のふるさと」
13. 「ふるさと」のインデックス
14. 結論: 童謡と社会

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

あらかじめ教科書を手し、目を通しておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(100%)

出席は評価の対象ではなくその前提とする。

テキスト (Textbooks)

1. 井手口彰典、2018、『童謡の百年: なぜ「心のふるさと」になったのか』、筑摩書房 (ISBN:9784480016645)

参考文献 (Readings)

授業中に適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

パワーポイントを用いた講義形式で、音声・映像資料も多数使用する。
リアクションペーパーを用いたフィードバックを行う。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／映像メディア論 (Broadcasting & Film)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	テレビドキュメンタリーから見える社会		
担当者名 (Instructor)	石井 彰(ISHII AKIRA)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

社会の実像を描き出している、優れたテレビドキュメンタリーを視聴して、現在の社会がどのようになっているのか、どのようにしていけばいいのか、これから社会でどのように働いていくのかを考察して、表現していく。

Students will watch outstanding TV documentaries that depict society's reality. Students will analyze and express their views on optimal modern society and appropriate future direction.

授業の内容 (Course Contents)

東京ではなかなか見ることが出来ない地方テレビ局が制作したドキュメンタリー番組をを毎週視聴して、その感想を書くことで、より考察を深め、自らの観察力と表現力を高めていく。

Each week, students will watch documentaries produced by regional TV stations, which are not easily accessible in Tokyo. Students will deepen their analyses by writing their views, while acquiring observation and expression skills.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション 授業内容、成績評価などについて説明
2. 働くことの現実 1 大企業での過労死
3. 働くことの現実 2 中小企業の営み
4. 働くことの現実 3 零細企業の廃業
5. 働くことの現実 4 山奥で暮らすニート
6. 働くことの現実 5 外国人技能実習生
7. 働くことの現実 6 街の電器屋
8. 働くことの現実 7 ボランティア
9. 働くことの現実 8 新聞記者
10. 働くことの現実 9 テレビ報道
11. 原9個との現実 10 障害者雇用
12. 働くことの現実 11 貧困とボランティア
13. 戦争を考える
14. 最終レポート 授業のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

ふだんから一般の新聞を読み、テレビのニュース番組を見ること

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/毎週のリアクションペーパー(40%)/毎週の課題(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 石井彰ほか、2010、『日本のドキュメンタリー第4巻』、岩波書店
2. 石井彰ほか、2013、『ラジオは真実を報道できるか』、岩波書店

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE531／メディア・テクノロジー・社会 (Media,Technology and Society)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日常生活におけるテクノロジーとしてのメディア		
担当者名 (Instructor)	是永 論(KORENAGA RON)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

日常生活におけるテクノロジーの普及・利用としてメディアをとらえ直すことを目的とする。

This course provides the opportunity to reconsider the media as diffusion and use of technologies in everyday life.

授業の内容 (Course Contents)

近年におけるメディア・テクノロジーの展開が、デジタル化 (DX: digital transformation) インターネットにつながったモノ (IoT: internet of things) や、人工知能 (AI: artificial intelligence) などについて、人間の社会に与える科学の影響として議論されて来たのに対して、この授業では衣食住にわたる日常生活におけるさまざまな実践についてテクノロジーが持つ意味を考察しながら、これまでの社会に普及したものを含めて、メディアの利用や普及をとらえ直すことを目的とする。

メディアの日常的な利用状況 (情報行動) のほかに、アクターとしてのメディアのネットワーク的な展開、メディアとしての移動 (モビリティーズ) などの具体的な論点について、社会学が人類学などの周辺領域と進めたアプローチの仕方を紹介する機会とした。

This course aims to reconsider the diffusion and use of media from the viewpoint of the meaning of technologies in terms of practice in everyday life rather than arguing the recent development of media and technologies such as artificial intelligence, internet of things and digital formations in terms of the social impact of science.

Students will be provided with the opportunities to learn how sociology approaches to the issue such as information practice, actor networking of media and mobilities as media, in accordance with anthropology and other fields.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 科学技術の社会学 (STS)
2. 日常生活の中のメディア1: 生活時間と情報行動
3. 日常生活の中のメディア2: 20 世紀におけるメディアの普及
4. テクノロジーの「家庭化」とメディア
5. 「社会を組み立てる」技術: アクター・ネットワーク
6. 「移動」としてのメディア: モビリティーズとパノラマ
7. メディアに関わる日常的な実践 (ワーク) のエスノメソドロジー
8. 関係の中のテクノロジー: 「弱いロボット」という視点
9. 「電車」のある日常: 通勤における実践とメディア
10. 「自然」を飼いなす: 郊外型社会とキャラクターの作るイメージ
11. 「機械」が家庭に入る時: ミシンとファッションの近代化
12. グローバル・メディアとしてのラーメン: 食の「伝統」とメディア
13. テクノロジーがもたらす「感情」: グリーフケアをめぐる
14. 全体総括

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

資料の配布および課題の提出は原則としてすべてオンラインで行い、紙媒体は使用しない。資料はできるだけ事前にダウンロードして目を通しておくこと。

シラバスおよび授業で示した文献は試験に使用することもあるので、どれか一部でよいので興味のあるものを学期内に読んでおくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験 (Written Exam) (60%) / 授業内課題 (30%) / 中間課題 (10%)

筆記試験では持ち込んだ文献を使用して解答を作成する。授業内課題の評価については、授業時間を基準として提出された時間を評価上の参考にする。授業で紹介した解答には成績に加点する。

テキスト (Textbooks)

1. 小川(西秋)葉子, 是永論, 太田邦史編, 2020、『モビリティーズのまなざし: ジョン・アーリの思想と実践』、丸善出版 (ISBN:9784621305652)

授業内容と関連した部分が多いため、テキストとして指定するが、購入する場合は、授業での言及は一部にとどまることを了解されたい。試験で使用する文献は、参考文献を含めてテキスト以外のものを購入して使用してもよい。

参考文献 (Readings)

1. ジョン・アーリ, 2015、『モビリティーズ』、作品社 (ISBN:9784861825286)
 2. ルース・S・コーワン, 2011、『お母さんは忙しくなるばかり: 家事労働とテクノロジーの社会史』、法政大学出版会 (ISBN:9784588364143)
 3. アンドルー・ゴードン, 2013、『ミシンと日本の近代: 消費者の創出』、みすず書房 (ISBN:9784622077701)
 4. 岡田美智男, 2017、『「弱いロボット」の思考: わたし・身体・コミュニケーション』、講談社現代新書 (ISBN:9784062884334)
 5. 速水健男, 2011、『ラーメンと愛国』、講談社現代新書 (ISBN:9784062800419)
 6. クリスティン・ヤノ, 2017、『なぜ世界中が、ハローキティを愛するのか?—“カワイイ”を世界共通語にしたキャラクター』、作品社 (ISBN:9784861825934)
- 各回の授業資料の中で指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

口頭での応答のほか、提出課題のコメントなども、実名によるコミュニケーションを重視したい。そのため、原則として初回から最後まで対面形式を継続する予定である。オンラインに切り替える場合は指示によって Google Meet を使用するが、リアルタイムで対面と混合するような形式(ミックス型)は取らない。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE532／メディア産業論 (Information Industries)		
担当者名 (Instructor)	砂川 浩慶(SUNAKAWA HIROYOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録用コードで申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

メディアそのものとその産業的側面について、受講生自ら考え、メディアの社会的意義について理解を深める。

Students will think about media itself and its industrial aspects, and deepen their understanding of the social significance of media.

授業の内容 (Course Contents)

メディアとは何かをまず考えたうえで、メディアの社会的役割、個人とメディアの向き合い方・使い方、メディア産業の全体像、各メディアの現状、戦争とメディア、インターネットと既存メディアとの相違など個別のテーマについて考え理解を深めていきたい。メディアで働く方をゲストスピーカーとして呼びし授業を行うとともに、見ておいてほしい映像作品を見てもらい感想を提出してもらう。

After considering what media is, the social role of media, how individuals and media interact and use, the overall picture of the media industry, the current state of each media, war and media, the differences between the Internet and existing media, etc. I want to deepen my understanding by thinking about individual themes. In addition to inviting people who work in the media as guest speakers to give classes, they will also have them watch videos they want to see and submit their impressions.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. メディアとは何か
3. メディアの社会的役割
4. メディアの媒体特性
5. マスメディアとインターネット・SNS の比較
6. ネットリテラシー～“匿名”で自分を壊すな
7. ジャーナリズムの意義
8. 戦争とメディア①
9. 戦争とメディア②
10. メディア産業①放送
11. メディア産業②新聞
12. メディア産業③出版
13. メディア産業④インターネット
14. これからのメディア産業

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

社会の動き、メディアの動向などについて、自ら関心を持ち、自主的に学習のうえ、授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(30%)/アンケート、ゲストスピーカーへの質問、ゲストスピーカー授業の感想、鑑賞した映像作品の感想文など課題(70%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

各メディア企業・組織の HP を参照すること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア・テクノロジー・社会 (Media, Technology and Society)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日常生活におけるテクノロジーとしてのメディア		
担当者名 (Instructor)	是永 論(KORENAGA RON)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標(Course Objectives)

日常生活におけるテクノロジーの普及・利用としてメディアをとらえ直すことを目的とする。

This course provides the opportunity to reconsider the media as diffusion and use of technologies in everyday life.

授業の内容(Course Contents)

近年におけるメディア・テクノロジーの展開が、デジタル化(DX: digital transformation)インターネットにつながったモノ(IoT: internet of things)や、人工知能(AI: artificial intelligence)などについて、人間の社会に与える科学の影響として議論されて来たのに対して、この授業では衣食住にわたる日常生活におけるさまざまな実践についてテクノロジーが持つ意味を考察しながら、これまでの社会に普及したものを含めて、メディアの利用や普及をとらえ直すことを目的とする。

メディアの日常的な利用状況(情報行動)のほかに、アクターとしてのメディアのネットワーク的な展開、メディアとしての移動(モビリティーズ)などの具体的な論点について、社会学が人類学などの周辺領域と進めたアプローチの仕方を紹介する機会とした。

This course aims to reconsider the diffusion and use of media from the viewpoint of the meaning of technologies in terms of practice in everyday life rather than arguing the recent development of media and technologies such as artificial intelligence, internet of things and digital formations in terms of the social impact of science.

Students will be provided with the opportunities to learn how sociology approaches to the issue such as information practice, actor networking of media and mobilities as media, in accordance with anthropology and other fields.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション: 科学技術の社会学(STS)
2. 日常生活の中のメディア1: 生活時間と情報行動
3. 日常生活の中のメディア2: 20 世紀におけるメディアの普及
4. テクノロジーの「家庭化」とメディア
5. 「社会を組み立てる」技術: アクター・ネットワーク
6. 「移動」としてのメディア: モビリティーズとパノラマ
7. メディアに関わる日常的な実践(ワーク)のエスノメソドロジー
8. 関係の中のテクノロジー: 「弱いロボット」という視点
9. 「電車」のある日常: 通勤における実践とメディア
10. 「自然」を飼いならす: 郊外型社会とキャラクターの作るイメージ
11. 「機械」が家庭に入る時: ミシンとファッションの近代化
12. グローバル・メディアとしてのラーメン: 食の「伝統」とメディア
13. テクノロジーがもたらす「感情」: グリーフケアをめぐる
14. 全体総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

資料の配布および課題の提出は原則としてすべてオンラインで行い、紙媒体は使用しない。資料はできるだけ事前にダウンロードして目を通しておくこと。

シラバスおよび授業で示した文献は試験に使用することもあるので、どれか一部でよいので興味のあるものを学期内に読んでおくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/授業内課題(30%)/中間課題(10%)

筆記試験では持ち込んだ文献を使用して解答を作成する。授業内課題の評価については、授業時間を基準として提出された時間を評価上の参考にする。授業で紹介した解答には成績に加点する。

テキスト(Textbooks)

1. 小川(西秋)葉子, 是永論, 太田邦史編, 2020、『モビリティーズのまなざし: ジョン・アーリの思想と実践』、丸善出版 (ISBN:9784621305652)

授業内容と関連した部分が多いため、テキストとして指定するが、購入する場合は、授業での言及は一部にとどまることを了解されたい。試験で使用する文献は、参考文献を含めてテキスト以外のものを購入して使用してもよい。

参考文献 (Readings)

1. ジョン・アーリ, 2015、『モビリティーズ』、作品社 (ISBN:9784861825286)
 2. ルース・S・コーワン, 2011、『お母さんは忙しくなるばかり: 家事労働とテクノロジーの社会史』、法政大学出版会 (ISBN:9784588364143)
 3. アンドルー・ゴードン, 2013、『ミシンと日本の近代: 消費者の創出』、みすず書房 (ISBN:9784622077701)
 4. 岡田美智男, 2017、『「弱いロボット」の思考: わたし・身体・コミュニケーション』、講談社現代新書 (ISBN:9784062884334)
 5. 速水健男, 2011、『ラーメンと愛国』、講談社現代新書 (ISBN:9784062800419)
 6. クリスティン・ヤノ, 2017、『なぜ世界中が、ハローキティを愛するのか?—“カワイイ”を世界共通語にしたキャラクター』、作品社 (ISBN:9784861825934)
- 各回の授業資料の中で指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

口頭での応答のほか、提出課題のコメントなども、実名によるコミュニケーションを重視したい。そのため、原則として初回から最後まで対面形式を継続する予定である。オンラインに切り替える場合は指示によって Google Meet を使用するが、リアルタイムで対面と混合するような形式(ミックス型)は取らない。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／メディア産業論 (Information Industries)		
担当者名 (Instructor)	砂川 浩慶(SUNAKAWA HIROYOSHI)		
学期 (Semester)		単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50 名) 社会学部生は科目コード登録にて申し込むこと		

授業の目標 (Course Objectives)

メディアそのものとその産業的側面について、受講生自ら考え、メディアの社会的意義について理解を深める。

Students will think about media itself and its industrial aspects, and deepen their understanding of the social significance of media.

授業の内容 (Course Contents)

メディアとは何かをまず考えたうえで、メディアの社会的役割、個人とメディアの向き合い方・使い方、メディア産業の全体像、各メディアの現状、戦争とメディア、インターネットと既存メディアとの相違など個別のテーマについて考え理解を深めていきたい。メディアで働く方をゲストスピーカーとして呼びし授業を行うとともに、見ておいてほしい映像作品を見てもらい感想を提出してもらう。

After considering what media is, the social role of media, how individuals and media interact and use, the overall picture of the media industry, the current state of each media, war and media, the differences between the Internet and existing media, etc. I want to deepen my understanding by thinking about individual themes. In addition to inviting people who work in the media as guest speakers to give classes, they will also have them watch videos they want to see and submit their impressions.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. メディアとは何か
3. メディアの社会的役割
4. メディアの媒体特性
5. マスメディアとインターネット・SNS の比較
6. ネットリテラシー～“匿名”で自分を壊すな
7. ジャーナリズムの意義
8. 戦争とメディア①
9. 戦争とメディア②
10. メディア産業①放送
11. メディア産業②新聞
12. メディア産業③出版
13. メディア産業④インターネット
14. これからのメディア産業

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

社会の動き、メディアの動向などについて、自ら関心を持ち、自主的に学習のうえ、授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(30%)/アンケート、ゲストスピーカーへの質問、ゲストスピーカー授業の感想、鑑賞した映像作品の感想文など課題(70%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

各メディア企業・組織の HP を参照すること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE581／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	曹 慶鎬(CHO KYONGHO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文にあたって、テーマ設定、先行研究のサーベイ、研究対象の焦点化、議論の展開の方法の吟味、などについて随時、相談、ディスカッションを繰り返しながら、最終的に卒業論文を完成する。

This course will aim to prepare students for completing the graduation thesis through repeated consultation and discussion from time to time about theme setting, survey of previous research, focusing on research subjects, examination of methods of development of discussion, etc.

授業の内容 (Course Contents)

卒業論文にあたって、テーマ設定、先行研究のサーベイ、研究対象の焦点化、議論の展開の方法の吟味、などについて随時、相談、ディスカッションを繰り返しながら、最終的に卒業論文を完成できるよう指導を行なう。

To complete the graduation thesis writing, we instructs to finally finish their graduation thesis through repeated consultation and discussion from time to time about theme setting, survey of previous research, focusing on research subjects, examination of methods of development of discussion, etc.

授業計画 (Course Schedule)

1. 進捗状況の報告 (1)
2. 進捗状況の報告 (2)
3. 進捗状況の報告 (3)
4. 全体の構成の検討 (1)
5. 全体の構成の検討 (2)
6. 議論の組み立て、論理展開の吟味 (1)
7. 議論の組み立て、論理展開の吟味 (2)
8. 議論の組み立て、論理展開の吟味 (3)
9. 最終報告 (1)
10. 最終報告 (2)
11. 完成版の仮提出
12. 最終面談 (1)
13. 最終面談 (2)
14. 完成版提出

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

Slack を中心に、GoogleDrive、Skype などを使って随時、指導、相談を行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

完成版提出(50%)/授業内での面談内容(50%)

テキスト (Textbooks)

必要に応じて指示する。

参考文献 (Readings)

必要に応じて指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム (Canvas LMS、Blackboard 等) で指示する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE582／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	橋本 晃(HASHIMOTO AKIRA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

春学期に作成した研究計画書を実行に移し、具体的な研究調査を行う。研究調査結果は草稿、そして決定稿にまとめていく。

Based upon proposals, students will carry out their own original research. Results of research will lead to drafts and final versions of theses.

授業の内容 (Course Contents)

春学期中に作成した研究計画書に基づき、具体的な研究調査で集めてきた資料や文献類の分析を指導する。次いで、草稿執筆を発表と絡めつつ、指導する。春学期と同様に、各段階でアップデートした原稿を提出してもらい、相互批評しつつ進めていく。

Students will be encouraged to give presentations on the progress of their research every three weeks. Discussion among the instructor and students should be always fruitful. Drafts shall be corrected with comments.

授業計画 (Course Schedule)

1. 中間発表1 春学期中に完成させた研究計画書＝序論をもとに、オリジナルのリサーチの展望を描く
2. 中間発表2 春学期中に完成させた研究計画書＝序論をもとに、オリジナルのリサーチの展望を描く
3. 中間発表3 春学期中に完成させた研究計画書＝序論をもとに、オリジナルのリサーチの展望を描く
4. 資料の分析1 オリジナルのリサーチに不可欠の一次資料の分析
5. 資料の分析2 オリジナルのリサーチに不可欠の一次資料の分析
6. 資料の分析3 オリジナルのリサーチに不可欠の一次資料の分析
7. 資料の分析4 オリジナルのリサーチに不可欠の一次資料の分析
8. 資料の分析5 オリジナルのリサーチに不可欠の一次資料の分析
9. 草稿づくりと発表1
10. 草稿づくりと発表2
11. 草稿づくりと発表3
12. 草稿づくりと発表4
13. サマリーづくり ゼミ報告書に掲載する要約原稿を作成する
14. 最終発表

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

ハンドアウトや提出された研究計画書を読んで授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席・授業への参加(50%)／研究計画書などの提出(50%)

テキスト (Textbooks)

特になし。

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE583／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	木村 忠正(KIMURA TADAMASA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

調査研究主題、仮説、議論の枠組、先行研究・参考文献の吟味、具体的な調査研究内容、議論展開での課題、脆弱性などを、随時、報告、ディスカッションし、最終的に卒業論文を完成する。

The entire focus of this seminar is to help students finish writing graduation thesis. Students are required to get engaged with integrity and consistency in formulating research questions, surveying literature, conducting research with adjusting research strategies, collecting evidence, developing analysis, drawing conclusions and summarizing the results so as to finish writing up graduation thesis.

授業の内容 (Course Contents)

卒業論文作成の中盤から終盤であり、調査研究主題、仮説、議論の枠組、先行研究・参考文献の吟味、具体的な調査研究内容、議論展開での課題、脆弱性などを、随時、報告、ディスカッションし、最終的に卒業論文を完成できるよう指導を行なう。

The purpose of the seminar is to guide students in the design, research, and writing of graduation thesis. Students are expected to make a report of their progress constantly while discussing challenges and problems faced until completion of the thesis.

授業計画 (Course Schedule)

1. 進捗状況・課題報告(1)
2. 進捗状況・課題報告(2)
3. 進捗状況・課題報告(3)
4. 目次・構成検討(1)
5. 目次・構成検討(2)
6. 議論展開詳細検討(1)
7. 議論展開詳細検討(2)
8. 議論展開詳細検討(3)
9. 最終卒業論文構成・議論展開報告(1)
10. 最終卒業論文構成・議論展開報告(2)
11. 下書き提出・指導
12. 提出時点での総括
13. 口頭発表(1)
14. 口頭発表(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で課題を逐次提示し、遂行を求める。こうした課題遂行をはじめ、オンラインでのやりとりも指導上重要であるため、大学アドレスのメールは定期的にチェックし、必要な情報を管理しておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

秋学期計画発表(20%)/下書き提出(50%)/口頭発表(30%)

テキスト (Textbooks)

必要に応じて指示する。

参考文献 (Readings)

1. 木村忠正、2018、『ハイブリッド・エスノグラフィー』、新曜社 (ISBN:4788515830)
- 必要に応じて指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE584／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	是永 論(KORENAGA RON)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

データ収集および論文構成・執筆に関する指導。

The purpose of this course is to acquire knowledge about how to collect and analyze data in terms of writing a thesis.

授業の内容 (Course Contents)

専門演習に引き続き、シリアス・レジャーなどと呼ばれる形で一定の知識や技術を要する、スポーツや工芸・芸能などの趣味的な文化活動について、メディアとコミュニケーションの観点から考えることを目的としている。

春学期と同様に指定したミーティングへの参加に加えて、個別指導を行なう。

履修者自身が収集したデータの検討を中心としたかたちで指導を進める。そのため、各人による参考文献活用と調査活動の自主的な遂行が授業の基盤となる。

This course provides an opportunity to consider hobbyist activities so called serious leisure from the viewpoint of media and communication.

Students will attend tutorials in addition to class meetings.

We examine data collected by students, which means they are required to conduct a research review and data collection in advance for each class.

授業計画 (Course Schedule)

1. 秋学期計画発表(1)
2. 秋学期計画発表(2)
3. 調査実施(1)
4. 調査実施(2)
5. 調査実施(3)
6. 調査データ検証(1)
7. 調査データ検証(2)
8. 調査データ検証(3)
9. 最終目次(1)
10. 最終目次(2)
11. 下書き提出
12. 提出前面談
13. 成果報告(1)
14. 成果報告(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

合宿(秋学期開始前後を予定)に参加し、秋学期での進行計画を発表することが履修の条件となる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

秋学期計画発表(20%)/下書き提出(30%)/提出前面談(30%)/卒論発表(20%)

テキスト (Textbooks)

必要に応じてオンライン上などで指示する。

参考文献 (Readings)

必要に応じてオンライン上などで指示する。

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

秋期休業以降の指定された期間に下書き提出およびそれに基づく面談が成立しなかった場合、評価上大きな減点となる場合があるので、特に注意すること。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE585／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	田北 康成(TAKITA YASUNARI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

卒業論文の完成に向けて、収集した資料やデータを分析するとともに、それを用いて論文を執筆する。

Students will work on their graduation theses by analyzing collected documents and data. Students will write their theses based on these.

授業の内容(Course Contents)

卒業論文演習2では、自ら設定した問題を、どのような方法で解明していくかを決め、調査を行う。調査には、例えば、新聞の紙面分析やテレビの内容分析、あるいはメディア利用者の面接調査、質問紙調査などがあるが、自分のテーマに応じて、調査を設計し、実施する。既存の文献を単につぎはぎしただけのものは、卒業論文として受け取らないので、必ず自分自身で調査した内容を卒業論文に盛り込むこと。

論文執筆にあたっては、自分の考えを、決して独りよがりではなく、また他人の受け売りでなく、説得力ある書き方で書くことが必要である。

In Thesis Writing Seminar 2, students will conduct surveys and choose methods to solve their chosen questions. For example, students may conduct surveys by analyzing newspaper and TV contents, interviewing media users, and conducting some questionnaire surveys. Students will design and conduct their surveys based on their subjects. Piecing together existing literatures will not be accepted as graduation thesis. Students must integrate their research findings in their graduation theses. When writing their theses, students should not be too complacent about their ideas, nor should they parrot other people. Students should write their theses in persuasive manner.

授業計画(Course Schedule)

1. 進捗状況の発表
2. 進捗状況の発表
3. 進捗状況の発表
4. 進捗状況の発表
5. 進捗状況の発表
6. 進捗状況の発表
7. 完成原稿の発表
8. 完成原稿の発表
9. 完成原稿の発表
10. 完成原稿の発表
11. 完成原稿の発表
12. 完成原稿の発表
13. ゼミ内発表会
14. ゼミ内発表会

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

卒業論文は、短期間で完成できるものではない。計画的に、調査の実施・分析、論文の執筆を進める必要がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

演習内での討議(40%)/演習内での発表(60%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 藤田真文、2011、『メディアの卒論』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623059539)
2. 白井利明・高橋一郎、2013、『よくわかる卒論の書き方』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623065721)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

本授業は少人数の演習形式である。自分自身の卒論作成のために、計画的に執筆を進めることはもちろんのこと、他の履修者の発表に際しても、積極的に発言することが期待される。

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE586／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	林 怡夔(LIN I-HSUAN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

春学期で作成した研究計画と研究調査の結果をもとに、卒業論文の全体構成を固めつつ本格的に執筆段階に入る。卒業論文の完成を目標とする。

Based on the research proposal which is designed during Spring semester, students will go into the step of fieldwork research, start writing the graduation thesis, and complete it before the deadline.

授業の内容 (Course Contents)

卒業論文の執筆の指導を行い、論文完成を目指していく。

受講生は自ら計画した執筆スケジュールに従って、研究調査を行いデータと資料収集を行う。そこで得られたデータと資料の分析と解釈を繰り返して行い、論文を作成していく。理論枠組みと全体構成の指導はゼミでのディスカッションおよび個別相談によって行っていく。中間発表会と最終発表会でのプレゼンテーションを求める。

In this seminar, students should follow their research plan to conduct research and collect data. By analyzing and verifying data repeatedly, students start to write graduation thesis step by step. Students are required to present their research results three times in this semester, and students are also required to participate in every discussion of each presentation in order to broaden their thinking and elevate their ability of communication.

授業計画 (Course Schedule)

1. 卒論構想の発表＋ディスカッション①
2. 卒論構想の発表＋ディスカッション②
3. フィールドワーク調査の結果発表＋ディスカッション①
4. フィールドワーク調査の結果発表＋ディスカッション②
5. 卒論途中発表①
6. 卒論途中発表②
7. 中間発表会①
8. 中間発表会②
9. 卒論途中発表③
10. 卒論途中発表④
11. 卒論途中発表⑤
12. 卒論途中発表⑥
13. 最終発表会①
14. 最終発表会②

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

コーラスで随時知らせる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

個人指導、中間および最終発表、卒業論文の執筆(100%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム (Canvas LMS、Blackboard 等) で指示する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE588／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	砂川 浩慶(SUNAKAWA HIROYOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

卒業論文完成に向けて、春学期の構想・調査を踏まえ、執筆を完成させることを目標とする。

Students will consider concepts and surveys from spring semester and aim to complete their graduation theses.

授業の内容(Course Contents)

卒業論文は学生生活の総決算である。この完成に向けて指導を行う。履修者による中間発表を全員参加のもとで行う。提出前には卒業論文合宿を行い、ブラッシュアップを図る。

Graduation theses are conclusions of their student lives. Students will receive instructions when completing their theses. All students will participate in interim presentations. Before submitting their theses, students will participate in boarding school to edit their theses.

授業計画(Course Schedule)

1. 提出までの流れ確認
2. 全体会合①
3. 個別指導①
4. 全体会合②
5. 個別指導②
6. 全体会合③
7. 個別指導③
8. 全体会合④
9. 個別指導④
10. 中間発表
11. 卒論発表会への課題提出
12. 卒論発表会用資料作成
13. 卒論発表会
14. ブラッシュアップと提出

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

自分のオリジナリティを出した完成稿を目指すこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への出席、討議内容、個別指導による達成度などで評価する(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE589／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	井手口 彰典(IDEGUCHI AKINORI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文執筆の後半段階として本文の執筆を進め、期限までに論文を完成させる。その作業を介し、学士に求められる「発見」「分析」「提言」にかかわる全ての能力の向上を図る。

In the second half, students will work on their graduation theses and complete them by deadline. Through these processes, students will improve all skills required of a bachelor degree, i.e. exploring, analyzing, and commenting.

授業の内容 (Course Contents)

毎回、担当者が自身の論文について発表し、内容を練り上げていく。受講生同士の積極的な切磋琢磨を期待する。秋学期は個別指導の割合が多くなると思われるが、可能な限りゼミメンバー同士の相互協力体制を維持したい。

Each members gives their own presentations about the projects. Questions, comments, advices and others are required.

授業計画 (Course Schedule)

1. 論文執筆 1
2. 論文執筆 2
3. 論文執筆 3
4. 論文執筆 4
5. 論文執筆 5
6. 論文執筆 6
7. 論文執筆 7
8. 論文執筆 8
9. 論文執筆 9
10. 論文執筆 10
11. 論文執筆 11
12. 論文執筆 12
13. 卒論最終発表会 1
14. 卒論最終発表会 2

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

春学期の内容を受け、論文執筆に必要な作業を各自の判断で進めておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

発表、および提出された卒業論文の内容に基づいて評価する。(100%)

テキスト (Textbooks)

使用しない。

参考文献 (Readings)

適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

演習形式をとり、毎回担当者が発表を行う。
また担当教員との一対一の面談も適宜行う。
出席は評価の対象ではなく、その前提とする。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE590／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	黄 盛彬(SEONGBIN HWANG)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

卒業論文テーマに関わる先行研究のレビューを行い、関連する理論的・方法的知識を学ぶ。研究問題の発見、調査計画の設計および遂行、プレゼンテーションおよび討論、研究論文の執筆に至る研究のプロセスを実践する。一連のプロセスを通して、問題の発見、分析、提言の能力を身につける。

Students will review prior researches related to their graduation thesis subjects to acquire relevant theoretical and methodological knowledge. Students will participate in research processes including exploring research questions, plan and conduct surveys, make presentations, discuss, and write research theses. Through these processes, students will acquire ability to explore questions, analyze, and voice their opinions.

授業の内容 (Course Contents)

春学期に引き続き、データの収集、分析、解釈を行いつつ、執筆の段階に入る。研究を進めていくうちに、当初の研究仮説が棄却され、問題提起のプロセスから繰り返すことになったり、また方法論についても、研究テーマによって様々な方法が考えられるので、その都度、指導教員と相談していく必要がある。レジュメによる報告、論文ドラフトによる報告を行い、個別指導を受けながら、論文を完成していく。

Following the spring semester, students will collect data, analyze, interpret, and write their theses. When working on their researches, students may have to abandon their initial research hypotheses, restart from question statements, and consider various methodologies depending on their research subjects. In these cases, students should discuss with their professor. Students will report their summaries and thesis drafts. They will complete their theses while receiving private instructions.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 中間報告
3. 中間報告
4. 中間報告
5. 中間報告
6. 中間報告
7. ドラフト提出
8. 論文執筆指導
9. 論文執筆指導
10. 論文執筆指導
11. 論文執筆指導
12. 論文執筆指導
13. 論文執筆指導
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

第一回の授業で提示されるスケジュールにしたがって、計画的に取り組むこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

プレゼンテーション(60%)／授業内課題(40%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

各自のテーマに沿って適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業内で指示する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE591／卒業論文演習2 (Thesis Writing Seminar 2)		
担当者名 (Instructor)	川畑 泰子(KAWAHATA YASUKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

専門演習1～2、前期でのゼミ研究活動を元に、自身の掲げる研究テーマにおける先行研究、調査活動、議論展開ができるようになり、卒業論文執筆に繋げる。また、各自指導教官との論文執筆作業を通し、自らの研究に関して最終報告(プレゼンテーション)ができるようになる。卒業論文執筆を完了させる、適切な論文執筆のルールに従って自らの論考を執筆できるようになる。

Based on the seminar research activities in the first two semesters of the Seminar for Advanced Studies, students will be able to conduct prior research on their own research theme, conduct surveys, and develop discussions, which will lead to writing their graduation thesis. In addition, students will be able to make a final report (presentation). Students will be able to complete the writing of their graduation thesis and write their own essays according to the appropriate rules for writing a thesis.

授業の内容 (Course Contents)

専門演習1～2、前期でのゼミ研究活動を元に、自身の掲げる研究テーマにおける先行研究、調査活動、議論展開ができるようになり、卒業論文執筆に繋げる。また、学術論文執筆なども視野にいれて、先行研究、それらに付随するデータ分析なども進めていく。

Based on the seminar research activities in the first two semesters of the Seminar for Advanced Studies, students will be able to conduct prior research on their own research theme, conduct surveys, and develop discussions, which will lead to writing their graduation thesis. Students will also be able to conduct prior research and analyze the data associated with that research, with a view to writing academic papers.

授業計画 (Course Schedule)

1. 進捗確認(1)
2. 進捗確認(2)
3. 先行調査(1)
4. 先行調査(2)
5. 追加分析の精査(1)
6. 追加分析の精査(2)
7. 論文骨子の議論(1)
8. 論文骨子の議論(2)
9. 仮提出
10. 仮案の見直し(1)
11. 仮案の見直し(2)
12. 最終確認(1)
13. 最終確認(2)
14. 卒業論文提出・提出した論文の読み直し作業・読み合わせ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

研究室限定 SNS(Chatwork)及びに、Zoom などを活用して指導、研究関連情報の共有を行う。事前アポイントメントがあれば、授業時間外でも打ち合わせなど行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

定期的な報告、プレゼンテーション(50%)／ディスカッション、面談への参加度(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

必要に応じて指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)で指示する。

全授業回のうち7回を上限に対面授業を実施することがある。対面回については授業内あるいは授業支援システム等で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE755／卒業研究1 (Senior Research 1)		
担当者名 (Instructor)	橋本 晃(HASHIMOTO AKIRA) 井川 充雄(IKAWA MITSUO) 是永 論(KORENAGA RON) 井手口 彰典(IDEGUCHI AKINORI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

演習に属さない者が、メディア社会学科の諸領域を幅広く学習することにより、社会学士として実社会に出るのにふさわしい見識を獲得することを目指す。

By learning a wide range of fields set by Department of Communication and Media Studies, we aim to gain insights suitable for entering the real society as a Bachelor of Sociology who are not part of the seminar.

授業の内容 (Course Contents)

メディア社会学科から提示された4課題のうち、2つの課題を選択し、その課題について研究を進め、レポートを作成し、口頭試問に合格することで、単位が認定される。詳細は履修ガイダンスで説明する。締切日は遵守すること。

Of the tasks presented by Department of Communication and Media Studies, choose two tasks, advance research on them, achieve the tasks such as preparing reports, and acquire credits by passing. For details, refer to the instruction manual and the graduation research guidance document. Be sure to submit reports by the deadline date.

授業計画 (Course Schedule)

1. テーマの設定、今後の進め方について説明
2. テーマ設定のための文献検索を行い文献リスト作成
3. テーマ設定のために学術書を読む1
4. テーマ設定のために学術書を読む2
5. 学術雑誌・専門雑誌掲載の論文を読む1
6. 学術雑誌・専門雑誌掲載の論文を読む2
7. 仮説の設定、基礎的な調査や分析実態1
8. 仮説の設定、基礎的な調査や分析実態2
9. 中間提出後に今後の方針を教員と相談
10. 研究計画の作成(目的、方法、仮説を明確に計画を完成させる)
11. 分析や調査実態1
12. 分析や調査実態2
13. 分析結果をもとに考察し、結論を文章化する
14. 結論として自分が主張したいことを中心に文章をまとめ研究を完成

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

別途提示される課題表を見た上で、2つの課題について最終的にレポート(各 4000 字以上)として提出すること。担当教員と相談し計画を立て、必要な準備を行うことが重要である。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

2つの課題レポートの内容および口頭試問の結果を総合的に評価する(100%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

授業の進め方については履修ガイダンスで説明するので、必ず出席すること。

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、

Blackboard 等)で指示する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DE855／卒業研究2 (Graduation Research 2)		
担当者名 (Instructor)	黄 盛彬(SEONGBIN HWANG) 川畑 泰子(KAWAHATA YASUKO) 木村 忠正(KIMURA TADAMASA) 砂川 浩慶(SUNAKAWA HIROYOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMS4900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

演習に属さない者が、メディア社会学科の諸領域を幅広く学習することにより、社会学士として実社会に出るのにふさわしい見識を獲得することを目指す。

By learning a wide range of fields set by Department of Communication and Media Studies, we aim to gain insights suitable for entering the real society as a Bachelor of Sociology who are not part of the seminar.

授業の内容 (Course Contents)

メディア社会学科から提示された4課題のうち、2つの課題を選択し、その課題について研究を進め、レポートを作成し、口頭試問に合格することで、単位が認定される。詳細は履修生向けのメールで連絡する。締切日は遵守すること。

Of the tasks presented by Department of Communication and Media Studies, choose two tasks, advance research on them, achieve the tasks such as preparing reports, and acquire credits by passing. For details, refer to the instruction manual and the graduation research guidance document. Be sure to submit reports by the deadline date.

授業計画 (Course Schedule)

1. テーマの設定、今後の進め方について説明
2. テーマ設定のための文献検索を行い文献リスト作成
3. テーマ設定のために学術書を読む1
4. テーマ設定のために学術書を読む2
5. 学術雑誌・専門雑誌掲載の論文を読む1
6. 学術雑誌・専門雑誌掲載の論文を読む2
7. 仮説の設定、基礎的な調査や分析実態1
8. 仮説の設定、基礎的な調査や分析実態2
9. 中間提出後に今後の方針を教員と相談
10. 研究計画の作成(目的、方法、仮説を明確に計画を完成させる)
11. 分析や調査実態1
12. 分析や調査実態2
13. 分析結果をもとに考察し、結論を文章化する
14. 結論として自分が主張したいことを中心に文章をまとめ研究を完成

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

別途提示される課題表を見た上で、2つの課題について最終的にレポート(各 4000 字以上)として提出すること。担当教員と相談し計画を立て、必要な準備を行うことが重要である。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

2つの課題レポートの内容および口頭試問の結果を総合的に評価する(100%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

授業の進め方については履修者向けのメールで連絡するので、注意しておくこと。

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については授業支援システム(Canvas LMS、

Blackboard 等)で指示する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK001／社会学原論1 (Principles of Sociology 1)		
担当者名 (Instructor)	担当者は履修登録状況画面で確認すること		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX1010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

社会学の基本的な考え方や概念・方法を、社会学がこれまでに問うてきたかを検討することから学び、その特徴を理解する。

We learn the basic ideas, concepts, and methods of sociology from examining what sociology has asked so far and understand its characteristics.

授業の内容 (Course Contents)

社会学とはどのような学問なのだろうか。それはなにを問いの対象とし、他の学問とは異なるどのようなことを明らかにしてきたのだろう。この講義では、社会学がこれまで展開してきたさまざまな概念や命題について検討し、社会学がもつ独自の思考法を身につけていく。

What kind of discipline is sociology? What is the subject of the sociological question, and what has been uniquely examined and understood within sociology? In this course, we examine various concepts and propositions that sociology has developed so far and unique methods of sociological thinking.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 個人と社会①
3. 個人と社会②
4. 個人と社会③
5. 相互行為①
6. 相互行為②
7. 相互行為③
8. 資本と資本主義①
9. 資本と資本主義②
10. 資本と資本主義③
11. 国家と権力①
12. 国家と権力②
13. 国家と権力③
14. 現代の社会学

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業後にレジュメを参照して必ず復習をしておく。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパー、出席、小レポート、授業への貢献度など(20%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2019、『社会学』、有斐閣

その他(HP等) (Others(e.g HP))

レジュメの配布等に「Canvas LMS」、「Blackboard」等を用いるので、使えるようにしておくこと。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK006／社会学原論2 (Principles of Sociology 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会学の各論を知る		
担当者名 (Instructor)	担当者は履修登録状況画面で確認すること		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX1010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「社会学原論1」を踏まえて、社会学の個別領域の広がりを理解するとともに、主要な領域についての基礎的知識を身につける。

The purpose of this class is to understand the extent of each field in sociology based on the "Essential Sociology 1" and to acquire basic knowledge of the especially important fields.

授業の内容 (Course Contents)

社会学はきわめて多様なテーマを問うことができる学問である。現代社会に生起するさまざまな問題を社会学はどのように解明できるのだろうか。この講義では、社会学が研究するいくつかの個別領域について検討し、現代社会に対する社会学的アプローチを身につけていく。

講義は、労働・消費・環境をめぐる第1のパート、家族・ジェンダー・福祉をめぐる第2のパート、都市・エスニシティ・宗教をめぐる第3のパート、マスコミュニケーション・ジャーナリズム・メディアをめぐる第4のパートからなる。各クラスの授業内容は「共通レジュメ」に基づくが、それぞれのクラスで異なる事例の紹介や解説がなされる場合がある。

Sociology deals with a very broad range of issues. How can sociology solve the various problems that arise in modern society? In this course, major areas studied by sociology and sociological approaches related to them are concretely introduced.

The lecture consists of the first part on labor, consumption and environment, the second part on family, gender and welfare, the third part on city, ethnicity and religion, and the fourth part on mass communication, journalism and media. Though the content of each class is based on "common resume", there are cases in which different examples are introduced and explained in each class.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 都市
3. 消費
4. 労働
5. 宗教
6. 環境
7. 家族
8. ジェンダー
9. 福祉
10. エスニシティ
11. マスコミュニケーション
12. ジャーナリズム
13. メディア
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業用レジュメを参照し必ず予習・復習をしておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパー、出席、小レポート、授業への貢献度など(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志、2007、『社会学』、有斐閣 (ISBN:4641053707)

2. Anthony Giddens、2009、『社会学(第5版)』、而立書房 (ISBN:4880593508)
3. 松田健、2008、『テキスト現代社会学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:4623049760)

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

レジュメの配布等に授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard等)を用いるので、使えるようにしておくこと。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK011／社会調査法1 (Social Research Methods 1)		
担当者名 (Instructor)	担当者は履修登録状況画面で確認すること		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX1510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

社会調査の意義と諸類型に関する基本事項を理解し、社会学研究の方法的基礎を身につける。

Acquiring basic knowledge about the meaning of social research and its various types, as well as the methodological foundation of sociological research.

授業の内容(Course Contents)

社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査など、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項を、実例をもとに概説する。

We deal with the fundamentals of the process from data collection to data analysis, such as history of social research, purpose of social research, research methodology, research ethics, types and examples of social surveys, quantitative and qualitative social research.

授業計画(Course Schedule)

1. 社会調査とは何か(社会学と社会調査、社会調査の目的と意義、社会調査の種類、実例の紹介、量的調査と質的調査、社会調査士資格など)
2. 社会調査の歴史(社会調査の始まり、近代化と社会調査、社会変動と社会調査、社会学における社会調査の洗練化、日本の社会調査の歴史など)
3. 社会調査の種類(統計調査、事例調査など)
4. 社会調査の注意点・倫理・プロセス(プライバシーの配慮、ステレオタイプ、調査が現実をつくる、インフォームド・コンセント、ハラスメントの回避、コンフィデンシャリティ、社会調査のプロセスの説明など)
5. 情報収集法(社会学的想像力、先行研究を調べることの重要性、図書館やデータベースの活用方法、統計データの調べ方、過去の調査データの調べ方など)
6. 「記述的問い」と「説明的問い」「記述的問い」と「説明的問い」の区別、因果関係、仮説とは何かなど)
7. 社会測定1(構成概念と操作概念、指標、直接測定と間接測定、デュールケームの『自殺論』、測定モデルなど)
8. 社会測定2(独立変数と従属変数、理論仮説と操作仮説、ホーソン効果、測定の妥当性など)
9. 調査設計の4類型と尺度水準(横断的調査、パネル調査、繰り返し調査、比較調査、縦断的調査、各類型の具体例の紹介、回顧法、名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例(比率)尺度など)
10. 標本抽出1(全数調査[悉皆調査]と標本調査、母集団と標本、無作為抽出法と有意抽出法、アメリカ大統領選と世論調査など)
11. 標本抽出2と調査票調査(割り当て法、無作為抽出の重要性、標本誤差と非標本誤差、調査票調査の手順、予備調査、プリテスト、自記式と他記式など)
12. 調査票調査の種類(面接調査法、留め置き調査法、郵送調査法、電話調査法、集合調査法、インターネット調査法、どの調査方法が望ましいかなど)
13. 質的調査の基本(量的調査と質的調査の特徴、質的データの作成、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析など)
14. 質的調査の実例(ベッカー『アウトサイダーズ』、ウィリス『ハマータウンの野郎ども』など)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

あらかじめ教科書の指定の範囲に目を通しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/授業内の課題(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 大谷信介ほか、2013、『新・社会調査へのアプローチ 論理と方法』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623066544)
教科書が手元にあることを前提に説明する。

参考文献(Readings)

1. 轟亮・杉野勇・平沢和司、2021、『入門・社会調査法[第4版]:2ステップで基礎から学ぶ』、法律文化社 (ISBN:978-

4589041418)

2. 盛山和夫、2004、『社会調査法入門』、有斐閣 (ISBN:978-4641183056)
3. 原純輔、2016、『社会調査 :しくみと考え方』、左右社 (ISBN:978-4865281651)
4. 佐藤郁哉、2015、『社会調査の考え方 上』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130520263)
5. 佐藤郁哉、2015、『社会調査の考え方 下』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130520270)
6. 原純輔・海野道郎、2004、『社会調査演習 第2版』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130520195)
7. W. Lawrence Neuman. 2012. *Basics of Social Research: Qualitative and Quantitative Approaches (3rd Edition)*. Pearson (ISBN:978-0205762613)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

担当教員にメールで連絡したい場合には、授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard等)を通じてできる。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK016／社会調査法2 (Social Research Methods 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会調査の計画、実施の方法		
担当者名 (Instructor)	担当者は履修登録状況画面で確認すること		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX1510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

社会調査法1の内容を踏まえて、社会調査の設計と実施方法について、質的調査法と量的調査法に分け、調査の企画・設計、データの収集・整理・分析までを講義する。

This course is the second step in learning about social surveys and provides the methodology of planning, collecting, and managing data. It covers both quantitative and qualitative methodologies.

授業の内容 (Course Contents)

社会調査の具体的な手順や方法を検討する。質的調査法では、その種類と代表的な作品、テーマの設定、調査対象者との関係形成、データの整理と分析・解釈を学ぶ。量的調査法では、調査票調査の企画・設計・実施方法、調査票の作成、サンプリングの意味と方法、実査、エディティング、コーディング、データ・クリーニングについて学ぶ。

This course provides information about the procedures of social survey methodology. Regarding qualitative methodology, the lecturer introduces some classics of sociology using qualitative methodologies, and discusses the methods of choosing topics, managing and interpreting the data, and constructing relationships with informants. With regard to quantitative methodology, the lecturer explains the procedures of conducting a questionnaire survey, including sampling, editing, coding, and data cleansing.

授業計画 (Course Schedule)

1. 授業の進め方と社会調査法
2. 調査票調査の企画と設計
3. 仮説の構成
4. 調査票の作成(1)
5. 調査票の作成(2)
6. サンプリングの理論
7. サンプリングの方法
8. 調査票調査の実施
9. 調査データの整理
10. 質的調査法の種類と作品
11. テーマ設定からフィールドへ
12. 質的データの収集: フィールドワーク・インタビュー
13. 質的データの分析・解釈・まとめ方
14. 社会調査は何を明らかにしてきたか

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

社会調査法1の内容を十分に理解していることを前提として授業を進める。必要に応じて社会調査法1の復習をすること。また、各回の授業後はテキストを参照しながら復習すること。
毎回の授業の動画配信と同時に課題を出すので、期限までに課題をこなして提出すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

小テストを含む授業での課題(60%) / 最終テスト(Final Test)(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 盛山和夫、2004、『社会調査法入門』、有斐閣 (ISBN:978-4641183056)

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK021／社会調査法3 (Social Research Methods 3)		
担当者名 (Instructor)	担当者は履修登録状況画面で確認すること		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

標準的な社会調査法の授業として、数量データの分析法の基礎を扱う。2変数間の関連の分析に習熟し、分析結果を的確に整理できるようにする。

This course as a standard class to teach social research methods applies students' knowledge of descriptive, inferential and bi-variate statistical techniques in analyses of sociological data sets. Using a standard statistical program, students will learn to select appropriate procedures, interpret statistical output, and communicate quantitative findings, hypothesis testing and statistical inference.

授業の内容 (Course Contents)

度数分布表、比率の推定、クロス集計、 χ^2 乗検定、クラメールの V、クロス表のエラボレーション、代表値(平均値、中央値、最頻値)、平均値の推定、分散、標準偏差、標準得点、相関係数、因果関係と相関関係、統計的資料の整理と提示法について、理解し、実際にデータを分析してみる。

Students are required to familiarize themselves with the use of Excel and SPSS to learn these statistical procedures in analyses of sociological data set: frequency table, ratio estimation, cross tabulation, chi-square test, Kramer's V, cross table elaboration, representative value (mean value, median value, mode value), mean value estimation, variance, standard deviation, standardization, correlation coefficient, causality and correlation, and so on. In addition, students are instructed to write a paper to demonstrate their ability to select appropriate procedures, interpret statistical output, and communicate quantitative findings, hypothesis testing and statistical inference.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 質的変数と量的変数
2. 調査データの点検, コーディング
3. 度数分布表, 代表値(平均値・中央値・最頻値)
4. 複数の変数間の関係, 相関と因果
5. クロス集計表の分析
6. χ^2 乗検定, クラメールの V
7. 三重クロス表, 疑似相関とエラボレーション
8. 標本と母集団, 統計的検定
9. 統計的分析の基礎, 平均, 分散, 標準偏差
10. 平均の差の検定, t 検定, 分散分析
11. 共分散, 相関係数
12. 統計資料の整理 度数分布表のグラフ表示
13. 統計資料の整理 クロス表のグラフ表示
14. 報告書の読み方・書き方

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は、履修登録完了後にオンライン上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への積極的参加(30%)/随時の宿題および課題レポート(70%)

テキスト (Textbooks)

独自のテキストを配布。

参考文献 (Readings)

1. 大谷信介ほか、2013、『新・社会調査へのアプローチ—理論と方法』、ミネルヴァ書房
2. 森岡清志編、2007、『ガイドブック社会調査』、日本評論社

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

この授業は PC 実習を含め積み上げ型で進むので、授業計画通りに履修しないと遅れを取り戻すのが難しくなる。やむを得ず参加できない授業が生じた場合には、必ずその回の配付テキストを熟読し、実習した上で次回に臨むこと。

全授業回のうち、7回以下のオンライン授業を実施する。オンライン実施回については Blackboard または立教時間または Canvas LMS で指示する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK092／基礎演習 (Introductory Seminar for Sociological Research)		
担当者名 (Instructor)	担当者は履修登録状況画面で確認すること		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX1020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「大学で研究すること」を経験するとともに、その基礎を学ぶ。

Students will acquire research experience in university and learn its basics.

授業の内容 (Course Contents)

大学での学びは、自ら問いを立てて、この問いに沿って研究をすすめ、成果をまとめるという過程である。この演習ではこうした一連の過程を経験するために「PBL (Project Based Learning)」という方式を導入し、自分たちの問題意識に従ってテーマを設定し、自分たちで仮説を立て、データを集め、なんらかの答えを出して最終レポートにまとめていく。このなかで、レジュメ作成や報告・討論のしかた、レポート執筆上のルールやマナーなど、研究(学び)のために必要な基礎的能力を身につけていく。演習形式の授業は、講義形式のもの以上に毎回の出席と授業への積極的な参加が要求されるので、この点をよく理解して履修すること。
なお課題量、クラスの進め方などは、担当教員によって異なる。

Learning in university involves establishing questions, advancing researches based on these questions, and summarize their findings. This seminar uses Project Based Learning (PBL) to allow students to experience these processes. Students will choose subjects they are interested in, establish their hypotheses, collect data, derive their answers, and compile them in final papers. Among these, students will acquire basic ability to research (learn), including creating summary, reporting, discussing, and following rules in academic writing.

Before enrolling, students should understand that seminar-format class has more requirements than lecture-format class.

Seminar-format class emphasizes attendance and active participation.

Assignment volume and class advancement differ from professor to professor.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーションー大学で学ぶということ
2. テーマ設定について
3. 仮説の設定について
4. データ収集について
5. レジュメ作成について
6. 報告・討論について
7. レポート執筆上のルール
8. レポート執筆上のマナー
9. テーマ設定とグルーピングについて
10. フィールド調査について
11. 発表について
12. 報告書の作成について(1)
13. 報告書の作成について(2)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

準備学習も含め、授業に関連する情報を掲示することがあるので、よく注意すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への出席、通常のゼミ時での貢献、最終レポート等によって評価を行う。(100%)

テキスト (Textbooks)

事前に提示する。

参考文献 (Readings)

適宜授業で指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

事前にテキストを読み、最初の授業でレポートを提出する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Introduction to Sociology A		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会学入門 (Introduction to major concepts and theories in sociology)		
担当者名 (Instructor)	王 川菲(WANG CHUNANFEI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2031	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目 (20 名)		

授業の目標 (Course Objectives)

By emphasizing reading, discussing, and critical thinking skills, this course helps students build the foundation for a deeper understanding of theory and methods in the social sciences. Students will be empowered an eye to consider what happens in daily life with evidence-based reasoning. This course is not designed to provide students stereotypes of thinking but inspire them to think with your talents, interests, and passion. Students will have plenty of time expressing their own opinions and exchanging ideas with peers and instructor.

授業の内容 (Course Contents)

Sociology is a discipline analyzing issues in society. This course introduces students to some major social theories and concepts in sociology. Topics include a review of sociology as a discipline, culture, socialization, social interaction, education, social stratification, networks, work, economic life, body and health, urbanization, population, environment, and globalization. It is a theory-oriented course. However, it addresses empirical questions such as (1) What is society? (2) How is society organized and structured? (3) Who are individuals and their roles in society? (4) How do individuals and society affect each other? and etc.. The goal of this course is to provide students with conceptual tools for understanding society, thereby some inspirations of how individuals may live meaningful life.

授業計画 (Course Schedule)

1. Orientation: Welcome students! Review Syllabus
Lecture: What is sociology? I
2. What is sociology? II
3. Asking and answering sociological questions
4. Culture and society
5. Socialization and the life course
6. Social interaction
7. Groups, network and organization
8. Stratification, class, and global inequality
9. Work and economic life
10. Education
11. The sociology of the body: health, illness, and sexuality
12. Population, urbanization, and environment
13. Globalization in a changing world
14. Student's presentations

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

1. Write weekly responding papers
2. Search and prepare final presentation

成績評価方法・基準 (Evaluation)

In-class discussions weeks 2 - 13 (1 x12 times)(12%)/Responding papers (6 x 12 pieces)(72%)/Final presentation(16%)
You are highly encouraged to think beyond the box, be creative, and be your own leader of your learning experience!

テキスト (Textbooks)

Deborah Carr, Anthony Giddens, Mitchell Duneier, Richard P. Appelbaum. (2018).
Introduction to Sociology. Seagull Eleventh Edition. W. W. Norton & Company.

The PDF version of the textbook is available on Blackboard or Canvas LMS.

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Introduction to Sociology B		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会学入門 (Introduction to major concepts and theories in sociology)		
担当者名 (Instructor)	王 川菲(WANG CHUNANFEI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2031	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目 (20 名)		

授業の目標 (Course Objectives)

By emphasizing reading, discussing, and critical thinking skills, this course helps students build the foundation for a deeper understanding of theory and methods in the social sciences. Students will be empowered an eye to consider what happens in daily life with evidence-based reasoning. This course is not designed to provide students stereotypes of thinking but inspire them to think with your talents, interests, and passion. Students will have plenty of time expressing their own opinions and exchanging ideas with peers and instructor.

授業の内容 (Course Contents)

Sociology is a discipline analyzing issues in society. This course introduces students to some major social theories and concepts in sociology. Topics include a review of sociology as a discipline, culture, socialization, social interaction, education, social stratification, networks, work, economic life, body and health, urbanization, population, environment, and globalization. It is a theory-oriented course. However, it addresses empirical questions such as (1) What is society? (2) How is society organized and structured? (3) Who are individuals and their roles in society? (4) How do individuals and society affect each other? and etc.. The goal of this course is to provide students with conceptual tools for understanding society, thereby some inspirations of how individuals may live meaningful life.

授業計画 (Course Schedule)

1. Orientation: Welcome students! Review Syllabus
Lecture: What is sociology? I
2. What is sociology? II
3. Asking and answering sociological questions
4. Culture and society
5. Socialization and the life course
6. Social interaction
7. Groups, network and organization
8. Stratification, class, and global inequality
9. Work and economic life
10. Education
11. The sociology of the body: health, illness, and sexuality
12. Population, urbanization, and environment
13. Globalization in a changing world
14. Student's presentations

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

1. Write weekly responding papers
2. Search and prepare final presentation

成績評価方法・基準 (Evaluation)

In-class discussions weeks 2 - 13 (1 x12 times)(12%)/Responding papers (6 x 12 pieces)(72%)/Final presentation(16%)
You are highly encouraged to think beyond the box, be creative, and be your own leader of your learning experience!

テキスト (Textbooks)

Deborah Carr, Anthony Giddens, Mitchell Duneier, Richard P. Appelbaum. (2018).
Introduction to Sociology. Seagull Eleventh Edition. W. W. Norton & Company.

The PDF version of the textbook is available on Blackboard or Canvas LMS.

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Introduction to Sociology C		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会学入門 (Introduction to major concepts and theories in sociology)		
担当者名 (Instructor)	王 川菲(WANG CHUNANFEI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2031	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目 (20 名)		

授業の目標 (Course Objectives)

By emphasizing reading, discussing, and critical thinking skills, this course helps students build the foundation for a deeper understanding of theory and methods in the social sciences. Students will be empowered an eye to consider what happens in daily life with evidence-based reasoning. This course is not designed to provide students stereotypes of thinking but inspire them to think with your talents, interests, and passion. Students will have plenty of time expressing their own opinions and exchanging ideas with peers and instructor.

授業の内容 (Course Contents)

Sociology is a discipline analyzing issues in society. This course introduces students to some major social theories and concepts in sociology. Topics include a review of sociology as a discipline, culture, socialization, social interaction, education, social stratification, networks, work, economic life, body and health, urbanization, population, environment, and globalization. It is a theory-oriented course. However, it addresses empirical questions such as (1) What is society? (2) How is society organized and structured? (3) Who are individuals and their roles in society? (4) How do individuals and society affect each other? and etc.. The goal of this course is to provide students with conceptual tools for understanding society, thereby some inspirations of how individuals may live meaningful life.

授業計画 (Course Schedule)

1. Orientation: Welcome students! Review Syllabus
Lecture: What is sociology? I
2. What is sociology? II
3. Asking and answering sociological questions
4. Culture and society
5. Socialization and the life course
6. Social interaction
7. Groups, network and organization
8. Stratification, class, and global inequality
9. Work and economic life
10. Education
11. The sociology of the body: health, illness, and sexuality
12. Population, urbanization, and environment
13. Globalization in a changing world
14. Student's presentations

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

1. Write weekly responding papers
2. Search and prepare final presentation

成績評価方法・基準 (Evaluation)

In-class discussions weeks 2 - 13 (1 x12 times)(12%)/Responding papers (6 x 12 pieces)(72%)/Final presentation(16%)
You are highly encouraged to think beyond the box, be creative, and be your own leader of your learning experience!

テキスト (Textbooks)

Deborah Carr, Anthony Giddens, Mitchell Duneier, Richard P. Appelbaum. (2018).
Introduction to Sociology. Seagull Eleventh Edition. W. W. Norton & Company.

The PDF version of the textbook is available on Blackboard or Canvas LMS.

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Introduction to Sociology D		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Overview of sociology as the study of society and social human interaction		
担当者名 (Instructor)	岡田 トリシャ(OKADA TRICIA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2031	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

Students will learn sociological theories to deepen their sociological perspectives, letting them know how to ask and answer sociological questions about current social issues. They will identify how culture shapes the human experience, familiarize themselves with sociological research and methods, and demonstrate how social class, race, and gender are social constructions. They will develop critical thinking skills as they write their research proposal, give presentations, and provide and receive feedback.

授業の内容(Course Contents)

The course is student-centered through active learning. The students are required to actively participate by reading or watching the assigned texts or videos, engaging in discussions, collaborating with their classmates, giving presentations using PowerPoint slides or videos, writing academic papers and research proposals, and receiving and giving feedback.

授業計画(Course Schedule)

1. Orientation, introduction to the course, and explanation of the requirements
What is Sociology? Why Study Sociology?
2. The Sociological Imagination
The Founders of Sociology
3. Sociological Theories and Perspectives
4. Functionalism, Conflict, and Symbolic Interaction
5. Asking and Answering Sociological Questions via Research Methods
6. Presentation of sociological studies and their importance and relevance to modern society
7. Mid-term test
8. Socialization and Social Interaction in Everyday Life
9. Groups, Organizations, and Institutions
Deviance, Crime, and Social Control
10. Social Stratification
11. Gender and Sexuality
12. Race, Ethnicity, and Migration
13. Presentations of research proposals; Submission of final reports
14. Overall course review, evaluation, reflection

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Homework will be announced after each class.

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(25%)/Presentation (group and individual)(30%)/Participation(30%)/Mid-term test(15%)

テキスト(Textbooks)

1. Nijole V. Benokraitis. January 1, 2016. *Introduction to Sociology* (Student Edition). Cengage Learning; 4th edition (ISBN:9781337405218)

Supplementary materials for reading assignments will be provided in class.

参考文献(Readings)

Supplementary materials for reading assignments will be provided in class.

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

Class announcements, schedules, and homework will be posted on Canvas. Students should check Canvas LMS regularly.

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Introduction to Sociology E		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会学入門 (Introduction to major concepts and theories in sociology)		
担当者名 (Instructor)	王 川菲(WANG CHUNANFEI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2031	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目 (20 名)		

授業の目標 (Course Objectives)

By emphasizing reading, discussing, and critical thinking skills, this course helps students build the foundation for a deeper understanding of theory and methods in the social sciences. Students will be empowered an eye to consider what happens in daily life with evidence-based reasoning. This course is not designed to provide students stereotypes of thinking but inspire them to think with your talents, interests, and passion. Students will have plenty of time expressing their own opinions and exchanging ideas with peers and instructor.

授業の内容 (Course Contents)

Sociology is a discipline analyzing issues in society. This course introduces students to some major social theories and concepts in sociology. Topics include a review of sociology as a discipline, culture, socialization, social interaction, education, social stratification, networks, work, economic life, body and health, urbanization, population, environment, and globalization. It is a theory-oriented course. However, it addresses empirical questions such as (1) What is society? (2) How is society organized and structured? (3) Who are individuals and their roles in society? (4) How do individuals and society affect each other? and etc.. The goal of this course is to provide students with conceptual tools for understanding society, thereby some inspirations of how individuals may live meaningful life.

授業計画 (Course Schedule)

1. Orientation: Welcome students! Review Syllabus
Lecture: What is sociology? I
2. What is sociology? II
3. Asking and answering sociological questions
4. Culture and society
5. Socialization and the life course
6. Social interaction
7. Groups, network and organization
8. Stratification, class, and global inequality
9. Work and economic life
10. Education
11. The sociology of the body: health, illness, and sexuality
12. Population, urbanization, and environment
13. Globalization in a changing world
14. Student's presentations

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

1. Write weekly responding papers
2. Search and prepare final presentation

成績評価方法・基準 (Evaluation)

In-class discussions weeks 2 - 13 (1 x12 times)(12%)/Responding papers (6 x 12 pieces)(72%)/Final presentation(16%)
You are highly encouraged to think beyond the box, be creative, and be your own leader of your learning experience!

テキスト (Textbooks)

Deborah Carr, Anthony Giddens, Mitchell Duneier, Richard P. Appelbaum. (2018).
Introduction to Sociology. Seagull Eleventh Edition. W. W. Norton & Company.

The PDF version of the textbook is available on Blackboard or Canvas LMS.

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Global Sociology		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Understanding Global Sociology as a revolutionary turning-point in the world's social and economic history.		
担当者名 (Instructor)	新嶋 良恵(NIIJIMA YOSHIE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2411	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(10名) 2016年度以降入学者適用 履修にあたっての目安となる英語レベルは IELTS 6.0		

授業の目標 (Course Objectives)

The aim of this course is to help students obtain an understanding of the fundamental principles of globalization. The skills that those students may acquire through actively participating in the inter-changing discussion using the knowledge which obtained in this course would help students to be more open and prepared in this rapidly changing global world.

授業の内容 (Course Contents)

This course introduces the foundations of sociology of system and globalization. Dealing with the basis of fundamental key concepts of globalization from sociological view point, with fundamental polarization reactions in communication and its mechanism, those who take this course will be challenged to enhance the skills in carrying out academic writing and discussions.

Classes will focus on on-demand delivery from the first session. Week5,12 and 13 are going to be zoom live session. You need to have zoom access during the class period in those weeks.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: What is Global Sociology?
2. Social bond in globalization era
3. History of globalization
4. Neoliberal episteme
5. Difficulties in multicultural society (zoom live-not on demand)
6. Rise of street protests (1)Riots
7. Rise of street protests (2)Silent Majority
8. Rise of street protests (3)Japanese Hate Speech
9. Agenda of Class Rule(1) rally of conservatism :Reading
10. Agenda of Class Rule(2):global totality
11. Discourse around Race in its millennial manifestation
12. Divided Nations(1) (zoom live-not on demand)
13. Divided Nations(2) (zoom live-not on demand)
14. Summary Session

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Each week, students are assigned to write a summary and synthesis of existing research related to the topic. In writing please make sure to look back over your previous class discussions (using online discussion board).

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/discussion(30%)/short reports(30%)

Class discussions (weekly online submission):30% Short reports (weekly online submission): 30% Term-end paper: 40%

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. Powell, Fred (ed). 2013. The Politics of Civil Society Big society and Small government. Policy Pr (ISBN:978-1447307150)

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

On zoom live sessions, students may take the course in the given classroom or at a location of their own choosing. The on-demand session movies are available within a week of scheduled class time.

Crash(2004)

マイケル・ムーア in アホでマヌケな大統領選(2005)

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Gender/Minority Studies		
担当者名 (Instructor)	ホールマン(HALLMAN FRANCIS C.)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2411	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(10名) 2016年度以降入学者適用 履修にあたっての目安となる英語レベルは IELTS 6.0		

授業の目標 (Course Objectives)

1. Learn critical perspectives on gender
2. Understand gender as culturally and historically constructed
3. Discuss ways to improve the lives of gender minorities around the world

授業の内容 (Course Contents)

This course is divided into two sections: a historical section and a contemporary cross-cultural section.

The historical section will examine constructions of gender in the American Abolitionist Movement, The Eugenics movement (Euro-America and Japan), The World Wars (Europe and East Asia), and the Modern Human Rights Movement.

The Cross-Cultural Section will study: Gender in Peace Movements (Liberia), Gender and Illness (Fiji), Gender and Disability (Vietnam), Gender and Religion (Northern Ireland), LGBTQ+ Rights (Uganda) and Modern Reactionary Movements (USA)

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. The American Abolitionist Movement
3. Race, Gender and Eugenics
4. Women in WWII (European Context)
5. Women in WWII (The Asian Context)
6. The Rise of Human Rights
7. Gender and Peacebuilding (Liberia, Northern Ireland)
8. Gender and Illness (Fiji, Japan, USA)
9. Masculinity and Disability Rights (Vietnam)
10. Gender, Aging, and Religion (Northern Ireland)
11. LGBTQ+ Rights (Uganda, USA, Japan)
12. Reactionary Masculinities
13. Review Week
14. In-class Presentations

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Reading academic articles and writing short papers

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Attendance and active participation(30%)/Three short papers (reports)(30%)/Final Presentation (Oral Test)(40%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

Academic articles will be provided in PDF format.

その他 (HP 等) (Others(e.g HP))

Active participation is a fundamental part of this class. I will guide you through theory and historical events, but I can only teach from a certain cultural/gendered/historical position. I request that you engage in the class with your opinion and experience to create a diverse classroom environment.

Keep two things in mind:

1. You will never be asked to share personal experiences against your will
2. We will discuss topics (e.g. wartime sexual violence) that may be troubling. I fully understand if you do not wish to participate

on class on certain days.

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／UN and International Organizations		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Stateless persons, refugees and migrants		
担当者名 (Instructor)	三谷 純子(MITANI JUNKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2411	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(10名) 2016年度以降入学者適用 履修にあたっての目安となる英語レベルは IELTS 6.0		

授業の目標 (Course Objectives)

This course has three objectives.

By the end of the term, you should be able to

- (1) gain basic knowledge about persons who are labelled as stateless, refugees and migrants, and the international society's basic frameworks to support them.
- (2) explain critically about these labels and solutions, which have been formulated by the international society and form your own opinions what need to be done and think about what you can do.
- (3) improve research skills and presentation skills including logical thinking.

授業の内容 (Course Contents)

As shown below, we will learn about many labels, and the roles of some key UN organizations. We will study not only the legal definitions but also the reasons why they were made, how and by whom they were formulated, expanded or used often in a very restricted manner. We will see what kind of solutions are supposed to be provided to such people and the realities. Some of them have found their own ways to manage the difficult situations. We will also pay attention to the rapid development of the biometric/AI technologies for registration. It creates both opportunities and risks. Considering the ambiguities of the labels, very limited access to the solutions and differences among those under the same label, we need to ask what the label of nationals really means to such persons. We also consider what the solutions mean to the persons who are labeled and those who label them. Based on what you learn, please think about what you and young people can do to change the situations if a change is necessary,

I will explain basic information about the legal definitions or solutions formulated by the international society, and then the students conduct their own research to examine the realities against the international framework. In the class discussions, we try to analyze the situations from different positions.

This course is highly participatory. You are required to (1) read the key materials explained by the lecturer or presenters before the class, so that you can actively participate in the discussions (2) find a piece of news relevant to the topic of the week and share it with your classmates and read those posted by others. They can be used as examples in the discussions. (3) conduct research and do two presentations (depending on the number of participants, the number might change) and answer to all the questions from your classmates in writing if you cannot answer right away (4) improve your presentation materials after your presentation reflecting feedback from the class, and (5) write a term paper.

I will share my experiences from the field in a total of eight countries while working mainly for UNICEF, UNHCR, UNTAC and JICA when appropriate. You are encouraged to share your own experiences as well if relevant to the topic. The contents and the order might be revised according to the number of students and their interests.

授業計画 (Course Schedule)

1. Ice break: About your name and different ways to name a child in the world., Japan's Koseki and Mukoseki.
2. Birth registration and vital statistics in the world: Its history, the current situations and major international frameworks concerning birth registration,
3. ID for Development (Biometric technologies and artificial Intelligence), especially in Africa and India
4. International laws on statelessness. Major causes of statelessness and the international society's efforts to end statelessness in the world.
5. Stateless people in the world including Japan including those who wish to remain stateless or at the risk of stateless for the time being
6. Multiple nationality. Different meanings of a nationality for the UN, a state, a regional political/economic body, for a particular group, for a person or family..
7. Refugees: Its definitions and the international framework. Its relation to statelessness and migrants.

8. Refugees in the world
9. Refugees in Japan
10. Migrants: Lack of the international legal definition. IOM's definition. and international framework.
11. Migrants in the world and in Japan
12. Preparation to understand the background of the guest speaker
13. Meet and ask questions to a refugee/migrant/ stateless (guest speaker)
14. Conclusion: what do all these labels mean to whom? And, what is the solution for whom?

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

You will need probably ten minutes to find a piece of news article to share with other students every week and need a few minutes to read each article posted by others per week (You can decide how many articles to per week when you set your own objectives). For your presentation, you will have at least two weeks for preparation. You will probably need several hours to read the materials, prepare your presentation materials and practice your speech.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/news posting and mini news presentation (2 minute)(10%)/Presentation(s)(35%)/Participation in the discussions and feedback to the presenters(20%)

You are expected to attend all the classes and participate in the discussions. If you miss more than 1/3, you will not be able to get a credit.

テキスト(Textbooks)

We use mostly UN agencies' reports, the gov publications and NGO reports and some academic articles TED talks and other audio visual materials would also be utilized. They are available on the internet. If not, I will provide a copy in the class. In the case of Japan, materials are available on the HPs of 難民支援協会、全国難民弁護団連絡会議、移住連等.

参考文献 (Readings)

1. Betts Alexander. 2009. *Forced Migration and Global Politics*. Wiley-Balackwell (ISBN-10 : 1405180315)
2. Hathways James. 2021. *The rights of Refugees under the International Law*. Cambridge University Press (ISBN-10 : 1108810918)
3. Edwards Alice. 2016. *Statelessness Under International Law*. Cambridge University Press (ISBN-10 : 1316601137)
4. Ilsen About, James Brown and Gayle Lonergan. 2013. *Identification and Registration Practices in Transnational Perspectives*. Palgrave Mcmillan (ISBN10: 1349346438)
5. Tenday Bloom and David Cale. 2018. *Understanding Statelessness*. Routledge (ISBN-10 : 0367138603)
6. Robin Cohen. 2020. *Routledge handbook of Diaspora Studies*. Routledge (SBN-10 : 0367659840)
7. Zygmunt Berman. 2013. *Community*. Polity (ISBN-13: 9780745626345)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

You are expected to participate actively in the class discussions. You are required to set your own objectives in SMART way(I will explain in the class) apart from what I want you to understand. You need to monitor your own progress and evaluate your achievements by yourself according to the indicators, which you set by yourself. I will give my feedback in the class. We utilize Campus LMS for you to submit of your presentation materials, your term paper, your SMART objectives etc. and for me to share materials. In the classroom, I use both powerpoint, white/black board. and audio visual materials. Depending on the nationalities of students or their interest, we might choose another country instead of Japan..

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Area Studies – Africa, Islam and Asia		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	“Islam” in Global Perspectives		
担当者名 (Instructor)	寺田 悠紀(TERADA YUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2411	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(10名) 2016年度以降入学者適用 履修にあたっての目安となる英語レベルは IELTS 6.0		

授業の目標 (Course Objectives)

The aim of this course is to enhance our understanding of “Islam” in global contexts by studying “Islam” from multiple angles. By taking this course, students will be able to explain the dynamics and diversity of “Islam” and Muslims from Africa to Asia. By the end of this course, students will also be able to identify the impact of “Islam” on world affairs as well as its limitations as an analytical concept.

授業の内容 (Course Contents)

The course is designed to introduce “Islam” in global perspectives and the “areas” introduced in the course include both physical and virtual spaces. This course takes an interdisciplinary approach and covers a wide range of topics from history, politics, gender to art related to “Islam” and Muslim societies in the regions from Africa to Asia. Students are encouraged to actively participate in the discussions, and they are required to submit essay focusing on the theme related to the topics discussed in the class.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. History of “Islam”
3. “Islam” and Nation State 1
4. “Islam” and Nation State 2
5. Family and Gender in Muslim Societies 1
6. Family and Gender in Muslim Societies 2
7. Art and Visual Culture 1
8. Art and Visual Culture 2
9. Commercialization of “Islam” 1
10. Commercialization of “Islam” 2
11. “Islam” in Digital Age 1
12. “Islam” in Digital Age 2
13. Presentation
14. Presentation

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Reading assigned articles and viewing supplemental videos.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/Presentation(20%)/Class Participation, Short reports and Discussion(50%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

Introduced in class. All required readings will be distributed in advance.

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK110／Cultural Anthropology A		
担当者名 (Instructor)	トーサクン(TOSAKUL RATANA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2411	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

The expected knowledge and abilities students can acquire from this course are below.

- 1.To help improve students' reading and writing skills for essential academic reading and writing in English.
- 2.To introduce students to various anthropological perspectives and approaches to understand and analyze current issues of contemporary human society and allow them to experiment with their writing in English.
- 3.To provide students with the current state of anthropological debates of cultural diversity and cultural conflicts of contemporary society.
- 4.To help students prepare for their future dealings with cultural diversity, differences, and conflicts of contemporary human society by providing them with the necessary skills for analytical thinking critically about cultural differences in an increasingly globalized world.

授業の内容 (Course Contents)

This course introduces students to the basics of cultural anthropology, which is the study of human society and cultures. In this course, students will examine the fundamental vital terms and various issues of cultural anthropology. Students are encouraged to investigate the complex interface between individuals, social groups, social structures, culture, and history; and apply theoretical considerations of social and cultural anthropological analysis to critically interpret contemporary human society and cultures. The class consists of a lecture & discussion part and a student presentation. Students are required to engage in scholarly discussions actively.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction to the course
2. Anthropology and human diversity
3. Doing cultural anthropology
4. The idea of culture and a brief historical guide to anthropological concepts
5. Communication: Language and culture
6. Making a living: Human economic systems and culture
7. Political organization/ power and politics
8. Stratification and social structure of inequality (caste, social class, racism, and ethnicity)
9. Marriage, family, kinship, and domestic group
10. Gender lives
11. Religion, ritual, myth, and cosmos
12. Creative expression (art, museums, and popular culture)
13. Culture, change, and the modern world
14. Students' reflection seminar/ Wrap-up session

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students must read all assigned chapters and articles before class and contribute to class discussions actively.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Two written assignments in English during the course (weeks 6 and 9)(30%)/A final mini-ethnographic paper in English(40%)/Students' presentation and summary note (individually)(15%)/Class reading presentation, group presentation & summary, and active participation in class discussions(15%)

(Grading criteria will be following the Rikkyo University regulations) Course assignments 1.Students' presentation weekly: Each student selects one topic of interest to do a presentation and takes the lead in participating in class discussion weekly (from weeks 2 to 13). At least two days before the presentation, students must submit a presentation summary, about 200-300 words in length, comprising key issues and clarifications, examples or case studies, and comments. 2.Two short papers during the course: Students must submit two short papers (700 words as a minimum requirement for each essay) during the course on weeks 6 and 9. The instructor will prepare questions for students to select for their paper writing. 3.Final paper: At the end of the course, students will need to do mini ethnographic research to collect field data on their own time outside of class and write a mini ethnographic paper in English (1,000 words as a minimum requirement for the final report).

テキスト(Textbooks)

No required textbook. The instructor will provide all reading materials to students in electronic format weekly.

参考文献(Readings)

1. Haviland, William A., Harald E. L. Prins, Bunny McBride, Dana Walrath.. 2017. *Cultural Anthropology: The Human Challenge. 15th Edition.* . CENGAGE Learning Publications. (ISBN:978-1-305-63379-7)
2. Lavenda, Robert H., and Emily A. Schultz.. 2020. *Core Concepts in Cultural Anthropology. Seventh Edition.* . Oxford University Press. (ISBN:978-0190924751)
3. Nanda, Serena, and Richard L. Warms.. 2020. *Cultural Anthropology. 12th Edition.* . SAGE Publications. (ISBN:978-1544333915)
4. Tsing, Anna Lowenhaupt.. 2015. *The Mushroom at the End of the World: On the Possibility of Life in Capitalist Ruins.* . New Jersey: Princeton University Press. (ISBN:978-0691162751)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

Late assignments

All assignments must be submitted to the instructor on time via email before 4:00 p.m. Assignments not turned in on the date they are due will be penalized by deducting two scores down for each day they are late (for example, the total score of an assignment is 10. If it is turned in a day later, two scores will be deducted). The instructor will not accept assignments one week late (without valid reasons).

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Lecture & Discussion on Social Issues A		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Family related issues in Japan		
担当者名 (Instructor)	宇野 真弓(UNO MAYUMI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3131	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

This course aims to promote the followings:

- Better understanding of the family and its relation to the larger society
- Familiarity with concepts, theories, and methods of sociology
- An ability to pose questions and engage in the discussion in a critical/logical manner

授業の内容(Course Contents)

This course examines family-related issues in Japan from sociological perspectives. Our focus will be on the family after modernization. We will explore a range of topics including marriage/partnership, work, childbirth/childrearing, gender roles, education, poverty, social welfare, and aging. Students are expected to attend class regularly and contribute to discussions and activities held during the class as both a leader and a participant.

授業計画(Course Schedule)

1. Introduction
2. What is the family?
3. Overview of sociological perspectives
4. Current issues related to families in Japan
5. Late marriage, less marriage
6. Child-birth, reproductive technology, childlessness I
7. Child-birth, reproductive technology, childlessness II
8. Child-rearing and work I
9. Child-rearing and work II
10. Poverty and inequality I
11. Poverty and inequality II
12. Social securities, working past 65, single seniors I
13. Social securities, working past 65, single seniors II
14. Wrap-up discussion

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

There will be several homework assignments (i.e. reading and/or writing) and students are required to complete them by the due date.

成績評価方法・基準(Evaluation)

Attendance and class participation(50%)/Homework assignments(50%)

テキスト(Textbooks)

Reading materials will be provided in class or in the electronic format.

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

This is tentative and subject to change as conditions dictate.

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Lecture & Discussion on Social Issues B		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Japanese Food and Globalization		
担当者名 (Instructor)	王 川菲(WANG CHUNANFEI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3131	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

Students will acquire the following skills.

1. Critically consider global and social issues occurring in the field of food in daily life.
2. Analyze and report the culinary issues in both oral and written forms.
3. Conduct academic discussions on the food-related topics and exchange opinions with peers.

授業の内容(Course Contents)

This course explores the processes and consequences of globalization through the lens of culinary cultures. It focuses on cross-border influences on foodways and transnational culinary cultures and pays particular attention to culinary influences entering into and from Japan. This course is designed for students to develop an understanding of Japanese culinary culture on one hand. It ultimately aims to broaden and equip students with critical thinking ability to consider social issues in the context of globalization.

授業計画(Course Schedule)

1. Course Orientation
2. Global food histories
3. Historical roots of contemporary Japanese culinary culture
4. The history of western culinary culture in Japan
5. National cuisine as a cultural construction
6. Japan's national cuisine
7. Japan's local cuisine
8. The globalization of Japanese culinary culture I
9. The globalization of Japanese culinary culture II
10. Politics in the globalization of Japanese culinary culture
11. Food waste and poverty in Japan
12. Towards food sustainability
13. Syllabus contribution I
14. Syllabus contribution II

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

1. Read assigned book chapters before class.
2. Research for making syllabus contribution.

成績評価方法・基準(Evaluation)

In-class discussions (except for weeks 1, 13, 14) (1 x 11 classes)(11%)/Reading notes (except for weeks 1, 13 14) (5 x 11 pieces)(55%)/Individual presentation of assigned readings (1 reading to choose from the listed readings on syllabus)(16%)/Syllabus contribution (1 individual presentation)(18%)

テキスト(Textbooks)

The instructor will provide readings in the electronic form.

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Lecture & Discussion on Culture A		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	文化人類学(Cultural Anthropology)		
担当者名 (Instructor)	小村 明子(KOMURA AKIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3231	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

The final goals of this course are the acquisition of academic knowledge of cultural anthropology and of active English skills through lectures, discussion and assigned presentations in English.

英語によるレクチャーとディスカッション、最終発表を課すことによって、英語での学識およびアクティブな英語力を習得することが最終目標である。

授業の内容(Course Contents)

This course is an introduction to cultural anthropology. In class the instructor gives lectures about the topics written in the Course Schedule and students discuss the topics. Readings and a short report are assigned for each topic. Students also research about their own topic and make a final presentation and submit a final report.

この授業は英語による文化人類学入門である。授業では、授業計画に記載したテーマについて、講義および学生によるディスカッションを行う。リーディング・アサインメントおよび小レポートを各回の宿題として課す。また学生は各自テーマを決めて研究し、最終発表を行ってレポートを提出する。

授業計画(Course Schedule)

1. Orientation/Introduction(オリエンテーション／イントロダクション)
2. Introduction to Cultural Anthropology(文化人類学入門)
3. Fieldwork(フィールドワーク)
4. History of Mankind(人類の歴史)
5. Culture(1)(文化(1))
6. Culture(2)(文化(2))
7. Language(1)(言語(1))
8. Language(2)(言語(2))
9. Marriage, Family and Society(結婚、家族そして社会)
10. Religion(宗教)
11. Islam(イスラーム)
12. Multiculturalism(多文化主義)
13. Japanese Culture(日本文化)
14. Final presentations(最終発表)＋ Final report due(最終レポート締切)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Students are required to read the assigned readings in preparation for the class discussion and submit a short report. They are also encouraged to work little by little on their own research to prepare a final report.(学生は事前にテーマについてのリーディング教材を読み、ディスカッションの準備を行うこと。また小レポートを提出すること。最終レポートを提出するために、少しずつ調べていくこと。)

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への参加度(Class Participation)(30%)／最終レポート(Final Report)(20%)／最終発表(Final Presentation)(20%)／ディスカッション参加(Participation to the class discussion)(15%)／リーディング・アサインメント(Reading assignments)＋小レポート(Short Reports)(15%)

テキスト(Textbooks)

No textbook used. Reading materials will be provided.
(テキストは使用しない。リーディング教材を配布する。)

参考文献(Readings)

To be mentioned as needed.(必要に応じて適宜指示する。)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Lecture & Discussion on Culture B		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	宗教人類学(Religious Anthropology)		
担当者名 (Instructor)	小村 明子(KOMURA AKIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3231	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

The final goals of this course are the acquisition of academic knowledge of religious anthropology and of active English skills through lectures, discussion and assigned presentations in English.

英語によるレクチャーとディスカッション、最終発表を課すことによって、英語での学識およびアクティブな英語力を習得することが最終目標である。

授業の内容(Course Contents)

This course is an introduction to religious anthropology. In class the instructor gives lectures about the topics written in the Course Schedule and students discuss the topics. Readings and a short report are assigned for each topic. Students also research about their own topic and make a final presentation and submit a final report.

この授業は英語による宗教人類学入門である。授業では、授業計画に記載したテーマについて、講義および学生によるディスカッションを行う。リーディング・アサインメントおよび小レポートを各回の宿題として課す。また学生は各自テーマを決めて研究し、最終発表を行ってレポートを提出する。

授業計画(Course Schedule)

1. Orientation/Introduction(オリエンテーション／イントロダクション)
2. What is religion?(宗教とは何か?)
3. Shintoism(神道)
4. Buddhism(仏教)
5. Japanese Buddhism(日本の仏教)
6. Syncretism in Japanese religion(日本の神仏習合)
7. Japanese New Religions(日本の新宗教)
8. Shamanism(シャーマニズム)
9. Islam(イスラーム)
10. Christianity(キリスト教)
11. Christian art(キリスト教芸術について)
12. Anime, Manga and Religion(アニメ、マンガと宗教)
13. Essence of religion(宗教の本質)
14. Final presentations(最終発表)＋Final report due(最終レポート締切)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Students are required to read the assigned readings in preparation for the class discussion and submit a short report. They are also encouraged to work little by little on their own research to prepare a final report.(学生は事前にテーマについてのリーディング教材を読み、ディスカッションの準備を行うこと。また小レポートを提出すること。最終レポートを提出するために、少しずつ調べていくこと。)

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への参加度(Class Participation)(30%)／最終レポート(Final Report)(20%)／最終発表(Final Presentation)(20%)／ディスカッション参加(Participation to the class discussion)(15%)／リーディング・アサインメント(Reading assignments)＋小レポート(Short reports)(15%)

テキスト(Textbooks)

No textbook used. Reading materials will be provided.
(テキストは使用しない。リーディング教材を配布する。)

参考文献(Readings)

To be mentioned as needed.(必要に応じて適宜指示する。)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Lecture & Discussion on Media and Communication A		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Mass Communication in the Digital and Global Age		
担当者名 (Instructor)	ヤマモト, A. (YAMAMOTO ANN TOMOKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3331	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

This course will provide students with opportunities for active and critical engagement with media culture in our digital and global age.

授業の内容(Course Contents)

This class aims to equip students with a conceptual toolkit for understanding and using media (often called “media literacy”). The class will be conducted as a hands-on investigation of our media-saturated environment and will ask students to 1) do targeted reading on fundamental concepts, 2) conduct weekly observations and interventions regarding your interactions with media, and 3) output findings through reflection essays and a final project.

授業計画(Course Schedule)

1. Introduction: Key concepts and course orientation
2. Media, technology and social change
3. Media history (pre-digital)
4. Media history (web 1.0, 2.0, 3.0 and beyond)
5. Introduction to media literacy
6. Media literacy and semiotics
7. Media literacy and encoding/decoding
8. Advertising, public relations and propaganda
9. Fake news and political power
10. Media and machine learning
11. Media and privacy issues
12. Media economy
13. Final presentations
14. Final presentations

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

All readings for the course are available for download as PDF files from the Blackboard or Canvas LMS. Students are expected to complete reading before the class. Students will be asked to conduct observations of their media environment and share these observations in class discussion, reflection essays and a final project.

成績評価方法・基準(Evaluation)

Class participation(40%)/Reflection essays(40%)/Final presentation(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. Campbell, Richard, Christopher R. Martian, and Bettina Fabos., 2022. *Media & Culture: Mass Communication in a Digital Age*. Bedford/St. Martin's

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Lecture & Discussion on Media and Communication B		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Media and Societal Transformation in the Digital Age		
担当者名 (Instructor)	ヤマモト, A. (YAMAMOTO ANN TOMOKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3331	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

This course focuses on the societal impacts of the latest developments in media technology.

授業の内容(Course Contents)

This class introduces critical concepts for understanding the role of media in social, political and economic spheres, as well as intersections with our everyday lives. This class will be conducted as a hands-on investigation and will ask you to 1) do targeted reading on fundamental concepts, 2) conduct weekly observations and interventions in your use of media, 3) output your findings through class discussions, reflection essays and a final project.

授業計画(Course Schedule)

1. Introduction and course orientation
2. Media as technology
3. Media history overview
4. "Metaverse" in fiction and practice
5. Philosophical approaches to virtual reality
6. Philosophical approaches to virtual reality con't
7. Blockchain technology and the problem of trust
8. Blockchain technology and the problem of trust con't
9. AI and media technology
10. AI and media technology con't
11. Media as currency
12. Media as art
13. Final presentations
14. Final presentations

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

All readings will be available as PDF files on the Blackboard or Canvas LMS. Students are expected to complete the reading before class. Students will be asked to conduct observations on media interactions, which will become material for class discussions, reflection essays and the final project.

成績評価方法・基準(Evaluation)

Class participation(40%)/Reflection essays(40%)/Final project(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Lecture & Discussion on Social Issues C		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Craft and Society: skill, knowledge, and creativity		
担当者名 (Instructor)	モライス, L. (MORAIS LILIANA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3131	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

1. Apply sociological concepts to the study of the production, circulation, and consumption of craft.
2. Discuss the role of craft in contemporary society.
3. Develop critical thinking, discussion, and academic English reading skills.
4. Undertake undergraduate-level research and write a research report.

授業の内容(Course Contents)

The word "craft" comes from Old English, meaning power, knowledge, and skill. Similar to the root of the Latin word for "art", it referred to the human ability to do something well in the broader sense. Despite having been positioned in a lower hierarchy to "the arts" (painting, sculpture, music, etc.) or seen as obsolete in the context of modern factory-based industry, craft-making involves creativity, innovation, and knowledge of materials, humans, and the environment.

This course allows students to engage with sociological, anthropological, and interdisciplinary approaches to the study of craft as both a type of material cultural object and a way of working. This will provide an opportunity to look at the intersections between craft and issues of class, gender, ethnocentrism, colonialism, and globalization. We will see how ideas associated with craft (romantic, rural, traditional, feminine, ethnic, etc.) have been shaped, instrumentalized, or reclaimed by various artistic, social, and political movements both left and right.

In recent decades, craft and ideas of craftsmanship have resurged within a critique of neoliberalism and labor and environmental exploitation. At the same time, the role of craft in cultural heritage preservation, tourism, rural revitalization, and sustainable development has been highlighted. Throughout this course, students will have the chance to reflect on and discuss the role of craft in contemporary society.

授業計画(Course Schedule)

1. Syllabus Overview and Introductions
2. What is Craft? Art versus Craft
3. Craft, Eurocentrism, and Colonialism
4. Craft, Labor, and the Industrial Revolution
5. Political uses of craft in Europe and Japan: Utopia, Nostalgia, and Nationalism
6. Craft, Counterculture, and Alternative Lifestyles
7. Craft, Gender, and the Feminist Critique
8. Craft and the Neoliberal Critique I
9. Craft and the Neoliberal Critique II
10. Craft Heritage, Tourism, and Regional Revitalization
11. The Future of Craft
12. Student Presentations and Discussion I
13. Student Presentations and Discussion II
14. Wrap-up and submission of final report

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Students are required to actively engage in and prepare for in-class discussions by completing weekly homework assignments. At the end of the course, students will prepare a presentation and write a research report based on a chosen topic.

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/Final presentation(15%)/Attendance and participation(15%)/Homework and in-class assignments(35%)

Students who miss more than 1/4 of the classes will not be graded.

テキスト(Textbooks)

Required readings will be introduced in class and made available online.

参考文献(Readings)

1. Richard Sennet. 2013. *The Craftsman*. Yale University Press (ISBN:0300119097)
 2. Trevor Marchand. 2017. *Craftwork as Problem Solving*. Routledge (ISBN:0815346549)
 3. Laura Price, Harriet Hawkins. 2018. *Geographies of Making: Craft and Creativity*. Routledge (ISBN:1138238740)
 4. Adamson, Glenn. 2002. *The Craft Reader*. Ava Pub Sa (ISBN:1350092649)
 5. Wood, D. 2021. *Craft is Political: Economic, Social and Technological Contexts*. Ava Pub Sa (ISBN:1350122262)
 6. Richard Ocejo. 2017. *Masters of Craft: Old Jobs in the New Urban Economy*. Princeton University Press (ISBN:9780691165493)
 7. Yuko Kikuchi. 2006. *Japanese Modernization and Mingei Theory: Cultural Nationalism and Oriental Orientalism*. Routledge (ISBN:0415405823)
- Additional reading assignments will be announced in class and made available online.

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Lecture & Discussion on Culture C		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会人類学(Social Anthropology)		
担当者名 (Instructor)	小村 明子(KOMURA AKIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3231	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

The final goals of this course are the acquisition of academic knowledge of social anthropology and of active English skills through reading text-included articles, listening, discussion and assigned presentations in English.

(テキストを使用して英語のリーディングとリスニング、英語による学生のプレゼンテーションおよびディスカッション、最終発表を課すことによって、英語での学識およびアクティブな英語力を習得することが最終目標である。)

授業の内容(Course Contents)

In this course students engage themselves in text-based readings, study about various intercultural and social issues from the point of view of social anthropology and discuss the issues in English in class. Focusing on each of the issues found in the Course Schedule, the teacher instructs the students to read the designated chapter/article in the textbook and to watch YouTube or Ted Talks videos in preparation for class discussion. The teacher also gives a lecture from time to time. Reading the designated article and writing a short report are the basic homework assignments of each class. Students also research about their own topic, make a final presentation and submit a final report.

(この授業では、テキストを使ったリーディングをし、社会人類学の視点から異文化や社会問題について学び、英語で各問題について学生がディスカッションする。授業では、授業計画に記載したテーマについて、テキストリーディング、動画鑑賞(講義の回もあり)および学生によるディスカッションを行う。リーディング・アサインメントおよび小レポートを各回の宿題として課す。また学生は各自テーマを決めて研究し、最終発表を行ってレポートを提出する。)

授業計画(Course Schedule)

1. Orientation/Introduction(オリエンテーション／イントロダクション)
2. 3.11 Great East Japan Earthquake(震災の傷跡)
3. Life with animals(動物と共生)
4. Immigration(移民と帰属意識)
5. Special lecture 1 : Islam(特別講義1: イスラームについて)
6. Islam and women's education(イスラームと女性の教育)
7. Gender and LGBT(ジェンダーとLGBT)
8. Gun control and crime(銃と社会)
9. Problems of SNS, Internet(インターネット環境と情報社会)
10. Today's Japanese family(現代日本の家族)
11. Environmental issues(環境問題)
12. Voodoo, slavery and Haiti's history(奴隷制という歴史: ハイチにおけるゾンビについての歴史)
13. Special Lecture 2 : Diversity in the U.K. (特別講義2: イギリスの多様性について)
14. Final presentations(最終発表) + Final report due(最終レポート締切)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Students are required to read the assigned articles in preparation for the class discussion and submit a short report. They are also encouraged to work little by little on their own research to prepare a final report.(学生は事前にテーマについてのリーディング教材を読み、ディスカッションの準備を行うこと。また小レポートを提出すること。最終レポートを提出するために、少しずつ調べていくこと。)

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への参加度(Class Participation)(30%)/最終レポート(Final Report)(20%)/最終発表(Final Presentation)(20%)/ディスカッション参加(Participation to the class discussion)(15%)/リーディング・アサインメント(Reading assignments)+小レポート(Short Reports)(15%)

テキスト(Textbooks)

1. Bruce Allen, Nobuo Ichioka (eds.). 2020. *Different Perspectives : Understanding Current World Issues*. Kinseido
(ISBN:9784764739802)

Extra reading materials will be provided as needed.

(他に、リーディング教材を配布する予定である。)

参考文献 (Readings)

To be mentioned as needed. (必要に応じて適宜指示する。)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Lecture & Discussion on Media and Communication C		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Contemporary Trends in Visual Media Culture		
担当者名 (Instructor)	コルベユ(CORBEIL STEVE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3331	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

The primary goal of this class is to assess how radical transformations to the modes of creation, distribution, and consumption of visual media had a tremendous impact on the content being produced. These changes also altered how we perceived the relationship between different forms of media and society. Based on an understanding of this revolution, we will try to identify future trends in media development and media studies. Furthermore, the students will develop the necessary skills to identify and analyze these changes in specific media production.

授業の内容(Course Contents)

At the beginning of every class, the students will learn about new theories and concepts that will allow for a deeper understanding of visual media. We will focus on the relationship between media content, and socio-political changes. The second part of the class will be structured around discussions. The students are expected to actively take part in every discussion.

授業計画(Course Schedule)

1. Introduction: The Field of Media Studies
2. Ideology and Media: Noam Chomsky, Slavoj Zizek, Mark Fisher (1)
3. Ideology and Media: Noam Chomsky, Slavoj Zizek, Mark Fisher (2)
4. Introduction to Cultural Studies
5. The Streaming Wars and the Future of Japanese TV: Netflix, Amazon Prime, Apple TV+, Disney + (1)
6. The Streaming Wars and the Future of Japanese TV: Netflix, Amazon Prime, Apple TV+, Disney + (2)
7. Representation of Race in TV and Film
8. An Analysis of Jordan Peele's *Get Out* (2017)
9. Representation of Gender in American and Japanese Popular Culture (1)
10. Representation of Gender in American and Japanese Popular Culture (2)
11. Media and Contemporary Political Activism (1)
12. Media and Contemporary Political Activism (2)
13. The Future of Media (1)
14. The Future Media (2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Students are expected to complete the readings before each class.

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(35%)/最終レポート(Final Report)(35%)/授業への参加(Class participation)(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. Kevin McDonald (ed.). 2018. *The Netflix Effect*. Bloomsbury Academic (ISBN:978-1501340185)
2. Mark Fisher. 2009. *Capitalist Realism: Is There No Alternative?*. Zero Books (ISBN:978-1846943171)
3. Stuart Hall. 2019. *Essential Essays vol.1*. Duke University Press (ISBN:978-1478000747)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK120／Sociology of Gender A		
担当者名 (Instructor)	トーサクン(TOSAKUL RATANA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2411	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

At the end of this course, students should be able to:

1. apply relevant sociological theories about gendered experiences and phenomena to gender-related social issues,
2. describe gender ideology and practices in multiple social institutions and across cultures and societies, and analyze how social structure shapes gendered identities and experiences with ethnographic analysis.

授業の内容 (Course Contents)

This course helps students understand gender as a social construction. The traits considered masculine or feminine have some basis in biology but are molded by sociocultural forces. We will first review sociological theories of gender and sexuality and examine how gender varies by sexual orientation. Then, we will investigate gender in context to understand how gender relations, norms, and practices are thought, built, and shaped through social, political, and economic institutions and interactions across cultures and societies with a particular reference to the case of Japan, including family, media, politics, and workplace. Students will be able to examine gender-related issues of interest in their final paper.

授業計画 (Course Schedule)

1. Course orientation and welcome
2. Introduction to the sociology of gender
3. Defining gender, sex, and sexuality
4. Conceptual approaches gender
5. Gender distinctions
6. Gender stratification
7. Gender inequality
8. Some conceptual aspects of sexuality
9. Students' presentation I: reflecting on weeks two and eight
10. Gender in interaction and institutions
11. Gender in global perspective: work, family, and politics
12. Gender roles and relations in Japan
13. An in-class workshop discussing and writing the final paper
14. Students' presentation II: reflecting on weeks ten and twelve

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students must read assigned articles and chapters before class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Final report(40%)/In-class discussions (25%)/Two reflection papers(20%)/Presentation(15%)

テキスト (Textbooks)

The instructor will provide students with all readings weekly in electronic format.

参考文献 (Readings)

1. Braithwaite, Ann, and Catherine M. Orr.. 2017. *Everyday Women's and Gender Studies: Introductory Concepts*.. Routledge. (ISBN:978-0415536660)
2. Liu, Jieyu and Junko Yamashita.. 2020. *Routledge Handbook of East Asian Gender Studies*. . Routledge. (ISBN:978-1-138-95989-7)
3. Moore, Henrietta L.. 1990. *Feminism and Anthropology*.. University of Minnesota Press. (000000)
4. Ortner, Sherry B.. 1996. *Making Gender: The Politics and Erotics of Culture*.. Beacon Press. (ISBN:0-8070-4633-7)
5. Pilcher, Jane, and Imelda Whelehan.. 2017. *Key Concepts in Gender Studies. Second Edition*.. SAGE Publications. (ISBN:978-1-4462-6029-6)

6. Risman, Barbara, Carissa M. Froyum, and William J. Scarborough.. 2006. *Handbook of the Sociology of Gender. Second Edition.* . Springer. (ISBN:978-3-319-76332-3)

7. Wharton, Amy S.. 2012. *The Sociology of Gender: An Introduction to Theory and Research. Second Edition.* . Wiley-Blackwell Publishing. (ISBN:978-0-470-65568-9)

Notes:

No. 3: Library of Congress Cataloging Number:88-22032

No.7: The first edition is available online for free download

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Writing Academic English A		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Culture		
担当者名 (Instructor)	楠 浩恵(KUSUNOKI HIROE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

- (1) Write a research paper in English.
- (2) Learn the skills necessary to write a good research paper in English.
- (3) Read a book written in English.
- (4) Give a presentation.

授業の内容(Course Contents)

- (1) Learn the skills necessary to write a good research paper in English.
- (2) Read a lot.
- (3) Write a lot.
- (4) Work on one's research paper.
- (5) Give a presentation.

There are plenty of opportunities for students to work independently, with a partner, and with a group. Students can work on several different writing activities such as brainstorming, drafting, and editing, as well as other activities such as reading model texts, discussing and doing exercises in class.

授業計画(Course Schedule)

1. Part I. Introduction
1 Overview
2. Part I. Introduction
1 Overview
3. Part II. Planning & Researching
2 Initial Planning
4. Part II. Planning & Researching
3 Planning & Organizing
5. Part II. Planning & Researching
4 Researching
6. Part III. Writing the Research Paper
5 Writing the Research Paper: Introduction, Body & Conclusion
7. Part III. Writing the Research Paper
5 Writing the Research Paper: Introduction, Body & Conclusion
8. Part III. Writing the Research Paper
5 Writing the Research Paper: Introduction, Body & Conclusion
9. Part III. Writing the Research Paper
6 Completing the Research Paper
10. Part III. Writing the Research Paper
6 Completing the Research Paper
11. Part III. Writing the Research Paper
6 Completing the Research Paper
12. Part III. Writing the Research Paper
6 Completing the Research Paper
13. Presentation Preparation
14. Presentation
Final Report Due

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Give instruction as necessary.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(20%)/Presentation(20%)/Reading Assignment & Report(20%)/Discussion(10%)/Attendance and participation(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 吉田友子、2008、『アカデミックライティング入門 英語論文作成法』、慶應義塾大学出版会 (ISBN:9784766422122)

参考文献 (Readings)

1. Rhonda Byrne. 2012. *the MAGIC*. ATRIA BOOKS (978-4516-7344-9)
- Give instruction as necessary.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Writing Academic English B		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Self Improvement		
担当者名 (Instructor)	楠 浩恵(KUSUNOKI HIROE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目 (20 名)		

授業の目標 (Course Objectives)

- (1) Write an essay in English.
- (2) Learn the skills necessary to write a good essay in English.
- (3) Read a book written in English.
- (4) Give a presentation.

授業の内容 (Course Contents)

- (1) Learn the skills necessary to write a good essay in English.
- (2) Read a lot.
- (3) Write a lot.
- (4) Work on one's essay.
- (5) Give a presentation.

There are plenty of opportunities for students to work independently, with a partner, and with a group. Students can work on several different writing activities such as brainstorming, drafting, and editing, as well as other activities such as reading model texts, discussing and doing exercises in class.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. Unit 1 Preparing to Write
Part 2 Taking a position
3. Unit 1 Preparing to Write
Part 4 Planning the essay
4. Unit 2 Essay Paragraphs
Part 1 Introductory paragraphs
5. Unit 2 Essay Paragraphs
Part 2 Body paragraphs
6. Unit 2 Essay Paragraphs
Part 2 Body paragraphs
7. Unit 2 Essay Paragraphs
Part 3 Logical fallacies
8. Unit 2 Essay Paragraphs
Part 4 Concluding paragraphs
9. Unit 3 Using and Citing Sources
Part 2 Integrating source information
10. Unit 3 Using and Citing Sources
Part 3 Citing sources
11. Unit 3 Using and Citing Sources
Part 4 Using reporting verbs and phrases
12. Unit 4 Accuracy and Clarity
Part 3 Editing
13. Presentations
14. Presentations
Final Report (Final Essay) Due

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Give instruction as necessary.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(20%)/Presentation(20%)/Reading Assignment & Report(20%)/Discussion(10%)/Attendance & Participation(30%)

テキスト(Textbooks)

1. Peter Chin, Samuel Reid, Sean Wray, and Yoko Yamazaki. 2013. *Academic Writing Skills Student's Book 3*. Cambridge University Press (ISBN:978-1-107-61193-1)

参考文献(Readings)

1. Rhonda Byrne. 2012. *the MAGIC*. ATRIA BOOKS (978-4516-7344-9)
Give instruction as necessary.

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Writing Academic English C		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Sociology		
担当者名 (Instructor)	楠 浩恵(KUSUNOKI HIROE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

- (1) Write a research paper in English.
- (2) Learn the skills necessary to write a good research paper in English.
- (3) Read a book written in English.
- (4) Give a presentation.

授業の内容(Course Contents)

- (1) Learn the skills necessary to write a good research paper in English.
- (2) Read a lot.
- (3) Write a lot.
- (4) Work on one's research paper.
- (5) Give a presentation.

There are plenty of opportunities for students to work independently, with a partner, and with a group. Students can work on several different writing activities such as brainstorming, drafting, and editing, as well as other activities such as reading model texts, discussing and doing exercises in class.

授業計画(Course Schedule)

1. Introduction
2. 1 Review of the Essay
3. 2 Choosing a Topic
4. 3 Peer Review
5. 4 Researching
6. 5 Outlining
7. 6 Avoiding Plagiarism
8. 7 The Language of the Research Paper
9. 8 Writing the First Draft
10. 9 In-Text Citations
11. 10 Academic Language
12. 11 Editing Your Paper
13. 12 Presenting Your Research
14. Final Presentation
Research Paper Due

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Give instruction as necessary.

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(20%)/Presentation(20%)/Reading Assignment & Report(20%)/Discussion(10%)/Attendance & Participation(30%)

テキスト(Textbooks)

1. Dorothy E. Zemach, Lisa A. Ghulldu, Carlos Islam, Robyn Brinks Lockwood. 2018. *Writing Research Papers*. Macmillan (ISBN:978-0-230-42194-3)

参考文献(Readings)

1. Rhonda Byrne. 2012. *the MAGIC*. ATRIA BOOKS (978-4516-7344-9)

Give instruction as necessary.

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Writing Academic English D		
担当者名 (Instructor)	王 川菲(WANG CHUNANFEI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

1. 英語で社会学関連の研究レポートを執筆するスキルをマスターする。
2. 英語による効果的な口頭発表の仕方を学ぶ。

1. Acquire the skills of writing sociological paper in English.
2. Learn to present academic writings in English.

授業の内容(Course Contents)

1. 英語研究レポートを書くためのモチベーションと環境作り
2. 英語研究レポートの構造
3. 英語研究レポートの執筆
4. 英語による研究レポートを口頭発表スキル
5. 研究レポートをピアレビューする

1. Motivations and preparations for writing in English
2. Structure English academic paper
3. Complete an academic paper in English
4. Skills of English presentation
5. Review peer's English paper

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
なぜライティングするか
楽しく英語論文を書くために
自由作文 I
2. 英語研究論文を書くための環境準備
自由作文 II
ディスカッション: 作文感想をシェア
3. 研究論文の構成
4. 英語研究論文の書き方(英語表現と文法)
5. 英語研究論文の書き方(要旨)
6. 英語研究論文の書き方(序論)
7. 英語研究論文の書き方(本論)
8. 英語研究論文の書き方(研究方法と結果)
9. 英語研究論文の書き方(結論と考察)
10. 英語研究論文の書き方(図表、引用・参考文献など)、英語研究論文の口頭発表
11. ワークショップ 1: 論文作成
12. ワークショップ 2: 論文を仕上げ、提出(授業内 or 第13回の授業まで)
13. ワークショップ 3: ピアレビューおよびそのコメント作成・提出(授業内)
14. 口頭発表: 自分の作文を紹介と作文の経験や感想をシェア

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

1. 各週のトピックに関するテキスト内の章を読む。
2. 質問があれば、用意しておく。
3. 講義内容の復習を適宜行なう

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(37%)/授業参加(第2-10回 計9回 x 2%)(18%)/ピアレビューコメント(10%)/(授業内最終回) 口頭発表(35%)

テキスト(Textbooks)

石井クンツ昌子『社会科学系のための英語研究論文の書き方～執筆から発表・投稿までの基礎知識～』ミネルヴァ書房 2010 (ISBN:462305599X)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK125／Global Study Program (Sydney)		
担当者名 (Instructor)	小泉 元宏(KOIZUMI MOTOHIRO) モライス, L. (MORAIS LILIANA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	6単位(6 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2473	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	人数制限科目(25名)		

授業の目標(Course Objectives)

グローバル社会学の視点を通じて、これまでに気づかなかった人々の生活や暮らし、あるいは文化的・社会的事象を見出していく能力を身につけること。さらに、適切な説明や考察、ビジュアル資料の提示等を伴った英語による口頭発表を行い、自らの視点・発見を表現していく力を身につけると共に、ディスカッションを通じて他者と積極的に意見交換する力を高めることを目標とする。

This course consists of a one-month overseas study program and preliminary research in Tokyo. By the end of the course, students should:

1. Develop perspectives in understanding the lifestyles and social issues in different cultures.
2. Explain own thoughts through presentations and discussions in English.

授業の内容(Course Contents)

日本での事前授業では、シドニーでの研修に向けての研究計画や渡航手続き等についての必要な準備を行う他、グループ・フィールドワークやプレゼンテーションなどを行う。現地での英語研修では、日本でのプレイスメントテストの結果に応じたクラスで英語の授業を受ける。また、リサーチ・プロジェクトに参加しながら研究調査を行う。その他、現地における立教大学卒業生らとの交流や企業訪問、さまざまなアクティビティにも参加する。以上を踏まえ、これまで自らが見ていなかった「他者」の「生」を見出し、その意義について仲間と議論を深めながら、自らの考えをグローバルな視点に立って発信していく力を身につけてほしい。

The program comprises English language classroom instruction in Australia, and lectures on global sociology, including field research. Also, during the program, there are opportunities to communicate with the alumni of Rikkyo University and other social/cultural activities.

授業計画(Course Schedule)

1. 事前授業: イントロダクション
2. 事前授業: オリエンテーション①(現地プログラムの詳細説明)
3. 事前授業: グループワーク(テーマ策定)
4. 事前授業: グループワーク(予備調査)
5. 事前授業: グループワーク(構想発表)
6. 事前授業: オリエンテーション②(渡航前ガイダンス)／英語プレイスメントテスト
7. 事前授業: グループワーク(中間プレゼンテーション)
8. シドニーでの研修
9. シドニーでの研修
10. シドニーでの研修
11. シドニーでの研修
12. シドニーでの研修
13. シドニーでの研修
14. シドニーでの研修(最終プレゼンテーション)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前授業から現地での研修・リサーチまで、これまで見てこなかったさまざまな人々の「生」や、文化的・社会的事象を見ていくために、積極的に授業外での調査研究・および語学学習に取り組んでいくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

事前授業への積極的参加と貢献(20%)／グループ・プレゼンテーション(事前授業・研修時)(30%)／研修時における積極的参加と貢献・評価(30%)／テーマ研究レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Principles of Sociology		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Understanding and using sociological notions		
担当者名 (Instructor)			
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2011	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(10名) 2016年度以降入学者適用 履修にあたっての目安となる英語レベルは IELTS 6.0		

授業の目標 (Course Objectives)

This course aims at presenting to students the main notions that sociology has to offer, as means for critical thinking. In the end of semester, students will feel capable of understanding and using rapidly and easily a set of notions to analyze international and comparative situations related to the social construction of reality. To fulfil this simple but ambitious objective, the course will be insisting on applying those notions to a large range of cases.

授業の内容 (Course Contents)

Each session will be focusing on a key theme of sociology and divided into five major notions (10 themes and 50 notions in total). Students will be asked to introduce one notion to the class, propose some ways of utilization, and participate in group discussions. Through an open classroom climate and a friendly atmosphere, this course is designed to help students in desacralizing abstract theoretical knowledge together. To do so, the book entitled "Essential concepts in sociology" will serve as a common working basis.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. Methods
3. Evolutions
4. Environment
5. Structures
6. Determinism
7. Relationships
8. Communication
9. Health
10. Deviance
11. Politics
12. Preparatory session
13. Final test
14. Conclusion

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students will be required to study all the notions discussed in class, and prepare for the final test.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Oral presentations(40%)/Final test(30%)/Participation(30%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. Anthony Giddens and Philip W. Sutton. 2021. *Essential Concepts in Sociology*, 3rd edition. Polity

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Global City		
担当者名 (Instructor)	鈴木 弥香子(SUZUKI MIKAKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2411	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(10名) 2016年度以降入学者適用 履修にあたっての目安となる英語レベルは IELTS 6.0		

授業の目標 (Course Objectives)

The purpose of this course is (1) to give students a basic understanding of theories concerning globalization and diversity, (2) to deepen students' understanding on social issues in global cities, e.g., discrimination and exclusionism, and (3) to cultivate critical thinking skills.

授業の内容 (Course Contents)

'Global city' may evoke the image of something positive and bright; however, global cities such as Tokyo, in reality, have a bright side and a dark side.

Like other global cities, Tokyo has faced many challenges: inequality, poverty, environmental issue, aging population, discrimination and exclusionism. Among these issues, this lecture mainly focus on discrimination and exclusionism. Especially after the Brexit and the birth of Trump administration, anti-immigration movement and discrimination toward people of color and migrants have become serious problems.

In order to think about questions such as how to live together in diversity, this lecture introduces main concepts surrounding diversity and globalization.

授業計画 (Course Schedule)

1. Course guidance
2. Globalization theory
3. Economic globalization
4. Cultural globalization
5. Political globalization
6. Sexual/gender diversity (1)
7. Sexual/gender diversity (2)
8. Multicultural Tokyo
9. Hafu' and hidden hybridity in Japanese society (1)
10. Hafu' and hidden hybridity in Japanese society (2)
11. Multiculturalism (1)
12. Multiculturalism (2)
13. Summary
14. In-class essay and conclusion

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students are required to read articles or chapters of books suggested during the class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

In-class essay(40%)/Active participation in discussions(30%)/Reflection paper(30%)

テキスト (Textbooks)

None

参考文献 (Readings)

Materials will be provided during the classes or uploaded on the Blackboard.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／International Relations		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Introduction to Transnational Politics in East Asia		
担当者名 (Instructor)	パーク C. (PARK CHRIS HYUNKYU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2411	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(10名) 2016年度以降入学者適用 履修にあたっての目安となる英語レベルは IELTS 6.0		

授業の目標 (Course Objectives)

This course explores fundamental political concepts such as power, reconciliation, peace, and coexistence in a range of contexts and at a variety of levels. The course encourages dialogue and debate, promoting students the capacity to interpret theories and case studies in local and global issues to ensure a transnational perspective.

授業の内容 (Course Contents)

This course has some basic goals including:

- 1.To familiarize students with some fundamental political concepts such as power, reconciliation, peace, and coexistence in a range of contexts and at a variety of levels;
- 2.To encourage students the capacity to interpret theories and case studies in local and global issues to ensure a transnational perspective; and
- 3.To help students develop an in-depth understanding of national, regional, and global dimensions of political relations and interactions by shedding particular lights on non-state actors such as human agency, nongovernmental organization, and local dynamics and to think creatively about alternatives in global politics.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction (Class Activity)
2. Theories and Practices: Historical Overview International, Transnational, and Globalism (Lecture)
3. Politics of Empire and Colonialism (Lecture and Discussion)
4. Myth of 'Homogeneity': Nation and Nationalism (Lecture and Discussion)
5. Race, Ethnicity, Immigration, and Diaspora (Lecture and Discussion)
6. Postwar Japan and East Asia (Lecture and Discussion)
7. Power, Protest, and Social Mobilization (Lecture and Discussion) & Group Presentation Proposal
8. Cold War to Neoliberalism (Lecture and Discussion)
9. Gender, Feminism, and Sexuality (Lecture and Discussion)
10. Guest Speaker 1: TBA
11. Guest Speaker 2: TBA
12. Movie Day: Militarization and Everyday Life in Okinawa, Jeju, and Palestine
13. Reconciliation: Come to Terms with the Past (Group Presentation)
14. Conclusion

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

There are no prerequisites for the course. General knowledge of the global society, culture, and history would be helpful but not required. This course encourages students to participate in class discussions. Get ready to discuss various topics.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/Attendance and Participation(20%)/Homework Assignments(40%)

テキスト (Textbooks)

- Raphael Dalleo, American Imperialism's Undead: The Occupation of Haiti and the Rise of Caribbean Anticolonialism (University of Virginia Press, 2016).
- Mark Driscoll, Absolute Erotic, Absolute Grotesque: The Living, Dead, and Undead in Japan's Imperialism, 1895-1945 (Durham: Duke University Press, 2010).

These books are not required. There will be readings at the beginning of class.

参考文献 (Readings)

- Etienne Balibar and Immanuel Wallerstein, Race, Nation, Class: Ambiguous Identities (London: Verso, 1991).
- Thomas Risse, Stephen C. Ropp, and Kathryn Sikkink, The Power of Human Rights: International Norms and Domestic Change (Cambridge: Cambridge University Press, 1999).

These books are not required. There will be readings at the beginning of class.

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

Please contact the instructor via email if students have any questions.

5561655@rikkyo.ac.jp

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Civil Society Organization (NGO/NPO) and Corporate Social Responsibilities		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	NGOs approaches over Business and Human Rights issues.		
担当者名 (Instructor)	寺中 誠(TERANAKA MAKOTO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2411	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	人数制限科目(10名) 2016年度以降入学者適用 履修にあたっての目安となる英語レベルは IELTS 6.0		

授業の目標 (Course Objectives)

Understanding the Business and Human Rights global trends and their implication on Corporate Social Responsibilities.
Defining actors on the issue, such as business sectors, NGOs and governments, and how the UN is conceptualising the issue.

授業の内容 (Course Contents)

Both in fields of business ethics and law, Corporate Social Responsibility (CSR) is becoming an area of huge interest among various parts of the community. Firstly initiated over management of environmental issues, the matter of CSR is now expanding its scope to corporate governance and human rights issues, globally and locally. The UN and Civil Society Organisations are actively taking parts on setting up mechanisms for its respective fields. The course will take up the issue in the larger extent with a knowledge of backgrounds.

授業計画 (Course Schedule)

1. The emerge of the CSR perspectives in the civil society and their implications into human rights field.
2. The basic concept of the legal context on Business and Human Rights. Is this an International Law playground?
3. "Businesses Under Trial"; How the civil society constituted "Social Problems" by criticising businesses?
4. "The Empire Strikes Back" – The failure of the "Norms of Responsibilities"; how the UN reform in 2005 killed the hard law approach?
5. "Raggie Framework 2008"; How the civil society reacted on the new soft law approach?
6. "UN Guiding Principles on Business and Human Rights 2011", a landmark progress.
7. "Human Rights Due Diligence" as a new method to implement CSR, supported by the concept of "Multi-Stakeholders Approach".
8. Conflict Diamond and the Kimberley Process –Case study A. Armed conflict in question with businesses.
9. Conflict Minerals and the "Dodd-Frank" – Case study B. What is the so-called "conflict economy"?
10. Coffee and Chocolates – Case study C. The global market is designed to support a global extreme poverty.
11. Modern Slavery – Case study D. A revised concept of Slavery is applicable to various business scenes.
12. Managing CSR within the organisation – due diligence, human resource management, defining out "stakeholders" and regulating procedures and contracts.
13. Revisiting "Rights Based Approach", merging up development aids into international human rights instruments.
14. "No One is Left Behind" to be combined with "Conflict As Our Property"; is the current approach of SDGs appropriate in terms of resolving social problems?

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students are required to search on respective documents in advance in relation to each topic.
Take notes during the class, and sum them up after the class. It usually takes an hour for each of pre and post studies.
Students are also required to present response sheets after the class to reflect their understanding.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/Responses given during classes(30%)/Response sheets (in-class points)(30%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

Shall indicate during classes as necessary.

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

Business and Human Rights Resource Centre

<<https://www.business-humanrights.org/>>

UN OHCHR Business and Human Rights

<<https://www.ohchr.org/en/issues/business/pages/businessindex.aspx>>

How to write a logframe: A Beginners Guide

<<https://www.theguardian.com/global-development-professionals-network/2015/aug/17/how-to-write-a-logframe-a-beginners-guide>>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Writing Academic English E		
担当者名 (Instructor)	王 川菲(WANG CHUNANFEI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名)		

授業の目標(Course Objectives)

1. 英語で社会学関連の研究レポートを執筆するスキルをマスターする。
2. 英語による効果的な口頭発表の仕方を学ぶ。

1. Acquire the skills of writing sociological paper in English.
2. Learn to present academic writings in English.

授業の内容(Course Contents)

1. 英語研究レポートを書くためのモチベーションと環境作り
2. 英語研究レポートの構造
3. 英語研究レポートの執筆
4. 英語による研究レポートを口頭発表スキル
5. 研究レポートをピアレビューする

1. Motivations and preparations for writing in English
2. Structure English academic paper
3. Complete an academic paper in English
4. Skills of English presentation
5. Review peer's English paper

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
なぜライティングするか
楽しく英語論文を書くために
自由作文 I
2. 英語研究論文を書くための環境準備
自由作文 II
ディスカッション: 作文感想をシェア
3. 研究論文の構成
4. 英語研究論文の書き方(英語表現と文法)
5. 英語研究論文の書き方(要旨)
6. 英語研究論文の書き方(序論)
7. 英語研究論文の書き方(本論)
8. 英語研究論文の書き方(研究方法と結果)
9. 英語研究論文の書き方(結論と考察)
10. 英語研究論文の書き方(図表、引用・参考文献など)、英語研究論文の口頭発表
11. ワークショップ 1: 論文作成
12. ワークショップ 2: 論文を仕上げ、提出(授業内 or 第13回の授業まで)
13. ワークショップ 3: ピアレビューおよびそのコメント作成・提出(授業内)
14. 口頭発表: 自分の作文を紹介と作文の経験や感想をシェア

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

1. 各週のトピックに関するテキスト内の章を読む。
2. 質問があれば、用意しておく。
3. 講義内容の復習を適宜行なう

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(37%)/授業参加(第2-10回 計9回 x 2%)(18%)/ピアレビューコメント(10%)/(授業内最終回) 口頭発表(35%)

テキスト(Textbooks)

石井クンツ昌子『社会科学系のための英語研究論文の書き方～執筆から発表・投稿までの基礎知識～』ミネルヴァ書房 2010 (ISBN:462305599X)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK131／現代社会論 (Contemporary Society Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会秩序が壊れるのはいかなる場合か		
担当者名 (Instructor)	河合 恭平(KAWAI KYOHEI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

- ①現代社会に関する社会理論や概念への理解を身につけ、その内容を説明できる。
- ②社会理論や概念を用いて、現代社会の抱える諸問題を把握し、具体的事例とともにその問題の論理を構成できる。
- ③講義での学習内容を通じて自身の問題関心を形成し、それに基づき自身の研究を進めることができる。

At the end of the course, participants are expected to do as follows:

1. To explain the concepts on contemporary society which participants study in this course,
2. To analyze the logic of issues in contemporary society with the concepts, while taking specific cases,
3. To develop their research question and the research itself.

授業の内容(Course Contents)

社会に問題があると言うことは容易ですが、何が真に問題であるのか、あるいはそうでないのか、また、どれくらい問題であるのか、等々を把握することは容易ではありません。自分自身が現代社会の諸問題に巻き込まれていたり、諸問題が社会秩序の維持に対し致命的であつたりするのはどういふときなのでしょう。

この講義では、学生がこうした問いに独自に回答を与えることができるために、現代社会に関するトピックごとに社会理論や社会学的な見方・考え方を学習しますが、特に、社会におけるそうした諸問題を把握するスキルを修得することを主たるテーマとしています。そして、身近な話題や事例から現代社会の理解へとつなげることで、専門知識の修得だけでなく、各受講生が自身の研究に取り組むための問題関心を養い、深めることを講義のねらいとしています。

It is difficult for us to answer "what is really the problem?", although easy to say "this is the problem" without enough thought and evidence. Therefore this course deals with sociological theory on topics in contemporary society, mainly with sociological thinking and concepts for analyzing social issues which could disrupts social order. It also encourage to develop research question, through studying contemporary society from problems at hand.

授業計画(Course Schedule)

1. 社会秩序があるという感覚をつかむ(イントロダクション)
授業内容:本講義の目的および概要の説明。また、講義全体の前提知識として、社会秩序があるという感覚を体感し、身につける。
2. 社会秩序の解体に関する近現代史の諸事例の概観
授業内容:私たちは歴史上、どのような社会秩序の壊滅的な経験をしてきたのか。主に、事例として第一次・第二次世界大戦時の歴史を社会学的な観点から学ぶ。
3. 人間の尊厳と人権
授業内容:社会秩序の解体に抗する理念として尊厳と人権の歴史的展開を学び、この概念の現代的な理解を深める。
4. 移民・難民・外国人
授業内容:移民、難民、外国人の違いとは何か。移民・難民と私たちは、どのような関係にあり、どのような問題に関わっているのか。
5. 国家とナショナリズム
授業内容:なぜ、自分は〇〇人であると言えるのか? 国家およびナショナリズムをめぐる争いや対立はなぜ起こってしまうのか?
6. 福祉国家論
授業内容:税金、保険料、権力、排除……。私たちの生活の助けになるはずの福祉国家はこれらとどのような関係にあり、今日ではどのような問題があるのか?
7. ナチスと全体主義
授業内容:これまでの講義で扱ってきた諸テーマと、社会秩序の解体の最たる事例としてのナチスの全体主義成立とは、どのような関係があるのか?(コース前半まとめ回)
8. 集団と組織
授業内容:組織の利点と欠点はどこにあるのか? フリーターと組織の昔と今を比較し、組織論を学ぶ。

9. 大衆社会論
授業内容:なぜ、周りと同じでないと不安なときがあるのか？ 群衆・公衆・大衆の違いを明確にしながら大衆社会論について学習する。
10. 悪の凡庸さ
授業内容:ナチスによるユダヤ人虐殺への加担者は普通の人だったのか？ どのようにして虐殺の状況が生じたのか？ (8・9回を踏まえてのコース中盤まとめ回)
11. SNS・ビッグデータ・AIと科学社会学
授業内容:SNS や AI は何となく煩わしく、怖い？ ICT の基礎を学び、科学社会学の観点からその利点・欠点を見極める。
12. リスク社会論
授業内容:SNS や AI はなぜリスクがいっぱいなのか？ リスク社会論を学習し、その観点からビッグデータや AI 等の技術のリスクを考察する。
13. ICTとメディア論——SNSの問題事例を中心に
授業内容:なぜ SNS は炎上するのか？ メディア論の観点からインターネット上のコミュニケーションの特徴を学び、SNS 上の問題現象が生じてしまう原因をつきとめる。
14. 熟議
授業内容:話し合いは重要だと思うけど、面倒くさい？ 社会秩序の維持に向けて、私たちにできることとして熟議というあり方と、それに関する社会理論を学ぶ。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習:下記の参考文献や、手持ちの社会学のテキストのうち、各回の授業テーマに関係する章や項目を調べ、読んでくること。
復習:毎回の講義の終わりに、その回の内容を振り返り、知識を定着させるために簡単な確認テスト(○×形式)に答えてもらい、授業後には穴埋め式板書ノートに取り組み、毎回提出してもらう。また、リアクションペーパーも毎回提出する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/リアクションペーパー(30%)/授業内小課題(10%)

テキスト(Textbooks)

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。

参考文献(Readings)

1. 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2019、『社会学』新版、有斐閣 (ISBN:978-4641053892)
 2. 盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士編、2017、『社会学入門』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623079117)
 3. 小川(西秋)葉子・是永論・太田邦史編、2020、『モビリティーズのまなざし——ジョン・アーリの思想と実践』、丸善出版 (ISBN:978-4621305652)
 4. 塩原良和、2017、『分断と対話の社会学——グローバル社会を生きるための想像力』、慶應義塾大学出版 (ISBN:978-4766424232)
 5. 佐藤成基、2014、『国家の社会学』、青弓社 (ISBN:978-4787233806)
 6. 辻泉・南田勝也・土橋臣吾編、2018、『メディア社会学』、有斐閣 (ISBN:978-4641150553)
- 各回テーマの参考文献詳細については、毎回の授業で紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

①授業形態について

- ・PowerPointを使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用します。
- ・授業内で簡単な質問などに答えてもらいながら、授業を展開する回もあります。
- ・毎回の講義後半に、板書によるまとめを行うのでノートやルーズリーフを用意してください。
- ・毎回の講義の終わりに、その回の内容を振り返り、知識を定着させるために簡単な確認小テスト(○×形式)を行います。
- ・ご質問等は講義内にて受け付けます。遠慮なくどうぞ。

②課題に対するフィードバック

- ・上記の確認小テストについては、その場で解答をお伝えします。
- ・リアクションペーパーについては、次の授業の冒頭 10 分程度でいくつかを取り上げ応答します。

③受講態度について

- ・ノート PC による受講が定着したに伴い、PC で受講するふりをして内職をするケースがひどく増加しています。この授業では、口頭による説明を各自でノート・メモしないと最終試験で回答できない問題を出題するので注意してください。
- ・早退は欠席と見なします。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK132／自己と他者の社会学 (Sociology of Self and Others)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	さまざまな自己と他者の関係を検討することを通じて、自己という現象に対する社会的なアプローチを学び、現代の個人とコミュニケーションをめぐる問題の社会的な奥行きについて想像力を広げる。		
担当者名 (Instructor)	小倉 敏彦(OGURA TOSHIHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

さまざまな自己と他者の関係を検討することを通じて、自己という現象に対する社会的なアプローチを学び、現代の個人とコミュニケーションをめぐる問題の社会的な奥行きについて想像力を広げる。

Students will learn sociological approaches to the phenomenon of the self through examination of the relationships between varied "selves" and others, and will broaden their imagination concerning the social depth of problems surrounding the contemporary individual and communication.

授業の内容 (Course Contents)

自己に対する社会的アプローチの特徴は、自己の生成・変容を、他者との関係性において分析するところにある。この講義ではその切れ味を理解するために、〈私〉の固有性の証と考えられている「個性」や「主体性」や「内面」が、特定の社会関係のなかで生み出された一種の幻想であることを示していく。現代の自己および自己と他者の関係において起きている問題を根本から考えるには、こうした発想の転換が必要である。ただし、〈私〉をめぐる観念が幻想であると知ったところで、私たちはその幻想から簡単に脱け出せるわけではない。私たちはなぜ〈私〉に固執するのか、なぜ他者とのコミュニケーションに悩むのか、その社会的／実存的な理由についても考える。

The distinctiveness of the sociological approach to the self lies in analyzing the generation and transformation of the self in relation to others. In order to understand its incisiveness, the course will show that "individuality," "subjectivity," and "the inner side," considered evidence of the uniqueness of "I," are types of illusion created within specific social relationships. Such a paradigm shift is necessary for fundamental consideration of issues occurring in the contemporary self and in relationships between the self and others. However, understanding that the notion of "I" is an illusion does not allow us to easily escape from that illusion. The course also considers the sociological/existential reasons for why we adhere to "I" and why we struggle in communication with others.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション 自己／他者のいない世界
2. 関係性のなかの自己 G.H. ミード
3. 自己のなかの〈他者〉 R.D. レイン
4. 模倣と欲望 R. ジラール
5. 憧れと〈個性〉の逆説 作田啓一／長谷正人
6. 仮面としての自己 E. ゴフマン
7. 〈内面〉の歴史的形成 N. エリアス
8. 自己規律と近代社会 M. フーコー
9. 近代的主体の変容 G. ドゥルーズ／D. リースマン
10. 投企としての自己 A. ギデンズ
11. 閉塞する自己・分散する自己 浅野智彦
12. サークル化する社会 石田光規
13. 〈自助〉と〈利他〉の陥穽 東畑開人／中島岳志
14. まとめ 物語とケアの視点

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

リアクションペーパーと最終レポートを書くために、必要に応じて参考文献を読み、授業のなかで考えたことをメモしておくこと。不明なところは積極的に質問すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(70%)／リアクションペーパー1(20%)／リアクションペーパー2(10%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 長谷正人・奥村隆、2009、『コミュニケーションの社会学』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-12392-2)
 2. 奥村隆、2013、『反コミュニケーション』、弘文堂 (ISBN:978-4-335-50135-7)
 3. 小川公代、2021、『ケアの倫理とエンパワメント』、講談社 (ISBN:978-4-06-524539-2)
- その他の参考文献は授業内で紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

講義資料(レジュメ)は毎週火曜、立教時間もしくは CanvasLMS にアップロードする。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK133／成熟社会論 (Matured Society)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	超高齢社会／人口減少社会における社会構想		
担当者名 (Instructor)	天田 城介(AMADA JOUSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

「ポスト経済成長時代」とも呼ぶべき今日において「超高齢社会／人口減少社会」に立ち現れている諸問題について理解すると同時に、老いや高齢化をめぐる社会変動の歴史的ダイナミズムを析出したうえで、「成熟」の観点からあるべき社会について構想する。

While gaining understanding of issues that have emerged in today's highly aged society / depopulating society, an age that could be termed the post-economic growth era, students will think about the form society should take after educing the historical dynamism of social changes involving old age and aging.

授業の内容(Course Contents)

戦後日本社会において「老い」と「高齢化」をめぐる現象はいかなる変容を遂げたのかを理解するために、ポスト経済成長時代の超高齢社会／人口減少社会の諸問題を理解したうえで、個人の「老い」への捉え方がいかに変容してきたのかを考察していくと同時に、社会の「老い＝高齢化」がどのように関係してきたのかを考えていく。こうした考察のもと、「ポスト経済成長時代」における「超高齢社会／人口減少社会」に求められる新たな社会を構想していく。

In order to understand what kind of changes the phenomena surrounding old age and aging have brought about in postwar Japanese society, students will, with an understanding of the problems of the highly aged society / depopulating society in the post-economic growth era, consider how the ways in which individuals view "old age" have changed, while also thinking about how society's idea of "old age = aging" has been related. Students will then draw on these considerations to contemplate the new society required by the highly aged society / depopulating society of the post-economic growth era.

授業計画(Course Schedule)

1. 超高齢化社会／人口減少社会の社会学・1
2. 超高齢化社会／人口減少社会の社会学・2
3. ポスト経済成長時代の超高齢社会／人口減少社会の社会学・1
4. ポスト経済成長時代の超高齢社会／人口減少社会の社会学・2
5. 生存の歴史社会学・1——老いの現代史 戦前～戦後
6. 生存の歴史社会学・2——老いの現代史 戦後～1980年代
7. 生存の歴史社会学・3——老いの現代史 1990年代～現在
8. 地域間再配分の現在・1——戦後日本型生存保障システムからの脱却
9. 地域間再配分の現在・2——戦後日本型生存保障システムからの脱却
10. 世代間関係をめぐる現在——団塊世代の世代間関係を中心に
11. 「女性の貧困」の歴史社会学
12. 少子化／人口減少のもとでの社会構想
13. ポスト経済成長時代の超高齢社会／人口減少社会の社会学
14. 総括・まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回、授業前にその前の回に配布した資料やレジュメに必ず目を通した上で出席すること。また、授業の最後に提示する課題に必ず取り組むこと。加えて、授業で紹介した参考文献等も積極的に読み込むようにしてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)／小レポート(授業中に3回実施)(45%)／授業中に複数回実施するコメントペーパー(15%)

テキスト(Textbooks)

特定のテキストは使用しない。毎回、講義資料を配布します。

参考文献 (Readings)

その都度、参考文献は授業内で紹介していきます。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

天田城介のホームページに関連情報があるため、可能であればそちらも参照すること。

<http://www.josukeamada.com/>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK134／公共性の社会学 (Sociology of the Public Sphere)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	地域再生におけるガバナンスの国際比較		
担当者名 (Instructor)	石澤 香哉子(ISHIZAWA KAYAKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

欧米やアジアの諸都市で発生しているコミュニティの問題に対して、政府や市場、市民など多様な主体が協力しながら問題解決に取り組む過程を、ガバナンス(協治)という視点から捉え、公共性が再編されるメカニズムや役割分担を考察する。

Students will analyze community issues in Europe, US, and Asia, as well as problem resolution process involving government, market, citizen, and other parties. Students will do these through governance perspective, while analyzing its mechanisms and roles of Publicity .

授業の内容 (Course Contents)

まちづくりや都市再生を促すガバナンスの実態を、都市政策やパートナーシップ政策との関わりや市民セクターの活動実態、行政との協働などから分析する。とりわけ草の根レベルで活動を担う市民活動団体(NPO／NGO)、社会的企業の具体的なケース・スタディの国際比較から、問題解決能力を身につけることを目指す。

Students will analyze current state of city building and revitalization by referring to relationships between city and partnership policies, activity of citizen sector, and collaboration with government. Students will be able to solve issues by comparing specific global case studies of social enterprise, NPO, and NGO working in shadow of public spotlight.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 分断社会と都市ガバナンスの背景
3. 福祉国家の転換とガバナンス型まちづくり
4. 映像分析
5. 社会的企業による持続可能なまちづくり
6. 市民社会を支える都市ガバナンス
7. 衰退都市の再生とコミュニティ内連携
8. 正義都市アムステルダム都市再生
9. 日本の「まちづくり」による中心市街地活性化
10. 地域コミュニティづくりの担い手としての協同組合
11. 映像分析
12. グラウンドワークによる地域再生
13. コミュニティにおけるアセット・マネジメントの可能性
14. 分断社会と都市ガバナンスのまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業内で指示します

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/授業内ワークシート提出(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 西山八重子、2011、『分断社会と都市ガバナンス』、日本経済評論社 (ISBN:978-4818821712)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK135／現代社会変動論 (Contemporary Social Change)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代日本の諸課題 Issues in Current Japanese Society		
担当者名 (Instructor)	石田 賢示(ISHIDA KENJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

エズラ・ヴォーゲルの著書のタイトル『ジャパン・アズ・ナンバーワン』が日本を象徴するフレーズであった 1980 年代から 40 年以上経過した。この間、日本社会は長きにわたって経済的停滞や社会問題に苦しみ、解決の糸口を見出すことにもがいている。この授業では、戦後日本の経済成長と社会発展の過程をふまえたうえで、現代の諸問題がいつから、どのように生じてきたのかを概観する。また、諸課題にどのように取り組むべきかを考えるための前提になる社会状況を理解することが、この授業の目標である。

It has been over forty years since “Japan as Number One,” the title of the book by Ezra Vogel, had been a symbolic phrase of the 1980s Japan. Up to today, Japan has suffered from long-term economic stagnation and social problems, and it has also struggled with finding any clues to resolve them. First of all, we will overview when and how the contemporary issues in Japan have surged, given the economic growth and social development process in Japan’s post-war period. Also, this class aims for the participants to understand societal circumstances as prerequisites to working out how to tackle each issue.

授業の内容 (Course Contents)

第 1 部では産業化、大衆中間階級社会の出現、そしてジェンダー不平等を取りあげる。戦後の発展に続いて、第 2 部では現代の労働市場問題について議論する。また、現代日本は別種の社会問題も抱えており、それらは第 3 部で取りあげる。第 4 部では、将来の日本の人口に関する持続可能性について検討する。すべての回は講義形式でおこなわれるが、何らかの方法で授業内に双方向の議論をおこなう予定である。

Part I of this course includes topics like industrialisation, the emergence of a mass-middle-class society, and gender inequality in Japan’s post-war period. Following the post-war development, we will discuss the current labour market issues in Part II. At the same time, contemporary Japan has other kinds of social issues, which Part III covers. In Part IV, we look into demographic sustainability in future Japan. All sessions are supposed to be delivered in a lecturing manner, but I will also discuss with the participants in some ways in class.

授業計画 (Course Schedule)

- 第 1 部(1) イントロダクション: 日本社会について何を思うか?
Part I (1) Introduction: What do you think about Japan?
- 第 1 部(2) 後発産業化社会としての日本
Part I (2) Japan as a Latecomer Industrialized Society
- 第 1 部(3) 一億総中流社会
Part I (3) A Mass Middle-Class Society (“ichioku so churyu syakai”)
- 第 1 部(4) 日本のジェンダー不平等
Part I (4) Gender Inequality in Japan
- 第 2 部(1) 「非正規雇用」の拡大
Part II (1) Expanding ‘Non-regular Employment’
- 第 2 部(2) 日本的「学校から職業への移行」システムの変化
Part II (2) Changes in the Japanese System of the School-to-Work Transition
- 第 2 部(3) 日本の若年壮年労働者の不安定さ
Part II (3) The Instability of the Japanese Young and Middle-aged Workers
- 第 2 部(4) 持続するジェンダー不平等
Part II (4) Persistent Gender Inequality
- 第 3 部(1) 日本の結婚・出産に関する諸課題
Part III (1) Marriage and Fertility Issues in Japan
- 第 3 部(2) 家事労働分担とワーク・ライフ・バランス
Part III (2) Division of Household Labour and Work-life Balance
- 第 3 部(3) 社会的孤立

- Part III (3) Social Isolation
- 12. 第4部(1)日本の人口変動
Part IV (1) Demographic Change in the Japanese Population
- 13. 第4部(2)日本の社会保障制度の課題
Part IV (2) Issues in the Japanese Social Security System
- 14. 第4部(3)総合的政策なき移民の受け入れ
Part IV (3) Adapting Migrants without Comprehensive Policy

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

基本的に、授業資料の理解に集中してほしい。また、授業内で紹介する関連文献を読むことにチャレンジしたり、新聞のニュースに注意を向けたりすることで、理解をより進めることができるようになる。

The participants are supposed to focus on understanding the contents of the course materials. Additional efforts will also lead to better understanding, such as reading relevant literature within each session and paying attention to the news in newspapers.

成績評価方法・基準(Evaluation)

各回の内容に関するリアクションノート Reaction notes for each session(40%)/授業期間内にオンラインで実施するテスト(15% x 3回) Three online tests during the semester(45%)/授業期間内に提出する短いレポート A short report about this course during the semester(15%)

テキスト(Textbooks)

テキストは使用せず、スライド資料で授業を進める。I do not use textbooks but plan to use slide materials for each session.

参考文献(Readings)

必要に応じて関連文献を紹介する。I will introduce relevant literature as necessary.

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK141／文化の社会理論 (Social Theory and Culture)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	人類学と社会学の交差点から考える		
担当者名 (Instructor)	木村 自(KIMURA MIZUKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	現代文化学科1年次(自動登録)		

授業の目標(Course Objectives)

文化を分析するための理論や概念を習得することで、日常生活に潜む身近で多様な文化現象を新たな視点から理解する力を獲得する。

This course explores new perspectives for understanding various cultural phenomena in our daily lives through learning analytical theories and concepts of cultures.

授業の内容(Course Contents)

私たちはしばしば、「文化の違い」という言葉を用いて、どこかに「日本文化」や「中国文化」や「ドイツ文化」があるかのように考えてしまいがちです。でも、「文化の違い」は本当にそれほど明確な境界線で切り分けられているものなのでしょうか。「文化」はどのように世代を越えて受け継がれ、どのように私たちの血肉となっていくのでしょうか。近代科学が世界を覆いつくしてしまったら、「文化の違い」はなくなるのでしょうか。この講義では、(文化)人類学と社会学が相互に影響を与え、共通して探求してきた文化理論を取り上げて解説します。もちろん理論の話だけではつまらないので、異文化の事例や身近な経験に関して議論し、写真や映像資料と一緒にしながら考えます。

We tend to consider that there are tangible entities such as “Japanese culture”, “Chinese culture” or “German culture” and so forth by using the phrase “cultural difference”. But do these “cultural differences” really have clear boundaries? How does this “culture” transfer through generations? How does it become a part of ourselves? Will these “cultural differences” disappear if the modern sciences cover our entire globe? This course explains cultural theories of anthropology and sociology which have been trying to answer these questions. In order to make this course engaging, we will discuss various personal experiences of different cultures and use image slides and videos.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス—社会学と人類学
2. 文化を内側から理解すること—言葉と文化
3. 文化を内側から理解すること—文化と身体技法
4. 文化を内側から理解すること—文化と実践知
5. 家族と親族(1)
6. 家族と親族(2)
7. 経済と贈与(1)
8. 経済と贈与(2)
9. 儀礼と境界(1)
10. 儀礼と境界(2)
11. 病と文化
12. 自然と文化(1)
13. 自然と文化(2)
14. まとめと復習

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の授業で提示する参考文献を探して、できるだけ読むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(70%)/出席およびリアクションペーパーの内容(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 松村圭一郎・中川理・石井美保編、2019、『文化人類学の思考法』、文化人類学の思考法 (ISBN:978-4790717331)
 2. 田辺繁治、2003、『生き方の人類学:実践とは何か』、講談社 (ISBN:4061496557)
 3. 前川啓治ほか、2018、『21 世紀の文化人類学』、新曜社 (ISBN:4788515826)
 4. 松村圭一郎、2017、『うしろめたさの人類学』、ミシマ社 (ISBN:978-4903908984)
- その他参考文献は授業中に指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

【授業の形式】授業は写真や映像などの視覚資料を多用する。また、授業中に学生に発言を求めることがある。
【フィードバック】毎回提出されるリアクションペーパーの一部を翌週に配布し、コメントする。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK142／都市社会論 (Study of Urban Society)		
担当者名 (Instructor)	北川 由紀彦(KITAGAWA YUKIHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

都市社会について理解するための基本的な視点と方法を学ぶことを通じて、自らが生きる場としての都市について考える力を養う。

The objective of this course is to introduce key concepts of urban sociology.

授業の内容(Course Contents)

都市社会学および隣接する諸領域の研究の視点や方法、知見などについて、できるだけ身近な話題などと関連させつつ論じていく。授業計画については受講者の関心や理解度によって若干変更する可能性がある。

The perspectives, methods, and findings of urban sociology and related studies will be discussed, relating them to familiar topics as much as possible. The class plan is subject to change slightly depending on the students' interests and level of understanding.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション／近代大都市の発見
2. 都市空間の編成(1): 同心円地帯モデルとその検証
3. 都市空間の編成(2): 社会地区分析
4. コミュニティ・クエスチョン
5. パーソナル・ネットワーク
6. 都市的生活様式論
7. 都市の地域集団(1): 町内会
8. 都市の地域集団(2): 都市移住と同郷団体
9. 都市社会運動
10. 都市類型と社会構造(1): 消費都市
11. 都市類型と社会構造(2): 工業都市
12. グローバル化と都市(1)世界都市論
13. グローバル化と都市(2)分極化する都市?
14. グローバル化と都市(3): 工業都市と日系人／まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の授業で参考文献を紹介するので、各自の関心に応じて手に取って、読んでみてほしい。また、日常生活の中で見聞きする事象について、授業で紹介する視点や考え方などと関連づけて考えてみてほしい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(80%)／出席回数(リアクションペーパーあるいは Canvas LMS への感想・質問の記入を含む)(20%)
平常点は、出席回数(リアクションペーパーあるいは Web 上の授業支援システム「Canvas LMS」への感想や質問の記入を必須とする)により判断する。単位修得のためには、10 回以上の出席を必要とする。出席回数が 10 回に満たない場合はレポートが提出されても評価対象にはならない。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 松本康編、2022、『改訂版 都市社会学・入門』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-22207-6)
- テキストに記載されているもののほか、授業内で適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

授業中の私語等の迷惑行為については厳しく対処する。授業は定刻に開始し、授業開始から 15 分経過後は原則として出席票(リアクションペーパー)を配布しない(＝欠席扱いとする)ので、遅刻しないように特に注意されたい。なお、授業への感想や質問

については、リアクションペーパーあるいは Web 上の授業支援システム「Canvas LMS」を通じて記入・提出してもらうことを予定している。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK143／グローバル社会論 (Global Society)		
担当者名 (Instructor)	橋本 みゆき(HASHIMOTO MIYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

国境を超えて「移動する」・「つながる」・「帰属する」といった営みとは、もはや誰も無縁ではいられない。グローバル・マイグレーションが進展するこの「社会」を、従来の認識を修正しつつ、社会的な分析視点から具体的・多面的に理解することができる。

We can no longer stand apart from social phenomena that is 'migrating', 'connecting' and 'belonging' beyond the national border. To understand such society, where global migration has more progressed than ever before, we can take in account of concrete and multi-faceted methodology from a standpoint of sociological analyses while also modifying conventional perceptions.

授業の内容 (Course Contents)

グローバル化が進み、人々の国境を越えた結びつきが一層緊密化・複雑化してきた。従来社会学が取り扱ってきた家族、階層、労働、福祉、教育、アイデンティティなどの社会事象も、一国の枠内では完結しない。いま私たちが暮らしている日本社会の変容を、トランスナショナルの視点から捉えてみよう。

Globalization has progressed, and nexus between each individual community and its national border has become closer and more complex. All types of societal phenomena --family, class, labor, welfare, education, identity, and the like -- that conventional sociological frames have not applicable, as they no longer play out within the framework of single countries. We must try to grasp the transformations of the Japanese society from a transnational perspective.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション：現代社会へのトランスナショナルな接近
2. 国民国家とシティズンシップの変容
3. トランスナショナルな移民ネットワーク
4. 労働市場と外国人労働者の受け入れ
5. 映像から考えるグローバルな社会生活
6. 階層構造のなかの移民、マイノリティ
7. グローバル化と家族の変容
8. グローバル化のなかの福祉社会
9. 移民／外国人の子どもたちと多文化の教育
10. 人の国際移動とジェンダー
11. 途上社会の貧困、開発、公正
12. ゲスト講演
13. 在日朝鮮人一世のジェンダーとアイデンティティ
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・在日外国人や国内外の移民政策などに関する本やニュースに日頃から目を通す。
- ・テキストおよび授業時に紹介する参考文献を読む。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)／授業時に課す提出物(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 宮島・佐藤・小ヶ谷編、2015、『国際社会学』、有斐閣 (ISBN:9784641174061)
- テーマごとにレジュメ・資料を配布し、テキストも随時活用する(授業時およびレポート作成時、予習・復習など)。

参考文献 (Readings)

1. 山田・大矢根編、2011、『グローバル社会の国際関係論〔新版〕』、有斐閣 (ISBN:9784641049888)
 2. 伊藤編著、2020、『家事労働の国際社会学』、人文書院 (ISBN:9784409241325)
- 他は授業時に紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

時事の話題やゲストスピーカーの都合などにより、スケジュールを変更する可能性あり。
授業支援システムは基本的に立教時間を使用する。
提出物や質問に対するフィードバックは授業内で随時行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK144／環境社会論 (Environment and Society)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会問題と環境		
担当者名 (Instructor)	関 礼子(SEKI REIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「生ける環境」が抽象的・客観的なものとして理解されがちな現在を問い返ししながら、環境の社会的な理解について社会学の見地から理解する。

This course is a practical examination of social issues that often tend to be discussed abstractly and objectively.

授業の内容 (Course Contents)

日本における環境社会学の考え方を理解する。また、近接諸分野の動向にも留意しながら、環境社会学の幅広いテーマを具体的な事例に即して紹介する。なお、授業では映像を多用し、現場を理論にあてはめるのではなく、現場から理論をたちあげる方法を重視する。

In this course, students will gain an understanding of the concept of environmental sociology in Japan. It also introduces a wide range of interdisciplinary environmental topics with concrete examples.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 生業の近代化とグローバル化1
3. 生業の近代化とグローバル化2
4. 環境という風景とアイデンティティ
5. 環境リスクと環境メディア
6. 自然を基盤とする暮らし・自然保護をめぐる葛藤
7. 開発と廃棄
8. ローカル・グローバル
9. 市民参加とエネルギー
10. 空気を読む社会
11. 環境の近代を読み解く1
12. 環境の近代を読み解く2
13. 環境の近代を読み解く3
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの事前講読は必須。その他、要旨の作成、リアクションペーパーの提出、授業での発言など。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/授業内課題(リアクションペーパー)および授業への参加(30%)
聞くこと、読むこと、書くことを重視する。

テキスト (Textbooks)

1. 関礼子他、2009、『環境の社会学』、有斐閣

参考文献 (Readings)

適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK145／現代文化論 (Contemporary Culture)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代文化と社会		
担当者名 (Instructor)	小泉 元宏(KOIZUMI MOTOHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

- (1) 現代文化と社会の関係性について、基本的な用語や概念を用いながら説明できること。
- (2) 今日における現代文化の社会的役割について理解すること。
- (3) 現代文化のさらなる探究を志すこと。

By the end of the course you should:

1. Be able to explain the relationship between contemporary culture and society, using basic theoretical terms and concepts.
2. Understand the roles of contemporary culture in society today.
3. Aspire to further explore contemporary culture

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、現代文化の諸実践と、それらをめぐる社会的要素(例として、空間や政治、メディア、エコノミー)との関係性について考察していく。

講義では、今日の社会構造の変化のなかでいかに現代文化が構成されているのか、また、現代文化がどのような社会的・経済的・政治的役割を果たしているのかについて考察していく。さらに、実践型のプロジェクトやビジュアル資料の視聴・批評なども導入しながら、履修者が理解を深めることを促していく。

それらによって、現代文化と社会との関わりについて理解し、さらには自らが現代文化の担い手として実践的に活動する方法論について考察を上げてほしい。

なお、本講義は、現代文化領域を今後研究していくための導入科目ともなっている。

This course provides an opportunity to examine various practices of contemporary culture and their relationship with social factors such as the spaces, politics, media, and economy surrounding them.

The lecture will examine how contemporary culture is constituted in society and what social, economic, and political roles it plays in today's changing social structures. This course will also examine the social, economic, and political roles of contemporary culture.

In addition, practical projects and the reviewing of films will be introduced to encourage students to deepen their understanding. Through these activities, you should gain an understanding of the relationship between contemporary culture and society, and expand your thinking on how society can practically act as a bearer of contemporary culture.

This lecture is also an introductory course for future research in the field of contemporary culture.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション(自己紹介、授業の概要・進め方について など)
2. 【文化とは何か?】文化概念の誕生／国民国家成立と文化の制度化／大衆文化の登場と産業化 ほか
3. 【文化とは何か?】抵抗文化としてのサブカルチャー／多趣味化する現代文化 ほか
4. 【現代文化と空間】文化をめぐる場／公共圏／ジェントリフィケーションと文化 ほか
5. 実践プロジェクト／ディスカッション など
6. 【現代文化と政治】文化の政治利用／生-権力と文化 ほか
7. 【現代文化と政治】文化産業とソフトパワー ほか
8. 【現代文化とメディア】複製技術と芸術／文化帝国主義・メディア帝国主義批判／エンコーディング/デコーディングモデル ほか
9. 実践プロジェクト／ディスカッション など
10. 【現代文化とメディア】メディア変容と文化／現代におけるコンヴァージエンスカルチャーの台頭 ほか
11. 実践プロジェクト／ディスカッション など
12. 【現代文化とエコノミー】現代文化と資本主義・人新世 ほか
13. 【現代文化とエコノミー】DIY 思想に基づくカルチャー ほか
14. 実践プロジェクト／ディスカッション など

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業内で示す課題への取り組みや、授業内容の復習のほか、現代文化と社会の関係性にかかわる理論・実践などについて、積極的に授業外においても調査研究に取り組んでいくことが求められる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への積極的参加、コメントシート(60%) / 授業内課題(40%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 吉見俊哉、2018、『現代文化論—新しい人文知とは何か』、東京：有斐閣 (ISBN:9784641220768)
2. 井上俊・長谷正人 編著、2010、『文化社会学入門—テーマとツール』、京都：ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623058242)
3. 毛利嘉孝、2008、『はじめての DiY—何でもお金で買えると思うなよ』、東京：ブルース・インターアクションズ (ISBN:9784860202705)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

この講義で扱うのは、社会から自律した存在としての狭義の「文化」、あるいは「芸術」などではありません。そうではなく、現代社会における社会活動の一側面としての「現代文化」です。この授業を通じて、生きる人々のあいだから文化を考察し、そしてみなさん自らが現代文化の担い手の一員として、社会のなかでの自分の立ち位置や今後に向けた理念を見出してもらえればと考えています。

※なお上記の授業計画内容は、プロジェクト等の進捗状況によって、一部、順番が変わったり、内容を変更したりする可能性があります。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK151／情報社会論 (Information Society)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ここに至る「情報社会」を踏まえて、現在の構造を読み解く		
担当者名 (Instructor)	田北 康成(TAKITA YASUNARI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

概ね 21 世紀以降、本格化したデジタル・メディア時代において、現在進行形である技術革新がどこに向いつつあり、既存の社会をどのように変容させているのかについて、様々な観点から問題化し、理解することを目標とする。

In general, since the 21st century, the digital media era has come. What is the goal of innovation driven by major Tech companies, and how are they transforming our society? In this lecture, we aim to study and understand these from various viewpoints.

授業の内容(Course Contents)

新デジタル時代における、様々な新分野が孕む諸問題がどこにあるのかについて複眼的に見ていく。

New innovations are occurring one after another in the society of the new digital era. In this course, I will discuss concrete cases and think about their theoretical meaning.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. コミュニケーション技術の発達と社会(その1)
3. コミュニケーション技術の発達と社会(その2)
4. コミュニケーション技術の発達と社会(その3)
5. 国家・市場・生産・消費・情報社会(その1)
6. 国家・市場・生産・消費・情報社会(その2)
7. 国家・市場・生産・消費・情報社会(その3)
8. 情報通信と地域、コミュニティ、グローバル(その1)
9. 情報通信と地域、コミュニティ、グローバル(その2)
10. 情報通信と地域、コミュニティ、グローバル(その3)
11. 情報社会と知的財産、倫理、法(その1)
12. 情報社会と知的財産、倫理、法(その2)
13. 情報社会と知的財産、倫理、法(その3)
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途お伝えします。

成績評価方法・基準(Evaluation)

リアクションペーパー(13 回)(100%)

毎回、講義内で提示する「課題」について、400 字程度で＜授業支援システム＞に提出していただきます。第 2 回から第 14 回までの各回(10 点満点)を 13 回分(130 点満点)で小計し、100 点化して「最終評価」とします。

テキスト(Textbooks)

特にありません。

参考文献(Readings)

1. 和田伸一郎、2013、『国家とインターネット』、講談社選書メチエ (ISBN:978-4062585507)
 2. 和田伸一郎、2016、『岩波講座現代(第9巻)デジタル情報社会の未来 9巻』(所収、『新デジタル時代』と新しい資本主義)、岩波書店 (ISBN:978-4-00-011389-2)
 3. 柏倉康夫ほか、2006、『情報と社会』、放送大学教育振興会 (ISBN:978-4595306440)
 4. 児玉晴男ほか、2015、『進化する情報社会<改訂版>』、放送大学教育振興会 (ISBN:978-4595315749)
- その他、適宜、授業内で提示します。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK152／メディア社会学 (Sociology of Media)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	メディアと社会についての多角的な考察		
担当者名 (Instructor)	井川 充雄(IKAWA MITSUO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	メディア社会学科1年次(自動登録)		

授業の目標(Course Objectives)

本科目は、メディア社会学を学ぶための学問的基盤を築くことを目的とする。社会の中でのメディアとコミュニケーションに関わるさまざまな現象に関する社会学的な諸理論を理解し、「メディアと社会」に関して多角的に考察する力を養う。

In this course, students will aim to acquire intellectual foundation required to learn media sociology. Students will understand various sociological theories on wide range of media and communication phenomena in society. Students will be able to review media and society from multiple angles.

授業の内容(Course Contents)

講義では、主にメディアとマスコミュニケーションに関する諸理論を取り上げ、その内容、背景、意義と限界などについて概説する。また、研究者たちがどのような視角や手法を用いたかについても説明する。履修者は、ただ単にそれらを理解するだけでなく、それを現代社会に応用して考えてほしい。

In this class, various theories mainly about media and mass communication are provided to explain their content, context, significance, and limit. In addition, students will learn about perspectives and methods that previous researchers used. Students will not only understand them, but also consider how they can be applied to the modern society.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 声の文化と文字のコミュニケーション
3. マス・コミュニケーションの成立「言論の自由」論と「印刷革命」論
4. 近代とマスメディア「公共圏」論
5. ナショナリズムとメディア「想像の共同体」論
6. 大衆社会論とメディア「強力効果論」
7. 戦争とプロパガンダの理論
8. 第2次世界大戦後の様々なマス・コミュニケーション論「限定効果論」
9. さまざまな効果論(1)「議題設定」モデルと多数派認知
10. さまざまな効果論(2)「利用と満足」研究
11. さまざまな効果論(3)「培養理論」
12. グローバル文化とメディア・コンテンツ「カルチュラル・スタディーズ」
13. メディア・イベント論の展開
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業で紹介するのは、各理論のエッセンスに過ぎない。ぜひ、授業中に紹介する文献を実際に読んで、理解を深めて欲しい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)／授業内課題(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 井川充雄・木村忠正編、2022、『入門メディア社会学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623094271)

参考文献(Readings)

1. スタンリー・バラン、デニス・デイビス、2007、『マス・コミュニケーション理論 上』、新曜社 (ISBN:978-4788510500)
2. スタンリー・バラン、デニス・デイビス、2007、『マス・コミュニケーション理論 下』、新曜社 (ISBN:978-4788510517)
3. 伊藤守編、2015、『よくわかるメディア・スタディーズ[第2版]』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623072644)
4. 辻泉ほか、2018、『メディア社会論』、有斐閣ストゥディア (ISBN:978-4641150553)
5. 李光鎬ほか、2021、『メディア・オーディエンスの社会心理学・改訂版』、新曜社 (ISBN:978-4788517213)

6. デニス・マクウェール、2010、『マス・コミュニケーション研究』、慶應義塾大学出版会（ISBN:978-4766416664）
各回で参考文献を紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

本授業は、パワーポイント、板書を用いた講義形式で、映像資料なども適宜用いる。ただし、学生に発言を求めることもある。
授業内課題については、次回授業時に講評を述べることでフィードバックを行う。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK153／メディア・コミュニケーション論 (Media Communications)		
担当者名 (Instructor)	木村 忠正(KIMURA TADAMASA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

メディア・コミュニケーションが歴史的にどのように展開してきたか、そして、現代社会において、私たちの生活にいかに深く組み込まれているのかを、人文社会科学の多角的視点からアプローチし、ヒトと社会にとってきわめて重要な役割を果たしているメディアとコミュニケーションについての理解を深め、メディア・コミュニケーションという観点から現代社会のあり方を批判的に理解する力を醸成することを目標とする。

This lecture guides students to learn how media communication has historically been developed and how deeply it is embedded in our lives in modern society from the multifaceted viewpoint of humanities and social sciences. Its aim is to make students deepen their understanding the historical development and socio-cultural significance of media and communication in human society and to foster the ability to critically understand the way of modern society from the viewpoint of media communication.

授業の内容 (Course Contents)

ヒトは、コミュニケーション(情報伝達・意思疎通)を行う際に、多種多様な「シンボル(象徴)」と「メディア」を生み出し、利用してきた。紙、印刷物、音楽メディア、映像メディア、スマホ、ネットなど、メディアは歴史とともに多層的、複合的に展開し、社会への影響はきわめて大きい。そこで、本授業では、メディア・コミュニケーションが歴史的にどのように展開してきたか、そして、現代社会において、私たちの生活にいかに深く組み込まれているのかを、人文社会科学の多角的視点からアプローチする。とくに、現代社会では、SNSなどのソーシャルメディアをはじめ、多くのコミュニケーションがコンピュータネットワークメディアを媒介するものとなってきたこと、メディアを媒介とした人々の活動が織りなす社会的現実<リアリティ>が持つ意味に着目し、社会的関係性、社会的アイデンティティ、国民国家などの形成に関する分析と理解を深めたい。

This lecture guides students to learn how media communication has historically been developed and how deeply it is embedded in our lives in modern society from the multifaceted viewpoint of humanities and social sciences. In particular, in our contemporary society, more and more communications are mediated by means of computers, i.e., computer-mediated communications, such as social media, e.g., SNS. In addition, our activities via media constitutes the social reality more and more substantially. This lecture pays careful attention to these societal changes with the expansion of network society and explores their significance to lead your deepening understanding on the formation of social relationships, social identity, nation-states, etc.

授業計画 (Course Schedule)

1. コミュニケーションとメディア
2. デジタルネットワークによる社会の変化とAIがもたらす変化の方向性
3. ビジネス・マーケティングのDX(デジタルトランスフォーメーション)
4. メディアの歴史文化的展開(1)～活字メディア
5. メディアの歴史文化的展開(2)～アナログ電子メディア
6. アナログメディアの世紀とメディア・コミュニケーション研究の勃興
7. 21世紀のプロパガンダ
8. コミュニケーション研究の地平
9. 「つながり」の持つ力～社会的ネットワーク～
10. マスメディア構造変容とネットメディア
11. ネット世論の構造(1)
12. ネット世論の構造(2)
13. デジタルネイティブの時代～技術の展開とライフサイクル～
14. デジタルネイティブの時代～メディア・コミュニケーション空間の構造と変容～

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義資料を、事前に授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard等)にアップします。資料を必ずダウンロードし、閲覧の上、授業に持参してください。また、授業内容を振り返るリアクションと情報メディア利用に関するアンケートを複数回、Google-formで実施する予定です。詳細は、授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard等)で知らせますから、授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard等)への定期的なアクセス、SPIRITメールの定期的確認を怠らないようにしてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/オンライン課題(G-form、複数回を予定)への回答(30%)/授業への積極的参加(10%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 木村忠正、2012、『デジタルネイティブの時代』、平凡社 (ISBN:4582856608)
 2. 木村忠正、2018、『ハイブリッド・エスノグラフィー』、新曜社 (ISBN:4788515830)
 3. 北村智他、2016、『ツイッターの心理学』、誠信書房 (ISBN:4414300088)
- 授業内で参考資料、参考文献を示す。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

科目担当者の HP も参照すること。

URL: <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/tdms/hpj.html>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK154／ジャーナリズム論 (Journalism Study)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	SNS 時代のジャーナリズム(調査報道、戦争と報道)		
担当者名 (Instructor)	齋藤 義彦(SAITO YOSHIHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

大半の人が「ニュース」を「単品」の形でスマホ上で消費する時代が訪れている。SNS の「トレンド」に上がってくる情報も「ニュース」である場合も多い。その「ニュース」はいったい誰が生産しているのだろうか。その姿は次第に見えにくくなっている。実は「ニュース」を生産しているのはジャーナリストと呼ばれる個人や組織であり、ここ百数十年の間、マスメディアとして発達し、真実を伝える試行錯誤に取り組んできた。「ジャーナリズム」はいかに発展し、どのような課題を抱えているのか。ネット時代に激変する姿を考察する。

In this “SNS era” you usually consume news products in smart phones. Sometimes you recognize “important” news according to the “trend” of SNS. Probably you cannot immediately answer the question: Who produce such news products? News products are still delivered by so-called “journalist”. Sometimes they are professional organization, sometimes individual. In these several decades organization of journalists have rapidly grown as “mass-media”. They have tried to deliver news as rapid as possible and scrutinize backgrounds of phenomena. However after internet emerged and SNS spread across the world through smart phones, journalism face a drastic turning point. What is the change of journalism? You can observe such big transformation in the war which recently happened. In this course journalism in SNS era will be examined.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、ジャーナリズムと SNS の関係性やその協働の可能性について考察しながら、伝統的なニュース生産の在り方がどう変質しているのかを確かめる。「調査報道」と戦争報道を題材にしながら、ジャーナリズムがこれまで何を達成し、いかなる課題を抱えてきたかを確認していく。さらに「メディア不信」について考えるほか、GAFA など IT 大手が新たなニュースの「ゲートキーパー(門番)」になっている実情も見ていく。通底するのは、権力をチェックし、暴力と対抗して人権を守ってきたジャーナリズムがどう変質していくのかという問いである。

In this course we will observe dynamic relationship between traditional journalism and SNS. Then we will discuss possibilities of cooperation between them. We pick up issues of “investigative reporting” and war reporting. We will examine what is the achievement of traditional journalism, what is the new drastic challenge. Additionally we will check increasing distrust of traditional journalism. Also we will discuss new role of GAFA as a “gate keeper” of news products. In every aspect we will tackle a research question whether fundamental change will occur in fulfilling essential mission of journalism, in which journalist try to check the misuse of power as well as protect human rights against any oppression.

授業計画(Course Schedule)

- 誰でもジャーナリストの時代が来たのか？ SNS とジャーナリズムはどう異なるのか—ニュースの生産構造
- 誹謗中傷とフェイクニュース 伝統メディアと「ファクトチェック」
- 弾圧と苦闘するジャーナリズム、中立、客観、報道の自由を考える
- 標準化・多様化する調査報道① 権力・戦争に対抗 ペンタゴン・ペーパーズとウォーターゲート事件報道は何を残したのか
- 標準化・多様化する調査報道② 日本の対権力調査報道、気づき・変革の調査報道 アドボケート
- 標準化・多様化する調査報道③ 市民目線の調査報道、情報公開と公開情報駆使 シンジケート取材の可能性
- 標準化・多様化する調査報道④ ジェンダーとジャーナリズム—#Me too が開く新しい調査報道 日本メディアのジェンダー不平等
- ジャーナリズムと戦争①アーカイブ、ビッグデータ解析、8月ジャーナリズム、衰退する加害報道、報道責任の検証
- ジャーナリズムと戦争②見えない戦争、戦争とともに歩んだメディア、売れる戦争
- ジャーナリズムと戦争③情報操作と戦争① 情報操作が起こしたイラク戦争、スピンドクター、エンベッド、リーク
- ジャーナリズムと戦争④情報操作と戦争② ハイブリッド攻撃の脅威、ロシアの偽情報戦術はなぜ失敗したのか、ウクライナ攻撃の背景
- 日本型ジャーナリズムを考える 番犬機能は果たしているのか 事件報道偏重—メディアと人権
- メディア不信、グローバル化と新たなゲートキーパーGAFA の登場
- ジャーナリズムの未来を探る ツイッター買収劇とジャーナリズム、公共財になれるのか、ジャーナリズムは平和を作れるか

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ① 毎回、最新の注目すべきニュースを指定する。次の授業までに、そのニュースについて、新聞やテレビに加え、伝統メディアがネット上に流すニュースを見て、「私の見方」を課題(リアクションペーパー)に記入し期限までに提出すること。分量は問わない。
 - ② 授業終了後に感想、意見を課題(リアクションペーパー)に記入し期限までに提出すること。分量は問わない。
- 課題出題と提出は「Canvas LMS」で行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(50%) / 課題(リアクションペーパー)(40%) / 授業内での意見表明(10%)
リアクションペーパーの未提出は欠席とみなす。8 回以上出席していない場合は原則として単位修得不可。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 大井真二、田村紀雄、鈴木雄雅、2018、『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第2版』、世界思想社 (ISBN:9784790717157)
2. 橋本晃、2006、『国際紛争のメディア学』、青弓社 (ISBN:978-4-7872-3257-1)
3. 白戸圭一、2021、『はじめてのニュース・リテラシー』、ちくまプリマー新書 (ISBN:978-4-480-68398-4)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK161／コミュニケーション論 (Communication Theory)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	コミュニケーションとしての社会調査		
担当者名 (Instructor)	石川 良子 (ISHIKAWA RYOKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講義では社会調査の一連の過程を学ぶことを通して、「他者を理解すること」について洞察を深めることを目指します。

Through learning processes of social research, students will facilitate the development of insight into understanding of others .

授業の内容 (Course Contents)

フィールドワークとライフストーリー研究に焦点を当て、調査テーマの探索、データの収集・解釈、調査成果の執筆という一連の過程について、「コミュニケーションとしての社会調査」という見地から解説します。かなり実践的な内容になりますが、単に社会調査の技法を学ぶことが目的ではありません。社会調査の実際に触れながら「他者を理解すること」について考えを巡らせることが大事です。

This course focus on fieldwork and life story research. Students will learn social research processes including selecting research theme, collecting, interpreting, and writing papers on qualitative data. It is important to understand that social research is communication with others, and to think deeply about understanding of others.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. フィールドと出会う:「問いの種」を育てる
3. フィールドと出会う:「ラポール」の批判的検討
4. フィールドと出会う:調査倫理の諸問題
5. 語りを聴く:ゲストスピーカーによるインタビューの実演
6. 語りを聴く:模擬インタビュー(グループワーク)
7. 語りを聴く:「ひきこもり」のフィールドワークから①
8. 語りを聴く:「ひきこもり」のフィールドワークから②
9. 語りを聴く:「ひきこもり」のフィールドワークから③
10. 調査成果を書く:論文・レポートの基本的な型
11. 調査成果を書く:アートプロジェクトのフィールドワークから①
12. 調査成果を書く:アートプロジェクトのフィールドワークから②
13. 調査成果を書く:アートプロジェクトのフィールドワークから③
14. まとめ(グループ・ディスカッション)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・適宜文献を指示するので、その際は授業前に目を通しておいてください。
- ・受講していない人にも分かるように自分なりに講義内容を説明できるようになることが重要です。
- ・日頃から自分の興味関心がどこにあるのか意識するようにしてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/リアクションペーパー(複数回)(60%)

テキスト(Textbooks)

1. 石川良子、2021、『「ひきこもり」から考える』、ちくま新書 (ISBN:4480074384)

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

模擬インタビューやグループ・ディスカッションなど、履修者同士のコミュニケーションの機会を積極的に設けます。また、履修者の関心などに応じて授業計画を変更することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK162／ジェンダーの社会学 (Sociology of Gender)		
担当者名 (Instructor)	鶴田 幸恵(TSURUTA SACHIE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「性」を構成する要素である、セックス・ジェンダー・セクシュアリティの複雑な関係を学ぶことを目的とする。現在の社会の男女間の格差を含め、学生自身が直面している/これからするかもしれない関係性に焦点を当て、その対処の仕方を含めて学ぶことを到達目標とする。その際には、ヘテロセクシュアルではなくシスジェンダーでもない経験を軸に、性別二元性やヘテロノーマティヴィティがどのようなものか理解できるようにする。

The purpose of this class is to understand the relationship between sex, gender, and sexuality. Students will acquire knowledge on how to resolve problems that arise in a society in which a gender hierarchy exists. At that time students will acquire a deeper understanding of what is gender binary and heteronormativity.

授業の内容 (Course Contents)

ジェンダーの問題を、自らの問題として見るができるようになるために、ジェンダーとは何か、セクシュアリティとは何か、女性-男性-その他の間にある格差の3つのトピックについて講義する。

I will give lectures on three topics, about what is gender-binary, what is sexuality, what is inequality between men and women and others.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション——「性」とは何か
2. ジェンダーとは何かをトランスジェンダーから考える
3. 「トランスジェンダーの抱える問題」から社会を考える(1)
4. 「トランスジェンダーの抱える問題」から社会を考える(2)
5. 「トランスジェンダーの抱える問題」から社会を考える(3)
6. セクシュアリティとは何か
7. セクシュアリティに関する問題を「異性愛ではないこと」から考える(1)
8. セクシュアリティに関する問題を「異性愛ではないこと」から考える(2)
9. セクシュアリティに関する問題を「異性愛ではないこと」から考える(3)
10. ジェンダー平等とは何か
11. ジェンダー平等を職場と家庭、その他の場所から考える(1)
12. ジェンダー平等を職場と家庭、その他の場所から考える(2)
13. 同意(特に性的同意)について
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業後にレジュメを参照し復習をしておく。
授業中に提示した参考文献を読む。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)／授業内課題(40%)
理解の程度により進捗を調整するため、授業計画には変更があり得る。

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

授業中に適宜指示する。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK163／宗教社会学 (Sociology of Religion)		
担当者名 (Instructor)	小池 靖(KOIKE YASUSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

現代宗教を概観し、社会的に考察する。

An overview and sociological study of contemporary religion and spirituality.

授業の内容 (Course Contents)

現代における宗教の社会的影響力とは何か？ 日本人は無宗教なのか？ 宗教と非宗教の境界線上にある現象をどうとらえるのか？ こうした問題を多角的にとらえ、宗教社会学のわかりやすい入門編になることを目指す。授業スライドの配付は、原則としておこなわないものとする。

What is the social influence of religion today? Are the Japanese people non-religious? How do we understand the phenomena on the borderline between religion and non-religion? This course aims to be an introduction to the sociology of religion by taking a multifaceted look at these issues. As a rule, powerpoint slides will not be handed out.

授業計画 (Course Schedule)

1. 宗教社会学の古典
2. 世界の宗教状況
3. 現代宗教と暴力・テロリズム
4. キリスト教系新宗教
5. 社会問題化する宗教
6. 日本の新宗教運動
7. キリスト教福音派
8. 現代政治と宗教
9. スピリチュアル・ブーム
10. 自己啓発
11. テレビメディアにおける霊能・超常番組
12. 陰謀論・都市伝説・悪魔主義
13. 時代精神としてのインターネット
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

諸注意

<http://d.hatena.ne.jp/ykoike/20060421>

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/その他の要素(出欠、リアクションペーパー、授業への貢献度など)(30%)

テキスト(Textbooks)

特になし。

参考文献(Readings)

1. 櫻井義秀・三木英編、2007、『よくわかる宗教社会学』、ミネルヴァ書房

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

新型コロナウイルス感染拡大状況などによっては、授業の形式を変更することもある。その場合は、大学ないし教員の指示に従うこと。

受講上の諸注意:

<http://d.hatena.ne.jp/ykoike/20060421>

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK164／地域社会学 (Regional And Community Studies)		
担当者名 (Instructor)	松元 一明(MATSUMOTO KAZUAKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

少子化や高齢化、人口減少など急速な社会構造の変化を迎えているわが国では、都市や農村といった特定の地域に限らず、各コミュニティにおいてさまざまな課題が顕在化している。本講義では、地域コミュニティにおける問題の背景にある社会構造や社会関係を知り、問題を多角的に捉える視野を身につけ、さらに地域コミュニティの課題を解決するために活動する人びとや組織に着目し、その取組みについて理解することを目的とする。

In Japan, which is facing a declining birth rate, a declining population, an aging society, and other rapid changes in social structure, various issues are emerging in all communities, not only specific areas such as cities and agricultural villages. In this course, students will come to know the social structures and social relationships behind problems in local communities. They will acquire perspectives for approaching problems from multiple angles, and will focus on people and organizations acting to solve problems in local communities, in order to understand those initiatives.

授業の内容 (Course Contents)

基本的に講義形式で実施する。また地域コミュニティの実態や実情を明らかにするために、映像や資料等を利用するとともに、地域コミュニティで活躍するゲストスピーカーによる特別講演を実施する。必要に応じて授業内でグループワークを実施する。

The format will primarily be lectures. In order to clarify the conditions and circumstances of local communities, the course will also use images, materials, etc. and will host special lectures by guest speakers active in local communities. Group work will be performed in class as necessary.

授業計画 (Course Schedule)

1. 地域社会学の射程 (イントロダクション)
2. 地域・コミュニティとは
3. コミュニティをめぐる問題①
4. コミュニティをめぐる問題② (DVD 視聴)
5. コミュニティの諸組織
6. 基礎自治体と地域政策
7. 震災とコミュニティ①
8. 震災とコミュニティ②
9. 住民運動、市民活動、NPO
10. コミュニティにおける協働
11. ソーシャルキャピタルと市民セクター
12. コミュニティビジネス、コミュニティデザイン
13. まちづくりの実践①
14. まちづくりの実践②

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

授業内で適宜指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験 (Written Exam) (60%) / リアクションペーパーならびにグループワークへの参加、受講態度 (40%)
2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト (Textbooks)

特に使用しない。

参考文献 (Readings)

1. 似田貝香門 監修・町村敬志 編、2006、『地域社会学講座1 地域社会学の視座と方法』、東信堂 (ISBN:978-4887136786)
2. 上原聡 編著、2017、『魅力創造するマーケティングの知: 地域再生とデザインの視座』、同友館 (ISBN:978-4496052835)
3. 山崎亮、2012、『コミュニティデザインの時代: 自分たちで「まち」をつくる』、中央公論新社 (ISBN:978-4121021847)

4. 地域社会学会編、2011、『キーワード地域社会学』、ハーベスト社 (ISBN:978-4863390287)
 5. 宮城孝,山本俊哉,神谷秀美 編著、2020、『仮設住宅 その 10 年: 陸前高田における被災者の暮らし』、お茶の水書房 (ISBN:978-4275021274)
- 授業内で適宜指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

授業の展開により、内容に若干の変更があり得る。

授業ではグループワークを行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK165／現代社会と政策 (Contemporary Society and Policy)		
担当者名 (Instructor)	野呂 芳明(NORO YOSHIKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

現代の社会生活とそれを様々な側面で支える諸政策の関連性、課題等についての理解を目指す。

Students will understand subjects and relationships among lives in modern society and various policies supporting them.

授業の内容 (Course Contents)

私たちの日常の社会生活は、その至る所に様々な政策的関与を見いだすことができる。成熟した社会の一つのイメージは、“繊細な”政策的関与とそれをいい意味で活用する“自立”した市民が織りなす社会であろう。その方向に向けた現代社会の可能性を考える。

We will be able to find relationships among various policies and our daily lives in society. One feature of mature society is existence of policy “fine strings” and “independent” citizens who capitalize on it to weave fabric of society. Students will think about potential of modern society in this direction.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション (1) 「近代」「現代」とは？
2. イントロダクション (2) 現代社会を生み出すメカニズムとしての資本主義
3. イントロダクション (3) 現代社会を生み出す動因としての産業化
4. イントロダクション (4) 産業化に伴う都市化と人々の生活の変化の同時進行
5. 1. 少子高齢化と現代社会の諸政策 (1)
6. 1. 少子高齢化と現代社会の諸政策 (2)
7. 1. 少子高齢化と現代社会の諸政策 (3)
8. 2. 第2次大戦後の経済高成長と地域開発政策 (1)
9. 2. 第2次大戦後の経済高成長と地域開発政策 (2)
10. 2. 第2次大戦後の経済高成長と地域開発政策 (3)
11. 3. グローバル経済・社会と人の移動 (1)
12. 3. グローバル経済・社会と人の移動 (2)
13. 3. グローバル経済・社会と人の移動 (3)
14. 授業のまとめ: 政策と市民の協働に向けて

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業は、プリント資料を参照しながら進める。それを読み込んでおくこと。授業後には Google フォームによるリアクションの提出による振り返りを随時行う予定である。また授業やプリントで言及する文献資料について、適宜図書館などで参照することが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

各回授業後のリアクション (Google フォーム提出) (60%) / 授業内の小レポート (2 回実施) (15%) / 最終レポート (Final Report) (25%)

テキスト (Textbooks)

特に指定しない。

参考文献 (Readings)

授業の中で適宜紹介する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

授業はプリント配布、板書を中心とし、必要に応じて視聴覚教材を提示する形で進める。
授業後に随時実施する Google フォームによるリアクションに対しては、原則として次回授業にフィードバックを行う。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK166／グローバリゼーション論 (Globalization)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	世界システムの社会学		
担当者名 (Instructor)	金 美珍(KIM MIJIN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

グローバル化をめぐる社会現象、社会と世界をめぐる変動を理解していくための社会学的基礎概念を理解するとともに、インターネットとデジタル時代における文化現象を解釈していくための基礎知識や視座を身に着けることを目的とする。この科目は、教育課程の編成において、社会学部の各学科およびコースにおける領域横断的な科目として位置づけられ、学位授与方針における「発見・分析・提言」の能力を培う共通科目として設定されている。

The course touches on overseas social phenomena and global social issues, with the aim of raising international social awareness under globalization. In the organization of its curriculum, this subject is positioned as a cross-disciplinary subject of the departments and courses of the Faculty of Sociology, and is set within the policy for conferring degrees as a common subject that fosters capabilities for discovery, analysis, and advocacy.

授業の内容 (Course Contents)

グローバル化が現代社会における基本的な趨勢であることが確認されてから久しい。この講義では、社会学においてグローバルな認識枠組を提供してくれる世界システム論の基本的な構成を解説したうえで、それに依拠して世界の問題について検討する。

Globalization has long been recognized as a fundamental trend in contemporary society. This course examines global issues, building on an elucidation of the fundamental structure of the world system theory that provides a global recognition framework in sociology.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 社会変動の理解①近代化・産業化
3. 社会変動の理解②グローバル化
4. 世界システムの基本構成
5. 開発と発展途上国
6. 資本主義システムとしての世界システム
7. 世界システムの現在－新国際分業
8. グローバル化とポスト新国際分業
9. デジタル革命とメディア・コンテンツの流通
10. グローバル化と格差・貧困・社会的排除
11. 移民労働とジェンダー
12. 日本の移民政策
13. 移民と社会変動
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

日ごろからグローバルな問題について関心を持ち、そうした視野をもって思考する習慣を身につけてほしい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

課題提出(30%)／最終レポート(Final Report)(40%)／小レポート(30%)
小レポート(10点×3回)

テキスト (Textbooks)

1. 山田信行、2012、『世界システムという考え方－批判的入門』、世界思想社 (ISBN:978-4-7907-1572-6)

参考文献 (Readings)

1. 山田信行、2019、『グローバル化と社会運動』、東信堂 (ISBN:978-4798915449)
 2. 宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編、2015、『国際社会学』、有斐閣
 3. 小井土彰宏編、2017、『移民受入の国際社会学』、名古屋大学出版会
- 講義のなかで適宜指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

しょうがいを持つ学生については、その様態と程度に応じて、履修に支障がない配慮を行いたい。さらに、授業アンケートの結果に即して、必要に応じた授業改善を行うように努めたい。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK167／消費社会論 (Consumer Society)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	精神分析としての現代史—大人になるための人間学		
担当者名 (Instructor)	秋元 健太郎(AKIMOTO KENTARO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

学習目標は以下の通りです。

- ① 日本における消費社会がどのようにして現在のような情報化の時代に転換したかを歴史的に知る。
- ② 私たちの物の見かたの根を歴史の中に見出し、その見方から自由になる技法を学ぶ。
- ③ 今、必要な文化を現代史の中に見出す。

The goals of this class as follows

To recognize the historical transformation of the consumer society in Japan into the information technology era.

To learn a method which can make us aware of the roots of our present perspective in history and emancipate us from it.

To grasp the actual image of the culture in our contemporary history.

授業の内容 (Course Contents)

消費社会とは、商品の大量生産とマス・メディアを条件に形成された資本主義のひとつの歴史的な形でした。そこでは、商品の生産過程や廃棄過程は私たちの視界から遠ざけられ、ひとつひとつの商品が都市の中、マス・メディアの中で煌めき、金を持った人々としてはそこに夢を映していました。こうした消費社会という資本主義の形式は、情報端末の普及と共に、変化しつつあります。今、私たちが生きている情報化の時代とはどんな時代なのでしょう。

本講義では、こうした現代的な問いをもって、日本の戦後史(1955年から1995年)を振り返ります。講義では、具体的な歴史像をつかむため、当時流行した映画や音楽など視聴覚教材を用います。日本の消費社会の盛衰を過去の流行からとらえることを通じて、ご自身がもっている物の見かたを吟味し、次代を生きるための文化をつかむきっかけにいただければ幸いです。

The consumer society is a form of capitalism, which is conditioned by the mass production and the mass media. In the society, whereas the process of production and disposal of commodities are hidden from our eyes, each commodity is exposed and lit up in the cities or the mass media, onto which we projected our dreams. With the diffusion of digital devices, this form of capitalism is changing. What is it like to live in the age of information technology era in which we are living?

With this actual question, we will look back the history of Japan in the post war era 1955-1995. In the lecture, we will use audiovisual aids to grasp the images of the past concretely. I wish these lectures would give you the opportunity to criticize your way of thinking and find the way of life in the next era, though recognizing the rise and fall of a consumer society in Japan historically and intuitively.

授業計画 (Course Schedule)

1. intro～日本の今を聴く
2. 仕事の変容と父親像の揺らぎ: 高速度成長① 映画『キューポラのある街』『江分利満氏の優雅な生活』
3. 家事の変容と母親像の揺らぎ: 高速度成長② 映画『私は2歳』
4. 東京オリンピックと流行の君臨: 高速度成長③ ドキュメンタリー『杉山登志のCM』
5. 戦争を知らない子供たちと革命の夢: 転換期① 映画『実録連合赤軍 あさま山荘への道程』
6. 万国博覧会と知覚の変容: 転換期② 映画『日本万国博覧会』
7. フォークソングとニューミュージック: 人生と商業① 『全日本フォーク・ジャンボリーの記録』/『コンサート・イン・つま恋 1975』
8. 死者のアニメーションと幻覚的願望充足の永遠化: 人生と商業② 『さらば宇宙戦艦ヤマト』
9. 芸能の終わりや偶像のプロデュース: 人生と商業③ ドキュメンタリー『山口百恵伝説から神話へ』
10. 新時代への期待と欧米への同一化: 流動化① 『銀河鉄道999』ドキュメンタリー『YMO』
11. 首都の理想化と変身の夢: 流動化② ドキュメンタリー『聖子の夏』
12. 神話のアニメーションと土地パブリック: 流動化③ 映画『幻魔大戦』『AKIRA』
13. 投資ゲームと少年の詩: 流動化④ 映画『彼女が水着に着替えたら』ドキュメント『THE BLUE HEARTS』
14. outro 混沌の露呈と新秩序の模索 映画『ソナチネ』『誰も知らない』ドキュメント『The Blanky Jet City Dog Food』

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

予習:その週に学習する予定の時代について、参考文献から概要を押さえておく。

復習:講義中に興味の湧いたものに関連する文献を図書館に探しに行ってみる。講義で一部視聴する作品全体を鑑賞し、その時代についてのイメージをより深める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(50%)/毎回の課題(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 鶴見俊輔、2001、『戦後日本の大衆文化』、岩波現代文庫
2. ジョン・ダワー、2004、『増補『敗北を抱きしめて』上 下』、岩波書店
3. 藤田省三、2010、『藤田省三セレクション』、平凡社ライブラリー
4. 見田宗介、2008、『まなざしの地獄』、河出書房新社
5. 山崎浩一、1992、『退屈なパラダイス』、ちくま文庫
6. 岡崎京子、2015、『オカザキジャーナル』、平凡社
7. 多木浩二、1994、『都市の政治学』、岩波新書

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

初回講義で扱う予定の動画です。履修の判断にどうぞ。

<https://www.youtube.com/watch?v=8OU9dbFjsT0>

<https://www.youtube.com/watch?v=ShNhdQotONo>

<https://www.youtube.com/watch?v=smleVe12kEo>

<https://www.youtube.com/watch?v=e3TtPK-0B-s>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK168／文化の社会学 (Sociology of Culture)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	計量社会意識論		
担当者名 (Instructor)	大崎 裕子(OSAKI HIROKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業では、文化の一側面として社会意識をあつかう。様々な社会現象・社会課題にかんして人々の間で共有される規範や価値観、また他者との関係や自身にかんする態度・意識は、国際社会で進行する分断社会とどのように関連しているだろうか。計量社会意識研究の理論と方法をもちいて考察する。

This course deals with public opinion as an aspect of culture. How are the norms and values shared by people in relation to various social phenomena and issues, as well as their attitudes and awareness toward their relationships with others and their own condition, related to the ongoing division of society in the world? In this class, we will explore this question using the theory and methods of quantitative public opinion research.

授業の内容 (Course Contents)

はじめに、計量社会意識論の理論と方法について説明する。

次に、社会分断の諸現象に関連する様々な社会意識について、さらに、社会分断の帰結としての主観的ウェルビーイングについて、先行研究の理論や実証的知見について紹介する。

最後に、社会分断にかんする近年の世論調査や学術調査 (SSP 調査, JGSS 調査, 世界価値観調査, 国際社会調査プログラムなど) のデータから、履修者自身が関心にあわせて簡単な分析をおこなう。

その結果から、社会意識にかかわる問題の所在と必要な制度・政策的改善について考察し、履修者間で議論を共有する。

First, the theory and methods of Quantitative Social Consciousness Theory will be explained.

Next, I will introduce the theories and empirical findings of previous studies on various social attitudes related to various phenomena of social division, and on subjective wellbeing as a consequence of social division.

Finally, students will conduct a brief analysis of data from recent public opinion polls and academic surveys (SSP survey, JGSS survey, World Values Survey, International Social Survey Program, etc.) related to social division, according to their own interests.

Based on the results, we will discuss where the problems concerning social awareness lie and what institutional and policy improvements are needed, and discuss them among the participants.

授業計画 (Course Schedule)

1. 計量社会意識論の概要
2. 社会意識の類型
3. 社会意識の属性・階層差
4. 社会意識の時代変化: 近代化と価値変容
5. 社会意識の国際比較
6. 社会分断と社会意識 (1) 不平等と階層意識
7. 社会分断と社会意識 (2) 結果と機会の格差認識
8. 社会分断と社会意識 (3) 他者への信頼と制度への信頼
9. 社会分断と社会意識 (4) 幸福のパラドクスと脱物質的幸福
10. 社会分断と社会意識 (5) 自己・他者の比較と幸福感
11. 社会分断と社会意識 (6) 教育や能力にかんする意識
12. 社会意識データの収集
13. 社会意識データの分析と考察
14. プレゼンテーションとディスカッション

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・ 授業内で多数の文献やデータを紹介するので、その中から関心のあるものを選び、目を通すこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/授業内提出物(40%)/講義への参加度(30%)

テキスト(Textbooks)

特に指定しない。

参考文献(Readings)

1. 吉川徹、2014、『現代日本の「社会の心」:計量社会意識論』、有斐閣
 2. 数土直紀編、2018、『格差社会のなかの自己イメージ』、勁草書房
 3. 太郎丸博編、2016、『後期近代と価値意識の変容:日本人の意識 1973-2008』、東京大学出版会
 4. 電通総研・池田謙一編、2022、『日本人の考え方 世界の人の考え方Ⅱ:第7回世界価値観調査から見えるもの』、勁草書房
 5. ロナルド・イングルハート、2019、『文化的進化論:人びとの価値観と行動が世界をつくりかえる』、勁草書房
 6. NHK 放送文化研究所、2020、『現代日本人の意識構造(第9版)』、NHK 出版
- そのほか、授業中に提示する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK169／都市とメディア (Media and Urbanscapes)		
担当者名 (Instructor)	山田 晴通(YAMADA HARUMICHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

「都市」と「メディア」をめぐる諸概念を社会科学的観点から理解し、自らの表現の道具として、使いこなせるようになる。

Sociological observations on ideas and concepts about media and urban mileau.

授業の内容(Course Contents)

都市とメディアは、いずれも人類が集団で生きる中で形成した、自然界にはない人工物である。歴史の様々な時代、様々な地域の多様な社会において、都市の発展とメディアの発展は、時に対立を孕みつつ連動する現象であった。受講者が現代の現象を、歴史を踏まえ、主体的に考えられるよう促していく。

Cities and media are artifacts not found in the natural world, created by human beings living in groups. In various historical eras, and in varied societies in diverse regions, the development of cities and the development of media have been interlocked phenomena that at times incorporate conflict. The course will encourage participants to think independently about contemporary phenomena from a grounding in history.

授業計画(Course Schedule)

1. 「都市とメディア」という問題設定をめぐって(オリエンテーション)
2. 「メディア」概念の検討 (1)
3. 「メディア」概念の検討 (2)
4. 「都市」概念の検討 (1)
5. 「都市」概念の検討 (2)
6. 「都市」概念の検討 (3)
7. 「都市」と「メディア」の交差軸 (1)
8. 「都市」と「メディア」の交差軸 (2)
9. 「都市」と「メディア」の交差軸 (3)
10. 情報化と現代都市 (1)
11. 情報化と現代都市 (2)
12. 情報化と現代都市 (3)
13. 地域情報化政策の批判的検討 (1)
14. 地域情報化政策の批判的検討 (2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

下記の URL を参照のこと。

<http://camp.ff.tku.ac.jp/stpaul.html>

この講義は、社会学部共通科目の講義であり、特段の準備学習を要するものではない。ただし、(1)高校までに習得しておくべき基本的なスキルである、国語辞典、英和辞典等、基本的参考資料の使用法、および、(2)マイクロソフト・オフィス関連の Word, Excel の基本的な操作、パソコンからのメールの送受信に必要な基本的コンピュータ・リテラシーについては、身に付いていることを前提として授業を進めるので、こうした方面で知識が不十分であると自覚する者は、自習を通して基礎力を身につけておくこと。

通常の授業に臨む際の事前学習としては、予めシラバス等で予告された内容に関するキーワードなどへの理解を深める努力をふだんに行なうことに加え、特に指示された予習の作業がある場合にはこれに適切に取り組むことを求める。また、事後学習としては、授業内容に関連する書籍等の資料や、ネット上の情報の渉猟、実際の映像資料の視聴などを含め、必要な復習を行なうとともに、おもに復習課題として出される宿題に適切に取り組むことを求める。

事前事後学習に要する時間は、1回の授業に対して概ね4時間を目安に設定しているが、それ以上の時間を要する課題が課される場合もある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業中に指示する複数回の提出課題(宿題)の累積によって評価する(100%)

コメントカードは配布するが、評価の対象とはしない。

テキスト(Textbooks)

教科書は用いない。必要に応じ、授業でテキストとして用いる授業担当者の既発表論文などを、プリントとして配付する。

参考文献(Readings)

下記の URL を参照のこと。

<http://camp.ff.tku.ac.jp/stpaul.html>

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

各テーマについて、それぞれ 1～3 回程度の授業を割り当て、プリントとして配布するテキストの講読を含む授業を行う。授業計画は上記の通りであるが、進捗によって各テーマに割り当て回数が変化する場合があります。また、予定した内容を消化できない場合には、必要に応じて補講を行なう場合があります。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK170／文化表象論 (Cultural Representations)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ドラマ性の現在		
担当者名 (Instructor)	大坪 裕幸(OTSUBO HIROYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

表象芸術における「ドラマ性(ドラマツルギー)」の歴史的変遷や現代的意義について、主に現代思想(記号論・現象学・精神分析など)の方法論を用いて考察する。

The course will consider the historical transitions and contemporary significance of "dramaturgia" in representative art, using primarily methodologies of contemporary thought (including semiotics, phenomenology, and psychoanalysis).

授業の内容 (Course Contents)

古代ギリシャの悲劇や叙事詩を起源に持つ「ドラマ」は20世紀以降、映画の誕生以降の演劇において変質し、またマスメディアの発展やサブカルチャーの隆盛と結びついて、新しい意味を持つに至っている。本授業では現代演劇・映画・美術・TVドラマ・演芸等におけるドラマ性について、多角的に分析していく。なお多くの量の「哲学・思想」系の文献を読みます。「楽しく」学べる講義ではないので、そのつもりで。哲学にも文学にも芸術にも興味がない学生が「なんとなく」受講したら、100分×14回の講義が全くの時間の無駄になってしまうので、事前に熟考した上で登録して欲しい。単位が必要な学生は、第一回の講義に必ず出席すること(欠席者は除外します。また、遅刻者は単位を必要としないと見なす)。

Originating in ancient Greek tragedy and epic poetry, drama has undergone transformation in the theater after the birth of film in the 20th century, and has taken on new significance in connection with the development of mass media and the flourishing of subcultures. This class will analyze the dramatics of contemporary theater, film, art, TV dramas, performances, etc. from multiple angles. Students will read a large volume of literature connected with philosophy and thought. The course is not intended as one for "fun" learning.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 「一体化」の演劇と映画 ～基礎的考察～
3. 演劇的手法を超えていく映画
4. 演劇と精神分析
5. 演出の政治性
6. 現象学的主体と「夢」の舞台
7. アンリ・グイエの悲劇論
8. 演劇・舞踊(ダンス)と記号論
9. ドゥルーズ哲学における演劇のメタファー
10. 社会的破滅(カタストロフ)としての悲劇
11. 絵画と(反)演劇性
12. 演劇のなかの反演劇(1) ～寺山修司・別役実以降～
13. コント・漫才・大道芸のドラマ性
14. 演劇のなかの反演劇(2) ～三谷幸喜・宮藤官九郎まで～

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

レポートは3200～4000字ですが、その内容と形式については随時メールで質問を受け付けます。講義そのものは熟達者のレベルに合わせるが、前準備・復習には授業支援システム(Canvas LMS, Blackboard等)やメールを活用してフォローします。講義の内容についての詳しい解説も随時行うので、やる気と(予習・復習する)時間のある学生は大歓迎。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(50%)/授業態度(25%)/コメントペーパー(25%)

授業態度25%+コメントペーパー25%+レポート試験50%により評価する。当然だが私語厳禁(守らない者はD判定)。なお2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト(Textbooks)

ハンドアウトを配布する。

参考文献(Readings)

1. 小阪修平 他、『わかりたいあなたのための現代思想・入門』、JICC出版局
2. 岡本裕一郎、2015、『フランス現代思想史 - 構造主義からデリダ以後へ』、中公新書

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK171／流行論 (Theory of Fashion)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ヴィーガニズムと現代社会		
担当者名 (Instructor)	丸山 雄生(MARUYAMA YUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

- ・ヴィーガニズムについての基礎的理解の修得
- ・食、とくに肉食を取り巻く関連領域の議論を踏まえて、ヴィーガニズムの多面性を説明することができる
- ・自らの関心を発展させ、調査し、文献を見つけ、正確に読解してまとめる技術を身につける

This course aims at:

- To know the basics of veganism
- To obtain good understandings about multi aspects of veganism and insights in the related fields
- To develop skills for doing research, reading academic texts, and organizing various sources

授業の内容 (Course Contents)

食は単なる本能ではないし、楽しみや喜びにもとどまらない。それはたくさんの社会的な要素が入り交じった複雑な領域であり、その複雑さにおいてテーブルの上に広げられるものとは政治にほかならない。食べることは、文化や経済やジェンダーや人種や種や国際関係や哲学や倫理や宗教やそのほかあらゆるところにつながっている。

本講義はこの食の政治性に注意を払いながらヴィーガニズムを考える。ヴィーガン(肉をはじめとする動物性のものを食べない人)は近年、世界的に拡大しているが、それはポップな流行なのだろうか？ これまでたくさんの新しい食べ物が「ファッションフード」として現れては消えていったように？ 本講義はそうではないと考え、ヴィーガニズムを流行として一面化するのではなく、その多面的な広がり議論する。

そのために本講義はヴィーガニズムに関連する領域の思想と実践を検討する。具体的には、フェミニズム、動物研究、動物の権利論、ポストヒューマン、マルチスピーシーズ人類学、グローバリゼーション、気候変動などをめぐる近年の論考を取り上げ、それらを相互に参照する体系的・総合的なヴィーガニズムの理解を作ることを目指す。

よって、本講義はヴィーガンの食事やレシピなどを紹介するものではない。栄養や健康などフードサイエンスを大きく取り上げることもない。そうした実用的情報を期待する向きには合わないことに注意されたい。また、講義内では動物への暴力について多く論じるほか、屠畜など動物の死を含む映像を使用するため、それらの話題やビジュアルが苦手な人は履修前に慎重に検討してほしい。

Eating is more than appetite or joy. It is a complicated practice composed of many social and cultural factors. What we have on the table is all political. Eating is related to culture, economy, gender, race, species, international relations, philosophy, ethics, religion, and almost every aspect of society you can think of.

This course examines veganism by paying particular attention to the politics of food. The number of vegans has increased across the globe. Is this a shallow boom as with many of the other “fashion foods” that have appeared and disappeared over years? This course suggests that this is not the case and discusses the multitude of environmental, political, and social aspects affecting veganism, instead of riding on the fancy trend of vegan diets.

This course carefully considers veganism and related fields: Feminism, animal studies, animal rights, posthuman, multi-species anthropology, globalization, climate crisis and other subjects will be examined. The goal is to build a synthetic understanding of veganism that both refers to and is referred by these fields.

Disclaimers: (1) This course discusses little about the practicalities of veganism e.g., vegan menus, recipes, health, or nutrition. If you want to attain a practical knowledge of veganism, this course is not for you. (2) This course discusses the death of animals and violence inflicted on them and shows visual images of killing of animals. Those who do not like these topics and images are advised to think carefully before registration.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
近年のヴィーガンの流行について
2. ヴィーガニズムとジェンダー(1)
キャロル・アダムズを読み直す、肉食と家父長制、カーニズム
3. ヴィーガニズムとジェンダー(2)
動物愛護、センチメンタリズムからエコフェミニズムへ

4. ヴィーガン・スタディーズと動物研究(1)
動物の権利論、社会史、ピーター・シンガー以降の権利論
5. ヴィーガン・スタディーズと動物研究(2)
動物論的転回とその後の動物研究、人間と動物の関係史
6. ゲストスピーカーの講義・対話(1)(予定)
7. ヴィーガン・スタディーズと動物研究(3)
存在論的転回、マルチスピーシーズ人類学、ANT、ポストヒューマン、動物の主体性
8. ヴィーガン・スタディーズと動物研究(4)
動物の他者性、インターセクショナリティ、人種、障害
9. ゲストスピーカーの講義・対話(2)(予定)
10. ヴィーガン・スタディーズと動物研究(5)
批判的動物研究(CAS)、動物を殺すことをめぐる議論、ハンティングの哲学
11. ヴィーガニズムと現代の課題(1)
食の危機と近代化、科学技術、グローバリズム
12. ヴィーガニズムと現代の課題(2)
グローバリゼーション、ファーストフード、CAFO、企業資本主義
13. ヴィーガニズムと現代の課題(3)
気候変動と肉食、人新世、食物倫理、都市農業、CSA、農の思想と実践
コロナ、肉食と疫病、食の安全
14. ヴィーガニズムと現代の課題(4)
ヴィーガニズムと消費文化、ツーリズム、オルタナティブな食

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

本講義では毎回の授業に関連する参考文献が課される。参考文献は書籍の抜粋や論文で、ほぼ毎回複数あり、学習支援システムを用いて配付する。講義はそれらを読んでいることを前提として行われる。

よって、各回の予習として、履修者は事前に参考文献を読むこと、また不明点について調べるのが求められる。

また、復習として、授業内容の再確認と参考文献の読み直しが必要となる。個別具体的な作業が必要な場合は授業内で指示する。課題を課す場合も授業内で指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(20%)/レポート2(15%)/レポート1(15%)/授業の理解および議論への貢献(50%)

(1)平常点:授業の理解および議論への貢献(50%)リアクションペーパーなどを通じて理解を確認するほか、授業内での質問、意見など議論に貢献する積極性を高く評価する。(2)学期中の課題(50%)学期中に複数回の課題を予定している。詳細については授業内で説明し、学習支援システムを用いて提出する。(1)と(2)を総合し、到達目標に定めた知識、理解、技能に照らし合わせて成績評価をする。この授業では剽窃は一切認めない。不正行為は不合格とする。注意点は授業内で説明する。レポートの書き方については授業内で指示する。それに従わないものは評価しない。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

授業支援システムで配付する

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

パワーポイントを使用した講義形式で、参考文献や映像資料を適宜用いる。

受講者の数によるがなんらかのかたちで講義への参加を促す。

参考文献の配付、課題の提出には、授業支援システムを用いる。

フィードバックは、受講者の数に合わせて最適な方法をとる。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK173／比較社会・文化論 (Comparative Analysis of Society and Culture)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	インド社会と宗教		
担当者名 (Instructor)	相川 愛美(AIKAWA EMI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講義では、国や民族ごとに異なる社会や文化を比較することで、グローバル社会に必要な相互理解を可能にする基礎的知識を養う。南アジア社会(特にインド)における社会・宗教(文化)を学ぶことで、異文化理解だけではなく、自文化も適切に理解することを目標とする。

This course has three objectives as below.

1. Students will learn basics of area studies of South Asia focusing on India.
2. Students will understand Indian society and religion.
3. Students will rethink their own society in a comparative point of view.

授業の内容 (Course Contents)

現在、インドは大きく変動している。経済成長は著しく、特に中間層の急激な成長により都市文化は劇的な変化を遂げている。このように目覚ましい発展を続けるインドであるが、一方で社会経済問題が深刻化していることも事実である。その背景には、インドが抱える独特な社会や宗教文化がある。

本講義では、まず「比較」の重要性について考え、そして、インドの基礎的知識(地理、宗教、言語、周辺地域とのつながり)について学ぶ。その後はヒンドゥー教を中心としたインド社会について学ぶ。

これらは歴史的資料や映像資料、音楽など様々な資料を使い、多様で複雑なインドへの理解を深めてもらう。写真や映像資料、フィクションの映画なども利用しながら講義形式で行う。

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge (geography, religions, languages, ethnicity, gender, history and caste) in Indian society. These concepts have been changing as the times change. Although the India show remarkable development, there are serious social economic problem. It's thought there is unique culture and religious society in behind them.

Therefore, this course also covers the deep understanding of religious society focusing on Hindu religion. By the end of the course, students will have an International view point through Indian society.

This course will be consisted of lectures basically, including discussions and watching documentary movies in some cases.

授業計画 (Course Schedule)

1. 講義概要
2. インド世界への誘い インドと日本
3. インド社会を学ぶための基礎① 地理、言語、政治、経済、産業他
4. インド社会を学ぶための基礎② 歴史
5. 多民族・多言語国家のインド
6. 多宗教社会を考える① インドにおける宗教
7. 多宗教社会を考える② ヒンドゥー教の理念
8. 多宗教社会を考える③ ヒンドゥー教社会 (カースト)
9. 多宗教社会を考える④ ヒンドゥー教社会 (通過儀礼と生活)
10. 多宗教社会を考える⑤ ヒンドゥー教社会 (世界宗教としてのヒンドゥー教)
11. 多宗教社会を考える⑥ イスラーム社会
12. ジェンダー視点からみるインド社会 女性への暴力
13. グローバル社会におけるインド 発展し続けるインドと都市中間層の暮らし
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)／中間レポート(25%)／リアクションペーパー(35%)

テキスト(Textbooks)

テキストは指定しません。必要に応じて、適宜資料を配布します。

参考文献(Readings)

1. 田中雅一、田辺明生編、2010、『南アジア社会を学ぶ人のために』、世界思想社 (ISBN:9784790714903)
 2. 栗屋利江、井坂理穂、井上貴子編、2015、『現代インド〈5〉周縁からの声』、東京大学出版会 (ISBN:9784130343053)
 3. 三尾稔、杉本良男編、2015、『現代インド〈6〉環流する文化と宗教』、東京大学出版会 (ISBN:9784130343060)
 4. 橋本泰元、宮本久義、山下博司、2005、『ヒンドゥー教の事典』、東京堂出版 (ISBN:9784490106824)
 5. 辛島昇他監修、2012、『【新版】南アジアを知る事典』、平凡社 (ISBN:9784582126457)
 6. インド文化事典編集委員会[編]、2018、『インド文化事典』、丸善出版 (ISBN:9784621302354)
- 必要に応じて、講義においても適宜示す。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK174／生命・身体の社会学 (Sociology of Life and Body)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	個人モデルに基づく性暴力理解の批判的検討		
担当者名 (Instructor)	横山 麻衣(YOKOYAMA MAI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

理論および実証研究を理解し、ジェンダーセンシティブな社会学的想像力を養う。
他者に伝わる論理的な意見の述べ方を身につける。

They read theoretical and empirical study on gender and sexual assault to cultivate gender-sensitive sociological imagination.
They acquire logical and communicative skills to convey their ideas.

授業の内容 (Course Contents)

社会学のみならず学際的な研究および各種統計データや事例などを読み解きながら、性暴力という事象について解説する。
日常および学問におけるジェンダーや性暴力についてのよくある偏見や思い込みを批判的に考察する。

We will read case data, statistical data and multidisciplinary study about gender and violence to understand what sexual assault is.
We will critically consider common prejudices and assumptions about gender and sexual assault in everyday life and in academia.

授業計画 (Course Schedule)

1. ジェンダー、LGBTQ、SOGI
2. 「性犯罪」と「性暴力」
3. 性教育の国際比較
4. 性暴力研究
5. 性暴力がその被害者に与える影響
6. 性暴力被害後のソーシャルサポート
7. 性別規範、強かん神話
8. 社会関係とジェンダー
9. 親密な関係における暴力
10. 被害者支援研究
11. 被害者支援研究
12. 新しい社会問題と非営利組織
13. 被害者支援とその職務
14. 性暴力理解と社会関係モデル

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

受講生は毎講義後にレポートを提出する。
レポート課題に取り組むにあたり、授業時間外で文献調査等を行うことが求められる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内容の理解度、毎講義時のレポートのクオリティ(100%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

ジェンダーに関する基礎知識があることが望ましい。
受講環境整備のため、受講者制限を行うことがある。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK175／開発・発展の社会学 (Sociology of Development)		
担当者名 (Instructor)	倉本 由紀子(KURAMOTO YUKIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「開発」とは何か、「国際協力」はどのように可能かについて自ら問い、国際開発・協力に関する基礎と実践を幅広く理解することを目指します。また、グローバル化が深化した国際社会において、地球規模の諸問題を解決する方法を考察することも目指します。

What is development? How can we foster international collaboration? This course aims to answer those questions through learning about theory and practice of economic, political and social development in the world.

授業の内容 (Course Contents)

「開発」への歴史的、理論的なアプローチを経済開発、社会開発、人間開発や開発政治の視点から分析し、近年グローバル化と反グローバル化が衝突する国際社会における人権、貧困や環境問題などの解決方法を、グローバル市民の一員として考察し協働するための基礎知識を習得します。

This course is intended as an introductory survey of the political, social, and economic development. By the end of the course, students will be familiar with the history and current main issues concerning international development. We will also examine the range of explanations and theories that have been developed to solve various global issues such as poverty, denial of human rights, and climate change.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション：国際協力の仕組み
2. グローバリゼーションと貧困問題
3. 社会開発と経済開発 理論
4. 国際平和協力と国際紛争解決と地域機構について
5. 国連・国際機関の人道支援と SDGs が目指す持続可能な社会
6. 市民社会・NGO の役割 (専門家による特別講義)
7. 経済開発と環境保護
8. 自然災害後の緊急人道支援
9. ジェンダー視点の国際協力
10. 企業の社会的責任 (CSR)
11. 日本の政府開発援助について
12. 国際教育協力
13. 新たな政治課題としての難民問題
14. 総括・まとめ

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

指定されたテキスト内容を基に授業を進めるので、該当箇所を読んで授業に臨んで下さい。また、授業時間外でも、世界や日本から発信される信頼可能な情報に関心を持ち、山積する地球規模の諸問題の原因や解決に向けた取り組みについて考えてみましょう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/授業参加度・リアクション・ペーパーなど(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 山田満、2023、『新しい国際協力論 改訂版』(第3版)、明石書店 (ISBN:9784750355788)

参考文献 (Readings)

1. 佐原隆幸・徳永達巳、2018、『国際協力 アクティブ・ラーニング』、光文堂 (ISBN:9784335551765)
2. 高柳彰夫・大橋正明 編、2018、『SDGs を学ぶ: 国際開発・国際協力入門』、法律文化社 (978589039699)
3. 内海成治 (編)、2016、『新版 国際協力論』、世界思想社 (ISBN:9784790716747)
4. 木村宏恒・近藤久洋・金丸裕志編、2011、『開発政治学』、勁草書房 (ISBN:9784326503445)

5. 大坪滋・木村宏恒・伊東早苗編、2009、『国際開発学入門』、勁草書房 (ISBN:9784326503278)
6. Michael P. Todaro and Stephen C. Smith.. 2011. *Economic Development 11th edition* . Pearson (ISBN:9781405874243)
7. 松本悟・佐藤仁、2021、『国際協力と想像力』、日本評論社 (ISBN:9784623090112)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK176／「人間の安全保障」とNGO (Human Security and NGOs)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	多様化する世界の脅威から、私たちの「日常」を守るために		
担当者名 (Instructor)	渡部 真由美(WATABE MAYUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「人間の安全保障」の概念とその視点を理解することで、紛争や貧困、テロといった世界の多様化する脅威に対して、受講生それぞれがその本質を深く分析し、どう対処すべきかを考える力を養うことを目的とします。

This course examines the concept of human security and its value added in the present world. The participating students are expected to enhance their own skills to analyze the various threats which the world faces today, and also to come up with "solutions" to mitigate the negative effects to the people on the ground.

授業の内容 (Course Contents)

「人間の安全保障」とは、「個々の人間」に重点を置き、紛争や災害、貧困などの地球規模の課題から人間の生命・身体・安全・財産・自由を守ることを意味します。しかしながら、グローバル化する世界で脅威の多様化が進む中、誰がどのように人間を守るのでしょうか。本講ではその概念の普及が現在の国際協力分野においてどのような意義を持つのかを論じ、そのアプローチの有効性と市民社会や NGO、さらには国連等のアクターが国際協力の現場で果たすべき役割について学びます。

Human Security, focusing on individual's security, means protecting the vital core of all human lives in ways that enhance human freedoms and human fulfillment. However, it is often asked who and how will "humans" be protected from the diverse threats in the globalized world? This course shall therefore analyze what merits could be brought by mainstreaming human security concept in combating against the global problems such as genocide, poverty, terrorism, small arms, natural disaster, and infectious diseases like Covid-19, and also discuss about the roles of the civil society, NGOs/NPOs, and UN agencies, in enhancing human security for all.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション:「人間の安全保障」を学ぶということとは？
2. 「人間の安全保障」の概念形成とその発展
3. 「暴力」を考える①: 人間と暴力～暴力はなくなるのか？
4. 「暴力」を考える②: 暴力と権力～誰がその「人間」を守るのか？
5. 「恐怖からの自由」: 直接的暴力へのアプローチ① 平和構築と「移行期正義」一癒し、赦し、そして和解
6. 「恐怖からの自由」: 直接的暴力へのアプローチ② 平和構築と国連の取組: ジェノサイド予防
7. 「恐怖からの自由」: 直接的暴力へのアプローチ③ テロと現代社会: 「テロ」の加害と被害一憎しみの連鎖をどう止めるのか？
8. 「恐怖からの自由」: 直接的暴力へのアプローチ④ 紛争と小型武器
9. 「恐怖からの自由」: 直接的暴力へのアプローチ⑤ 紛争予防: 「私たちは、紛争・戦争を予防できるのか - 世界で今起きている戦争・紛争を例に」
10. 「欠乏からの自由」構造的暴力へのアプローチ①「貧困」がもたらす世界の課題
11. 「欠乏からの自由」構造的暴力へのアプローチ② 文化や慣習、偏見がもたらす「暴力」
12. 「欠乏からの自由」構造的暴力へのアプローチ③「犠牲のシステム」: 日本の構造的暴力を考える
13. 「欠乏からの自由」構造的暴力へのアプローチ④: 地球環境問題
14. 【総括】世界の多様な脅威と人間の安全保障と SDGs

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキスト講読、テーマの自主学習(授業内で配布予定の参考文献リスト参照)

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/毎授業後のリアクションペーパー(50%)

テキスト (Textbooks)

1. 長有紀枝、2021、『入門 人間の安全保障 恐怖と欠乏からの自由を求めて』(増補版)、中央公論新社
2. アマルティア・セン、2006、『人間の安全保障』、集英社新書

参考文献 (Readings)

1. 人間の安全保障委員会、2003、『安全保障の今日的課題』、朝日新聞社
- その他、授業内で参考文献リストを配布予定

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK177／紛争と和解・共生 (Conflicts, Peace and Reconciliation)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	具体的事例から考える		
担当者名 (Instructor)	長島 大輔(NAGASHIMA DAISUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

紛争はなぜ起こるのか。紛争はどのようにして激化し終結するのか。紛争は地域社会に何をもたらすのか。紛争後の社会において、人々はいかにして日常生活を取り戻すか。これらの問いは、いずれも簡単に答えを出すことが出来ない、ややこしいものであることは間違いないが、全人類に関わる普遍性をもっている。講義では、具体的事例をとおして、これらの問いを考察するための基本的概念・理論について学び、私たち一人ひとりがこれらの問題にどのように関わっていくべきか考える。

Why do conflicts occur? How do they intensify and end? What do they inflict on the local communities? How do the citizens bring back their daily lives? These are doubtless intricate questions which are difficult to find answers, but they are universal concerns to all humanity. The aim of this course is, through actual cases, to obtain basic knowledge of concepts and theories for analyzing these questions and to consider how we would get involved in them.

授業の内容 (Course Contents)

戦争／平和の多義性を理解し、近代以降の紛争の歴史を概観した上で、紛争の予防と処理における諸アクターの役割について学ぶ。その後、現代における紛争の背景と原因、紛争の構図、紛争の実態を比較する(6～11回)。さらに、紛争終結のプロセスと和解・共生の様々な試みについて考察する(12～13回)。

Understanding the ambiguity of the terms “war” and “peace” and surveying the modern history of conflicts/ wars, this course introduces the roles of actors involved in preventing and resolving conflicts, does comparative analysis of their backgrounds/causes, structures and realities (from 6th to 11th), reviews and evaluates peace processes and different attempts of reconciliation and peace-building (12nd and 13th).

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス: 講義の目的と内容について
2. 紛争研究について
3. 近代以降の国際関係の歴史と理論
4. 紛争に関する国際法
5. 紛争と国際機関
6. 20世紀以降の紛争: 概論
7. 具体例①植民地主義の負の遺産: パレスチナ紛争
8. 具体例②植民地主義の負の遺産: アフリカの紛争
9. 具体例③冷戦後の紛争: 旧ユーゴ紛争
10. 具体例④冷戦後の紛争: 「対テロ」戦争
11. 具体例⑤古い戦争の再来?: ウクライナ紛争
12. 和解と共生の試み: 紛争終結のプロセスと平和構築
13. 和解と共生の試み: メディアの役割
14. まとめ: 私たちはどのように紛争、和解・共生と関わるか

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

予習: 事前に配布された資料に目を通し、キーワードについて調べておくこと(60分程度)。

復習: 指定された参考文献や資料を読むこと。講義課題が出された場合は、締切までに提出すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 授業後課題(40%) / リアクションペーパー(20%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A・ウェルチ／著、田中明彦、村田晃嗣／訳、2017、『国際紛争—理論と歴史』、有斐閣 (ISBN:9784641149175)
 2. 藤原帰一、大芝亮・山田哲也／編、2011、『平和構築・入門』、有斐閣 (ISBN:9784641049949)
 3. 篠田英明、2015、『国際紛争を読み解く五つの視座—現代世界の「戦争の構造」』、講談社選書メチエ (ISBN:9784062586177)
 4. 長有紀枝、2021、『入門 人間の安全保障—恐怖と欠乏からの自由を求めて』(増補版)、中央公論新社 (ISBN:9784121921956)
 5. 広島市立大学広島平和研究所／編、2016、『平和と安全保障を考える事典』、法律文化社 (ISBN:9784589037398)
- その他の参考文献については授業支援システム (Canvas LMS、Blackboard 等) に掲示する

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK179／エスノメソドロジー (Ethnomethodology)		
担当者名 (Instructor)	吉川 侑輝(YOSHIKAWA YUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

エスノメソドロジー研究の基本的な着想や展開を学ぶ。日常会話、遊び、仕事、文化、歴史、そして科学といった多種多様なトピックにかかわる社会現象を自ら分析的に理解していくための手法に習熟する。

1. To learn the basic ideas and the development of ethnomethodological research.
2. To become familiar with the analytical methods for understanding social phenomena related to a wide variety of topics, such as conversation, hobbies, work, culture, history, and science.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、社会学のなかから登場した「エスノメソドロジー」とよばれる研究方針の基本的な着想やその展開を、哲学との関係なども考察しながら、実践的に学んでいく。併せて、社会学とその周辺分野における理論的な課題や私たち自身の社会生活における実践的な課題の解決を目指していくための手掛かりなども、探求していく。

In this course, you will learn, in a practical way, the basic ideas and the development of a research policy called ethnomethodology that emerged from sociology, including consideration of its relationship with philosophical investigations. We will also explore clues to working out practical issues in our own social lives and solving theoretical issues in sociology and related fields.

授業計画 (Course Schedule)

1. エスノメソドロジーとはなにか：その基本的な着想
2. 資源の多様性(1)：テキストと画像
3. 資源の多様性(2)：発話とサウンド
4. 資源の多様性(3)：身体と道具
5. ワークの研究(1)：日常会話①[隣接対と優先性]
6. ワークの研究(2)：日常会話②[順番交替と修復]
7. ワークの研究(3)：日常会話③[物語を語ること]
8. ワークの研究(4)：愉しみと遊び
9. ワークの研究(5)：仕事と労働
10. ワークの研究(6)：科学
11. リマインダーとチュートリアル
12. 哲学との関係：概念分析の社会学
13. コンヴェンション：エスノメソドロジーの道具箱
14. 社会学のなかのエスノメソドロジー

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

事前にテキストの指定された箇所を熟読してくる。その他の授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(70%)/リアクションペーパー(30%)
2/3 以上の出席をしていない場合は 単位修得不可。

テキスト (Textbooks)

1. 前田泰樹／水川善文／岡田光弘編、2007、『エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』、新曜社 (ISBN:9784788510623)

参考文献 (Readings)

1. デイヴィッド・フランシス／スティーヴン・ヘスター、2014、『エスノメソドロジーへの招待：言語・社会・相互行為』、ナカニシヤ出版 (ISBN:9784779508295)
2. 串田秀也／平本毅／林誠、2017、『会話分析入門』、勁草書房 (ISBN:9784326602964)

3. 秋谷直矩／團康晃／松井広志編、2021、『楽しみの技法：趣味実践の社会学』、ナカニシヤ出版（ISBN:9784779515828）
 4. 水川喜文／秋谷直矩／五十嵐素子、2017、『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』、ハーベスト社（ISBN:9784863390836）
 5. マイケル・リンチ、2012、『エスノメソドロジーと科学実践の社会学』、勁草書房（ISBN:9784326602445）
 6. 酒井泰斗／浦野茂／前田泰樹／中村和生、2009、『概念分析の社会学：社会的経験と人間の科学』、ナカニシヤ出版（ISBN:9784779503146）
 7. 筒井淳也／前田泰樹、2017、『社会学入門：社会とのかかわり方』、有斐閣（ISBN:9784641150461）
- 是永論『見ること・聞くことのデザイン：メディア理解の相互行為分析』新曜社、2017 年（ISBN:9784788515093）
- 吉川侑輝『音楽の方法誌：練習場面のエスノメソドロジー』晃洋書房、近刊。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

授業は講義形式を基本とし、随時、視聴覚資料を用いる。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK180／教育社会学 (Sociology of Education)		
担当者名 (Instructor)	山口 泰史(YAMAGUCHI YASUFUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業では、「教育」がどこにおいてどのような目的でおこなわれ、どのような働きを持っているのかについて理解するとともに、教育という営みについて自身の経験にとらわれることなく、データをもとに実証的に整理し議論する力を身につけることを目標とします。

In this class, students will be able to understand the places, the purposes, and the roles of education, and to discuss educational matters empirically with data.

授業の内容 (Course Contents)

この授業では、教育社会学の知見や社会統計・社会調査等に基づくデータを紹介しながら、学校・家庭という場所を中心としながらも広い範囲で影響をおよぼす「教育」について客観的に理解することを目指します。毎回の授業で、履修者にはコメントペーパーを書いてもらい、次の授業でいくつかのコメントを匿名で紹介しします。そのことを通じて履修者の理解状況の把握、そして皆さんへのフィードバックをおこなうことを予定しています。

In this class, students aim to understand education, which emerges mainly at schools or families and affect various areas of the society, from implications from the research in the sociology of education and data from social indicators or social surveys shown in the class.

Students have to write and submit their comments in classes, and the instructor presents some of them in the next class. This process enables us to assess the level of students' understandings, and students can get a feedback.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 教育社会学と本授業の位置づけ
2. 社会における教育の役割
3. 学校という空間(1): 学級・ホームルームという仕組み
4. 学校という空間(2): 教師の役割と取り組み
5. 学校という空間(3): 生徒文化と学校問題
6. 教育選抜とメリトクラシー
7. 教育と格差(1): 出身家庭と教育達成
8. 教育と格差(2): 学歴と地位達成
9. 教育と格差(3): ジェンダーと日本社会
10. 地域社会と教育の関係を考える
11. 家族と教育(1): 教育する家族と戦後日本社会
12. 家族と教育(2): 家族の多様化と貧困
13. 家族と教育(3): 教育への投資と日本の教育政策
14. 教育の社会的役割と日本社会のゆくえ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外の予習・復習のために、各回の授業において文献の紹介や学習の指示をおこないます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)/コメントの提出(40%)

テキスト (Textbooks)

授業時にプリントを配布します。テキストはとくに指示しません。

参考文献 (Readings)

1. 酒井朗・中村高康・多賀太編、2012、『よくわかる教育社会学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623062935)
2. 近藤博之・岩井八郎、2015、『教育の社会学』、放送大学教育振興会 (ISBN:9784595315374)
3. 矢野真和、2015、『大学の条件: 大衆化と市場化の経済分析』、東京大学出版会 (ISBN:9784130513326)

4. 松岡亮二編著、2021、『教育論の新常識：格差・学力・政策・未来』、中央公論新社（ISBN:9784121507402）
 5. 広田照幸、1999、『日本のしつけは衰退したか：「教育する家族」のゆくえ』、講談社（ISBN:9784061494480）
 6. 日本教育社会学会編、2018、『教育社会学事典』、丸善出版（ISBN:9784621302330）
- この他の参考文献については、授業内で示します。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

※授業は、配布プリントに基づく講義形式での実施を中心とし、授業内でコメントを書く時間を設けます。

※履修者の状況や社会状況に応じて、履修者に相談の上、上述の内容を一部変更する場合があります。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK181／青年期の社会学 (Sociology of Adolescence)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代青年期の幸福と不安をめぐる諸問題		
担当者名 (Instructor)	土井 隆義(DOI TAKAYOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代日本の青年層に特徴的に見受けられる意識の特徴と、そこから派生する諸問題について、後期近代という社会背景から理解することを目指します。

The objective of this course is to understand the characteristics of the awareness characteristically found in Japanese adolescents today, and the problems that arise from this awareness, against the background of recent modernity.

授業の内容(Course Contents)

社会的格差の拡大や失業率の高さなど、現代青年期をとりまく社会状況は非常に厳しい状況にあります。しかし、その一方で彼らの生活満足度は高く、また幸福感も強まる傾向が見られます。この両者のギャップはどのように理解すればよいのでしょうか。この授業では、その社会学的な解明を試みます。

The social conditions surrounding modern adolescence, such as widening social disparities and the high unemployment rate, are very severe. However, their satisfaction with their lifestyles is conversely high, and their sense of well-being is rising. How should the gap between these be understood? This class will attempt a sociological elucidation.

授業計画(Course Schedule)

1. プロローグ～いま、青年とは誰のことなのか①～
2. プロローグ～いま、青年とは誰のことなのか②～
3. 青年期の社会的格差(1)～青年期の経済基盤～
4. 青年期の社会的格差(2)～経済格差の固定化①～
5. 青年期の社会的格差(3)～経済格差の固定化②～
6. 流動化する現代社会(1)～希薄化する境界線～
7. 流動化する現代社会(2)～世代間対立の融解～
8. リスク化する人間関係(1)～「純粋な関係」の拡大～
9. リスク化する人間関係(2)～肥大する承認不安～
10. 内閉化する生活圏(1)～ポスト近代化の時代～
11. 内閉化する生活圏(2)～変貌する承認の構図～
12. 反転する時代精神(1)～フラット化する世界①～
13. 反転する時代精神(2)～フラット化する世界②～
14. 反転する時代精神(3)～宿命論的な世界観～

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

時間の余裕があれば、参考文献を読んでおく授業を理解しやすいでしょう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

テキストは使用しません。

参考文献(Readings)

1. 土井隆義、2008、『友だち地獄』、ちくま新書
2. 土井隆義、2009、『キャラ化する／される子どもたち』、岩波ブックレット
3. 土井隆義、2014、『つながりを煽られる子どもたち』、岩波ブックレット
4. アンソニー・ギデنز、2005、『モダニティと自己アイデンティティ』、ハーベスト社
5. ジークムント・バウマン、2001、『リキッド・モダニティ』、大月書店

6. デイヴィッド・リースマン、2013、『孤独な群衆(上)(下)』、みすず書房
7. 土井隆義、2019、『「宿命」を生きる若者たち』、岩波ブックレット

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／職業選択・キャリア形成論 (Sociological Perspectives on Occupational Choice and Career)		
担当者名 (Instructor)	河野 志穂(KAWANO SHIHO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3460	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(100名)		

授業の目標(Course Objectives)

大学卒業後の職業選択および初期キャリア形成についての学問的知見を理解し、その知識をふまえて自らのキャリア形成に対する意識を高めることを目標とする。

Its objective is to gain an academic understanding of job selection and early career formation following university graduation, and, based on this knowledge, to enhance awareness of students' own career formation.

授業の内容(Course Contents)

学校から職業への移行や初期キャリア形成に関する社会学的な知見について、いくつかのテーマ、トピックに分けて紹介する。これらのテーマ、トピックに関して、学問的視野を獲得するとともに、その知識を用いて自らのこれからの生き方に関する洞察を深める。

Sociological findings on the transition from school to work and on early career formation are introduced under several themes and topics. Students will acquire an academic perspective on these themes and topics, and will use the knowledge to gain insights into their future way of living.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション: あなたはなぜ大学に進学しましたか?
2. 大卒就職の現実と諸理論(1): 技術機能主義とスクリーニング理論
3. 大卒就職の現実と諸理論(2): 訓練可能性とシグナリング理論
4. 大学ー職業の接続(1): 労働市場の日本的特徴
5. 大学ー職業の接続(2): 就職プロセスの変遷
6. 「求められる人間像」をめぐって(1): 即戦力とは何か?
7. 「求められる人間像」をめぐって(2): 自己分析とは何か?
8. グループワーク(1): 職業を知る
9. グループワーク(2): 職業を知る
10. グループワーク(3): 職業を知る
11. 様々な働き方とキャリア形成
12. 働くことに関わる法律
13. ゲストスピーカー講演: 職業の実際を知る①
14. ゲストスピーカー講演: 職業の実際を知る②

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します(グループ学習の期間は授業外学習の時間が増えると思ってください)。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)/コメントペーパー(兼出席票)の内容、グループ学習の参加状況(40%)

テキスト(Textbooks)

特に指定しない。必要な文献については授業時に指示する。

参考文献(Readings)

1. 苅谷剛彦・本田由紀(編)、2010、『大卒就職の社会学—データからみる変化』、東京大学出版会 (ISBN:4130511319)
 2. 乾彰夫・本田由紀・中村高康、2017、『危機のなかの若者たち』、東京大学出版会 (ISBN:4130513370)
 3. 本田由紀編、2018、『文系大学教育は仕事の役に立つのか—職業的レリバンスの検討』、ナカニシヤ出版 (ISBN:4779513103)
 4. 古屋星斗、2022、『ゆるい職場—若者の不安の知られざる理由』、中央公論新社 (ISBN:4121507819)
- そのほかは、授業時に適宜紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

※以上のスケジュールリングは、学生の興味関心やゲスト講師の日程都合をもとに変更する場合があります。

※パワーポイントを使用した講義を行い、映像資料なども適宜活用します。

※全授業回のうち 7 回を上限にオンラインで行う可能性があります(どの回をオンラインで実施するかは事前にお伝えします)。

※この授業は「職業を知る」「自分を知る」「自己表現をする」を授業の三本柱としています。

具体的には「職業を知る」では、グループワークを行い、企業や業界について調べ、発表資料を作成し、発表を行ってもらう予定です。グループの情報共有の場として、授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)を使用する予定です。グループ発表に対しては、授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)を使用して、講評など、フィードバックを行います。また、「自分を知る」では、自身の取り組みを振り返って記述してもらう機会を設ける予定です。そして、「自己表現する」では、少人数グループでの発表や、クラス全体に向けた発表の機会を設ける予定です。

(なお新型コロナウイルス感染予防の観点から、授業の実施形態によってグループ学習が行えるか否かが変わります。また、グループ学習を行う際、上記の内容に変更があるかもしれません)

※グループワークの回数は受講生の人数によって変化する場合があります。

また、授業時間の前半を講義、後半をグループワークとする場合があります。

※リアクションペーパーに記入した内容は、名前を秘匿して、翌回以降の授業でフィードバックをする場合があります。

※本授業は、社会学的アプローチをとりますので、個々人に対する適職診断(心理テスト)等はいりません。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK187／現代社会研究E (Studies of Contemporary Society E)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	地方自治体と新型コロナ (Response to COVID-19 in local governments)		
担当者名 (Instructor)	黒澤 重徳(KUROSAWA SHIGENORI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

地域社会を構成する住民として、地方自治体の業務を通じて地域社会のあるべき姿と現実について学び、自らの周りにある地域社会の課題について理解を深める。

As residents of the local community, you will learn about the ideal and actual shapes of the community through local government work, deepening your understanding of issues in the community around you.

授業の内容 (Course Contents)

昨年度まで「地方自治体から学ぶ地域社会」というタイトルの授業であったが、今年度から新たに現代社会研究 E として毎年度違ったテーマを軸に地方自治体を取り巻く状況について学ぶ。今年度は新型コロナウイルスが自治体運営にどのような影響を与えたかを取り上げる。多くの授業で現役自治体職員(国立市職員)をゲストスピーカーとして迎える。地域社会の最前線で働く公務員の話から地域社会をめぐるさまざまな課題を認識するとともに、自らが地域社会の一員であるという理解を深めていく。将来、公務員を目指す学生や、社会的アプローチにおいて新型コロナの影響を学びたい学生には大きな学びの機会となるであろう。なお、下記内容を予定しているが、授業の展開やゲストスピーカーの招聘状況により順序や取り上げるテーマを変更することがある。

Until last year, the title of the class was "Local Community from the Local Government's View." Starting this year, students will learn about the situation surrounding local governments with a different theme each year as Studies of Contemporary Society E. This year, we will look at how the new coronavirus has affected the management of local governments. In many classes, we invite active Kunitachi City Civil Servants as guest speakers. While becoming cognizant of the various issues surrounding local communities through those public servants at the forefront of the community, we can also deepen our own understanding as members of that community. It will be a great learning opportunity for students who aim to become civil servants in the future and for students who want to learn about the impact of COVID-19 from a sociological approach. Although the following content is planned, the order and themes to be covered may change depending on the development of the class and the status of guest speaker invitations.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス(授業の概要)・国立市について
2. 新型コロナと地域防災
3. 新型コロナウイルスワクチン接種の自治体オペレーション
4. 新型コロナ禍における中小企業支援
5. 新型コロナと生活保護行政
6. 新型コロナと人権・ダイバーシティ
7. 新型コロナ禍でのまちづくり
8. 新型コロナウイルス自宅療養者支援
9. 新型コロナと子ども政策
10. 新型コロナと自治体法務
11. 新型コロナと学校教育
12. 新型コロナと生涯学習
13. 地方議会における新型コロナ対応
14. まとめとレポートについて

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

自分の居住する自治体に関するニュース、行政サービス、新型コロナウイルス対応などに関心を持つこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度およびリアクションペーパー(70%)／最終レポート(Final Report)(30%)

過去4か年度の例では、半数以上欠席すると単位取得は困難である。

テキスト(Textbooks)

適宜必要資料を配布する。

参考文献(Readings)

1. 国立市、2020、『国立新書創刊準備号 国立を知る』、国立市 (ISBN:ISBN978-4-9911442-0-2)
2. 大森彌・大杉覚、2019、『これからの地方自治の教科書』、第一法規 (ISBN:ISBN978-4-474-06950-3)
3. 曾我兼悟、2019、『日本の地方政府』、中公新書 (ISBN:ISBN978-4-12-102537-1)

必ずしも読む必要はないが、当該参考文献は地方自治体の業務を総括的に理解するのに役立つ。その他、適宜、各回の授業で講師が紹介することがある。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

PowerPoint を使用した講義形式中心で、映像資料や現物資料なども適宜使用する。ゲストスピーカーの意向により、グループワークやワークショップ形式で行うこともある。リアクションペーパーは「Canvas LMS」を通じて提出してもらう予定。また、提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックを次回授業時に行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK188／社会学古典文献講読 (Readings on Sociological Classics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を読む		
担当者名 (Instructor)	三原 武司(MIHARA TAKESHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

社会学の古典的な文献を精読し、討論することによって、社会学固有の発想、概念、研究法を習得するとともに、文献を読解する能力を養うことをめざします。

Through carefully reading and discussion of classic literature in sociology, the course aims to have students acquire ideas, concepts, and research methods unique to sociology, as well as cultivate students' ability to comprehend the literature.

授業の内容 (Course Contents)

マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の講読を中心とします。導入として大塚久雄『社会科学の方法』を扱い、後半には受講生と相談のうえで「近代とはなにか」をテーマに文献を選定し、講読を行います。毎回の授業は、受講生同士の輪読形式で進めます。

Reading is focused on Max Weber's The Protestant Ethic and the Spirit of Capitalism. The course will use Shakai kagaku no hoho (Methodology of the Social Science) by Hisao Otsuka at the outset. In the second half, it will select literature on the theme of "What is the modern age?" through consultation with students, and will conduct readings. Each class will be held in a format with the students reading in turn.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. ヴェーバーとマルクス
3. 大塚久雄『社会科学の方法』の輪読(1)
4. 大塚久雄『社会科学の方法』の輪読(2)
5. 大塚久雄『社会科学の方法』の輪読(3)
6. ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の輪読(1)
7. ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の輪読(2)
8. ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の輪読(3)
9. ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の輪読(4)
10. ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の輪読(5)
11. ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の輪読(6)
12. 受講生と選定した文献の輪読(1)
13. 受講生と選定した文献の輪読(2)
14. 受講生と選定した文献の輪読(3)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

受講生は毎回事前に、文献を読んできてください。報告者は、担当分に関するレジュメを作成してください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当分の報告(35%)／ディスカッションへの参加(35%)／最終レポート(Final Report)(30%)

テキスト (Textbooks)

1. マックス・ヴェーバー、1989、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、岩波書店 (ISBN:4003420934)
2. 大塚久雄、1966、『社会科学の方法』、岩波書店 (ISBN:4004110629)

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK190／災害の社会学 (Sociology of Disaster)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	テーマ: 社会過程としての「災害」を理解する		
担当者名 (Instructor)	小林 秀行(KOBAYASHI HIDEYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3540	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

- ① 自然災害は「自然条件と社会的要因の両方によってあらわれる現象」であることを理解する
- ② 災害過程の全体像を把握し、各局面における特徴を理解する
- ③ 災害復興は「正解を創りあげていく問いである」ことを理解する

● Aim of the course

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principle of “Sociology of Disaster (Recovery)”.

● Course Objectives

At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of “Sociology of Disaster (Recovery)”, describe and explain that disaster recovery is a process of creating an concept of “new normal”.

授業の内容 (Course Contents)

「災害」、という現象・出来事を皆さんはどこまでご存知でしょうか。近年、地球温暖化の影響によって、台風・豪雨・旱魃(かんばつ)といった災害が世界各地で激甚化しているという話を聞いたことがある、という方は多いかもしれません。しかし、こうしたことを取り上げる報道や、災害への注意を呼びかけあう SNS の動きなどは、その被害の大きさ、被害が発生するメカニズム、被害を受けた人々の苦しむ姿といった、表面的な事実に着目することが多いのが現状です。実際には、災害は被害の原因となった自然現象と、被害を拡大・縮小させた社会的要因の関係によって、まったく異なる出来事として発生するため、「1つ1つの事例が異なる特徴(顔)をもつ」ということが言われます。そのため、災害の正確な理解にあたっては、その事例が発生した背景要因、具体的には歴史的経緯や社会状況、災害前後における人々の暮らしの姿といったもので、広く、そして深く目を向けなければ、なかなか、災害という複雑な出来事を理解することはできません。本講義では、「災害」という現象がどのように展開していくかを時系列的に説明するなかで、災害を広く、そして深く見るとはどういうことか、それによって何が見えてくるのかを学生の皆さんと共有していきたいと思っています。その後、とくに「災害復興」という局面に着目して事例を紹介し、それらの知識が現実の災害ではどのように表れているのかを確認していく、という構成を取ります。なお、講義の進捗状況などにより、単元の内容は変更されることがあります。

● Course Content

This course will be divided in 14 chapters as follows:

- 01.Introduction
- 02.Facing Disaster I : What is “Disaster”?
- 03.Facing Disaster II : Advantages and Disadvantages of Facilities for Disaster Mitigation
- 04.Facing Disaster III : Information and Communication around Disaster
- 05.Facing Disaster IV : Evacuation and Sheltering in Disaster
- 06.Facing Disaster V : Dilemmas in Shelter
- 07.Facing Disaster VI : Temporary housing under Disaster
- 08.Facing Disaster VII : Alone in Disaster Recovery Public Housing
- 09.Facing Disaster VIII : A lite of Mourning in Disaster
- 10.Facing Disaster IX : Concepts of Disaster Recovery
- 11.Facing Disaster X : Remembrance of Disaster
- 12.Disaster Recovery in History : Lisbon Earthquake & Ansei-Edo Earthquake
- 13.Disaster Recovery in Modern I : Central Italy Earthquake & Canterbury Earthquake
- 14.Disaster Recovery in Modern II : Great East Japan Earthquake

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 災害と向き合う社会①: 災害とは何か(概論)
3. 災害と向き合う社会②: 施設整備からみる「減災」の発想と苦悩
4. 災害と向き合う社会③: 災害における情報とコミュニケーション
5. 災害と向き合う社会④: 災害からの避難をめぐる
6. 災害と向き合う社会⑤: 命をつなぐ避難所
7. 災害と向き合う社会⑥: 不安と落ち着きの応急仮設住宅
8. 災害と向き合う社会⑦: 災害公営住宅における孤独
9. 災害と向き合う社会⑧: 災害における「死」の取り扱い
10. 災害と向き合う社会⑨: 災害復興の考え方、その展開
11. 災害と向き合う社会⑩: 災害の記憶と継承
12. 災害復興の実例①: リスボン地震と安政江戸地震
13. 災害復興の実例②: カンタベリー地震・イタリア中部地震
14. 災害復興の実例③: 東日本大震災

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

【予習】ニュース(国内・国際)などを確認し、世界における自然災害の状況を確認しておくこと

【復習】講義中に疑問・関心が湧いた点について、図書館などで専門書籍にあたり、自分なりの回答をまとめておくこと。そのうえで、必要があれば担当講師に質問を行うこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

毎回の講義でリアクション・ペーパーを課し、4回以上の未提出は「不可」とします。

テキスト(Textbooks)

1. 小林秀行、2020、『初期大規模災害復興の実証的研究』、東信堂 (ISBN:978-4798916231)

購入は必須ではありませんが、講義の理解を深めるために重要な書籍となります。

参考文献 (Readings)

1. 船橋 晴俊ら(監)、2019、『防災と支援 -成熟した市民社会に向けて(被災地から未来を考える(2))』、有斐閣 (ISBN:978-4641174399)
2. 船橋 晴俊ら(監)、2019、『震災復興と展望 -持続可能な地域社会をめざして(被災地から未来を考える(3))』、有斐閣 (ISBN:978-4641174436)
3. 関谷直也、2021、『災害情報 東日本大震災からの教訓』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130561266)
4. 中村功、2021、『災害情報と避難—その理論と実際—』、晃洋書房 (ISBN: 978-4771035676)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

【講義形式】

講義は担当講師が用意するパワーポイント資料を利用して行います。

【資料等の配布／閲覧方法】

紙資源の節約のため、資料およびリアクションペーパーはすべて、授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard等)を通して実施します。

紙媒体での配布は行いませんので、必要な方は各自で用意をお願いいたします。

また、講義中は資料閲覧のためにPC・タブレットなどの使用を認めますので、自由にご利用ください。

スマートフォンでの閲覧のみ、講義資料を閲覧するには画面が小さすぎるという理由から避けることを推奨します。

【リアクションペーパー】

リアクション・ペーパーについては、講義に関して書きたいこと(感想や意見、疑問、質問、講義の改善点、これはちょっとおきたいというようなことなど、なんでも)を書いてください。上限は特にありませんので、いくら書いていただいても構いません。優れたものについては追加の加点対象としますが、通常の期末試験のみでS評価をとることは可能ですので、無理に行う必要はありません。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK191／現代社会研究F (Studies of Contemporary Society F)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	世界から見た日本の家族 Japanese Family in the Global Context		
担当者名 (Instructor)	李 雯雯 (LI WENWEN)		
学期 (Semester)	未定	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3413	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

家族社会学の基礎的な概念や理論枠組みを把握し、家族変遷を理解できる。学術な知識やエビデンスに基づいて、国際的な視点から日本家族について検討できるようになる。

Students who complete this course should be able to understand the basic concepts and theoretical framework of family sociology and be able to understand family transitions during the industrialization process and be able to examine the Japanese family from an international perspective based on academic knowledge and evidence.

授業の内容 (Course Contents)

本講義は、家族や家族内の人間関係を、近代以降に生じた大きな社会変動に即して概観する。そして、家族の具体像を国際比較の視点から論じる。家族生活に大きく影響を及ぼす働き方・福祉政策などを視野に入れ、欧米や東アジアの国々を取りあげて比較し、よりダイナミックな家族像・家族観を提示する。

本講義は日英併用形式で、講義中の使用言語が日本語、資料や提出物は英語を使う。

This lecture will provide an overview of family structure and relationships in the context of the wide-ranging social changes that have occurred since industrialization. It will also discuss specific family patterns from a cross-national comparative perspective. The lecture takes a comparative view of the family from Western and East Asian countries, taking into account working styles and welfare policies that significantly affect family life, in order to present a dynamic vision of family behaviors and family norms.

This course will be conducted in both Japanese and English, with the language used during the lecture being Japanese and the materials and assignments being in English.

授業計画 (Course Schedule)

- オリエンテーション: 授業の到達目標、進め方、成績評価など授業に関する説明
Orientation and subject introduction including assessment explanation
- いわゆる近代家族(1): 雇用労働化、標準家族、性別役割分業
The so-called modern family(1): wage labor, the standard family, the gender division of labor
- いわゆる近代家族(2): 「子供」の誕生、主婦の誕生、家族の情緒的側面
The so-called modern family(2): the creation of children and housewife, the sentimental side of family
- OECD データから見える日本家族(1): 婚姻・交際状態、世帯規模の推移
The Japanese Family Seen through OECD Data(1): changes in marital and partnership status, household size
- OECD データから見える日本家族(2): 同棲率・婚外子出生率の推移
The Japanese Family Seen through OECD Data(2): cohabitation and out-of-wedlock birth rates
- OECD データから見える日本家族(3): 子供や家族のための公的支援
The Japanese Family Seen through OECD Data(3): public policies for families and children
- 第二次人口転換論(1): 少子化、近代家族の衰退、個人化
The second demographic transition(1): low birth rate, decline of the modern family, individualization
- 第二次人口転換論(2): 日本とほかの OECD 諸国との異同
The second demographic transition(2): comparisons between Japan and other OECD Countries
- 日中比較から見える日本家族(1): 理想な結婚相手とは
The Japanese Family Seen through a Japan-China Comparison(1): what makes an ideal marriage partner
- 日中比較から見える日本家族(2): 三歳児神話 Vs. 小学生神話
The Japanese Family Seen through a Japan-China Comparison(2): the myth of the three-year-old Vs. the myth of the schoolchild
- 日中比較から見える日本家族(3): 祖父母からの育児支援
The Japanese Family Seen through a Japan-China Comparison(3): childcare support from grandparents
- グループ発表(1)
Group presentations(1)
- グループ発表(2)

Group presentations(2)

14. まとめ

Subject Wrap-up, evaluation, and feedback

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内容を振り返り、理解を深めること。積極的にデータや資料を収集し、グループ発表に取り組むこと。

Review the content after each class to enhance understanding. Actively collect data and materials to complete group presentations.

成績評価方法・基準(Evaluation)

確認問題 Online student reflections(40%)/グループ発表 Student presentations(30%)/最終レポート Final report(30%)

テキスト(Textbooks)

適宜配布する

参考文献(Readings)

1. 岩間暁子・大和礼子・田間泰子編、2022、『問いからはじめる家族社会学〔改訂版〕: 多様化する家族の包摂に向けて』、有斐閣 (ISBN:978-4641150935)
2. 落合恵美子、2019、『21世紀家族へ: 家族の戦後体制の見かた・超えかた』〔第4版〕、有斐閣選書 (ISBN:978-4641281462)
3. 筒井淳也、2016、『結婚と家族のこれから: 共働き社会の限界』、光文社 (ISBN:978-4334039271)
4. Junya Tsutsui. 2019. *Work and Family in Japanese Society*. Springer (ISBN:9811324956)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／ダイバーシティとキャリア (Diversity and Career)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	この授業では多様なゲストスピーカーの話を参考に、不確実性の高い時代の中で、あなたの未来を自分自身で考え、デザインする方法を考えていきます。		
担当者名 (Instructor)	土屋 美乃(TSUCHIYA YOSHINO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3460	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(150名)		

授業の目標(Course Objectives)

自分の働き方・生き方を含めた、「自分らしいキャリア」を考えるうえで「ダイバーシティ」という視点も非常に重要なファクターとなります。現代社会の中で自分らしくいきいきと生きること・働くことを実現するために、ダイバーシティとキャリアをめぐる講義・ワークショップ・ゲストスピーカーによる情報提供等を通し、選択肢や実情を知ったうえで、主体的にキャリアデザインをする知識・意欲・方法を身につけます。

The perspective of "diversity" is also a very important factor in considering a personally suitable career, including personal way of working and way of living. In order to achieve living and working in personally suited ways within contemporary society, students will obtain the knowledge, motivation, and methods to engage in independent career design, after learning of options and facts through information provided by lectures, workshops, and guest speakers on topics of diversity and careers.

授業の内容(Course Contents)

今あなたはどんな生き方・働き方をしたいと展望しているでしょうか。

「ダイバーシティ(Diversity)」とは、直訳すれば「多様性」で、性別、人種、国籍、宗教、年齢、学歴、職歴など多様さを活かし企業の競争力に繋げる経営上の取組のことを指すこともあります。この授業は「ダイバーシティとキャリア」をテーマとして、不確実性の高い時代の中で、あなたの未来を自分自身で考え、デザインする方法を考えていきます。

人生100年時代と言われるようになり、一つの会社、一つのスキルだけで一生が終わることのほうが珍しい時代になりました。これが正解という生き方が無くなり、より多様な価値観が共存し情報もあふれている中で、自分自身が何者なのか、自分自身はどう生きたいのかを考える一つの切り口として「ダイバーシティとキャリア」について深めていきます。

授業は、「ダイバーシティとキャリア」について現実を知る講義と、「やりたいことができる」ように変えようとしているゲストスピーカーの話を聞き、彼らとのディスカッションで構成されます。「様々なダイバーシティ」の考え方、男女のパートナーシップの新しいあり方、先進的企業の取り組み、多様な働き方などのテーマをめぐって、生き方・働き方についての視野を広げていきます。

What sort of way of living and way of working do you foresee now?

Diversity refers to management initiatives that leverage diversity of gender, race, nationality, religion, age, educational background, career background, etc. and connect these to a company's competitiveness. Under the theme "Diversity and Careers," students in this class will consider how to design their futures on their own and will consider methods for designing careers in this era of high uncertainty.

We are said to be in an era of 100-year lifespans, and it is now rare for people to spend their lives using only one skill in one company. Students will deepen their knowledge of "Diversity and Careers" as one approach to thinking about who they themselves are and how they wish to live, amid the disappearance of singular "correct" ways of living and the coexistence of more diverse values and abundant information.

The course is composed lectures for learning about "Diversity and Careers," and listening to guest speakers seeking to effect changes so that people can do what they want to do, followed by discussion. The course will broaden perspectives on ways of living and ways of working, covering themes such as the concept of "various diversities," new approaches to gender partnerships, initiatives by advanced companies, and diverse ways of working.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション——キャリアビジョンの描き方、「私」の過去・現在・未来
「キャリア」とはなにかというイントロダクションのあと、自分がどんな「生き方」「働き方」をしたいか、授業開始前の「私」がどのようなビジョンをもっているかを自分の過去から現在までを振り返る。この授業が自分のこれからの生き方・働き方を考える場であることを共有する。
2. 女性を取り巻くワークとライフの実態——「就業」「結婚」「出産」をめぐるデータから
現代社会で女性が「働く」ことの実態はどのようなものか。ライフステージごとに、様々なライフイベントがある中で、就業における選択肢を知ると同時に、結婚・出産などのライフイベントにまつわる選択・意思決定も自らの意思でしていくために、今から知っておきたいことを学ぶ。
3. パートナーシップとキャリア——男女の新しい役割分担、生き方と働き方
新しいパートナーシップの形、変化する男女の家庭内での関係、生活のパートナーである男女の役割、家事・育児のあり方

などについて、ゲスト(「主夫」「イクメン」「イクボス」などの在り方・意識をもつ)のレクチャーを聴いたうえで、ディスカッションする。

4. ワークライフ・バランスから、ワークライフ・インテグレーションへ——仕事と生活の捉え方
従来のワークライフ・バランスという「仕事」と「生活」を別物として捉える対立概念から、仕事も生活も統合した人生全体の「キャリア」をどう描くかを、ゲストの体験談を聞き、ディスカッションを通し考える。
5. 先進的企業の取り組み——企業の取り組みから考える
女性がいきいきと働いている企業の取り組みについて、ゲストのレクチャーを聴いたうえで、ディスカッションする。
6. ワークショップ(2)——わたしの自分らしさとは
ここまでの授業のまとめ・ワークショップ
7. 多様な働き方——会社に入らない生き方から考える
NPO、起業家、フリーランスなど、会社に入らない働き方をしているゲストのレクチャーを聴いたうえで、ディスカッションする。
8. 卒業生によるパネル・ディスカッション——生きる×働く×学ぶ
さまざまな年代、業種、生き方の学部卒業生を招いて、パネル・ディスカッションを行い、直接の先輩の働き方・生き方を知るとともに、大学での学び、社会学部での学びがキャリアにどのように活かされているか、大学時代なにをすればいいかについて学ぶ。
9. インナーダイバーシティの考え方
自分自信の中でも、様々な役割がある。仕事での役割、家庭での夫・妻・親・子供などの役割、地域社会の中での役割など、自分自身の中でも様々な自分自身がいることがある。どう自分自身のアイデンティティを形成するかを深める。
10. グローバルダイバーシティの考え方
人口減少の著しい日本において、海外の人財との協業は必須である。海外の方々とは異なる価値観、同じ価値観などを知り、日本人としてのアイデンティティを知る。
11. ジェンダーダイバーシティの考え方
仕事や家庭において、性差による違いのカタチも緩やかになってきている中で、自分自身のジェンダーと向き合い、自分らしさを見つめる切り口とする
12. 卒業生によるパネル・ディスカッション——生きる×働く×学ぶ
さまざまな年代、業種、生き方の学部卒業生を招いて、パネル・ディスカッションを行い、直接の先輩の働き方・生き方を知るとともに、大学での学び、社会学部での学びがキャリアにどのように活かされているか、大学時代なにをすればいいかについて学ぶ。
13. ワークショップ(3)——「私の未来」をどうつくるか
自分はどのような「生き方」「働き方」をしたいか、「自分の未来」をどのようなものとしてつくっていききたいか。これまでの授業を踏まえて、「私」の未来の生き方・働き方をシートに記し、これからの具体的なアクションプランをつかって、グループでディスカッションする。
14. 最終ワークショップ——授業のまとめとアクションプラン
授業の最終回にレポート提出を通し、自分自身の考えをまとめる。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回ごとにゲストスピーカーについて予習をし、質問・ディスカッションの準備をすること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/授業レポート(30%)/リアクションペーパー(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

全回オンラインで実施。ゲストスピーカーの都合により、講義の順番は入れ替わる可能性あり。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK196／Sociological Studies A		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Science, Technology and Society		
担当者名 (Instructor)	チュウ, T(CHIU TASING)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3411	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

The course aims to familiarize students with the major questions and theories that have been debated by Science, Technology and Society (STS) scholars and learn how the field has changed over time. By the end of this course students should be able to:

1. demonstrate knowledge of key ideas, arguments and readings in STS
2. critically analyze key ideas, arguments and readings in STS

授業の内容 (Course Contents)

This course identifies and questions common assumptions about what science and technology are and how they work. Each week we will explore and discuss difficult questions that have inspired and challenged STS scholars for many years. Questions addressed include: How do we define science? How are scientific facts constructed? Does science exist in the “singular” or should we speak of “sciences”? What do gender, race, class and power have to do with science? Can non-humans have agency? How are values embedded in technical systems? Can specific technologies promote democratic or authoritarian politics? What would a liberatory technology look like? Focusing on these questions, this course will help us understand the interaction between science, technology and society, and reimagine our relationship with scientific knowledge and modern technology.

Required readings will be made available beforehand via email and we will meet synchronously twice a week. You must come to every meeting having completed the readings and having spent time thinking about the material prior to class. Regular attendance is required. The lesser your attendance, the lower your grade will be.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: What is STS?
 - Science and technology studies – Wikipedia (https://en.wikipedia.org/wiki/Science_and_technology_studies)
 - Website of the Society for Social Studies of Science (4S) (<http://4sonline.org/>).
2. The Kuhnian Revolution
 - Sismondo (2010), pp.12–18.
3. Strong Programme and Sociology of Scientific Knowledge (SSK)
 - Sismondo (2010), pp.47–50.
4. The Social Construction of Scientific and Technical Realities
 - Sismondo (2010), pp.57–60.
5. Feminist Epistemologies of Science
 - Sismondo (2010), pp.72–77.
6. Actor–Network Theory
 - Sismondo (2010), pp.81–87.
7. Technological Determinism vs. Social Constructions of Technology
 - Sismondo (2010), pp.96–103.
8. Studying Laboratories
 - Sismondo (2010), pp.106–112.
9. Technological Controversies
 - Sismondo (2010), pp.128–130.
10. The Public Understanding of Science
 - Sismondo (2010), pp.168–174.
11. Expertise and Public Participation
 - Sismondo (2010), pp.180–186.
12. STS and Global Development
 - Sismondo (2010), pp.195–199.

13. STS in the East Asian Context
 - Browse website of East Asian Science, Technology and Society: An International Journal (<https://www.tandfonline.com/journals/teas20>)
14. Class presentation and discussions
 - Choosing a Topic / Purdue Writing Lab (https://owl.purdue.edu/owl/general_writing/common_writing_assignments/research_papers/choosing_a_topic.html)
 - In-Text Citations: The Basics / Purdue Writing Lab (https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/apa_style/apa_formatting_and_style_guide/in_text_citations_the_basics.html)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Prepare a 300–500 word synopsis of the week’s reading, identifying arguments, methods, common themes, oppositions, and any other issues worthy of further consideration.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Discussion participation(33%)/Weekly reading synopses(33%)/Final paper and presentation(34%)

Final Paper Submit a 7–9 pages long discussion of work on a specific topic. Drafts due TBD; final revisions due TBD.

テキスト (Textbooks)

1. Sismondo, S.. 2010. *An introduction to science and technology studies*. Wiley–Blackwell (ISBN:978–1405187657)

参考文献 (Readings)

Complementary Readings

- 1 Kuhn, Thomas. (1962). The nature and necessity of scientific revolutions. In *The Structure of Scientific Revolutions*. Chicago: University of Chicago Press. pp. 92–110.
- 2 Bloor, David. (1976). The strong programme in the sociology of knowledge. In *Knowledge and Social Imagery*, 2nd ed. Chicago: University of Chicago Press, 1991. pp. 3–23.
- 3 Latour, Bruno. (1983). Give me a laboratory and I will raise the world. In *Science Observed: Perspectives on the Social Study of Science*, ed. K.D. Knorr–Cetina and M. Mulkay. London: Sage. pp.141–170. Actor–Network Theory and Non–Human Agency
- 4 Winner, Langdon. (1986). Do artifacts have politics? In *The Whale and the Reactor: A Search for Limits in an Age of High Technology*. Chicago: University of Chicago Press. pp. 19–39.
- 5 Subramaniam, B., Foster, L., Harding, S., Roy, D., & TallBear, K. (2016). Feminism, Postcolonialism, Technoscience. In *The Handbook of Science and Technology Studies*. Cambridge: MIT Press. pp. 407–433.
- 6 Rajagopalan, R. M., Nelson, A., & Fujimura, J. H. (2016). In *Race and Science in the Twenty–First Century*. The Handbook of Science and Technology Studies. Cambridge: MIT Press. pp. 349–378.
- 7 Hong, S. (2008). The Hwang scandal that “shook the world of science”. *East Asian Science, Technology and Society: An International Journal*, 2(1), 1–7.
- 8 Fan, F. T. (2018). Can animals predict earthquakes?: Bio–sentinels as seismic sensors in communist China and beyond. *Studies in History and Philosophy of Science Part A*, 70, 58–69.

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK197 / Sociological Studies B		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Comparative International Sociology		
担当者名 (Instructor)	レザエブ, A(REZAEV ANDREY)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3411	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

The Comparative International Sociology course is designed for Rikkyo University Sociology students (both domestic and international). It is an interdisciplinary and problem-oriented course.

The overall objective of the course is to stimulate students to consider “social life” and “society” as subjects for theoretical and empirical inquiry in comparative international perspectives.

The primary goal of this course is to introduce students to the richness of comparative sociology. The second goal of the course is to further students’ preparation for a professional career or further studying in universities through the development of comparative research skills and peer discussion skills.

授業の内容 (Course Contents)

The comparative international lenses developed in this course serve to caution sociology students against the tendency to generalize data and information produced today by mass media and non-professional publications on the Internet.

The course is oriented towards understanding what comparative sociology as an inquiry is and as a teaching discipline. It is designed for students who are trying to understand links between theory, methodology, and inquiry. Also, the course will introduce students to major controversies among various methodological orientations in contemporary social sciences; a series of cases that present contrasting views and interpretations of basic methodological problems will be scrutinized.

This course will include lectures, discussions, and students’ presentations. Other requirements:

- ■ Regular attendance and informed participation in the discussions
- ■ Two position papers (PP), no more than 3–4 pages double-spaced (Subject to the discussion in class).
- ■ In-class final presentation (based on the material of the position papers)

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction. Objective and goals. Readings
policies and requirements. Invitation to Comparative International Sociology.
Comparative Perspectives in Sociology and Other Social Sciences (Anthropology, Political Science, Law)
2. Sociology as a science and teaching disciplines developed in Britain, Canada, France, Germany, Japan, Sweden, and the USA: Comparative outlooks...
3. Comparative analysis of international sociological congresses’ agendas (ISA, IIS World Congresses, ASA Annual Meetings)
4. The Systematic Bases of Comparative Sociology. Past and Current Modes of Comparative Sociology. Institutionalization of Comparative Sociology in the world. Comparative Sociology in Japan: Professor Masamichi Sasaki. Former Editor in Chief of Comparative Sociology journal (Brill), Professor Munesuke Mita. (Professor Emeritus of Tokyo University). Professor Keiko Funabashi (Shizuoka University)
5. Emile Durkheim about sociology and comparative sociology, his strategies for comparative sociological research.
6. Classical Comparative – Historical Sociology. Max Weber, Karl Marx, Alexis de Toqueville
7. Comparative Analysis of the Approaches to Comparative Sociology in Classical Sociological Texts. Summary of the previous topics.
8. McDonaldization of Society & Social Change in Comparative Perspective
9. Sociological Exploration of Institutions. Economics and Politics. Economic Sociology and Political Sociology.
10. Everyday Life Sociology. Visual Sociology.
Sociology in Metaverse Reality
11. Comparative International Sociology in the Age of Artificial Intelligence Advancement and Online Culture

12. Artificial Sociality and Human-Machine Interaction in Everyday Life of Societies: Comparative Accounts
13. Collegial Discussion of Position Papers
14. Comparative international sociology today and tomorrow. Wrap up of the course.

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

No formal prerequisites. The class is open to all students...

成績評価方法・基準(Evaluation)

Attendance and Participation(30%)/Position Papers(40%)/Final Presentation(30%)

テキスト(Textbooks)

■List of required readings

2021: Robert E. Park, Ernest W. Burgess, Introduction to the Science of Sociology, University of Chicago Press, pp. 1-6, 43-57

2014: Masamichi Sasaki, Jack Goldstone, Ekkart Zimmermann and Stephen Sanderson (Eds.), Concise Encyclopedia of Comparative Sociology Brill: Leiden, 2014 (pp. to be determined in class)

2016: Rezaev, A. Review of the Concise Encyclopedia of Comparative Sociology, Masamichi Sasaki, Jack Goldstone, Ekkart Zimmermann and Stephen Sanderson (Eds.), Brill: Leiden, 2014 in International Sociology Reviews, SAGE, March, pp. 1-6

2009: Masamichi Sasaki (Ed.) New Frontiers in Comparative Sociology. Brill, 2009, pp. 13-45 ("Strategies in Comparative Sociology")

参考文献(Readings)

■List of additional reading

The International Journal of Comparative Sociology, SAGE, 2020-2022

2022: Rezaev A. et al. "From Uncertainty to Trust: COVID-19 Pandemic Responses of South Korea and Sweden", In Changing Societies & Personalities, 2022 Vol. 6, No. 1, pp. 79-97; <https://doi.org/10.15826/csp.2022.6.1.164>

2015. Rezaev A., et al. "Comparative Sociology as an Inquiry and as a Teaching Discipline: An Attempt of Comparative Analysis" // Comparative Sociology, Brill, Vol. 15. Issue 2.

■List of other sources of information

Internet sources

Sociosite: www.sociosite.net

Science Information Gateway (SOCIG): www.sosig.ac.uk;

Social Science Hub: www.sshub.com

Liens Socio: <http://www.liens-socio.org/>

Socioland: www.socioland.de;

http://www.stat.washington.edu/raftery/Research/Soc/soc_software.html;

www.databases.unesco.org/dare/form.shtml;

Elibrary.ru, JSTORE (www.jstor.org), ProQuest (www.proquestdirect.com), EBSCO (www.ebsco.com).

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK198 / Sociological Studies C		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Climate change, the environment and Society: Sociology of the environment		
担当者名 (Instructor)	パチエコ, V(PACHECO C. VLADIMIR)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3411	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

The course aims to familiarise students with the most important concepts surrounding the interactions between climate change and society. Students will also analyse the environmental and social impacts of resource extraction and human induced pollution and how these are entangled with issues such as social inequality and economic growth. By the end of the course, students would have acquired broad knowledge about the field of environmental sociology including challenges that societies face when confronted with climatic change as well as some of innovative responses to such change.

授業の内容 (Course Contents)

The first part of the course examines the main concepts related to climate change. We will analyse debates and evaluate scientific evidence supporting the climate change thesis. In the second part of the course, students will look at issues related to non-renewable resource extraction to supply energy and/or materials for economic growth including coal, oil, gas and gold. We will examine how extraction impacts not only the environment but communities surrounding extraction sites and how countries become dependent on this form of economic activity. In the final part of the course students will become familiar with social responses to climate change from a range of sources: governments, non-government organisations and the private sector. This section will also include some of the theoretical proposals aimed at understanding climate change mitigation and adaptation.

授業計画 (Course Schedule)

1. Is climate change real?
2. The anthropocene.
3. The carbon cycle and human activity
4. Social and environmental impacts of fossil fuel extraction (Oil and gas)
5. Social and environmental impacts of fossil fuel extraction (Coal)
6. Gold extraction and its impacts on water resources.
7. Radioactive and other forms of pollution
8. Social inequality and environmental impacts
9. From Kyoto to Paris: climate change governance and social change
10. Between social mitigation and adaptation
11. Social debates on living with climate change.
12. Will technology save us?
13. Is Green Growth possible?
14. Can other forms of knowledge provide solutions to climate change?

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

Preview Video clips

Prepare for weekly short essays

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Weekly Attendance and Participation(10%)/Weekly quizzes(40%)/Draft Pecha Kucha Presentation(10%)/Final Project Paper(40%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK199／Sociological Studies D		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Sociology in Latin America. From Independence to the present day		
担当者名 (Instructor)	バイソツテイ パブロ(BAISOTTI PABLO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3411	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

The main argument of the proposed course is to analyse Latin American societies and their collective phenomena, interactions and processes of change taking into account the historical, political, economic and cultural context in which they are embedded. These processes will be seen from a sociological point of view.

授業の内容 (Course Contents)

The course will be divided into three parts:

- 1 Latin American Politics and Sociology
- 2 Economics and Latin American Sociology
- 3 Latin American Society and Sociology

In the first part of the course we will study Latin American Politics and Sociology, from political phenomena from the birth of the state and its evolution, civil society and citizenship, social movements and social power in historical mode to compare the systems of government and economic organization to understand the political climate of societies. The second part of the course will study Latin American economics and sociology from the perspective of economics influenced by culture, social organisations and networks, collective actions and political and social groupings that justify their collective action: economic, social, political, religious, ecological, charitable, etc. The third part of the course will study Latin American Society and Sociology from the sociology of communication, knowledge, education, culture and religion.

授業計画 (Course Schedule)

1. Politics and Sociology. Historical developments up to the 19th century
2. The Latin American civil society and citizenship.
3. Social movement and social power.
4. The first political parties and social-political organisations, 19th and 20th centuries.
5. Comparison between political systems.
6. Economy and Sociology. Economy and culture.
7. Networks and social-economic organizations.
8. Collective actions, and political-economic aggrupation in Argentina, Brazil, and Chile.
9. Collective actions, and political-economic aggrupation in Uruguay, Colombia, Venezuela, Bolivia, and Paraguay
10. Society and Sociology. Sociology of communication.
11. Society of Knowledge 1900-2022.
12. Evolution of Education. The creation of the knowledge and culture society.
13. Sociology of religion. Beliefs and sociology.
14. Evolution of Latin America Society. Rural and urban demography.

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

No study required outside of class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Attendance and Participation(30%)/Final Project Paper(70%)
Final Project Paper (3000-4000 words)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK201／現代史 (Contemporary History Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	13 のテーマから考えるアメリカ現代史		
担当者名 (Instructor)	宗像 俊輔(MUNAKATA SHUNSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

- (1) アメリカ史(特に現代史)の基本的な知識を習得する。
- (2) 現代アメリカで争点となっている社会問題と、その歴史的背景への関心を高める。

- (1) Students will acquire a basic knowledge of modern American history.
- (2) Students will learn social issues in America and understand their historical backgrounds.

授業の内容 (Course Contents)

現代世界が抱える問題には、どのような背景があるのか。その問題を改善・解決するために、人びとはどのように考え行動したのか。本講義では過去に生きた人びとの営為に触れ、現代に生きる我々への問いかけを、アメリカ現代史から考えていきます。本講義は 13 のテーマから、現代のアメリカで起こっていること、その歴史的背景を体系的に学びつつ、よりよい社会の実現に向けた人びとの模索にも注目していきます。アメリカ史、現代史、社会問題(国内外問わず)に関心のある皆さんの受講をお待ちしています。

What is the background to the problems facing the contemporary world? How do people think and act to improve and solve them? In this "modern American history" lecture, we will close in on people's activities in the past and contemplate their historical meaning. This lecture provides thirteen themes that help you understand what is happening in the U.S. today and its historical background. We also focus on people's search for the realization of a better society. The lecturer looks forward to seeing everyone who is interested in American history, contemporary history, and domestic and international issues.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス・アメリカ史の概要
2. 「移民国家アメリカ」の新潮流 ―移民／難民の管理をめぐる論争―
3. アメリカの「理念」と現実との葛藤 ―共和主義と民主主義のせめぎあい―
4. 世界からの孤立か、世界への関与か ―アメリカ外交方針の揺れ動き―
5. 実験国家の文化 ―理想と現実の溝をいかに埋めるか―
6. ブラック・ライヴズ・マター運動への道程 ―公民権運動が取りこぼした課題との対峙―
7. 「移民国家アメリカ」のつくられ方 ―何を前提とし、何を排除したのか―
8. アメリカの植民地主義 ―人種・ジェンダーからどう論じられるか―
9. なぜ「選挙」そのものが政治問題になるのか ―アメリカ民主主義を考える―
10. アメリカにとって「消費」はいかなる意味を持つのか ―特にマイノリティのかかわり方―
11. アメリカのメディア文化とマイノリティ ―多様性への問いかけ―
12. 差別と闘う黒人女性の運動 ―ブラック・フェミニズムとインターセクショナリティを手掛かりに―
13. アメリカにおける宗教の位置づけ ―「宗教の自由」をめぐる論争―
14. 鉄道、自動車、航空からみるアメリカ ―交通による社会・文化の生成―

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ①テキストおよび関連資料のコピーを事前に配布します。こちらを必ず読んでから、講義に参加してください。
- ②時間があれば、講義中に紹介した関連文献や映像資料にも目を通していただくこともお勧めします。
- ③受講中は、アメリカ発の報道に触れるようにしましょう。CNN, NPR, Politico, Vox などの報道記事、映像資料は無料で入手できますので、翻訳サービスを利用しながら読んでおくと、講義の理解が深まります。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/授業での発言、積極的参加度、出席(20%)/各回のレポート(感想、質問など)(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 藤永康政・松原宏之(編著)、2022、『「いま」を考えるアメリカ史』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623094448)

テキストは事前にコピーして配布しますので、購入の必要はありません。これに加えて、テーマごとに関連資料を渡します。

参考文献 (Readings)

参考文献については講義中に紹介します。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

教員への連絡は、授業内で案内した方法をお願いします。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK202／政治学A(政治学理論) (Political Science A (Theories))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	デモクラシーに未来はあるのか？		
担当者名 (Instructor)	面 一也(OMOTE KAZUYA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

1. F・ニーチェ、C・シュミット、H・アーレントの政治理論をそれぞれ体系的に学習する。
2. デモクラシーをめぐる上記の三人による議論を理解する。
3. デモクラシーの未来について理論的に考察する力を身につける。

1. Students will systematically learn the each political theory by Friedrich Nietzsche, Carl Schmitt and Hannah Arendt.
2. Students will understand the discourses on democracy by these thinkers.
3. Students will cultivate the ability to consider theoretically the future of democracy.

授業の内容 (Course Contents)

近年、デモクラシーの危機が唱えられている。実際に、議事堂襲撃(アメリカ、ブラジル)や国家転覆計画(ドイツ)を企てた、反デモクラシー的な政治勢力が、世界各地で台頭している。日本においても、投票率の低下や国会審議の形骸化など、デモクラシーの機能不全が長く続いている。はたして、デモクラシーに未来はあるのか？

これらの問題を捉えるには、出来事をただ表面的に追いかけるのではなく、理論的なアプローチが不可欠である。この授業では、デモクラシーを考える上で重要な複数の政治理論をそれぞれ体系的に学びながら、デモクラシーはそもそも望ましい政治体制なのかどうか、それが問題や限界を抱えているなら、より望ましい政治体制はどのようなものなのか、といった問いについて考察していく。

In recent years, there have been calls for a crisis of democracy. In fact, anti-democratic political forces have emerged in many parts of the world, plotting to storm the Capitol (in the U.S. and Brazil) and to overthrow the state (in Germany). Also in Japan, democracy has been dysfunctional for a long time, as evidenced by the declining voter turnout and the disorganization of parliamentary deliberations. Does democracy really have a future?

In order to grasp these issues, it is essential to take a theoretical approach rather than merely following events superficially. In this course, we will systematically study several political theories that are important for thinking about democracy, and consider questions such as whether democracy is a desirable political system in the first place, and if it has problems and limitations, what kind of political system would be more desirable.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. フリードリヒ・ニーチェ1 文体の技法、キリスト教道徳への批判
3. ニーチェ2 近代デモクラシーへの批判
4. ニーチェ3 末人と超人、大いなる正午、永遠回帰
5. ニーチェ4 大いなる政治
6. カール・シュミット1 政治的なものの概念 ―友と敵の区別―
7. シュミット2 リベラル・デモクラシーへの批判
8. シュミット3 近代社会への批判
9. シュミット4 独裁と両立する“真のデモクラシー”
10. シュミット5 ナチズムへの関与
11. ハンナ・アーレント1 活動、自由、公的空間
12. アーレント2 全体主義への批判
13. アーレント3 人間の条件:近代の価値転倒
14. アーレント4 公的空間の再興 ―それが不可能なら―

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

とくに予習を課す予定はない。ただし、復習は次回授業の重要な土台になるため、予習の意味を兼ねて、次回授業までに復習を済ませること。復習の際には、ノートや資料を見返しながら、授業の全体的な流れをまず把握して、総論から各論の確認へ向かうとよい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/リアクション・ペーパー(30%)

テキスト(Textbooks)

授業時に配布する引用資料を主に用いる。

参考文献(Readings)

1. 藤原保信、飯島昇藏、1995、『西洋政治思想史Ⅱ』、新評論 (ISBN:4794802714)
2. 杉田敦、川崎修、2014、『西洋政治思想資料集』、法政大学出版局 (ISBN:4588625276)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK203／政治学B(現代政治) (Political Science B (Contemporary Politics))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代社会における政府と国民の関係を検討する 日本の政治の仕組みを理解する		
担当者名 (Instructor)	川橋 郁子(KAWAHASHI IKUKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業では、政治学の基本的な概念や理論について学びます。講義に加え、グループワークを実施し、現実の諸問題を分析、討論します。それによって、概念や理論を深く理解し、応用する力を習得していきます。

After taking this course, you will be able to:

- Understand the basic concepts and theories of political science,
- Use their specialized knowledge as foundation to analyze current political issues and formulate opinions about them.

授業の内容 (Course Contents)

テレビや新聞、ネットが伝える政治は、多種多様な個人や団体が交錯する複雑な事象に見えます。これに対し、本授業は、政治学の紹介を通じて、政治プロセスを捉えるシンプルな分析枠組みを提供します。それによって、現実の諸問題を分析し、独自の意見を形成する力を磨いていきます。

授業前半では、政府と国民の関係に焦点をおき、社会の多様な利害を表出・集約し、政策を出力する過程を説明します。私たちの生活に関わる様々な政策が、どのように決定され、維持されているか、その解明が前半の中心的テーマです。

授業後半は、政府を構成する政治家や官僚など個別の主体に焦点をおき、主体間のパワーバランスとそれを制約する制度の働きを説明します。「強い首相」の登場と制度改革の関係が後半の中心的テーマとなります。

Politics as reported by TV, newspapers, and the Internet is a complex process involving a wide variety of individuals and groups.

This class provides a simple analytical framework for understanding the political process through an introduction to political science. By doing so, the class will foster the ability to analyze various real-life issues and formulate one's own opinions.

In the first half of the class, we will focus on the process of aggregating the various interests of society and making policy outputs. The central theme is the clarification of how various policies are determined and maintained.

In the second half of the course, we will focus on individual actors such as politicians and bureaucrats who make up the government and explain the function of institutions that constrain the power balance among the actors. The emergence of a "strong prime minister" and institutional reform will be the central theme.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 市場の失敗
3. 政府の役割と政府の失敗
4. 【事例紹介】再分配政策のジレンマ(映像作品視聴)
5. 利益団体・団体政治①: 利益団体とは
6. 利益団体・団体政治②: 政治過程の概説
7. 選挙・選挙制度①: 選挙制度の説明
8. 選挙・選挙制度②: 選挙における制度の影響
9. 中間テストとその解説
10. 議会: 立法過程と議会の機能
11. 官僚: 官僚のタイプ
12. 政官関係: 与党と官僚の関係
13. 内閣制度: 首相のリーダーシップ
14. 中央地方関係

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業前に、レジュメや資料を読み込んでおくこと。

授業内容に関連するテキストを紹介するので、それらを参考にして、授業の理解を深めること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(41%)/授業内課題(小テスト)(30%)/中間テスト(29%)
授業内課題の詳細は、各授業で説明する。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 北山・久米・真淵、2009、『はじめて出会う政治学 構造改革の向こうに』、有斐閣 (ISBN:4641123683)
 2. 砂原・稗田・多湖、2015、『政治学の第一歩』、有斐閣 (ISBN:4641150257)
 3. 久米・古城・真淵・川出・田中、2011、『ニュー・リベラル・アーツ・セレクション 政治学』、有斐閣 (ISBN:4641053774)
- 基本的には、授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)を使って、資料配布を行う予定。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

小テストやアンケートを、web 上で行う予定です。
スマホでもできますが、タブレットやノート PC の持参を推奨します。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK204／現代経済 (Contemporary Economics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ニュースから経済を読み解く		
担当者名 (Instructor)	軽部 謙介(KARUBE KENSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済現象や経済政策についてニュース報道という材料を使って概要を理解する。

Through the medium of news reports, students will gain a general understanding of economic phenomena and economic policies.

授業の内容 (Course Contents)

われわれが日常的に接するメディア報道から題材をとり、経済とは何なのかを具体的に考えていく。

The course will take material from the media coverage that we encounter daily to concretely consider the nature of the economy.

授業計画 (Course Schedule)

1. 概論
この授業の対象範囲や授業の進め方について説明します。
2. 日本経済は今どこにいるのか
戦後日本経済の歴史を概説的に振り返り、今日本経済がどのようになっているのかを歴史的に考えます。
3. 金利とは何なのか
日銀が続ける「異次元緩和政策」の影響などを材料に、ニュース報道をもとに金融政策について考えます。
4. 財政とは何なのか
国家財政に関して、赤字とか黒字とはどういう意味をもつのかなどについて、具体的な事案にそって検討します。
5. 金融とは何なのか
経済の血液といわれる金融機能について、この四半世紀の出来事も踏まえながら考察していきます。
6. 通商摩擦とは何か
戦後日米経済の大きな課題だった通商摩擦に関して、具体的な事例やその報道に即してフォローしてみます。
7. 世界経済はどう動いているのか その1
アメリカ、中国、欧州、中東などから入ってくるニュースを題材にとり、その地域の経済がどのようになっているのかを観察します。
8. 同上 その2
9. 世界経済の秩序とは何なのか
グローバル化の進んだ現在の世界経済はどうやってマネージメントしていけばいいのか、ブレトンウッズ体制以降の歴史を考えます。
10. 同上 その2
11. 日本経済の問題とは何なのか
今の日本にとって経済政策とはどう位置づけられるのか。何をどう解決しようとしているのかなどについて、解説的な論考を材料に考えてみます。
12. 経済政策議論
リフレ対反リフレ、分配か成長か、規制か自由化か、など経済思想を反映した政策論議がどのような意味を有しているのかを検討します。
13. 貧困と格差
なぜ貧困は減らず、非正規は増えるのか。具体的なニュースを使って考えてみましょう。
14. 経済報道
経済現象や経済政策を伝える報道の現状と課題について考察します。

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間に指示する形で、一定の予習・復習をしてもらいます。また毎回授業終了後にレポートを提出してもらいます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/授業内の課題提出(40%)

テキスト(Textbooks)

特に指定しません。

参考文献(Readings)

授業中に指示するが、新聞(朝日や日経など)の経済面は毎日必ず目を通すこと。授業中に「今日の紙面にはどのようなニュースが掲載されていたのか」について質問することがある。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK205／国際関係論 (International Relations)		
担当者名 (Instructor)	倉本 由紀子(KURAMOTO YUKIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

グローバル化と反グローバル化が衝突する国際環境に目を向け、国家や個人、そしてグローバル市民社会の役割を意識し、今日の地球規模の諸問題について考察し分析することを目標とします。地球社会で活躍するために必要な「社会学的想像力」を、日本の国際関係を客観的に検証することで養いましょう。

This course aims to equip students with active learning tools to:

- 1) Evaluate and discuss critically the role of global actors in shaping international political outcomes.
- 2) Analyze current global problems and also to devise solutions as a global citizen

授業の内容 (Course Contents)

「グローバリゼーションとは、何か」について改めて検証し、国際関係論の基礎概念と現代国際政治の変動や転換を学び、日本国内の社会問題解決にも、グローバルな視野が不可欠であることを再確認します。海外に一歩出れば、一個人は草の根レベルの外交官でもあることにも気づき、地球社会の諸問題について自ら考え行動するための基礎力の習得も目指します。身近な出来事にも「グローバル」な視野でクリティカル・シンキングを働かせ、問題意識を持つ練習を授業中に実施します。

This course assists that students will learn about the international system, global actors, and issues that shape the priorities and behavior of states and other actors in that system. The course will also examine the future role of Japan and Japan's diplomacy in the globalized world. The relationships with the United States and other countries are also analyzed to help understand Japan's foreign policy making and objectives.

授業計画 (Course Schedule)

1. 国際関係論はどのような学問なのか
2. 20世紀の国際関係をどう理解するのか
3. 今日の国際関係をどう読むのか
4. グローバリゼーションの時代をどう読むのか
5. 現代の安全保障をどう読むのか
6. 北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか
7. 国際社会における日本の位置づけをどう読むのか
8. 世界観と国際関係理論の構築
9. 国際レジーム論とグローバルガバナンス論とはなにか
10. リージョナリズムと欧州統合の現状と課題
11. 南北問題をどう解決するのか
12. 地球環境問題をどう解決するのか
13. 国際紛争・国内紛争をどう解決するのか
14. 総括・まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの章立てに沿って授業を進めるので、該当箇所を読んで授業に臨んで下さい。
また、授業時間外でも、国際問題に興味を持ち、国内外から発信される信頼可能な情報を積極的に入手するようにしましょう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/授業参加度・リアクション・ペーパーなど(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 佐渡友哲・信夫隆司編、2021、『国際関係論』、弘文堂 (ISBN:9784335002335)

参考文献 (Readings)

1. 小川浩之・板橋巧巳・青野利彦、2018、『国際政治史』、有斐閣 (ISBN:9784641150522)
2. Joseph S. Nye and David A. Welch. 2010. *Understanding Global Conflict and Cooperation: An Introduction to Theory and*

History. Longman (ISBN:9780205778744)

3. 中西寛 石田淳 田所昌幸、2013、『国際政治学』、有斐閣 (ISBN:9784641053786)

4. 井上寿一、2014、『日本外交史講義 新版』、岩波テキストボックス (ISBN:9784000289115)

5. 大屋根聡(編著)、2021、『戦後日本外交からみる国際関係』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623090112)

6. 青井千由紀、2022、『戦略的コミュニケーションと国際政治』、日本経済新聞出版 (ISBN:9784296115228)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK206／社会心理学 (Social Psychology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会的認知、情報の伝播、対人関係の心理学		
担当者名 (Instructor)	山下 玲子(YAMASHITA REIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

社会心理学の研究領域のうち、社会的認知領域(人が他者、社会現象、社会集団をどのように認知し、それに基づき判断するのか)を中心に学習する。また、社会集団の中に伝わる情報の伝播について、インターネット上でのうわさやデマ、TwitterでのRT、フェイクニュースやSNS上での炎上などにも言及し、そのメカニズムとオンライン世界とオフライン世界での相違点についても学習する。さらに、対人関係について、親密な対人関係の構築と維持・崩壊までのプロセスを中心に学ぶ。

Among the research areas of social psychology, this course focuses on the social cognition domain (how people perceive other people, social phenomena, and social groups, and make judgments based on these perceptions). In addition, the course will also focus on the transmission of information within social groups, including rumors and false rumors on the Internet, RTs on Twitter, fake news, and flames on SNS, and the differences between the online and offline worlds in terms of their mechanisms. In addition, the course will focus on interpersonal relationships, focusing on the process of building and maintaining or disintegrating intimate interpersonal relationships.

授業の内容 (Course Contents)

この授業では、対人認知、社会的推論、うわさを含む現実世界とインターネット上での情報拡散、親密な対人関係(特に恋愛関係を中心)についての社会心理学的知見を学習する。授業では、実際の研究方法を体験しつつ、そのメカニズムを学習する。さらに、それらの実生活での応用方法を模索する。

In this class, students will study social psychological findings on interpersonal cognition, social reasoning, information diffusion in the real world and on the Internet including rumors, and intimate interpersonal relationships, especially romantic relationships. In the class, students will learn the mechanisms of these topics while experiencing actual research methods. Furthermore, we will explore how to apply them in real life.

授業計画 (Course Schedule)

1. 社会心理学の研究視点、研究方法、研究倫理
2. 対人認知 1: 印象形成の古典的理論および重視される手掛かり
3. 対人認知 2: 対人記憶、記憶の精緻化、厭世的記憶、印象形成の歪み(期待効果・アクセシビリティ・プライミング)
4. 対人認知 3: ステレオタイプと印象形成、印象形成における2過程モデル
5. 対人認知 4: 対人認知の個人差、歪みの解決法(そもそも歪みとは?)
6. 社会的推論 1: 原因帰属とその心理学理論、自発的特性推論
7. 社会的推論 2: 原因帰属と責任帰属、公正世界仮説、推論のエラーとバイアス、ヒューリスティックス
8. 社会的推論 3: 推論の誤りがもたらすもの、推論の歪みは修正可能?
9. 情報伝播の社会心理学 1: 情報としてのうわさを研究するとは? ~人、内容、状況、うわさの公式
10. 情報伝播の社会心理学 2: うわさの伝播のメカニズム、うわさ研究の難しさ、商業伝説
11. 情報伝播の社会心理学 3: 企業をめぐるうわさの管理と対処法、ロコミの力、インターネット時代の生き残るうわさやデマ
12. 情報伝播の社会心理学 4: Twitter上での大量リツイート現象(バズ)、ネット時代のチェーンメール、フェイクニュースへの対処法
13. 人と付き合う 1: 対人魅力とは、対人魅力を高める要因、親密な関係の維持と崩壊
14. 人と付き合う 2: 親密な対人関係の諸相、恋愛の類型、全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業の前日までに、レジュメを授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard等)にアップします。

そちらを事前に一読し、プリントアウト、またはタブレット等で持参のうえ、授業に臨んでください。

学期途中に課される中間レポートに備え、各授業回終了後、授業内容をまとめるようにしてください。

(試験は持ち込み可を予定していますが、電子データの持ち込みができないため、レジュメは予習または復習の段階、いずれかでプリントアウトすることを推奨します。)

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/授業内のコメント、アンケート回答(20%)/ミニレポート(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 池上知子・遠藤由美、2008、『グラフィック社会心理学(第2版)』、サイエンス社 (ISBN:978-4-7819-1191-5)

参考文献(Readings)

1. 市川 伸一、1996、『認知心理学 4 思考』、東京大学出版会 (ISBN:978-4-13-015104-7)
 2. 川上 善郎、1997、『うわさが走る』、サイエンス社 (ISBN:978-4-7819-0840-3)
 3. 山田 一成・北村 英哉・結城 雅樹、2007、『よくわかる社会心理学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4-623048120)
 4. 北村英哉・内田由紀子、2016、『社会心理学概論』、ナカニシヤ出版 (ISBN:978-4-7795-1059-5)
 5. 池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子、2010、『社会心理学』、有斐閣 (ISBN:978-464-1053755)
- その他、随時、授業内で紹介。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

授業内で、Google フォームによるアンケート課題に回答することがあるため、モバイル通信端末(スマートフォン、カメラ機能付きのタブレット等)を持参してください。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK207／文化人類学 (Cultural Anthropology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代を読み解く人類学		
担当者名 (Instructor)	吉村 竜(YOSHIMURA RYU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

(文化)人類学の基本概念を踏まえ、近年の人類学的研究の新たな展開を理解する。

To understand the recent trends of cultural anthropology.

授業の内容 (Course Contents)

「未開」の研究から始まった(文化)人類学は、近年大きな変容を迎えている。今日の世界には、「未開」と呼ばれるような社会は(かつて存在していたのだとすれば)すでに消滅し、移民現象や観光現象などのグローバル化にともなって、世界の隅々はいやがおうにもかかわりあうようになった。また、人権やマイノリティ問題、環境問題、疫病にともなう人間関係の変化など、私たちが対峙すべき社会問題も、国や社会、文化的な違いを考慮しなければ対応できなくなっている。私たちの世界に生じた新たな社会現象に人類学はどのように対応し、克服しようとしているのか。本講義では、新たな課題に対峙する人類学の動向を議論する。

Cultural anthropology started by studying, so to speak, the primitive society. However, the discipline has undergone a major transformation in recent years. The primitive society, though it is doubtful if it had existed once, has already disappeared. On the other hand, every corner of the world has become involved with globalization such as immigration phenomena or tourism. With the globalization phenomena, social issues such as human rights, minority issues, environmental issues, and epidemics, cannot be dealt with without considering national, social, and cultural differences. How does anthropology respond to and overcome these new social phenomena in our world? In this lecture, we will discuss trends in anthropology that confront and struggle to solve the new challenges.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文化人類学の方法——フィールドワークと民族誌
3. 生業——狩猟採集・農耕・牧畜
4. 経済——贈与・互酬性
5. 家族と親族
6. グローバリゼーションと移民(1)——国境・アイデンティティ
7. グローバリゼーションと移民(2)——「人種」とエスニシティ
8. 開発現象の人類学
9. 観光の人類学
10. 医療の人類学
11. 宗教の人類学
12. 音楽の人類学
13. フィールドから学ぶ——民族誌的研究
14. 授業の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業中に紹介する文献にできるだけ目を通すこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 中間レポート(30%) / 授業への参加 / リアクションペーパーの内容(30%)

テキスト (Textbooks)

教科書は特に用いない。

参考文献 (Readings)

1. 前川啓治ほか、2018、『21世紀の文化人類学』、新曜社 (ISBN:978-4788515826)
2. 桑山敬己ほか、2018、『詳論 文化人類学:基本と最新のトピックを深く学ぶ』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623082711)

その他参考文献は、授業中に適宜指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK208／社会言語学 (Sociolinguistics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会のなかのことば		
担当者名 (Instructor)	黒嶋 智美(KUROSHIMA SATOMI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

私たちの社会的生活の多くはことばを介さずには成り立ちません。本講義では、そのような人間の社会性の根幹をなす言語が日常的な文脈でどのように使われ、どのような社会学的意味をもたらしているのかについて探求する社会言語学の知見を概観し、様々なアプローチ、視点から社会における言語使用について学ぶことを目的とします。

The objective of this course is to gain knowledge about the language use in real life which is explored in the field of sociolinguistics and to further develop a broad perspective on the role of language in our social life and implications of it.

授業の内容 (Course Contents)

学期の前半では、言語使用にかかわる様々な社会的要因(属性、文脈、地理的、物理的環境等)について、社会言語学の理論を講義を中心に学びます。後半では、言語を用いて社会的実践がどのように行われているのかを実際の事例を検討しながら、議論します。授業は講義形式で行いますが、毎回関連するトピックについてペアワークやグループディスカッションも行いますので積極的に参加して下さい。

The first half of the lecture will focus on the language use by different social factors (i.e., attribution, context, geographical and physical environments) through the findings and theories developed in the sociolinguistic studies. In the latter half of the class, we will have the opportunity to analyze the data of language use. Although each class is implemented in a lecture style, active learning through pair work and group discussion is also encouraged and conducted in each lesson.

授業計画 (Course Schedule)

1. コース概要, 社会言語学とは, 社会言語学の歴史
2. 言語と地域: 言語変種・地域変種・言語政策
3. 言語と社会階層
4. 言語と民族
5. 言語とジェンダー
6. 言語と年齢
7. レビューテスト 1
8. 言語の選択, 異文化コミュニケーション
9. 会話の含意, ポライテネス
10. 言語と思考と文化
11. 会話のしくみ: 発話順番交替組織, 行為連鎖
12. 会話のしくみ: 優先組織
13. 言語とアイデンティティ, 成員カテゴリー化装置
14. レビューテスト2, まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回の予習・復習課題については講義内で通知する

成績評価方法・基準 (Evaluation)

学期末レポート(40%)/授業参加度(60%)

授業参加度のうち 15%は 2 回のレビューテストの結果を含む

テキスト (Textbooks)

1. 岩田祐子, 重光由加, 村田泰美, 2022、『改訂版 社会言語学』、ひつじ書房 (ISBN:9784823411434)

参考文献 (Readings)

1. 串田秀也, 平本毅, 林誠, 2017、『会話分析入門』、勁草書房 (ISBN:978-4326602964)

参考文献については適宜授業内で配布、通知します。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

Canvas LMS で課題の配布, 回収を行います.

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK209／科学技術論 (Sociology of Science and Technology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	コミック・アニメ等を手がかりに科学技術社会を考える		
担当者名 (Instructor)	福井 智紀(FUKUI TOMONORI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

科学技術について幅広い観点から理解するとともに、これからの科学技術のあり方や、社会および自分自身との関わり方について、自分なりの考えを持つ。

Students will gain understanding of science, technology and society (STS) from a broad perspective, and form their own ideas concerning the future of science and technology, and the relationship between these and society and the self.

授業の内容 (Course Contents)

科学技術論の基礎的事項について幅広く講義する。まず、科学技術とは何かを考えるため、科学・技術・科学技術の歴史と現状について、その要点を解説する。次に、日本の科学技術政策の概要について解説したうえで、近年の新しい動向について、海外の事例も含めて紹介する。さらに、科学技術社会における教育のあり方を考察し、実際の科学教育プログラムを紹介する。

The lecture will broadly cover fundamental matters in theories of science, technology and society (STS). First, in order to consider what science and technology are, the course will explain key points in the history and current state of science and technology. Next, after overviewing Japan's science and technology policy, the course will introduce new trends in recent years, incorporating cases from overseas. The course will further consider models for education in a science and technology society, and will introduce actual science education programs.

授業計画 (Course Schedule)

1. 科学技術のイメージ(1): コミック・アニメ・映画のなかの科学技術
2. 科学技術のイメージ(2): 空想から現実へ: 宇宙開発とロボット開発を例に
3. 科学とは何か: その定義/科学の各分野の特徴/CUDOSとPLACE
4. 科学のあゆみ(1): 科学の源流/科学の継承と発展/科学革命
5. 科学のあゆみ(2): 近代科学の成立/「科学」の完成と「科学者」の登場
6. 技術とは何か: その定義/技術の誕生と発展/産業革命と技術革新
7. 科学技術の誕生: 科学と技術の接近/科学と技術の融合/科学技術の発展
8. 科学技術と戦争: 伝統技術と戦争/世界大戦と科学技術/軍事科学技術/未来の戦争
9. 科学技術のリスクと安全・安心: 科学技術の光と影/リスクの特徴と種類/安全と安心
10. 科学技術と倫理: 科学者・技術者に求められる倫理/科学技術の利用における倫理問題
11. 科学技術政策: 科学技術政策の概要/科学技術・イノベーション基本法/科学技術・イノベーション基本計画/科学技術・イノベーション白書
12. 科学技術と社会: 科学技術ガバナンス/市民参加型手法/科学技術コミュニケーション
13. 科学技術と教育: 高度科学技術社会に必要な能力/STS教育/STS教材
14. まとめ: 各回のまとめ/持続可能な社会のための科学技術とは

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・科学技術に関わるニュース・新聞記事等に日頃から関心を持ち、気になるものを保管(スクラップ・録画・メモ等)する。
- ・SF(サイエンス・フィクション)分野の小説・コミック・アニメ・映画作品等を鑑賞し、現代および未来の科学技術利用のあり方について考察する。
- ・講義内に紹介された参考文献を読み、内容や感想をまとめる。
- ・指定された図書から1冊を選び、読書レポートを作成する。
- ・最終レポートに関して、あらかじめ予告された課題については、その回答を事前に準備する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席テスト(最終回を除く毎回)(40%)/読書レポート(20%)/最終レポート(最終回に作成)(40%)
2/3以上出席していない場合には成績評価の対象としない(正当な理由がある場合は個別に考慮する)。受講希望者は、正当な理由がある場合を除き、初回から出席すること。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 鶴岡義彦 編、2019、『科学的リテラシーを育成する理科教育の創造』、大学教育出版 (ISBN:978-4866920436)
 2. 福井智紀・佐藤真久 編、2017、『大都市圏の環境教育・ESD』、筑波書房 (ISBN:978-4811905211)
 3. 阿部治・二ノ宮リムさち 編、2021、『知る・わかる・伝える SDGs II』、学文社 (ISBN:978-4762031090)
 4. 中島秀人、2008、『社会の中の科学』、放送大学教育振興会 (ISBN:978-4595308130)
 5. 村上陽一郎、1999、『科学・技術と社会』、光村教育図書 (ISBN:978-4895725088)
- 上記の他、講義内容に関する参考文献(書籍・コミック・アニメ・映像作品等)を毎回紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

科学技術をテーマとしてはいるが、理系分野の専門知識は特に必要としないので、安心して受講いただきたい。
パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料や現物資料なども適宜活用する。
最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。
担当者のウェブサイト <http://fukuilab.sakura.ne.jp/>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK210／数理科学 (Mathematical Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	数学の言葉で世界を見る		
担当者名 (Instructor)	津留 竜馬(TSURU RYOUMA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業の目標は、数学とはどのようなものであり、これが現実世界とどのように関わっているのか、という点についてたしかな理解をもってもらうことである。

The objective of this class is to instill a sure understanding of what mathematics is, and how mathematics relates to the real world.

授業の内容 (Course Contents)

この授業では教科書として、大栗博司著『数学の言葉で世界を見たら』(幻冬舎)という本を使います。ただし、教科書を購入していただく必要はありません。毎回授業では、この教科書の内容を講義形式で説明していきます。数学的事項が出てくるので、そこらもあわせて解説します。成績は毎回授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、それをもとに評価します。

As a textbook, the class will use the book Suugaku no kotoba de sekai wo mitara (Gentosha) by Hiroshi Oguri. In each class, I will explain the content of this textbook. Mathematical issues will be explained as they come up. You will be asked to write a reaction paper in each class. Grades will be assessed through the reaction paper.

授業計画 (Course Schedule)

1. 第1話: 不確実な情報から判断する。
2. 第2話: 基本原理に立ち戻ってみる。
3. 第3話: 大きな数だって怖くない。
4. 第1話から第3話のまとめ。
5. 第4話: 素数はふしぎ。(前半)
6. 第4話: 素数はふしぎ。(後半)
7. 第5話: 無限世界と不完全性定理
8. 第6話: 宇宙のかたちを測る。
9. 第4話から第6話のまとめ。
10. 第7話: 微積は積分から。
11. 第8話: 本当にあった「空想の数」。
12. 第9話: 「難しさ」「美しさ」を測る。(前半)
13. 第9話: 「難しさ」「美しさ」を測る。(後半)
14. 第7話から第9話のまとめ。

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

授業の内容をノートにとって、毎回復習をしておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

毎回の授業でリアクションペーパーを書いてもらう。(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 大栗博司、『数学の言葉で世界を見たら』、幻冬舎

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK212／国際政治 (International Politics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「7つの紛争」歴史と現実		
担当者名 (Instructor)	広瀬 公巳(HIROSE HIROMI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

戦争と紛争を生み出す国際政治の歴史と現実を学ぶ。担当教員がNHKの記者として直接現地で体験した7つの国際紛争の意味と背景について、宗教、国連、民族、非対称、核兵器、超大国、専制国家という角度から深掘りしていく。ウクライナで今も続く戦争の悲劇はなぜ起き、どうして止めることができないのか。冷戦の崩壊による力の空白が地域紛争の場でテロや核の脅威を生みだした国際政治の複雑な構造を上記の項目ごとに整理。戦況や被害状況だけでなく、戦争・紛争当事国と関係国の動きなどについての日々のニュースの意味を理解し、国際政治の背景を自分の言葉で話し語れるようにする。取り上げる7つの紛争の地域は前年度の「国際政治と紛争」(DK211)と重なりますが、「現場と理論」に重きを置いたのに対し、この授業では「歴史と現実」の角度から直近の課題を考察していきます。

In this class, you will learn the history and reality of international politics that give rise to wars and conflicts. As an NHK reporter, I will explain the meaning and background of seven international conflicts that I personally experienced in the field from the angles of religion, the United Nations, ethnic groups, asymmetry, nuclear weapons, superpowers, and despotic states. Why did the ongoing tragedy of war in Ukraine occur and why can't we stop it? The complex structure of international politics, where the power vacuum caused by the collapse of the Cold War has created the threat of terrorism and nuclear weapons in the arena of regional conflict, is organized by the above topics. Participants should understand the meaning of the daily news about not only the war situation and the damage situation, but also the movements of the countries involved in the war/conflict and related countries, and describe the background of international politics in your own words. The seven conflict areas covered in this term are the same areas as last year's "International Politics and Conflicts" (DK211). In contrast to the emphasis placed on "field and theory," this class will examine the most recent issues from the angle of "history and reality."

授業の内容(Course Contents)

現在のウクライナ情勢を理解し解決策を見出すためには、紛争や戦争がなぜ起きるのかについて歴史や教訓を学ぶ必要があります。ボスニア紛争、カンボジア紛争、スリランカ民族紛争、アフガニスタン紛争、イラク戦争、朝鮮半島、インド・パキスタンでの現場の経験を交え、それぞれの基礎知識を確認します。内外の新聞記事や動画ニュース、ドキュメンタリーの視聴を通じて最新の国際情勢を把握した上でその意味を解説、互いに議論しながら、理解の定着を図ります。全回リモートの授業ですが、小問やクイズで理解度を確認しながら、チャットや挙手などのリモートの機能を活用して講義内容と同時進行の形で活発に授業に参加していただきます。

To understand the current situation in Ukraine and find solutions, we need to learn history and lessons about why conflicts and wars occur. We will check the basic knowledge of each field, including the experiences of the Bosnian conflict, the Cambodian conflict, the Sri Lankan conflict, the Afghanistan conflict, the Iraq war, the Korean Peninsula, and India and Pakistan. After gaining an understanding of the latest international affairs through watching domestic and foreign newspaper articles, video news, and documentaries, we will explain the meaning of the situation and discuss it with each other in an effort to solidify our understanding. All classes are remote classes, but while checking your understanding with small questions and quizzes, you will actively participate in the class in parallel with the lecture content by using remote functions such as chat and raising hands.

授業計画(Course Schedule)

1. 【宗教】世界の火薬庫といわれた地域のボスニア紛争を起点に、各地の紛争が第一次世界大戦などの大きな戦争へと拡大する過程を学びます。
2. (キーワード) バランス・オブ・パワー、ウェストファリア、第一次世界大戦、プロバガンダ
3. 【国連】日本が自衛隊を派遣したカンボジア紛争を起点に、国連の平和維持の機能と限界について、ウクライナの例も交えながら学びます。
4. (キーワード) 集団安全保障の挫折、第二次世界大戦、国連平和維持軍、平和構築
5. 【民族】タミル人とシンハラ人が対立したスリランカ内戦を起点に、民族の違いがなぜ紛争を拡大継続させる要因となっているのかを考えます。
6. (キーワード) 冷戦、地域紛争、テロ、非対称戦、ディアスポラ、洗脳メディア
7. 【非対称】2001年の同時多発テロを起点に、テロ攻撃という非対称戦が生まれた経緯とアフガニスタン空爆が現在の国際政治に残した負の遺産について学びます。

8. (キーワード) 冷戦後の紛争と協調、一次情報、非国家主体
9. 【超大国】イラク戦争を起点に、超大国アメリカの外交や軍事戦略について、戦争遂行のレトリックやメディアとの関係などを学びます。
10. (キーワード) 引火点、従軍取材、安全管理、多国籍軍
11. 【専制国家】核の威嚇を続ける北朝鮮の問題を起点に、専制国家の特質と国家における指導者の役割、瀬戸際外交についてロシアの例も交えて学びます。
12. (キーワード) 民主主義、主体思想、世襲、リーク、PR
13. 【核兵器】インドとパキスタンの対立を起点に、核保有国の拡大が国際政治に及ぼす影響をアメリカ、ロシア、中国の情勢も交えて学ぶ。
14. (キーワード) 核抑止、核管理、NPT、先制不使用、核兵器国

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

グーグル・クラスルームで課題などの連絡をします。必要な資料は適宜、指示します。
日々のニュースを各種メディア等でウォッチし、今を生きる自分ごととしての学びを心がけてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/リアクションペーパー(30%)/授業への参加(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. ジョセフ・ナイ他、2017、『国際紛争』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-14917-5)
2. 橋本晃、2006、『国際紛争のメディア学』、青弓社 (ISBN:978-4-7872-3257-1)
3. 広瀬佳一他編、2021、『よくわかる国際政治』、ミネルヴァ (ISBN:978-4-623-09269-7)
4. 日本平和学会、2018、『平和をめぐる14の論点』、法律文化社 (ISBN:978-4-589-03954-5)
5. 広瀬公巳、2002、『自爆攻撃』、日本放送出版協会 (ISBN:978-4-14-080744-6)

その他(HP等)(Others(e.g HP))

教員紹介

https://researchmap.jp/hirose_hiromi

近畿大学国際学部教授

<https://www.kindai.ac.jp/international-studies/research-and-education/teachers/introduce/hirose-hiromi-a90.html>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK213／社会認識と哲学 (Social Epistemology and Philosophy)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	哲学入門——「認識」・「存在」・「言語」をめぐる哲学の諸問題		
担当者名 (Instructor)	小平 健太(KODAIRA KENTA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

哲学をめぐる問題とそれに対する思考法をさまざまな哲学者・思想家から学び、哲学史の基礎を知るとともに、最終的にみずから哲学的に考える力を身に付けることを目指す。授業を通じて知識・理論をただ学ぶだけではなく、同時にそれを実践する術を身に付けることによって、各個人が興味をもつさまざまな文化的事象に自ら問いを立て解決するための基礎体力を養う。

The course aims to study problems involving philosophy and ways of thinking about these from a variety of philosophers and thinkers, as well as to learn about the basics of philosophical history and finally instill the ability to think philosophically on one's own. By not only acquiring knowledge and theory through classes but also instilling techniques for practicing these, the course will cultivate the basic capability in individuals to pose and solve questions in response to cultural events of personal interest.

授業の内容 (Course Contents)

本講義は哲学・思想を扱います。哲学という学問の固有性は、さまざまな文化的事象を考える、その「考え方」そのものを真正面から取り扱うことにあります。そこに、哲学の重要な特徴があると言えるでしょう。私たちにとって「善く生きる」「良い人生」とは、どういうことでしょうか。様々な価値観が存在するなかで、物事の「真理」や「本質」とは、どこにあるのでしょうか。何かを「美しい」と感じるの、なぜでしょうか。多様なメディアが溢れかえる現代社会において、私たちの「感性」は一体何を捉えているのでしょうか。「他者」を理解するとは、どういうことでしょうか。私たちがまさにいま関わっている「学問」とは、そもそもどういう営みでしょうか——こうした問題を前に、私たちもこれまでの哲学者・研究者たちの言語に耳を傾けながら、多くの文化的事象についてさまざまな角度から哲学的に考察していきます。

こうした観点のもと本講義は、哲学が私たちの生きる社会においてそれぞれ機能する瞬間にともに立ち会うことで、哲学的思考がもつ意義の射程について検討します。また、その過程で限られた範囲ではあるものの、哲学史についての基礎的な知識を習得し、実際に私たちが出くわす社会的状況に照らし合わせることで応用的思考を試みます。各人が今を生きる上で抱える疑問や問題意識を具体的に思考し実践する場として、主体的に授業に取り組むことを期待します。

This lecture will take up philosophy and thought. The uniqueness of the academic discipline of philosophy is that, in considering diverse cultural events, it directly addresses the matter of "how to think" itself. This can be considered an important characteristic of philosophy. What does it mean for us to "live well"? What are the "truth" and the "essence" of things? Why do we feel that something is "beautiful"? What does it mean to understand others? What sort of endeavor is "scholarship" in the first place? Tackling such questions, we will listen to the words of past philosophers and researchers, and philosophically consider numerous cultural events from a variety of angles.

Based on such perspectives, this lecture will examine the range of the significance of philosophical thinking by together witnessing the moments when philosophy demonstrates its functions in our society. Despite the limits of its scope, the course will also attempt to instill fundamental knowledge about the history of philosophy, and engage in applied thinking through comparisons with the social situations that we actually encounter. Students will be expected to engage independently in the class as a place for concretely thinking about and practicing an awareness of issues and questions that people hold in living.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション 【認識論・存在論・言語論】
——授業の狙いと進め方・これまで「哲学」は何を問題としてきたのか——
2. 論理的な「正しさ」と実践的な「正しさ」
——「善く」生きるとはどういうことか——
3. 自分を知るとはどういうことか
——「存在」への問いと思考(1)——
4. 他者を知るとはどういうことか
——「存在」への問いと思考法(2)——
5. 「真理」とは何であるか
——人文科学と自然科学における真理観——
6. 学問の「方法論」について(人文科学・社会科学・自然科学)
——テキスト読解の理論と実践——

7. 「美しい」とはどういうことか
——近代美学の理論と思考——
8. 「エモい」とはどういうことか
——現代社会における「感性」の働きの諸相——
9. 「メディア」とはなんであるか
——感性的表現の功罪——
10. 私たちの「認識」の仕組みについて
——「主観」と「客観」の問題——
11. 「趣味」とは何であるか／「流行」とは何であるか
——「個人」と「社会」の視点から考える ——
12. 「言語」は何のためにあるのか
——他者理解とコミュニケーションの理論——
13. 「言語」と「行為」の関係について
——私たちの〈発話行為〉〈話し言葉〉と〈書記行為〉〈書き言葉〉——
14. 総括
——哲学の諸問題「認識」・「存在」・「言語」——

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業中に各主題に即した参考文献を適宜挙げるので、その都度該当箇所を読んでおくこと。
毎回の授業においてスライド・板書した内容を復習し、次の授業に備えること。

またこの他の授業時間外の学習に関する具体的な指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

リアクションペーパー(30%)／授業内に提示した提出物(30%)／最終レポート(40%)
授業のはじめにリアクションペーパーを配布し、終了後に回収します。内容に応じて評価の対象とします。

テキスト (Textbooks)

その都度、資料とレジュメを配布します。
授業の内容に直接関連する一次文献は、その都度授業中に指示します。

参考文献 (Readings)

1. 村井則夫、2016、『人文学の可能性——言語・歴史・形象』、知泉書館 (ISBN:9784862852328)
 2. 小平健太、2020、『ハンス・ゲオルグ＝ガダマーの芸術哲学——哲学的解釈学における言語性の問題』、晃洋書房 (ISBN:9784588150647)
 3. 塚本正明、1995、『現代の解釈学的哲学——ディルタイおよびそれ以後の新展開』、世界思想社 (ISBN:9784790705765)
 4. 岩城見一、1997、『感性論——認識機械論としての「美学」の今日的課題』、晃洋書房 (ISBN:978-4771009196)
 5. 前田良三、2013、『可視性をめぐる闘争——戦間期ドイツの美的文化批判とメディア』、三元社 (ISBN:9784883033447)
 6. 津上英輔、2010、『あじわいの構造——感性化時代の美学』、春秋社 (ISBN:9784393333044)
 7. 永井玲衣、2021、『水中の哲学者たち』、晶文社 (ISBN:9784794972743)
- その他の文献については、その都度授業中に指示します。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

本講義は配布資料、スライドを参照しつつ、適宜板書も行います。各自、必要に応じてノート等を用意してください(授業への PC の持ち込みと使用は可)。
講義の目的は、必ずしもひとつの答え、またその答えの客観性を得ることではありません。各講義のはじめに、前回提出してもらったリアクションペーパーの中からいくつかご紹介します。毎回テーマとなっている事象を自由に捉え、また他の学生がどのように考えているのか、事象を捉えるさまざまな視野そのものを身に付けるよう、意識して講義に参加してください。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK214／情報社会と倫理 (Information Society and Ethics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	メディアを通して社会を理解すること 自ら責任ある表現者になり、社会に参加すること		
担当者名 (Instructor)	田北 康成(TAKITA YASUNARI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

メディア技術の開発やコミュニケーションの高度化によって私たちの社会生活は豊かになり、インターネットやスマホの利用で、人のつながりが、広範囲に、密接になったかのように感じられると思いますが、果たしてそうでしょうか。また、メディアの情報が「偏っていて信じられない」と感じるのはなぜでしょうか。

私たちは社会を知る手がかりとしてさまざまなメディアを利用しますが、そのメディアで起きている社会現象は、決して新しいことばかりではありません。道具としてメディアも日々新しいものが出現していますが、その原理をたどると、すでに語り尽くされ、古くさく感じるマス・メディア論/マス・コミュニケーション論にゆきつくものもあります。

私たちは情報を入手するときに、そうしたメディア特性を理解しないままに接してしまい、社会にたいする誤った認識を得てしまうことがあります。それらの特性を理解した上で、利用していく能力を身につけることで自ら表現者になり、積極的な情報発信によって社会に参加できる能力を蓄えることを目指していきます。

Our social lives are enriched by the development of media technology and the advance of communications, and connections among people seem to have become both wider and closer through use of the Internet and smartphones. But is this truly the case? In addition, why do people feel that information in the media is “biased and unbelievable”?

We use various media as clues for learning about society, but the social phenomena occurring in the media are not all new. New media are also emerging day by day as tools. Tracing their principles, however, one finds things that are already talked-out, and one arrives seemingly-outdated mass media theory / mass communication theory.

When we obtain information, we may come up against it without an understanding of the characteristics of the media, and gain false perceptions of society. By understanding those characteristics and acquiring the capability to make use of them, the course aims to have students themselves become “persons who express,” and build up the ability to participate in society through active dissemination of information.

授業の内容 (Course Contents)

全体的には、社会を知るための道具としてのメディアの特性を理解し、社会に関心を持っていただくことを主眼に置きますが、前半ではとくに情報の伝わりにくさやコミュニケーションの困難さを理解していただきます。それらをふまえて後半では、社会を知るための情報入手で気をつけなければならないことなどを理解した上で、自ら情報発信をするための手がかりをつかんでいただきます。授業では問題提起を中心にしていきますので、自らの好奇心と問題意識で、授業後に発展的な学習を進めていくことを求めます。

Overall, the course will have students understand the characteristics of media as tools for learning about society. While its main purpose will be getting students to take an interest in society, the first half in particular will have students learn about the difficulties in transmitting information and communicating. Based on these, in the second half of the course, students will understand the need for care in obtaining information for learning about society, etc., and will find their own clues for disseminating information themselves. As classes will focus on raising issues, the course will ask students to advance their developmental learning after class through their own curiosity and awareness of issues.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
講義概要、評価方法の説明
2. 道具としてのメディア特性をしる
3. コミュニケーションの困難さと情報のバイアス①
4. コミュニケーションの困難さと情報のバイアス②
5. コミュニケーションの困難さと情報のバイアス③
6. コミュニケーションの困難さと情報のバイアス④
7. コミュニケーションの困難さと情報のバイアス⑤
8. うわさ、流言、デマとメディア
9. 思想・表現の自由とその責任・倫理①

10. 思想・表現の自由とその責任・倫理②
11. 思想・表現の自由とその責任・倫理③
12. 思想・表現の自由とその責任・倫理④
13. 伝えるための努力とその制約
14. まとめ：メディアを通して社会を理解すること

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

インターネット・スマホだけに頼らず、社会状況を広く把握してください。事前の準備はほとんど必要ありませんが、講義内容をさらに深く理解するために、授業内で提示された書籍や雑誌、番組、映画、施設等で興味を持ったものについて、積極的にアクセスするようにしてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

受講内容を反映した毎回の小レポート(100%)

テキスト(Textbooks)

テキストは指定しません

参考文献(Readings)

1. 長谷正人、2016、『映像文化の社会学』、有斐閣 (ISBN:9784641174245)
 2. キャス・サンスティーン、2003、『インターネットは民主主義の敵か』、毎日新聞社 (ISBN:4620316601)
 3. スタンリー・J・バランほか、2007、『マス・コミュニケーション理論：メディア・文化・社会 (上)』、新陽社 (ISBN:9784788510500)
 4. スタンリー・J・バランほか、2007、『マス・コミュニケーション理論：メディア・文化・社会 (下)』、新陽社 (ISBN:9784788510517)
 5. クリス・アンダーソン、2009、『ロングテール(アップデート版)：「売れない商品」を宝の山に変える新戦略』、早川書房 (ISBN:9784153200043)
 6. G. W. オルポート、L. ポストマン、1952/2008、『デマの心理学』、岩波書店 (ISBN:9784000271578)
 7. 鈴木秀美編、2011、『よくわかるメディア法』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623058501)
- これ以外にも、適宜、参考文献、資料を講義内で提示します。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

講義で使用するドキュメンタリーは、テーマに即して、戦争や紛争、貧困等の状況が描かれており、残酷なシーンもいくつか登場することを理解してください。また、学習効果の上で必要な範囲で、受講生自身が接してこなかったような立場の意見や資料などを提示することがありますので、受講登録にあたってはその点を了承しておいてください。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／フィールドスタディーズ (Field Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「医療」をめぐるフィールドワーク		
担当者名 (Instructor)	菅森 朝子(SUGAMORI ASAKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2540	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名) 2016年度以降入学者適用		

授業の目標(Course Objectives)

- 1) フィールドワークの基本を学ぶ
- 2) フィールドワークで気づきや疑問を得て、考察を行い、報告にまとめる
- 3) フィールドワークのおもしろさ、難しさの両方を知る

1. Learn basic knowledge of fieldwork as one of the methods of social research.
2. Discover and consider questions and findings in the field. Report findings.
3. Learn about both the fun and difficulties of fieldwork.

授業の内容(Course Contents)

本授業では、フィールドワークの基礎を学び、「医療」に関するフィールドに足を運び、調査を実施する。フィールドワークを通じて得た気づきや問いをもとに、問いを立てて議論を展開し、報告を行う。

「医療」と一言に言っても、医療者、患者、家族、サポートする人など立場によって見える景色や経験する内容は異なる。その経験が生み出される背景に何があるのか、想像力を働かせてほしい。

今年度の授業の実習先については受講者の関心を踏まえて、相談の上で決める。

参考情報として 2022 年度は、立教大学保健室、立教大学学生相談所、抗がん剤や放射線治療・脱毛症にともなう外見変化へのケア「アピランスサポート」を行う美容室を訪問し、施設の見学とインタビュー調査を実施した。

In this class, after learning the basics of fieldwork and researching the literature on the theme, students will visit a field related to "medical care" and conduct a survey.

Students make their own observations and reports based on the realizations and questions they have obtained through fieldwork.

The views and experiences differ depending on the position of the medical professional, patient, family member, or support person. Students are expected to imagine what is behind the experience.

For reference information, in FY2022, we visited the Rikkyo University Health Center, the Rikkyo University Student Counseling Center, and a beauty salon that provides "Appearance Support," and conducted a tour of the facilities and an interview survey.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション: 授業全体の説明、フィールドワークとは?、相互インタビューをしてみよう
2. フィールドワーク1: 池袋の街に出て、身近な医療を見つけよう
3. 調査の基礎を学ぶ: 調査の計画、調査倫理、依頼の仕方、調査時のマナー、調査後の対応
4. フィールドワーク2: 池袋キャンパスの中にある身近な医療について知ろう
5. 「医療」に関するフィールドワークの先行研究を知る
6. ゲスト講師による講義: 「医療」をめぐるフィールドワーク、おもしろさと難しさ
7. フィールドワーク準備
8. フィールドワーク3
9. フィールドワーク3の振り返り
10. フィールドワーク4
11. フィールドワーク4の振り返り
12. 最終報告のテーマ発表
13. 最終報告準備
14. 最終報告会

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・配布する文献や資料、関連する文献をよく読んで下さい。
- ・課題や最終報告会のプレゼンテーション準備のために授業時間以外の時間を使い、積極的に取り組んで下さい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポートおよびプレゼンテーション(50%)/出席、授業中の課題、発言や議論への貢献(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 岸政彦、石岡丈昇、丸山里美、2016 年、『質的社会調査の方法 ―他者の合理性の理解社会学』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-15037-9)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

- ※フィールドワークで校外へ外出する日は、授業時間が延長になる可能性があります。予定を空けておいてください。
- ※調査先の都合や履修人数によって授業計画は変更になる可能性があります。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／フィールドスタディーズ (Field Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	地域資源を読み解く、活かし方を紡ぐ ～持続可能な地域づくりへ向けた地域のとらえ方～		
担当者名 (Instructor)	森 高一(MORI KOUICHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2540	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名) 2016年度以降入学者適用		

授業の目標(Course Objectives)

その地域の資源や強みは何か、それをどのようにつないで価値を高めるか。そのベースは、地域を見ること聞くことに始まる。SDGsの取り組みが進む中、世界的な視野に立つこと、そして地域の独自性を活かすことが、持続可能な地域づくりの鍵になる。世界的な潮流となっているサステイナブル・ツーリズムの視点から、地域を見るアプローチを試みる。

What are the resources and strengths of the region and how can they be re-edited to increase their value. The first step is to see and hear the area. As the SDGs progress, having a global perspective and utilizing the uniqueness of the region are the keys to sustainable regional development. In post-corona society, we will use sustainable tourism to look at the region.

授業の内容(Course Contents)

授業では地域を見る目に着目し、得られた情報を見立て編集することで、コンセプトづくりと提案作成をグループワークで実習する。

先進的な事例を現地にオンラインでつないで紹介してもらうほか、実際に東京近郊にフィールドワークを予定している。

Focus on the eyes that see the area. By editing the obtained information, you will practice concept building and proposal making.

In addition to having them introduce advanced cases online, we are planning fieldwork in the suburbs of Tokyo.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス～サステイナブル・ツーリズム国際基準と地域循環共生圏の視点から
2. フィールドスタディトレーニング～先進事例を学ぶ①
3. フィールドスタディトレーニング～先進事例を学ぶ②
4. フィールドスタディトレーニング～見る目を高める、フィールドから見つけ出す
5. フィールドスタディトレーニング～コンセプトについて考える
6. フィールド調査～事前調査①
7. フィールド調査～事前調査②
8. フィールド調査～実地調査へ
9. グループワーク～得られた情報の整理と編集
10. グループワーク～プロポーザル作成①
11. グループワーク～プロポーザル作成②
12. 発表とクリティーク
13. 持続可能な地域づくりについて考える
14. まとめ・ふりかえり

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

7回目授業の後、土日に実際のフィールドへ調査に出る予定があります。
あとは教室内と大学構内を基本に、必要に応じてオンラインを活用します。
グループでの作業を中心に行うため、作業進捗により授業外での取り組みが必要になります。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/グループワーク成果物(30%)/各回のふりかえり(20%)/学外のフィールドワーク参加(20%)

テキスト(Textbooks)

授業内で必要に応じ配布。

参考文献(Readings)

1. 観光庁、2020、『日本版・持続可能な観光ガイドライン』

2. 小田切徳美、2019、『創発的営み—地方創生へのしるべ 鳥取県智頭町発』、今井出版 (ISBN:978-4-86611-174-2)
3. 広井良典、2019、『人口減少社会のデザイン』、東洋経済新聞社 (ISBN:978-4-492-39647-6)
4. エバレット・K・ブラウン、2018、『失われゆく日本』、小学館 (ISBN:978-4-09-388612-3)
5. 荻原彰・小玉敏也編著、2022、『SDGs 時代の教育: 社会変革のための ESD』、筑波書房 (ISBN:978-4-8119-0615-7)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／フィールドスタディーズ (Field Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「虐待」をめぐるフィールドワーク		
担当者名 (Instructor)	江島 尚俊(EJIMA NAOTOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2540	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名) 2016年度以降入学者適用		

授業の目標(Course Objectives)

社会学における重要な調査方法の1つ「インタビュー調査(=質的調査)」を実際に体験するのが本授業の目標です。調査テーマは「虐待」です。その上で

- ①フィールドワークの基礎的トレーニングを行うこと
- ②自身で設定した対象に質的調査(インタビュー調査)を実施すること

この2つを念頭に置きながら、学生が主体となってインタビュー調査を企画・実施することで、社会的なインタビュー調査を実体験してもらうとともに、「虐待」とは何か？フィールドワークとは何か？を学んでもらうことに重きを置いています。

This class aims to provide experience in interview surveys (i.e., qualitative surveys), an important survey method in sociology. This Theme of survey is "abuse".

- (1) Carry out basic training for field work
- (2) Perform qualitative survey of subjects chosen by students (interview surveys)

With these two activities in mind, the course will place the emphasis on students taking the lead in planning and conducting interview surveys, to gain real experience in sociological interview surveys and to learn what abuse and what field work really is.

授業の内容(Course Contents)

3～4人のグループを作り、グループ毎に東京近郊の調査対象(「虐待」支援を実施する施設やグループ)を選定した上で、

1. 事前の文献等調査
2. 質的調査についてのレクチャー(電話や書面などでのアプローチ法、質問用紙の作り方、お礼状の書き方など)
3. 対象施設へのアプローチ
4. 実際の調査
5. 調査の報告・発表

を行います。

普段はなかなか訪問できない場所にインタビュー調査として訪問できるのもこの授業の特色です。

After students form groups of 3-4 persons, each group will select survey topics in the Tokyo area and will perform the following:

1. Preliminary literature survey
2. Lectures on qualitative survey (methods of approach by telephone, writing, etc.; how to create questionnaires; how to write thank-you letters; etc.)
3. Approaches to facilities
4. Actual surveys
5. Reporting and presentation of surveys

The possibility to conduct interview surveys in places that are normally difficult to visit is another feature of the class.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション「虐待」の定義と種類
2. 教員による講義「虐待」に関する支援と課題

3. 「虐待」に関する調査の目的および調査対象を教員・学生間でディスカッション
4. 調査対象に関する事前調査①ー図書館・PC ルーム等での作業
5. 調査対象に関する事前調査②ー図書館・PC ルーム等での作業
6. 電話アポ、依頼状郵送のための準備
7. ゼミ内ロールプレイングインタビューや発話の仕方、言葉遣いについてトレーニング
8. 調査対象および調査目的をゼミ内で発表
9. 実際に現地を訪問しインタビュー調査を実施①
10. 実際に現地を訪問しインタビュー調査を実施②
11. 調査終了後における御礼状発送、インタビュー文字起こし、調査報告発表会の準備
12. 調査報告発表会の準備
13. 調査報告発表会①
14. 調査報告発表会②

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

自分に関心をもつ対象や出来事について事前に考えておいてください(漠然としていてもOK)。
授業外の学習および課題に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/授業への参加姿勢(30%)/提示課題への取り組み(30%)

テキスト(Textbooks)

特になし。必要な文献資料等は授業中に配布する。

参考文献(Readings)

1. 杉山春、2017、『児童虐待から考える』、講談社 (ISBN:4022737433)
2. 篠原拓也、2019、『児童虐待の社会福祉学』、大学教育出版 (ISBN:4866920483)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

一言に「虐待」といっても、家庭内虐待(児童、親、夫婦、高齢者)や職場・学校、部活動など様々な場面での虐待が想定されますので、どのような場面での虐待に関心を持っているか、少しでもよいので事前に調べておいていただくと、授業に参加しやすくなります。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／フィールドスタディーズ (Field Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	東京モニュメント／東京の記憶を歩く Tokyo Monuments / Walking through Tokyo's "Memory"		
担当者名 (Instructor)	市田 真理(ICHIDA MARI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2540	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名) 2016年度以降入学学生適用		

授業の目標(Course Objectives)

身近な場所に「記憶の現場」があることを知る、訪ねる、歩くことで、これまでと違った風景が見えるようになりたい。一見きらびやかな東京には惨劇や悲しみ、暴力の記憶が残されている。モニュメントはその記憶を記録する役割を担っているのだろうか。関係者へのインタビューや文献調査を通して、モニュメントの意味を掘り下げる。

We know that there are "memory" in familiar places. My hope is that by walking to these places, we will be able to see a different landscape.

Do "monuments" really have a role to play in recording these memories?

Students can delve into the meaning of the "monuments" by interviewing the people involved and researching the materials.

授業の内容(Course Contents)

授業担当者はアメリカの水爆実験で被災した船を保存・展示している都立第五福竜丸展示館の学芸員である。たとえば第五福竜丸は、核の記憶を刻む船であるが同時に、現在では残っていない木造船建造の技術の記憶も持つモニュメントである。廃棄物として消えていく運命を、残そうと関与する者たちがいて、はじめてモニュメントとなった。その物語を探して歩く。

現地調査を重視しつつ、バーチャル美術館の鑑賞やオンラインによる取材など、さまざまなアプローチも試したい。また状況が許せば東京を「脱出」してのフィールドワークも予定している。訪問先の都合で土日に実施する場合もある。演劇や映画の鑑賞をおこなう場合もある。

*これまでの訪問地 都立第五福竜丸展示館(江東区)、国立国会図書館(千代田区)、築地周辺(中央区)、池袋周辺(豊島区)、豊洲市場(江東区)

The instructor of the class is a curator of the Daigo Fukuryu Maru(The Lucky Dragon)Exhibition Hall, which was damaged by the U.S. hydrogen bomb test.

The Daigo Fukuryu Maru, for example, is a ship that bears the memory of nuclear weapons, but it is also a monument that holds the memory of the technology of wooden ship construction. We are walking around looking for the stories of the people who built the monuments.

We will be doing most of our research in the field, but we will also be doing virtual museum visits and online interviews.

We also plan to "escape" Tokyo for fieldwork when circumstances permit. This may be done on Saturdays and Sundays, depending on where we visit. Theatrical performances and movies may also be included.

Previous visits include the Metropolitan Daigo Fukuryu Maru Exhibition Hall (Koto Ward), the National Diet Library (Chiyoda Ward), the Tsukiji area (Chuo Ward), and the Ikebukuro area (Toshima Ward), Toyosu Market(Koto Ward)

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 池袋キャンパスツアー
3. 池袋モニュメントツアー
4. ワークショップ① ランドマークとモニュメント
5. ワークショップ② 美化と排除
6. ワークショップ③ コミュニティとモニュメント
7. フィールド調査 1-①
8. フィールド調査 1-②
9. フィールド調査 1-③
10. 中間報告
11. フィールド調査 2-①
12. フィールド調査 2-②
13. フィールド調査 2-③
14. まとめ 東京モニュメントマップ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

自分の住む町のモニュメント、気になるモニュメントに関する情報収集を行い、関連する参考文献を読む

成績評価方法・基準(Evaluation)

フィールド調査への積極的な参加姿勢(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 第五福竜丸平和協会、2014、『第五福竜丸は航海中』、現代企画室 (ISBN:978-4-7738-1403-3)
2. 蘭信三ほか、2021、『なぜ戦争体験を継承するのか』、みずき書林 (ISBN:978-4-909170-14-7)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／フィールドスタディーズ (Field Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	都市の現在 ～変化と維持～		
担当者名 (Instructor)	柳 信寛(YANAGI NOBUHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2540	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名) 2016年度以降入学者適用		

授業の目標(Course Objectives)

・大都市の変化や維持をテーマとして聞き取り調査を中心に街の変化を探求する。
 ・特に行政や地域組織、そして住民がどのような思惑で地域の開発や維持・再生に取り組んでいるかを、歴史的経緯や都市構造から立体的に把握することを目的とする。

・The class will explore changes in neighborhoods, centering on interview surveys on the themes of change and maintenance in large cities.

・In particular, the course aims for three-dimensional understanding, based on historical background and urban structure, of the sort of expectations under which government, regional organizations, and residents undertake regional development, maintenance, and revitalization.

授業の内容(Course Contents)

・何組かの調査グループに分かれて東京 23 区内のいくつかの地点をターゲットにして調査を行う。
 ・行政、民間ディベロッパー、地域住民などへの聞き取りが中心となるが、そのほとんどを受講生自らが実施する。
 ・したがって報告書作成はもちろんのこと、対象者とのアポイントメントの取り付けや調査票作成、礼状の発送など実践的な調査技術の習得を目指す。

・The students will be divided into survey groups, and the surveys will target a number of locations in the 23 wards of Tokyo.

・While the focus will be on interviews with government, private sector developers, and local residents, most of these will be conducted by the students themselves.

・Accordingly, the course aims to instill practical survey skills such as securing appointments with survey subjects, creation of questionnaires, and sending of letters of thanks, as well as report preparation.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション・調査地の検討
2. 調査地の検討・グループの編成
3. 街歩き体験による調査地と大まかなテーマの確定
4. 調査地の現況データ・歴史的経緯の把握
5. 調査地の現況データ・歴史的経緯の把握
6. 文献・資料収集の検討
7. 調査および進捗状況の報告
8. 調査および進捗状況の報告
9. 調査および進捗状況の報告
10. 調査および進捗状況の報告
11. 調査および進捗状況の報告
12. 報告書の検討
13. 報告書の検討
14. 報告書の検討

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・授業初回から希望する調査地の検討に入るの、それまでにいくつかの街歩きや情報収集をしておくこと。
 ・また、受講生の希望により調査地をいくつか設定するが必ずしも希望する調査地となるとは限らない。調査地や調査テーマに関して複数の希望を用意しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

作業への積極的参加・報告書作成(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

商店街や駅前の繁華街の成り立ちや変化に興味のある受講生の参加を期待します。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／フィールドスタディーズ (Field Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	会話分析の手法と概念		
担当者名 (Instructor)	黒嶋 智美(KUROSHIMA SATOMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2540	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名) 2016年度以降入学学生適用		

授業の目標(Course Objectives)

- 1) 会話分析の基本的な分析概念を理解できる。
- 2) 会話分析の手法を使って会話データの観察・分析ができる。
- 3) 日常的な相互行為の分析を通して、社会的な現象についての洞察を深めることができる。

The aim of this course is for the students 1) to be able to understand the analytic notions of conversation analysis, 2) based on 1) to make observations and analyze the conversational data, and 3) to understand that the social structures are an organized phenomenon.

授業の内容(Course Contents)

私たちの日常の社会生活の大半はことばを交わすことで成り立っている。会話分析は、人びとの様々な社会的活動のやり方の知識を研究対象とするエスノメソドロジーの研究方針に基づき、いっけん恣意的で無作為に行われているように見える「会話」を秩序だった社会的現象として捉え、その構造を明らかにする方法論である。本講義では、会話分析の分析手法と分析概念について学び、分析概念の修得と運用を目指した演習を多く行なう。受講者はそれぞれのフィールドでデータ収集を行い、会話データの転記方法についても学び、講義で取り上げた分析概念にもとづき実際に分析をするための訓練を毎回データ分析演習を通じて行なう。

In this course, you are going to learn the sociological methodology of conversation analysis (CA). CA is a research methodology rooted in the field of Ethnomethodology, which examines the people's various methods of doing things. CA studies explore the conversational phenomenon which is an organized and ordered social event. The course consists of lectures on analytic notions and a research methodology as well as the data analysis exercises in which you are going to demonstrate what you have learned from the course. In addition to the weekly training on data analysis, you are required to collect data from their field and analyze them based on the materials covered in the course.

授業計画(Course Schedule)

1. 自己紹介, コースイントロダクションー会話分析の基本方針
2. 発話行為という考え方
3. 順番交替組織ー発話を構成する単位は何か
4. 順番交替組織ー発言順番はどのように決まるか
5. データの撮り方, トランスクリプトの作り方, データセッション
6. 行為連鎖組織ー発言順番はどのように結びついているか
7. 行為連鎖組織ー会話はどのように展開するか
8. 優先組織ー反応の仕方はどのように決まるか
9. 会話における沈黙と重なりとは
10. 修復組織ー会話における問題はどのように解決されるか
11. 物語の組織ー会話の中の物語はどう語られるか
12. データセッション, 調整日
13. 受講者のデータ分析発表, 調整日
14. 受講者のデータ分析発表, 今学期のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

文献をあらかじめ読んで課題に取り組むこと
授業で配布したレジュメを毎回みなおしてくること

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 出席, 授業参加, 課題提出(60%)

テキスト(Textbooks)

1. 串田秀也・平本毅・林誠、2017、『会話分析入門』、勁草書房 (ISBN:978-4326602964)

参考文献(Readings)

1. H. サックス, E. A. シェグロフ, E., G. ジェファーソン、2010、『会話分析基本論集』、世界思想社 (ISBN:9784790715016)

その他(HP 等) (Others(e.g HP))

Canvas LMS で毎回の課題配布, 回収を行います.

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／フィールドスタディーズ (Field Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	海洋環境と漁業、そして人		
担当者名 (Instructor)	佐久間 淳子(SAKUMA JUNKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2540	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名) 2016年度以降入学者適用		

授業の目標(Course Objectives)

文献を探し、要約・分析して考察するだけでなく、実際に現場を訪ね、関係者にインタビューすることによって、調査対象をより深く理解する経験を積む。当講座ではそのために必要なノウハウを確認しながら、フィールド調査を体験し、意義に加えて楽しさも感じられるようになることを目指す。

This course aims to let students experience and enjoy field surveys while learning know-hows to research.

Not only reading and summarizing techniques, but you also learn the importance of on-site visits and interviews for deeper understanding of subjects.

授業の内容(Course Contents)

食をキーワードに、海洋環境の変化と持続可能な漁業を射程にいれつつ、調査の経験を積む。

フィールドとしては、東京や近郊の卸売市場の水産部(豊洲、船橋、横浜)や築地、漁港(船橋、柴、三崎)など東京湾岸を主たる対象とする。

漁業者や、仲卸業者や利用者(飲食店経営者や一般客を含む)、周辺の関連小売店などを含め、事前調査で把握した情報と生の情報の差異を意識しつつ、自分なりに分析し、レポートする。

「美味しいもの」の背景をどこまで多角的に深く捉えられるか、積極的に踏み込んでほしい。

Students will build up experience in field surveys while focusing on sustainable fishing, with the keyword “food”.

The field include the marine products sections of wholesale markets in Tokyo and its environs (Toyosu, Funabashi, and Yokohama), Tsukiji and fishing ports (Funabashi, Shiba, and Misaki).

Students will analyze and report in their own way, keeping in mind the differences between interview-based information and information obtained from the internet and/or books.

In your reports, please discuss about each roles (ex. fishermen, intermediate wholesalers, retailer, restaurant operators and customers).

Welcome to my class and feel how multifaced the background behind food is.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス、日程調整
2. オンラインデータベース講習(図書館講習室)
以後、文献調査は各自進める。
3. ゲストスピーカーによる「経験に基づくフィールド調査の現実」説明とディスカッション
4. 調査計画の立て方、レポートの構成
5. アポイント、メールと手紙・電話の基礎
6. インタビュー: 質問項目の立て方、順序
7. フィールド調査(1-1)
8. フィールド調査(1-1)
9. フィールド調査(1-1)
10. フィールド調査(1-1)
11. 統計、参考文献を元に「美味しい魚の拙い話(水産の現状)」を学ぶ
12. グラフや図表の利用法、引用、脚注の使い方
13. レポート初稿提出、推敲
14. 最終提出、講評 まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

1. 水産資源の状況は、気候変動や乱獲の影響を受け、毎年状況が変わる。
新聞などの報道に常に目をおし、最新の情報を把握しておく。
2. ドキュメンタリー映画・番組を、取材手法に注目して観る。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/授業に対する積極的な参加態度(30%)/プレゼンテーションの内容(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 宮内泰介、上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』、岩波書店 (ISBN:978-4004318538)

授業のなかで適宜紹介する

調査対象に関するニュース(新聞報道、テレビ、オンラインニュース)は、継続して確認すること。

参考文献(Readings)

1. 勝川俊雄、2016、『魚が食べられなくなる日』、小学館 (ISBN:978-4098252787)

2. 海部健三、2019、『結局、ウナギは食べていいのか問題』、岩波書店 (978-40002968)

3. 井田徹治、2020、『追いつめられる海』、岩波書店 (978-40002969)

4. 勝川俊雄、2020、『最新漁業の動向とカラクリがよ〜くわかる本』、秀和システム (ISBN:978-4798059211)

5. 片野歩、阪口功、2019、『日本の水産資源管理:漁業衰退の真因と復活への道を探る』、慶應義塾大学出版会 (ISBN:978-4766425802)

他、適宜紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

農林水産省 統計情報(水産業) <http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kensaku/bunya6.html>

国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス <http://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>

他、適宜紹介する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／フィールドスタディーズ (Field Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	メディアの基本原則、技術を知り、体験して学ぶ		
担当者名 (Instructor)	田北 康成(TAKITA YASUNARI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2540	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名) 2016年度以降入学者適用		

授業の目標(Course Objectives)

ふだん使っているメディア技術の基本原則を自ら体験し、発達の歴史を学ぶことにより、より高度なコミュニケーション技術への新しい発想を促すことを目標とします。

The goal is to encourage new ideas for more advanced communication technologies by experimenting with the basic principles of media technology we typically use and learning about the history of development.

授業の内容(Course Contents)

現在、インターネットや SNS、マスメディアで使われているコミュニケーションの技術は、アナログからデジタルへと、この四半世紀で大きく変化しました。さまざまな技術の中で興味のあるものを選び、その基本原則を調べるとともに、実験器具や実習施設を通して体験し、そこから学んだことを情報発信する場を作ります。

The communication technologies currently used on the Internet, the SNS and mass media have changed considerably over the past 25 years, moving from analogue to digital. Students will select the ones they are interested in various technologies, investigate the basic principles, experience them through laboratory equipment and training facilities, and create a place to disseminate information about what they have learned from that.

授業計画(Course Schedule)

1. 実習の進め方の説明
2. 調査方法について(その1)
3. 調査方法について(その2)
4. 問題意識の形成(その1)
5. 問題意識の形成(その2)
6. フィールド調査(プレ・第1回)
7. フィールド調査報告
8. フィールド調査(プレ・第2回)
9. フィールド調査報告
10. フィールド調査(プレ・第3回)
11. フィールド調査報告
12. フィールド調査(本調査第1回)
13. フィールド調査(本調査第2回)
14. フィールド調査報告

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 中間報告(40%) / 授業への参加状況(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 印刷博物館、2020、『日本印刷文化史』、講談社 (ISBN:978-4065204528)
2. 青木則夫、2011、『図解 テレビの仕組み』、講談社 (ISBN:978-4062577342)
3. 岡部匡伸、2020、『ラジオの技術・産業の百年史—大衆メディアの誕生と変遷』、勉誠出版 (ISBN:978-4585222958)
4. 岩波書店編集部、2003、『カラー版 本ができるまで』、岩波書店 (ISBN:978-4005004409)

履修生の興味に沿って、授業内で参考文献を指示します。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

【注意】校外でのフィールドスタディを実施する都合上、時間延長があり得ます(新型コロナウイルスのまん延状況によっては、大学の方針に従って、代替のプログラムを実施することについて了解をしておいてください)。

調査にかかる時間については、履修生と相談の上で調整しますが、基本的には履修日の3時限は必ず空けておいてください。また、履修生の希望を聴いての調査もあり得ます。なお、調査に関連するものの、自らに還元される部分については、社会通念上の一部費用負担を了解してください。

新聞博物館(横浜市)、放送ライブラリー(横浜市)、NHK 放送博物館(港区)、印刷博物館(文京区)、写真美術館(目黒区)等の施設を見学予定ですが、当該施設の開館、予約状況により実施できない場合もあります。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／フィールドスタディーズ (Field Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル都市における多文化なまち・外国性を持つまちを歩く		
担当者名 (Instructor)	金 允恩(KIM TAE EUN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2540	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名) 2016年度以降入学者適用		

授業の目標(Course Objectives)

グローバル都市における多文化化の現実やそのまちにおける日常の多様性を探究する。
フィールド調査の基礎を学ぶとともに、図書館情報システムや Google の多様なサービス、その他のオンライン上のリソースを駆使するリサーチスキルを獲得する。

This course aims to let students experience and enjoy field research while learning the know-how to research. It will explore the reality of multiculturalization in global cities such as the metropolitan Tokyo area and the diversity of everyday life in those cities. Students will learn research skills that make full use of library information systems, Google's various services, and other online resources, as well as public statistics.

授業の内容(Course Contents)

グローバル都市における多文化化の現実及びその都市のまちにおける日常の多様性を理解するために、文献調査をはじめ、統計データ、さまざまなオンライン上のツールを駆使し、事前リサーチを行った上で、フィールドワーク調査に取り組む。小グループまたは個人で、グローバル都市における多文化なまちや外国性を持つまちを選んで、事前の文献リサーチ、調査設計、フィールドワークなどの作業を行い、研究成果をプレゼンテーションとレポートの形で発表する。

To understand the reality of multiculturalization in global cities and the daily diversity of cities and towns, we will conduct field research using various online research tools and public statistics. Students will work either individually or as small groups of 2-3 people, then select survey fields among the global metropolitan cities and perform the following: preliminary literature survey, selection of target area and theme, research design, and fieldwork. Then they will present the research results in the form of presentations and reports.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. フィールド調査の基礎
3. フィールド調査を行った事例研究の紹介、分析
4. 調査計画とレポートの作成について
5. 関心地域の共有、グループ分け(必要な場合のみ)
6. 統計データの活用
7. 調査計画の発表
8. フィールド調査1
9. フィールド調査2
10. フィールド調査3
11. フィールド調査4
12. プレゼンテーション1
13. プレゼンテーション2
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

関心をもっている地域やテーマについて基礎的な知識を備えておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / プレゼンテーションの内容(30%) / 授業への積極的な参加態度(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. Zukin, Sharon. 2015. *Global Cities, Local Streets*. Routledge (ISBN:1138023930)
 2. 平田由紀江, 山中千恵, 2019、『ソウルを歩く: 韓国文化研究はじめての一步』、関西学院大学出版会 (ISBN:4862832857)
- 授業の中で適宜紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／フィールドスタディーズ (Field Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「江戸・東京」の表象に関するメディア社会学／フィールドワーク		
担当者名 (Instructor)	田辺 龍(TANABE RYOU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2540	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名) 2016年度以降入学者適用		

授業の目標(Course Objectives)

江戸期から蓄積されている現在の豊島区に関するコンテンツを分析するとともに、実地に赴いて検証することにより、メディア社会学的な理論およびフィールドワークの技法を習得する。

By analyzing contents accumulated from the Edo period related to present-day Toshima Ward and by going on-site to perform verification, students will learn media sociological theory and fieldwork techniques.

授業の内容(Course Contents)

「東京」に関わる現象として、たとえば「メディア・ノスタルジー」と「街歩き」をあげれば、いわゆる現実／仮想の双方を包含する広い射程を持つことが分かる。テーマ全体の理解を実証的な問題の検証につなげていくために、前半では前年度調査を参照して(フィールドは雑司が谷・池袋を中心とした豊島区全域)、フィールドワークの準備として、テーマの絞り込みを全員での議論を通して行う。後半では、各自またはグループでフィールドとテーマを選定し、メディア表象の分析と当該都市・地域を経験するさまざまな対象者への調査を実施、その成果をレポートにまとめる。

As an example, if "media and nostalgia" and "neighborhood walks" are mentioned as phenomena related to Tokyo, it can be understood that these cover a wide range encompassing both the so-called real and virtual. In order to connect understanding of the theme overall to verification of the empirical problem, the first half of the course will prepare for field work by narrowing down the theme through discussion by all participants, with reference to the previous year's survey (in which the field consisted of all areas of Toshima Ward, centered on Zoshigaya and Ikebukuro). In the second half of the course, students will select fields and themes individually or as groups, analyze media representation, conduct surveys of subjects who experience the city or region, and summarize the results in a report.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス: 自己紹介およびゼミ運営について
2. 前年度調査(メインフィールド: 雑司が谷, 池袋)について
3. 豊島区の歴史を学ぶ(1)
4. フィールドワーク(全体)
5. 調査テーマ決定とグループ分け
6. 先行研究サーベイ報告(1)
7. 先行研究サーベイ報告(2)
8. 豊島区の歴史を学ぶ(2)
9. グループ別進行状況発表(1)
10. グループ別進行状況発表(2)
11. フィールドワーク(グループ別)
12. グループ別進行状況発表(3)
13. グループ別進行状況発表(4)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

指定した文献・資料を必ず読んでおくことはもちろん、調査が始まってからは、正規時間外の調査と発表資料作成、文献講読が求められる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

調査・議論への参加度(40%) / 発表・報告(30%) / レポート(報告書原稿)作成(30%)

テキスト(Textbooks)

全体のテキストとして、川添登 1993 『東京の原風景』(ちくま学芸文庫)。下記参考文献、その他は初回～第5回までに決定する。

参考文献(Readings)

1. ジョルダン・サンド、2021、『東京ヴァナキュラー』、新曜社 (ISBN:9784788517387)
- その他の文献については適宜指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

前年度調査にご協力いただいた各施設の HP

豊島区立郷土資料館 <http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/bunka/shiryokan/>

雑司が谷 案内処 <https://www.toshima-mirai.jp/zoshigaya/>

自由学園明日館 <http://www.jiyu.jp/>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／フィールドスタディーズ (Field Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	フィールドとしての「アーカイブズ」		
担当者名 (Instructor)	平野 泉(HIRANO IZUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2540	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名) 2016年度以降入学者適用		

授業の目標(Course Objectives)

図書館でいつも目にする本や雑誌とは異なる性質の資料である「アーカイブズ」と、それを所蔵する機関とをフィールドとして、社会に生きる人々の多様な活動が生み出す多様な資料を自らの調査・研究に活用できるようになることを目指します。

"Archives" are materials of a different nature from the books and journals in libraries. By regarding such archives and the institutions holding them as the "field" of study, this class aims to enable students to utilize for their own research a variety of documents produced by the various activities of people in society.

授業の内容(Course Contents)

「アーカイブズ」とは、人間が日々の活動の中で、活動の副産物として生み出す様々な記録の集積です。行政機関の公文書も、家族旅行の思い出のために撮影した写真もアーカイブズであり、そうしたアーカイブズは多くの機関に所蔵され、様々な目的で使用されていますが、多くの人にとってはあまりなじみのないものでもあります。この授業では、そうしたアーカイブズを生み出す活動、それらを保存・公開する活動、そしてそれらを利用する活動全体を「フィールド」として、アーカイブズ機関を訪ね、アーキビストにお話を伺います。また、立教大学共生社会研究センターが所蔵するアーカイブズを用いた整理実習を行い、その経験を生かして、紙やデジタルなど多様な資料を用いて調査を実施します。また授業に関連する活動を記録し、自らのアーカイブズとして整理・保存・活用し、それらすべてを駆使して調査結果を報告書にまとめます。

"Archives" are the whole of the records created as by-products of human activities. Both the public records created by the government and the pictures taken for the memory of a family trip are archives. Although they are housed in many institutions and being used for a variety of purposes, many people do not know much about them. In this class, we will visit archival institutions and talk with archivists, regarding as our "field" the activities of creating such archives, preserving and opening them to the public, and using them. In addition, the students will experience archival processing at the Research Center for Cooperative Civil Societies at Rikkyo University and will use this experience to conduct research utilizing a variety of materials in different formats. They will also keep records of their research activities, archive and make full use of them to compile a final report.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. アーカイブズとは何か?
3. アーカイブズに触ってみよう(共生社会研究センター)
4. アーカイブズ機関訪問準備
5. アーカイブズ機関訪問(1)
6. アーカイブズ機関訪問(2)
7. アーカイブズ機関訪問結果報告
8. アーカイブズ整理実習(1)
9. アーカイブズ整理実習(2)
10. アーカイブズ資料調査(1)
11. アーカイブズ資料調査(2)
12. アーカイブズ資料調査結果報告(1)
13. アーカイブズ資料調査結果報告(2)
14. 最終レポートの準備と全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

履修生は授業時間外に、自らの興味に応じてアーカイブズ機関やデジタルアーカイブで資料を閲覧し、調査を進めてください。資料探しに困ったときは、いつでも講師に相談してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 授業内報告(40%) / 授業への参加(20%)

テキスト(Textbooks)

テキストはとくにありません。

参考文献(Readings)

1. 下重 直樹・湯上 良(編)、2022、『アーキビストとしてはたらく: 記録が人と社会をつなぐ』、山川出版社 (ISBN:978-4634591257)
2. ブリュノ・ガラシ(著)・大沼 太兵衛(翻訳)、2021、『アーカイヴズ: 記録の保存・管理の歴史と実践』(文庫クセジュ)、白水社 (ISBN:978-4560510421)

履修生の興味に応じて、適宜参考文献を紹介します。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

- ・ 立教大学共生社会研究ウェブサイト <https://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/rcccs/>

【注意事項】校外のアーカイブズ機関を訪問する場合、時間延長または土日の設定もあり得ます。訪問先や時間については、履修生と相談のうえ調整することとします。

また、新型コロナウイルスのまん延状況によっては、大学の方針に従い予定を変更する場合があります。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／フィールドスタディーズ (Field Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	質的調査と空間調査		
担当者名 (Instructor)	島崎 裕子(SHIMAZAKI YUKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2540	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(20名) 2016年度以降入学者適用		

授業の目標(Course Objectives)

本講義では、理論と実践をどのように結びつけるのかを、学生自ら実際のフィールドに出て体験的に学び、「学問と現場を繋ぐ」とはということかを、実際に自分の目と耳で見聞きし、そして歩くことなど身体を使って理解することを目的とする。また、フィールドで得られた知見を、今後どのように学生・社会生活や研究活動に活かしていけるのか、創造的な展開力を育むことを最終到達目標とする。

This course purposes are

- 1) To develop students knowledge of social sciences.
- 2) To obtain a better grasp of major themes and issues in social issues.
- 3) To learn how to research methods and fieldwork.
- 4) To learn how to presentation based on the fieldwork.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、“社会と対話”する手段としての現場で行う「フィールドワーク」に焦点を置き、調査事項に対して適切な方法の検討、及び結果を他者に伝えるための調査のアウトプットのための表現方法を習得する。授業内における実践を通じてフィールドワークの基礎的素養を身につけ、国内に限らず海外でのフィールドワークにも展開できる応用的な力を養う。★日常のなかから異文化を感じ、再発見することを目的として、フィールドワークを行う。フィールドワークの場所は、新大久保や、横浜中華街、海外移住資料、JICA 地球広場、多文化共生プラザ等を検討している。よって、授業で学んだフィールドワークの手法を実践した校外学習調査を展開する。よって、本科目では校外学習に参加することが必須条件となる。シラバス下部:【その他:重要事項】に必ず目を通すこと。★

This course focuses on fieldwork as a means to “interact with society,” and students would learn how to consider appropriate methods for research items and how to express the results of their research in order to communicate them to others. The course is designed to provide students with the basic knowledge of fieldwork through in-class practice.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション【講義】
コース全体説明、本授業の特色、授業の目的と進め方について。
2. フィールドワークの概論【講義】
質的調査(質的研究)とは何か、フィールドワークとは何か。
データの収集方法と調査技法について。
3. フィールドワークの論理【講義】
理論の検証と生成。調査課題と仮説の立て方。
4. フィールドワークの方法と手順【講義】
フィールドに入る前の準備。インタビューと記録の方法。
5. フィールドワーク① 異文化を感じる/校外学習 #1【演習:実践】
フィールドへ出て、実際に調査をしてみる。
6. フィールドワーク① 異文化を感じる/校外学習 #2【演習:実践】
フィールドへ出て、実際に調査をしてみる。
7. 発表【演習:実践】
プレゼンテーション①
8. 空間の調査と表現【講義】
空間観察のフィールドワークとは。
調査方法と結果の表現方法について
9. 空間の調査と表現【講義】
空間調査の手法。
10. フィールドワーク② 世界と日常をつなぐ/ 校外学習 #1【演習:実践】

フィールドへ出て、実際に調査をしてみる。

11. フィールドワーク② 世界と日常をつなぐ校外学習 #2【演習:実践】
12. フィールドワーク② 世界と日常をつなぐ/ 校外学習 #3【演習:実践】
13. 発表【演習:実践】
プレゼンテーション②
14. 授業全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

<使用文献>

本講義の文献は、基本書を中心に選定しており、受講生はこれらの読解を通して基本的な知識を習得する。各回のトピックに合わせて、主要文献と参考文献をまとめたリーディングを使用する。主要文献は授業の前に読んできているものとして授業を行う。文献の詳細については、授業内で指示、配布する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

プレゼンテーション: 課せられた内容に対して、授業内容を踏まえてフィールドワークを行い、自分なりの視点、議論を活かして発表する。(30%)/フィールドワーク①への参加・貢献度(25%)/フィールドワーク②への参加・貢献度(25%)/講義授業への参加・貢献度(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【重要事項】

<校外学習/フィールドワークについて> 本科目では校外学習においてフィールドワークを行う。よって、フィールドワークの日時については受講生と相談の上、決定する。

<授業方法の変更等について>

Covid-19 の状況によりオンラインへの変更や、フィールドワークの場所や実施方法の変更など、柔軟に対応をして行う。

<授業を受けるに当たっての留意点>

1. 授業前には、指定された主要文献に必ず目を通してくること。
2. フィールドワーク(計2回)に参加すること。

<単位取得条件>

本科目では、2つのフィールドワークに出席することが単位取得の必須条件である。フィールドワークのやむを得ない欠席に関しては、事前に教員と相談すること。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK241／社会統計学 (Social Statistics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	推測統計学の基本的理解		
担当者名 (Instructor)	杉野 勇(SUGINO ISAMU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

(1) 推測統計の基本的な考え方を身につけること, (2) 社会学などを学び, 研究していく過程で, さまざまな研究課題を解決するための道具として統計的手法を使いこなせるようになること, を目標とする。統計的データの集計・分析に必要な基礎的な統計知識, 世論調査や社会統計などの結果や報告を正しく読み取るためのメディア・リテラシー, リサーチ・リテラシーが主題である。

The objectives of this course are (1) to understand basic concepts of inferential statistics, and (2) to gain the ability to use statistical methods as tools for resolving a variety of research issues in the process of studying sociology. Subjects are basic statistical knowledge necessary for collecting and analyzing social survey data; media literacy and research literacy for precise comprehension of the results of opinion polls and reports on official/societal statistics.

授業の内容(Course Contents)

算術平均や分散などの基本統計量, 確率論の基礎, 標本抽出の理論, 検定・推定の基礎, 共分散と相関係数, クロス表に関する連関係数と独立性についてのカイニ乗検定, 母平均と母比率の区間推定, 分散分析・単回帰分析, 偏相関係数と交絡変数の統制, 重回帰分析などについて解説する。

This course explains the statistical concepts and theories such as arithmetic mean and variance, basics of probability, sampling theory, essence of statistical testing and estimation, covariance and correlation, chi-squared test and coefficient of association for contingency tables, interval estimation of population mean and population ratio, analysis of variance and simple regression analysis, partial correlation coefficient and controlling of confounding variables, and multiple regression analysis.

授業計画(Course Schedule)

1. データの記述(基本統計量: 代表値, 散布度)
2. 正規分布・標準正規分布と標準化
3. 二つの数量変数の標本共分散と標本相関係数
4. 二つのカテゴリカル変数の分割表(クロス表), 連関係数, 第三変数の統制
5. 確率論の基礎
6. 標本抽出の理論(母集団と標本, 推測統計学)
7. 標本抽出分布と標準誤差
8. 母平均の区間推定
9. 統計的検定の理論, t 分布
10. 母相関係数の検定と推定
11. 独立性についてのカイニ乗検定
12. 母平均の差の検定
13. 母比率の区間推定, 母比率の差の検定
14. 単回帰分析, F 検定, 偏相関係数, 重回帰分析

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

「場合の数(組合せの数)」や「階乗」, 和・合計の演算記号である Σ について復習または予習しておく事(参考書『入門・社会調査法』[第4版]の「数学付録」にも必要な知識が纏めてある)。

算術平均, 分散, 共分散と相関係数などの, 現在は高校数学で必修となっている記述統計学の基礎についても復習(予習)しておく。

統計分析ソフト R の使い方も合わせて習得し, R を使いながら統計学の予習・復習・自習を行う事が望ましい。参考ウェブサイトを紹介する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業期間中の提出課題／テスト課題(複数回)(100%)

授業期間中に 13 回程度の理解度確認テスト(配点は分量と難易度 によって毎回変更)を予定

テキスト(Textbooks)

1. 杉野勇、2017、『入門・社会統計学』、法律文化社 (ISBN:978-4589038463)

参考文献(Readings)

1. 轟亮・杉野勇編、2021、『入門・社会調査法〔第4版〕』、法律文化社

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

テキストのサポートウェブ(新旧)、統計分布などの授業資料

<http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html>

http://sgn.sakura.ne.jp/Statistics/Social_Statistics01.html

<http://www.li.ocha.ac.jp/hss/socio/sugino/material.html>

<http://sgn.sakura.ne.jp/R/Rscript.html>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK242／社会統計学 (Social Statistics)		
担当者名 (Instructor)	廣瀬 毅士(HIROSE TSUYOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いた推論や仮説検証の手法を習得する。統計調査データの集計・分析に必要な統計学の知識について学ぶが、社会科学の諸問題に応用する際の考え方を重視する。

The course positions social survey data analysis as a tool for considering society and resolving issues, and will instill basic concepts of probability theory and inferential statistics. Students will acquire methods to test inferences and hypotheses using data.

授業の内容(Course Contents)

確率論に基づいた推測統計学の基本的な考え方を身につけ、基本統計量、推定や検定の考え方や手順、平均の差の検定、分散分析、相関係数と無相関検定、交絡変数の統制、回帰分析のモデル式や係数の推定・検定、クロス表の独立性の検定などについて学ぶ。

Drawing on the fundamental knowledge of statistics necessary for aggregating and analyzing statistical social survey data, students will learn about concepts including testing and estimation, as well as testing for differences in population mean, analysis of variance, testing for independence in cross-tabulation tables, and correlation and regression.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション: 授業の進め方、推測統計学とはなにか
2. 標本抽出: 無作為抽出の意義、母数と標本統計量、標本誤差、世論調査などの事例
3. 標本分布: 標本統計量と標本分布、PCを用いたシミュレーション、大数の法則、中心極限定理
4. 確率の考え方: 標本空間と事象、排反な事象、加法定理、乗法公式、条件つき確率、事象の独立性
5. 確率変数: 確率変数と標本調査、質的変数の確率分布、離散分布と連続分布、期待値と分散
6. さまざまな確率分布: 2項分布・ポアソン分布・正規分布を中心に
7. 統計的推定(1): 統計的推測の概要、推定量と推定値、点推定と区間推定、信頼度と信頼区間
8. 統計的推定(2): 母平均の推定、小標本とt分布、母比率の推定、標本サイズの決め方
9. 統計的検定: 統計的検定の手順、第一種の過誤・第二種の過誤、検定の方法、統計的有意の意味
10. 平均の差の検定: 大標本の場合と小標本の場合、t検定の考え方と手順
11. 分散分析: 多重検定の問題点、ばらつきの分解、「モデル」の考え方、分散分析表の作成
12. 相関と無相関検定: 共分散と相関係数、無相関検定、相関係数の区間推定、偏相関係数とその検定
13. 回帰分析: 実測値と予測値、母回帰式、回帰係数の推定・検定、回帰モデルの推定・検定
14. クロス表の独立性の検定: 変数の連関、統計的独立と期待度数、カイ2乗検定、多重クロス表

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

高度な数学的知識は前提としないが、社会学部で必修の基礎的な統計学の科目の内容について各自復習しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業期間内の小テスト(毎回)(50%)/授業期間内の課題(10%)/最終テスト(Final Test)(40%)

テキスト(Textbooks)

なし(資料を配付する)。ただし、授業期間に参考文献をテキストとして指定する場合がある。

参考文献(Readings)

1. 豊田利久ほか、2010、『基本統計学[第3版]』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-47083-1)
2. 篠崎信雄・竹内秀一、2009、『統計解析入門[第2版]』、サイエンス社 (ISBN:978-4-781-91230-1)
3. 杉野勇、2017、『入門・社会統計学—2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』、法律文化社 (ISBN:978-4-589-03846-3)
4. 浅川達人、2011、『ひとりで学べる社会統計学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4-623-06005-4)
5. 津島昌博ほか編、2014、『数学嫌いのための社会統計学[第2版]』、法律文化社 (ISBN:978-4-589-03619-3)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／多変量解析 (Multivariate Analysis)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会学で特に有効な統計分析手法の効果的な把握を目指して		
担当者名 (Instructor)	二階堂 晃祐(NIKAIDO KOSUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(70名)		

授業の目標(Course Objectives)

社会学の視点から、量的な社会調査データの分析を行う術を学ぶことが目的である。これは具体的には、複数の変数の関係を、統計学的な裏付けがあり、また社会的に有益となる手法で分析しようとする、という事である。基本的には、下級年次科目で扱う基礎的なデータ処理・データ分析の知識が既にある事を前提としている。授業では、実際に分析をすすめる際に必要なソフトウェアの操作についても解説する。

The objective is to learn techniques for performing analysis of quantitative social survey data from a sociological perspective. More concretely, this means that students would be learning a series of analytical methods that are meant to comprehend the relationships among a number of variables in a given data set, in such a way that the level of understanding is fundamentally sound in terms of both the underlying mathematical dynamics, as well as of the sociological mindfulness. In principle, it is assumed that students already have the fundamental data processing and data analysis knowledge covered at the level of the first two years in the undergraduate curriculum. In the class, the use of software, i.e., "SPSS", necessary for conducting analysis, will be explained.

授業の内容(Course Contents)

講義と実習を一体的に組み合わせて行う。講義内容は概念的な各分析手法の説明と、分析の実践に必要な作業の流れの双方を含む。毎回、コンピュータールームでの作業のため、授業で紹介した内容はすぐに統計分析ソフト SPSS を使用して試す事が出来る。なお必要となるデータは講師が用意する予定。ただ、ゼミ論文や卒業論文などで既に使用しているデータがあれば、一部の課題はその分析に対応するように調整する事は大体可能だと思う。

The course will proceed through the integration of lectures and practical training. The lecture content includes both explanations of the analytical methods at the conceptual level, and concrete work flows required for the actual practice. For work in the computer room, the material introduced in every class can be immediately tried out using SPSS statistical analysis software. The necessary data will be supplied by the instructor. On the other hand some, if not all, of the class assignments could be modified to accommodate the given dataset a student might bring in on his/her own for the purpose of outside projects, such as a BA paper.

授業計画(Course Schedule)

- 社会調査データの多変量解析: データ構造の理解、各分析手法の概念的な整理
- (1)社会学で質の高い量的データを得るために、(2)統計分析ソフト「SPSS」の紹介と基本的な操作法、データ操作や新変数の作成方法
- データ処理と分析の基礎: 基本統計量や関連の強さ、確率論の概要復習、因果関係と相関関係の違いについて、数値の統計学的な意味と社会的な重要性の違いについて
- 単回帰分析: 予測モデルの考え方、回帰式の意味、係数の解釈、決定係数が持つ意味合い
- 重回帰分析(1): 変数制御の考え方、ダミー変数の考え方と使用方法
- 重回帰分析(2): 交互作用効果、モデル選択
- 重回帰分析(3): 回帰診断、基礎的なパス解析入門
- ロジスティック回帰分析(1): 質的変数を従属変数とするために、オッズ比の考え方と結果の解釈、オッズと確率の関係について
- ロジスティック回帰分析(2): 多変量のロジスティック回帰分析、独立変数としての質的変数利用について、ロジスティック回帰分析におけるモデル選択
- ログリニアモデル概要: 基本的な考え方と解釈の仕方
- ログリニア分析とクロス表分析の関係: クロス表とエラボレーション、クロス表や相関の強さ、クロス表やオッズ比を社会的に解釈するために
- 更なる質的変数分析の応用: 多項ロジスティック回帰分析など、ロジスティック回帰分析の応用系、ログリニア分析における変数の相関の強さの探索等
- コレスポンデンス分析と数量化分析: 質的データをビジュアルに理解する分析法
- まとめと総復習、今後の更なる量的分析手法の学習について

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

該当する教科書の頁を読了する事が前提。ただし講義と教科書の併用はお互いで欠ける内容を補佐する事も意図しており、講義自体は必ずしもテキストに沿わない点には注意(多くの過去年度では「教科書ではどこにあるのか」といった疑問を聞くことがあるが、そもそも授業は最初から指定テキストを厳密に反映するようには設計されていない)。そのため、テキストとは別に配布するプリントや資料の復習は重要である。なお2回行うレポートは双方ともに、授業時間外でのレポート形式となる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/中間レポート(40%)/出席点と授業参加、コメントカード(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士(編)、2007、『SPSS による多変量解析』、オーム社 (ISBN:978-4-274-06626-9)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

実習系の授業ではよくある事だが、各回における履修者の理解度や作業のスムーズさなどにもより、進行速度が影響される事はありうる。そのため後半部分の一部の内容は省かれる事はありうる。実際問題としては、現況で表示されている14回分のスケジュールは若干楽観的で、途中あまり多くの履修者からの質問や戸惑いなどがなかったケースを想定している。ただ全体としては、出来る限り遅れがないように進められる事を目指す。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／社会調査演習 (Social Research Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	人々の属性・意識・行動(ジェンダー、社会階層、文化活動、非営利組織活動、幸福感、ソーシャルサポートなど)に関する計量的研究—問いの設定から報告論文の執筆までを実践的に習得する		
担当者名 (Instructor)	横山 麻衣(YOKOYAMA MAI) 橋爪 裕人(HASHIZUME YUTO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3540	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(40名)		

授業の目標(Course Objectives)

社会調査法や統計調査分析の技法を駆使し、統計調査分析と、それをもとにした報告書論文の執筆を実践的に習得することが、社会調査演習の目的である。

As their goals in this social research seminar, students will use social survey and statistical survey analysis methods. They will learn and practice conducting statistical survey analyses and writing report theses based on these analysis results.

授業の内容(Course Contents)

社会調査演習では、具体的に以下の過程を実践的に習得する。

- ・調査テーマの設定 ・問いをたてる ・仮説をたてる ・調査票を作成する ・標本を抽出する
- ・調査票を配布する ・調査票を回収する ・データ入力をおこなう(エディティング、コーディング、クリーニング)
- ・データの集計と分析をおこなう ・報告書を執筆する

Specifically, in social research seminar, students will learn and practice through the following processes.

- ・Determine survey subjects ・Establish questions ・Establish hypotheses ・Create survey sheets ・Extract samples
- ・Distribute survey sheets ・Collect survey sheets ・Input data (editing, coding, and cleaning)
- ・Aggregate and analyze data ・Write reports

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス——本授業の目的と概要について説明する
2. 調査設計①——問いを決める・仮説をたてる
3. 調査設計②——調査企画書の提出とディスカッションをおこなう
4. 調査票の作成①——質問項目を決める
5. 調査票の作成②——質問文をつくる
6. 調査票の作成③——ワーディング
7. 調査票の作成④——ワーディング
8. 標本抽出①——標本抽出の準備をおこなう
9. 標本抽出②——標本抽出の準備をおこなう
10. 標本抽出③——標本抽出の結果について報告する
11. 実査の準備——依頼状の作成をおこなう
12. 実査をおこなう——依頼状の発送をおこなう
13. 調査票を回収する——回収率の確認と、感謝状・督促状を発送する
14. データセットの準備——エディティング・コーディング・クリーニングをおこなう
15. データ分析をおこなう①——単純集計表を出力する・クロス集計表を出力する
16. データ分析をおこなう②——カイ自乗検定、分散分析・重回帰分析などを用い、調査結果の傾向をみいだす
17. データ分析をおこなう③——カイ自乗検定、分散分析・重回帰分析などを用い、調査結果の傾向をみいだす
18. オリジナル研究報告・研究指導①——履修者が、分析結果をもとに、報告書論文執筆のための研究報告をおこなう
19. オリジナル研究報告・研究指導②——履修者が、分析結果をもとに、報告書論文執筆のための研究報告をおこなう
20. オリジナル研究報告・研究指導③——履修者が、分析結果をもとに、報告書論文執筆のための研究報告をおこなう
21. オリジナル研究報告・研究指導④——履修者が、分析結果をもとに、報告書論文執筆のための研究報告をおこなう
22. 報告書論文を完成させる①——論文の要旨をもとに、考察を深めた研究報告をおこなう
23. 報告書論文を完成させる②——論文の要旨をもとに、考察を深めた研究報告をおこなう

24. 報告書論文を完成させる③
——論文の要旨をもとに、考察を深めた研究報告をおこなう
25. 報告書論文を完成させる④
——論文の要旨をもとに、考察を深めた研究報告をおこなう
26. 報告書の編集作業をおこなう①
——公表できる研究成果物として、報告書の完成度を高める
27. 報告書の編集作業をおこなう②
——公表できる研究成果物として、報告書の完成度を高める
28. 報告書を完成させる
——公表できる研究成果物として、完成度を高めた報告書を完成させる

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

先行研究の探索、調査票の作成やデータ分析、プレゼンテーションや報告書の執筆にわたって、授業時間外の作業が必要になります。

各自が深めたい研究テーマに対して日頃からアンテナをはり、情報を集めておくことが作業効率につながります。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

調査票作成・標本抽出への貢献度(25%)/データ集計・分析への貢献度(25%)/研究報告のクオリティ(25%)/最終レポートのクオリティ(25%)

テキスト (Textbooks)

特に指定しない。授業内で資料を適宜配布する。また、参考書について指示する。

参考文献 (Readings)

1. 大谷 信介・後藤 範章・小松 洋・木下 栄二、2013、『新・社会調査へのアプローチ』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623066544)
2. 村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士 共編、2007、『SPSS による多変量解析』、オーム社 (ISBN:978-4274066269)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

夏休み中にサンプリング、調査票配布、データ入力などの作業を行うことがあります。

この授業は、ワード、エクセル、パワーポイント等の Office アプリケーションを使用できることを前提としています。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／社会調査演習 (Social Research Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代社会の諸問題にかんする意識や行動に関する計量的研究 —問いの設定から報告論文の執筆までを実践的に習得する		
担当者名 (Instructor)	大崎 裕子(OSAKI HIROKO) 瀬戸 健太郎(SETO KENTAROU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3540	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(40名)		

授業の目標(Course Objectives)

社会調査法や統計調査分析の技法を駆使し、統計調査分析と、それをもとにした報告書論文の執筆を実践的に習得することが、社会調査演習の目的である。

The purpose of this social survey course is to acquire the skills of statistical research analysis and report writing, making full use of the social research methods and statistical research analysis techniques.

授業の内容(Course Contents)

社会調査演習では、具体的に以下の過程を実践的に習得する。

・調査テーマの設定 ・問いをたてる ・仮説をたてる ・調査票を作成する ・標本を抽出する
・調査票を配布する ・調査票を回収する ・データ入力をおこなう(エディティング、コーディング、クリーニング) ・データの集計と分析をおこなう ・報告書を執筆する。

In the social research exercise, we will acquire the following process practically.

Setting of research theme, Question, Hypothesis, Creating questionnaire, Extracting sample, Distribute questionnaires, Collect questionnaires, Input data (editing, coding, cleaning), Collect and analyze data, Writing a report.

授業計画(Course Schedule)

- ガイダンス——本授業の目的と概要の説明
- 準備学習①——二次分析の実習
- 準備学習②——二次分析の実習
- 調査設計①——問いと仮説の検討
- 調査設計②——問いと仮説の検討
- 調査設計③——質問項目の検討
- 調査設計④——調査項目の検討
- 調査票の作成①——質問文の作成
- 調査票の作成②——質問文の作成
- 調査票の作成③——質問文の作成
- 調査票の作成④——質問文の作成
- 調査票の作成⑥——調査票の編集
- 調査票の作成⑦——調査票の編集
- 調査票の作成⑧——調査票の編集
- データの集計と分析①——単純集計と二変数間の関係の分析
- データの集計と分析②——単純集計と二変数間の関係の分析
- データの集計と分析③——単純集計と二変数間の関係の分析
- データの集計と分析④——単純集計と二変数間の関係の分析
- データの集計と分析⑤——三変数以上の関係の分析
- データの集計と分析⑥——三変数以上の関係の分析
- データの集計と分析⑦——三変数以上の関係の分析
- データの集計と分析⑧——三変数以上の関係の分析
- 報告書論文の作成①——報告書論文の執筆と検討
- 報告書論文の作成②——報告書論文の執筆と検討
- 報告書論文の作成③——報告書論文の執筆と検討
- 報告書論文の作成④——報告書論文の執筆と検討
- 報告書の作成①——報告書の編集
- 報告書の作成②——報告書の完成

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・ 次回の内容を予習すること。
- ・ 調査設計、調査票の作成、データ分析、報告書の執筆にわたるすべての過程において、授業時間外の作業が必要になる。
- ・ データ分析でもちいる重回帰分析やその他多変量解析の統計分析手法については、履修者各自が授業時間外に学習し、正しく使えるように準備しておく必要がある。
- ・ 長期間にわたり取り組むことになる研究テーマに対しモチベーションを維持するため、各自があつかうリサーチクエスチョンや仮説にかんして日頃からアンテナをはり、情報を集めておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

調査票作成・標本抽出への貢献度(25%)/データ集計・分析への貢献度(25%)/研究報告のクオリティ(25%)/研究報告書論文のクオリティ(25%)

テキスト(Textbooks)

授業内で資料を適宜配布する。また、参考書について指示する。

参考文献 (Readings)

1. 轟亮・杉野勇・平沢和司編、2021、『入門・社会調査法〔第4版〕:2ステップで基礎から学ぶ』、法律文化社 (ISBN:978-4589041418)

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

- ・ 履修にあたり、「社会統計学」などの社会調査士科目Dを履修済みであることを前提とする。
- ・ 「多変量解析」などの社会調査士科目Eの履修を推奨する(予定を含む)。
- ・ クロス集計、平均値の比較、重回帰分析といった基本的な統計分析の考え方や、Excelによるグラフ作成方法等にかんする知識を前提として授業を進める。
- ・ 夏休み中にサンプリング、調査票配布、データ入力などの作業を行うことがある。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK246／質的調査法 (Qualitative Survey Methods)		
担当者名 (Instructor)	高山 真(TAKAYAMA MAKOTO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業では、「社会調査法 2」をふまえて、質的調査法に関する基礎的な考え方と技法について学ぶことを目標とする。

The objective of this class is to teach fundamental ideas and techniques related to qualitative survey methods, based on "Social Survey Method 2."

授業の内容 (Course Contents)

ライフストーリー・インタビューの実施、インタビュー・テキストの解釈、ライフストーリーの作成について、具体的な事例をまじえて解説する。あわせて、フィールドワークの方法について検討する。これをふまえて、ライフストーリー・インタビューとの関係で、日記や自分史のドキュメント分析、メディア言説の分析について検討し、質的調査法の基本的な考え方の理解を深める。

The course will perform life story interviews, interpret interview texts, and explain the creation of life stories, incorporating specific examples. It will also examine methods of field work. Based on this, the course will examine the analysis of diaries and personal history documents and the analysis of media discourse in relation to life stories and interviews, and will deepen understanding of basic concepts of qualitative survey methods.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. ライフストーリー・インタビューをはじめる(1) 調査研究テーマはどのようにきまるか
3. ライフストーリー・インタビューをはじめる(2) 調査をはじめるにあたっての倫理的な問題
4. ライフストーリー・インタビューをはじめる(3) 語り手の選択とリアリティのとらえかた
5. ライフストーリー・インタビューをおこなう(1) 語り手との出会い
6. ライフストーリー・インタビューをおこなう(2) 相互行為としてのインタビュー
7. インタビュー・テキストを解釈する(1) 口述記録から文字記録へ
8. インタビュー・テキストを解釈する(2) 社会的コンテキスト
9. インタビュー・テキストを解釈する(3) 語りのダイナミズム
10. ライフストーリーを書く(1) ライフストーリーを語るということ
11. ライフストーリーを書く(2) エスノグラフィーとしてのライフストーリー
12. ドキュメント分析(日記、自分史について)
13. 言説分析について
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

この授業では、実際にインタビューに取り組んでもらいます。

テーマ設定から始めますので初學者の履修も歓迎します。

授業内で3回程度の報告を行なってもらう予定です。

調査の進め方については適宜相談に応じます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席、リアクションペーパー、授業内の報告、ディスカッションへの参加、最終プレゼンテーション(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 高山真、2016、『〈被爆者〉になる 変容する〈わたし〉のライフストーリー・インタビュー』、せりか書房 (ISBN:978-4-7967-0353-6)
- 適宜資料を配布する。

参考文献 (Readings)

1. 桜井厚・小林多寿子編著、2005、『ライフストーリー・インタビュー 質的研究入門』、せりか書房（ISBN:4-7967-0268-7）
 2. 藤田結子・北村文編、2013、『現代エスノグラフィー 新しいフィールドワークの理論と実践』、新曜社（ISBN:978-4-7885-1328-0）
- 適宜紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

初回の授業までにテキストを入手すること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DK247／質的調査法 (Qualitative Survey Methods)		
担当者名 (Instructor)	吉川 侑輝(YOSHIKAWA YUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講は、質的研究が備える基礎的な考え方や調査／分析手法について学び、理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to facilitate a deeper understanding of the basic concepts and research/analysis methods of qualitative research.

授業の内容 (Course Contents)

具体的には、社会学の諸領域における研究事例を広くとりあげ、それら研究の特徴や、利用されている方法論を分析的に検討していく。こうした作業を通じて、質的調査法の多種多様な調査法を学ぶだけでなく、質的研究それ自体について分析的に考えたり、質的研究という営みを量的研究との関係において理解したりするための視点を得ることを目指す。

This course covers a wide range of research cases in the various fields of sociology, and it analytically examines the characteristics of these studies as well as the methodologies used. The course imparts knowledge of various methods of qualitative research. It also facilitates the gaining of perspectives that enable one to think analytically about qualitative research, and it provides a basis for understanding the process of qualitative research compared to that of quantitative research.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 実践としての質的研究
2. 会話分析①: 隣接ペアと優先性
3. 会話分析②: 順番交替の技法
4. 会話分析③: 修復の組織
5. 会話分析④: 物語を語ること
6. インタビュー
7. ドキュメント分析
8. フィールドワークと参与観察
9. 事例①: 教育社会学のなかの質的調査
10. 事例②: 労働社会学のなかの質的調査
11. 事例③: 医療社会学のなかの質的調査
12. 映像注釈ソフトの使い方
13. 質的研究と量的研究
14. 振り返りとまとめ

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

事前に配布資料等の指定された箇所を熟読してくる。

その他の授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験 (Report Exam) (70%) / リアクションペーパー (30%)

2/3 以上の出席をしていない場合は 単位修得不可。

テキスト (Textbooks)

適宜、資料を配布する。

参考文献 (Readings)

1. 前田拓也／秋谷直矩／朴沙羅／木下衆編、2016、『最強の社会調査入門:これから質的調査をはじめ人のために』、ナカニシヤ出版 (ISBN:9784779510793)
2. デイヴィッド・シルヴァーマン (渡辺忠温訳)、2020、『良質な質的研究のための、かなり挑発的でとても実践的な本 : 有益な問い、効果的なデータ収集と分析、研究で重要なこと』、新曜社 (ISBN:9784788516724)
3. 小田博志、2010、『エスノグラフィー入門:「現場」を質的研究する』、春秋社 (ISBN:9784393499115)

4. 前田泰樹／水川善文／岡田光弘編、2007、『エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』、新曜社（ISBN:9784788510623）
5. 串田秀也／平本毅／林誠、2017、『会話分析入門』、勁草書房（ISBN:9784326602964）
6. 筒井淳也／前田泰樹、2017、『社会学入門：社会とのかかわり方』、有斐閣（ISBN:9784641150461）
7. 細馬宏通／菊地浩平編、2019、『ELAN 入門：言語学・行動学からメディア研究まで』、ひつじ書房（ISBN:9784894767652）

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／情報処理1(入門) (Information Processing 1)		
担当者名 (Instructor)	中尾 啓子(NAKAO KEIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX1610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(70名)		

授業の目標(Course Objectives)

社会調査に関する知識の習得を目指す。

授業の内容(Course Contents)

仮説構成、調査票の作り方などの基礎知識を習得することと、具体的な分析方法を習得することを目的とする。

授業計画(Course Schedule)

1. 社会調査の企画
2. 調査の方法
3. 標本抽出
4. 仮説の構成
5. 調査票の設計と実施
6. クロス表の集計
7. 数量データの集計
8. 記述統計
9. 連続変数間の関連
10. 回帰分析
11. 区間推定
12. 統計的検定
13. カイニ乗検定
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

復習の必要あり

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／情報処理2(アプリケーション) (Information Processing 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	文章をデータで読み解く		
担当者名 (Instructor)	吉永 大祐(YOSHINAGA DAISUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(70名)		

授業の目標(Course Objectives)

コンピュータを使ってテキストを数量的に分析する方法を理解する。

This course is focused on understanding the fundamental concept of computer-assisted quantitative content analysis through practice using Python.

授業の内容(Course Contents)

Python によるプログラミングの基礎を身につけ、自然言語処理によるテキストデータの計量的分析の手法を学ぶ。

The student will learn the basic skills of programming and quantitative content analysis by using the methods of natural language processing with Python.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス:本講義の目的と進め方
2. Python 基礎 1: コードを書いてみる
3. Python 基礎 2: 多量のデータを扱う
4. Python 基礎 3: 条件分岐
5. Python 基礎 4: 繰り返し処理
6. Python 基礎の中間復習
7. Python 基礎 5: モジュールを使う
8. Python 基礎 6: ファイルを扱う
9. テキストデータ分析 1: テキストデータを操作する
10. テキストデータ分析 2: データから気づきを得る
11. テキストデータ分析 3: テキストデータを分解する
12. テキストデータ分析 4: 重要な単語を見つけ出す
13. テキストデータ分析 5: テキストデータ分析まとめ
14. 最終課題

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の配布資料をもとに各自で復習することが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 中間レポート(30%) / 各回の提出物(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 柴田 淳、2016、『みんなの Python 第4版』、SB クリエイティブ (ISBN:978-4-7973-8946-3)
2. 金 明哲、2009、『テキストデータの統計科学入門』、岩波書店 (ISBN:978-4000057028)

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／情報処理3(プログラミング) (Information Processing 3)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会学におけるシミュレーション・モデルと、モデルの Excel と Visual Basic for Application プログラミング(コンピュータによるシミュレーション)		
担当者名 (Instructor)	池 周一郎(IKE SYUICHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX3610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	人数制限科目(70名)		

授業の目標(Course Objectives)

コンピュータを用いたそれなりに高度なシミュレーション・モデルの構築をテーマにします。この授業の過程で、受講者は社会科学におけるモデル構築についての感覚を身に付け、同時に Excel に関しては VBA (Visual Basic for Application) を操作するというビジネスの実践に十分以上と言える中級以上の技量を身に付けることができます。

The theme of the course is the construction of a reasonably advanced simulation model using computers. During the class, students will acquire sensibilities for model construction in the social sciences, while also acquiring an intermediate or higher level of skill sufficient for the practice of business, i.e., VBA (Visual Basic for Application) for Excel.

授業の内容(Course Contents)

最初は、モンテカルロ法を用いた確率論的なシミュレーション・モデルを扱います。Excel を用いた iteration (繰り返し計算) の要領を学びます。まず確率過程であるマルコフ過程を応用して、シェアの推移をシミュレートします。次に確率論のベイズの定理を学び、有名なモンティ・ホール・パドクスをモンテカルロ法でシミュレーションしてみます。

そしてデータ分析で使用する統計学で現れる確率変数をシミュレートします。次に微分方程式系へ移行し、ロトカ・ボルテラ捕食系という連立微分方程式モデルを考察します。

最後に(将来)人口投影(推計という用語は本来正しくありません。)の手法を解説して、地域将来人口のシミュレーションを行います。時間が余れば、VBA を勉強するという趣旨でちょっとしたゲームも作成してみます。

Initially, the course will cover stochastic simulation models using the Monte Carlo method. Students will learn key points of iteration using Excel. First, they will simulate share transition by applying the Markov process, a stochastic process. Next, students will learn Bayes' theorem of probability theory, and will simulate the famous Monty Hall paradox using the Monte Carlo method.

They will then simulate stochastic variables that appear in statistics used in data analysis. Next, students will move on to differential equation systems, and will consider the simultaneous differential equation model called Lotka-Volterra predation.

Finally, the course will explain methods of (future) population projection (the term "estimate" is not originally correct), and will simulate future population in the region. If there is time, students will try to create a small game as a means of studying VBA.

授業計画(Course Schedule)

1. モデル構築とシミュレーションの概説 定期預金の利息と増加
2. VBA によるモンテカルロ・シミュレーション, 誕生日が同じ人がクラスにいる確率 配列の定義
3. π の推定 モンテカルロ法
4. マルコフ過程によるシェアの推移モデル
5. ベイズの定理とモンテカルロ・シミュレーション
6. モンティ・ホール・パドクス 連想配列を VBA で実装する
7. 擬似乱数の生成—正規分布に従う確率変数等の生成 関数の定義と利用
8. 確率変数のシミュレーション
9. ポーカー検定と χ^2 乗検定 バブル・ソート
10. ロトカーボルテラ捕食系(連立微分方程式系)或いは拡散のモデル
11. 待ち行列
12. 人口投影の実施
13. 人口投影マクロ・プログラムの作成
14. 課題発表とレポート提出

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間内で完成しなかったプログラムの完成が時間外学習となることがあります。Excel VBA でシミュレーション・プログラムを作る宿題が出ることがあります。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/課題処理能力(授業ごとに出されるプログラミング課題に 関して、シミュレーションそのものを問題として理解し、アルゴリズムを理解して 動作するプログラムを自分で書けること)(70%)
最終レポートは、VBA によるシミュレーション・プログラムです。授業支援システム(Canvas LMS、Blackboard 等)に提出します。

テキスト(Textbooks)

レジュメを Online で配布します。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

